

平成28年9月

家庭教育と 親子関係に関する 調査研究

調査研究シリーズ No.

63



はじめに

日本教材文化研究財団の調査研究事業による家庭教育に関する全国調査は、平成19年度にも実施したところである。今回の調査はその調査に続くものとなり、いくつかの調査項目で時系列比較可能な形にしている。平成19年調査では、特に、「つもり」のしつけ、すなわち保護者は「しつけ」に関する役割分担を認識し、基本的な生活習慣に関わる「しつけ」は家庭の役割だと自覚し、実際にしつけていると自認しつつも、教職員から見ると、その役割が十分になされているように捉えられていない。その意味で、保護者はしつけている「つもり」になっていると解せられるのであった。

本調査では新たに、子どもに対することばかけの意義、学校に対する苦情・要望の実態、コミュニティ・スクールに対する認識、インターネットやSNSの活用実態と意識などの喫緊の教育課題に関する調査項目を設けた。そして、調査の規模を拡大し、北海道から九州までの全国21自治体・43校（小学校22校、中学校21校）を対象に実施したところ、児童生徒4,515人、その保護者3,562人、教職員898人からの回答を得ることができた。これほど大規模な家庭教育調査は多く無いので、本調査のデータは家庭教育と親子関係の実態を説明する資料として大いに参考になるはずである。

本調査報告書は、第1部、第2部、資料から成る。第1部は調査の結果解説とし、調査結果の全体像を記してある。第2部はデータ分析結果の考察論文を載せ、ここでは特定の調査項目に注目した分析を試みて考察を加えてある。巻末の資料は、単純集計の結果を一覧にしてある。いずれも家庭教育や親子関係の今日の実態を知るための参考になるものと確信している。

なお、調査実施に際しては、全国の教育委員会や学校にはひと方ならぬご協力を得ることができた。特に学校には多忙な業務の合間に、調査票の配布と回答に多大なる時間を割いていただいた。メンバーは前回調査を担当した者のうち5人が再度関わり、これに新たな研究者等の協力を得た。調査にご協力いただいた教育委員会や学校の先生方、そして意欲的に関わってくれたメンバーに、この場を借りて感謝申し上げたい。そして最後に、調査の企画から実施・分析、報告書作成に尽力いただいた財団の鍛治紀彦氏に御礼申し上げたい。これらの方々の労に報いるのはこの報告書が広く活用されることに尽きる、と思っている。

平成28年7月

研究代表者 佐藤晴雄
(日本大学教授)

目 次

はじめに	佐藤 晴雄	1
【調査の実施概要】		
① 本調査の概要		3
② 調査結果の概要		6
【第1部】 調査結果の解説		
児童生徒調査		
児童生徒の属性	佐藤 晴雄	12
第1章 しつけに対する子どもの意識と行動	高橋 興	14
第2章 児童生徒の自己認識像と規範意識	堀井 啓幸	16
第3章 しつけに対する児童・生徒の意識と実態	大園 早紀・橋本 育実	22
第4章 児童生徒の校外生活	松岡 侑介	34
第5章 児童生徒の大人とのコミュニケーションの実態	藤原 義朗	35
第6章 児童生徒の余暇活動	栗原 幸正	38
第7章 児童生徒の情報通信端末との関わり	仲田 康一	43
保護者調査		
保護者の属性	佐藤 晴雄	50
第8章 しつけに対する保護者の意識と実態	高橋 興	54
第9章 保護者による具体的な「しつけ」の実態	松岡 侑介	58
第10章 子ども自身が考える自らの姿と親が考える子ども像	堀井 啓幸	60
第11章 保護者の普段の行動と生活環境	松岡 侑介・大園 早紀・橋本 育実	64
第12章 保護者の学校への関わりと苦情・要望の実態	佐藤 晴雄・窪 和広	67
第13章 保護者のコミュニティ・スクールと学校のガバナンスに対する認識	佐藤 晴雄	78
第14章 家庭教育に関する学習や支援等の実態	柴田 彩千子	85
第15章 わが子とのコミュニケーションの実態	藤原 義朗	90
第16章 保護者にとっての相談相手	栗原 幸正	93
教職員調査		
教職員の属性	佐藤 晴雄	95
第17章 教職員から見た「しつけ」の状況	栗原 幸正	97
第18章 しつけに対する教職員の意識と実態	高橋 興	101
第19章 教職員の児童生徒に対する認識	堀越 幾男	105
第20章 教職員の児童生徒との関わり	栗原 幸正・藤原 義朗	110
第21章 保護者や地域からの苦情・要望や相談の実態	佐藤 晴雄	115
第22章 教職員調査の自由記述	栗原 幸正	124
【第2部】 調査結果の考察		
第23章 「保護者力」から見た子どもの自己認識・規範意識	佐藤 晴雄	132
第24章 児童生徒の自己行動認識と規範意識に及ぼす諸要因の分析(1)－大人からの働きかけ－	佐藤 晴雄	146
第25章 児童生徒の自己行動認識と規範意識に及ぼす諸要因の分析(2)－自己行動認識と子どもの特性－	佐藤 晴雄	164
第26章 保護者・教員・児童生徒におけるインターネット等に関する認識の差異について	仲田 康一	178
特論1 児童生徒の学習自己評価－「学校の勉強がよくできる」児童生徒の特徴－	佐藤 晴雄	182
特論2 教職員調査における管理職と管理職以外の回答の比較考察	堀越 幾男	193
【資料】		
① 児童生徒用調査票 / 児童生徒調査結果集計表		200
② 保護者用調査票 / 保護者調査結果集計表		219
③ 教職員用調査票 / 教職員調査結果集計表		241

【調査の実施概要】

① 本調査の概要

1. 調査研究名

家庭教育と親子関係に関する調査研究

2. 調査の目的

調査は以下の目的を達成するために実施する。

- (1) 家庭教育に関する平成19年度調査との経年比較によって、保護者のしつけの実態及び子どもの生活実態の変容を探ることを目的とする。
- (2) 教職員調査も実施し、しつけ観の保護者とのズレや認識の違い、自己の職業認識を析出していくものとする。
- (3) 保護者の対学校認識を取り上げると共に、保護者の学校参画制度であるコミュニティ・スクールと一般校との比較分析も併せて行うこととする。
- (4) なお、今回は、インターネットやSNSなどの利用実態と意識についても取り上げることとした。

3. 調査対象・方法

(1) 調査対象

北海道札幌市・函館市、青森県弘前市、秋田県大館市・鹿角市、仙台市、茨城県守谷市・筑西市・東京都足立区・杉並区・八王子市、神奈川県茅ヶ崎市・秦野市、新潟県上越市、静岡県静岡市・浜松市、大阪市、鳥取県伯耆町、山口県柳井市、高知県香南市、福岡県大野城市の21自治体の43校。対象者は当該校の小学2年生及び5年生、中学2年生の児童生徒及び保護者並びに全教職員。

(2) 調査方法

郵送によるアンケート調査。学級単位に調査票を郵送した上で、一斉回答による。保護者調査については、児童生徒による持ち帰り・学校提出によった。

(3) 調査実施時期

平成27年10月～12月

(4) 有効回収数（回収率）

- A. 児童生徒調査 4,515票(92.4%)小学3年1,228人、同5年1,405人、中学2年1,873人、不明9人
- B. 保護者調査 3,562票(81.0%)小学3年909人、同5年1,029人、中学2年1,547人、不明77人
- C. 教職員調査 898票(84.4%)小学校450人、中学校447人、不明1人

4. 調査成果の概要

(1) しつけをめぐる役割分担意識には前回調査は大きな変化はなく、基本的な生活習慣について家庭の役割だと考える点においては保護者と教職員にズレはないが、実際に行っている主体については、保護者はその分担意識通りに家庭で行われていると認識するが、教職員は保護者が考えるほど家庭で行われていないと認識する傾向にある。そこで、しつけをめぐる認識のズレが見出された。

(2) 児童生徒は自ら行動に対してはプラスの評価をしており、また規範意識がむしろ高まっている傾向が見られた。しかられ経験は成績が下がった時に54.3%がしかられたことが「ある」と答えているのに対して、ほめられ経験は成績が上がった時には66.2%がほめられたことが「ある」と答えているように、親の関心は学力向上に向けられているようである。

(3) インターネット利用の約束を守る児童生徒は64.3%で、保護者の回答を見ると、それが不安材料だと認識するものは44.7%であった。保護者はどちらかと言えば、インターネットのメリットを認識している者が多い(61.3%)。しかし、教職員はインターネットなどによる生活の乱れを指摘する者が多く(82.3)、それが児童生徒の交流を広げるというメリットを感じている者がきわめて少数にとどまる(21.6%)。保護者と教職員にはその点において認識に違いがあると言える。

(4) 保護者の学校への関わりについては前回調査と大差がなく、学校行事への参加は約9割で、学校支援ボランティアとして活動している者は約2割であった。なお、保護者の苦情申し出件数は、過去0.64回、昨年度0.2回という数値になり、その有無では申し出有りが約3割となった。教職員の回答によると、苦情が増えたのは、前回91.5%であったが、今回は85.0%に減っている。

(5) 教職員から見た保護者の様子では、むしろ良好な結果となり、たとえば、「過保護・過干渉」という回答は前回よりも低下している。ただ学校への関心を持つ保護者は減少していると教職員は捉える。なお、教職員は自信を喪失し、自らの職業を肯定的に捉える者がわずかながら減っている点が懸念される。多忙感を抱く教師は全体の88.4%に上った。

(6) 今回の調査によれば、全体的に、コミュニティ・スクール指定の有無による回答値には特筆すべき違いが見出されなかった。

5. 研究の組織

氏名	所属	分担・住所
亀井 浩明	帝京大学名誉教授	研究の顧問
佐藤 晴雄	日本大学文理学部教授	研究の代表（研究会の運営） 北海道・九州・中国地区担当
堀井 啓幸	常葉大学教育学部教授	総括の補佐（茨城県・静岡県担当）
堀越 幾男	日本大学文理学部非常勤講師	東京都担当
栗原 幸正	茅ヶ崎市立梅田小学校校長	神奈川県担当
柴田彩千子	東京学芸大学教育学部准教授	統計分析担当（東京担当）
仲田 康一	常葉大学専任講師 / 日本大学非常勤講師	統計分析担当
高橋 興	青森中央学院大学教授	東北・四国地区担当
松岡 侑介	日本大学文理学部助手	研究会日大側事務局担当

研究協力者

藤原 義朗	大阪府教育委員会事務指導主事 市立小学校事務長	関西地区担当
大園 早紀	日本大学大学院生	研究補助
橋本 育実	日本大学大学院生	研究補助
窪 和広	日本大学大学院生	研究補助

(平成28年3月現在)

【調査の実施概要】

② 調査結果の概要

A. 児童生徒調査

- (1) しつけに関する声かけの主体については（「誰から言われるか」）、「親から言われる」の回答が多く、次いで「先生」となり、「近所の大人」は極めて少なかった。「親」の回答を前回調査と比較すると、「友だちの気持ちを思いやりなさい」は前回 32.3%・今回 35.3%で、「欲しいものややりたいことがあっても、我慢しなさい」は前回 58.1%・今回 55.5%となり、いずれも両調査間に著しい違いはなかった。今回の新設項目の一つである「いじめをしてはいけません」は「親から」28.9%に対して、「先生から」は42.6%となり、「親」を上回る結果となった。「いじめ」に関しては「親」よりも「先生」からの声かけが多いわけであるが、このことは保護者が「いじめ」に関して教職員ほど厳しくしつけていないとも解されるであろう。
- (2) 児童生徒の自己行動認識は、全体的に前回調査よりも良好な結果が得られた。たとえば、「親の言うことを素直に聞く」は前回 65.8%・今回 72.0%、「決められたルールはよく守る」前回 79.2%・今回 85.7%となった。ただし、「友だちが多い」は前回 88.2%・今回 85.5%、「外でよく遊ぶ」は前回 73.2%・今回 68.9%などは若干の数値の低下が見られた。遊びなども友人関係を前提とするものと考えれば、友人関係で若干のマイナス行動が見られるようになったと解される。
- (3) 規範意識については、全体的には低下しておらず、むしろ高まっている傾向が見いだされた。たとえば、質問項目に対して「ぜったいしてはいけない」と回答した割合は、「ゴミを道に捨てる」前回 73.9%・今回 82.3%、「先生の言うことを聞かない」前回 55.9%・今回 67.0%、「友だちをいじめる」前回 81.4%・今回 90.1%となり、今回は前回よりも明確に数値が高い傾向にある。つまり、規範意識は高まっている傾向にあり、巷間指摘される規範意識の低下は今回の調査からは主張できなかった。
- (4) 「誰から叱られるか」という質問については前回調査と大きく変化していなかったが、「成績が下がった」時に「親から叱られる」と回答した児童生徒の割合は、今回は 66.2%となり、前回の「勉強しなかった」の回答 54.3%と対比させると、10ポイント以上高くなっている。同じ質問ではないのでそのまま比較できないが、親の学力に寄せる関心の高まりを表しているものと解することもできる。
なお、「成績が上がった」時に、「親からほめられる」という回答は 84.5%になり、「成績が下がった」時に叱られるという回答よりも著しく高くなっている。「叱る」より「ほめる」ことを心がける親が増えているのかも知れない。
- (5) 学習塾の通塾者は、前回 47.7%だったが、今回は 42.2%に下がっている。今回は学習塾が少ないであろう地域も含まれているという調査対象の違いの影響も考えられるが、それら学校の児童生徒数は少ないことから、地域の影響を強く受けているというよりも、経済的な理由から通塾者が減少したと考える方が妥当だと思われる。ちなみに、中学生

の通塾率に変化はなく、小学生での低下が目立っている。

- (6) インターネットやSNSの使用に関しては、まずインターネットの使い方家で約束を守っている割合は64.3%で、フィルタリングを行っている者は44.0%であった。フィルタリングについて、中学生の数値が小学生よりも高い(51.4%)。思春期にある中学生は小学生よりも危険なサイトに接する可能性が高くなるからだと考えられる。
- (7) コミュニティ・スクール指定の有無別にみると、声かけの主体として「学校の先生から言われる」のは指定校の方で多い傾向が見られたほか、その他項目では有意な差が見出されなかったが、規範意識については指定校の方がやや高い傾向が見出された。

B. 保護者調査

- (1) しつけに関する役割分担意識は、保護者と教職員との間には大きなズレがなかったものの、実際に行っていると回答した割合は、両者間に大きなズレが見られた。たとえば、基本的な生活習慣に関するしつけでは、保護者は家庭で行うべきと捉え、また実際にしつけていると回答しているにもかかわらず、教職員はそれらのしつけを保護者(家庭)が行っていると認識する傾向が弱く、むしろ学校でそれらのしつけを実施していると認識している。この傾向は前回の平成19年度調査でも共通して見られたところである。保護者はしつけている「つもり」になっていると解することもできるが、教職員が保護者を十分に理解していないとも解される。
- (2) 保護者調査によれば、実際にしつけを行っているという回答は前回調査とほぼ同様の結果になったものの、数値には若干の低下が見いだされた。たとえば、「朝ご飯は必ず子どもに食べさせている」は前回調査96.4%・今回調査93.9%となり、また「子どもが悪いことしたときには必ず叱る」は同様に99.6%・99.0%となり、ほとんど変化がない。「テレビ視聴時間やゲーム使用時間等を決めている」は同じく67.3%・61.3%となり、意外にも低下している。
- (3) 保護者の学校への関わりについて見ると、「学校支援ボランティアとして活動している」の回答は、前回22.9%・今回21.6%、「学校行事によく参加」は前回92.4%・今回90.0%と若干の低下が見られるが、著しい差は見いだされなかった。今回新たに設けた学校に対する苦情申出件数に関する設問を見ると、過去に申し出た件数は平均0.64回・昨年度0.2回となり、苦情申出の有無は、「有り」29.6%であった。これを性別で見ると、女性30.5%・男性20.4%となり、女性に多い傾向にある。
- (4) 今回はインターネット等の利用についても質問したが、保護者のうち「インターネットは、便利さよりも不安材料の方が懸念されると思う」と回答した者は44.7%であった。この数値をどう解釈するかは難しいが、少なくとも半数近くが「懸念」している実態が見いだされた。ただ、「子どもたちが、インターネットで様々な情報を得られるメリットは大きいと思う」は61.3%に上り、「懸念」よりも高い数値を示している。なお、両設問に対していずれも肯定的な回答を見せた保護者は全体の26.4%で、これら保護者は、「懸念しつつもメリットを認めている」ことになる。
- (5) 我が子との平日の会話時間のうち「30分未満」は、前回(30分以下)7.4%・今回9.1%、「2時間以上」は同じく43.8%・今回26.8%となり、全体的に会話時間は減少している。親子関係の在り方が変化していると言えそうである。

(6) コミュニティ・スクール指定校／未指定別の分析結果では、まずしつけを行っている主体について、基本的な生活習慣のしつけは全般的にコミュニティ・スクールの保護者の方が未指定校（コミュニティ・スクールに指定されていない学校）の保護者よりも「家庭で行っている」の選択率が高い傾向にある。たとえば、「早寝早起きのしつけ」はコミュニティ・スクール（以下、「CS」）99.0％・未指定校89.5％となり、「食事の仕方や手洗いの仕方」はCS 97.2％・未指定校88.4％となる。

そのほか、保護者自身の行動やわが子の様子などについてはCSか否かの差は明確に見出されなかった。

C. 教職員調査

(1) まず、最近の子どもは家庭で十分なしつけがなされていないと考える教職員は、前回84.2％・今回79.9％と減少し、そのうち「とてもそう思う」の回答は前回25.8％・今回16.8％と著しく減少している。このことは前述した児童生徒調査結果で規範意識が高まっていることと関係しているものと推察できる。学力低下を家庭教育の問題だと認識する者は前回76.7％・今回87.8％と10ポイント以上増えている。しつけについては家庭の問題を指摘する割合が低くなったものの、学力低下に関しては家庭の在り方に原因を求める教職員が多くなったのである。最近の教職員は学力向上をオブリゲーションとして求められる傾向が強まったため、その限界を感じ取り、その原因を家庭に見いだそうとする傾向の表れだと言ってもよいだろう。

(2) しつけの役割分担意識については保護者調査のところで述べたように、教職員は、基本的な生活習慣のしつけに関しては家庭の役割だと認識しているが、実際にしつけ（生活指導）として行っている主体は保護者だと認識する割合が低く、むしろ自らが行っていると捉える傾向が見られる。

(3) 児童生徒の様子については、「教師の言うことを素直に聞けない」前回66.4％・今回65.7％とほぼ変わらないが、「集中して授業に取り組めない」は前回72.8％・今回76.5％と若干増え、「何事にも努力しつけない」は前回78.5％・今回74.4％とわずかに減少している。授業など学習態度に関しては問題視する者が若干増えているが、このことも学力向上を迫られている教職員が児童生徒の学習態度を厳しく認識するようになった結果だとも考えられる。

(4) 保護者の様子については、「苦情が増えた」は前回73.0％・今回68.3％となり、むしろ数値が下がっている。ただし、「学校に対する関心が低い」は前回34.7％・今回42.4％となり、苦情が減った代わりに、学校関心は低下しているようである。「保護者が過保護・過干渉になっている」は前回83.0％・今回77.3％と若干低下している。そして、「わが子中心にもの考える傾向がある」の回答は前回92.9％・今回87.7％と、この場合もわずかに減少している。これら数値を見る限りでは、近年の保護者には問題が減少してきたと言ってよい。なお、今回の新規項目の一つである「学校への過剰に依存傾向がある」は69.1％であった。

(5) 教師自らの問題については、「指導力に自信がある」は前回55.7％・今回43.2％と著しく減少している。そこで「仕事のことで悩むことが多い」の数値を見ると、前回76.2％・今回70.4％となり、意外にもわずかだが減少している。「教師になってよかった」

は前回 91.5%・今回 85.0%と減少している。明言できないが、自信のある教師が減り、そのためか教師になってよかったと思う者が減少してはいるが、悩む教師の割合もわずかに減少しているのである。そうした背景には多忙感も一つの要因として考えられる。「学校の仕事に多忙感を抱いている」教師は実に 88.4%であった。

- (6) インターネット関連については、インターネット利用に関して学校や学級でルールを作っていると回答した割合は 55.6%と過半数をわずかに上回った。そして、スマホゲームや SNS による生活習慣の乱れを指摘した割合は 82.3%に上った。スマホ等の問題性を認識する教師はかなり多いことがわかったが、学校外でのスマホ利用に関してルールをつくっていると回答した割合は 38.9%に過ぎになかった。インターネットに関して教職員（教師中心）は、児童生徒のコミュニケーション不足がインターネット社会と関係があると考え（72.9%）、インターネットが子どものより豊かな交友関係を拡大していくと考える者が少ない（21.6%）ように、インターネット等に対してはむしろ否定的な姿勢を示しているのである。
- (7) コミュニティ・スクール指定の有無別の集計によれば、全般的に両者間に著しい差が見出されなかった。

（佐藤 晴雄）

※以下の各章で扱うデータは、分析手法に適するよう、対象とするデータ範囲を限定するなどの処理（無回答の除外等）を行っているものがあるので、項目によっては単純集計結果の数値とは必ずしも一致していないことがある。この点についてはご承知おき願いたい。

【第 1 部】 調査結果の解説

児童生徒調査

1. 児童生徒の属性 (①)

(1) 性別・学年

本調査で分析対象とする児童生徒は4,515人で、そのうち男子2,308人(51.3%)、女子2,195人(48.7%)とほぼ二分される(表1)。学年は、小学校3年生1,227人、小学校5年生1,404人、中学校2年生1,872人で、各学年の男女比もほぼ同じである。このほか性別・学年の無回答がある(性別7人・学年9人)。

表1 性別と学年

		1-2. 学年			合計	
		小学3年	小学5年	中学2年		
性別	男子	度数[人]	629	732	947	2308
		%	27.3%	31.7%	41.0%	100.0%
	女子	度数[人]	598	672	925	2195
		%	27.2%	30.6%	42.1%	100.0%
全体	度数	1227	1404	1872	4503	
	%	27.2%	31.2%	41.6%	100.0%	

(2) 兄弟姉妹数

児童生徒の兄弟姉妹数は、回答者自身を含めて回答してもらったところ、各学年共に約2.3人であった(表2)。その人数をグラフで表したのが図1であるが、これを見ると「2人」が最も多く、回答者の50.2%(2,188人)を占め、次いで「3人」(27.9%・1,215人)となる。

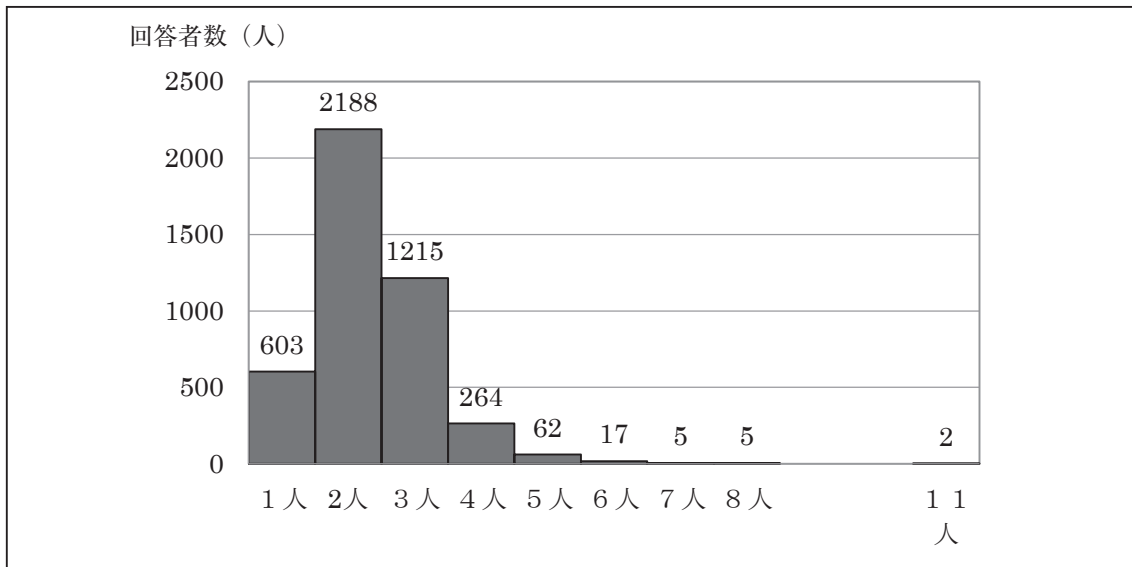
意外にも「1人」(一人っ子)は少なく、13.8%(603人)に過ぎない。なお、4人以上は8.9%となる。なお、保護者調査の回答とこれらの数は一致していない。

表2 兄弟姉妹数の平均

学年	平均値	度数[人]	標準偏差
小学3年	2.31	1194	.920
小学5年	2.34	1378	.975
中学2年	2.35	1787	.950
全体	2.34	4359*	.950

※無回答154人を除いた人数

図1 兄弟姉妹数



(3) 祖父母との同居の有無

祖父母との同居の有無については、表3に記したように、「全体」では「はい」（同居）22.7%、「いいえ」（別居）77.1%となり、8割近い児童生徒は祖父母とは同居していない実態にある。

表3 性別と祖父祖母との同居の有無

	1-4. 祖父祖母と一緒に住んでいるか			合計		
	はい	いいえ	無回答			
性別	男	度数[人]	539	1766	7	2312
		%	23.3%	76.4%	0.3%	100.0%
性別	女	度数[人]	485	1709	2	2196
		%	22.1%	77.8%	0.1%	100.0%
全 体		度数[人]	1024	3475	9	4508
		%	22.7%	77.1%	0.2%	100.0%

(佐藤 晴雄)

第1章 しつけに対する子どもの意識と行動

「しつけ」に関する意識と態度 (2)

児童生徒が、しつけについてどのように考えているかは図2に示すとおりである。

児童生徒に対して、子どものしつけに関する8項目を示し、それぞれについて誰から言われるかを尋ねた結果は次のとおりである。

全体の傾向をみると、「自分の親から」が30%を超える項目は「自分の行動の良い悪いをしっかりと考えなさい」(52.2%)、「ほしい物ややりたいことがあっても我慢しなさい」(55.4%)、「あぶない遊(あそ)びをしてはいけません」(41.2%)、「社会のきまりを守りなさい」(32.2%)の4項目である。同様に「学校の先生から」が30%を超えるのは「いじめをしてはいけません」(42.5%)、「みんなのために行動しなさい」(37.9%)の2項目にとどまることは興味深い。

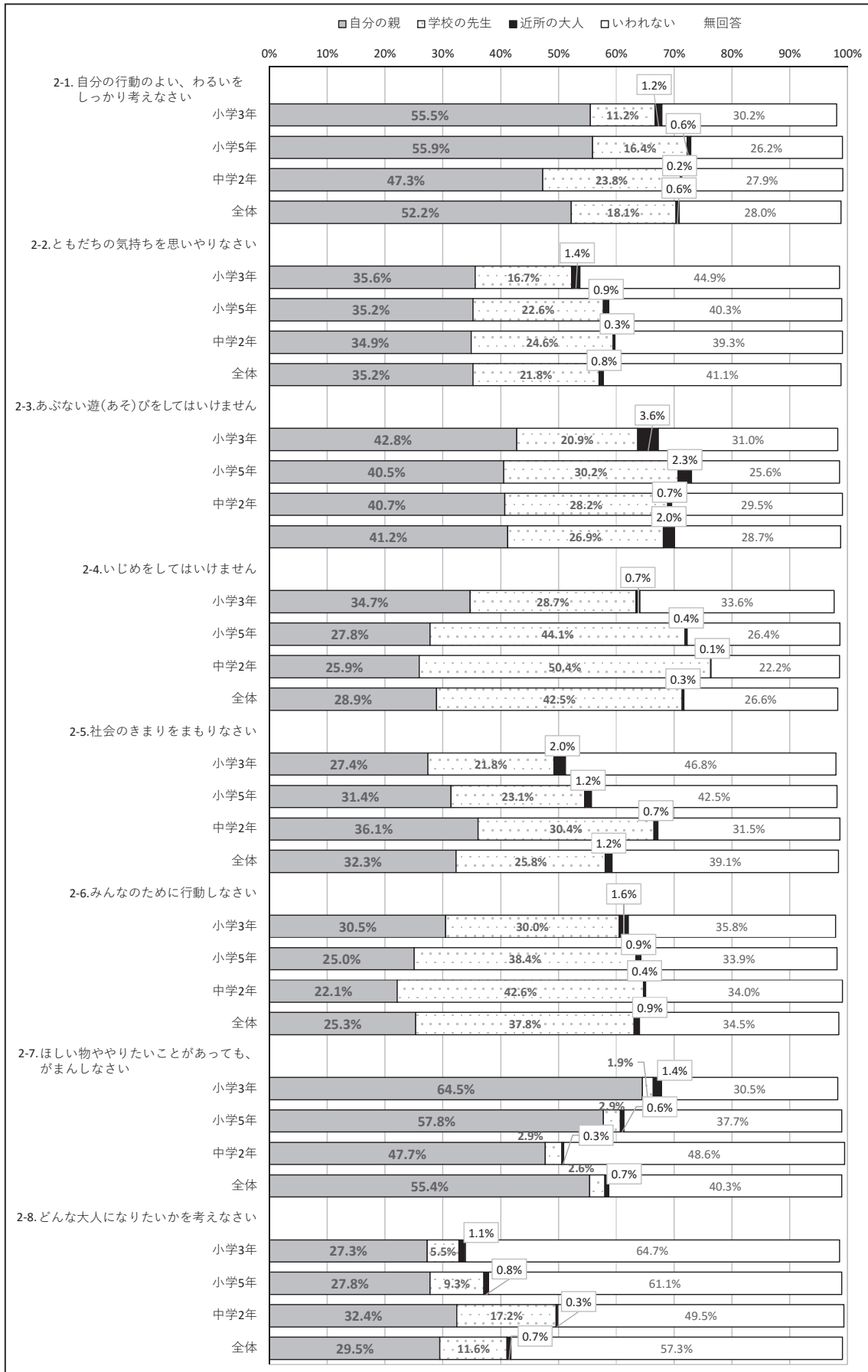
「近所の大人から」が30%を超える項目はなく、最も高い割合を占める「あぶない遊(あそ)びをしてはいけません」でさえ僅か2.0%に過ぎず、少なくとも子どもたちの受けとめ方からすれば地域の大人の影響力はほとんどない。さらに、「いわれない」が30%を超えるのは「どんな大人になりたいか考えなさい」(57.2%)、「ともだちの気持ちを思いやりなさい」(41.1%)、「ほしい物ややりたいことがあっても我慢しなさい」(40.2%)、「社会のきまりを守りなさい」(39.0%)、「みんなのために行動しなさい」(34.4%)の5項目である。このことに関連して注目すべきは、自分の親から言われることが多い「ほしい物ややりたいことがあっても我慢しなさい」や「社会のきまりを守りなさい」は親から言われなければ誰も言う人がいないらしいことである。

こうした結果をみると、30%を超えるのが最も多いのは「いわれない」の5件で割合も高いことが何よりも目につくが、言われる場合は「自分の親から」が最も多いことは順当なところだと考えるべきであろうか。設問で選択肢とした8項目のうち、次の4項目に絞り、言われる人について学年別で相違をみることにする。「自分の行動の良い悪いをしっかりと考えなさい」についてみると、小学3年と同5年では「自分の親」が全体平均をやや上回り、逆に「学校の先生」が平均を下回る。これに対し中学2年では「自分の親」が平均を下回り、「学校の先生」の割合が高まる。「あぶない遊(あそ)びをしてはいけません」についてみると、「自分の親」は各学年ともほとんど平均値と差異はないが、「学校の先生」は小学3年では平均値をかなり下回り、小学5年と中学2年は平均値を上回る。「社会のきまりを守りなさい」についてみると、小学3年と同5年とも「いわれない」の割合が高いこともあってか、「自分の親」と「学校の先生」から言われる割合が平均値を下回る。しかし、中学2年になると逆に双方から言われる割合が平均を上回る。「ほしい物ややりたいことがあっても我慢しなさい」についてみると、小学3年では「自分の親」が全体平均を約10%上回り、逆に「学校の先生」が下回る。小学3年になると、「自分の親」と「学校の先生」の双方ともに若干ながら平均を上回る。そして、中学2年では「自分の親」が平均値を下回り、「学校の先生」が平均値を若干ながら上回る。

前回調査では選択肢が13項目あり、それが8項目にまとめられた今回の調査結果と単純な比較はできないが、参考までに相互の異同について簡単に整理しておくことにしたい。

前回調査で、日常生活に関して親からよく言われている上位3項目は、「早寝、早起きをしなさい」(61.0%)、「ほしい物ややりたいことがあっても、我慢しなさい」(57.1%)、「よいことと、悪いことを考えなさい」(47.1%)で、いずれも基本的な生活習慣に関する項目という点で共通する。逆に、親からあまり言われない上位3項目としては、「住んでいる地域を大切にしなさい」(12.8%)、「社会を守りなさい」(18.8%)、「友だちに協力しなさい」(20.7%)の順であった。これら3項目は、社会の中で学んでいくべき項目として共通していると考えられる。また、子どもが「自分の親」よりも、学校の先生から学んでいると感じている上位3項目は「友だちに協力しなさい」(37.7%)、「差別をしてはいけません」(32.2%)、「ともだちの気持ちを思いやりなさい」(29.4%)であり、3項目とも学校という集団生活に関する基本的なルールに関することで共通しているように思われる。子どもが「近所の大人」から教わっているとするとする項目はほとんどが極めて低率であり、最も高率の「住んでいる地域を大切にしなさい」でさえ僅かに3.6%、次いで「働くことは大事なんですよ」も1.3%に過ぎず、地域の大人が子どもたちに与える教育的な影響はほとんどないと思われる。

図2 児童生徒調査「しつけ」に関して、だれから言われるかー学年別ー



(高橋 興)

第2章 児童生徒の自己認識像と規範意識

—子どもは自らの姿をどのように捉えているか—

1. 児童生徒の自己行動認識 (③)

(1) 「先生の言うことを素直に聞く」と「学校の勉強はよくできるほうだと思ふ」の間

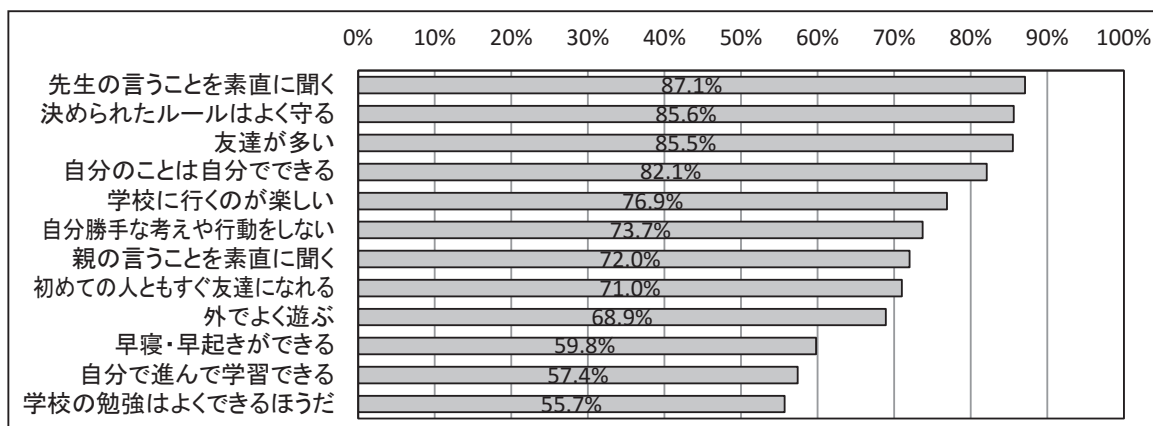
図3は、児童・生徒に自分自身がどのような子どもであるか（自己行動認識）を聞いた結果である（とてもあてはまる+少しあてはまる）。

「先生の言うことを素直に聞く」（87.1%）、「決められたルールはよく守る」（85.6%）、「友だちが多い」（85.5%）、「自分のことは自分でできる」（82.1%）と8割以上の肯定率である。特に、「先生の言うことを素直に聞く」は小学校3年生、小学校5年生、中学校2年生においても80%を超えており、「親の言うことを素直に聞く」（72.0%）より10%以上高い数値となっている。それに対して、「早寝・早起きができる」（59.8%）、「自ら進んで学習できる」（57.4%）は全体的に低くなっている。特に、「学校の勉強はよくできるほうだと思ふ」は55.7%と最も低い肯定率となっており、「先生の言うことを素直に聞く」との差は30%を超えている。個々の学校における学校評価や自治体の教育政策の指標などで100%を目標として取り上げられる「学校に行くのは楽しい」は、その間にあり、本調査でみる限り76.9%と必ずしも高いとはいえない。

質問項目に若干の修正があるものの、こうした傾向は本研究グループが行った2007年調査の結果とほぼ同じ傾向を示している。総じて、子どもたちは自らの姿を肯定的にとらえており、教師や保護者の話を素直に聞いている「よい子のイメージ」である。しかし、「早寝・早起き」という基本的な生活習慣、「自分で進んで学習できる」という基本的な学習習慣についての認識は必ずしも高くない。すなわち、「先生の言うことを素直に聞く」「決められたルールを守る」など外的規範重視の傾向が強めにあり、「早寝・早起きができる」「自分で進んで学習できる」等内的規範（意識）は弱めの傾向がある認識といえる。

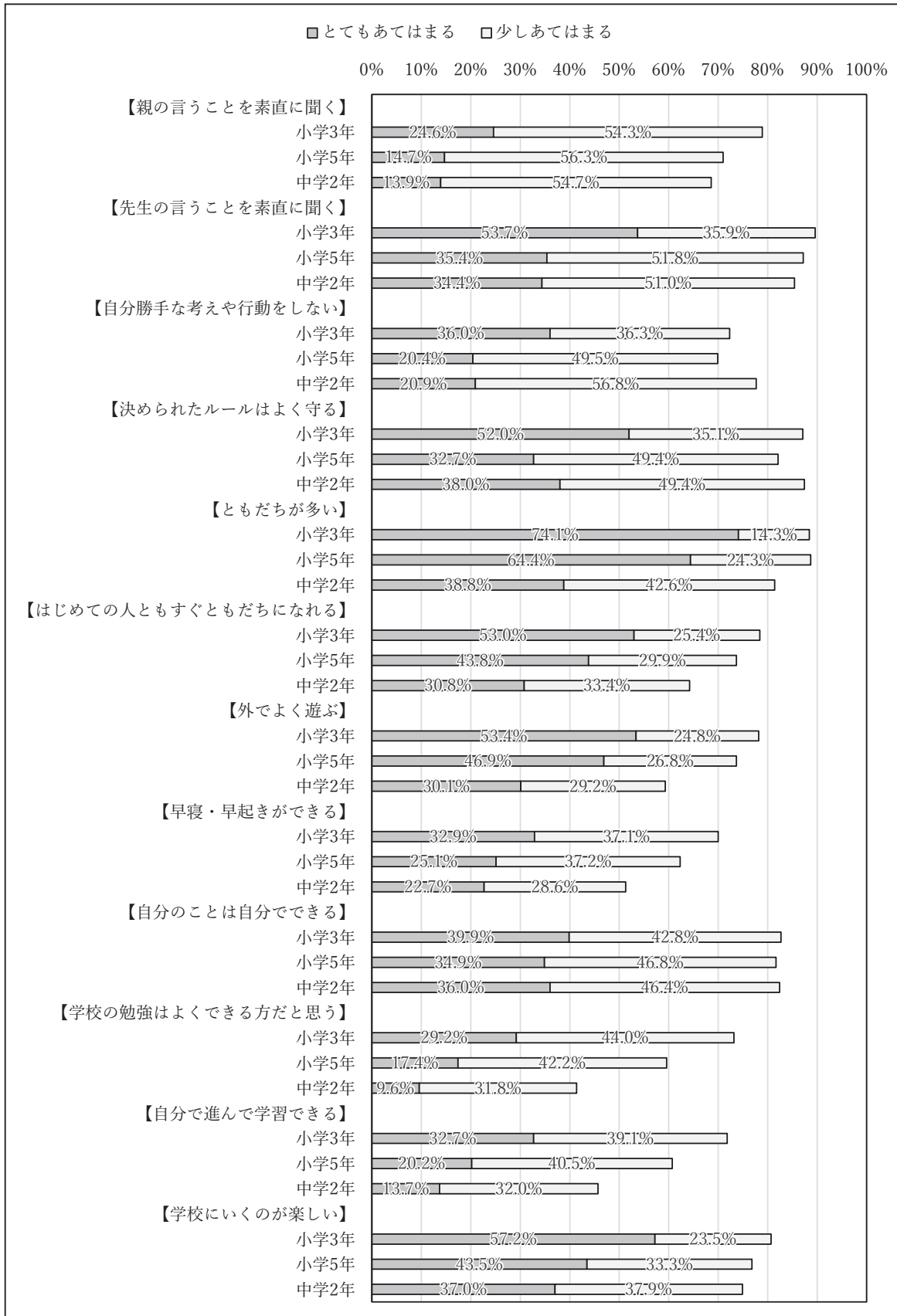
図4は、児童・生徒に自分自身がどのような子どもであるか（とてもあてはまる+少しあてはまる）を聞いた結果を学年別に示したものである。細かくて少し見にくい図ではあるが、小学校3年生から小学校5年生、そして中学校2年生まで学年が上がっても肯定

図3 自分をどのような子どもだと思うか
—「とてもあてはまる」+「少しあてはまる」の合計値—



率に大きな変化がない項目と学年が上がるに従って肯定率がかなり低くなる項目に大別されることがみてとれる。そして、学年が上がるに従って肯定率が低くなる項目では「とて

図4 自分自身をどのような子どもだと思うか



もあてはまる」という割合も学年が上がるに従って低くなることがわかる。

(2) 学年が上がっても高い肯定率で変化の少ない項目

小学校3年生から小学校5年生、そして中学校2年生に至るまで肯定率が高く、それほど変化のない項目（小学校3年生と中学校2年生でその差が10%以内の項目）は、「先生の言うことを素直に聞く」（89.6 → 87.2 → 85.4）、「決められたルールはよく守る」（87.1 → 82.1 → 87.4）、「友達が多い」（88.4 → 88.7 → 81.4）、「自分のことは自分でできる」（82.7 → 81.7 → 82.4）がある。「自分勝手な考えや行動をしない」（72.3 → 69.9 → 77.7）は肯定率は8割を切っているが学年による変化は少なく、「決められたルールはよく守る」とともに中学校2年生で肯定率が高くなる項目である。

(3) 学年が上がるに従って肯定率が大きく下がる項目

小学校3年生から中学校2年生まで学年が上がるに従って10%以上肯定率が下がる項目に、「初めての人ともすぐに友達になれる」（78.4 → 73.7 → 59.3）、「早寝・早起きができる」（70.0 → 62.3 → 51.3）、「学校の勉強はよくできるほうだと思う」（73.2 → 59.6 → 41.4）、「自分で進んで学習できる」（71.8 → 60.7 → 45.7）、「親の言うことを素直に聞く」（78.9 → 71.0 → 68.6）がある。

特に、「学校の勉強はよくできるほうだと思う」（73.2 → 59.6 → 41.4）、「自分で進んで学習できる」（71.8 → 60.7 → 45.7）は小学校3年生から小学校5年生に至る段階でも10%以上肯定率が下がるが、中学校2年生でさらに15%以上も下がっている。実際に学力格差が大きくなっていることとも関わっていると思われるが、自らの学力や学習の主体性に関わって、子ども自身が自らを否定的に捉えるようになっていく子どもの意識の変化は小学校と中学校の間の大きな課題といえる。こうした子ども自身のネガティブな自己像への変化や予測される実際の姿は、今日、全国的に進みつつある小中一貫校における生徒指導のあり方に関わって留意すべきである。

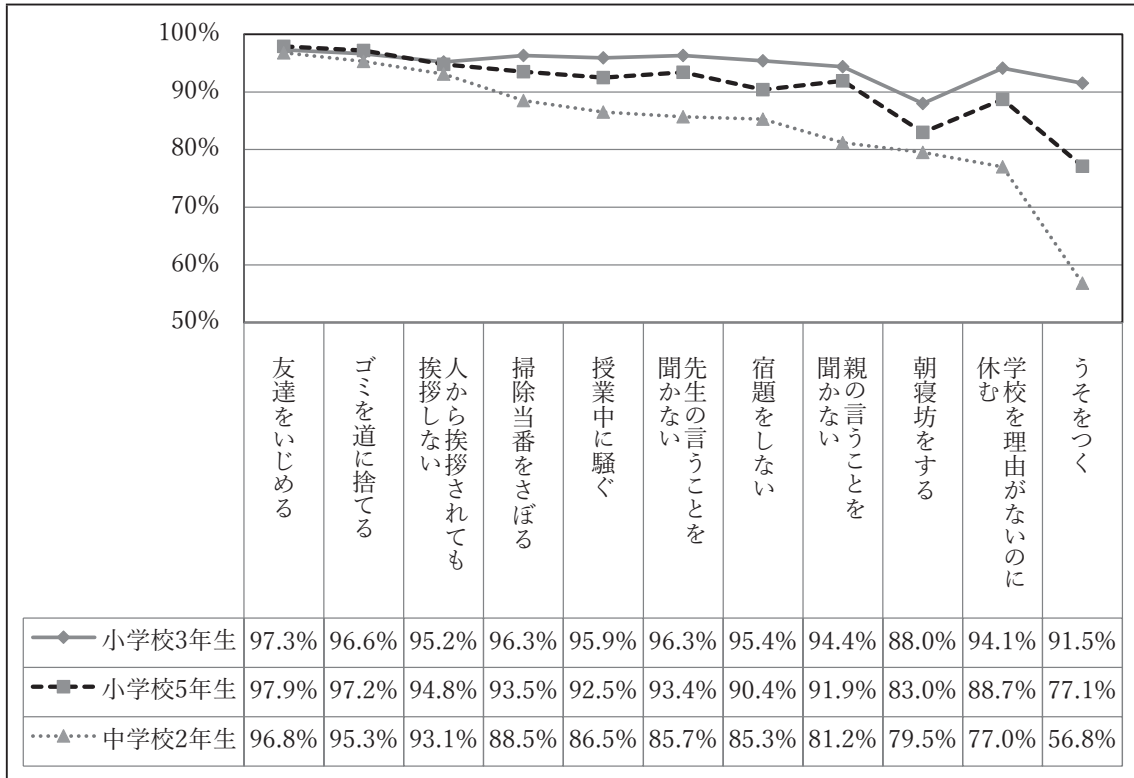
2. 子どもの規範意識

(1) 規範意識は学年が上がるに従って低下する傾向がある (4)

図5は、小・中学生の規範意識を、それぞれの項目について「絶対してはいけない」「あまりしてはいけない」という否定的な意見（いわゆる規範意識をもっている）からとらえて、その割合を示したものである。

「友達をいじめる」「ゴミを道に捨てる」という項目において小学校3年生と小学校5年生で数値が逆転しているが（ただし1%以内）、基本的にはすべての項目において、学年が上がるにつれて規範意識は低下する傾向がある。特に、「うそをつく」は、小学校3年生で91.5%だったのに、小学校5年生で77.1%、中学校2年生では56.8%と一挙に低くなる。学年が上がるにしたがって規範意識が低下することや、「うそをつく」ことに対する規範意識の低さは、基本的には前掲2007年調査の結果と変わらない。全体として「絶対してはいけない」+「あまりしてはいけない」とする割合は高くなっており、母集団は異なるものの、2007年当時と比べて子どもの規範意識が低下しているとは思われない。

図5 子どもの規範意識
 - 「絶対してはいけない」「あまりしてはいけない」の合計値-



学年ごとの傾向をみていくと、小学校3年生に関しては、「朝寝坊をする」だけが90%を下回っているだけで、その他の項目はすべて「絶対してはいけない」「あまりしてはいけない」とする割合が90%以上である。小学校5年生に関しても「朝寝坊をする」88%、「学校を理由がないのに休む」88.70%、「うそをつく」77.10%以外は、90%以上である。しかし、中学校2年生になると、「朝寝坊をする」、「学校を理由がないのに休む」は80%も下回り、「うそをつく」は56.8%となる。

(2) 場合によってはかまわないという意識

図6は、それぞれの項目について、「場合によってはかまわない」「かまわない」とする肯定的意見（いわゆる規範意識をもっていない）からとらえたものである。

全体として、それぞれの項目について「かまわない」とする割合は必ずしも高くはないが（「朝寝坊をする」について、小学校3年生が4.3%、中学校2年生が5.3%、「学校を病気とかの理由がないのに休む」について中学校2年生が4.7%であり、他はすべて4%未満の数値である）、「場合によってはかまわない」とする割合が年齢が上がるに従って大きくなっていることがわかる。ここでは、子どもの規範意識の問題として、どんな「場合」が「かまわない」のか問われることになる。

例えば、肯定率が高い「場合によってはうそをついてもよい」（小学校5年生で21.8%、中学校2年生で40.0%）という場合のうそをついてもよい場合とはどんな場合なのか？規範意識の現状と指導のあり方（育て方）を考える時、気になる問題である。

「場合によっては親の言うことをきかない」（中学校2年生で15.8%）、「場合によっては先生の言うことをきかない」（中学校2年生で11.2%）、「場合によっては宿題をしない」

(中学校2年生で11.0%)、「場合によっては授業中さわりでもかまわない」(中学校2年生で10.7%)は、「場合によってはかまわない」とする割合がそれぞれ10%を超えており、それぞれの項目において小学校5年生の割合も高くなっている。また、数値は低いものの、「友達をいじめる」を肯定する割合(「かまわない」+「場合によってはかまわない」)が小学校3年生で1.9%、小学校5年生で1.8、中学校3年生で3.0%あった。

平成26年度の「問題行動等調査」において、小学生の暴力行為が過去最多となり、とりわけ、学年が低いほど増加率が高いこと、そして、いじめの認知件数、不登校児童生徒数は相変わらず高い数値を示している(文部科学省『教育委員会月報』2015年12月号に所収のデータ参照)。こうした問題行動は「場合によってはかまわない」という子どもたちの意識に関わっており、そうした意識がある意味で寛容な生徒指導から生じるものだとすれば、それを生み出すしつけや保護者の行動のあり方が検討されなければならないだろう。

図6 子どもの規範意識



(堀井 啓幸)

第3章 しつけに対する児童・生徒の意識と実態

1. だれからしかられると思うか (⑤)

本質問は、**図7**に記した1から7までの項目ごとに、児童生徒に対して「誰から叱られると思いますか」という意識をたずねたものである。

「友だちとけんかした」の小学校5年生 35.9%、中学校2年生 30.8%、「きちんとあいさつをしなかった」の中学校2年生 39.4%以外は、全て「自分の親」から叱られると思うという割合が高かった。

「自分の親」と回答した項目を高い順に並べると「自分の身のまわりのかたづけをしなかった」79.6%、「成績が下がった」66.2%、「うそをついた」64.0%、「約束やきまりを守らなかった」59.8%、「いたずらをした」52.3%、「きちんとあいさつをしなかった」36.9%、「友だちとけんかをした」31.7%という結果となっている。このうち下位の2項目以外は5割を超すなど高い割合を示している。このことから子どもが「叱られる」と認識する場合は主として、「学校」や「地域」ではなく「家庭」だと言える。

しかし「きちんとあいさつをしなかった」「友だちとけんかをした」の2項目に関しては「学校の先生」がそれぞれ 31.3%、32.0%を示していることから、これらの2項目に関しては「学校」と「家庭」両者がしつけの場となっていることが考えられる。

また、「近所の大人」の回答に関してはどの項目においても低い割合となっている。

このような結果から、本質問項目において「家庭」が主なしつけ場所として児童生徒に認識されているということが読み取れる。しかし、「友だちとけんかした」「きちんとあいさつをしなかった」といった集団生活の規律の項目については「学校」もしつけの場所として一部に認識されているということが読み取れる。

2. だれからほめられると思うか (⑥)

本質問は、**図8**に記した1から7までの項目ごとに、児童生徒に対して「誰からほめられると思いますか」という意識をたずねたものである。

「成績が上がった」の項目は、どの学年においても「自分の親」という回答が8割を占める結果となった。一方で、「学校の先生」という回答は3～5%にとどまっている。「どんな友だちとも仲良く遊んだ」「悪いことをしたときに正直に話した」「自分の身のまわりをきれいに整理した」「あいさつをしっかりとした」「約束やきまりを守った」「落ちているゴミをひろった」の6つの項目については、「自分の親」という回答が最も多い。これらの項目については学年を重ねるに連れて、「いわれない」という回答が高くなっている。「あいさつをしっかりとした」「落ちているゴミをひろった」の2項目については、中学2年では「自分の親」よりも「学校の先生」という回答の割合が多くなっている。

全体的な傾向として児童生徒は、自身をほめてくれる相手として、主に「自分の親」を意識していると言える。一方で、「成績が上がった」以外の生活習慣に関する項目については、「いわれない」という回答がどの学年においても2～4割程度であったことから、生活習慣については「ほめられない」と感じている児童生徒が一定数いるが、このことはすでに児童生徒が基本的な生活習慣を身につけているからだとも考えることもできるが、同時に、「ほめられる」ことをさほど意識していないからだとも解することができる。後者に該当する場合には、親子間のコミュニケーションに問題があると言えそうである。

図7 だれからしかられると思いますか

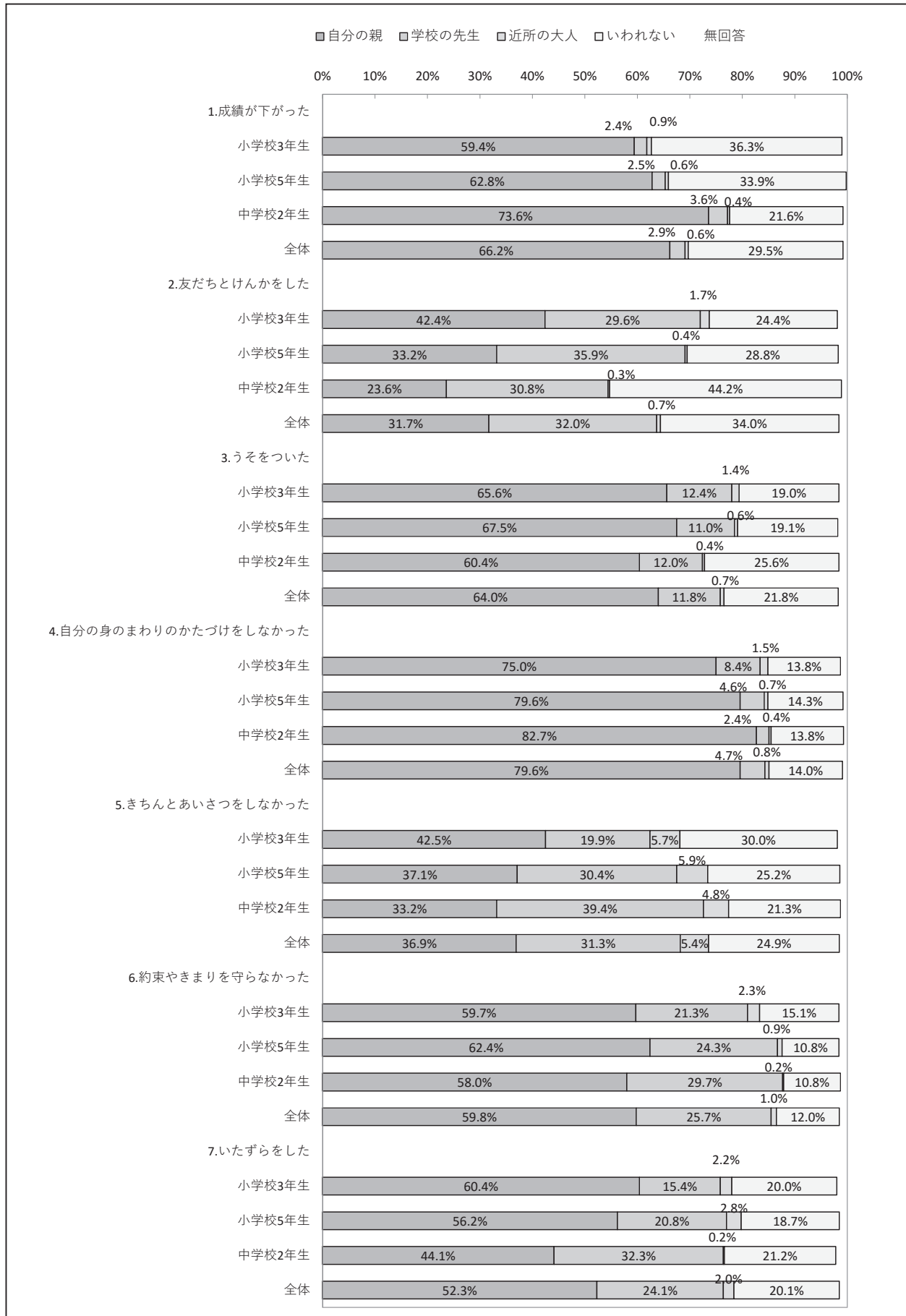
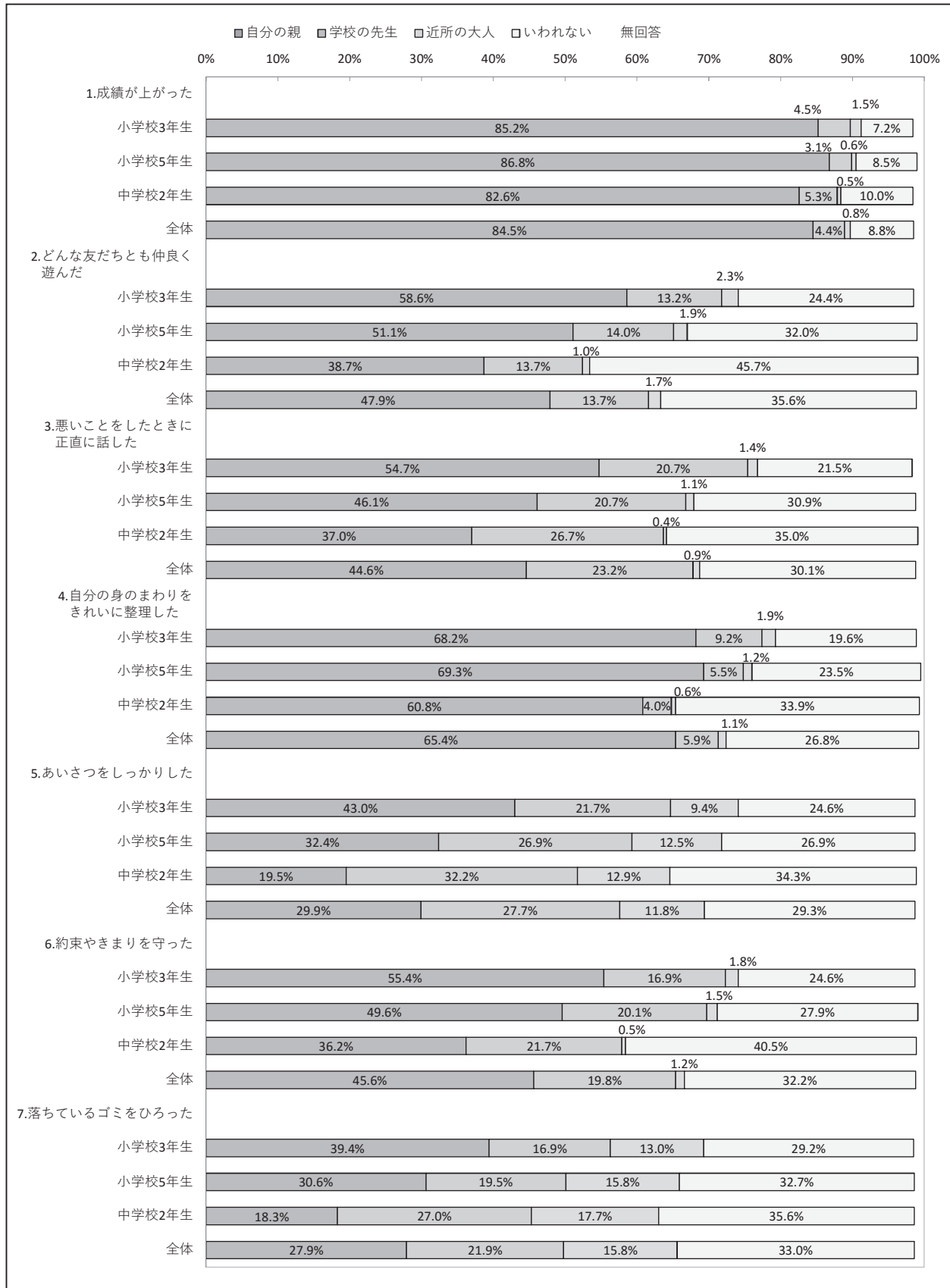


図8 だれからほめられると思いますか



※「無回答」は省略してある。

3. 実際にだれからしかられましたか (7)

本質問は、**図9**に記した1から7までの7つの項目について「実際に誰からしかられましたか」と実態をたずねたものである。なお、質問に該当しない場合は無回答を求めた。

以下では、全体の割合に注目して上位3項目について触れていきたい。「自分の親」と回答した割合が高い順に並べると、「自分の身のまわりのかたづけをしなかった」69.3%、「うそをついた」54.7%、「成績が下がった」53.2%となっている。いずれも5割を超える回答結果となっている。なかでも、「成績が下がった」「自分の身のまわりのかたづけをしなかった」では、学年を重ねるにつれて回答割合が増加している。これら2項目は学年が上がるにつれて叱られる場が「学校」や「地域」から「家庭」へと移行する傾向が読み取れる。

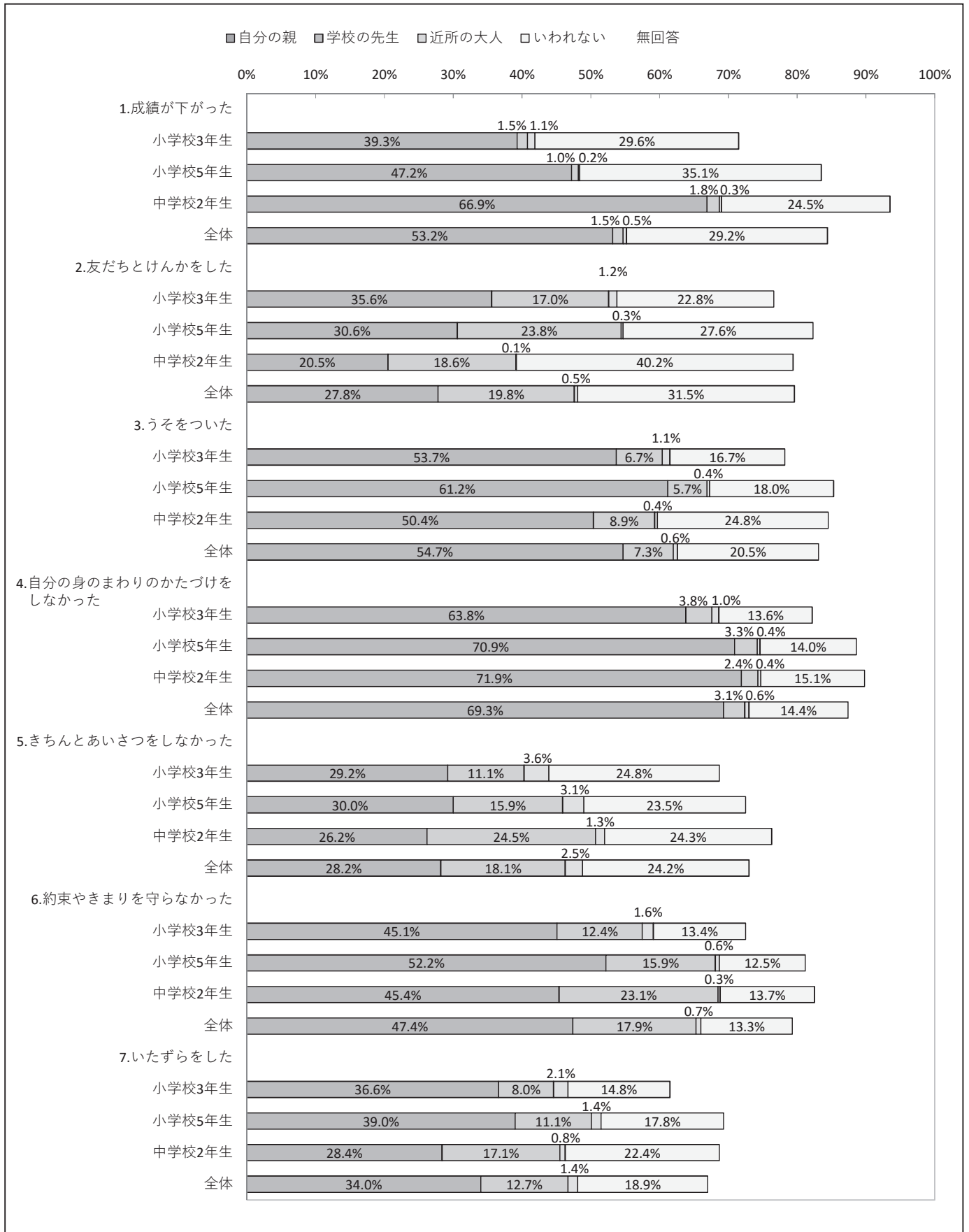
「学校の先生」の回答割合が高い順は、「友だちとけんかをした」19.8%、「きちんとあいさつをしなかった」18.1%、「約束やきまりを守らなかった」17.9%となっている。また「近所の大人」の回答割合が高い順に並べると「きちんとあいさつをしなかった」25%、「いたづらをした」1.4%、「約束やきまりを守らなかった」0.7%となっている。総じて「自分の親」より、「学校の先生」「近所の大人」の割合が低くなっていることから、児童生徒が実際に叱られる主たる場は「学校」や「地域」よりも「家庭」にあるといえる。

さらに中学2年生に注目してみると、2～4割「いわれない」と回答している。該当しない生徒は無回答を求めていることから、中学生の場合、一定程度の生徒はしかられる行為をしても「しかられない」層が存在することが読み取れる。

全体的な傾向として「誰からしかられると思うか」という質問項目同様、「自分の親」からしかられることの方が多という結果となった。また、「学校の先生」の項目に注目してみると「友だちとけんかした」「きちんとあいさつをしなかった」「約束やきまりを守らなかった」「いたづらをした」の集団生活の規律項目において「誰からしかられると思うか」という意識をたずねた場合よりも、低い割合を示す結果となった。

つまり、実際の「しかられ」体験は「しかられ」意識よりも低く、実際には親等が「しかる」ことが減少していることが推量できるのである。

図9 実際にだれからしかられましたか



※「無回答」は省略してある。

4. 実際にだれにほめられましたか (8)

本質問は、図10に記した1から7までの項目毎に、児童生徒に対して「実際に誰からほめられましたか」という「ほめられた」体験の実態をたずねたものである。なお、前項目同様に該当しない場合は無回答を求めた。

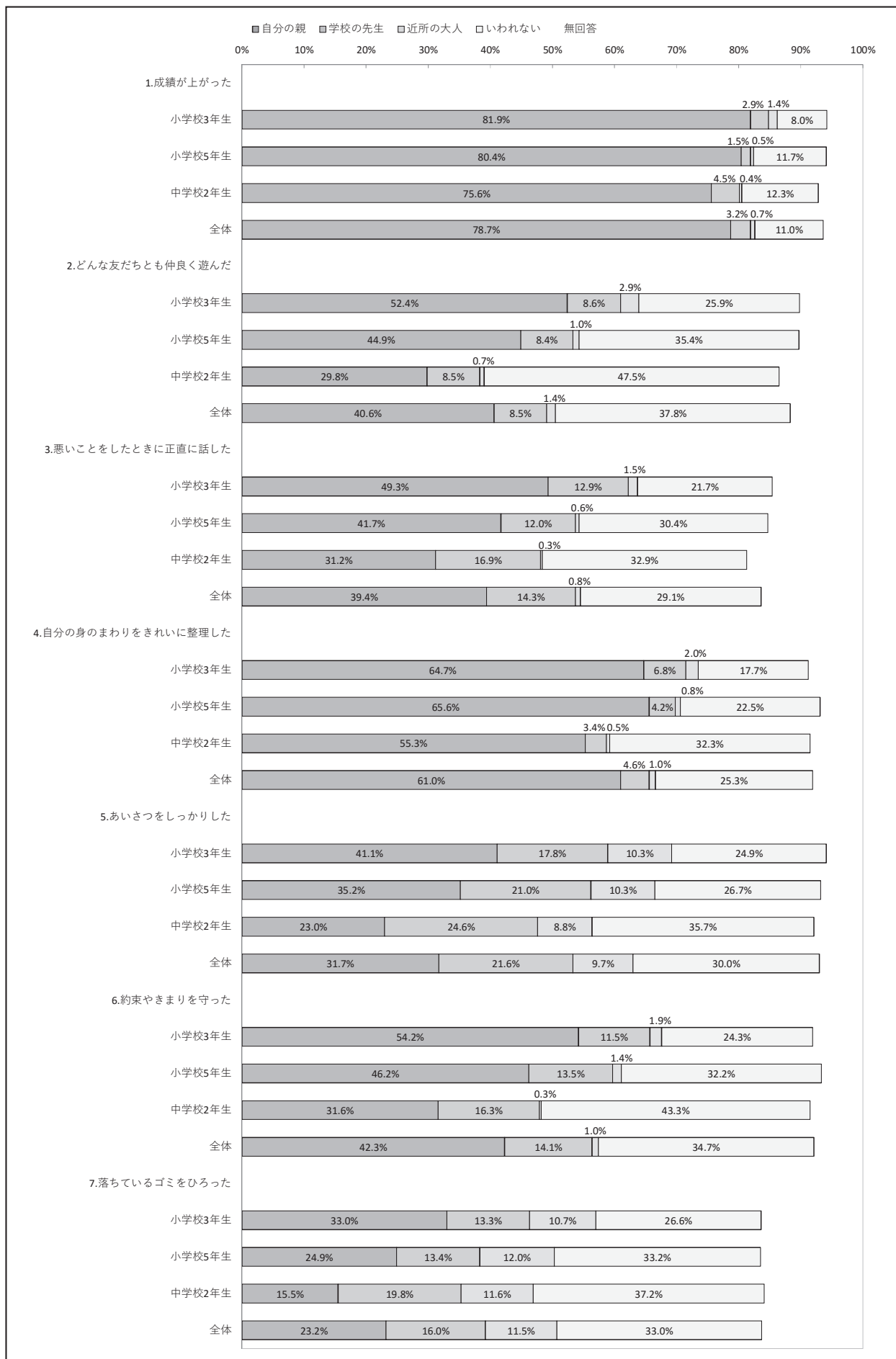
前節同様、以下では全体の割合の上位3項目について触れていきたい。「自分の親」の上位3項目は「成績が上がった」78.7%、「自分の身のまわりをきれいに整理した」61.0%、「約束やきまりを守った」42.3%となっている。「成績が上がった」はどの学年においても高い割合を示しており、親の関心が高いことがうかがえる。また「どんな友だちとも仲良く遊んだ」の項目においても40.6%という高い割合を示している。これらから日常生活におけるルール等にも親が児童生徒と関わり、ほめている様子を読み取ることができる。

一方、「学校の先生」の上位3項目は「あいさつをした」21.6%、「落ちていたゴミをひろった」16.0%、「約束やきまりを守った」14.1%と低くなっている。児童生徒は教員からほめられているという認識が弱く、実際に教員は児童生徒をほめることが少ないのであろう。同様に「いわれない」の回答結果は「成績が上がった」以外の項目で2～4割程度を示していることから、よいことをしても実際に「ほめられない」と感じている児童生徒が一定数いる。実態とのズレが生じているのかについては別の章で述べていきたい。

「近所の大人」の上位3項目は「落ちていたゴミをひろった」11.5%、「あいさつをした」9.7%、「どんな友だちとも仲良く遊んだ」1.4%となっている。上記の2つの選択肢(「親」「先生」と比較すると割合が低くなっている。「近所の大人」の項目に関しては、児童生徒と関わる機会が乏しいのか、実際には関わっているがほめられることが少ないのか詳しい分析が必要である。

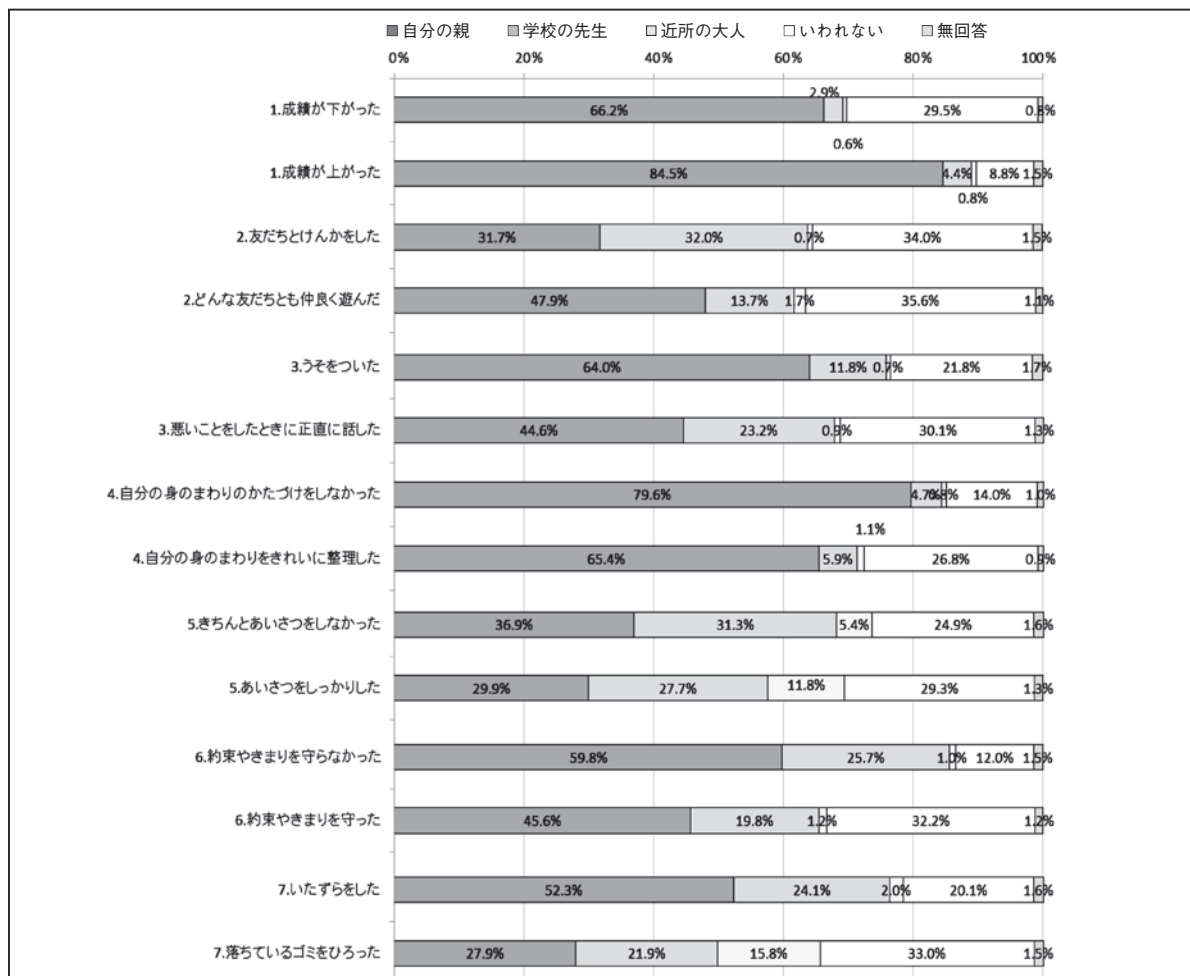
これらをまとめると、「実際に誰からしかられますか」と問うた場合よりも、「実際に誰からほめられますか」と問うた本項目の方が「いわれない」の回答割合が高い傾向にあった(成績に関する項目以外)。この結果には、今後しつけの在り方を考えるヒントがありそうである。

図10 実際にだれにほめられましたか

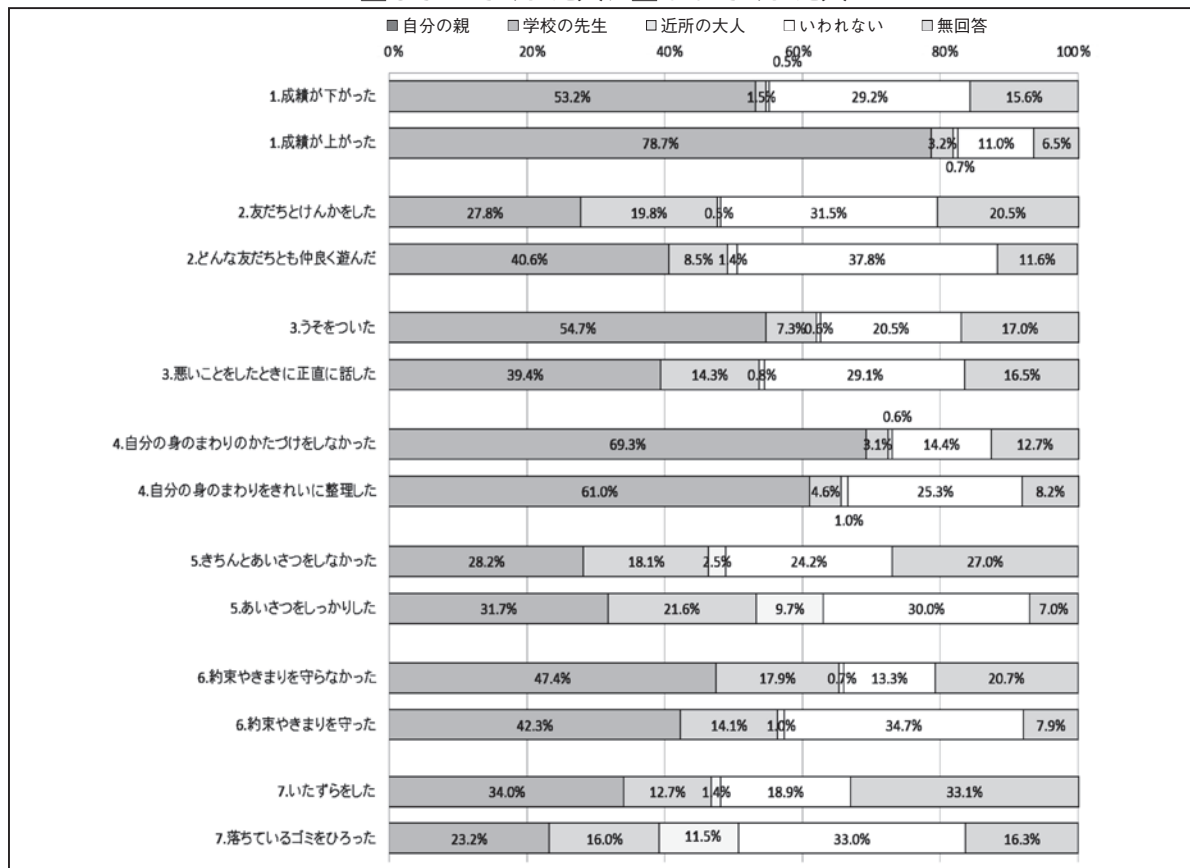


※「無回答」は省略してある。

⑤しかってくれると思う人、⑥ほめてくれると思う人



⑦しかってくれた人、⑧ほめてくれた人



5. 児童生徒がよく言われていること (9)

(1) 自分の親や祖父母からよく言われること

本質問項目では、児童生徒が自分の親や祖父母からよく言われる「言葉」を順不同で三つ以内選択してもらったものである。図11は、各項目の多重回答結果の合計値を学年別に表している。

解説に際して、各項目を以下のように分類した。

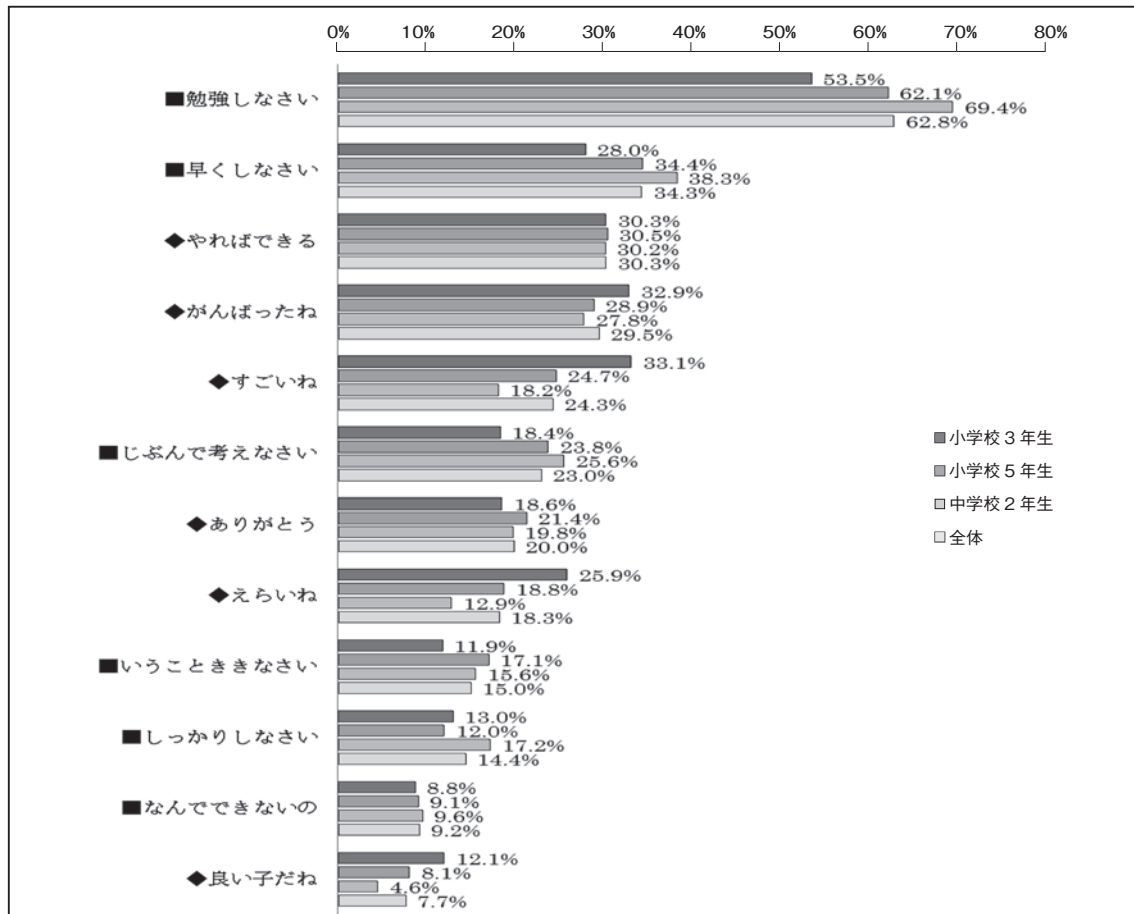
【■指示的言語】「勉強しなさい」「早くしなさい」「いうことききなさい」「なんでもできないの」「しっかりしなさい」「じぶんで考えなさい」

【◆評価的言語】「えらいね」「ありがとう」「良い子だね」「すごいね」「がんばったね」「やればできる」

「全体」の割合を見ると、指示的言語の「勉強しなさい」の割合が最も高く、学年が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。「勉強しなさい」に次いで、「早くしなさい」「やればできる」「がんばったね」の回答割合が高くなっている。また、共通の傾向として「なんでもできないの」及び「良い子だね」の回答割合が低いことが指摘できる。指示的言語と評価的言語の割合は、学年が上がるごとに後者の割合が高くなっている。

以上の回答結果によれば、全体的に、家庭で保護者から時に厳しく、時に優しく言葉かけられているものの、学年が上がるにつれて、保護者から指示的言語による言葉かけが多くなっている様子が見いだされるのである。

図11 自分の親や祖父母からよく言われること



(2) 学校の先生からよく言われること

つぎに、児童生徒が学校の先生からよく言われる言葉を順不同で三つ以内選択してもらった。**図 12**では、各項目の多重回答結果の合計値を学年別に表している。

全体的に評価的言語が上位を占めている。「全体」を見ると回答割合が高いのは「やればできる」「がんばったね」で、これらは他の項目の数値を引き離しており、次いで、「じぶんで考えなさい」「すごいね」「ありがとう」が続く形となっている。学年別に比較してみると、全体的に学年が上がるにつれて評価的言語の割合が低くなり、これとは反対に、指示的言語の割合が高くなる傾向がみられた。特にその傾向が顕著なのが「勉強しなさい」と「すごいね」の割合である。これは学習内容の変化と受験などの環境要因の変化によるものであると推測することができる。

以上の回答結果からは、児童生徒に対して指示的な言葉をあまりかけず、評価的な言葉かけをより多くおこなう、いわゆる「ほめて伸ばす教員」像がイメージされる。しかし、中学生になるとその傾向は逆転し、評価的言語よりも指示的言語を多くかけるようになる。

(3) 近所の大人から言われること

そして、児童生徒が近所の大人から言われる言葉を順不同で三つ以内選択してもらった。

図 13では、各項目の多重回答結果の合計値を学年別に表している。

「保護者」や「先生」からの質問の場合に比べて、指示的言語や評価的言語での否定的な言葉の回答割合が低くなっていることが特徴的である。児童生徒が近所の大人から言われることの大部分は、評価的言語の励ましや肯定的な言葉であることがわかる。特に「えらいね」「良い子だね」「すごいね」の三つの言葉の回答割合が高くなっている。

このような回答結果から、児童生徒が近所の大人から言われているのは基本的に評価的な言葉であり、地域においては、比較的あたたかく児童生徒を見守る様子が見える。

図12 学校の先生からよく言われること

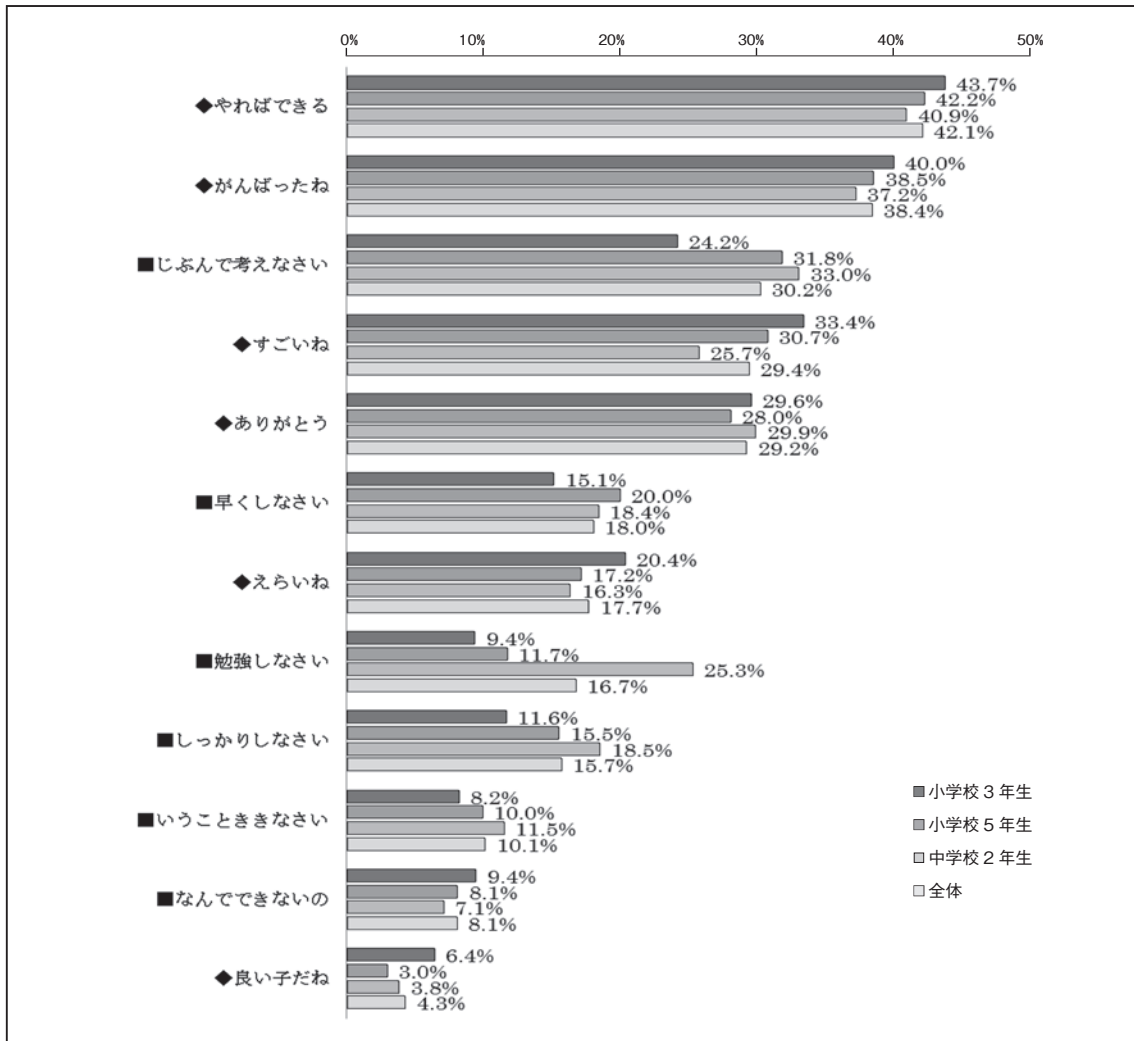
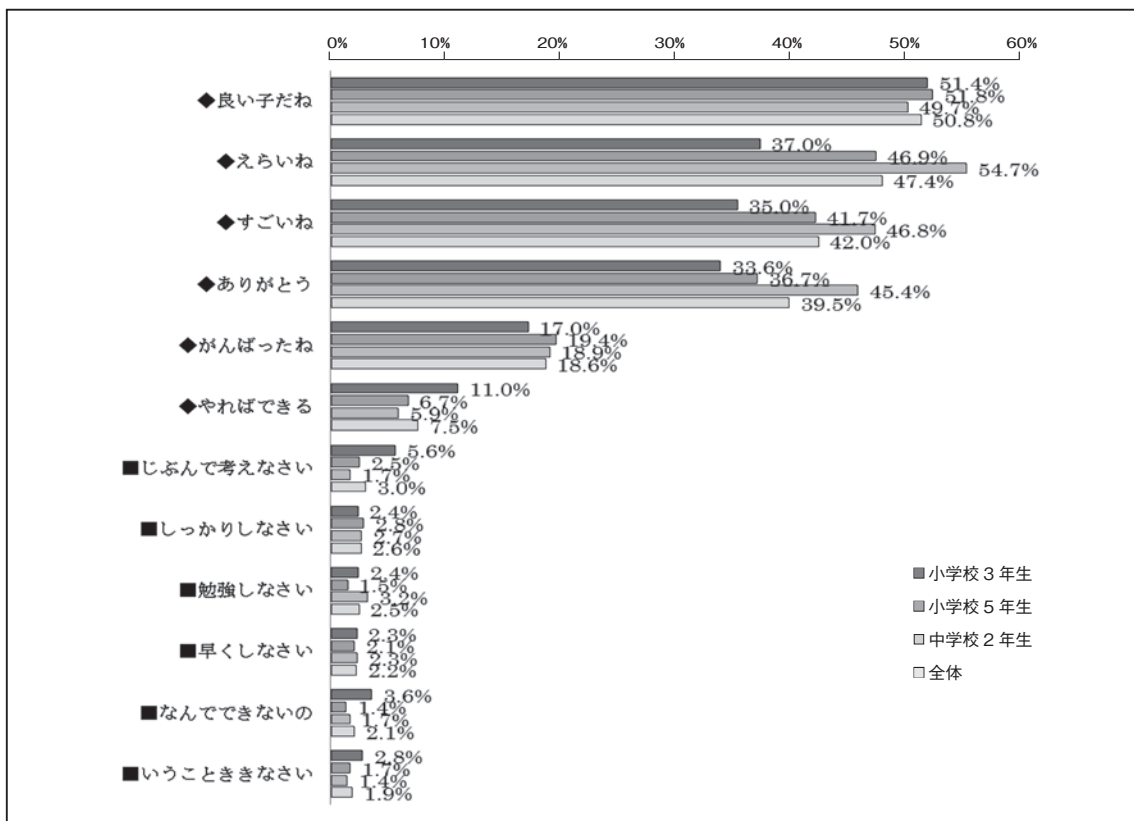


図13 近所の大人からよく言われること



6. 児童生徒が自分の親・学校の先生・その他の大人に言われてやる気の出た言葉(10)

児童生徒が自分の親・学校の先生・その他の大人から言われて「やる気」の出た言葉を順不同で三つ以内選択してもらった。図14は、各項目の多重回答結果の合計値を学年別に表している。

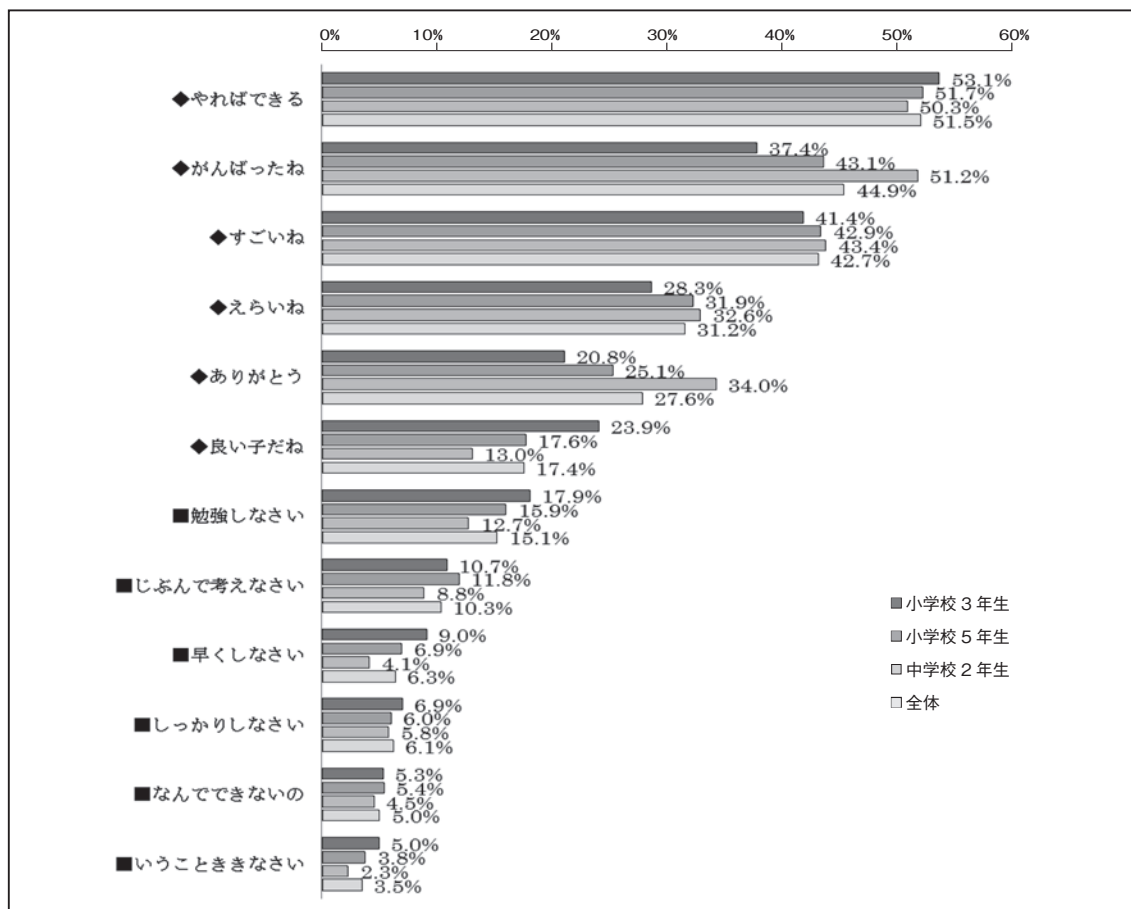
これを見ると、どの学年においても指示的言語の回答割合は低く、評価的言語の回答が高くなっていることがわかる。特に「良い子だね」「すごいね」「がんばったね」の三項目の割合が高くなっている。

これら3項目の割合は学年によるばらつきがあるが、全般的に「えらいね」「すごいね」という、結果やそれまでの行為の承認を意味するような言葉の回答割合は、学年が上がるのに従って高くなっている。また、どの学年においても、「すごいね」という賞賛の言葉よりも「やればできる」という児童生徒を鼓舞する言葉の選択率が高くなっている。

これらのことから児童生徒の「やる気」は、賞賛よりも児童生徒の力を信じて鼓舞し、学年が上がるほどに結果やそれまでの行為そのものへ承認を与えるような言葉かけによって引き出される傾向にあると解することができる。

これに対して、「早くしなさい」「しっかりしなさい」「なんでできないの」「いうことをききなさい」という言葉かけは、予想通りに、子どもの「やる気」を高めることにつながっていないことがわかる。これらは、むしろ「やる気」を削ぐ可能性が高いと言えよう。

図14 言われてやる気が出た言葉

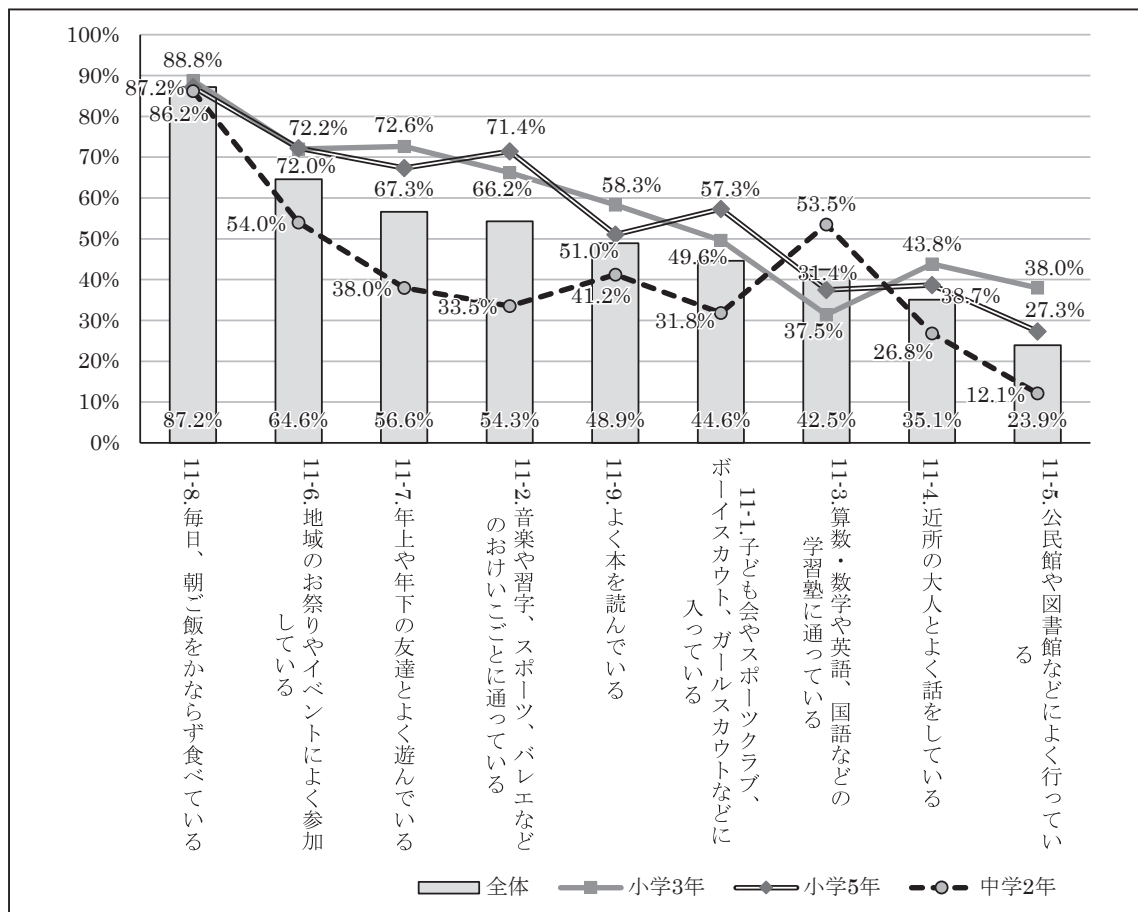


(大園 早紀・橋本 育実)

第4章 児童生徒の校外生活(11)

子どもの校外における日常行動に関する9つの項目に関して、「はい」か「いいえ」で答えてもらった。図15は、その結果のうち「はい」の割合を学年別に表したものである。

図15 子どもの校外生活－学年別－



まず全体的に言えることは、9項目中7項目で、中学2年より小学3年・5年の方の割合が高くなっている。特に、「おけいごと」（小学3年：65.5%、小学5年：70.9%、中学2年：33.3%、以下（ ）内同順）、「異年齢との遊び」（71.6、67、37.8）では小学3年・5年と中学2年の間には30ポイント以上の差、また「お祭り・イベント」（同上71.1、71.8、53.7）、「子ども会・クラブ等」（同上49.1、56.8、31.3）でも20ポイント程度の差が見られ、地域での活動については、学業が本格的になる中学校入学前の児童期において活発であることがうかがえる。

また、以上の全体的傾向から漏れる特徴的な項目もある。今回調査の新設項目「朝ごはん」（87.7、87.1、85.7）は3学年ともに高い割合を示した。また「学習塾」（31、37.3、53.2）は、唯一、中学2年のポイントが小学3年・4年を上回った項目である。これは上述の全体的傾向の裏返しで、中学生になると進学準備のために通塾が盛んになるからであろう。さらに、いずれの学年においても「公民館・図書館等」の割合（37.6、27.1、12.1）が他項目に比して非常に低いことも目を引く。

（松岡 侑介）

第5章 児童生徒の大人とのコミュニケーションの実態

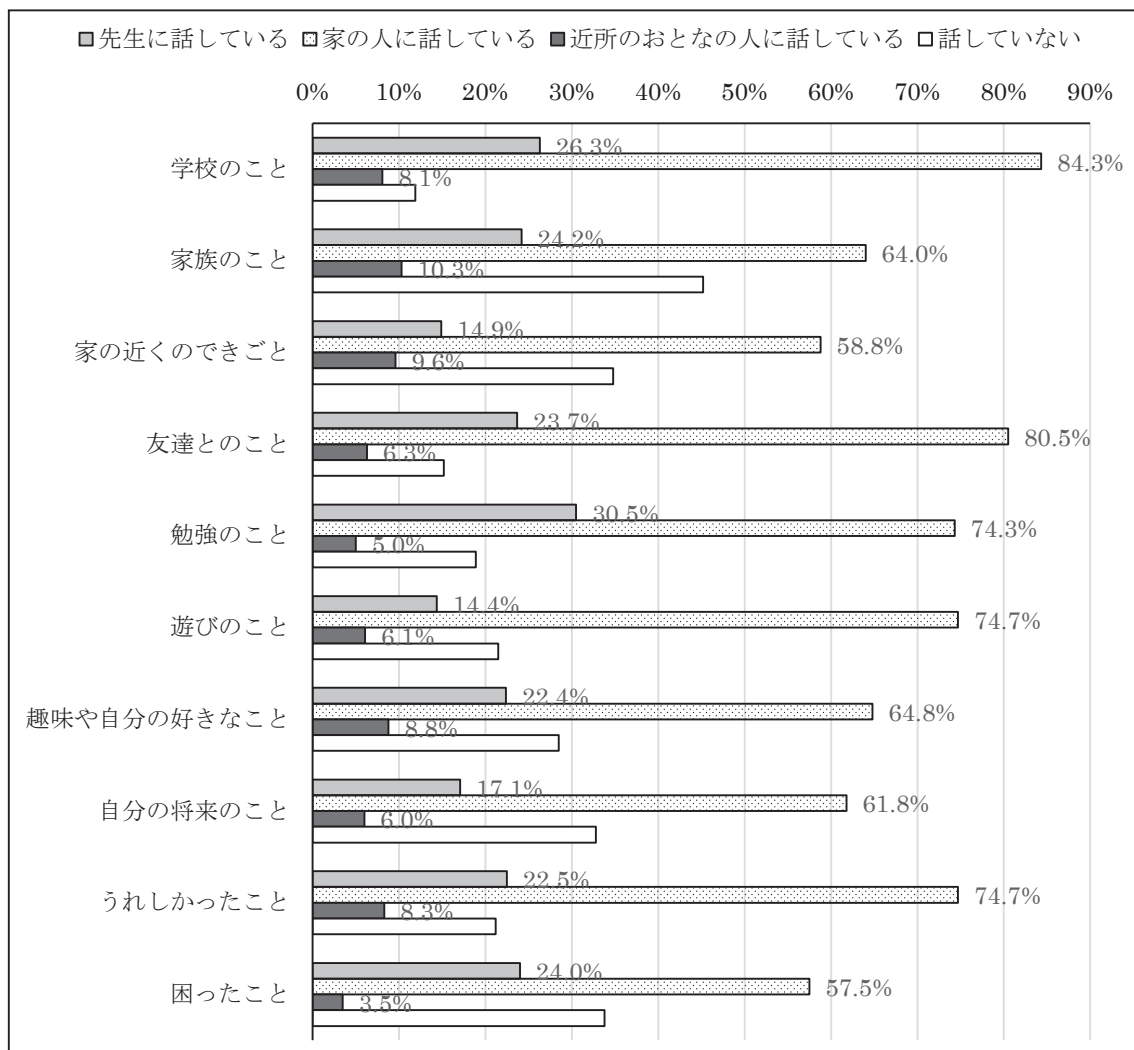
1. 児童生徒の会話の相手 (12)

児童生徒調査のうち 12 あなたと大人の会話について教えてください。の問いについて調査の解説を行う。

子どもたちは、日常生活の中で、どのようなことをどの大人と会話を交わしているのだろうか。図 16 は会話の内容と会話相手との関係を示したものである。

調査では、図の左に記した各項目(「学校のこと」から「困ったこと」までの10項目)について、話し相手として「先生」「家の人」「近所のおとな」「話していない」の4つの選択肢から択一回答を求めた(複数回答)。

図16 児童生徒調査12 大人との会話



全体的に、児童生徒は「家の人」との会話(平均69.5%)が多く、次に大きくポイントが落ちるが「先生」との会話(平均22%)が続く。また、どの項目からも「近所のおとな」との会話(平均7.2%)が少なく、家族以外の大人との会話をする経験が少なく、家庭と

先生とのポイントの差は47.5%もあり、会話相手の実態を見る限り、今の子どもたちは家庭や学校以外の社会との関わりが薄く、地域コミュニティの中で生まれ、成長しているとは言えない状況である。

また、会話内容を見ても、すべての項目で「家の人に話をしている」のポイントが一番高く、小中学生はやはり家庭では色々な事を話していると言える。

一方、「先生に話している」のは勉強のこと(30.5%)以外は30%を切っており、学校のことでも26.3%であり、先生と児童生徒とはあまり学校関係以外の会話は出来ていないようである。更に、会話内容のうちの「困ったこと」は33.8%が誰にも話していないという数字になる。また、「家族のこと」も大人には話していない傾向が見られる。この数字を見る限り、多くの子どもたちは誰にも語らないのか、語れないのか、今回の調査では確定できないが多くの児童生徒が困りごとを内包したまま、過ごしているようである。

これらのことから家庭と先生(学校)との情報の共有化の必要性和困ったことや悩み事の受け皿としての大人の在りようがますます問われていることが見出される。

2. 児童生徒の家族との会話時間 (14)

児童生徒調査のうち「あなたは、ふだんの日に、家族との人とどれくらい話をしますか。」の問いについての解説を行う。

ここでの質問は話の内容ではなく、単純に会話をしている時間を調査しており、下記の選択肢から択一回答を求めた。

1. 30分より短い
 2. 30分～1時間ぐらい
 3. 1時間～2時間ぐらい
 4. 2時間～3時間ぐらい
 5. 3時間より長い
- の5つから選択し答えるものであった。

図17 児童生徒調査14 家族との会話—学年別—

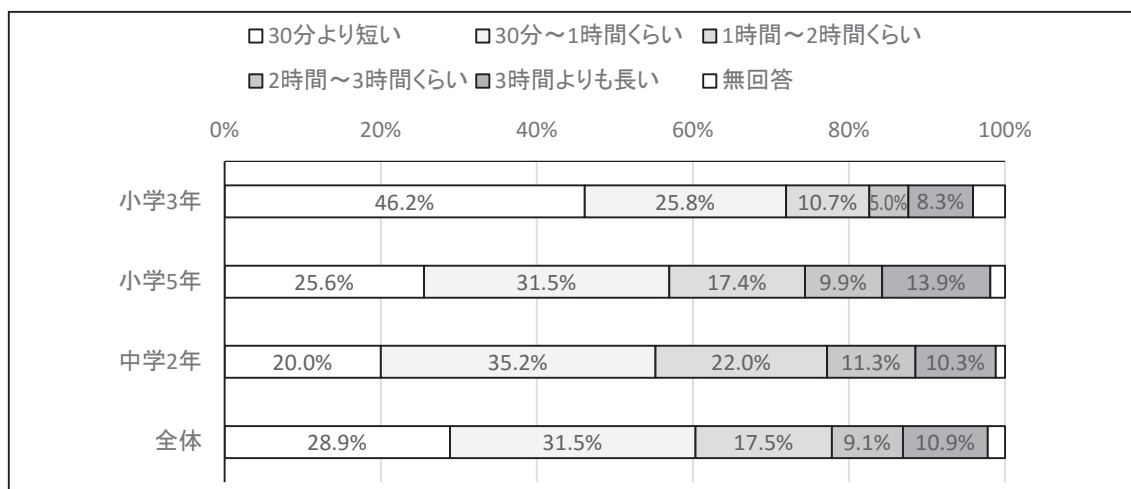
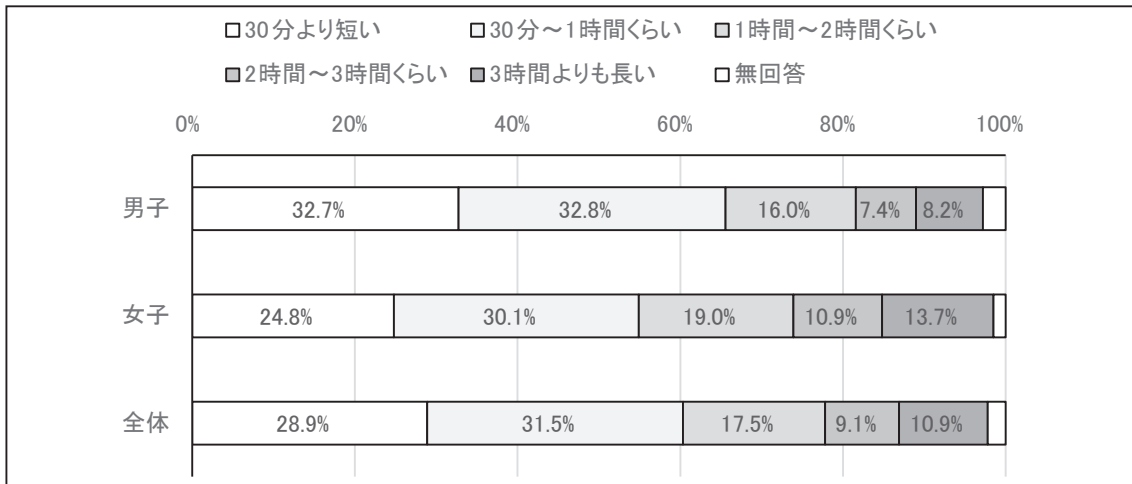


図18 児童生徒調査14 家族との会話時間－性別－



学年別及び性別の会話時間とのクロス表（図17）からは、多くの児童生徒は家族との会話が1時間未満である（60.4%）ことに気づかされる。特に小学3年生の46.2%が「30分未満」と多く、これを加えた「1時間未満」は72.0%にもなり、他の学年の56.1%よりも会話が短い傾向がある。

この傾向を前回調査と比べてみると、前回調査でも小学3年生は「1時間未満」の会話は64.4%で、他の学年の平均が52.6%となっている。前回調査との数値差には若干の変化が見られるが、大きく変化したとはいえない。しかしながら、小学校2年生が他の学年の児童生徒より家族との会話が少ない点は前回と同様であるが、なぜこの学年が少ないのかを考えて行かなければならない。ただ、他の調査項目の回答を見ると、会話相手として「近所の大人」を選択した割合の全体値は小学校3年生3.56%、5年生2.75%、中学校2年生1.47%となり、学年進行に従って数値が低下している。したがって、小学校3年生は他の学年に比べて、「家族」との会話時間が短い分を「近所の大人」との会話時間を多く充てていることが考えられる。

また、「1時間～2時間くらい」会話するという項目からは、学齢が上がるほど回答値が上がっている。小学3年10.7%、小学5年17.4%、中学2年22.0%と次第に高くなっており、学校やクラブで家族から離れていることの多いはずの中学生はむしろ会話時間が長い。このことは、保護者との会話のなにかしらの必要性が生まれているからだと考えられる。その必要性の一つには進路などがあると思われる。

一方、男女を比べると（図18）、男子の方が女子より会話が少ない傾向にある。特に「2時間以上」では女性が男性より9ポイント高く、家族と長く会話をしていることが見受けられる。

（藤原 義朗）

第6章 児童生徒の余暇活動

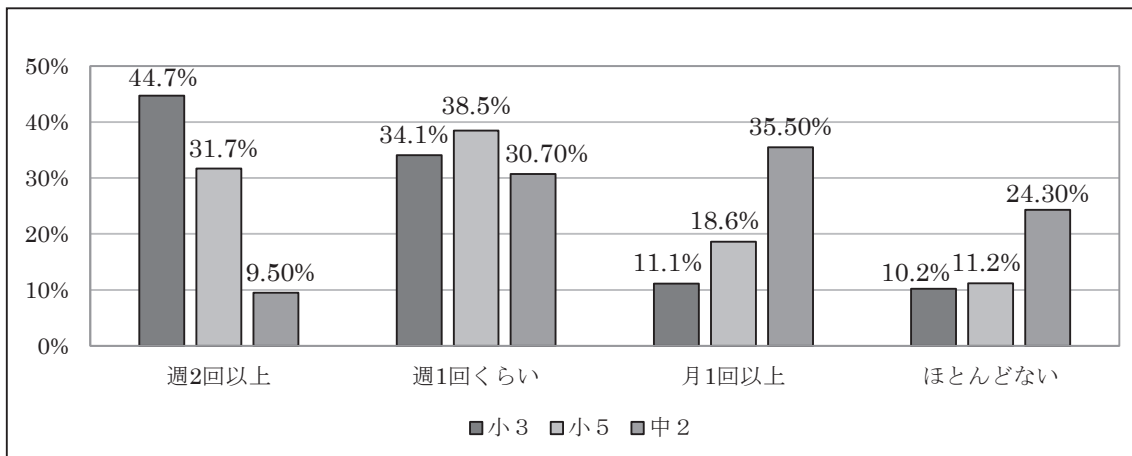
1. 家族との買い物・遊び同行日数について (13) (保17)

(1) 児童生徒の回答 (13)

本設問では、「あなたは、先週、家族と一緒に買い物や遊びに何日行きましたか。」という設問で児童生徒に聞いたことにより、記入欄に行った日数ではなく日付を書く児童生徒が多く統計処理ができなくなるという状況となった。そこで、日付を書かれたものを日数に読み替える作業を行い、統計処理を再度行う必要があった。児童生徒への設問を設定する際は、選択肢から選択させる方式（前調査で採用）が望ましいことを学ばせていただく結果となった。

まず前調査（平成19年）の児童生徒への調査結果が次に示す図19である。

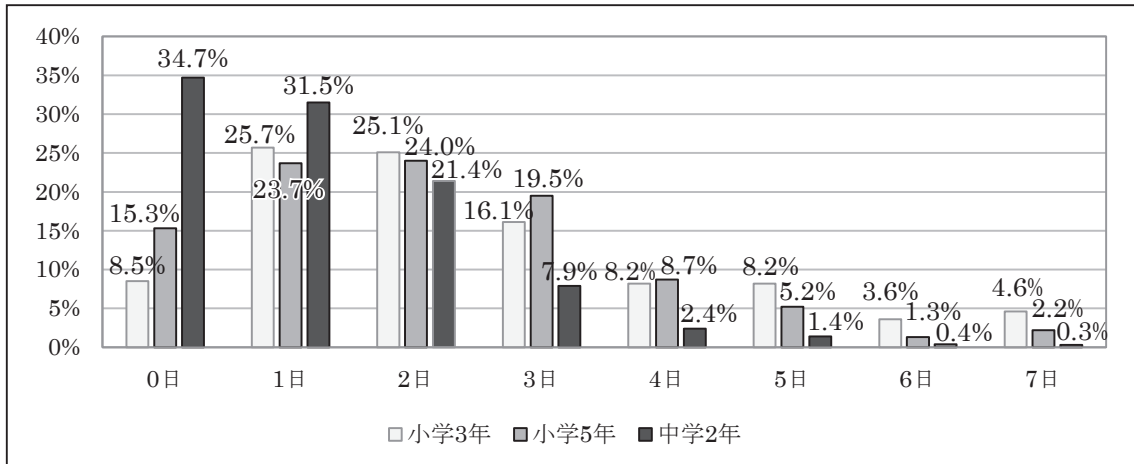
図19 家族の人と一緒に買い物や遊びにどれくらい行くか。
前回調査（平成19年）



平成19年の調査では、小学校は3年生で8割、5年生で7割の児童が親と毎週買い物や遊びを共有しているのに対して、中学生となると毎週同行する生徒が4割に激減し、およそ4分の1の生徒がほとんど行動を共にしていない傾向を読み取ることができる。また、小学校3年生が5年生に進級することで、同行する回数が少なくなっており、思春期を迎えるにつれて親との距離が次第に開いていく傾向が存在し、一般的に納得できる傾向とすることができる。小学生、中学生、高校生と成長するに伴い、親を疎遠とする子供たちが「個の自立」のために増加していくという、ある意味健全な傾向があったといえよう。

次に今回の児童生徒調査結果のグラフ（図20）を見てみよう。読み取り不能の場合、0回としてカウントしているため、0回が多くなる傾向が存在するとともに、前回調査と設問の枠組みが1週間単位で聞いているなど異なるため単純に比較はできないが、「ほとんど同行しない」傾向が小学校・中学校で増していることがうかがえる。中学校2年では10ポイント程度上昇しており、家庭で同行できない何らかの状況が生み出されている事が推測できる。また、逆に小学校において1週間のうち半分以上一緒に行動する親子もおり、子供

図20 先週、家族と一緒に買い物や遊びに何回行ったか。
今回調査（平成27年）



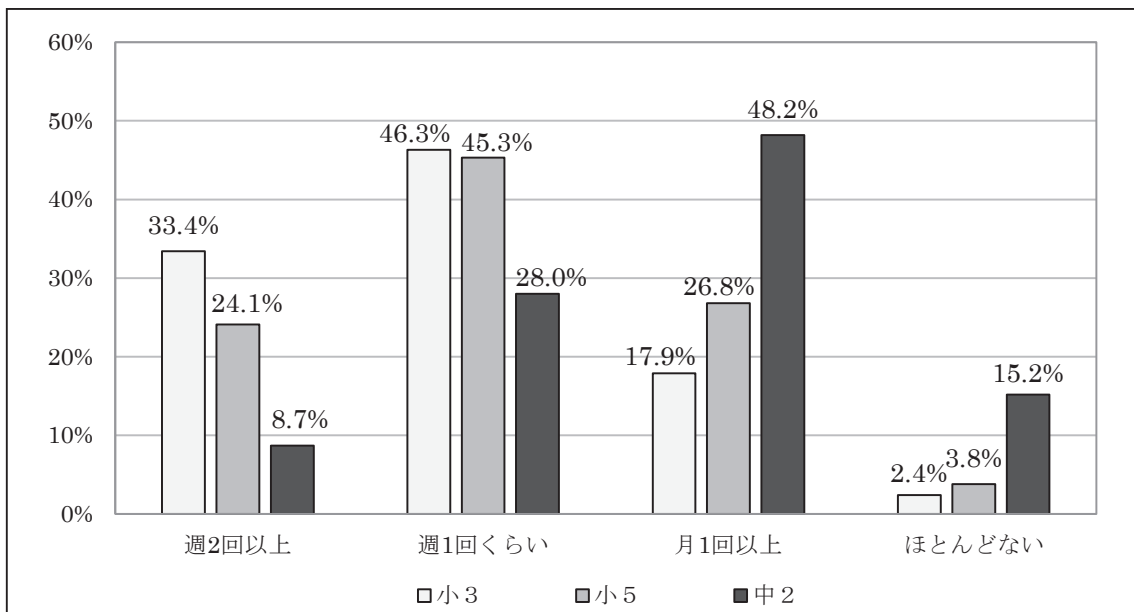
たちと親の関係が二極化してきている傾向を読み取ることができるだろう。社会状況の変化に伴い、仕事責任や生計維持のために十分な親子関係を構築できない家庭や部活動の影響で同行時間がとれない親子が存在する反面、習い事やスポーツ等への送り迎えや買い物など、友達感覚でいつも一緒に行動する親子が増えてきている現場の印象からも、濃密親子と淡泊親子という関係性が生み出されている傾向が出てきていることがうかがえる。

このデータから、疎遠となる親子と、濃密な関係を維持する親子。しつけに関しても家族からすべて同様になされていない状況の一端が見えてくる。

(2) 保護者の回答（保17）

では、次に同様の質問を保護者に聞いた調査結果を検討してみたい。まず前回調査の際の保護者調査の結果が次の図21である。

図21 週末や休日買い物やレジャーにお子さんと一緒に出かける頻度
前回調査（平成19年）
(保護者の回答)

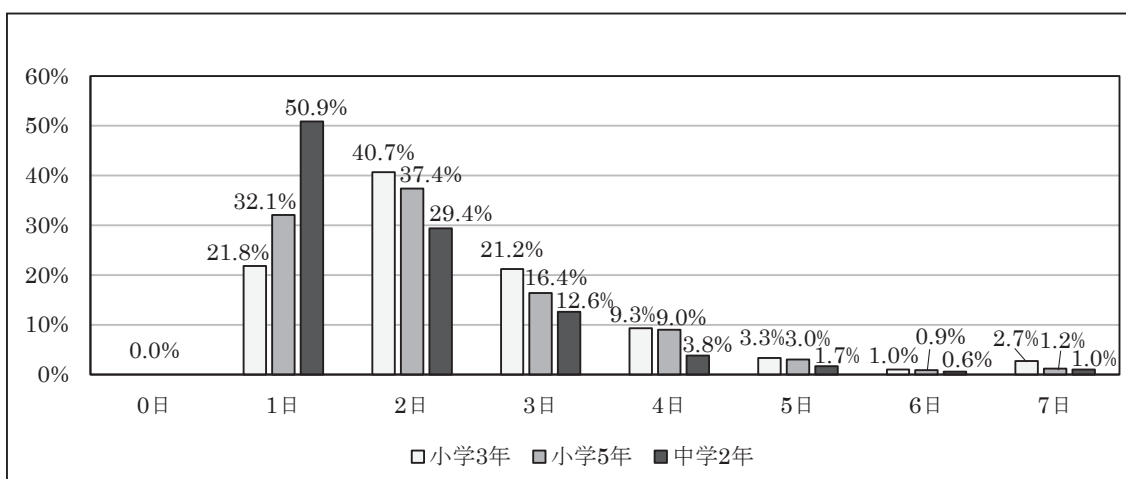


設問内容が児童生徒調査と保護者調査では異なるため、これも単純に比較はできないが、子供たちの回答に比べ全体的に同行しているという認識が高い。また、年齢が高くなるに従い同行頻度が少なくなっていることは児童生徒調査と保護者調査では同じ傾向を示していることがわかる。保護者は同行している、つまり子供たちと一緒にいると思っているが、子供たちはそうは思っていない現実と、年齢が上がるにつれて保護者と子供たちの間に距離が出てくる傾向は保護者・児童生徒共に認識していることが本調査から読み取ることができる。

では次に今回の調査を検討してみたい。児童生徒調査では、無回答のものが0日とカウントされたため、0日の頻度が高くなってしまったが、保護者調査では0日の回答は0であった。保護者は1週間のうち必ず同行したという認識を持っている。ただ、児童生徒に比べ5日～6日と回答する比率が低いことから、子供たちと保護者では、買い物や遊びの捉え方が異なっており、スポーツクラブや習い事への付き添いも一緒に遊んでいるという認識であることがうかがえる。

また、年齢が上がるにつれて同行の頻度が減少する傾向はあるが、保護者と児童生徒間の密着度はこの8年間で高まってきていると読み取ることができるであろう。

図22 先週わが子を含んで家族と一緒に買い物や遊びに何日行ったか
今回調査（平成27年）（保護者の回答）

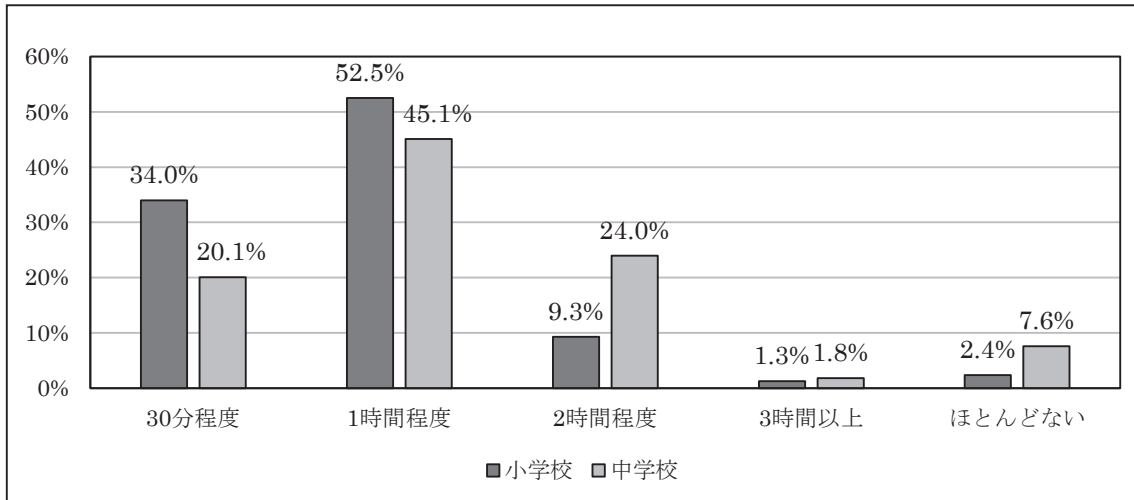


2. 家庭学習時間について

(1) 保護者の回答 (保15) (保20) (教11)

家庭での学習時間についての保護者の認識を見ると、小学校は30分から1時間程度と認識している保護者が8割以上いることを見て取ることができる。それに対して、中学校では7割程度の保護者が1時間から2時間と回答しており、小学校より中学校の子供たちが家庭学習をしている事実を示している。全国学習状況調査等の結果から家庭学習の促進が図られた結果と考えられるが、家庭で3時間以上学習する子供たちの存在や、中学校で家庭学習をほとんど行わない家庭の存在が気にかかる結果となった。

図23 保護者が認識する児童生徒の家庭学習時間



(2) 教職員の回答

では、教職員は家庭学習をどれくらい子供たちに期待しているのでしょうか。教職員が期待する家庭学習時間のグラフを見ると、小学校と中学校では大きな差が存在する。小学校では1時間以内が9割を示しており、子供たちの家族との生活の充実を損ねない範囲での家庭学習を希求しているのに対し、中学校の教職員は2時間程度の家庭学習を期待している。このことは、小学校では全教科を1人の担任教師が担当しているため、宿題等の量が期待する時間にふさわしいものとなるが、複数の教員で組織される中学校においてはそれぞれの教員が課題提出を求めるため、生徒にとって過重な家庭学習内容が課せられている可能性が否定できない。その上、中学においては小学校以上に学習塾に通う生徒も多く、部活や塾、そして家庭学習によって深夜遅くまで学習する中学生の姿が浮かびあがり、家庭教育としての「しつけ」が行われる時間も限られてくることが見えてくるのである。そして、中学校において家庭学習は必要ないとする教職員が複数いることは、中学校の教職員の内情の複雑さを表しているだろう。

図24 教職員が期待する家庭学習時間

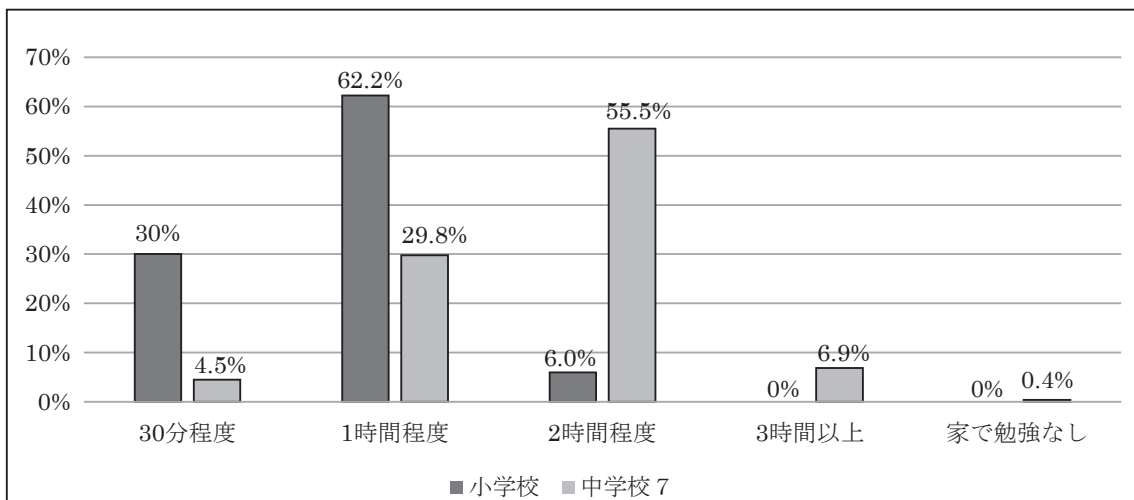
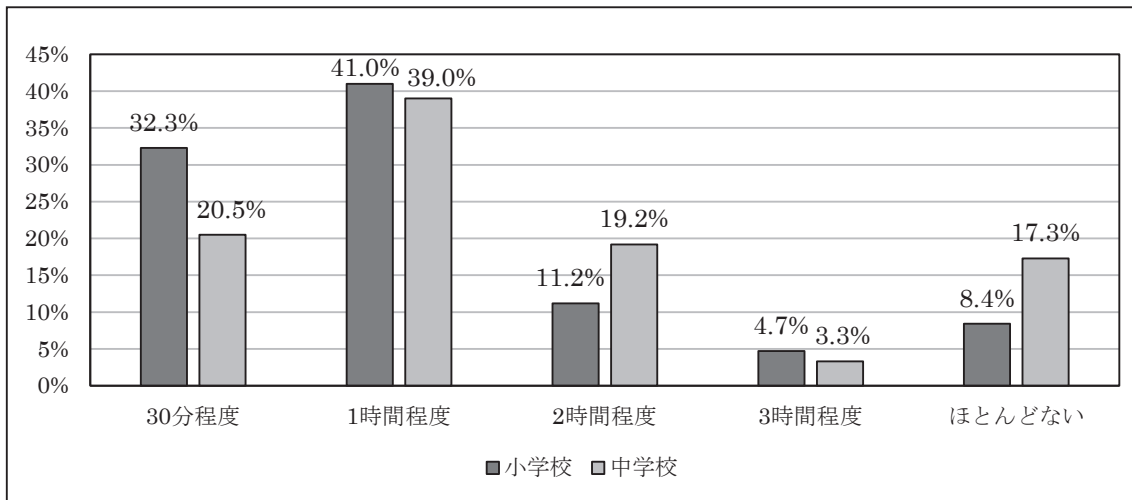


図25 児童生徒の家庭学習時間



(3) 児童生徒の回答 (15)

最後に児童生徒の家庭学習時間のグラフを見てみよう。総じて多忙な中でよく家庭学習を行っているという印象を持つ結果である。小学校で30分から1時間、中学校で1時間から2時間、学習の時間が確保されており、保護者の認識とほぼ同じ傾向を示している。ただ、ほとんどしていないと回答した児童生徒が、小学校も中学校も保護者がしていないとした数値のほぼ2倍で、保護者が児童生徒の実態をとらえられていない側面も見え隠れしている結果となった。

全体的に考察すれば、中学校の教職員が期待する3時間超えの学習時間に生徒は対応できているとは言えないが、児童生徒とも学習塾や習い事、部活等の活動をしながらか家庭学習の時間を確保している実態が見えてくる。部活が終わり5時過ぎから学習塾に通い、10時過ぎに帰宅して夕食や入浴を終えてから2時間程度の家庭学習をする中学生たちは、はたして保護者からどの程度の家庭教育を受けることができているのだろうか。ここからも日本の「しつけ」に関しての学校教育に期待する側面が大きいことがうかがえる。

最後に気になるのはやはり、家庭学習の時間が「ほとんどない」と回答した児童生徒の比率である。保護者が「ほとんどない」と回答した比率のおよそ2倍が、自分では家庭学習ができていないと認識している状況は何を指し示すのであろうか。そこには、単に勉強嫌いで家庭学習を苦手としている子が存在している他に、自分ではもっと家庭学習を充実したいと想いながらも、貧困や離婚、また苦しい家庭環境によって十分家庭学習を確保することができない児童生徒が存在していることを示していると読み取ることができないだろうか。家庭学習がしたくてもできない子供たちにどう手を差し伸べていけるかが新たな課題として浮かび上がってきている。

(栗原 幸正)

第7章 児童生徒の情報通信端末との関わり

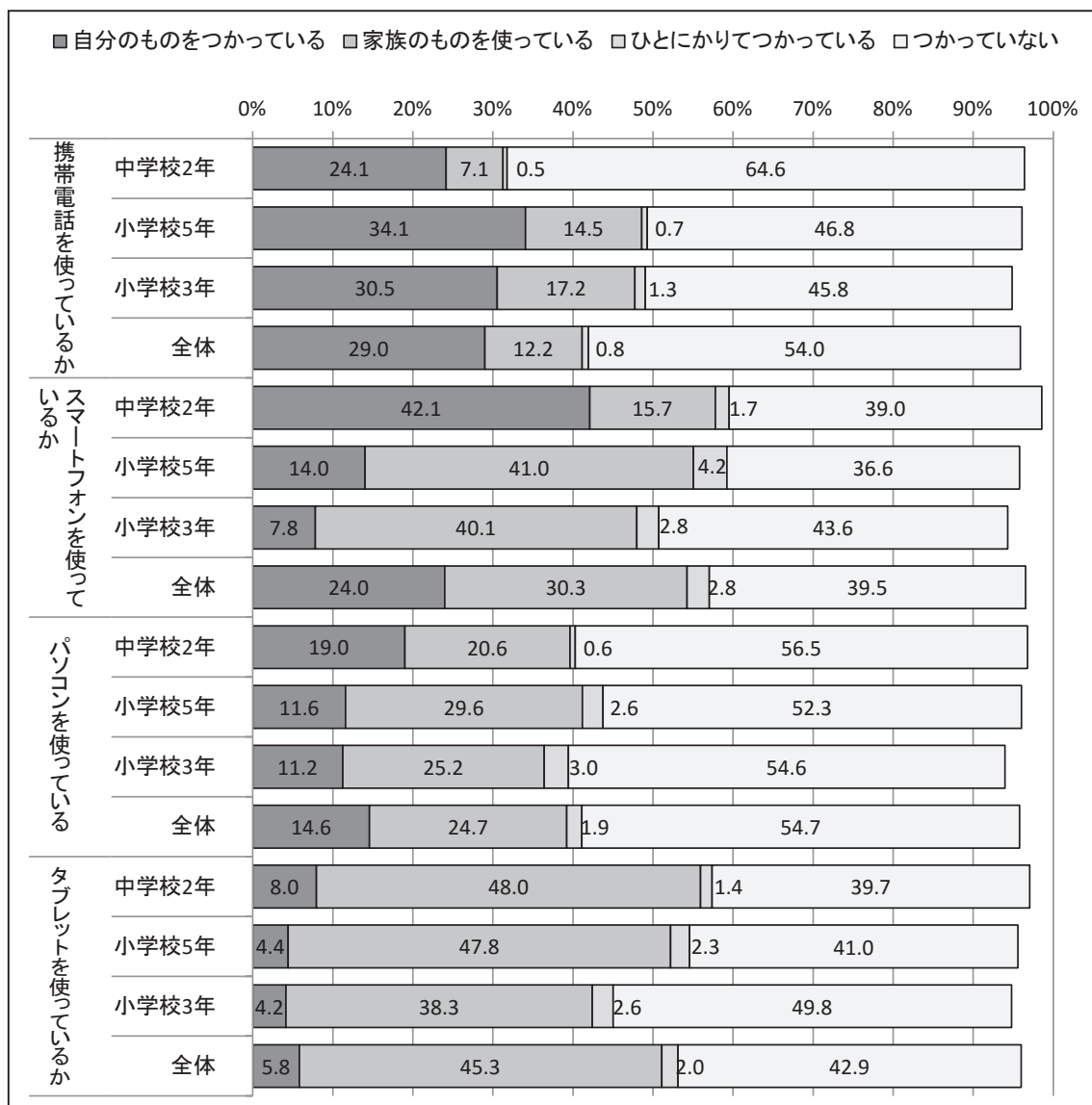
1. 児童・生徒の情報通信端末の使用状況 (16) (17)

児童・生徒の情報通信端末の使用状況について回答を求めた質問群の結果を見てみよう。

携帯電話・スマートフォン・タブレット・パソコンの4項目について、「自分のものをつかっている」・「家族のものを使っている」・「ひとにかりてつかっている」・「つかっていない」の4肢択一で回答を求めた (図26)。

全体的に、学年が上がるに使用率が高くなっている。「自分のものをつかっている」に焦点を当ててみると、スマートフォンは小学校3年生→5年生→中学校2年生の順に、7.8%→14.0%→42.1%と増加し、小学生と中学生の間に顕著な差が見られた。タブレットで「自分のものをつかっている」は、それぞれ11.2%→11.6%→19.0%、パソコンは4.2%→4.4%→8.0%だった。これに対し、携帯電話は例外的に30.5%→34.1%→24.1%と推移し、小学校5年生から中学校2年生で使用率が減少した。これらの傾向は、「家族

図26 児童・生徒の情報通信端末の使用状況

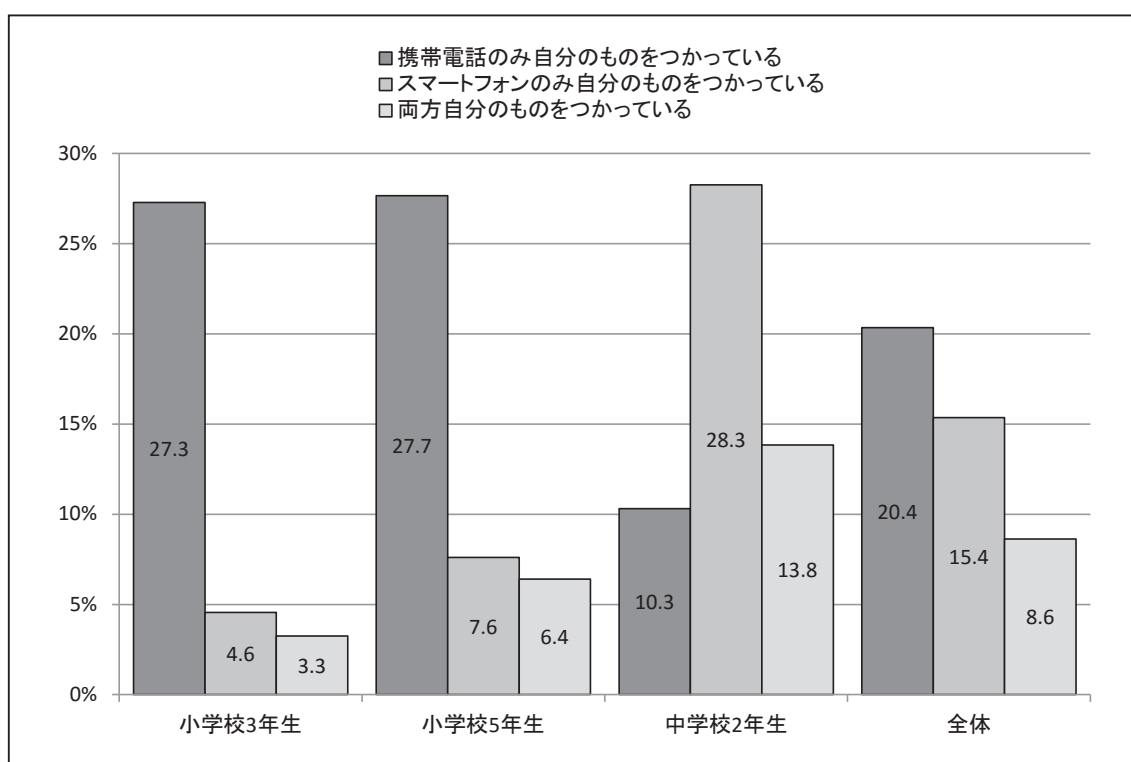


のものをつかっている」「ひとにかりてつかっている」を含めても同様であった。ここからは、中学生になって、自らの端末を携帯電話からスマートフォンに持ち替える、またはスマートフォンを追加する傾向にあることが示唆される。

このことを示すため、追加的に、携帯電話の使用とスマートフォンの使用とをクロスした。その結果が図27である。

携帯電話のみ、自分のものをつかっている割合は、小学校3年生・5年生とも、27%程度だったのに対し、中学校2年生では10%程度に下落している。スマートフォンのみ、自分のものをつかっている割合は、小学校3年生・5年生で1割未満だったが、中学校2年生では3割弱に至る。さらに、両方自分のものをつかっている割合は一貫して増加し、中学校2年生では13.8%となった。

図27 携帯電話とスマートフォンの使用状況



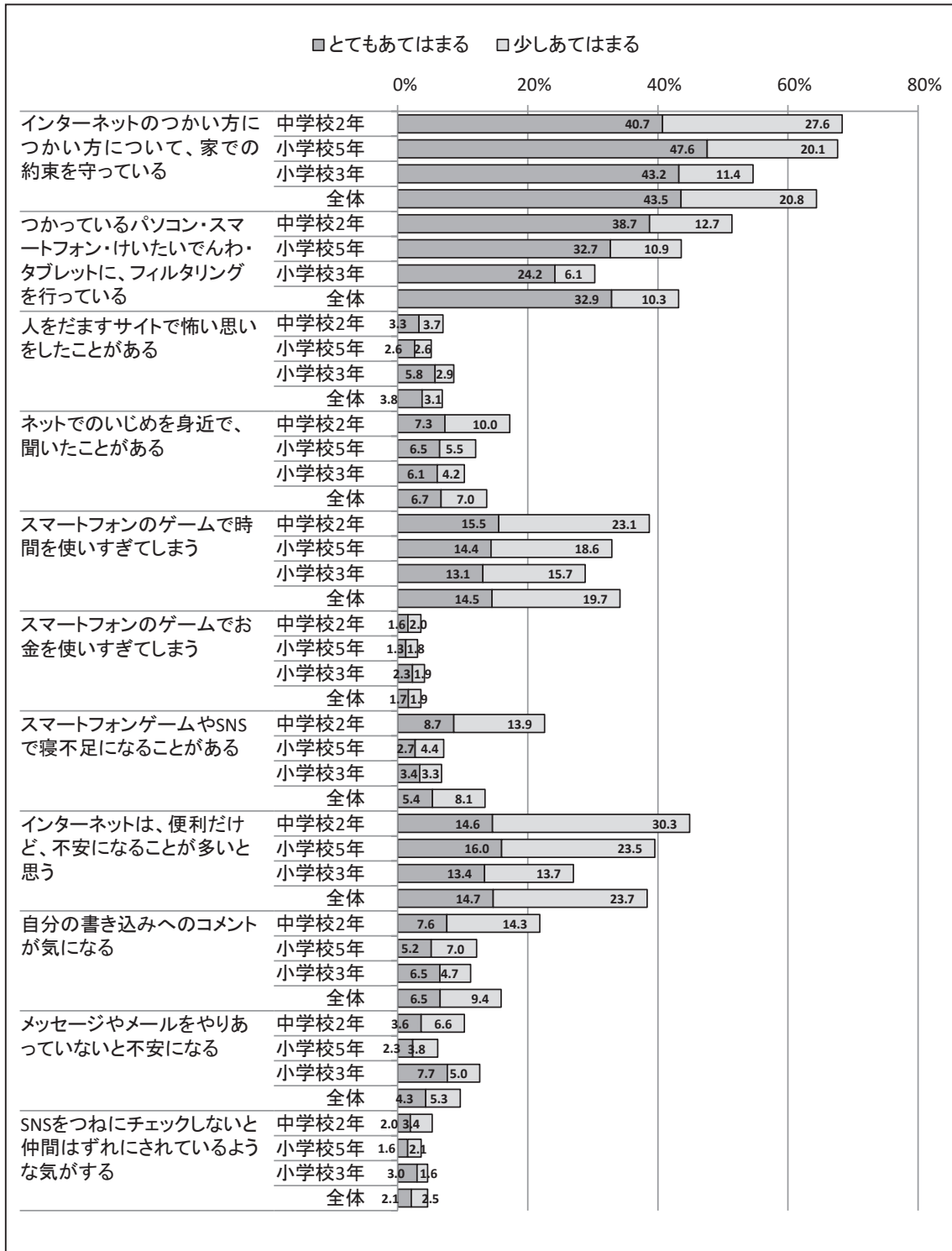
※「携帯電話のみ自分のものをつかっている」とは、携帯電話に関する設問では「自分のものをつかっている」と答え、スマートフォンに関する設問ではそれ以外の回答をした児童・生徒の割合を示す。「スマートフォンのみ自分のものをつかっている」とは、逆に、スマートフォンに関する設問では「自分のものをつかっている」と答え、携帯電話に関する設問ではそれ以外の回答をした児童・生徒の割合を示す。「両方自分のものをつかっている」とは、両方の設問で「自分のものをつかっている」と回答した児童・生徒の割合を示す。なお、2つの設問のうち片方だけ無回答のもの、両方とも無回答のものが混在する関係で、数値の和が図3と一致しない場合がある。

2. 児童・生徒自身のインターネット・SNS・スマートフォンとの関わりとそれへの意見

児童・生徒自身のインターネット・SNS・スマートフォンとの関わりとそれへの意見について回答を求めた質問群の結果を見てみよう（図28）。

「インターネットのつかい方について、家での約束を守っている」について「とてもあてはまる」は43.5%、「少しあてはまる」は20.8%で、合わせて64.3%であった。「つかっているパソコン・スマートフォン・けいたいでんわ・タブレットに、フィルタリングを行

図28 児童生徒の情報通信端末使用に対する認識（児童生徒の回答）

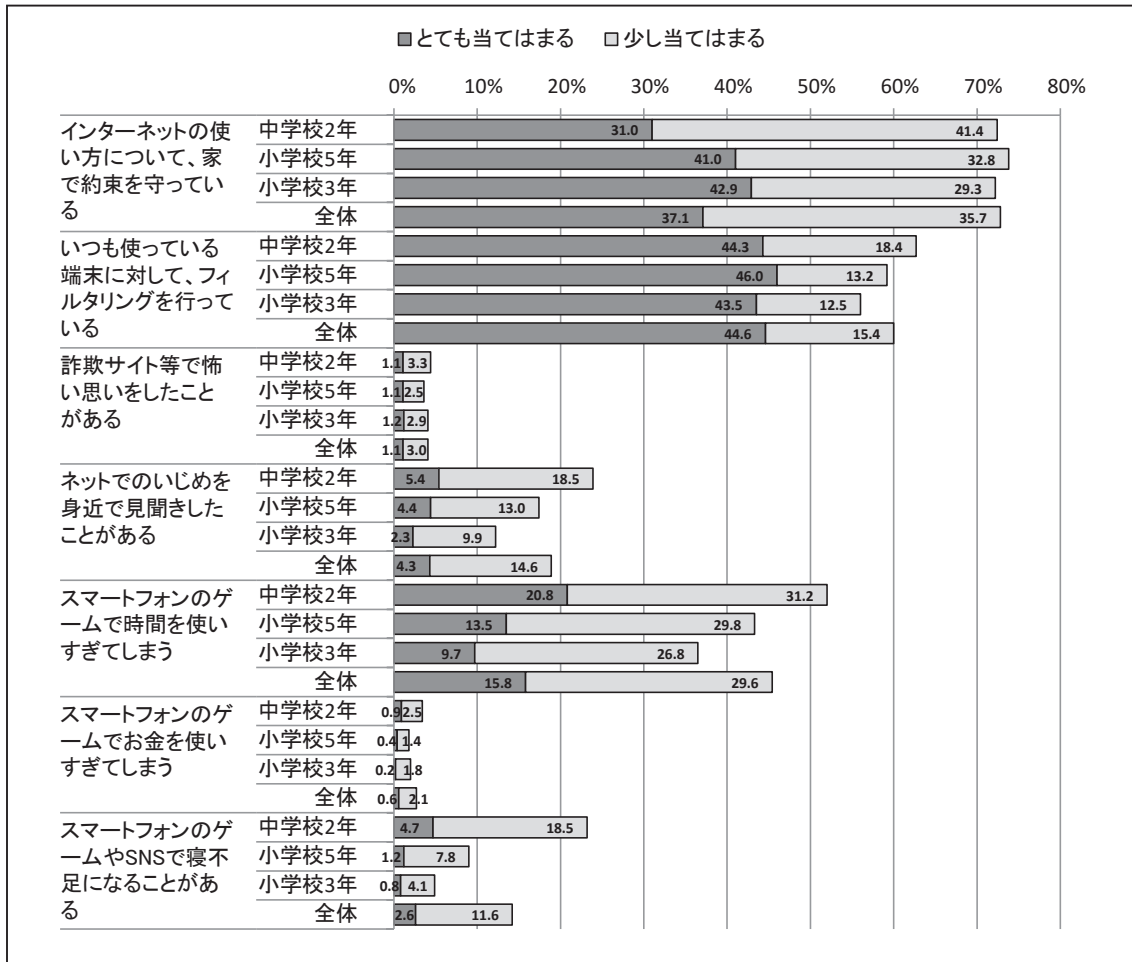


っている」は、それぞれ 32.9%、10.3% で、合わせて 43.2% であった。また「スマートフォンのゲームで時間を使いすぎてしまう」については、それぞれ 14.5%、19.7% で、合わせて 34.2% であった。

3. 保護者から見た子どものインターネット・SNS・スマートフォン等との関わり(保15)

わが子のインターネット・SNS・スマートフォン等との関わりについて保護者に回答を

図29 わが子の情報通信端末の使用に対する認識（保護者の回答）

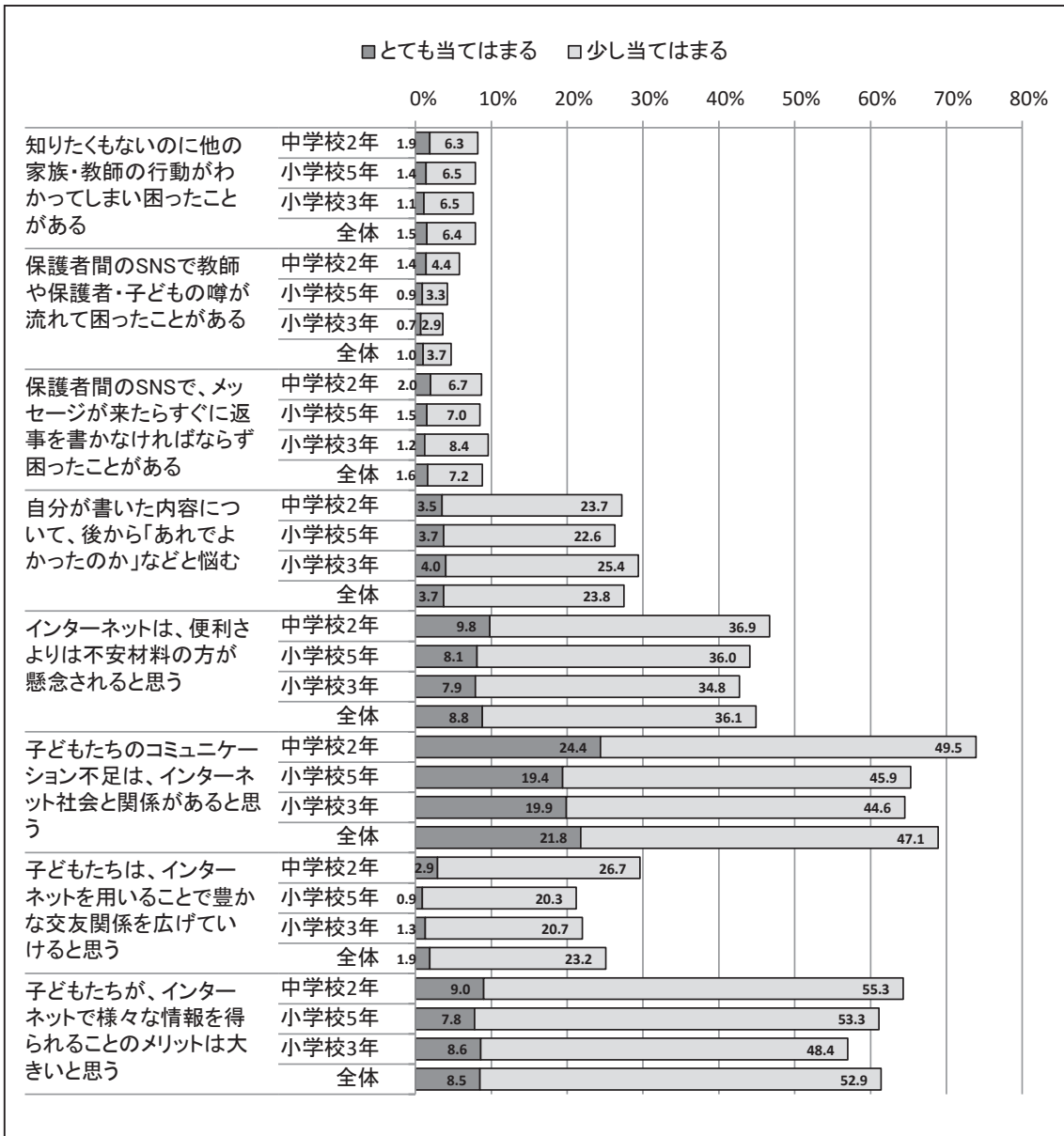


求めた質問群の結果を見てみよう。「とても当てはまる」・「少し当てはまる」との回答（肯定的回答）の割合を図29に示した。（なお、この数字は、無回答も含めて集計した時のパーセンテージを示す。端末を持っていなかったり、インターネットを使用していない場合等は無回答にカウントされた後の数字である）。

肯定的回答が高かった項目を順に挙げると、「インターネットの使い方について、家で約束を守っている」について、「とても当てはまる」が全体で37.1%、「少し当てはまる」が35.7%で、肯定的回答が7割を超えた（計72.8%）。次いで、「いつも使っている端末に対して、フィルタリングを行っている」については、「とても当てはまる」が全体で44.6%、「少し当てはまる」が15.4%で、肯定的回答が6割だった（計60.0%）。第3位は「スマートフォンのゲームで時間を使いすぎてしまう」で、「とても当てはまる」が全体で15.8%、「少し当てはまる」が29.6%で、肯定的回答は4割超となった（計45.4%）。

全体的に、学年が高いほど、肯定的回答が高い傾向にある。これは、端末を持っていない、または使わせていない場合は無回答となるため、学年が低い児童・生徒の保護者の多くが無回答に至ったことが背景にあると考えられる。ただ、「とても当てはまる」のみに着目すると、「インターネットの使い方について、家で約束を守っている」「いつも使っている端末に対して、フィルタリングを行っている」等は学年が高いほど「とても当てはまる」の割合が低くなる。

図30 保護者自身の情報通信端末使用に対する問題意識



4. 保護者自身のインターネット・SNS・スマートフォン等との関わり・意見（保16）

次に、保護者自身のインターネット・SNS・スマートフォン等との関わりやそれへの意見について回答を求めた質問群の結果を見てみよう。「とても当てはまる」・「少し当てはまる」との回答（肯定的回答の割合を図30に示した）。

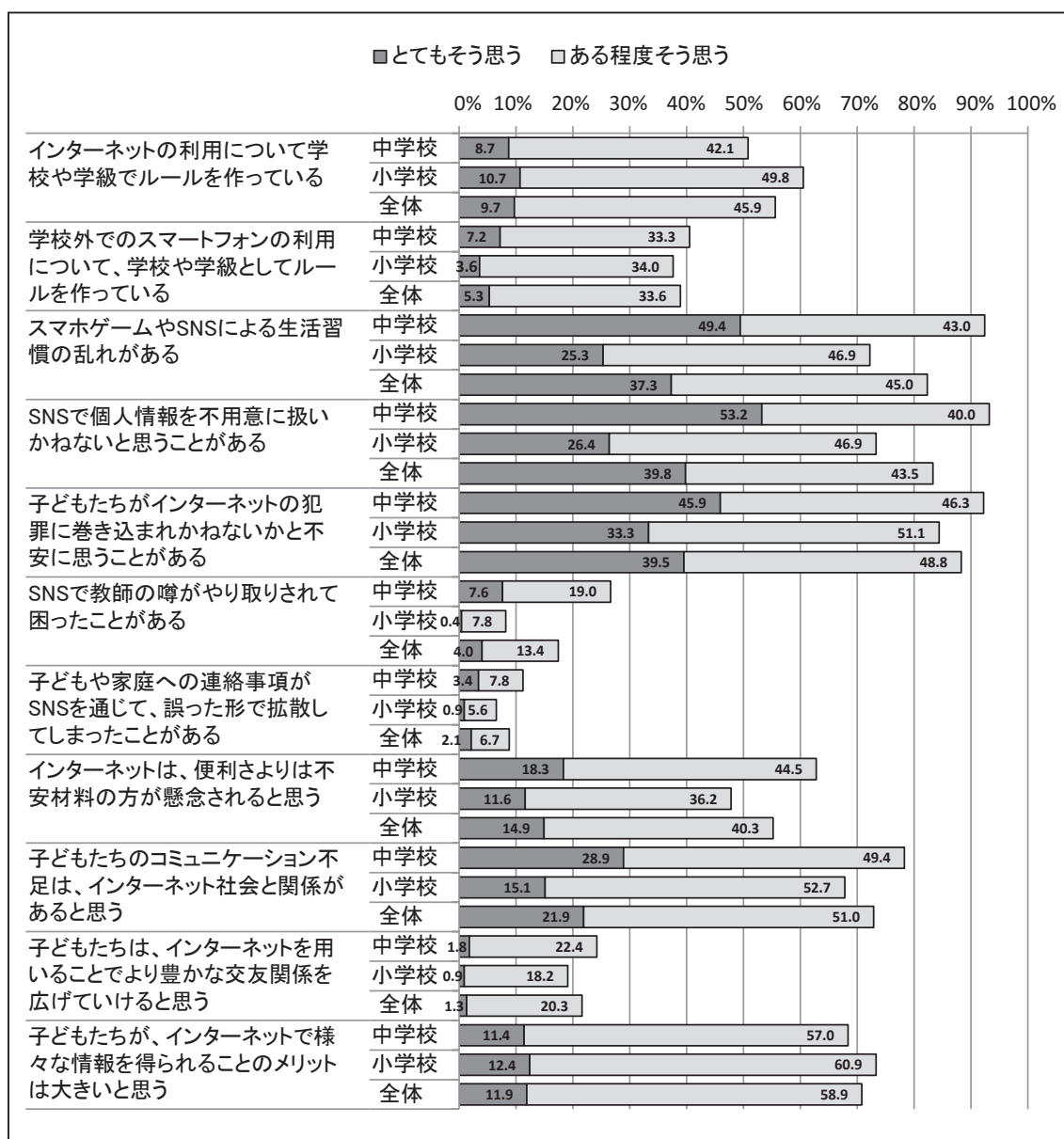
最も肯定的回答が多かったのは、「子どもたちのコミュニケーション不足は、インターネット社会と関係があると思う」で、「とても当てはまる」が21.8%、「少し当てはまる」が47.1%と、合計すると7割弱となった（計69.9%）。これに次ぐのが「子どもたちが、インターネットで様々な情報を得られることのメリットは大きいと思う」で、「とても当てはまる」が8.5%、「少し当てはまる」が52.9%と、6割強だった（計61.4%）。第3位は「インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念されると思う」で、それぞれ8.8%と36.1%で、肯定的回答は4割強だった（計34.9%）。子どものインターネット利用の功罪が同程度に認識されている状況だった。

他方、自らのインターネットや SNS 経験に関する設問は「知りたくもないのに他の家族・教師の行動がわかってしまい困ったことがある」・「保護者間の SNS で教師や保護者・子どもの噂が流れて困ったことがある」・「保護者間の SNS で、メッセージが来たらずくに返事を書かなければならず困ったことがある」・「自分が書いた内容について、後から『あれでよかったのか』などと悩む」という 4 項目用意した。この中で最も肯定的回答が高かったのは、「自分が書いた内容について、後から『あれでよかったのか』などと悩む」で、「とても当てはまる」3.7%、「少し当てはまる」が 27.8% で、3 割強がこれを認識している（計 31.5%）。

5. 教員から見た児童生徒のインターネット・SNS・スマートフォン等との関わりとそれへの意見（教員）

児童生徒のインターネット・SNS・スマートフォン等との関わりと、それへの自身の意

図31 児童生徒の情報通信端末使用に対する認識（教員の回答）



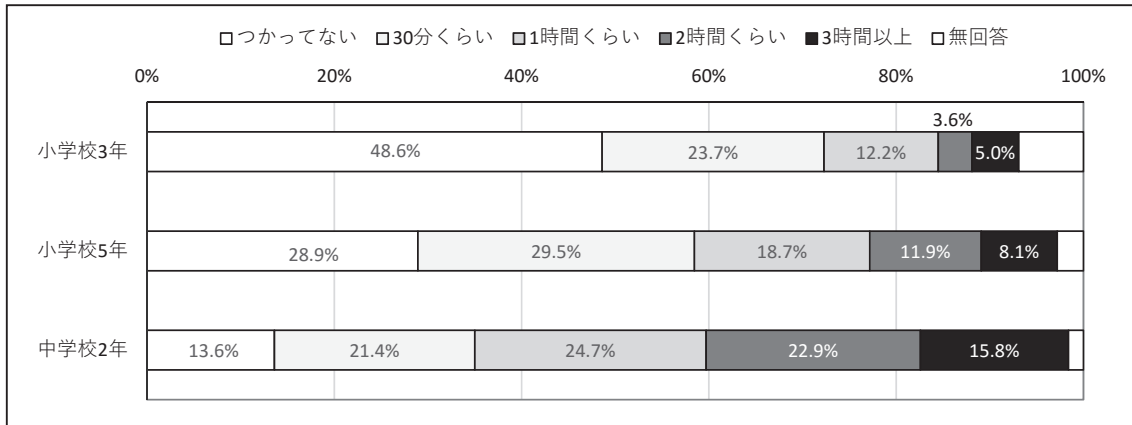
見について教員に回答を求めた質問群の結果を見てみよう。「とてもそう思う」・「ある程度そう思う」との回答（肯定的回答）の割合を図31に示した。

肯定的回答が高かった項目を順に挙げると、「子どもたちがインターネットの犯罪に巻き込まれかねないかと不安に思うことがある」が最も多く、「とてもそう思う」が39.5%、「ある程度そう思う」が48.8%で、両方合わせて9割弱となった（計88.3%）。ほぼおなじ割合でこれに次ぐのが、「SNSで個人情報を用意に扱いかねないと思うことがある」で、それぞれ39.8%と43.5%（計83.3%）だった。第3位は「スマホゲームやSNSによる生活習慣の乱れがある」で、それぞれ37.3%と45.0%（計82.3%）だった。これらについては、概して、中学校教員の方が、小学校教員より割合が高く、インターネットやスマートフォン等の利用の在り方が中学校の生徒指導上の課題として高まっていることを示唆している。

児童・生徒のインターネット等の利用への意見に関する設問では「子どもたちのコミュニケーション不足は、インターネット社会と関係があると思う」が最も肯定的回答が多く、「とてもそう思う」が21.9%、「ある程度そう思う」が51.0%で、合計すると7割強となった（計72.9%）。ほぼおなじ水準でこれに次ぐのが「子どもたちが、インターネットで様々な情報を得られることのメリットは大きいと思う」で、それぞれ11.9%、58.9%だった（計70.8%）。第3位は「インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念されると思う」で、それぞれ14.9%、40.3%だった（計55.2%）。保護者調査と同様、功罪両面の認識が高かった。

6. 児童生徒のインターネット利用時間 (18)

図32 児童生徒のインターネット利用時間（1日の時間）



児童生徒の1日あたりのインターネット利用時間について、図32の凡例に記した選択肢から回答を求めたところ、「つかっていない」（全体の数値）は小学3年生48.6%、小学5年生28.9%、中学2年生13.6%となり、学年進行と共に未使用者が減少傾向にある。これとは対象的に「1時間くらい」～「3時間以上」は小学3年5.0%、小学5年8.1%、中学2年15.8%となり、学年進行と共に数値が高くなっていく。換言すれば、利用率は小学3年約5割、小学5年約7割、中学2年8割強ということになる。

（仲田 康一）

保護者調査

1. 保護者の属性

(1) 性別と児童生徒との関係 (F1) (F2)

保護者調査の分析対象は、性別では「男性」281人(7.9%)、「女性」3,269人(91.8%)となり、児童生徒との関係では「母親」(90.9%)、「父親」(7.6%)、「祖父」(0.03%)、「祖母」(0.6%)、「その他」(0.4%)となり、女性・母親の数が圧倒的に多い。

表1 保護者等の性別と児童生徒との関係

		母親	父親	祖父	祖母	その他	無回答	合計
男性	度数	13	259	1	0	7	1	281
	%	4.6%	92.2%	0.4%	0.0%	2.5%	0.4%	100.0%
女性	度数	3238	0	0	20	9	2	3269
	%	99.1%	0.0%	0.0%	0.6%	0.3%	0.1%	100.0%
無回答	度数	0	0	0	1	0	11	12
	%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	91.7%	100.0%
全体	度数	3251	259	1	21	16	14	3562
	%	91.3%	7.3%	0.0%	0.6%	0.4%	0.4%	100.0%

(2) 性別と年代 (F3)

保護者等の性別と年代は、男性に「50歳代」(男性16.0%・女性5.4%)が相対的に多く、女性には「30歳代」(男性20.3%・女性30.2%)と「40歳代」(男性59.1%・女性63.1%)が多い。全体的に男性の年代が女性よりも若干高い傾向にある。

表2 保護者等の性別と年代

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	無回答	合計
男性	度数	5	57	166	45	8	0	281
	%	1.8%	20.3%	59.1%	16.0%	2.8%	0.0%	100.0%
女性	度数	30	986	2062	176	13	2	3269
	%	0.9%	30.2%	63.1%	5.4%	0.4%	0.1%	100.0%
無回答	度数	0	0	0	0	1	11	12
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	91.7%	100.0%
全体	度数	35	1043	2228	221	22	13	3562
	%	1.0%	29.3%	62.5%	6.2%	0.6%	0.4%	100.0%

(3) 職業等 (F5)

職業等は、「全体」で「専業主婦」(59.3%)が最も多く、次いで「民間企業勤務」(18.4%)となる。その他職業等は10%未満となり、広い分野にわたっている。性別では、男性に「民間企業勤務」が多く(男性52.0%)、女性に「専業主婦」(男性5.3%・女性64.1%)が多い。「専門職」「自営」の男性比率は高いが、度数は女性よりも少ないので、回答結果には男性のこれら職業が強く影響していることにはならない。

表3 性別と職業等

		専業主婦(パート等含む)	民間企業勤務	公務員(教員以外)	専門職・教員	自営(農業等含む)	会社経営	その他	無回答	合計
男性	度数[人]	15	146	19	41	32	11	13	4	281
	%	5.3%	52.0%	6.8%	14.6%	11.4%	3.9%	4.6%	1.4%	100.0%
女性	度数[人]	2097	511	89	298	130	25	105	14	3269
	%	64.1%	15.6%	2.7%	9.1%	4.0%	0.8%	3.2%	0.4%	100.0%
無回答	度数[人]	1	0	0	0	0	0	0	11	12
	%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	91.7%	100.0%
全体	度数[人]	2113	657	108	339	162	36	118	29	3562
	%	59.3%	18.4%	3.0%	9.5%	4.5%	1.0%	3.3%	0.8%	100.0%

(4) 性別とPTA等の役員経験の有無 (F7)

PTA等の役員経験の有無を見ると、「全体」では、「現在、役員である」26.5%、「過去に役員経験有り」47.6%、「役員経験はない」25.0%となり、「過去」が半数近くを占めている。性別では、男性に「役員経験はない」が多く(男性58.7%・女性22.2%)、女性に「過去」が多い結果(男性24.6%・女性49.8%)となった。

表4 性別とPTA等の役員経験の有無

		現在、役員である	過去に役員経験有り	役員経験はない	無回答	合計
男性	度数	45	69	165	2	281
	%	16.0%	24.6%	58.7%	0.7%	100.0%
女性	度数	900	1627	726	16	3269
	%	27.5%	49.8%	22.2%	0.5%	100.0%
無回答	度数	0	1	0	11	12
	%	0.0%	8.30%	0.0%	91.7%	100.0%
全体	度数	945	1697	891	29	3562
	%	26.5%	47.6%	25.0%	0.8%	100.0%

(5) 保護者の校外活動の所属状況 (I)

保護者自身の校外活動の所属状況は、「全体」では「所属している」(サークル活動等)36.5%、「以前所属していた」20.2%、「所属していない」42.6%となる(表5)。

性別では著しい違いがなかった。

表5 性別と校外活動所属の有無

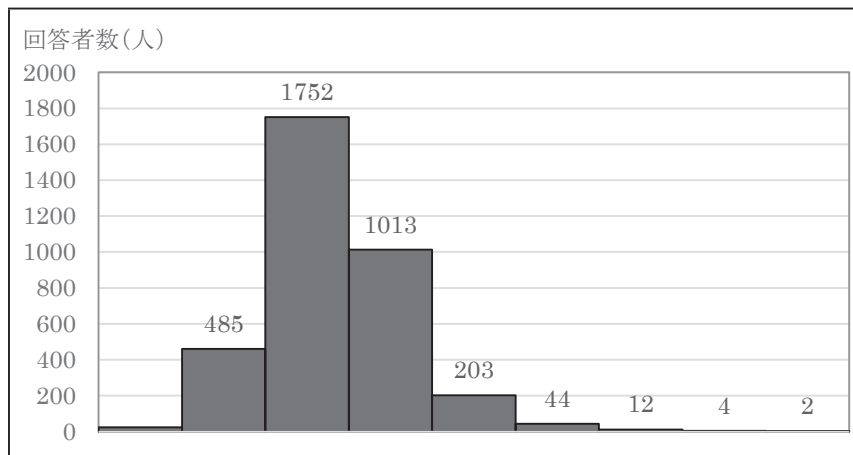
		1-3. 校外活動				合計
		所属している	以前所属していた	所属したことがない	無回答	
F1. 性別	男性	度数 107	57	117	0	281
	%	38.1%	20.3%	41.6%	0.0%	100.0%
女性	度数 1193	650	1396	30	3269	
	%	36.5%	19.9%	42.7%	0.9%	100.0%
無回答	度数 1	4	3	4	12	
	%	8.3%	33.3%	25.0%	33.3%	100.0%
全体	度数 1301	711	1516	34	3562	
	%	36.5%	20.0%	42.6%	1.0%	100.0%

2. わが子の実態

(1) わが子の数 (F4)

わが子の数は、全体平均で2.32人となり、その数の分布をヒストグラムで表すと図1のようになる。「2人(兄弟姉妹)」が最も多く(49.8%、1,752人)、次いで「3人」(1,013人、28.8%)となる。「1人」(一人っ子)は485人(13.8%)と少なかった。

図1 わが子の数



(2) わが子の学年と家族形態 (F6)

このアンケートを持参した児童生徒の学年(表6)は、「小学校3年生」22.5%(909人)、「小学校5年生」28.9%(1029人)、「中学校2年生」44.4%(1547人)である。家族形態を見ると、「全体」では「子どもとのみ同居」という核家族が72.5%と最も多く、次いで「子どもの祖父母と同居」の3世代家族が22.3%となる。これらの家族形態が約94%を占めている。

なお、学年別に見ると、中学2年生では「子どもとのみ同居」が若干少なく、「祖父母と同居」が多いほかはほとんど違いがなかった。

表6 学年と家族形態

		子どもと のみ生活	子どもの祖 父母と同居 (いずれか も含む)	親戚と同 居	その他	無回答	合計
小学校3 年生	度数	697	168	4	33	7	909
	%	76.7%	18.5%	0.4%	3.6%	0.8%	100.0%
小学校5 年生	度数	776	206	1	38	8	1029
	%	75.4%	20.0%	0.1%	3.7%	0.8%	100.0%
中学校2 年生	度数	1053	403	6	72	13	1547
	%	68.1%	26.1%	0.4%	4.7%	0.8%	100.0%
全体	度数	2526	777	11	143	28	3485
	%	72.5%	22.3%	0.3%	4.1%	0.8%	100.0%

(3) アンケートを持参したわが子の兄弟姉妹の位置付け (I)

アンケートを持参したわが子の兄弟姉妹での位置付けを見ると(表7)、「全体」では「第一子」(男子26.2%、女子25.2%)、「末っ子」(男子17.2%、女子16.9%)、「その他」(男子7.7%、女子6.5%)となる。一人っ子を含むため、「第一子」が最も多くなっている。性別による違いは見られなかった。

学年別では数値差がなかった。

表7 学年とアンケートを持参したお子さんのきょうだいで的位置づけ

		アンケートを持参したお子さんのきょうだいで的位置づけ						無回答	合計	
		第一子	第一子	末っ子	末っ子	その他	その他			
		(男)※	(女)※	(男)	(女)	(男)	(女)			
小学校3 年生	度数	239	223	159	160	65	62	1	909	
	%	26.3%	24.5%	17.5%	17.6%	7.2%	6.8%	0.1%	100.0%	
1-2. 学年	小学校5 年生	度数	275	250	177	173	86	63	5	1029
	%	26.7%	24.3%	17.2%	16.8%	8.4%	6.1%	0.5%	100.0%	
中学校2 年生	度数	398	404	265	256	117	103	4	1547	
	%	25.7%	26.1%	17.1%	16.5%	7.6%	6.7%	0.3%	100.0%	
全体	度数	912	877	601	589	268	228	10	3485	
	%	26.2%	25.2%	17.2%	16.9%	7.7%	6.5%	0.3%	100.0%	

※1人の場合も含む

(佐藤 晴雄)

第8章 しつけに対する保護者の意識と実態

「しつけ」に関する意識と態度 ―しつけの役割分担意識 (2[3])

しつけをどこが行うべきか、また実際にどこで行われているかについて保護者の考えを尋ねた結果は図2に示すとおりである。

(1) しつけを行うべき主体

調査では「しつけ」の具体的な内容ともいえる14の項目について、「家庭」、「学校」、「地域（子どもの団体、近所のおとな）」のうち主にどこで行うべきかについて尋ねた。

まず全体としての結果は、14項目中、主に「家庭が行うべき」と考える保護者が90%を超えるのは「早寝早起きなどのしつけ」(99.8%)、「食事の仕方や手洗いなどの習慣づけ」(99.3%)、「あいさつや謝りの仕方を身につけさせる」(97.6%)、「欲しい物やしたいことでも我慢する態度」(97.5%)、「善悪のけじめ」(95.0%)の5項目である。次いで、「人間としての生き方を教える」(83.7%)、「他人の気持ちや立場を思いやる」(77.7%)、前回調査では選択肢になかった「危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う」(75.7%)、「働くことの大切さ」(73.9%)がいずれも70%を超える高い割合を占める。

一方、「学校が行うべき」と考える保護者が半数を超えるのは、唯一「他の人たちと協力し合う姿勢」(68.5%)のみであり、これに続くのは「いじめをしないなどの正義感を養う」(36.1%)、「地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う」(32.1%)で共に3割台にとどまる。

また、「地域で行うべき」が最も高率を占めるのは「自分の住んでいる地域を大切にす
る気持ちを教える」(29.8%)であり、これに続くのが「地域社会や他人に積極的に貢献
しようとする態度を養う」(17.4%)であり、この他はいずれも5%に満たない低率である。

このような結果をみると、全体として「しつけ」は家庭の責任と考える保護者が圧倒的に多く、とりわけ「早寝早起き」や「食事の仕方や手洗い」、「あいさつや謝り方」など日常における基本的な生活習慣についてはそうした思いが強いようである。

これまで見てきた結果を、「危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う」を除く13項目から選択してもらった前回調査の結果と比較してみると、家庭で行うべきとした上位5項目は全く同じであり、それらのすべてが90%台の高率を占めることも全く同じである。

一方、学校が行うべきことについても、前回調査で半数を超えていたのは「他の人たちと協力し合う」(70.7%)のみであつたことと同様の結果である。

ただし、「地域で行うべき」が最も高率を占めたのが「自分の住んでいる地域を大切に
する気持ちを教える」である点は同じものの、前回調査ではその割合が42.5%と半数近く、
これに続く「地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う」も30.3%を占めて
いた点は注目すべき差異と思われる。つまり、保護者の地域による子どもの教育力に対す
る期待が減退しているのかもしれない。

(2) 実際にしつけを行っている主体

調査では、保護者が①で前述した「しつけ」の具体的な内容である14項目について、実際には主としてどこで行われていると考えているかについても尋ねた。

その結果によれば、実際にしつけを行っているのは「主に家庭」と考える保護者が90%を超えるのは、「早寝早起きなどをしつける」(95.0%)、「食事の仕方や手洗いなどの習慣を身に付けさせる」(93.6%)、「欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う」(91.9%)の3項目にとどまる。ただし、「挨拶や謝りの仕方を身に付けさせる」(85.1%)、「善悪のけじめをつけさせる」(85.3%)の2項目が8割を超え、さらに「人間としての『生き方』を教える」(74.9%)が7割を超える。

こうしてみると、「早寝早起きなどをしつける」や「食事の仕方や手洗いの習慣を身に付けさせる」に代表される基礎的な生活習慣に関するしつけは「主に家庭で」担うべきだと考える保護者が圧倒的に多いことは前述したが、こうした項目に関するしつけは実際にも主に家庭で行われていると考えている保護者が極めて多い。

一方で、実際にしつけを行っているのは「主に学校」と考える保護者が、「主に家庭」を上回るのは「他の人たちと協力し合う姿勢を養う」(70.6%)、「地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う」(41.8%)の2項目のみである。

また、「主に地域」は総じて低率であり、最も高率を占めるのが「自分の住んでいる地域を大切にする気持ちを培う」(16.8%)であり、次いで「地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う」(12.1%)となっており、他の項目はすべて5%にも満たない。

さらに、主に「家庭で」の占める割合等を細かく分析すると、全項目で「実際に行っている主体」の占める割合が「行うべき主体」の占める割合を下回っており、特に「他人の気持ちや立場を思いやる」(-15.3%)、「あいさつや謝りの仕方」(-11.9%)、「危険な遊びや不審者に注意するよう促す」(-11.3%)、「いじめをしないなどの正義感」(-10.0%)が共に10%以上も下回っており、「行うべきこと」が思い通りに行われていないと考えている保護者が多いらしいことは興味深い。

これまで述べた結果を前回調査と比較すると、「主に家庭で行っている」とする保護者が9割を超えるのは「早寝早起きなどをしつける」(98.2%)や「食事の仕方や手洗いの習慣づけ」(94.7%)、「欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う」(93.2%)の3項目であり、ついで「善悪のけじめをつけさせる」(85.2%)と「挨拶の仕方を身に付けさせる」(83.9%)、の2項目が8割を超え、さらに「人間としての『生き方』を教える」(70.9%)が7割を超え、ほぼ同じであった。

一方で、「主に学校」が半数を超えるのは「他人と協力」(76.4%)の1項目にとどまること、「主に地域」は「自分の住んでいる地域を大切にする気持ちを培う」(21.0%)と「地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う」(13.4%)が共に今回の調査で占める割合を上回っていることが相違点である。

(3) 保護者の属性別に見たしつけを行うべき主体と実際に行っている主体

(1)(2)で前述した傾向を保護者の年代、父か母か、子どもの学年別で分析すると次のようなことが明らかになった。

しつけを行うべき主体について保護者の年代別の相違をみると、まず20歳台の際だっ

た違いが目立つ。すなわち、20歳台ではしつけを行うべき主体について「早寝早起きなどのしつけ」を除く全項目で「主に家庭」の割合が全体平均を下回り、逆に「主に学校」が全体平均を上回り、家庭の役割意識が後退し学校依存意識が鮮明である。特に、「地域社会や他人に積極的に貢献しようとする意識を養う」が全体平均を20%強上回っているほか、「挨拶や謝りの仕方を身に付けさせる」、「いじめをしないなどの正義感を養う」、「働くことの大切さを教える」、「社会のルールを教える」、「人間としての生き方を教える」、「自分で住んでいる地域を大切にする気持ちを培う」、「危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う」などでも全体平均を10%以上上回っている。

30歳台でも項目によっては学校依存意識の強さをうかがわせるが、20歳台ほど強烈ではない。

一方で、40歳台より上の年代では逆に、「学校に頼るのではなく、まず家庭で」との意識が強いことをうかがわせる項目が多くなっている。

なお、60歳台では、「自分の住んでいる地域を大切にする気持ちを培う」と「危険な遊びや不審者に注意するよう促す」については「主に地域」の割合が全体平均値を下回り、逆に「主に家庭」が平均値を10%強上回っていることに注目しておきたい。

次に、実際にしつけを行っている主体について保護者の年代別でみることにしたい。

最も目に付くことは、60歳台以上ではしつけ内容の多くの項目で「主に家庭で」、「学校で」が共に平均値を下回り、「あまり行われていない」の項目が全体平均値を上回ることである。一方で、60歳台以上では、「いじめをしないなどの正義感を養う」、「働くことの大切さを教える」、「自分の住んでいる地域を大切にする気持ちを培う」、「危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う」の各項目では「主に家庭で」が全体平均値をかなり上回っていることは興味深い。

また、20歳台では、「早寝早起きなどをしつける」と「食事の仕方や手洗いなどの習慣を身に付けさせる」を除くほとんどの項目で、「主に家庭」が全体平均値を下回り、それがストレートに「主に学校」につながっているとも思われないことに注目する必要がある。

この結果は、この年代層における保護者の「自分の家庭では十分できていない」との自信のなさの表れであるとともに、社会全体における家庭教育の現状認識をも示すものであろうか。

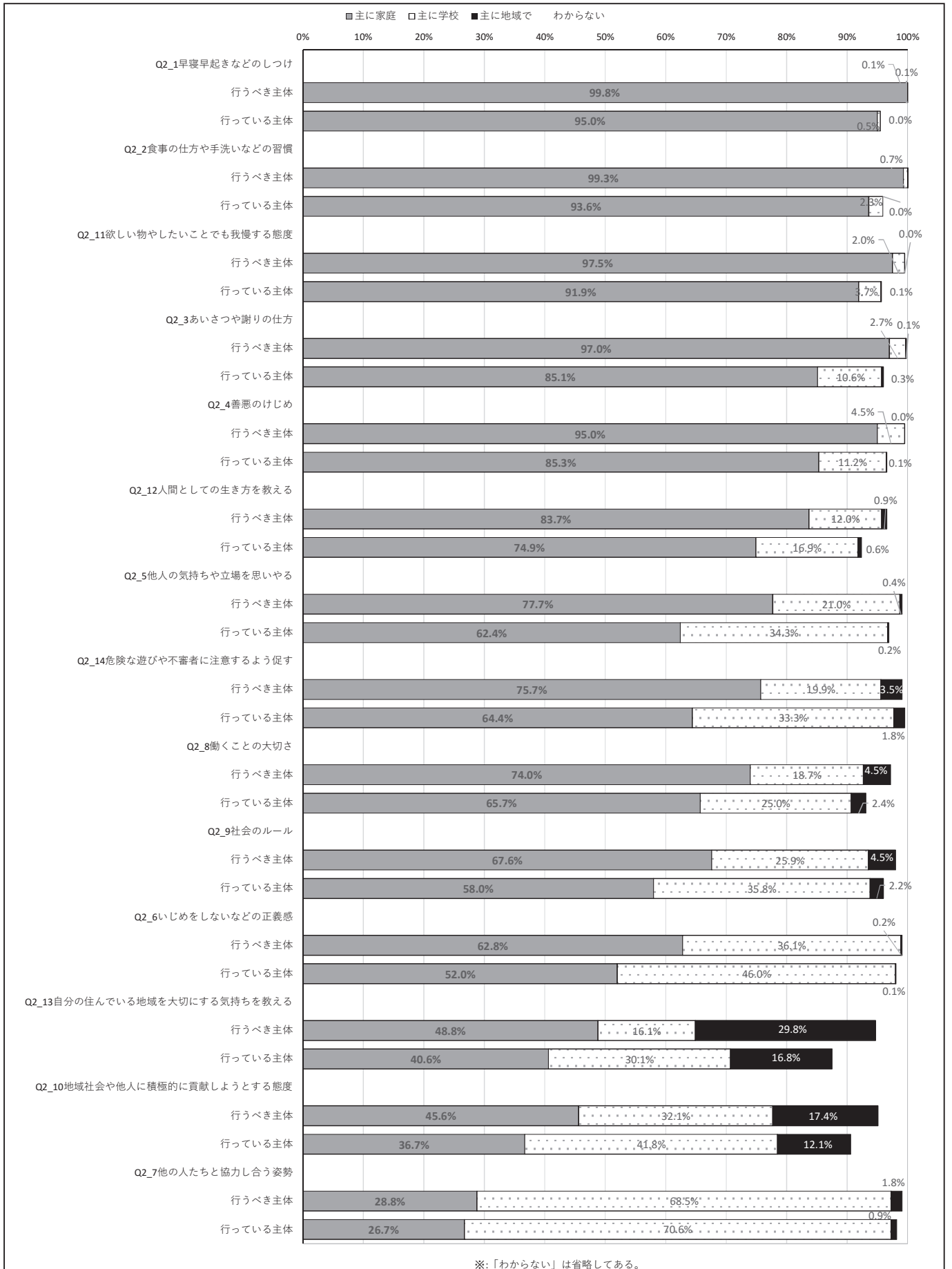
次に、しつけを行うべき主体について、保護者が父か母かによる相違点についてみることにしたい。クロス集計の結果によれば、父が「善悪のけじめをつけさせる」、「いじめをしないなどの正義感を養う」、「働くことの大切さを教える」の項目では、「主に学校」とする割合が母のそれを上回っていることが目立つくらいで、父母による格別大きな差はない。

実際にしつけを行っている主体について父母による認識の相違を見ると、母が多くの項目で「主に家庭」と答える割合が父を上回っていることが目立っているだけであり、格別大きな相違点はない。

こうした結果をみると、父は母より若干ながら学校頼みの傾向が強く、母はしつけは主に家庭でやっているとの思いが父より強いくらいで、父母の間には「ほほえましい」とも言う程度の相違しかない状況で家庭教育が行われているように思われる。

さらに、子どもの学年による相違をみると、しつけが行われるべき主体についてはほとんど差異がない。また、実際にしつけを行っている主体についても、子どもの学年による格別大きな差異は見られない。

図2 保護者調査 - ② ③ しつけを行うべき主体と行っている主体

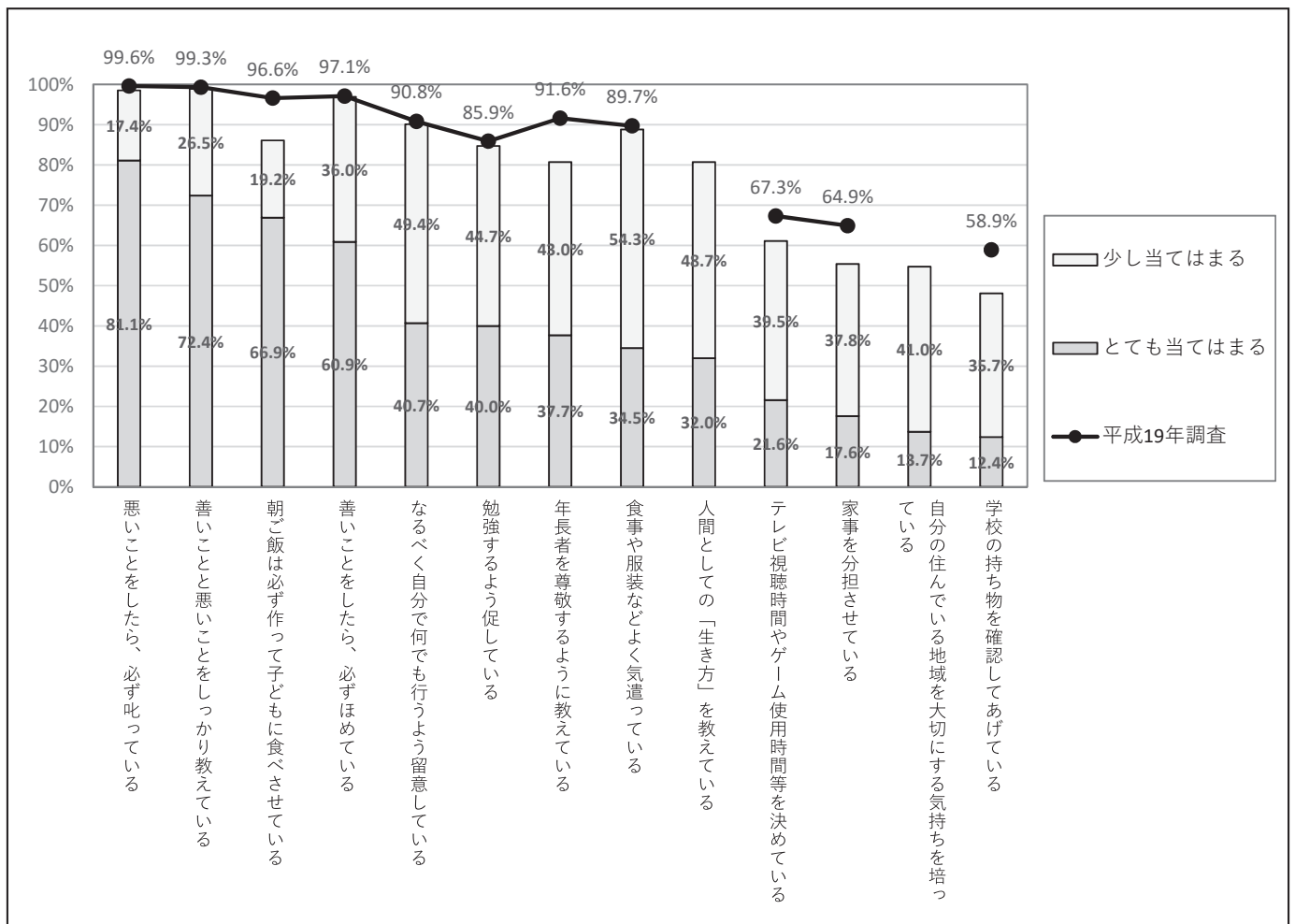


第9章 保護者による具体的な「しつけ」の実態(4)

「あなたのお子さんに対するしつけの様子についてお聞かせください」という質問文のもとに、**図3**にある13項目について、①「とても当てはまる」②「少し当てはまる」③「あまり当てはまらない」④「まったく当てはまらない」のうちから一択により回答を求めた。

図3の「当てはまる」は、選択肢①②の合計値であり、「当てはまらない」は③④の合計値である。「当てはまる」のポイントが高い項目順に上から並べてある。このうち、「人間としての生き方を教えている」「自分の住んでいる地域を大切にしている気持ち」の2つは前回調査にはない、今回調査からの新設項目である。

図3 保護者による「しつけ」の実態 (N=3485)



まず、**図3**について、全体的に、「当てはまる」のポイントについて、13項目中9項目が80%を超え、さらにそのうち5項目が90%を超えている。子どものしつけをしっかりとやっている（という自己認識を持つ）保護者は、全体としては概ね多いということが明らかになった。新設の「人間としての『生き方』」も80.7%と高い。

ただ、これら80%超の項目について、「善悪」に関する上位3項目および「朝ごはん」

の項目は「とても当てはまる」が「少し当てはまる」よりも20ポイント以上高いのに対し、他の項目は逆転して「少し当てはまる」の割合の方が高くなっている。このように、「当てはまる」には、内訳レベルでは濃淡も見られる。

また、40～60%台にとどまり、比較的行われにくいしつけの項目も前回調査同様見られた。まず、「地域を大切にする」は、54%とほぼ半数の保護者が行っているにとどまった。さらに、「テレビ・ゲームの時間」「家事分担」「持ち物確認」は、前回調査（各々67.3%、64.9%、58.9%）と比べても5～10ポイント程度低い。なお、子どもの自立性の高まりからか、これら3種のしつけが小3・5に比べて、中2でかなり行われなくなる傾向も前回同様であった。

このようなしつけの減退傾向は、下位の項目に関してだけではない。「人間としての『生き方』と『自分の住んでいる地域』」の2項目を除いて、総合的に前回の平成19年調査結果（図中の折れ線）と比較してみると、中・上位の項目を含め、ほぼ全ての項目で「当てはまる」が減少、「当てはまらない」が増加していた。多くの場合、数ポイント程度ではあるが、特に、「家事分担」「持ち物確認」、そして「朝ごはん」「年長者への尊敬」の項目は、前回調査より10ポイント程度「当てはまる」が減少している。全体として、子どものしつけに対する保護者のコミットメントが希薄化している傾向がうかがえる。

（松岡 侑介）

第10章 子ども自身が考える自らの姿と親が考える子ども像 (保5 児3)

図4は、児童・生徒対象の調査（設問3）と保護者対象の調査（設問5）の結果（とてもあてはまる+少しあてはまる）を重ねて示したレーダーチャートであり、さらに子どもと保護者の認識の差に数値を入れてわかりやすくしたものが図5である。

図4の左側のレーダーにへこみが目立つが（「自分で進んで学習ができる」、「学校の勉強はよくできるほうだと思う」、「早寝・早起きができる」において肯定率が低い傾向がある）、総体として、子どもたち同様、保護者は子どもたちの姿を肯定的にとらえている。ただし、子ども自身の認識より保護者の子どもに対する肯定的な認識のほうが上回っているようだ。

図4 子どもが考えている自分と親が考える子ども像
— 「とてもあてはまる」「少しあてはまる」の合計値 —

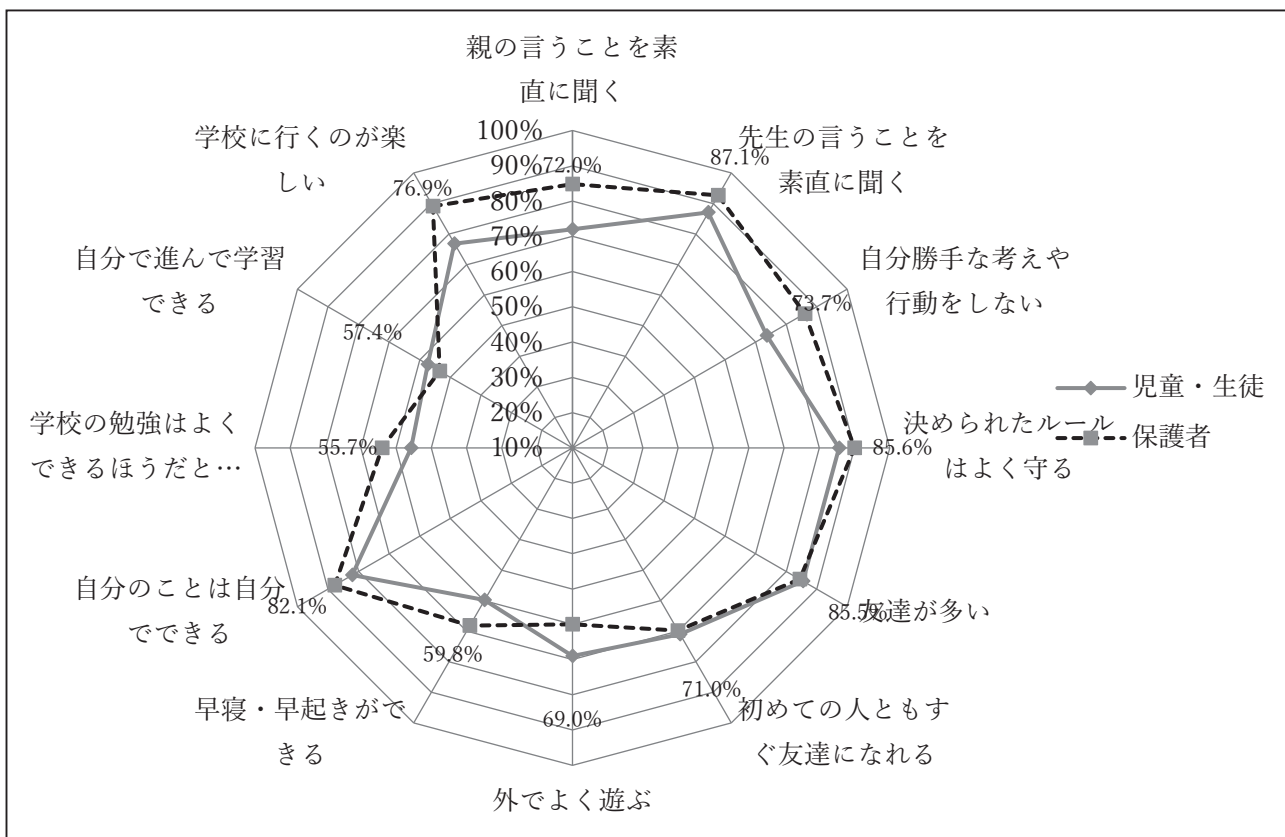
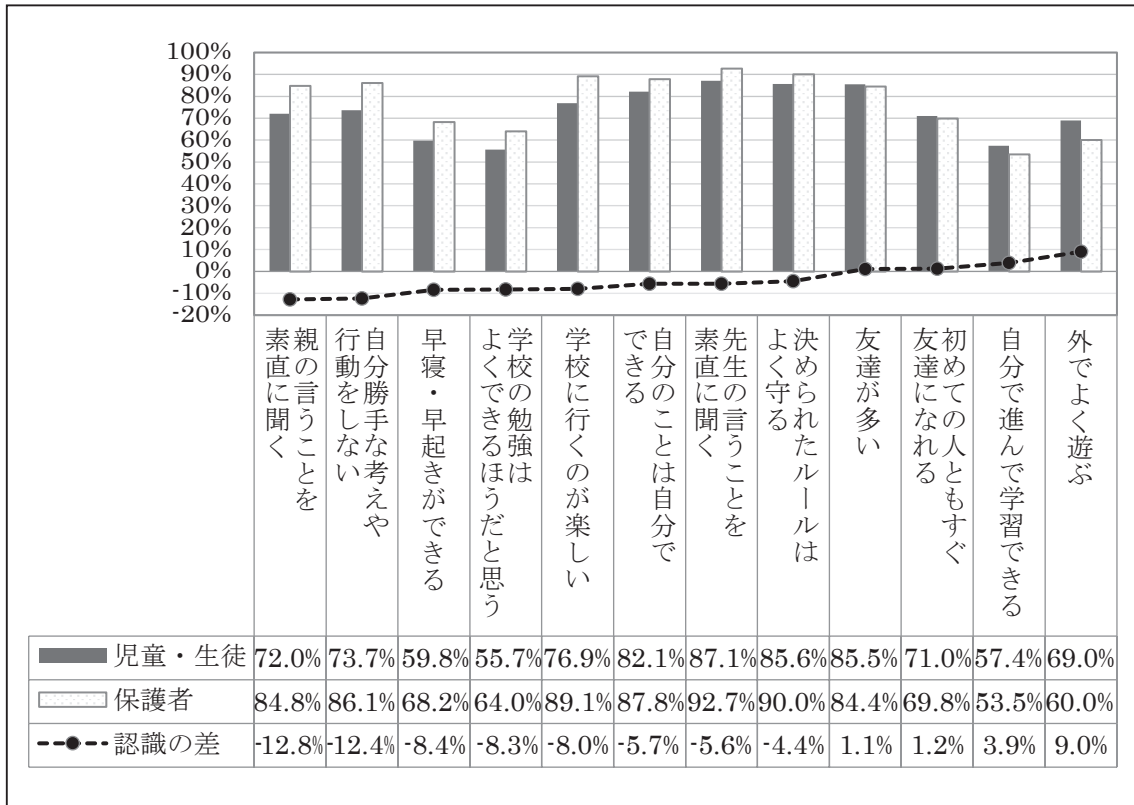


図5に示すように、子ども自身と保護者の認識の差をもう少し丁寧に分析してみると、保護者よりも児童・生徒のほうが肯定率が高い項目（4項目）と児童・生徒よりも保護者の方が肯定率が高い項目（8項目）に大別されることがみてとれる。

保護者よりも児童・生徒のほうが肯定率が高い項目は、「友達が多い」、「初めての人もすぐに友達になれる」、「自分で進んで学習ができる」、「外でよく遊ぶ」の4項目だけであり、認識の差も10%以内で小さい。一方で、「親の言うことを素直に聞く」、「自分勝手な考えや行動をしない」、「早寝・早起きができる」、「学校の勉強はよくできるほうだと思う」、「学校に行くのが楽しい」、「自分のことは自分でできる」、「先生の言うことを素直に

図5 子ども像についての子ども自身と保護者の認識の差



聞く」、「決められたルールはよく守る」は、保護者のほうが児童・生徒より肯定率が高くなっている。

あえて、子ども自身が否定的に捉える傾向のある自己像の項目に注目してみれば、保護者に比べて子どものほうが「自分で進んで学習できる」と肯定的に認識している割合が高いのに、「学校の勉強はよくできるほうだと思う」は子どものほうが保護者よりもさらに否定的にとらえている傾向がある。特に「学校の勉強はよくできるほうだと思う」について、以下の表8に示すように子ども自身の意識と保護者の意識には1%水準で有意差が認められ、小学校では肯定的認識に、中学校において否定的認識に同調性が高いことがわかる。(表：学年×保護者の認識)

表8 「学校の勉強はよくできるほうだと思う」(子ども自身の認識×保護者の対わが子認識) %

	とても当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	合計
小学校3年生	21.9% **	53.0% **	20.6%	3.7%	100%
小学校5年生	19.2%	50.2% **	26.3%	3.6%	100%
中学校2年生	14.8%	39.2%	34.5% **	10.9% **	100%

**p<.01、*p<.05

<保護者の行動と子どもの規範意識>

表9～13は、保護者の行動と子どもの規範意識をクロス集計した結果、1%水準で相関が認められた項目を示している（**は有意差ありのセル）。

興味深いのは「我が子の学級担任の話を受け入れる方である」について「とても当てはまる」と答えた保護者の子どもは、規範意識に関わって「ぜったいにいけない」とする認識が高いことである。家庭と学校の連携したしつけ教育の一貫性が子どもの規範意識に有意な影響を与えていることを示唆している。

家庭の教育力低下が指摘されている中で、教育基本法10条や同13条の「教育の第一義的責任は家庭教育にある」ことや「学校・家庭・地域の連携・協力」の理念をどう具体化していくかが改めて問われている。

表9 保護者の行動「学級担任の話を受け入れる方」と子どもの規範意識「うそをつく」のクロス表 (%)

		4-1.うそをつく				
		ぜったいに いけない	あまりして はいけない	ばあいによ ってはかま わない	かまわない	合計
6-5.わが子の 学級担任の 話を受け入 れる方であ る	とても当て はまる	43.7%**	32.0%	22.8%	1.5%	100%
	少し当ては まる	36.3%	32.5%	29.1%	2.1%	100%
	あまり当て はまらない	44.8%	21.6%	30.6%	3.0%	100%
	まったく当 てはまらない	61.1%	16.7%	22.2%	0.0%	100%
	全体	40.4%	31.7%	26.0%	1.8%	100%

**p<.01

表10 保護者の行動と子どもの規範意識「学校を病気とかの理由がないのに休む」のクロス表 (%)

		4-2.学校を病気とかの理由がないのに休む				
		ぜったいに いけない	あまりして はいけない	ばあいによ ってはかま わない	かまわない	合計
6-5.わが子の 学級担任の 話を受け入 れる方であ る	とても当て はまる	67.9%**	19.8%	10.2%	2.1%	100%
	少し当ては まる	60.7%	22.9%	12.9%*	3.5%*	100%
	あまり当て はまらない	61.2%	25.4%	10.4%	3.0%	100%
	まったく当 てはまらない	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%	100%
	全体	64.2%	21.5%	11.5%	2.8%	100%

表11 保護者の行動と子どもの規範意識「先生の言うことをきかない」のクロス表 (%)
p<0.001

		4-5.先生の言うことをきかない				合計
		ぜったいしてはいけない	あまりしてはいけない	ばあいによ ってはかま わない	かまわない	
6-5.わが子の学級担任の話を受け入れる方である	とても当てはまる	71.7%**	21.4%	5.6%	1.4%	100%
	少し当てはまる	63.7%	26.8%**	7.9%	1.6%	100%
	あまり当てはまらない	65.4%	22.6%	8.3%*	3.8%	100%
	まったく当てはまらない	58.8%	29.4%	0.0%	11.8%**	100%
	全体	67.7%	24.0%	6.7%	1.6%	100%

表12 保護者の行動と子どもの規範意識「授業中にさわぐ」のクロス表 (%) P<0.001

		4-9.授業中にさわぐ				合計
		ぜったいしてはいけない	あまりしてはいけない	ばあいによ ってはかま わない	かまわない	
6-5.わが子の学級担任の話を受け入れる方である	とても当てはまる	65.5%**	27.3%	5.8%	1.4%	100%
	少し当てはまる	59.0%	32.1%**	7.1%	1.8%	100%
	あまり当てはまらない	63.9%	23.3%	10.5%	2.3%	100%
	まったく当てはまらない	55.6%	27.8%	5.6%	11.1%**	100%
	全体	62.4%	29.4%	6.6%	1.7%	100%

表13 保護者の行動と子どもの規範意識「宿題をしない」のクロス表 (%) P<0.001

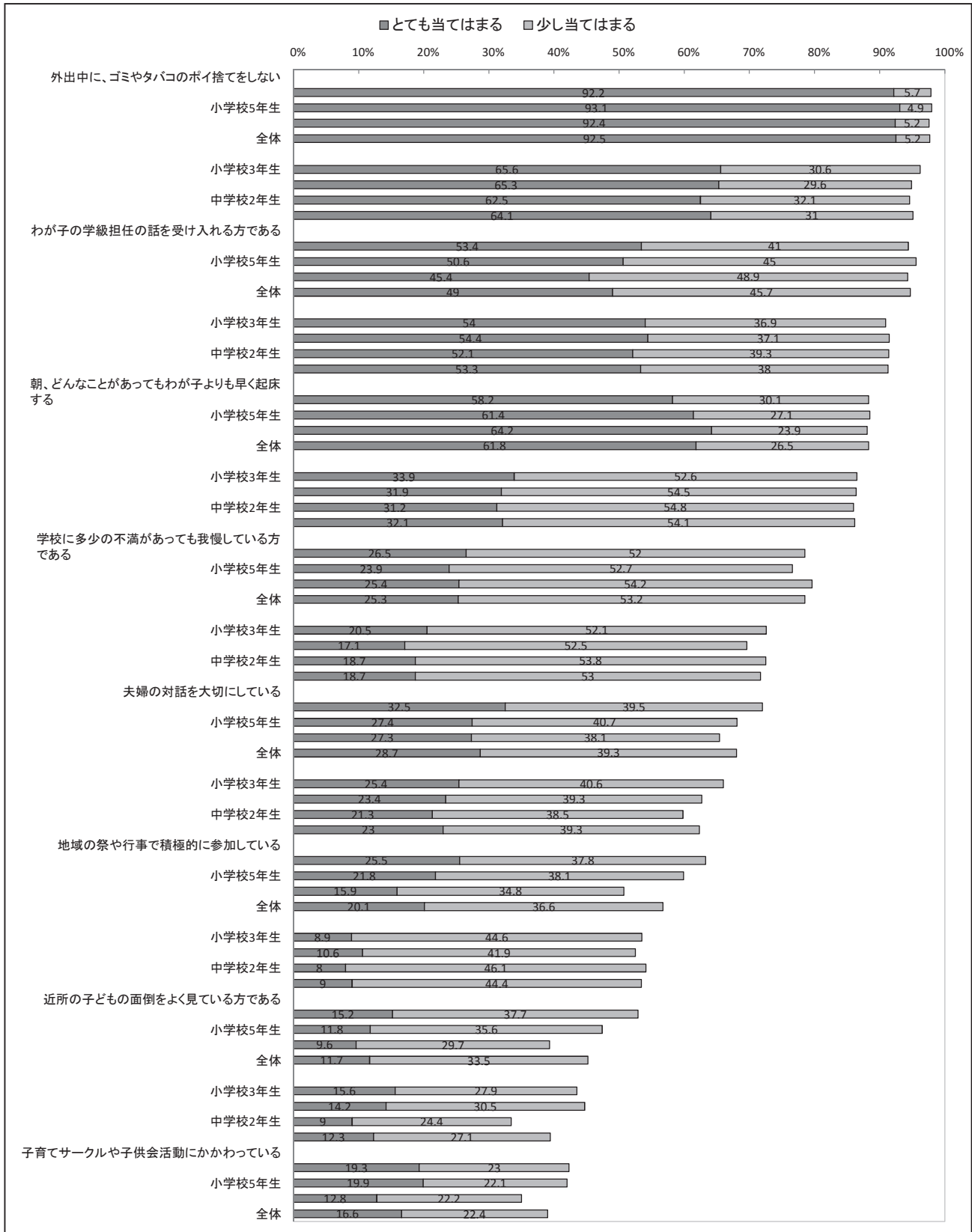
		4-11.宿題をしない				合計
		ぜったいしてはいけない	あまりしてはいけない	ばあいによ ってはかま わない	かまわない	
6-5.わが子の学級担任の話を受け入れる方である	とても当てはまる	65.9%**	25.4%	6.7%	1.9%	100.0%
	少し当てはまる	60.3%	29.2%*	8.4%	2.1%	100.0%
	あまり当てはまらない	59.4%	25.6%	12.0%	3.0%	100.0%
	まったく当てはまらない	66.7%	22.2%	5.6%	5.6%	100.0%
	全体	63.1%	27.2%	7.7%	2.1%	100.0%

(堀井 啓幸)

第11章 保護者の普段の行動と生活環境

1. 保護者の普段の行動 (6)

図6 保護者の普段の行動について (とても当てはまる、少し当てはまるのみ抜粋)



本質問の解説においては、調査結果のうち「とても当てはまる」「少し当てはまる」の肯定的な回答のみ抜粋して図6を作成した。保護者自身の普段の行動に関する質問項目群に対する回答の結果では、前回の調査結果と同様に、「とてもよく当てはまる」あるいは「少し当てはまる」とする肯定的な回答の割合の高さが目立った。

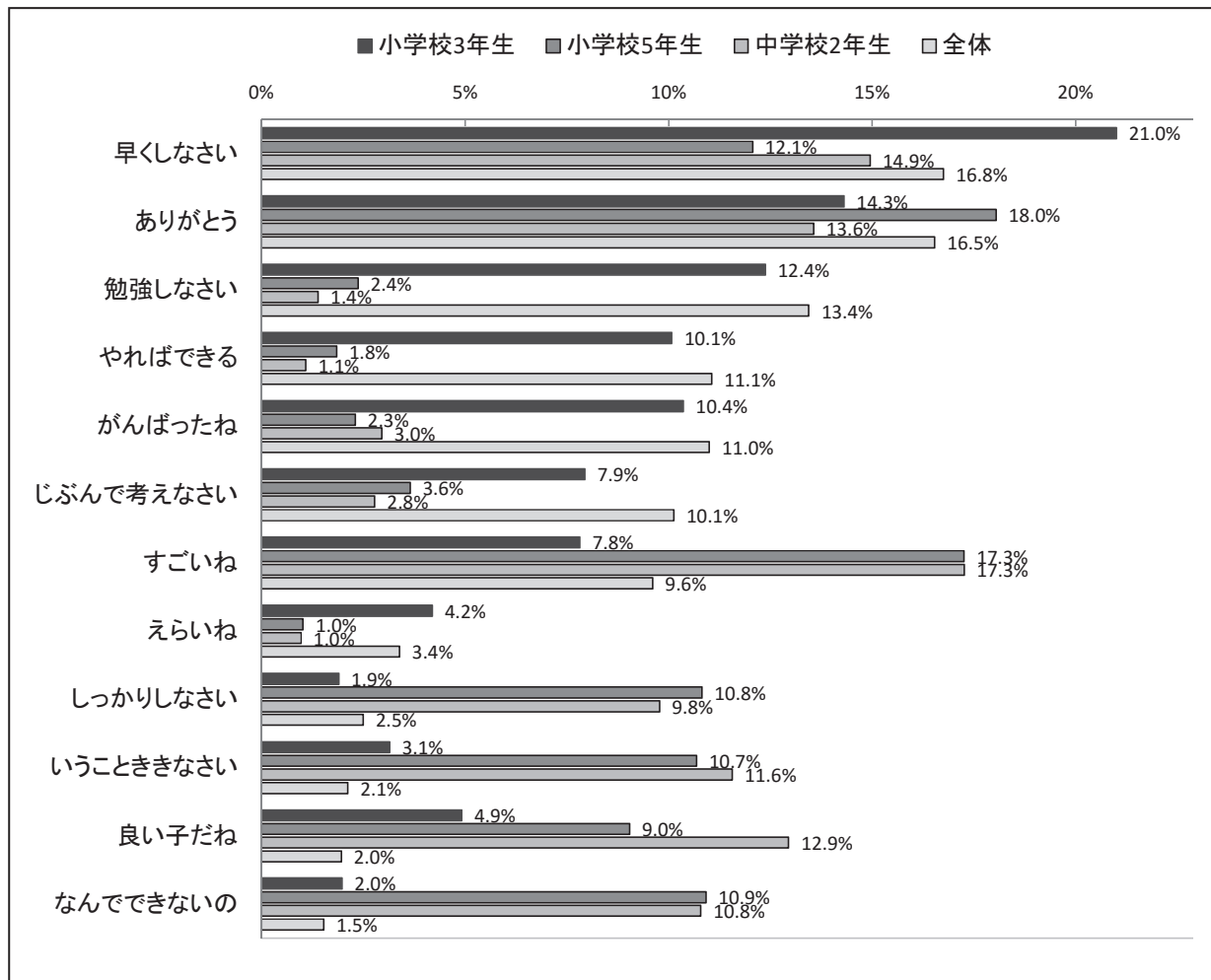
「とても当てはまる」の回答が特筆して多かったのは「外出中に、ゴミやタバコのポイ捨てをしない」である。この傾向は前回の調査においてもみられた。「とても当てはまる」と「少し当てはまる」という肯定的な回答の合計値が75%以上あるのは「挨拶」や「電車で席を譲る」こと、「早起き」、「悪口を言わない」という社会的なマナーや基本的な生活習慣である。また、同様に「わが子の学級担任の話を受け入れる」「学校に多少の不満があっても我慢している」という項目も75%を超えている。

「とても当てはまる」と「少し当てはまる」という肯定的な回答の割合が50%以上75%未満での項目は、「家事を手抜きせず行っている」「夫婦の対話を大切にしている」「わが子の友達の親と連絡をとっている」「地域行事への積極的な参加」「事情により嘘をつく」の5項目である。これらの項目は、家庭内外のコミュニケーションについてのカテゴリーにまとめることができる。これらから半数以上の保護者の、家庭内外のコミュニケーションに対する意識の高さがうかがえる。

肯定的な回答の割合が50%以下の項目は、「近所の子どもの面倒をみている」「公共施設を利用している」「子育てサークルや子ども会活動にかかわっている」の3項目である。これらは、保護者の地域社会への参加や交流に関わる項目である。前回の調査結果と比べると回答値は微増しているが、依然として否定的な回答の割合は6割前後となっている。

2. 保護者のわが子によくする言葉かけ (7)

図7 保護者のわが子によくする言葉かけ



保護者の「しつけ」の実態を探るために、自分の子どもに対して、よく言葉かけをする内容を順不同で三つ以内選択してもらった。図7は、その合計値(%)を子どもの学年ごとに表している。

回答値が高い項目は学年ごとに異なるが、「早くしなさい」「ありがとう」「勉強しなさい」の上位三項目は共通している。そしてどの学年においても「ありがとう」の回答割合は「勉強しなさい」の回答値を上回っていることがわかる。

回答値が低い項目は「いうことききなさい」「なんでできないの」「しっかりしなさい」であった。これら三項目はどの学年においても3%台以下で推移している。また、「良い子だね」の項目は小学校3年生では4.9%あったものが、小学校5年生と中学校2年生では1.0%にまで落ち込んでいる。

このような回答結果から、保護者は自分の子どもに対して指示的な言葉かけを行っているが、その中でも否定的な言葉かけはあまり行っていないことがわかる。「勉強しなさい」よりも「ありがとう」という言葉かけの回答値が高かったことを考えると、保護者と児童生徒の関係は上下関係だけでなく対等性が含まれている可能性が示唆される。

(松岡 侑介・大園 早紀・橋本 育実)

第12章 保護者の学校への関わりと苦情・要望の実態

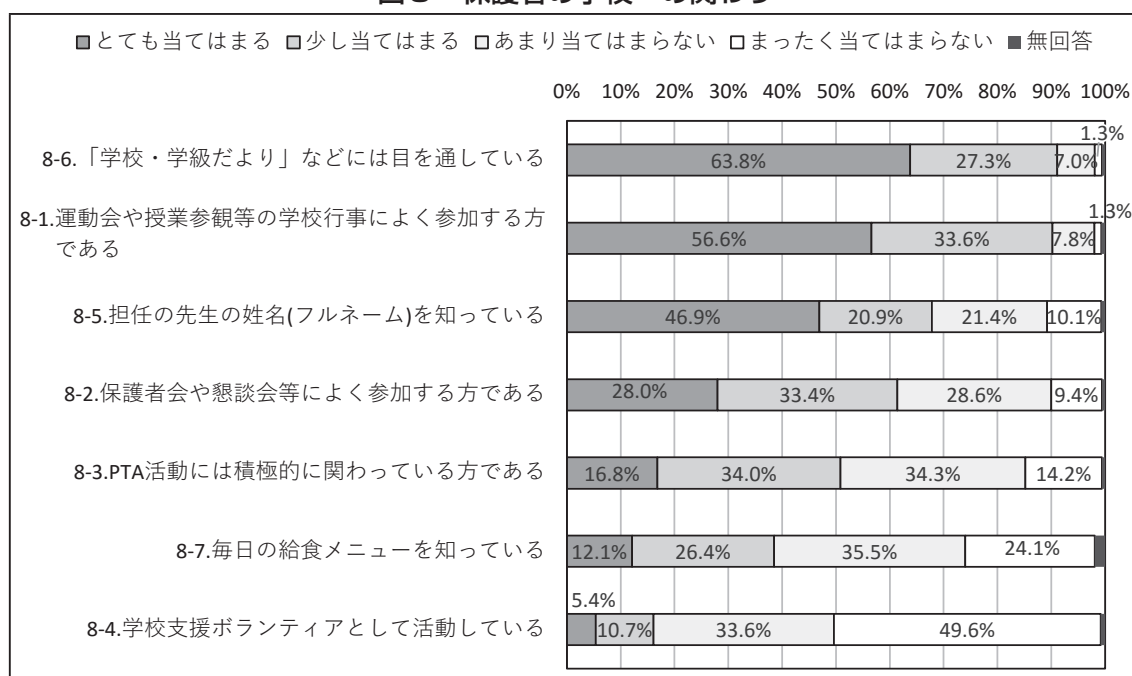
1. 保護者の学校への関わり (8)

学校への保護者の関わりについて、ここでは「『学校・学級だより』などには目を通してしている」「運動会や授業参観等の学校行事にはよく参加する方である」「保護者会や懇談会等によく参加する方である」「担任の名前（フルネーム）を知っている」「PTA 活動には積極的に関わっている方である」「学校支援ボランティアとして活動している」「毎日の給食メニューを知っている」の7項目について、「とても当てはまる～まったく当てはまらない」の4件法により択一回答を求めた（図8）。

(1) 保護者の学校への関わりの実態

保護者の学校への関わりについては、関わりを持つ保護者が多い順に（「とても当てはまる」の回答）、「『学校・学級だより』などに目を通してしている」63.8%、「運動会や授業参観等の学校行事によく参加する方である」56.6%、「担任の先生の姓名を知っている」46.9%、「保護者会や懇談会等によく参加する方である」28.0%、「PTA 活動には積極的に関わっている方である」16.8%、「毎日の給食メニューを知っている」12.1%となり、「学校支援ボランティアとして活動している」は5.4%と意外にも低い。

図8 保護者の学校への関わり



総じて言えば、「たより」や「学校行事」等の関与の程度の弱い場面（能動性が低いという意味）では多くの保護者は関わっているようで、「とても当てはまる」に「少し当てはまる」の回答を加えると9割以上になる。これに対して、「学校支援ボランティア」や「PTA活動」「保護者会等」の関与の強い場面（能動的だという意味）では関わりを持つ保護者

が少なくなっている。また、「たより」には目を通してているが、「給食メニュー」については関心が低いのか、保護者の肯定的な回答は少ない。「給食メニュー」の把握は頻繁な関わりになるので、この場合も関与の程度が若干強い関わりに属することになる。

(佐藤 晴雄)

(2) 保護者の学校への関わりの学年別実態

わが子の学年別に見ると、「たより」や「学校行事」など全体では関わる保護者が多かった場面では、中学生の保護者（中学校2年生）は、小学生の保護者（小学校3+5年生）に比べて関わりを持つ者が有意に少ない傾向が見出された（図9～図15）。小学校間でも、小学校5年生は3年生よりも数値が低くなっている。このことから、関与の弱い場面については、学年進行に伴って関わりを持つ保護者が減少する傾向が見出されたことになる。この場合のサンプル数（N）は、「小学校3年生」873人、「小学校5年生」1,000人、「中学校2年生」1,482人、「全体」3,422人である。

図9 「学校・学級だより」などには目を通してている

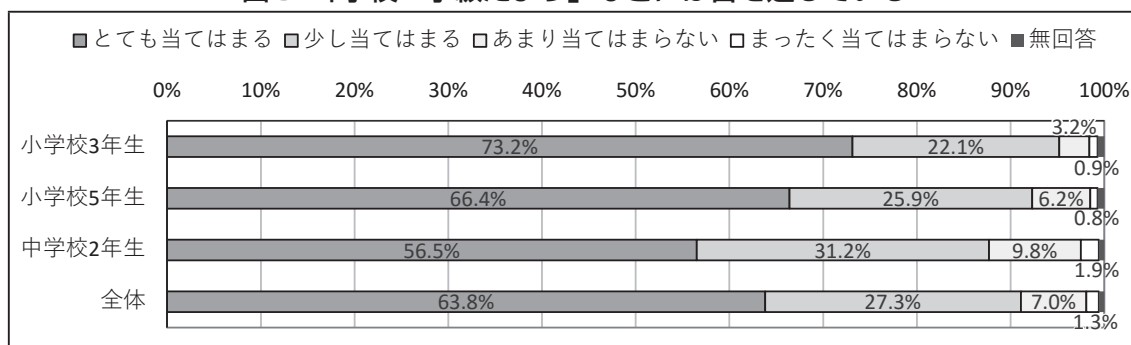
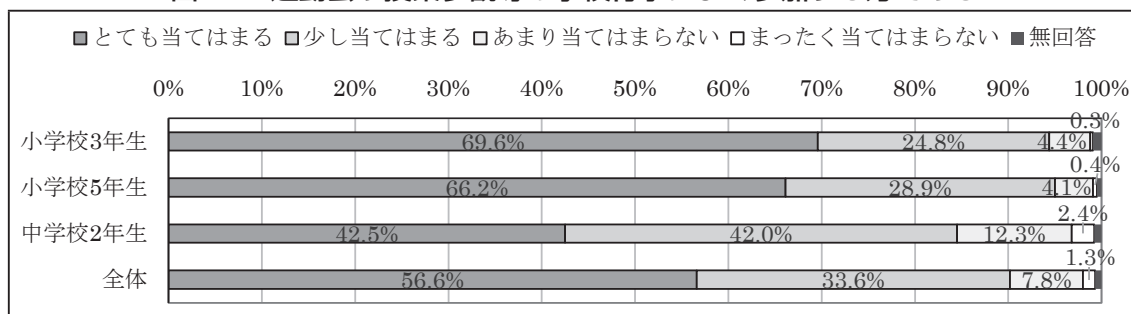


図10 運動会や授業参観等の学校行事によく参加する方である



これに対して、「学校支援ボランティア」や「PTA活動」という関与の程度が強く、学校との関わりを持つ保護者が少ない場面では、学年差はあるとは言え、中学生の保護者が小学生の保護者に比べてさほど少ないわけではなく、また関わりを持つ保護者（知っている保護者）が少なかった「給食メニュー」も学年差がほとんどなかった。

図11 保護者会や懇談会等によく参加する方である

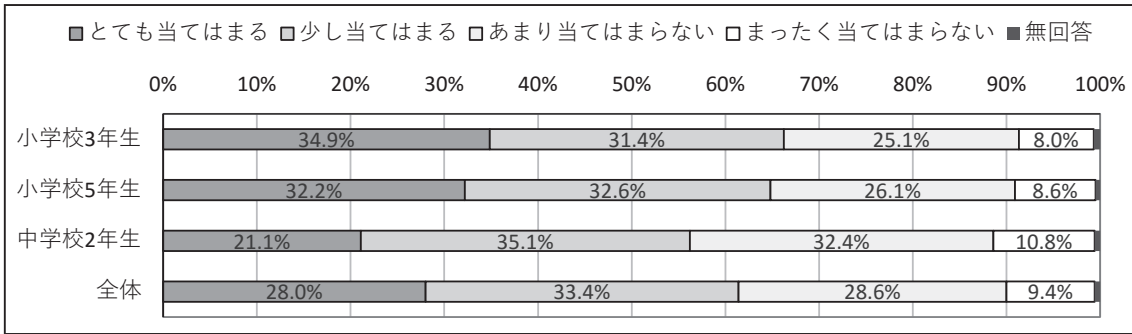


図12 担任の先生の姓名（フルネーム）を知っている

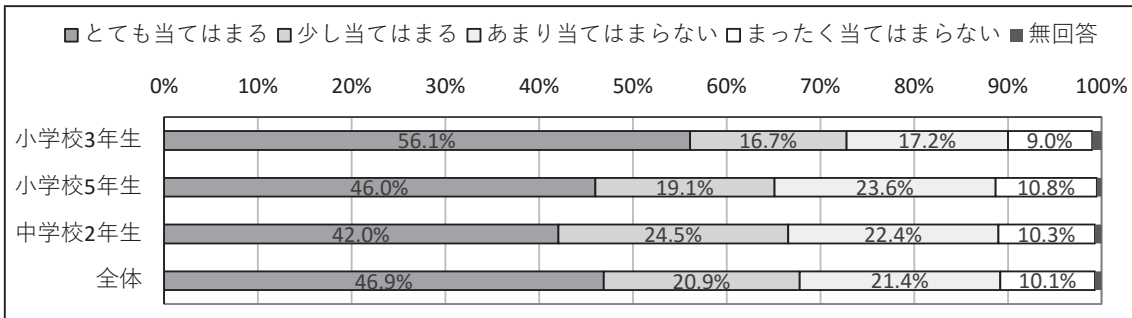


図13 学校支援ボランティアとして活動している

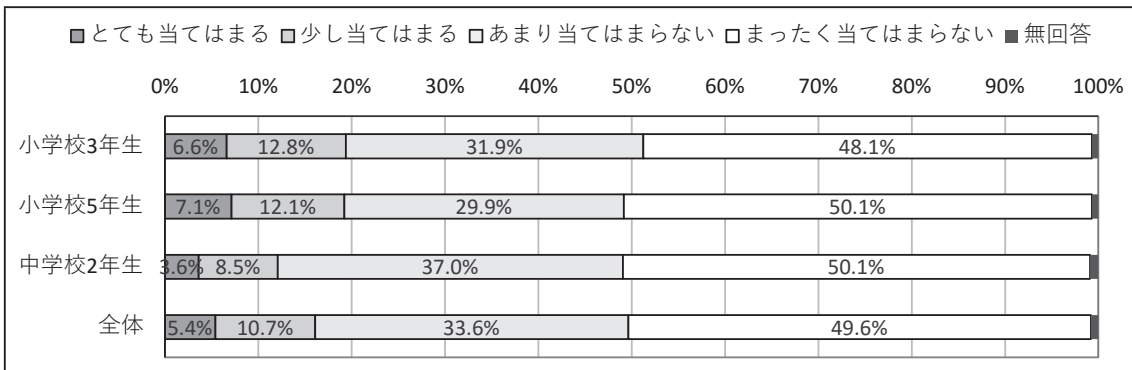


図14 毎日の給食メニューを知っている

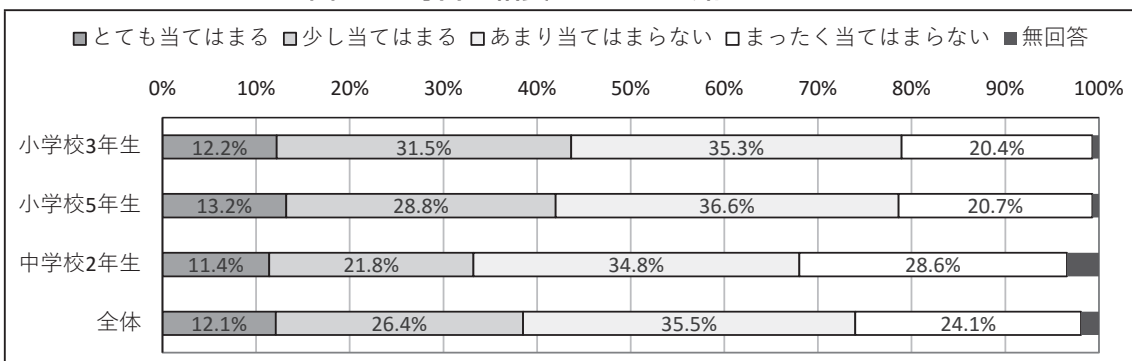
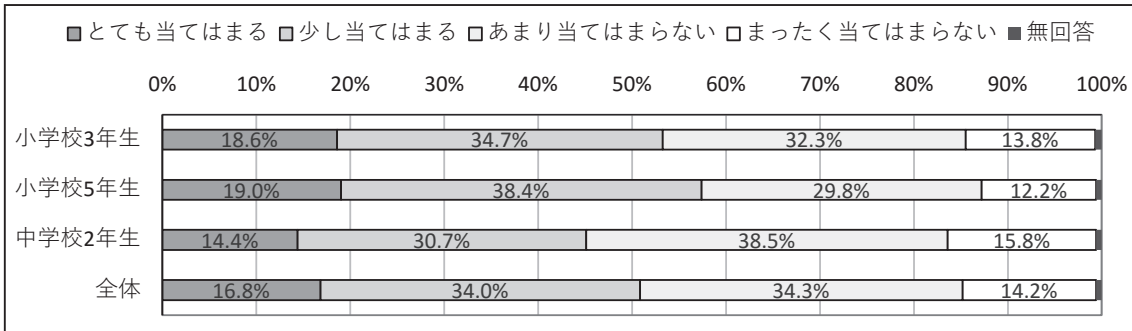


図15 PTA活動には積極的に関わっている方である



(佐藤 晴雄)

(3) 保護者の学校への関わりの年代別実態

保護者を年代別に見ると、「たより」や「学校行事」など全体では関わる保護者が多かった場面では50～60歳以上の保護者は20～30歳代及び40歳代の保護者に比べて関わりを持つ者が有意に少ない傾向が見出された(図16～図22)。20～30歳代と40歳代の保護者間でも、「学校行事」については40歳代(55.8%)が20～30歳代(60.4%)より数値が低くなっている。このことから、これら関与の弱い場面、特に「学校行事」については、年齢層が高くなるにつれて関わりを持つ保護者が減少する傾向が見出されたことになる。

なお、サンプル数(N)は、「20～30歳代」1,041人、「40歳代」2,141人、「50～60歳代」232人、「全体」3,414人である。

図16 「学校・学級だより」などには目を通している

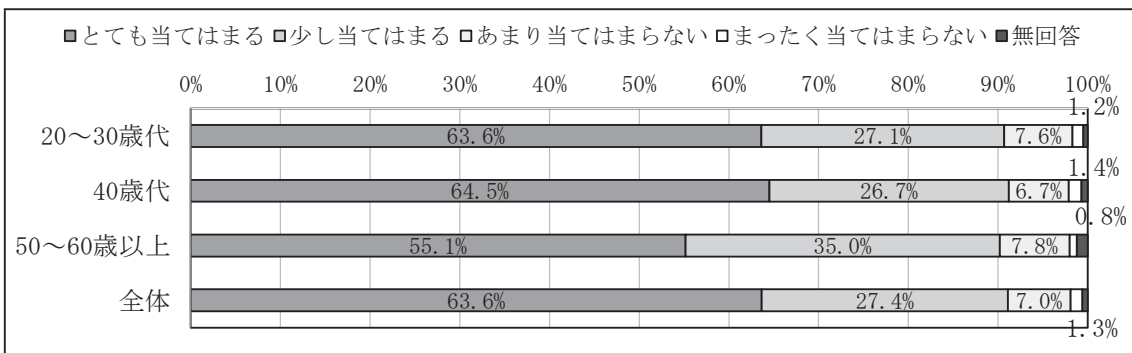
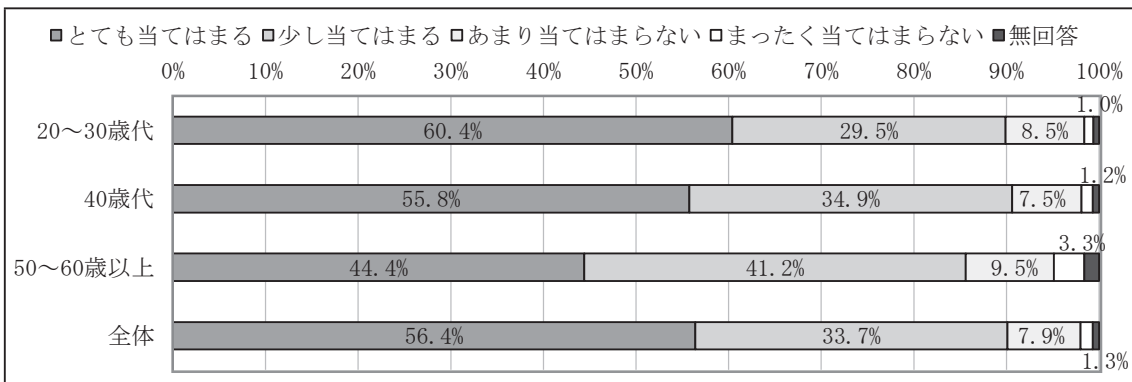


図17 運動会や授業参観等の学校行事によく参加する方である



これに対して、「学校支援ボランティア」や「PTA活動」「保護者会等」という関与の程

度が強く、学校との関わりを持つ保護者が少ない場面では、いずれも数値が高い順に40歳代、50～60歳以上、20～30歳代となっている。このことから、関与の程度が強い場面では、40歳代、50～60歳以上の保護者が関わりを持ち、20～30歳代の保護者は関わりを持つのが少ないと言える。また関わりを持つ保護者（知っている保護者）が少なかった「給食メニュー」については、保護者の年代差がほとんどなかった。

図18 保護者会や懇談会等によく参加する方である

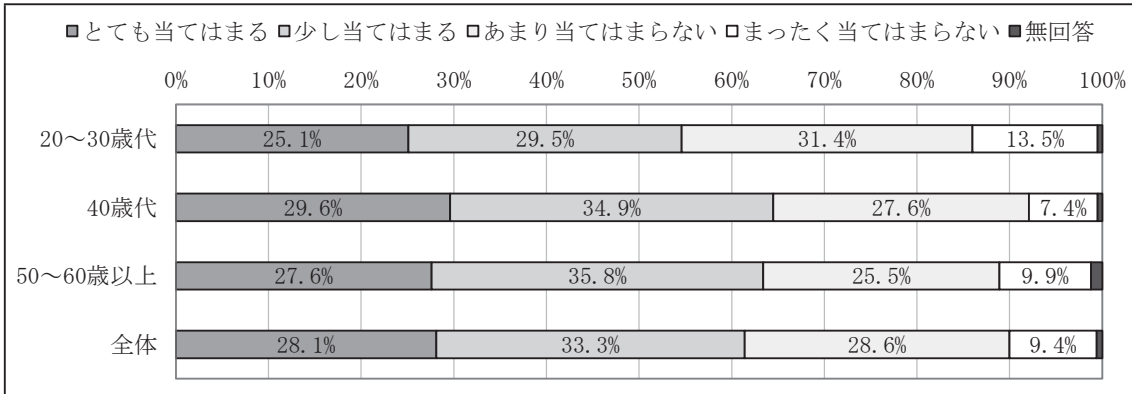


図19 PTA活動には積極的に関わっている方である

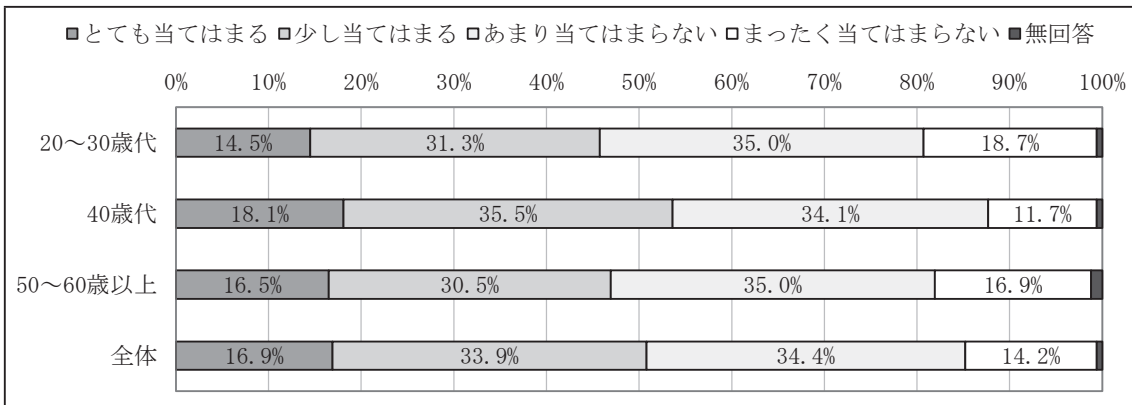


図20 学校支援ボランティアとして活動している

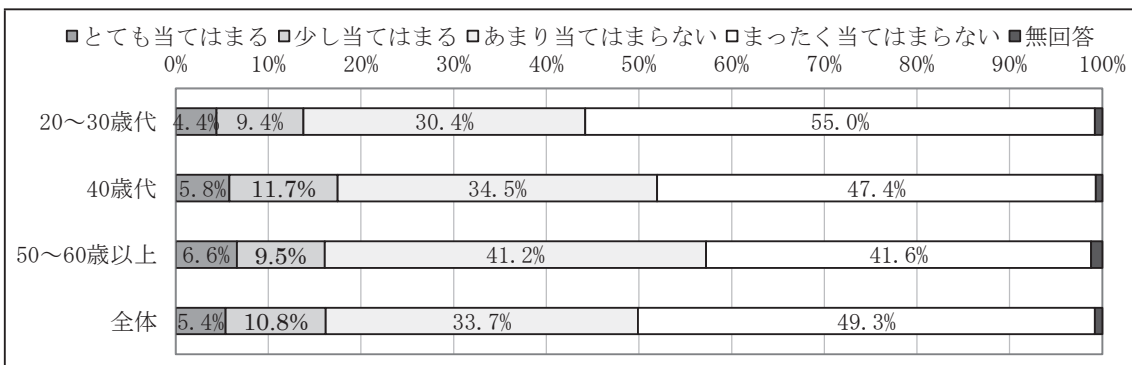


図21 担任の先生の姓名（フルネーム）を知っている

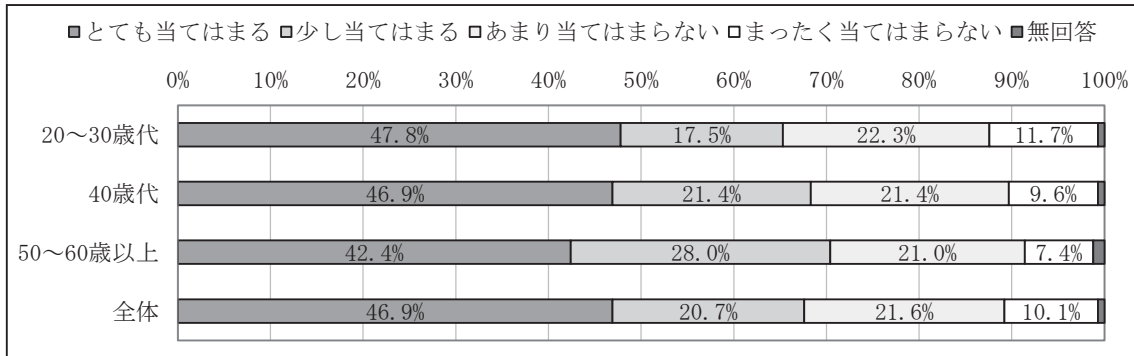
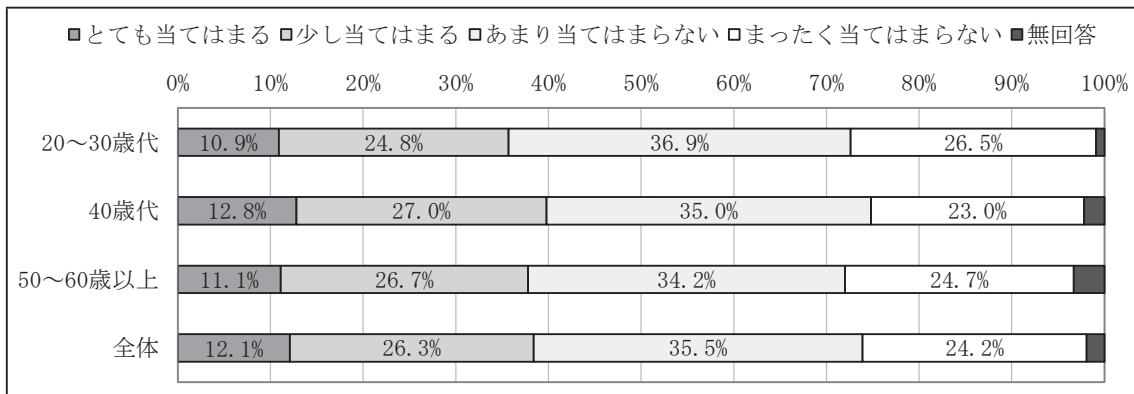


図22 毎日の給食メニューを知っている



(窪 和広)

(4) 小括

以上から、以下の点が明らかになった。

第一に、「学校・学級だより」や「学校行事」など関与の程度の低い場面では、約9割（「少し当てはまる」を含む）の保護者が関わっているのに対して、「学校支援活動」や「PTA活動」など関与の程度の弱い場面については関わっている保護者が半数以下に止まり、また「たより」と同様に学校情報である「給食メニュー」を知っている保護者は4割弱（38.5%）と少ない。「給食メニュー」は日ごとに変わるので、これを把握することは結局、関与の程度が強いことになるだろう。

第二に、校種別で見ると、関与の程度が強い「学校支援ボランティア活動」と「給食メニュー」以外の関わりについては小学校が中学校よりも関わっている者が多い傾向にある。「学校・学級だより」や「学校行事」など関与の程度が弱く、全体では関わる保護者が多い場面でも、学年進行等に従って、関わっている保護者は少なくなる傾向が見出された。わが子が成長するにつれて、保護者は学校との距離を徐々に広げていく様子が見られたところである。

第三に、学年進行は保護者の年代にも関係していることから、その年代別に関わりを見ていくと「学校・学級だより」と「学校行事」は中学生の保護者に多いだろう50歳代が他の年代よりも関わっている保護者が少ない実態にある。わが子の数が影響しているとも考えられたが、50～60歳代が他の年代よりもその数が多いわけではなかった。そのほか、

関与の程度が強い「学校支援ボランティア活動」と「PTA活動」では、学年進行で関わる保護者は少なくなったが、意外にも50～60歳代は20～30歳代よりも多く、40歳代の数字近づいているのである。50～60歳代は「たより」や「学校行事」などへの関わりは相対的に少ないが、学校支援やPTA活動などには関心を持っている様子である。

(佐藤 晴雄)

2. 苦情・要望の申出実態 (9)

調査では、「学校に不満や問題があると感じた時に、苦情・要望を藻意申し出たことがありましたか。(過去と今年の) それぞれについてその申し出の回数を記入してください」という質問を設けた。

(1) 苦情・要望の申出の有無

保護者が学校に対して苦情・要望を申し出た割合(「あった」の回答)は、「過去」29.8%、「昨年」13.2%となる(図23)。これらを性別で見ると、「過去」の場合、「男性」21.2%、「女性」30.5%と女性が男性に対して有意に高い数値となった(*p<.01)。「昨年」だと、「男性」9.5%、「女性」13.6%となり、やはり女性の数値が高くなっている(検定結果ではns)。この「女性」の「あった」の割合はほぼ「母親」によるものとなる(「過去」の場合、「母親」の「あった」30.7%)。

また、それら回答は「専業主婦」による割合とほぼ一致している(「過去」の「専業主婦」の「あった」30.4%)。ただし、職業等の内訳を見ると(図24)、「過去」の数値は、「公務員(教員以外)」31.0%、「専門職・教員」32.8%、「会社経営」31.4%となり、これらは「専業主婦」よりも若干高めになるのに対して、「民間企業勤務」26.6%と「自営業」26.0%の数値は低くなる。

図23 学校に対する苦情・要望の申出の有無

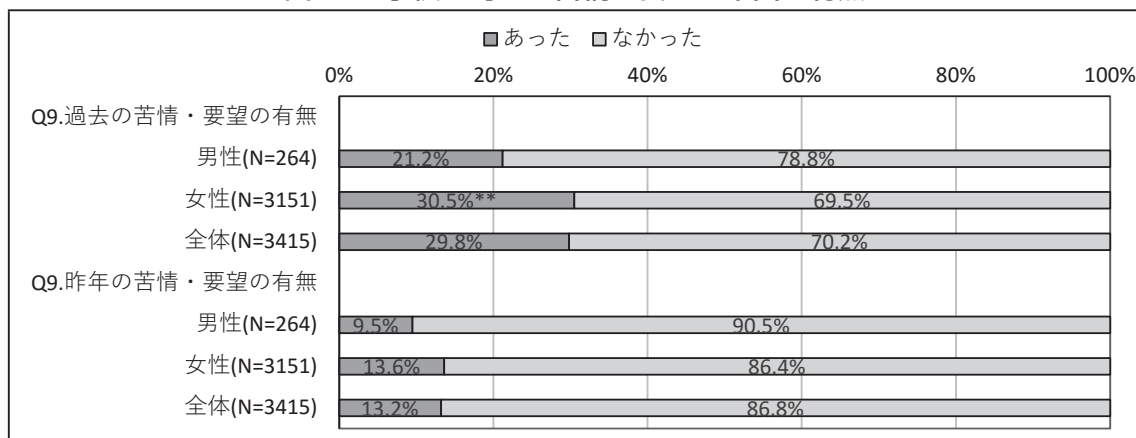
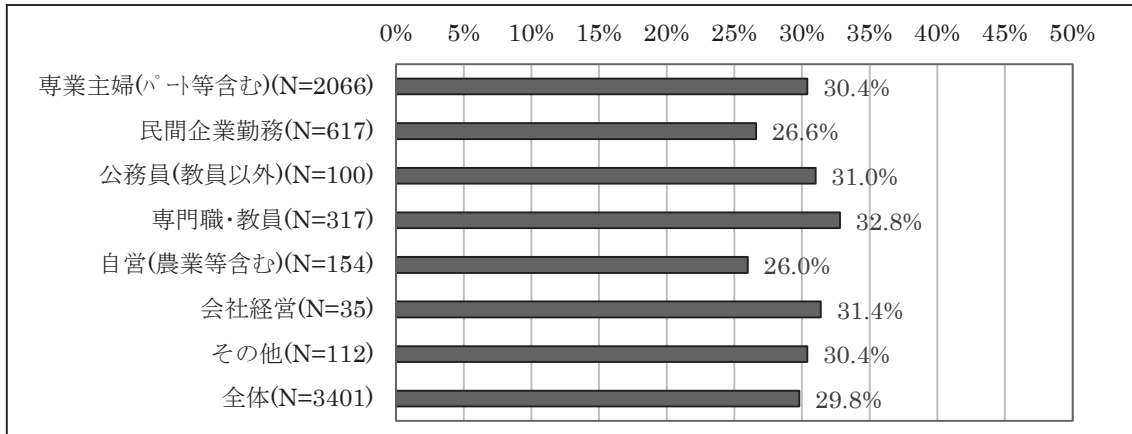


図24 苦情・要望の申出が「あった」割合—過去—



(2) 苦情・要望の申出回数

苦情・要望を申し出た保護者によるその回数(表14、表15)は、「全体」では「過去」2.12回、「昨年」1.47回となる。性別では、「過去」では「男性」2.32回・「女性」2.11回となり、「昨年」では「男性」1.94回・「女性」1.44回となるように、有意差は見出されなかったものの、「男性」の回数がわずかばかり多めになる。男性の場合、苦情・要望申出の有無では女性よりもその比率が低かったが、回数では女性を上回ることになる。

表14 苦情・要望の申出回数—過去—

		度数	平均値	標準偏差	F
9-1. 苦情・要望を学校に過去に申し出た回数	男性	56	2.32	2.92	.389
	女性	998	2.11	2.46	
	合計	1054	2.12	2.48	

ns.

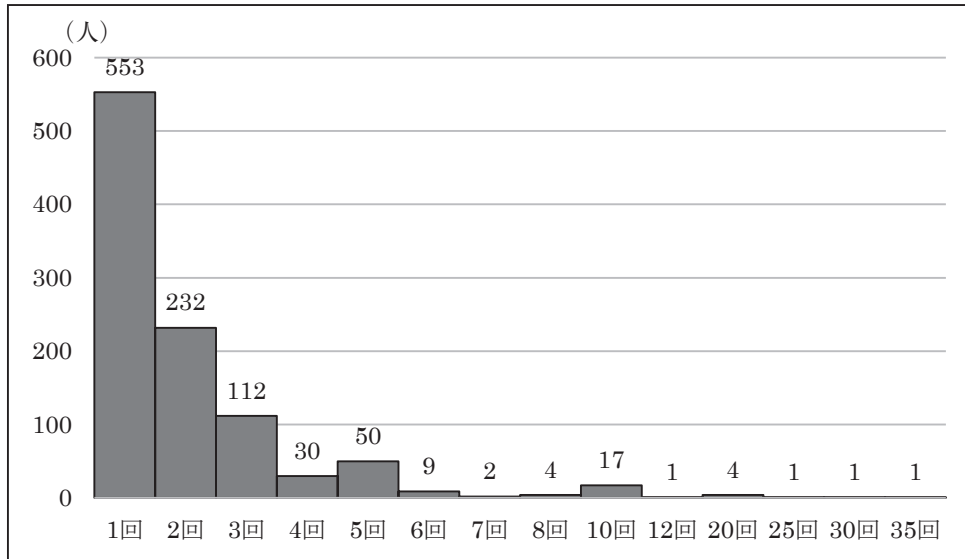
表15 苦情・要望の申出回数—昨年—

		度数	平均値	標準偏差	F
9-2. 苦情・要望を学校に昨年に申し出た回数	男性	25	1.94	2.06	3.13
	女性	445	1.44	1.32	
	合計	470	1.47	1.37	

ns.

「過去」の苦情・要望申出回数の分布を図示すると(図25)、「1回」が553人で、全体の54.4%を占める。次いで「2回」(232人、22.8%)、「3回」(112人、11.0%)となり、「10回」以上は合計25人になる(2.5%)。なお、最高は「35回」(1人)である。

図25 苦情・要望の申出回数－過去－



(佐藤 晴雄)

3. 苦情・要望に対する是非の認識 (10)

保護者に対して、「自分以外も含めて、保護者が次のような理由で苦情や要望を学校に申し出ることをどう考えますか」という質問文の下に、以下の質問項目について、それぞれ「1. 当然だと思う－2. ある程度は当然だと思う－3. あまり望ましくない－4. 望ましくない」から択一回答を求めた。

- 10-1. わが子と仲のよくない子どもが同じクラスになったので、**クラス替えをして欲しい**
- 10-2. **わが子を攻撃** (いじめ・暴力) **し続ける子どもがいるので、十分指導して欲しい**
- 10-3. **わが子が親の言うことを聞かないので、学校で十分指導して欲しい**
- 10-4. 卒業アルバムにわが子の学校生活に関する写真が1枚もなかったため、**アルバムを作り直して欲しい**

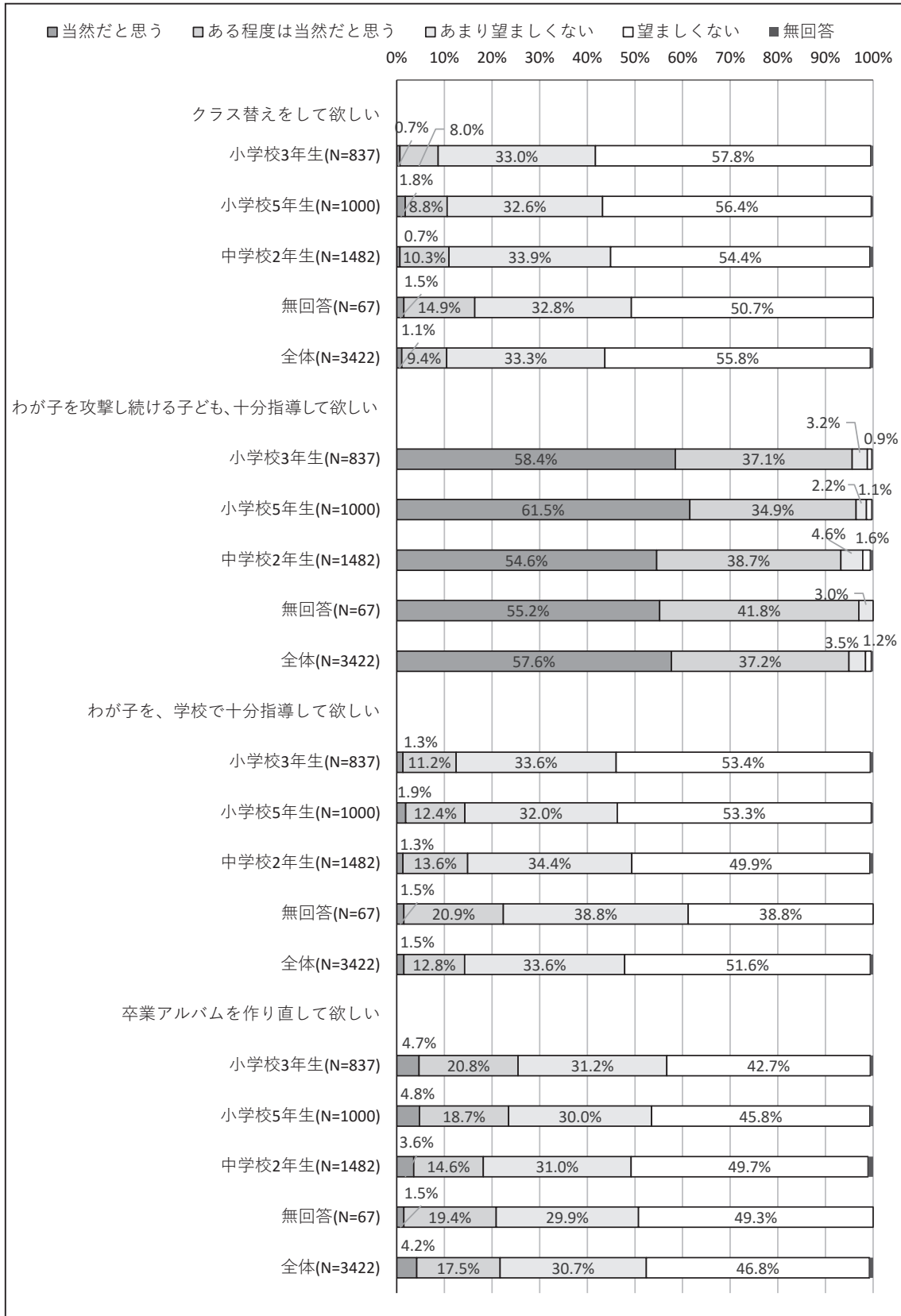
※太字部分がグラフの表記となる。

その結果は図26に示したようになり、「当然だと思う」という是認の回答は、「わが子を攻撃し続ける子ども、十分指導して欲しい」が最も多く、「全体」では57.6%と半数を上回っている。これを学年別に見ても、著しい差が見出されなかった。この回答「ある程度は当然だと思う」を加えると、実に94.8%が是認していることになる。これら数値は「いじめ」や暴力の指導はきちんと学校でやって欲しいという保護者の強い気持ちの表れになる。

次いで、「卒業アルバムを作り直して欲しい」が比較的是認されているようで、この「当然」+「ある程度当然」の合計値は「全体」で21.7%になる。中学生(18.0%)よりも小学生(小3年25.5%、小5年23.5%)の場合の方がやや数値が高くなっている(小3年は有意に高くなる。* $p < .01$)。

そのほか、「クラス替えをして欲しい」「わが子を…、学校で十分指導して欲しい」は是

図26 苦情・要望に対する是非の認識－学年別－



認める割合が低く、これらについて、多くの保護者は望ましくないとし、いわば無理難題だと受け止めていると言ってよい。ただし、これらについても10%前後が是認している実態は注目されてよい。ちなみに、これらの学年による数値差はほとんどなかった。

総じて言えば、「クラス替え」は学校にとって実現困難であり、また「わが子の指導」は学校本来の役割と言うよりも家庭で行うべきことであり、したがってこれらを是認する保護者が少ないことは健全さの表れだと言ってよい。一方、「攻撃する子どもを学校で指導」することは学校本来の役割であると考えられることから、保護者もこれを是認する傾向にある。「卒業アルバム」に関しては学校で実現困難ではあるが、「学校生活の写真が1枚もなかった」ことは同情に値すると認識されるため、是認する保護者がやや多いものと推量できるのである。

(佐藤 晴雄)

第13章 保護者のコミュニティ・スクールと学校のガバナンスに対する認識

1. コミュニティ・スクールに対する保護者の認識 (II)

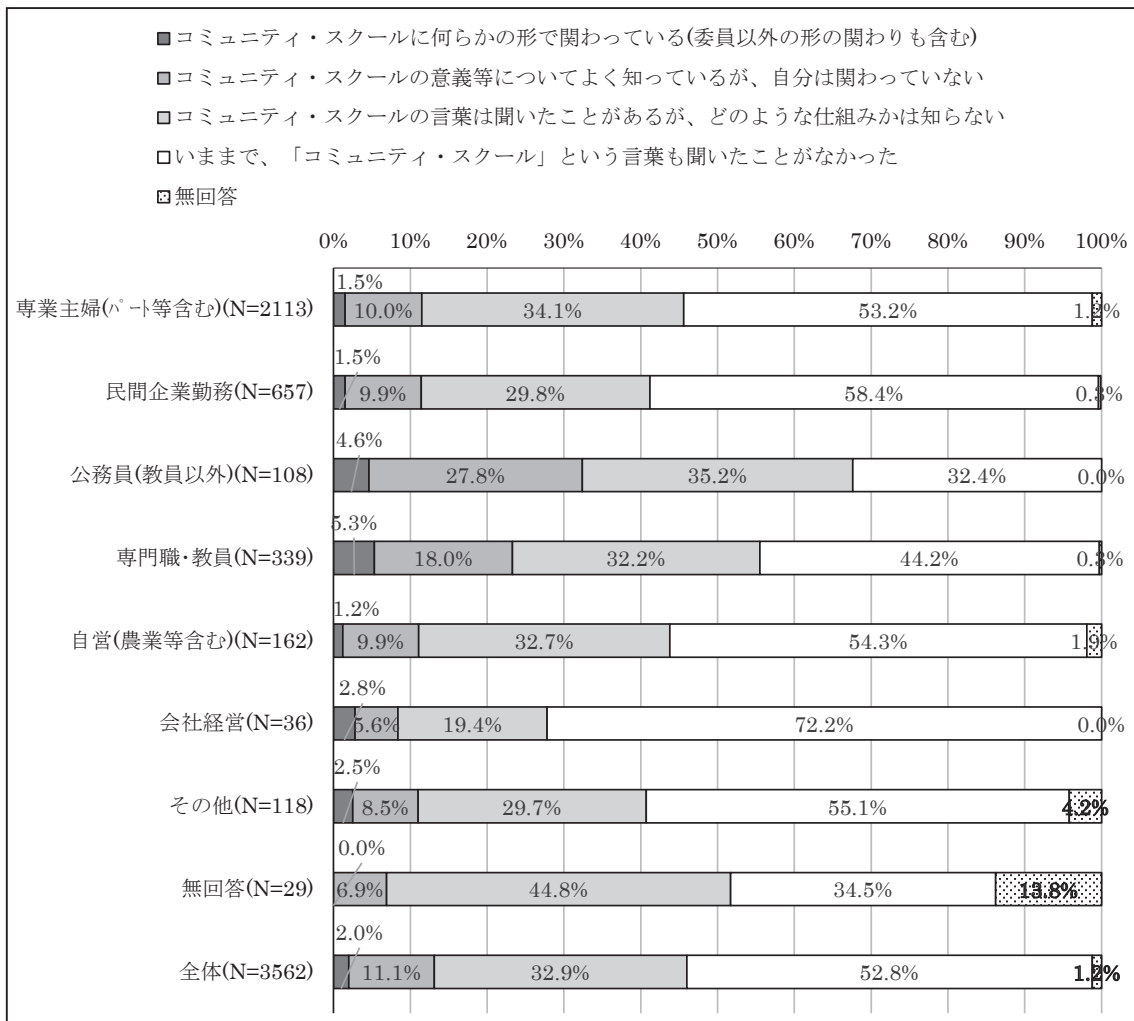
調査では、「コミュニティ・スクールについて、どの程度ご存知ですか」という質問文の下に、**図 27** に記した選択肢（図中の凡例）から択一回答を求めた。

(1) コミュニティ・スクールに対する保護者の認知度

保護者のコミュニティ・スクールに対する認知度（「関わっている」+「よく知っている」の合計値）は、全体で 13.1% に止まる。**図 27** に示した職業等別に見ると、認知度が高いのは「公務員」（32.4%）、「専門職・教員」（23.3%）であり、「専業主婦」（11.5%）も比較的高い。ただし、全体的にコミュニティ・スクールの認知度は低く、「コミュニティ・スクール」を耳にしたこともないものが全体で半数以上（52.8%）も存在している。今後、コミュニティ・スクールを拡充していくために検討すべき課題になると思われる。

この認知度を保護者の年代別に集計すると、**図 28** に記したように、「いままで、『コミ

図27 保護者のコミュニティ・スクール認知度—職業等別—

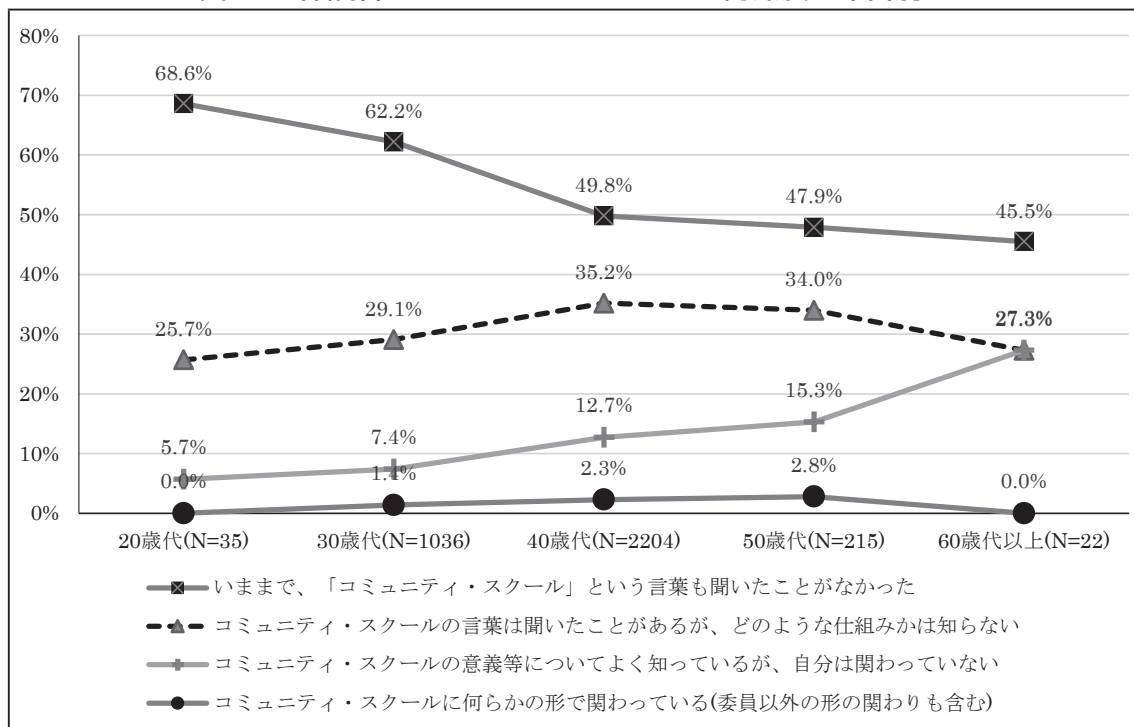


『コミュニティ・スクール』という言葉も聞いたことがなかった」は年代が高くなるにしたがって減少する傾向にある。「20歳代」では68.6%であったが、「30歳代」62.2%、「40歳代」49.8%、「50歳代」47.9%、「60歳代」45.5%となる。若い世代にはコミュニティ・スクールが浸透していない模様である。

これに対して、「コミュニティ・スクールの意義等についてはよく知っているが、自分に関わっていない」は年代が高くなるにつれて多くなる傾向が見出される。また、「コミュニティ・スクールの言葉は聞いたことがあるが、どのような仕組みかは知らない」は「20歳代」から「50歳代」にかけて増加しているが、それ以後の年代ではやや低下している。

「コミュニティ・スクールに何らかの形で関わっている」は「40歳代」と「50歳代」で相対的に高い数値を見せるが、数値そのものは極めて低い。

図28 保護者のコミュニティ・スクール認知度一年代別



これらの回答をコミュニティ・スクール指定の有無別に集計すると(表16)、『『コミュニティ・スクール』という言葉も聞いたことがなかった』の回答を見ると、コミュニティ・スクール(以下、「指定校」)の44.0%に対して、未指定校は69.3%と約25ポイントも上回る。そして、「コミュニティ・スクールの意義等についてはよく知っているが、自分に関わっていない」では、指定校38.2%・未指定校25.0%と前者が後者を有意に上回る。「コミュニティ・スクールの言葉は聞いたことがあるが、どのような仕組みかは知らない」及び「コミュニティ・スクールに何らかの形で関わっている」についても指定校の数値が未指定校よりも高い。なお、コミュニティ・スクールに関わりを持っている保護者は指定校でも2.8%(62人)に過ぎなかった。なお、未指定校でも関わりを持つ保護者が存在するが、これは他校のコミュニティ・スクールへの関わりだと解せられる。

表16 CS指定の有無とコミュニティ・スクール認知度

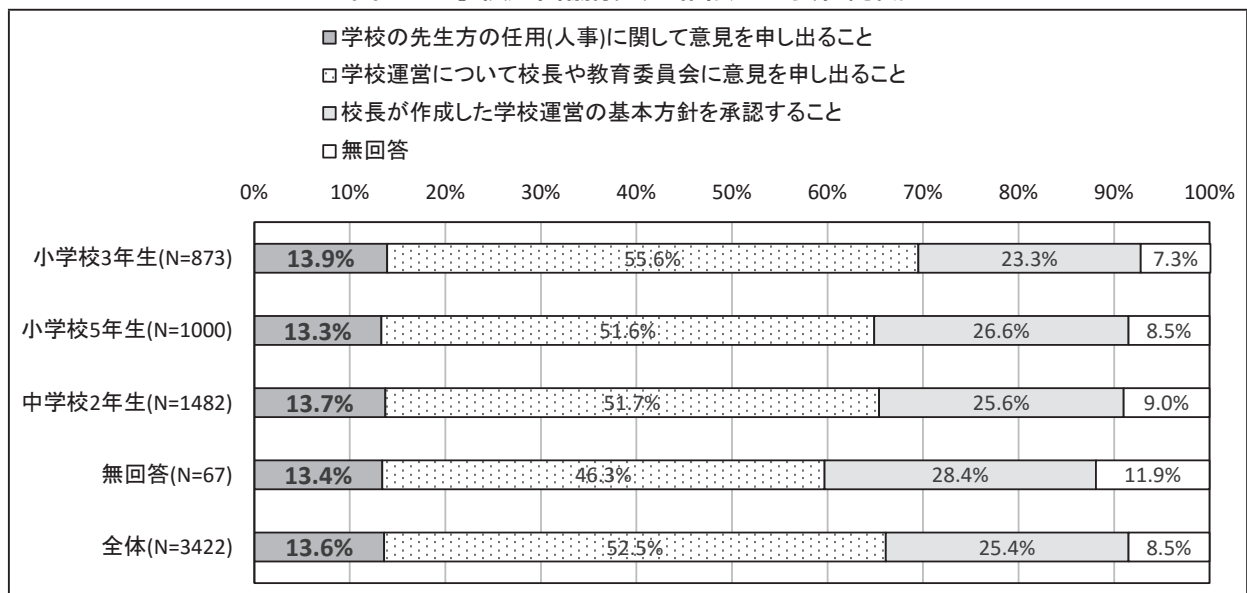
	11.コミュニティ・スクールについて、どの程度ご存じですか				合計
	いままで、「コミュニティ・スクール」という言葉も聞いたことがなかった	コミュニティ・スクールの言葉は聞いたことがあるが、どのような仕組みかは知らない	コミュニティ・スクールの意義等についてよく知っているが、自分に関わっていない	コミュニティ・スクールに何らかの形で関わっている(委員以外の形の関わりも含む)	
コミュニティ・スクール	度数 969	841	331	62	2203
	% 44.0%	38.2%	15.0%	2.8%	100.0%
未指定校	度数 913	330	66	9	1318
	% 69.3%	25.0%	5.0%	0.7%	100.0%
全体	度数 1882	1171	397	71	3521
	% 53.5%	33.3%	11.3%	2.0%	100.0%

2. コミュニティ・スクールにおける 学校運営協議会の権限に対する重要性認識 (12)

(1) 学校運営協議会権限の重要性認識

調査では、「コミュニティ・スクールに置かれる学校運営協議会等は以下の1～3までの3つの役割を担い、地域や保護者の学校運営参画を実現する仕組みです。1～3のうち、あなたが重要だと思うものを一つ選んでください」という質問を設定した。

図29 学校運営協議会の権限の重要性認識



その結果(図29)、「全体」で「学校の先生方の任用(人事)に関して意見を述べること」(以下、「任用意見」と略す)13.6%、「学校運営について校長や教育委員会に意見を申し出ること」(以下、「運営意見」)52.5%、「校長が作成した学校運営の基本方針を承認すること」(以下、「承認」)23.3%となった。「運営意見」が最も多く、「任用」が最低となる。ただし、「任

用意見」は教職員調査では6.2%に止まることから、保護者の方がその意見申出の権限（役割）を重視する傾向にあると言ってよい。ちなみに、教職員調査では、「運営意見」44.9%、「承認」39.5%となり、前者が低く、後者が高くなっているが、これは教育委員会に対する運営意見申出を避けようとする姿勢が教職員には若干強いことの表れだと言えそうである。

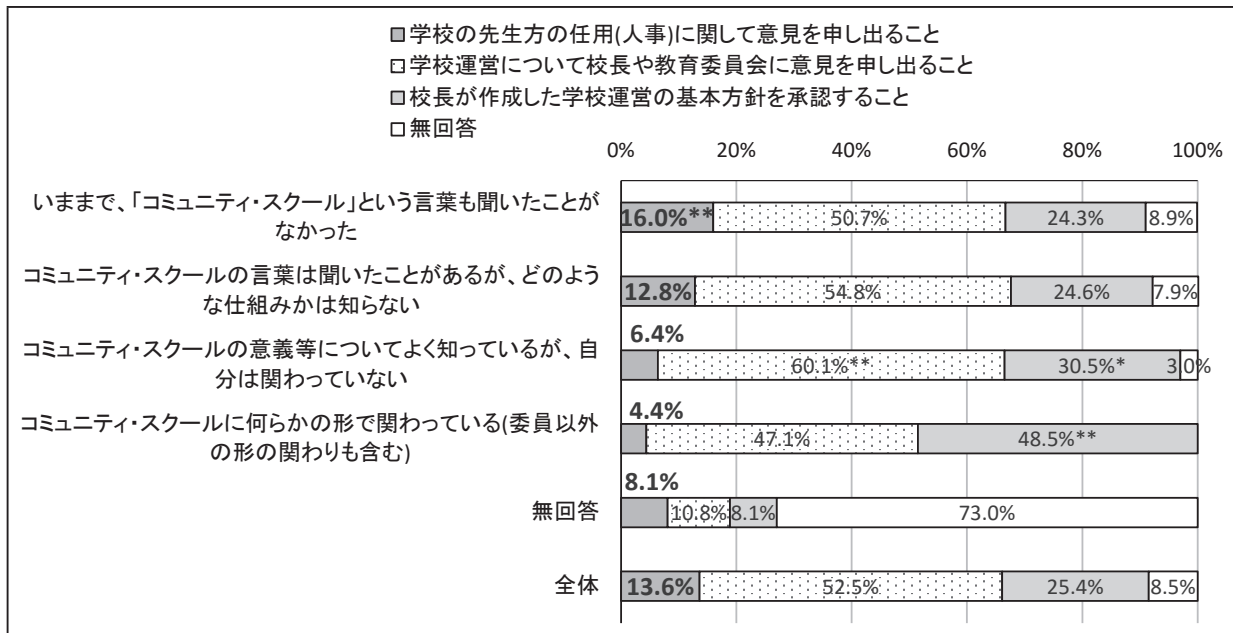
保護者回答の学年別集計によれば、これら数値に学年等による差がほとんど見出されなかった。なお、「無回答」が1割近く存在しているが、これは「わからない」という理解不足を含んでいると言えるだろう。

(2) コミュニティ・スクール（CS）への関わりから見た学校運営協議会権限の重要性認識

前述したコミュニティ・スクール（CS）への関わり別に学校運営協議会権限の重要性認識を見ると、興味深いことに、コミュニティ・スクールへの関わり等が弱いほど、「任用意見」を重視する傾向が見出された（図30）。その数値は、「『コミュニティ・スクール』という言葉も聞いたことがなかった」16.0%、「言葉は聞いたことがあるが、どのような仕組みかはわからない」12.8%、「意義等についてよく知っているが、自分は関わっていない」6.4%、「何らかの形で関わっている」4.4%となる。

これに対して、「承認」は対照的な傾向を見せており、関わりが強いほど数値が高くなっている。その回答値は、「言葉も聞いたことがない」24.3%、「言葉は聞いたことがあるが、どのような仕組みかは知らない」24.6%、「意義等についてはよく知っているが、自分は関わっていない」30.5%、「何らかの形で関わっている」48.5%という具合になる。

図30 CSへの関わりと学校運営協議会権限の重要性認識



**p<.01、*p<.05

「何らかの形で関わっている」保護者の回答は教職員のそれに近くなるが、このことは保護者でも学校に深く関わりと当事者意識が強まり、教職員のような考え方に近づくからだと考えられる。「任用意見」に関しては、関わり弱い（言葉も聞いたことがない保護者を含む）保護者は教職員の立場よりもわが子の親という立場から、望ましい教職員の配置等を望む姿勢があるからだと考えられる。

※本稿は、コミュニティ・スクール研究会編『平成 27 年度文部科学省委託調査研究「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」総合マネジメント力強化に向けたコミュニティ・スクールの在り方に関する調査研究報告書』（2016 年 3 月）における拙稿「第 14 章 保護者・教職員のコミュニティ・スクールに対する認識」を基にして、一部書き改めたものである。

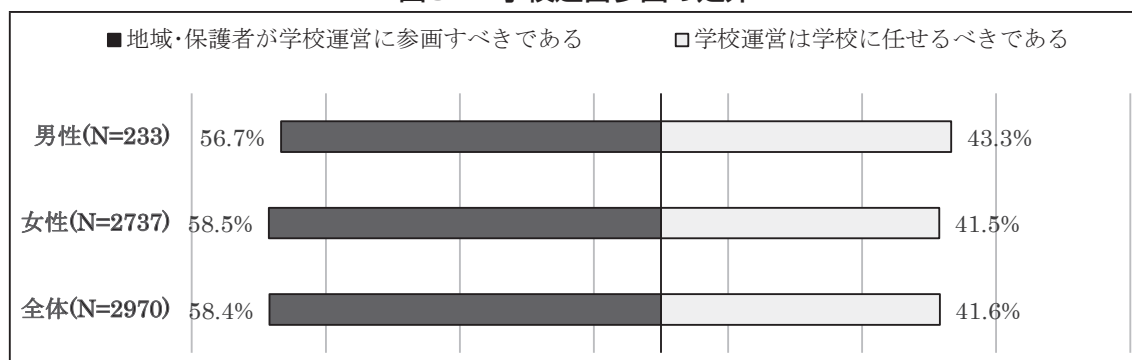
3. 地域・保護者による学校運営参画(学校のガバナンス)の捉え方

調査では、「(学校運営協議会の) 仕組みについてどう思いますか。「1」または「2」のいずれかを選んでください」という質問を設けて、回答を求めた。なお、ここでは性別による比較を取り上げることにした。

(1) 学校運営参画の是非

「地域・保護者が学校運営に参画すべきである」⇔「学校運営は学校に任せるべきである」のいずれかの回答を求めたところ、前者を選んだ者は、「全体」で 58.4% となり、性別では「男性」58.5%・「女性」56.7%となり、性別による有意差はなかった。後者の「学校運営は学校に任せるべき」は「全体」及び男女共に 40% 強にとどまり、参画是認の回答よりも若干数値が低い。地域・保護者の学校運営参画については是認する者が多いとはいえ、それが著しい傾向だとは言えなかった。

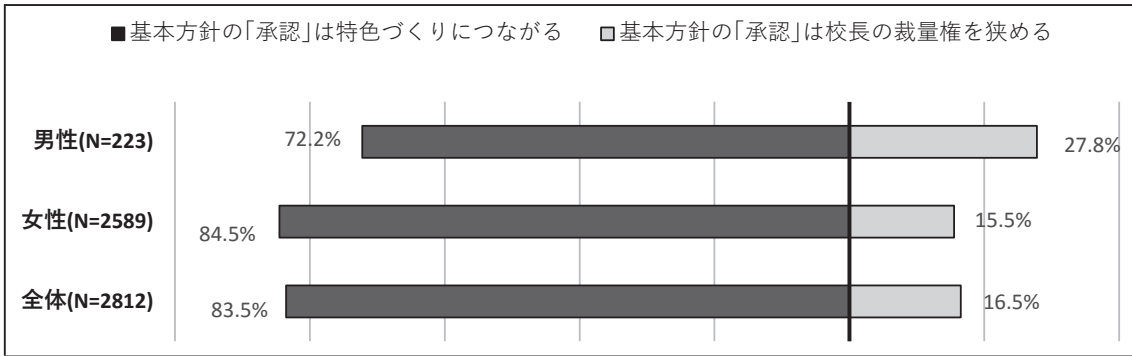
図31 学校運営参画の是非



(2) 「承認」行為の是非

学校運営協議会による「承認」については、「全体」で「基本方針の『承認』は特色づくりにつながる」(83.5%) ⇔ 「基本方針の『承認』学校の裁量権を狭める」(16.5%) となり、肯定的な回答が著しく高い。これを男女別に見ると、「特色づくりにつながる」は男性 72.2% に対して女性 84.5% となり、女性が男性を有意に上回る結果となった (**p<.01)。男性は、校長等の裁量権を尊重する姿勢が若干強いようである。

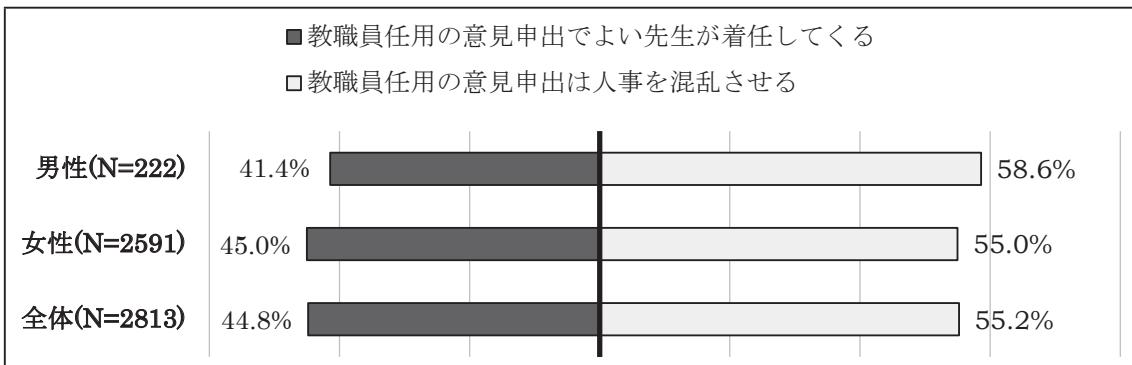
図32 「承認」の是非



(3) 教職員の任用意見申し出

教職員の任用意見申し出については、「全体」で「教職員の任用意見申し出でよい先生が着任してくる」(44.8%) ⇔ 「教職員の任用意見申し出は人事を混乱させる」(55.2%) となり、後者が若干上回った。任用意見に関しては若干否定的な見解が多い結果となった。この数値は男女間に意味ある差が見出されなかったところである。ただし、後述するように、教職員調査の結果に比べれば、肯定的な回答が多く、その意味では任用意見に対して保護者の方が肯定的な見解をもつ者が相対的に多いと言える。

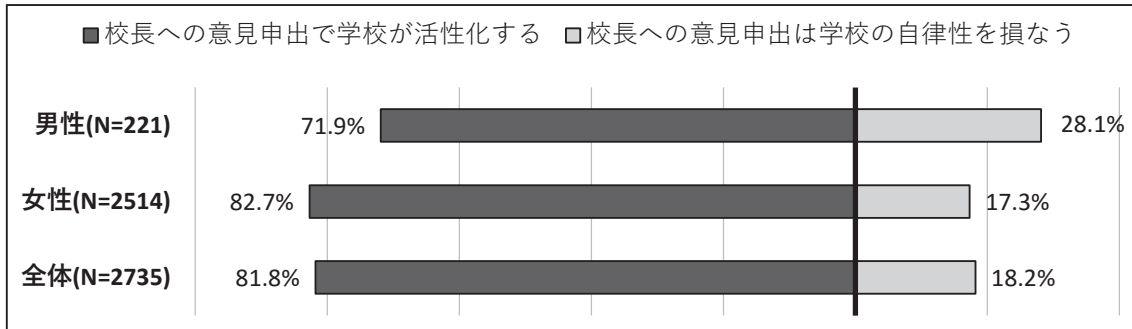
図33 教職員の任用意見



(4) 校長への運営意見申し出

校長に対する学校運営意見申し出については、「全体」で「校長への意見申し出で学校が活性化する」(81.8%) ⇔ 「校長への意見申し出は学校の自律性を損なう」(18.2%) となり、肯定的な回答が著しく高くなった。男女間では前者の肯定的な回答が男性 71.9% に対して、女性 82.7% となり、女性の数値が男性を有意に上回った (**p<.01)。基本方針の「承認」と同様に、男性は女性に比べて校長や学校の自律性を重視する傾向が若干見られたところである。

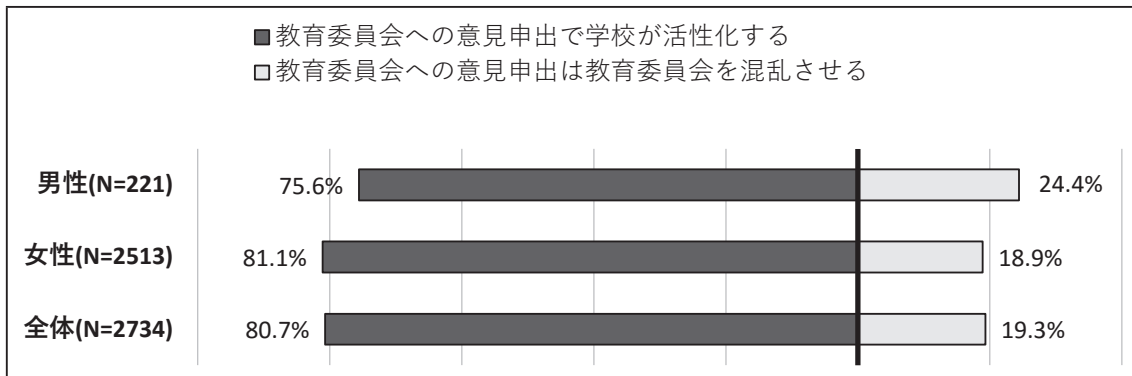
図34 校長への意見申し出



(5) 教育委員会への意見申し出

教育委員会に対する学校運営意見申し出については、「全体」で「教育委員会への意見申し出で学校が活性化する」(80.7%) ⇔ 「教育委員会への意見申し出は教育委員会を混乱させる」(19.3%) であり、肯定的見解の方が著しく多い。肯定的な回答の男女差を見ると、男性 75.6% に対して、女性は 81.1% と有意に上回った (*p<.05)。

図35 教育委員会への意見申し出



(6) 結

以上の結果を総じて言えば、コミュニティ・スクールに置かれる学校運営協議会の役割及びその仕組みを通じた地域・保護者の学校運営参画に対して保護者は肯定的な見解を抱き、このことが学校改善などに資するものと捉えている。しかし、教職員の任用意見申し出について、若干否定的な見解を抱いていると言えるのである。また、性別で見ると、男女共に学校運営協議会の役割を肯定的に捉える者が圧倒的に多いものの、男性は女性よりも学校の自律性を尊重しようとする者がわずかな差ではあるが多かった。その解釈は難しいが、おそらく男性には日中の常勤勤務者が多いことから、学校運営協議会のような仕組みが設置されてもなかなか関われないという実態が影響している可能性がある。

(佐藤 晴雄)

第14章 家庭教育に関する学習や支援等の実態(14)

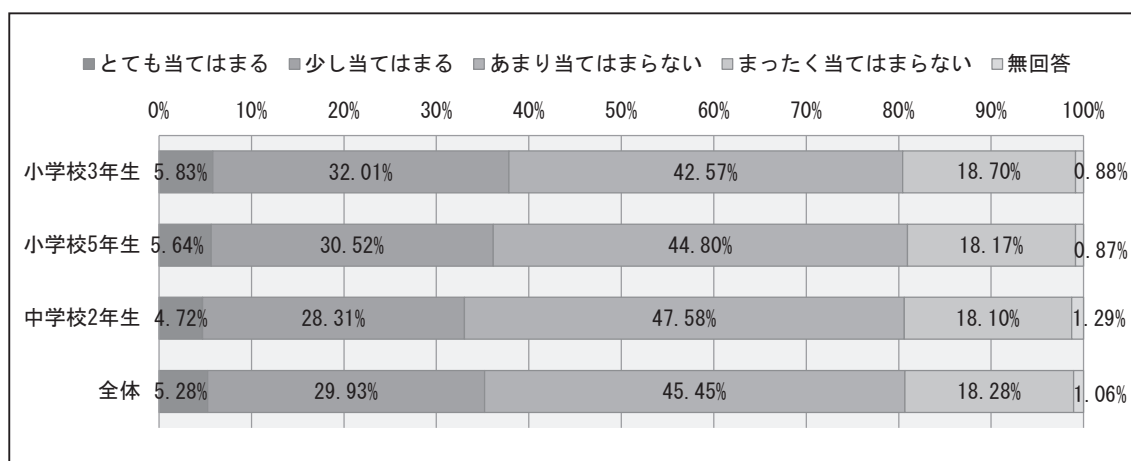
ここでは家庭教育に関する学習や支援等の実態について、保護者に問うた設問を子どもの学年別に整理したデータの結果について解説する。

1. 家庭教育に関する雑誌や本を読むようにしている保護者

家庭教育に関する雑誌や本などの紙媒体によって学習する保護者（「とても当てはまる」と「少し当てはまる」の肯定的な回答結果）は、全体の35%である。つまり、約7割の保護者は、雑誌や本以外の手段で家庭教育に関する知識を得ていることが明らかとなった。

雑誌や本から家庭教育に関する知識を学習する保護者の割合は、子どもの学年が上がるにつれて減少する傾向が示されている。この結果の要因として、家庭教育に関する雑誌や本の多くが、そもそも幼児や小さい子ども向けの子育てをテーマとしたものであることも考慮されるのではないだろうか。

図36 家庭教育に関する雑誌や本を読むようにしている



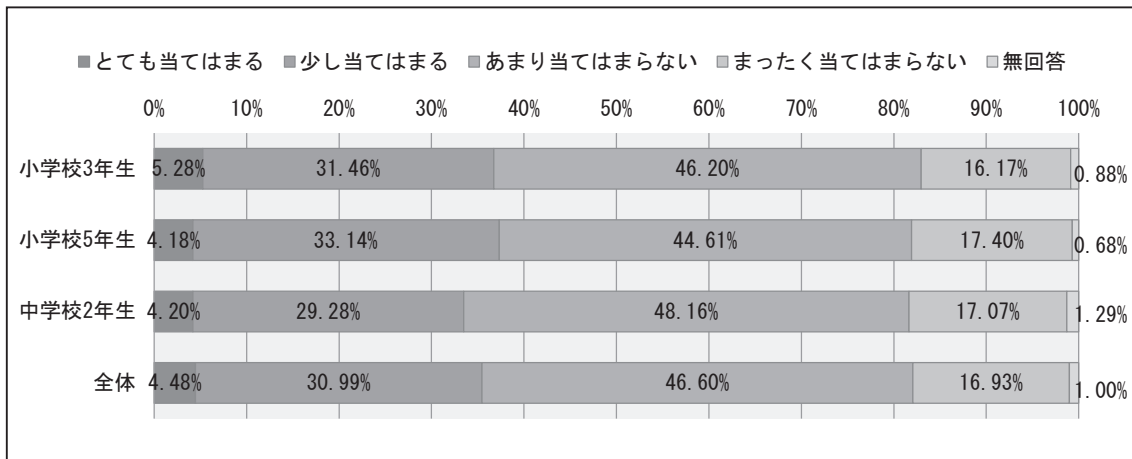
2. 家庭教育に関するテレビ番組やホームページを見るようにしている保護者

家庭教育に関するテレビ番組やホームページを見るようにしている保護者（「とても当てはまる」と「少し当てはまる」の肯定的な回答結果）は、全体の35%である。この結果は、上述の本や雑誌を読むようにしている保護者の割合と同程度である。一方では、中学生の保護者よりも、小学生の保護者の方が、家庭教育に関する本や雑誌を読む傾向にあることがうかがえる。

3. 学校によってしつけの在り方を示されている保護者

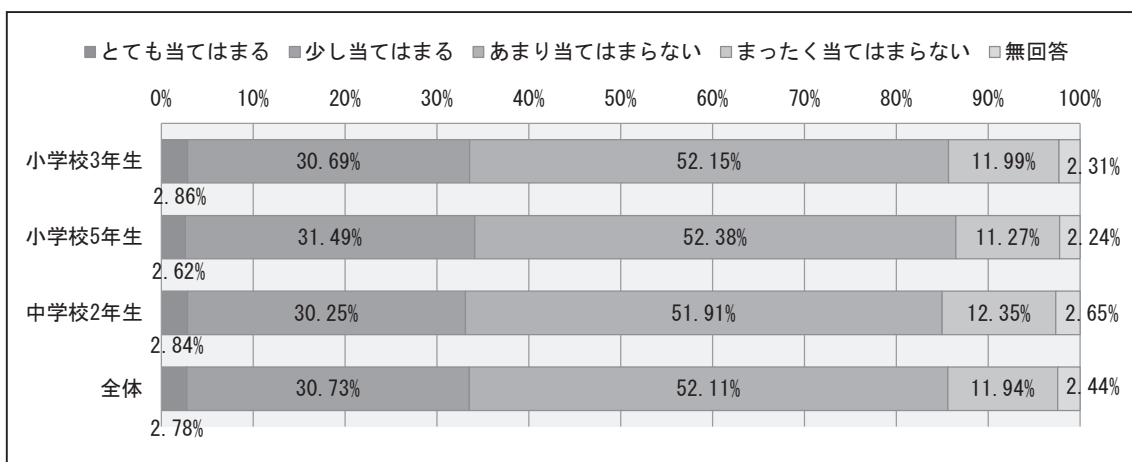
学校が保護者に対してしつけの在り方を示していると回答した保護者（「とても当てはまる」と「少し当てはまる」の肯定的な回答結果）は、全体の34%である。約3割の保護者が、学校が示したしつけの在り方を認識している。この結果において、校種の差は特

図37 家庭教育に関するテレビ番組やホームページを見るようにしている



に見られないものの、「まったく当てはまらない」の回答結果に着目してみると、小学校よりも中学校において若干その割合が高くなっているものの、学年による差はほとんどみられない。

図38 学校が保護者に対してしつけの在り方を示している

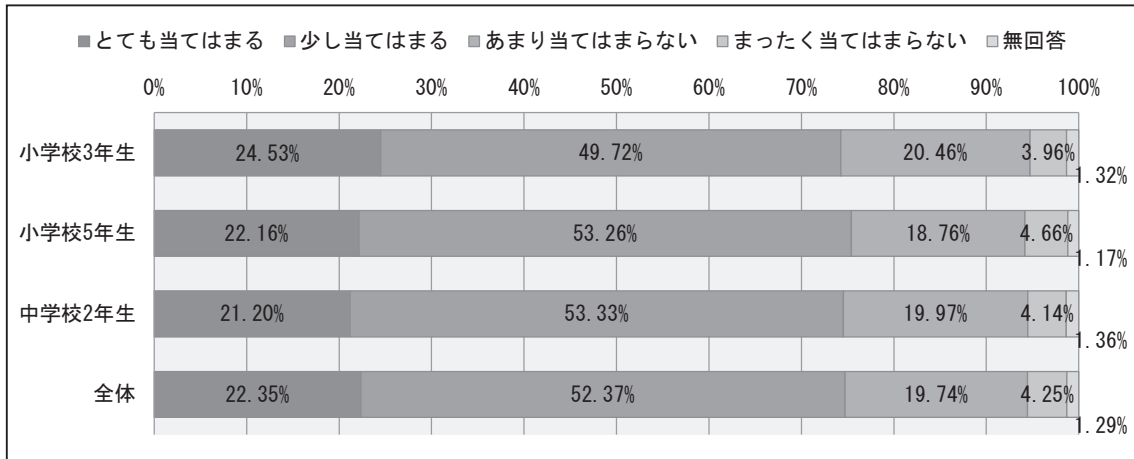


4. 自分自身の父母や祖父母から子育ての知恵を学んでいる保護者

自分自身の父母や祖父母から子育ての知恵を学んでいると回答した保護者（「とても当てはまる」と「少し当てはまる」の肯定的な回答結果）は、全体の75%と高い割合を示している。子どもの学年別にみても、どの学年の保護者もその70%台の者が自分自身の父母や祖父母から子育てについて学んでいるという結果が得られた。

核家族化する社会、インターネット社会と呼ばれる現代社会ではあるものの、家庭教育に関しては、家庭の中での世代間交流を通じた子育ての知恵の継承が約7割という割合で行われていることが明らかとなった。その一方で、全体の4%の家庭では、家庭内での子育ての知恵の継承がまったく行われていないことも示されている。

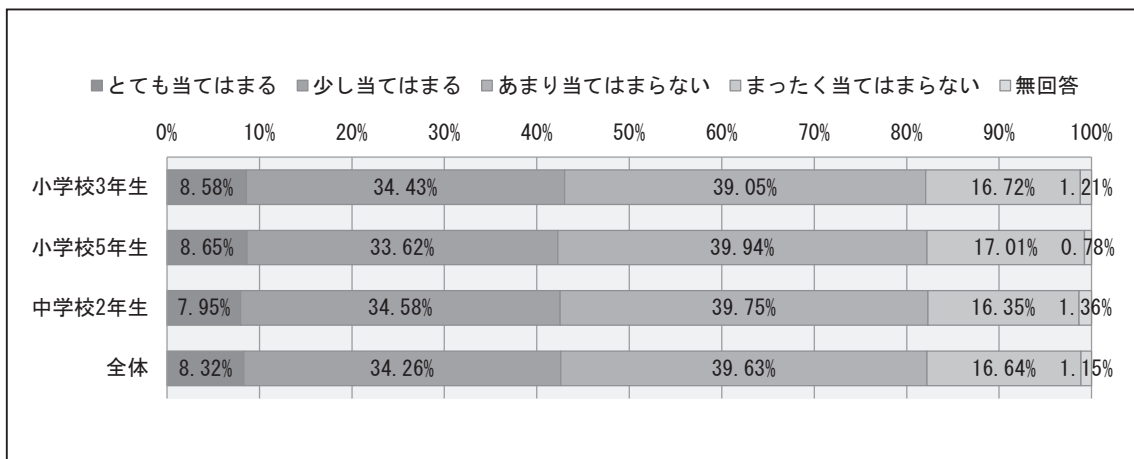
図39 自分自身の父母や祖父母から子育ての知恵を学んでいる



5. 地域の子育て経験者や高齢者などから子育ての知恵を学んでいる保護者

地域の子育て経験者や高齢者などから子育ての知恵を学んでいると回答した保護者（「とても当てはまる」と「少し当てはまる」の肯定的な回答結果）は、全体の43%を示している。この結果を子どもの学年別にみると、同じような傾向が示されている。この結果から、保護者は本や雑誌やテレビ番組やホームページから得られる知識よりも、自分自身の父母や祖父母、地域の子育て経験者や高齢者などの子育て経験者から直接的に学んでいる様子が明らかとなった。ただし、「まったく当てはまらない」と回答した割合が全体の17%であり、地域の子育て経験者や高齢者などと交流する機会のない保護者が一定の割合で存在していることも示唆されている。

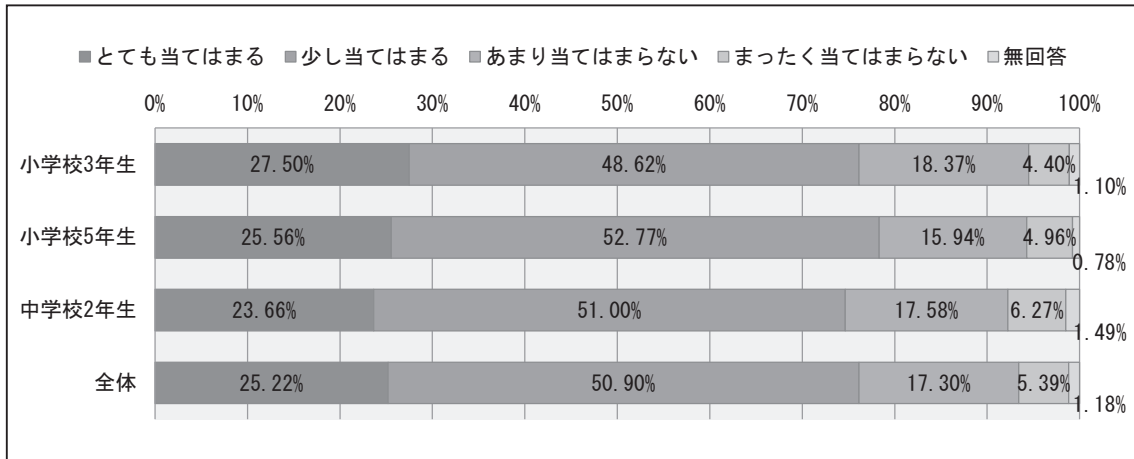
図40 地域の子育て経験者や高齢者などから子育ての知恵を学んでいる



6. 横のつながりから子育ての情報を得ている保護者

保護者同士の横のつながりから子育ての情報を得ていると回答した保護者（「とても当てはまる」と「少し当てはまる」の肯定的な回答結果）は、全体の76%である。この結果は、保護者自身の父母や祖父母から子育ての知恵を学んでいる者の割合と同程度である。

図41 保護者同士の横のつながりから子育ての情報を得ている

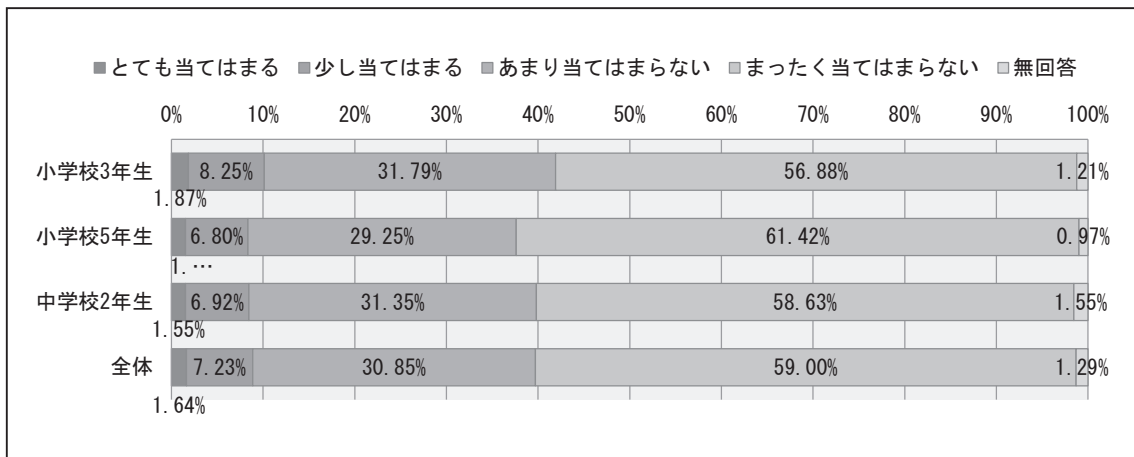


「とても当てはまる」と回答した割合は、子どもの学年が上がるにしたがって減少し、「まったく当てはまらない」と回答した割合は、子どもの学年が上がるにつれて増加している。つまり、中学校の保護者よりも小学校の保護者の方が、一般的にPTA活動や学校支援ボランティアが活発であることから保護者同士の横のつながりが密接なために、このような回答結果が示されたのではないであろうか。

7. 行政の子育て相談窓口に相談する保護者

行政の子育て相談窓口で相談すると回答した保護者（「とても当てはまる」と「少し当てはまる」の肯定的な回答結果）は、全体の9%である。この割合は他の項目と比較すると、極めて低い数値である。子どもの学年別にみると、小学校3年生の保護者が最も多く行政の相談窓口を活用しているものの、その割合は約1割にとどまっている。保護者にとって、行政の子育て相談窓口は、あまり身近に感じられないのであろうし、それよりも身近な両親や祖父母、地域の子育て経験者、他の保護者に相談する傾向にあることがうかがえる。一方で、身近に相談できる子育て経験者がいない保護者が一定の割合で存在することが明らかになったことにより、行政の子育て相談窓口はこうした保護者にとって、特に必要な情報提供先であるであろう。

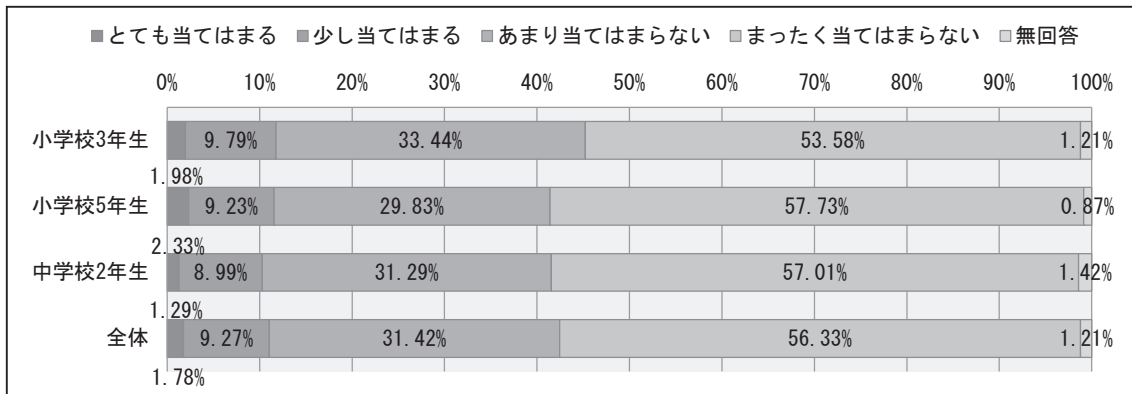
図42 行政の子育て相談窓口で相談する



8. 公民館や児童館などが開催する子育て・教育に関する講座に参加する保護者

公民館や児童館などが開催する子育て・教育に関する講座に参加すると回答した保護者（「とても当てはまる」と「少し当てはまる」の肯定的な回答結果）は、全体の11%である。この割合は、子どもの学年が上がるにつれて減少していくものの、保護者の公民館や児童館で行われる講座への参加率は少ない傾向にあることが明らかとなった。特に、「まったく当てはまらない」と回答した割合が全体の56%であり、半数以上の保護者が、公民館や児童館の開催する子育て・教育に関する講座にまったく参加していないのである。

図43 公民館や児童館などが開催する子育て・教育に関する講座に参加している

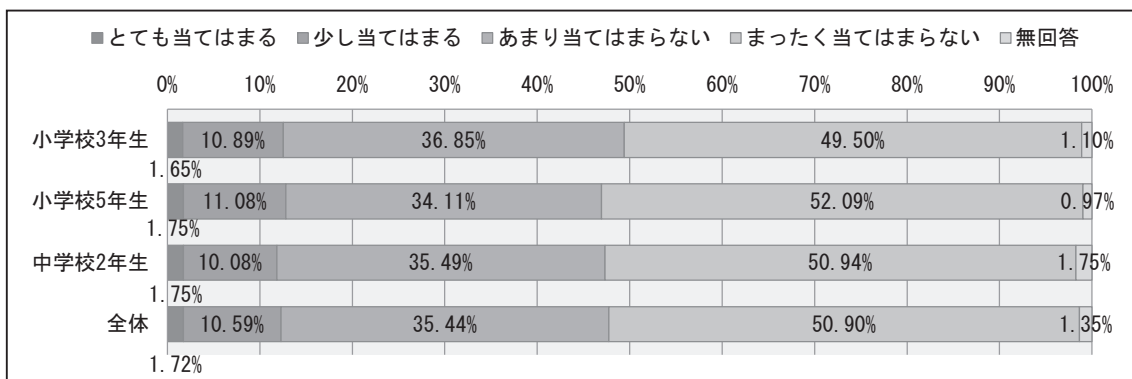


9. 地域の人たちがつくる家庭を支援する取り組みから子育ての知恵を学んでいる保護者

地域の人たちがつくる家庭を支援する取り組みから子育ての知恵を学んでいると回答した保護者（「とても当てはまる」と「少し当てはまる」の肯定的な回答結果）は、全体の12%である。この割合は、上述の公民館や児童館などが開催する子育て・教育に関する講座への参加率よりも高い傾向を示している。

以上の結果を俯瞰すると、保護者が子育ての知恵を学ぶ方法として、保護者にとってより身近に存在し、リアリティを有した子育て経験者から学んでいる様子が明らかになったといえるのではなかろうか。

図44 地域の人たちがつくる家庭を支援する取り組みから子育ての知恵を学んでいる



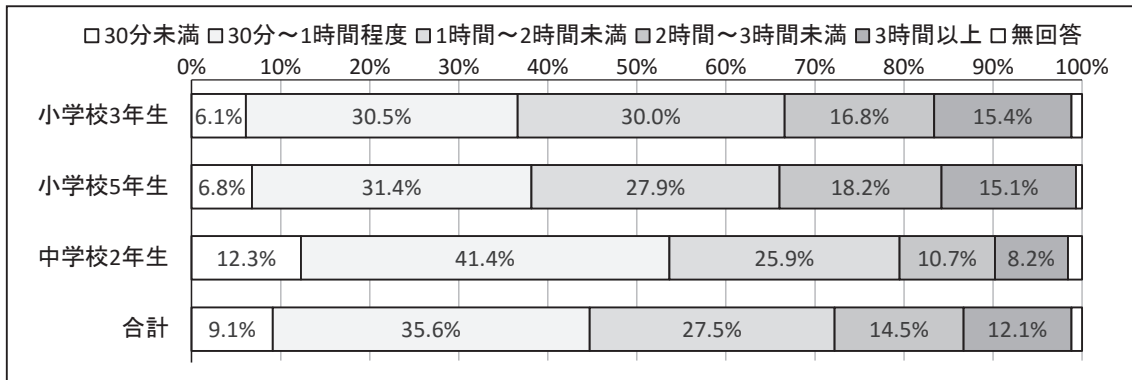
(柴田 彩千子)

※保護者調査の 15 16 は、第7章に記述。

第15章 わが子とのコミュニケーションの実態

保護者調査のうち「あなたは普段の日に、わが子とどれくらい話をしますか。」及び「あなたとわが子との会話についてお聞かせください。」の2つの問いについての調査解説を行う。調査の回答者数は3,562名となっている。

図45 保護者調査18 わが子との会話時間－学年別－



1. わが子との会話時間 (18)

この調査は児童生徒用調査の 14 との表裏の関係となっており、児童生徒にも同様の質問を設定している。

今回の調査から浮かび上がってきたことは、保護者が認識する会話時間と子供が認識する会話時間との著しい差である。

小学校3年の保護者の場合は「30分未満」の回答は6.1%であるが、児童生徒の回答は46.2%であり、両者間に40.1ポイントの差がある。親は話しかけているつもりであるが、子どもは何も聞いていないということであろう。同様に小学校5年の保護者では「30分未満」が6.8%であるが、児童生徒は25.6%で、18.8ポイントの差がある。中学校2年の保護者では「30分未満」が12.3%で、児童生徒は28.9%で、16.6ポイントの差がある。この保護者と児童生徒の会話時間のポイント差は学齢が上がるに従い、減少している。子どもと保護者との会話と言う認識が正しく理解され始めているからかもしれない。

しかし、自立していない低学年の児童に対して保護者は会話をしているつもりではあるが児童は少しも話をしてくれていないと感じているということになる。小学校3年生の保護者の「30分未満」と「1時間未満」の合計値は36.6%であるが、児童は72%になる。実に35.4ポイントとの違いがあり、保護者と3年生の児童生徒との会話に対する意識は著しく違うことになる。

前回の平成19年調査における小学3年の保護者が認識する会話時間を見ると、「30分未満」は5.3%であり、一方、児童生徒は36.8%で、31ポイントの差があった。同様に小学校3年生保護者では30分未満、1時間未満と答えている保護者は36.9%で児童は64.4%で27.5ポイントの差となっている。両調査には若干の数値が見られるが、保護者と児童生徒の認識の違いは同様の傾向にある。

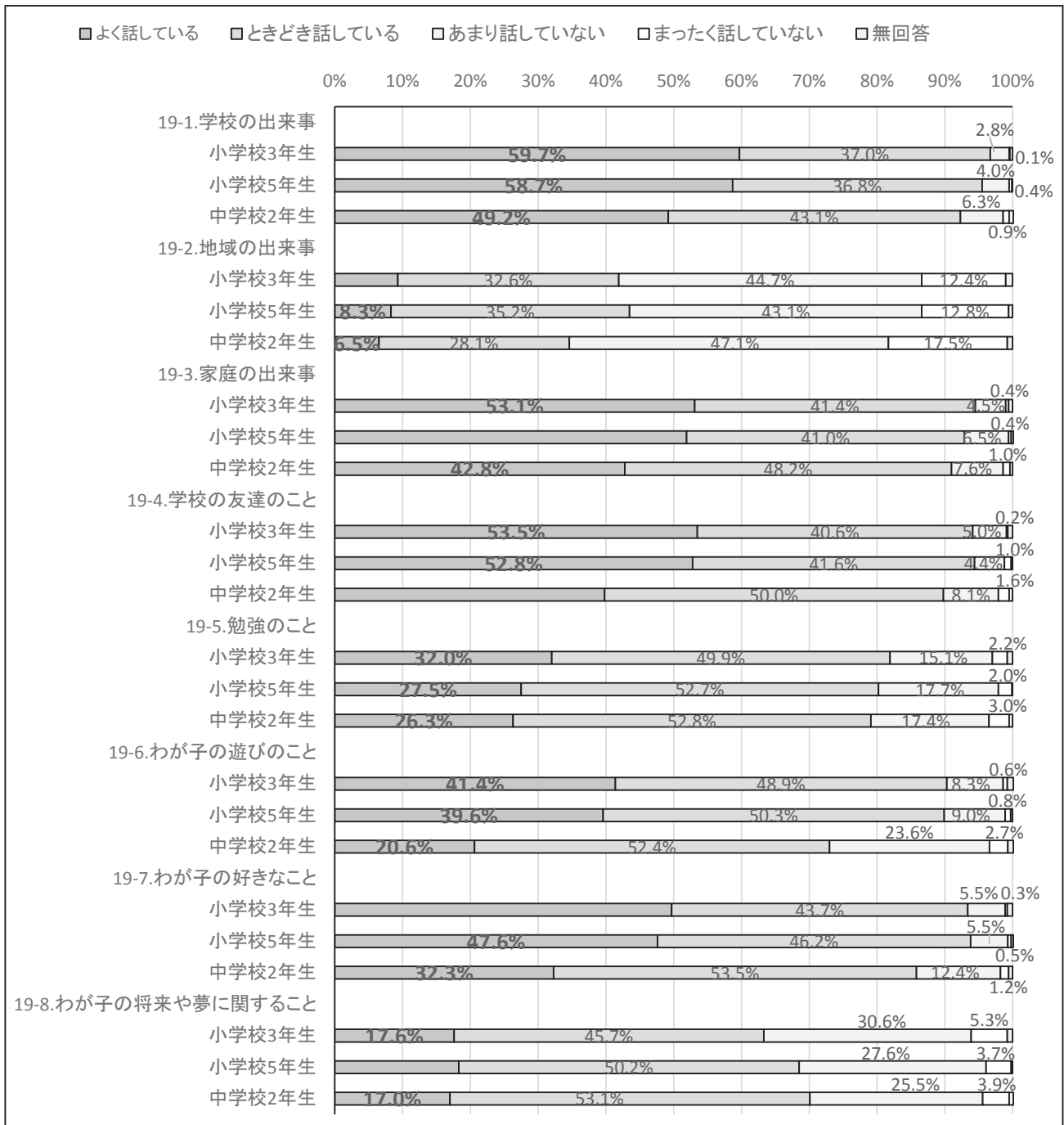
このことから、小学校3年生の児童生徒は保護者が考えている以上に孤独感、すなわち親とのコミュニケーションがとれていないという感情を持っていると言えないだろうか。保護者のわが子に対する話のかけ方に、何らかの改善の余地があると思われる。

2. わが子との会話内容 (19)

調査では図中の「学校の出来事」から「わが子の将来や夢に関すること」までの項目について、「よく話している」「ときどき話している」「あまり話していない」「まったく話していない」を4つの選択肢から択一回答を求めた (図46)。

この設問も児童生徒用調査の 12 との表裏の関係となっており、児童生徒にもほぼ同様

図46 わが子との会話内容－学年別－



の項目を設けている。

保護者も児童生徒も同様に「学校」や「家庭」の出来事を良く話をしているということであるが逆に、「地域の出来事」は45.4%が「あまり話していない」となり、14.8%が「まったく話していない」と言う。半数以上(60.2%)の保護者が「地域」に関してはわが子と話をしていないのである。また、「わが子の将来や夢に関すること」も31%が話をしていない点は注目に値する。確かに、「わが子の将来や夢」については学年進行に従って「話す」という回答の数値が若干上昇しているが、中学校2年生の保護者でさえも約7割にとどまる。、そのほか、「わが子の遊びのこと」「学校の友達のこと」「わが子の好きなこと」など個人的なことに深入りするような会話は学年が上がるに従って少なくなる傾向にある。児童生徒の立場から見れば、成長するにつれて個人的なことを親に話したからなくなるのであろう。

(藤原 義朗)

第16章 保護者にとっての相談相手(21)

現在の保護者は、核家族化や勤労状況により孤立化が促進されており、以前のように教育を相談する知人や祖父母、親戚も少なく、インターネットやラインの情報に寄り添って家庭教育を不安を背景に行っているというのがメディアによるステレオタイプである。果たして本当に保護者たちは孤立状況に追い込まれているのであろうか。その点を調査するため設問 21 を設定した。その結果をみると、おおむね 5 名程度の相談者を保護者は確保しており、メディアが画像で示すほど、孤立化は促進されていないのではないかというのが印象である。

では、保護者の所属がどう影響するのであろうか。グラフにすると大きな差があるようなイメージを持つ可能性があるので、ここでは下記の数値の表を参照されたい。

相談人数に平均値は 5 名から 6 名の領域であり、所属によって差がほとんど認められないコミュニティ・スクールの指定の有無以外では若干の差が存在している。男性と女性では、多くの母親が教育を担っている状況から女性の教育に係る相談相手は他の平均値と近似値であるが、父親の相談相手は著しく少なくなっている。母親主導の子育ての文化が今も脈々と継承されていることが見えてくる。世代では、20 代から 40 代まで徐々に少なくなりつつも同じ相談人数を維持しているが、50 代になると減少し、60 代では激減する。これは子育てというよりも同じ地域にいながらも保護者の関係性が高齢になるほど薄くなっていくことを示しており、子育てと同時に地域の高齢者対応の重要性を示しているといえよう。また、自分の子が低学年ほど相談相手が多く、高学年へと上がるに従って相談相手が少なくなる傾向が存在する。小学校高学年から中学年では、児童生徒も思春期を迎えるなど課題発生の可能性も高くなるが、一番相談相手が必要なときに多くの相談相手を確保できない現状が見えてくる。学校におけるスクールカウンセラーやソーシャルワーカー、また学校担任に相談してくる保護者が高学年になるほど多くなる現場の認識とも一致しているといえよう。

ここまでは、個人では選択できない属性の傾向であったが、自己努力で選択してきた属性での相談人数の傾向はどうであろうか。PTA の役員をしているかしないかの差は歴

表17 保護者にとっての相談相手の数

(人)

所属	コミュニティスクール設置校	コミュニティスクール未設置校	男性	女性	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代以上	現在、役員である	過去に役員経験有り	役員経験はない
平均人数	5.302	5.143	3.804	5.355	5.891	5.617	5.173	4.207	2.075	5.693	5.247	4.743

(人)

所属	子どもとのみ生活	子どもの祖父母と同居	親戚と同居	専業主婦(パート等含む)	民間企業勤務	公務員(教員以外)	専門職・教員	自営(農業等含む)	会社経営	小学校3年生	小学校5年生	中学校2年生
平均人数	5.230	5.060	4.250	5.369	5.046	4.642	5.014	5.426	3.971	5.615	5.403	4.914

然である。PTA の役割は多様に設定されているが、PTA 役員実践中の相談相手が平均 5.693 人なのに対して、役員経験のない保護者が平均 4.743 人と少ないことから、相談の幅を広げ、安心感を高めて子供たちに接する可能性を広げることに大きく貢献しているといえるだろう。近年 PTA も衰退傾向にあり、教育相談の視点から考えていく必要性をこのデータは指し示しているのではないだろうか。

祖父母と同居してもしなくても相談人数に差が少ないということは、祖父母が相談相手になっていない可能性が見え隠れする。ただ、親戚と同居とある家庭は、離婚等の理由が背景にある場合があり、保護者の置かれた経済的立場が相談相手の人数に影響していると思われる。最後に仕事と相談相手の人数であるが、会社経営者が極端に少ないのを除けば、どの職においても大体同じ相談相手を有している事を見取ることができる。公務員がなぜ少ないかについては今後検討する余地があるだろう。

(栗原 幸正)

教職員調査

1. 教職員の属性 (4)

(1) 性別と校種 (F1)～(F4)

教職員については、管理職、教諭、そしてその他職員を含んでいる。性別は、男性 429 人、女性 467 人で、ほぼ二分される (表 1)。また、校種別では小学校 450 人 (50.2%)、中学校 446 人 (49.8%) となり、この場合もほぼ半数ずつになる。

職種の「全体」を見ると、校長 31 (3.5%)、副校長・教頭 37 人 (4.1%)、主幹教諭等 31 人 (3.5%)、教諭 619 人 (69.1%)、養護教諭 37 人 (4.1%)、栄養教諭 7 人 (0.8%)、臨任教諭・講師 92 人 (10.3%)、その他 35 人 (3.9%) である。「その他」には、事務職員、栄養士、学習支援員、再任用教員などが含まれる。教職員の回答が多いので、以下のデータ結果は「教諭」の影響が大きいことになる。

表1 性別と校種

		校種		合計	
		小学校	中学校		
性別	男性	度数[人]	176	253	429
		%	41.0%	59.0%	100.0%
	女性	度数[人]	274	193	467
		%	58.7%	41.3%	100.0%
全体		度数[人]	450	446	896
		%	50.2%	49.8%	100.0%

表2 性別と職種

		1-4. 職種									合計	
		校長	副校長・教頭	主幹教諭等	教諭	養護教諭	栄養教諭	臨任教諭・講師	その他	無回答		
1-3. 性別	男	度数[人]	24	32	23	299	1	0	37	13	0	429
		%	5.6%	7.5%	5.4%	69.7%	0.2%	0.0%	8.6%	3.0%	0.0%	100.0%
	女	度数[人]	7	5	8	320	36	7	55	22	7	467
		%	1.5%	1.1%	1.7%	68.5%	7.7%	1.5%	11.8%	4.7%	1.5%	100.0%
全体		度数[人]	31	37	31	619	37	7	92	35	7	896
		%	3.5%	4.1%	3.5%	69.1%	4.1%	0.8%	10.3%	3.9%	0.8%	100.0%

(2) 教職員暦・現任校在籍年数等 (F5)～(F8)

調査では、教職員歴を問うているが、「全体」では 18.3 年になり、校長の勤務年数が最も長く 33.4 年である。次いで、副校長・教頭の 29.7 年で、以下主幹教諭等 28.8 年となり、

教諭は 17.7 年になる。なお、臨任教諭・講師は 8.3 年と長い。

現任校の在籍年数は、主幹教諭等が 4.5 年と最も長く、次いで教諭の 3.6 年となる。管理職は異動が頻繁なことから、校長 2.6 年、副校長・教頭 2.1 年と比較的短い。通勤時間の回答も求めているが、全体的に 30 分前後になる。管理職と栄養教諭は他の職種に比べて、若長めである。

勤務校の学級数は、校長の回答が 12.1 学級ではあるが、主幹教諭等 16.4 学級、教諭 13.0 学級となり、共に管理職の数を上回っているのは大規模校の教諭の回答が多いからである。

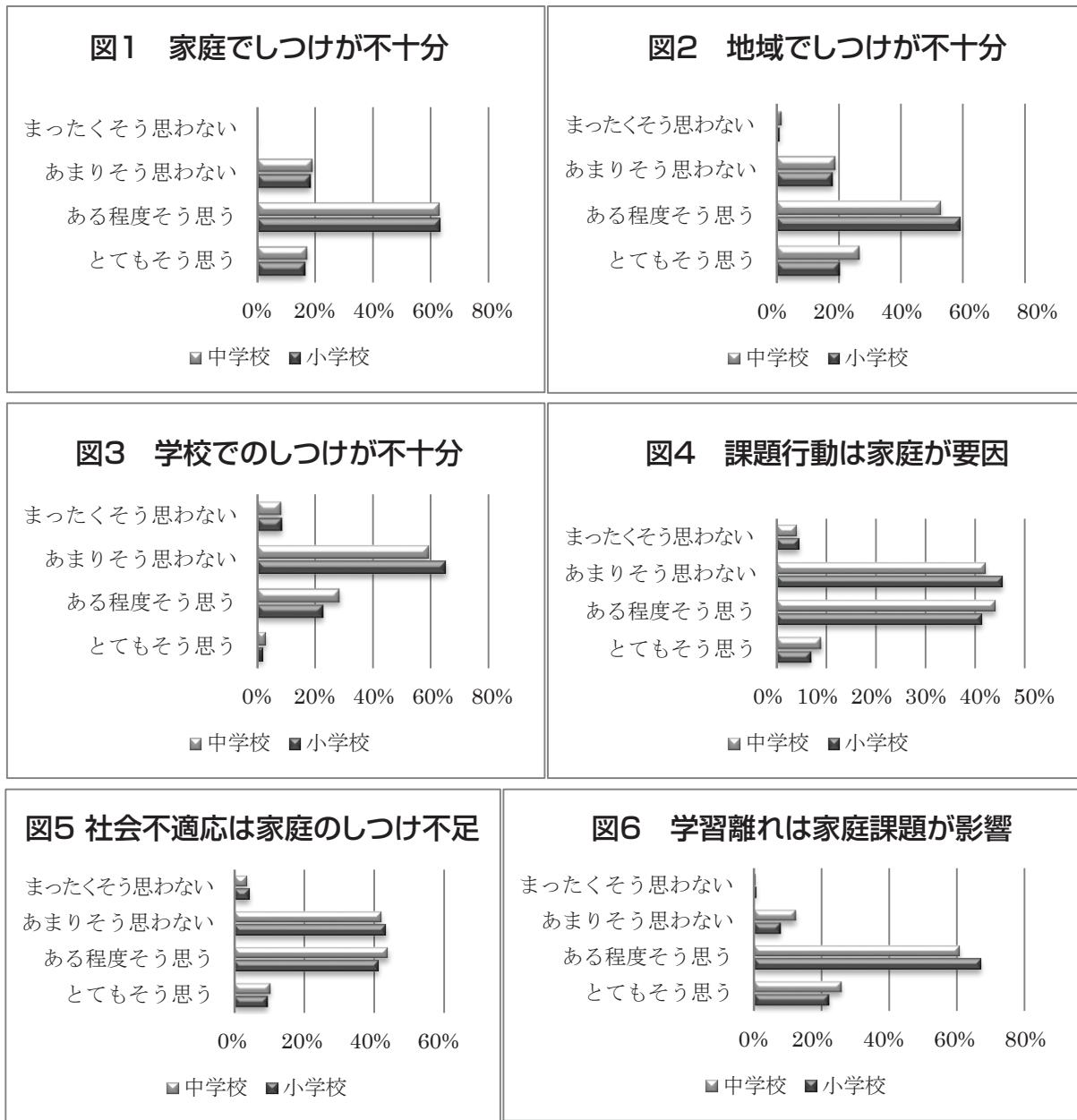
以下の調査結果及びその解説はこれら属性を前提とすることを予め記しておく。

表3 教職員歴・現任校在籍年数・通勤時間・勤務校学級数

職種		教職員歴	現任校在籍年数	通勤時間	勤務校学級数
校長	平均値	33.4	2.6	28.2	12.1
	度数[人]	31	31	31	31
副校長・教頭	平均値	29.7	2.1	24.1	13.0
	度数[人]	37	37	37	37
主幹教諭等	平均値	28.8	4.5	29.2	16.4
	度数[人]	31	31	31	31
教諭	平均値	17.7	3.6	25.0	13.9
	度数[人]	613	616	618	614
養護教諭	平均値	22.3	3.5	21.3	13.0
	度数[人]	37	37	37	36
栄養教諭	平均値	13.3	3.4	31.4	12.6
	度数[人]	7	7	7	7
臨任教諭・講師	平均値	8.3	1.7	28.9	13.7
	度数[人]	91	91	92	87
その他	平均値	16.9	2.5	21.8	12.2
	度数[人]	34	35	35	31
無回答	平均値	21.1	2.9	32.9	13.6
	度数[人]	7	7	7	7
全体	平均値	18.3	3.3	25.4	13.8
	度数[人]	888	892	895	881

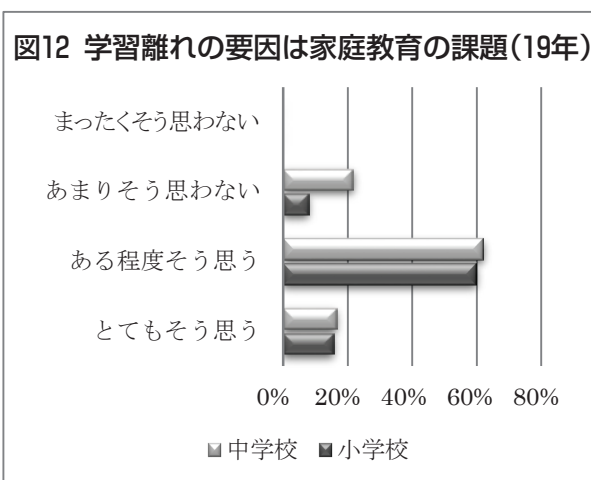
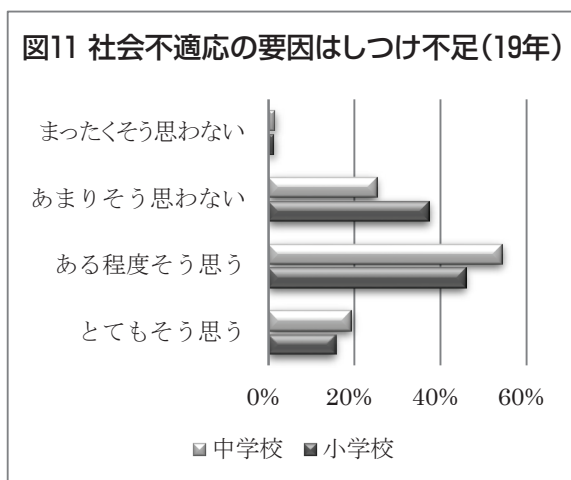
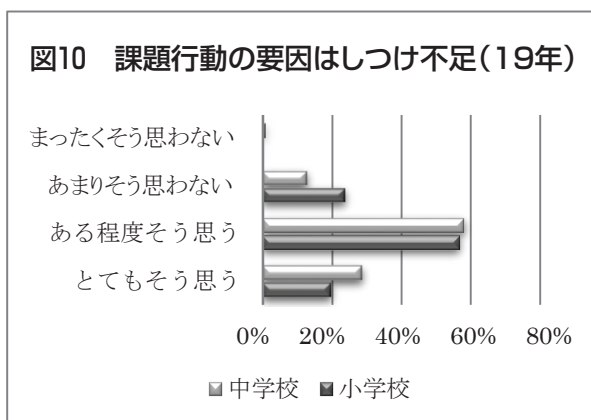
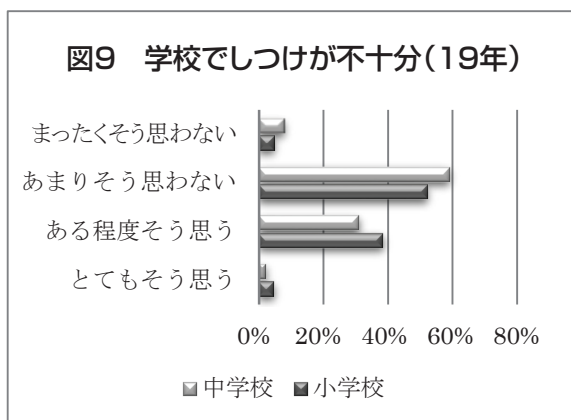
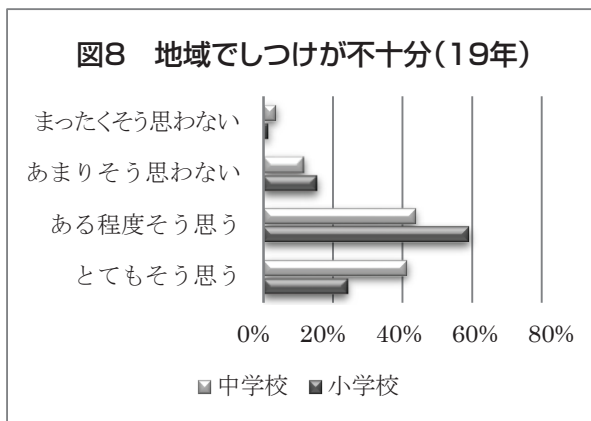
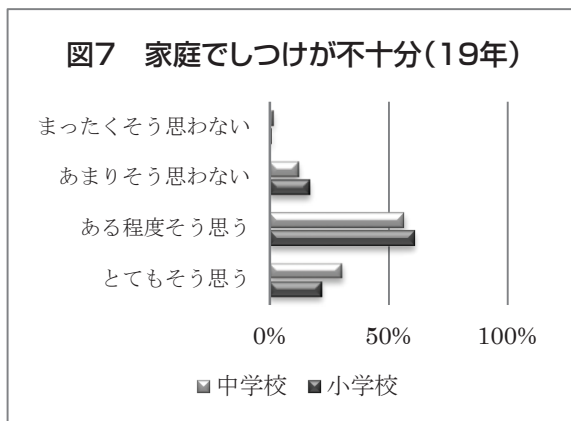
(佐藤 晴雄)

第17章 教職員から見た「しつけ」の状況(2)



教職員へのしつけ等の家庭教育に対する考えを聞いた本設問においては、次のような傾向を読みとる事ができる。

- ①教職員は家庭や地域においてしつけ等の教育が十分に行われていないと認識している。
- ②学校においては、多くの教職員がしつけ等の教育を学校では行っているという自負がある。
- ③問題行動（非行・暴力）や社会不適応については、しつけ等の家庭・地域による教育だけが要因ではないだろうとする慎重な見方を教職員は有している。
- ④学力低下や学習離れについては、多くの教職員は家庭環境の影響が大きいと認識している。



これらの傾向により、後述する教職員の自由記述の分析にも現れたように、教職員はしつけ等の教育は家庭や地域が行っていくのが当然であり、教職員としては本務としての教育活動を執り行っていくことに集中したいという気持ちが強いことがうかがえる。また、学校でのしつけは十分行われているという認識があり、学力低下や学習離れの要因は家庭でのしつけに起因していると思う教職員が非常に多い。しかし、社会不適応や課題行動については、家庭教育の不足を要因とする教職員と要因としない教職員がほぼ拮抗しており、一概に家庭にのみ責任を負わせる事に課題を感じている教職員も多いことがわかる。

では次に、前回調査(平成19年)との比較をしてみたいと思う。前回調査とは設問内容は同じであるが、設問の言い回し並びに微妙な差があり、それが回答に影響していることも考慮して検討していきたい。

まず、家庭・地域・学校でのしつけ定着度について聞いた設問については、今回調査と前回調査ではほぼ同じ傾向を見て取ることができる。それは、学校ではしつけをしっかりとやっていると言い切れない面も確かに存在するが、家庭や地域のしつけは十分なされているとは言えないという認識である。ただ、前回調査の方が家庭・地域のしつけ不足を指摘するトーンはやや強く、教職員の当時のいらいがちが織り込まれている印象である。(10年前の学校現場は荒れている状況が存在した。)

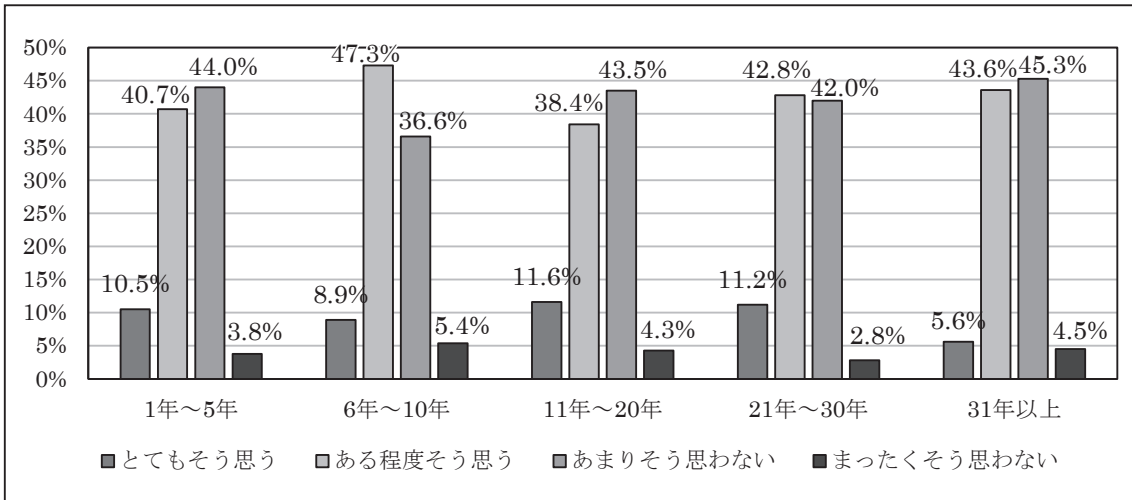
ところが、課題行動や社会不適応・学習離れの要因としてのしつけ等の家庭教育不足を訪ねた設問では前回調査と異なった傾向を示している。今回の調査が学習離れは家庭状況に起因する事が多い反面、課題行動や社会不適応の要因としては言い切ることが難しいという判断を教職員がしていることが見えてきたが、前回調査においては家庭のしつけ不足が、学校で起こる多様なトラブルの要因となっているといういわば家庭悪玉説がまかり通っていたのを読み取ることができるのである。

また、前回調査との大きな違いは、グラフを比較してみると明瞭にわかるように、前回調査が小学校・中学校の認識の差が存在するのに対して、今回調査では小学校と中学校の教職員の認識がほぼ同様の傾向となっていることである。これらは、前回調査との間の8年間に学校の中における何らかの認識の変化が起こったことを示している。この8年間に世代交代が進み、旧来の学校風土をもった教職員が退職していった事が要因であるとする主張もあるが、下に示した今回調査の教職員の世代別データを見ると、どの世代も同じ傾向を示していることから、新しい認識の教職員が増加したというよりも、学校の認識自体が全体的に変化してきている傾向と位置づけることができるであろう。

この8年間で、教職員全体の家庭教育への認識が、特に社会不適応や課題行動については家庭教育の責任とする傾向ではなくなってきたおり、それが小学校・中学校の教職員にとって共有化されてきているのを読み取ることができるであろう。多くの児童生徒が起こす課題行動や社会不適応が、もはや家庭教育の範疇を超えて学校の課題となってきた事実が根底にあると考えられる。

特筆しておきたいのは、その傾向の根底には、全国の小中学校で推進された「特別支援教育」の定着の影響が大きいのではないかとということである。学校現場においては、平成18年度より文部科学省の指導のもと、どの学校にも特別支援教育コーディネーターが配置され、校内支援委員会におけるケース会議等を通して、発達障害(LD AD/HD アスペルガー等)の児童生徒の早期発見・早期対応が求められてきた。全国の教職員の多くは発達障害を臨床心理士等から学び、その対応をユニバーサルデザインという文脈で授業改革に取り組んだ10年間といえる。そして、その取り組みのプロセスの中で、家庭教育(しつけ)がなかなか入りづらい特性のある児童生徒の存在や、家庭教育(しつけ)や養育にそもそも難しさのある保護者に直面したのである。そのことにより、教職員のどの世代も共通に、家庭教育(しつけ)ができていないから社会不適応になるとは言い切れないという見方・考え方を共有する事ができたのではないかと考える事ができる。しかし、「しつけ」が入って行かない児童生徒や「しつけ」をすることが不可能な保護者は年々増加傾向にあり、今後の「しつけ」の在り方について抜本的に考えていかななくてはならない岐路にきているのではないだろうか。

図13 社会不適應の要因はしつけ



(栗原 幸正)

第18章 しつけに対する教職員の意識と実態

—「しつけ」の役割分担意識と実態—

教職員に対して、しつけを行うべき主体と実際にしつけを行っている主体について尋ねた結果は図14に示すとおりである。

1. 「しつけ」を行うべき主体 (3)

調査では「しつけ」の具体的な内容である14項目について、「家庭」、「学校」、「地域」のどこが主に取り組むべきかについて尋ねた。

調査の結果によれば、「主に家庭」が90%を超えるのは、「早寝早起きなどをしつける」(99.9%)、「食事の仕方や手洗いなどの習慣を身に付けさせる」(99.7%)、「あいさつや謝りのしかたを身に付けさせる」(99.7%)、「欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う」(94.5%)の基本的な生活習慣ともいうべき4項目である。そして、これらに続くのは、「善悪のけじめをつけさせる」(79.4%)、「人間としての『生き方』を教える」(57.8%)、と「危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う」(54.8%)の順であり、他の項目はいずれも5割を切っている。

他方、「おもに学校」が過半数を占めるのは「他の人たちと協力し合う姿勢を養う」(79.3%)と「いじめをしないなどの正義感を養う」(53.0%)の2項目であり、これに続くのは「他人の気持ちや立場を思いやる心を培う」(47.8%)、「働くことの大切さを教える」(42.2%)の順となっている。

また、「主に地域」が半数を超える項目はなく、最も高い割合を占めるのは「自分の住んでいる地域を大切にすることを培う」(42.9%)であり、これに続くのが「地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う」(31.8%)である。

この結果は保護者調査の結果と微妙な違いがある。すなわち、保護者調査では「主に家庭が」として95%の高率を占めた「善悪のけじめをつけさせる」が、教職員調査では79.4%にとどまる。また、保護者調査で「主に学校」の項目として2番目に多いものの36.1%にとどまっていた「いじめをしないなどの正義感を養う」が、教職員調査では過半数を占める。さらに、保護者調査では「主に地域」が担うべき項目として「自分の住んでいる地域を大切にすることを培う」が29.8%、「地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う」が17.4%であったのに対し、前述した教職員調査結果の高率ぶりが目立つ。

しつけの主体に関しこれまで述べたことを、「危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う」を除く13項目から選択してもらった前回調査の結果と比較してみたい。前回調査で「主に家庭」が行うべきとしているのは、「早寝・早起きなどをしつける」(100%)、「食事・手洗いなどの習慣を身に付けさせる」(99.3%)、「欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う」(94.6%)、「あいさつの仕方を身に付けさせる」(84.6%)、「善悪のけじめをつけさせる」(84.2%)などの基本的な生活習慣に関するしつけが圧倒的に高い割合を占め、次に高い割合を占める「他人の気持ちや立場を思いやる心を培う」(52.7%)以下の各項目と大差がついている。

一方で自らが勤務する「主に学校」が行うべきとしている項目は、最も高率を占める「他の人たちと協力しあう姿勢を養う」でも76.8%にとどまり、次いで「差別をしないなどの公正な態度を養う」(52.7%)、「他人の気持ちや立場を思いやる心を培う」(42.7%)という順で集団生活のルールとでもいうべき内容のしつけが続いている。

また、「主に地域で」行うべきとする項目は、最も高率を占める「地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う」でも38.0%にとどまり、以下「社会のルールを教える」(23.3%)、「働くことの大切さを教える」(16.1%)と低率で、地域の果たすべき役割への評価は低い。

こうしてみると、教職員は「しつけは基本的に家庭の役割」という基本的な姿勢が明確であり、また地域への期待は少ない点などで、今回の調査結果とほぼ同様の傾向を示していた。

2. 「しつけ」の実態 —実際にしつけをしている主体— (4)

調査では、実際にどこが主体でしつけが行われているかについても尋ねた。

その結果によれば、まず保護者調査とは大きな差異、とりわけ「主に家庭」が占める割合で大きく異なることが注目される。

すなわち、保護者調査では「主に家庭」が90%を超える項目として、「早寝早起きの習慣づけ」をはじめとする3項目、80%を超えるものが1項目、70%を超えるものが3項目あり、逆に「主に学校」が「主に家庭」を上回るのは、「他の人たちと協力し合う姿勢を養う」と「地域社会や他人に積極的に貢献する態度を育てる」の2項目に過ぎないことは前述した。

しかし、教職員調査では「主に家庭」が90%を超えるものは1項目もなく、半数を超えるのは「早寝早起きなどをしつける」(86.2%)、「食事の仕方や手洗いなどの習慣を身に付けさせる」(72.8)、「欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う」(57.0%)の3項目に過ぎず、これに続くのは「人間としての『生き方』を教える」(28.0%)という具合である。

一方で、「主に学校」とする項目は80%を超えるものだけでも「他の人たちと協力し合う姿勢を養う」(93.2%)、「いじめをしないなどの正義感を養う」(86.0%)、「他人の気持ちや立場を思いやる心を培う」(82.0%)の3項目、70%台のものも6項目あるなど、保護者調査の結果との差はあまりにも大きい。

さらに、「主に地域」が担うべきとする割合が高かった「自分の住んでいる地域を大切にしたい気持ちを培う」と「地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う」についても、実際に地域が果たしている役割への評価はそれぞれ14.3%、9.6%と低い。

こうした結果は、教職員が自ら果たしている役割への強烈な自負心の表れであり、他方では家庭(保護者)が子どものしつけで果たしている役割への不信や不満の表明であろう。

次に、実際にしつけを行っている主体に対する教職員の認識に関して前回調査の結果と比較すると次の通りである。「家庭で」行っているが高率を占めるのは「早寝・早起きなどをしつける」(89.6%)、「食事の仕方や手洗いなどの習慣を身につけさせる」(74.2%)の2項目に過ぎず、しかも次いで高率を占める「善悪のけじめをつけさせる」は一気に30.0%まで低下する。すなわち、しつけの多くの項目は「主に家庭」が行うべきだとしながら、その実施状況についての評価は極めて厳しい。

その反面、「主に学校」が行うべきとした項目である「他の人たちと協力しあう姿勢を養う」(96.1%)、「差別をしないなど公正な態度を養う」(90.0%)は高い実施率であると認識し、本来は「主に家庭で」行うべきとした「社会のルールを教える」(81.3%)や「あいさつの仕方を身につけさせる」(69.9%)、「善悪のけじめをつけさせる」(68.2%)でさえ高い実施率だと考えていることは興味深い。

3. 教職員の所属校種別に見た「しつけ」の主体

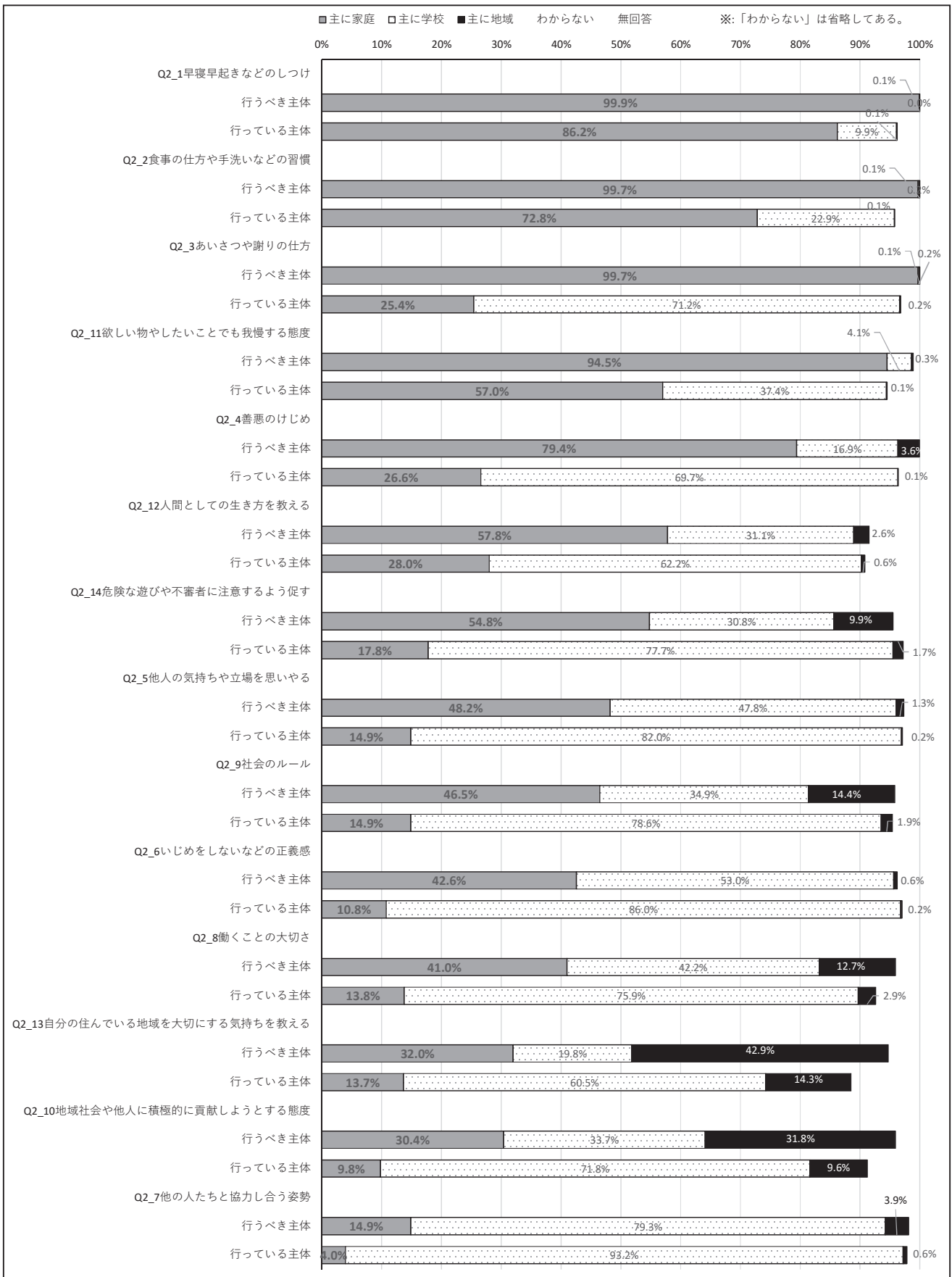
教職員の所属校種別でしつけをすべき主体に相違があるかどうか見ることにしたい。

小学校と中学校の校種別で見ると、それほど大きなものではないが相違点はある。

すなわち、小学校では「善悪のけじめをつけさせる」、「他人の気持ちや立場を思いやる心を培う」、「いじめをしないなどの正義感を養う」などの項目で「主に家庭」が全体平均を下回り、「主に学校」が平均値を上回る。これらとは逆に、「働くことの大切さを教える」、「地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う」、「人間としての『生き方』を教える」、「自分の住んでいる地域を大切にすることを培う」などの項目では、「主に家庭」の占める割合が全体平均を上回る。

一方、中学校では「善悪のけじめをつけさせる」、「いじめをしないなどの正義感を養う」、「他の人たちと協力し合う姿勢を養う」などの項目で、「主に家庭」の占める割合が平均値を上回る。また、中学校では「自分の住んでいる地域を大切にすることを培う」と「危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う」で、「主に地域」が平均値を上回っていることが目立っている。

図14 教職員調査 -しつけの主体-



(高橋 興)

第19章 教職員の児童生徒に対する認識

本章は、教職員調査のうち、①あなたは日頃、次のような児童・生徒が、以前よりも増えているとお感じですか。②あなたが保護者のことで、日ごろ感じていることをお聞かせください。③あなたの勤務する学校のことやあなた自身のお考えをお教えください。

の3つの問いについて、調査結果の解説を行う。

前回調査は、教職員の回収は349人であったが、今回は898人であり、やや数字の客観性が高まったのではないかと考える。

1. 児童生徒の行動変容認識 (5)

ここでは、学校における児童・生徒に関して、15の項目について以前との感じ方の違いを質問してみた。肯定的回答から否定的回答まで4つの選択肢から四件法により選んでもらった。調査結果のうち「とても感じる」+「少し感じる」の肯定的な回答を、**図15**のようにまとめた。

まず、教職員全体で数字の高かったものを取り上げ、前回調査と同じ質問内容のものは、その比較を行った。つぎに、小学校と中学校とを比較し、学年進行による課題の差異や小・中で差が大きな質問内容を取り上げた。

さて、15項目を教職員全体で見たとき、「とても感じる」+「少し感じる」の肯定的回答のうち、「コミュニケーション能力が低下している」(84.3%)が一番高く、「『殺す』『死ぬ』『うざい』などの言葉の乱れが目立つ」(78.6%)、「宿題忘れや忘れ物が多い」(78.2%)と続く。

前回調査の「『殺す』『死ぬ』『うざい』などの言葉の乱れが目立つ」の結果は、「とても感じる」(49.5%) + 「少し感じる」(38.4%)の87.9%であった。それが、今回は「とても感じる」(40.8%) + 「少し感じる」(37.8%)の78.6%と約9ポイント低くなっており、改善の兆しと考えたい。

次に、学校種別に結果を見ていく。「コミュニケーション能力が低下している」(81.8%)が小・中学校ともに一番高い。小学校の二番目は、「集中して授業に取り組めない」(80.9%)、三番目は、「宿題や忘れ物が多い」(79.4%)と続く。

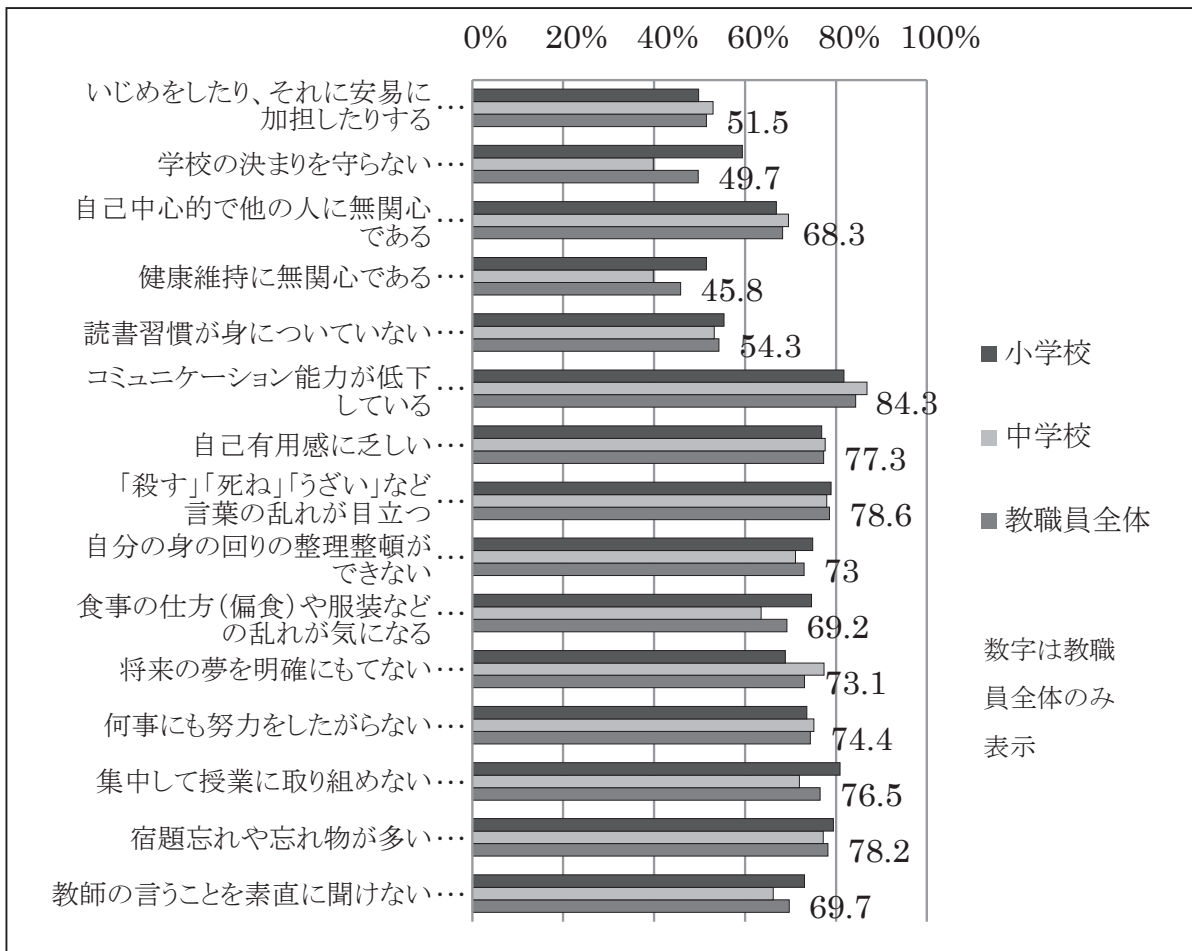
一方、中学校で二番目に多いのは、「自己有用感に乏しい」(77.6%)、三番目が「将来の夢を明確に持てない」(77.47%)と続く。小中学校で、上位の3つをみてもみると、共通するのは「コミュニケーション能力が低下している」だけで、学年進行とともに課題が異なることがわかる。

さらに、各項目ごとに小学校と中学校の「とても感じる」+「少し感じる」の肯定的回答の結果をみていく。15項目のうち、中学校の方が多いのが9項目、小学校の方が多いのが6項目である。そして、小中学校で差がつく項目が見られたものをあげる。「将来の夢を明確に持てない」は、小学校は、「とても感じる」(18.9%) + 「少し感じる」(50.0%)の肯定的回答は68.9%であるが、中学校は、「とても感じる」(31.1%) + 「少し感じる」(46.3%)の肯定的回答は77.4%で、約9ポイント中学校の方が高くなっている。その他、「とても感じる」+「少し感じる」を比較して5ポイント以上、中学校が高くなっているのが、

「コミュニケーション能力が低下している」(+6ポイント)である。

一方、中学校に比べて小学校の方が高かったものの、一番手は「学校の決まりを守らない」で、中学校は、「とても感じる」(9.8%) + 「少し感じる」(30.0%)の肯定的回答は、39.8%であるが、小学校は、「とても感じる」(15.8%) + 「少し感じる」(43.6%)の59.4%と約20ポイント小学校の方が高くなっている。その他、「とても感じる」+「少し感じる」を小学校と中学校で比較して、5ポイント以上、学校が高くなっているのが、「健康維持に無関心である」(+12ポイント)「食事の仕方(偏食)や服装の乱れが気になる」(+8.5ポイント)、「集中して授業に取り組めない」(+7ポイント)である。

図15 児童・生徒のことで以前より増えていること「とても感じる」+「少し感じる」の回答



2. 教職員の対保護者認識 -保護者のことで感じていること- (6)

ここでは、保護者のことで、日ごろ感じていることを、13項目について尋ねた(図16)。質問内容は、保護者の学校への関わりの状況、保護者の子どもに対する関わり方、保護者同士の関係性に分けられる。

まず、「とてもそう思う」+「ある程度そう思う」の肯定的回答の調査結果を図16のようにまとめた。それによると、一番高いのは「わが子を中心にものを考える傾向がある」(87.7%)で、続いて「教育熱心な保護者とそうでない保護者の二極化が進んでいる」(86.7%)、「保護者が過保護、過干渉になっている」(77.3%)と続く。前回調査の「わが子を中心にものを考える傾向がある」をみると、「とてもそう思う」(50.0%) + ある程度そう

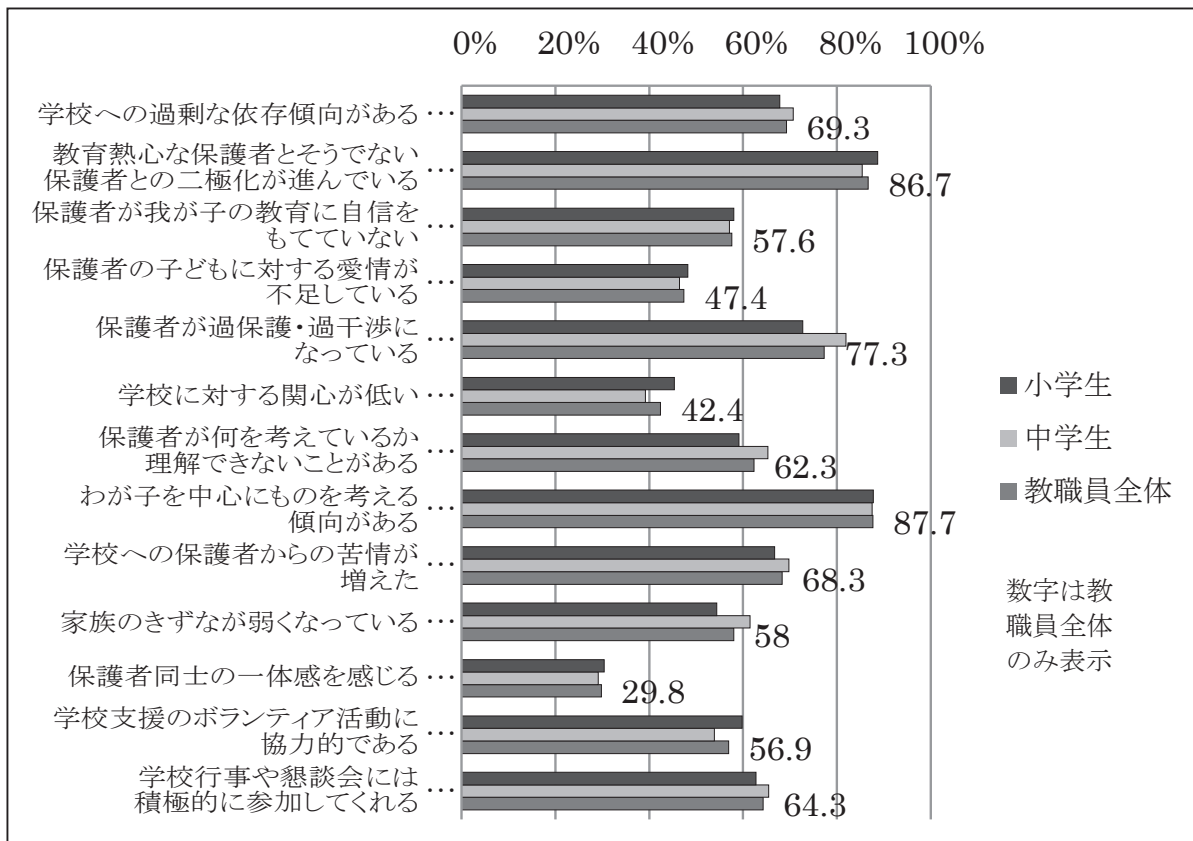
思う（42.9%）は92.9%であったが、今回は、「とてもそう思う」（36.0%）+ある程度そう思う（51.7%）は87.7%である。数字を比較すると、「とてもそう思う」が大きく減少したことがわかる。

前回の調査結果のまとめのポイントのひとつが、教育活動に全般に関して、熱心層と不熱心層の二極化が進んでおり、そのことが懸念事項のひとつであるとの結論であった。さて、「教育熱心な保護者とそうでない保護者の二極化が進んでいる」を前回と比較してみる。前は、「とてもそう思う」（51.6%）+「ある程度そう思う」（41.2%）の92.8%で非常に高い数字であった。今回は「とてもそう思う」（40.4%）+ある程度そう思う（46.7%）の86.7%で、「とてもそう思う」が約10ポイント減少し、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた数字でも約6ポイント減少している。この数字から、学校への関心や理解の高まりを通して、教育熱心な保護者が増えていると感じていれば好ましい状況といえる。

「保護者が過保護、過干渉になっている」の問いを前回調査と比較してみる。前は、「とてもそう思う」（29.6%）+「ある程度そう思う」（53.4%）の83%、今回は、「とてもそう思う」（24.6%）+「ある程度そう思う」（52.7%）の77.3%で、今回は、前回より約6ポイントさがっている。

逆に「とてもそう思う」+「ある程度そう思う」の肯定的回答をみて、一番低かったのは、「保護者同士の一体感を感じる」で、「とてもそう思う」（2.6%）+「ある程度そう思う」（27.2%）の29.8%である。前回調査では、「とてもそう思う」（2.6%）+「ある程度そう思う」（28.1%）の30.9%で、ほぼ同じような数字である。今回調査の学校種別を見ても、小学校（30.4%）、

図16 保護者のことで感じる事「とてもそう思う」+「そう思う」の回答



中学校（29.1%）と近似している。

つぎに、保護者のことで感じていることの設問において、小学校と中学校を比較して数字上の差異があったのは、「家族のきずなが弱くなっている」と「保護者が過保護、過干渉になっている」である。「家族のきずなが弱くなっている」をみると、「とてもそう思う」+「ある程度そう思う」の小学校（54.4%）、中学校（61.5%）のように、中学校が約7ポイント高くなっている。また、「保護者が過保護、過干渉になっている」は、小学校（72.7%）、中学校（81.9%）のように、中学校が約10ポイント高くなっている。特に、進学に関する三者面談という親子が同席する場面での教職員の率直な印象が反映しているかもしれない。

逆に、小学校の方が5ポイント以上高かったのは、「学校支援のボランティア活動に協力的である」（+6.1ポイント）と「学校に対する関心が低い」（+6.2ポイント）である。

3. 教職員の勤務校及び職務に対する意識（7）

ここでは、教職員が勤務する学校や教職員自身のことについて、14項目について、肯定的回答から否定的回答までの4つの選択肢による四件法によって回答をしてもらった。質問内容は、開かれた学校づくり等の現下の学校の課題に関することと、教職員の日常の教育活動や仕事に関する教師自身に関することの大きく二点である。前回調査についても同様の質問項目を設定しており、それとの対比を含めてみていきたい。調査結果のうち「とてもそう思う」+「ある程度そう思う」の肯定的な回答を、教職員全体、小学校、中学校の学校種別に傾向を探ってみた。

まず、調査結果で「とてもそう思う」+「ある程度そう思う」の肯定的回答の中で、教職員全体の数字を見たとき、一番高いのが、「現在、学校の仕事に多忙感を抱いている」（88.4%）で、続いて、「学校は保護者や地域の意向を十分に反映させている」（87.7%）、「教員研修（校内、校外）が活発に実施されている」（87.0%）と続く。

「現在、学校の仕事に多忙感を抱いている」を小学校、中学校の結果を見ると、小学校「とてもそう思う」（51.1%）+「ある程度そう思う」（37.6%）で88.7%、中学校「とてもそう思う」（49.4%）+「ある程度そう思う」（38.6%）で88.1%と、やや小学校の方が数字が高くなっている。

また、「学校は保護者や地域の意向を十分に反映させている」を小・中学校別にみると、小学校（90.2%）、中学校（85.3%）で、約5ポイント小学校の方が高くなっている。同様に「教員研修（校内、校外）が活発に実施されている」を小・中学校別でも、小学校（89.6%）、中学校（84.7%）で、小学校の方が高くなっている。このように、上位に位置する質問に関して、いずれも小学校の方が数字が高いことがわかる。

逆に一番低いのが、「教師としての指導力に自信がある」（43.2%）である。前回調査では、「教師としての指導力に自信がある」の回答は、「とてもそう思う」（1.6%）+「ある程度そう思う」（54.1%）の55.7%であった。次に、「教師の仕事で悩むことが多い」と「教師になって良かった」の設問の前回と今回の比較を試みる。「教師の仕事で悩むことが多い」は、前回は、「とてもそう思う」（27.7%）+「ある程度そう思う」（48.5%）の76.1%であった。今回は、肯定的な回答は70.5%で、5ポイント程度低くなっている。また、「教師になって良かった」を比較してみると、前回は、「とてもそう思う」（37.8%）+「ある程度そう思う」（53.7%）の91.5%であった。今回は、肯定的な回答は85%で、6.5ポイント低くなっている。

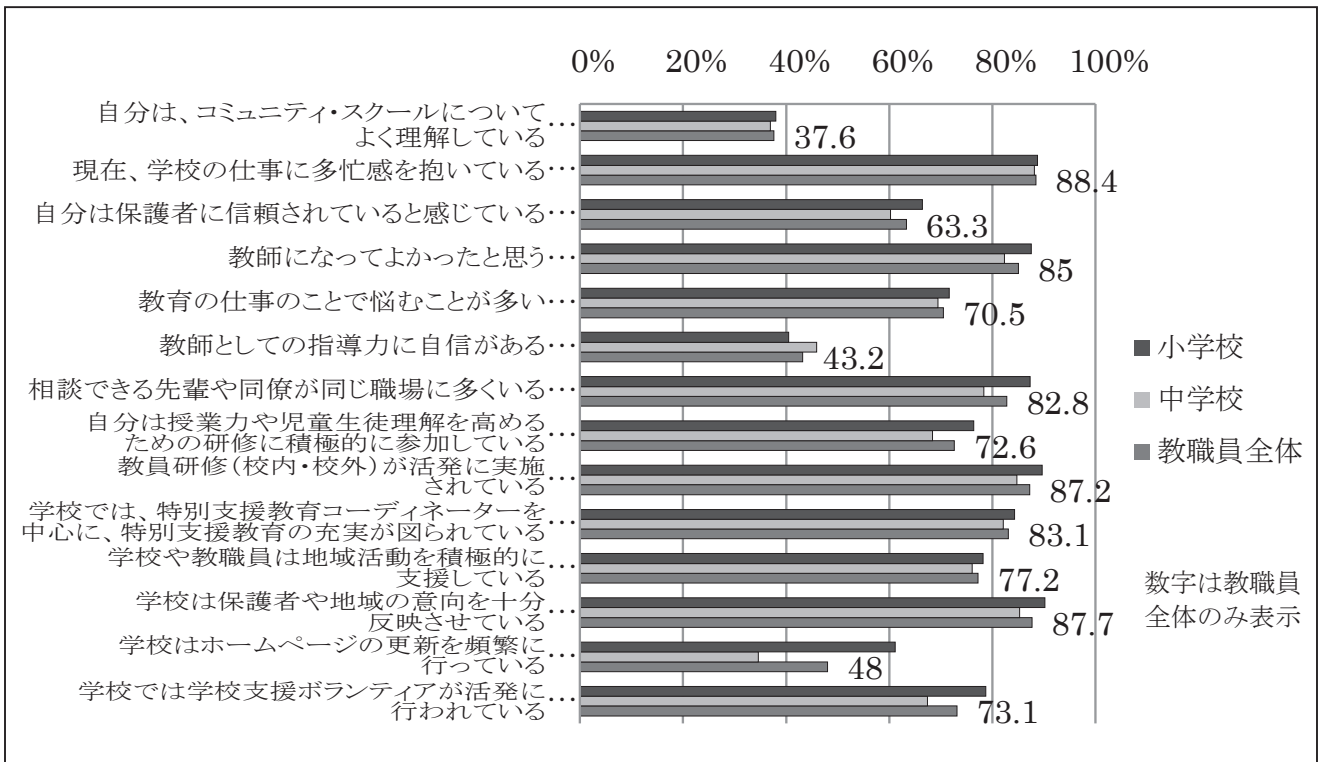
る。このように、「教師としての指導力に対する自信、教師の仕事での悩み、そして、教師になって良かった」の関連する質問項目を前回調査と比較したところ、調査対象地域の違いはあるものの、教職員を取り巻く環境の厳しさを感じる。「教師としての指導力に自信がある」は前回調査（55.7%）に比べ、今回調査（43.2%）は急激な低下といえる。

つぎに、小学校と中学校の差に着目したところ、大きな差があったのが、「学校はホームページの更新を頻繁に行っている」と「相談できる先輩や同僚が同じ職場にいる」である。

「学校はホームページの更新を頻繁に行っている」は、「とてもそう思う」+「ある程度そう思う」の肯定的回答は教職員全体の回答は48%で、あまり高い数字とはいえない。しかし、これを小中学校別でみていくと、小学校（61.1%）、中学校（34.6%）で、小学校は半数以上の学校で、ホームページを更新し、保護者の期待に応えていることがわかる。一方、中学校は、補習授業や部活等の課外活動によって、思うようにホームページの更新ができない事情があるようだ。

「相談できる先輩や同僚が同じ職場にいる」は、「とてもそう思う」+「ある程度そう思う」の肯定的回答の教職員全体の回答は82.8%である。それを小中学校で比較すると、小学校（87.3%）、中学校（78.3%）と9ポイント高くなっている。数字の差は、全科指導と教科指導をベースにした小学校文化と中学校文化の表れであろうか。同僚性の確保は教育職員にとって必須事項と考える。

図17 勤務する学校やあなた自身のこと「とてもそう思う」+「そう思う」の回答



(堀越 幾男)

※教職員調査⑧は第7章に記述

第20章 教職員の児童生徒との関わり

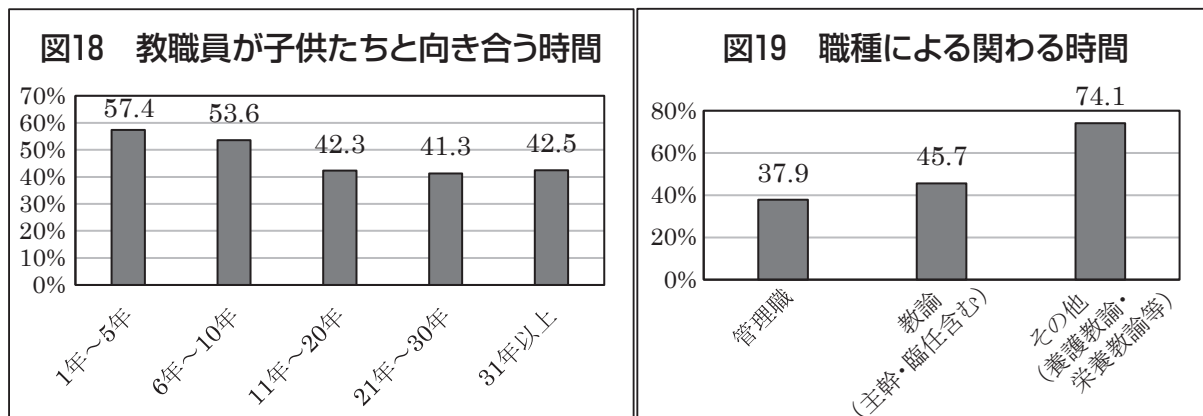
1. 教職員の児童生徒との会話時間 (19)

授業時間を除いて子供たちとどれくらいの関わり合いをもっているかについて聞いたのが教職員調査の設問9である。これも選択肢回答ではなく関わった時間を分単位で自由に記述していただいた。結果は小学校における平均の関わる時間は43.9分。中学校においては50.2分であった。これは、中学校が部活指導を通して関わっている時間が加味されることを考えると、小学校の教職員たちが、限られた時間のなかで、休憩時間や給食・清掃、また放課後の時間を通して丁寧に子供たちと関わっている事実が見えてくる。うつ病となったりして休職した小学校教員への調査で、トイレに行く余裕もなかったと答えているのを目にした事があるが、現実小学校における過酷な労働内容が垣間見ることができらるであろう。では、教職員の性別や経験、また職種等によって関わる時間に差が出てくるのであろうか。

教職員が児童生徒に関わる時間を教職員の性別によって分けると、男性平均44.5分なのに対し、女性は49.5分であった。これは次グラフで見るとわかるように学校の管理職には男性が多いことから、職種等による関わる時間の差が影響しているとみることができらるため、男女とも、ほぼ同じ程度の関わる時間を確保しているということができるだろう。

上のグラフを見ると、経験年数が増加するに従って児童生徒と関わる時間が減少し、10年経験を過ぎるとおよそ平均40分程度の関わる時間となって、その後は変化がなくなってくる。これは40分というのが小中学校における休憩時間（午前中に20分の休憩時間、昼休憩として20分間の休憩時間が確保されている学校が多い。）の合計と重なることから、10年経験を過ぎた頃から、放課後等の関わりが少なくなっていることがわかる。教職員は10年をすぎた30歳となると、校内における業務に加え校外の研究会や会議に参加することが多くなり、本人の希求とは別に自然と児童生徒との関わりが8時半から4時頃までの時間となることがわかる。学校ドラマによくある児童生徒と教職員が腹をわって放課後に話し合うという姿は、この調査からは見えてこない。

また、職種による関わる時間の差を示したグラフを見ると、管理職も善戦している。近



年、多くの小学校の校長は、校長室を開放し休憩時間に昔遊びをしたり絵本を読んだりする方が増えてきているようである。管理職で子供たちと関わっている時間は40分程度と教諭とほぼ変わらないと言うことをよいことと見るのか、課題として捉えるのかは議論の余地はあるであろうが、いずれにしても限られた時間数の中で、子供たちの内面と何とかコンタクトをとろうとする教職員の姿が浮かび上がってくるのである。

最後に、その他に分類された教職員について触れておきたい。その他に分類された教職員は、今回の調査では、事務職員・特別支援員・図書館司書・学力支援員・再任用教員・技能主事・サポートティーチャー・栄養士等であり、授業もしないし、児童生徒への評価権も持たない教職員である。心に何らかの課題を抱えたり、家庭課題を負わされていたり、また、学校に居場所がなかなか見つけられない児童生徒たちが相談と言うよりはコンタクトをとりに行きやすいのが、そこに示した教職員である。その者たちがいわゆる教員の2倍程度の時間を子供たちに接しているという事実は、授業や評価活動を行っているいなくにかかわらず、児童生徒のニーズとが高いことの現れである。だとすれば、文部科学省が推進する「チーム学校」の姿の中には、ここでその他に分類された教職員がしっかりと位置づけられる必要があるだろう。

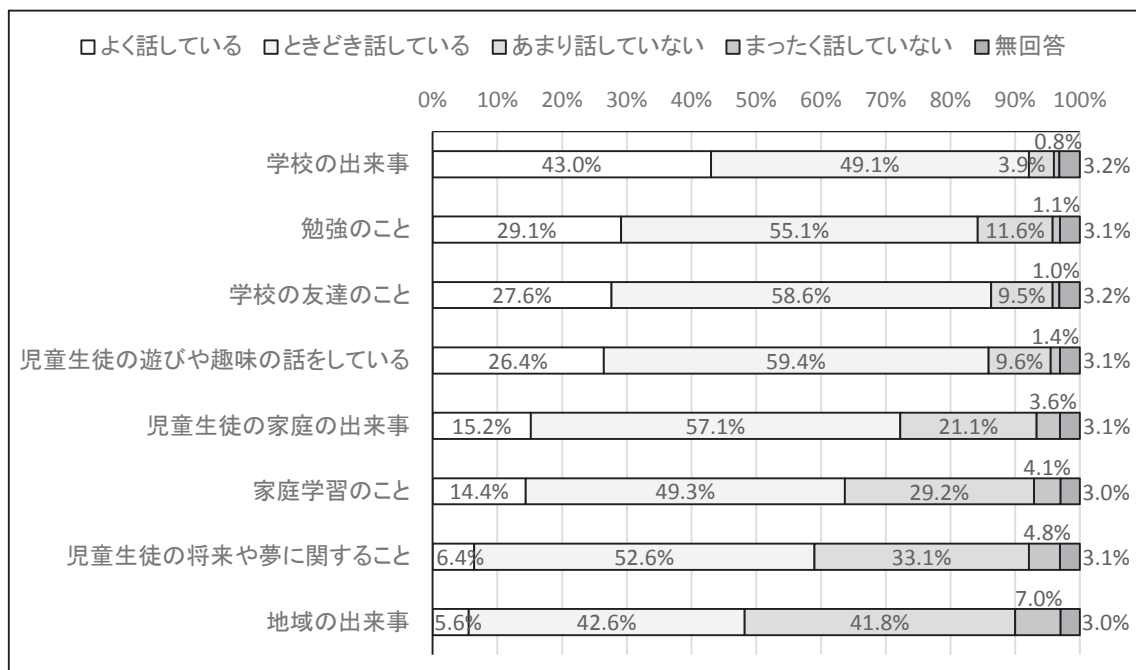
(栗原 幸正)

2. 教職員と児童生徒との会話内容 (10)

本章は、教職員調査のうち「10 あなたと児童・生徒との会話についてお聞かせください」という設問により、「学校の出来事」「勉強のこと」など8項目について、「よく話している」の肯定から「まったく話していない」との否定的意見まで4つの選択肢から4件法で択一回答を求めた。

同様の設問で、「児童生徒用調査」問12 「保護者用調査」問19 にも回答を求めたとこ

図20 教職員調査10 児童生徒との会話の状況

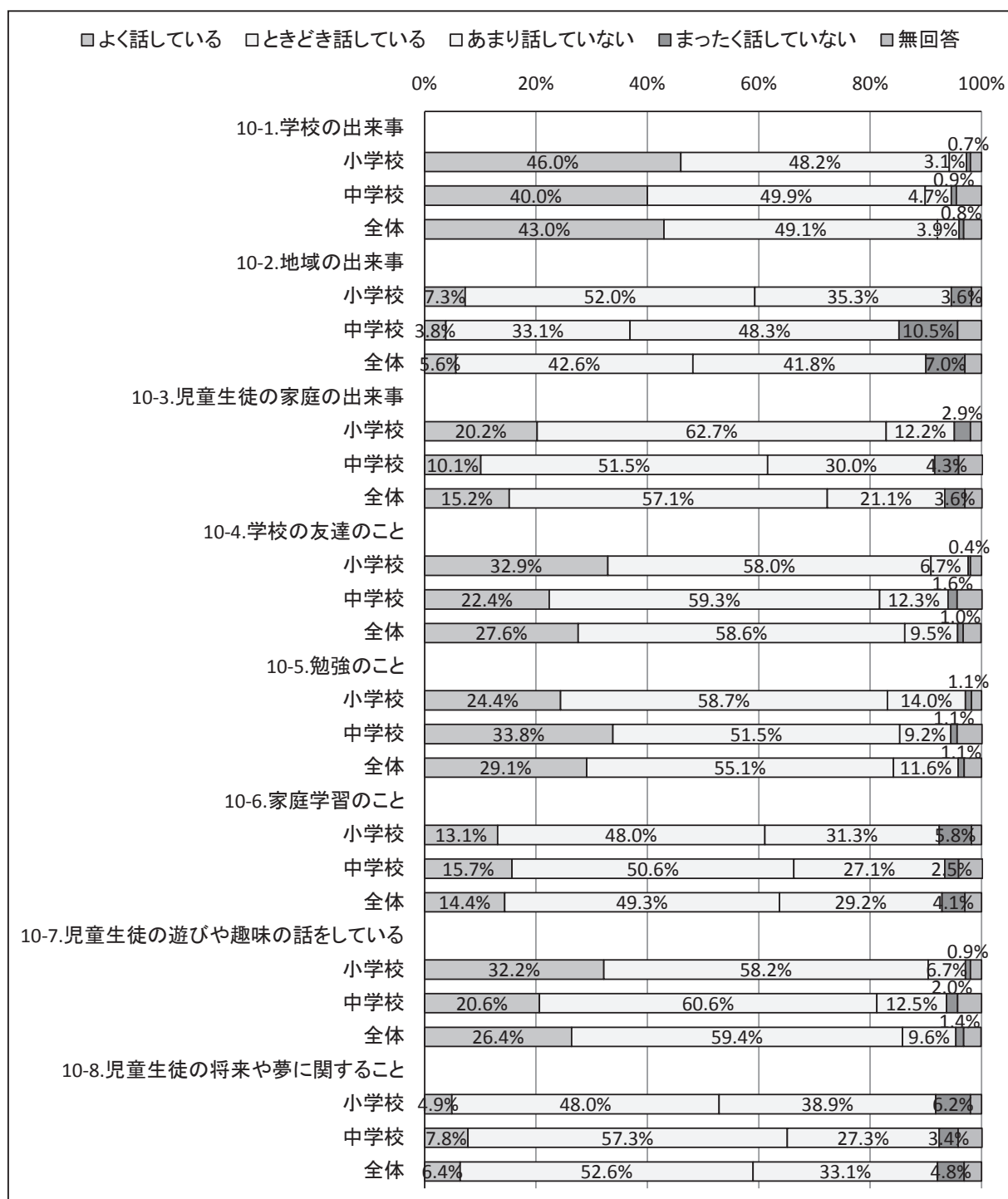


ろである。「児童生徒用調査」では児童生徒に大人との会話の内容を聞いており、「保護者用調査」と「教職員用調査」には児童生徒との会話内容を問うている。これら3者は非常に関係性が深く、切り離すことはできないと考えられるからである。

小学校と中学校の教職員の回答には大きな差はなく、小学校と中学校の回答で大きくポイント差が出たのは「地域の出来事」を「よく話している」+「ときどき話している」のは、小学校59.3%で、中学校36.9%で、小学生の方が22.4ポイント高くなっている。

同じ設問の否定回答である「あまり話していない」と「まったく話していない」の

図21 児童生徒との会話内容 -校種別-



合計は小学校で38.9%、中学校で58.8%となっている。児童生徒の回答から見ても地域との関係性は薄く、教職員は地域に関わる内容では中学生との会話が成り立たないのではないだろうか。そうだとすれば、更に学校と地域との関係が希薄になり、地域コミュニティでの児童生徒の育成は難しくなると言える。

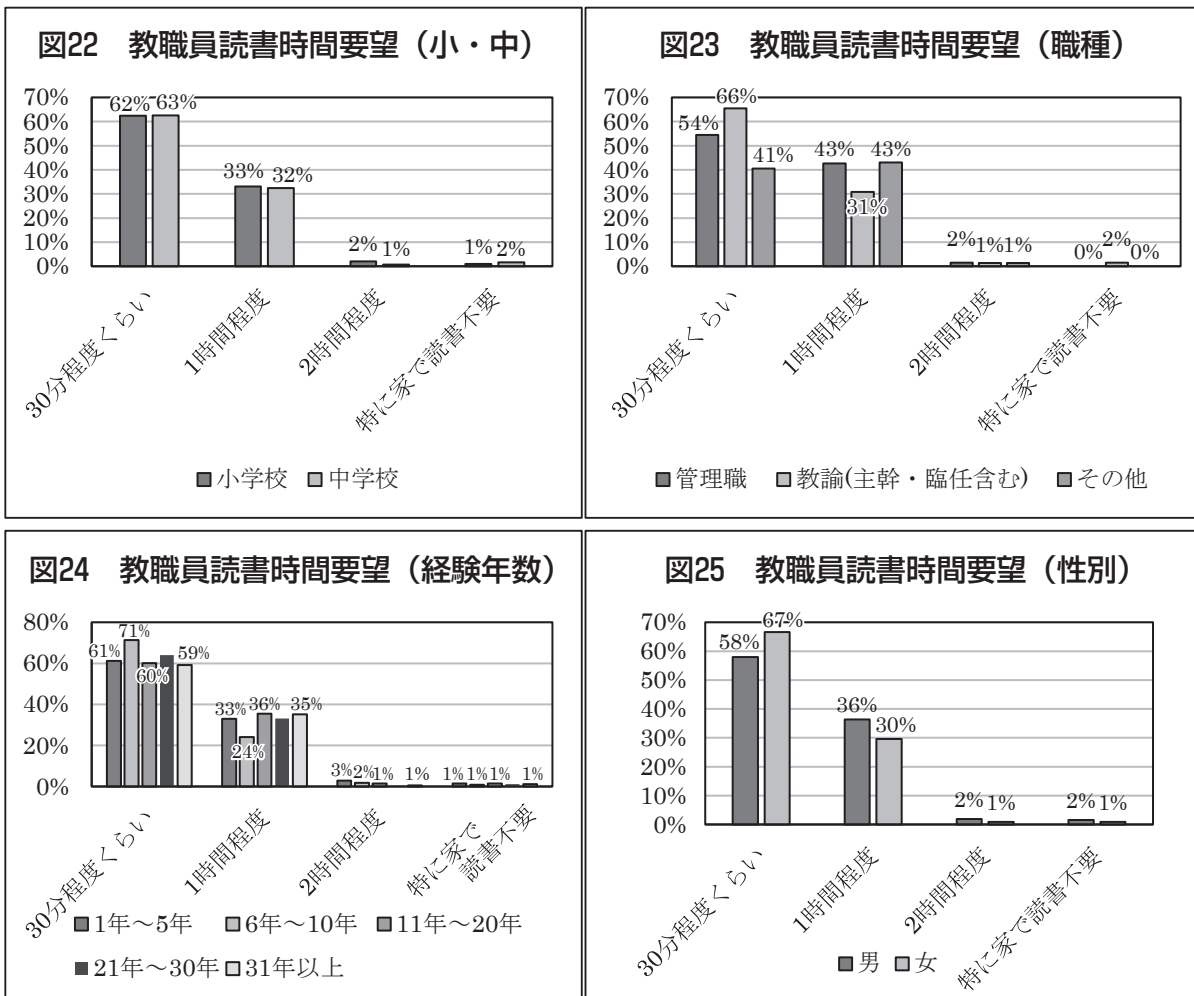
したがって、従来、児童生徒が地域社会や社会教育として学んでいた事柄を学校でも教えて行く必要性が浮かびだされたのである。

そのほか、「家庭での出来事」を話している教職員は中学校になると数値が著しく減少しているように（小学校82.9%・中学生61.6%）、中学生が教職員に家庭のことを話したくない様子を思わせる結果となった。「遊びや趣味」「友達のこと」なども中学校になると数値が下がっていることを考えると、中学生はあまりプライバシーに関わることを話したがるなくなるからだと考えられるのである。教職員としてもそうしたプライバシーに踏

（藤原 義朗）

3. 教職員が児童生徒に期待する読書時間（11）

児童生徒に教職員が読書時間をどれくらい要望しているかを聞いた設問である。読書活動は近年学校教育においては大変重要視されてきており、多くの学校で「朝の読書活動」やボランティアや図書館司書による「本の読み聞かせ」や「ブックトーク」などの取り組



みが盛んである。その状況に対して教職員はどのように感じているのだろうか。

調査の結果を見ると、小学校・中学校共に、教職員は1時間以内の読書を家庭で行うべきだと思っていることがうかがえる。ただ、職種によっては家庭における必要な読書時間の認識に差があり、実際に授業を行ったり宿題を出したりする立場の教員と、やや理念的な傾向となる管理職や図書館司書をはじめとした職員の間には温度差が存在する。児童生徒は家庭に帰れば読書以外にも多くの課題をクリアしなくてはならないため、教員はほどほどの読書時間でよいと考えるのに対し、管理職・図書館司書等はより多い読書の必要性を感じている。これは、本が読める状況にない教員たちと、ある程度ゆとりのある管理職をはじめとした職員の読書観の差が出ていると捉えることができるだろう。図書館司書は読書活動の拡充を目指すのが、教員たちがなかなか乗り切れないでいる背景には、このような事情が微妙に入り混んでいるのかもしれない。

経験年数や性別においても読書観の差は存在しているのが読み取れる。新採用から5年が過ぎた教員たちはやりたいことで満帆である。そのため、子供たちへの指示や課題も自然と多くなり、読書活動が2番手になってしまうことは想像ができる。そのため、経験年数が5年ほど経過し、学校を熟知した教職員が読書活動にやや消極的になってしまうことが推測される。最後に意外であったのは男性の方が読書についての希求が女性よりも強いという傾向である。先端技術が日進月歩進化する現代で、とにかく仕事のために読書せざる得なくなっている保護者の姿が浮かぶようである。

(栗原 幸正)

第21章 保護者や地域からの苦情・要望や相談の実態

1. 保護者や地域からの苦情・要望や相談の実態 (12)

教職員が保護者や地域住民から受けた苦情・要望・相談の実態及び苦情等の効果的な取組並びに苦情等の是非に関わる認識を探ることにしよう。

(1) 保護者や地域からの苦情・要望の有無と件数

「平成 26 年度に、保護者・地域等からの苦情・要望はそれぞれ何件くらいありましたか」という質問文のもとに、「保護者」「祖父母」「地域住民から（地域組織や事業所等を含む）」毎にその件数を記入してもらった。

その結果を教職員勤務校の校種別に記したのが表 4 である。図の件数はなかった場合を「0 件」として平均値を表しているが、まず、「保護者から」は「小学校」2.26 件・「中学校」2.03 件、「祖父母から」は「小学校」0.18 件・「中学校」0.25 件、「地域住民等から」は「小学校」0.30 件・「中学校」0.54 件となる。「保護者から」は小学校で多く、「祖父母から」と「地域住民から」は中学校で多く、件数こそ少ないが「地域住民から」は中学校が小学校を有意に上回る結果となった (**p<.01)。

表 4 保護者・地域等からの苦情・要望の数（教職員の回答）

	1-1.校種	N(校)	平均値	標準偏差	F
12-A-1.平成 26 年度の、保護者からの苦情・要望数	小学校	398	2.26	2.90	1.29
	中学校	400	2.03	2.78	
ns.					
12-A-2.平成 26 年度の、祖父母からの苦情・要望数	小学校	408	0.18	0.72	4.29
	中学校	413	0.25	1.05	
ns.					
12-A-3.平成 26 年度の、地域住民からの苦情・要望数	小学校	405	0.30	1.01	20.87
	中学校	408	0.54	1.54	

**p<.01

これら件数のうち「0」を「なかった」とし、「1 件以上」を「あった」として、苦情・要望の有無を校種別に集計すると、図 26～図 28 のようになる。

「保護者からの苦情・要望」が「あった」は、「小学校」63.4%・「中学校」60.0% となり、小学校の方がやや数値が高くなっているが、統計的な有意差は見出されなかった (図 26)。ただし、件数でも小学校が中学校の数よりも多かった点に注目すれば、小学校教職員の方が保護者からの苦情・要望を多く受けている傾向にあると言えそうである。

次に、「祖父母からの苦情・要望」が「あった」は、「小学校」11.0%・「中学校」10.9% とほぼ同数で、いずれも約 1 割に止まるが、この 1 割という数値は決して少ないとは言えないであろう。祖父母の場合、親を飛び越えて苦情等を申し出てくるケースのほかに、親に代わって申し出るケースなどもあるが、よい意味とそうでない意味の両方があるものの、

孫の学校生活に対する関心の高さを思わせる数字だからである。

そして、「地域住民からの苦情・要望」が「あった」は、「小学校」12.1%・「中学校」19.9%となり、小学校と中学校の数値が逆転し、中学校で多い結果となった。この数値には有意差が認められた(**p<.01)。中学校では約2割の教職員が地域住民(組織や事業所を含む)から苦情・要望を受けていることになるが、特に中学校では生徒の近隣での悪戯や部活に伴う騒音などが苦情・要望の原因になることが少なくないからであろう。

(2) 保護者等から受けた相談件数

苦情・要望とは別に、保護者から「しつけ」に関する相談を受けた件数についても問うたところ、相談を受けたことがある「あった」

は55.3%(453人)となる。「なかった」場合を「0件」として、この件数を校種別に算出すると、平均件数は「小学校」2.39件・「中学校」2.35件となり、ほぼ同数となった。

これを有無別に算出すると、「全体」では相談が「あった」55.4%とほぼ半数に達し、校種別に見ると「小学校」58.0%・「中学校」52.8%となり、小学校の方が高いものの、有意差は見出されなかった。

図26 保護者からの苦情・要望

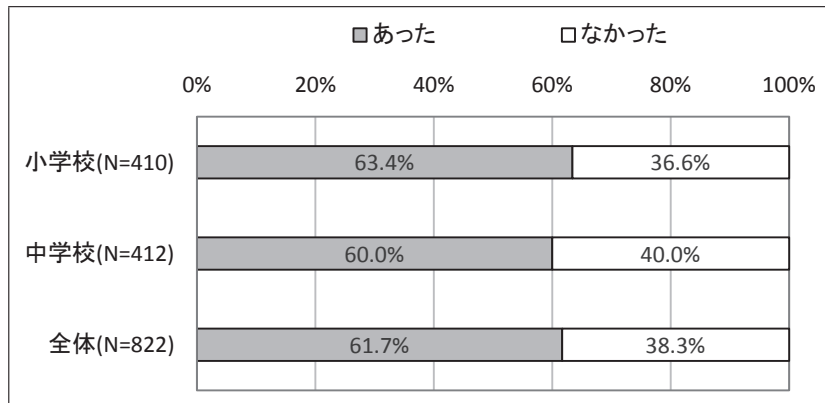


図27 祖父母からの苦情・要望

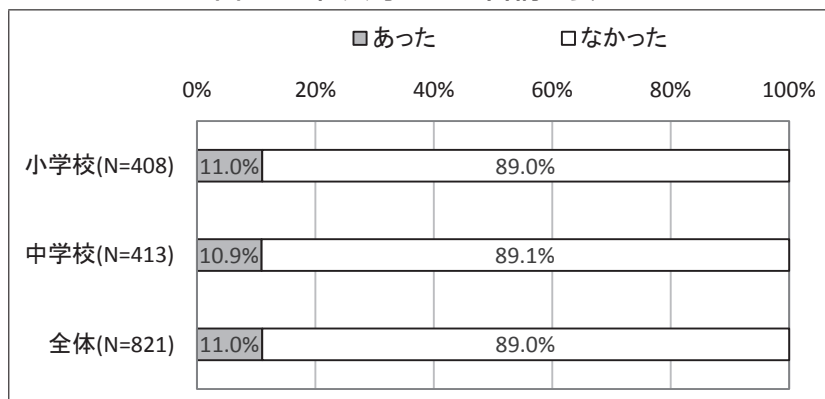
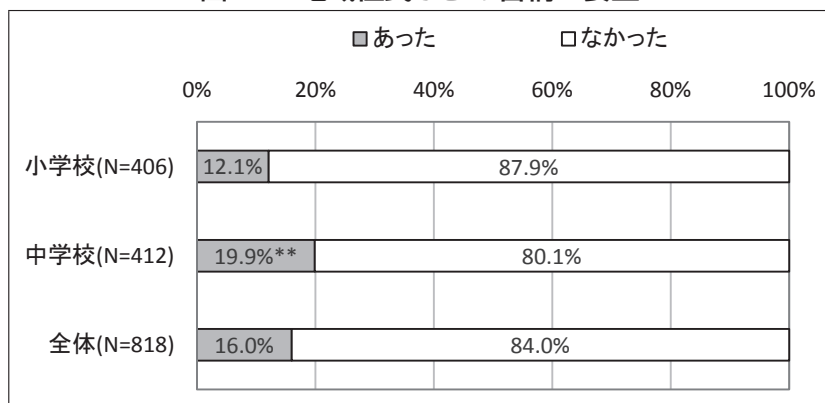


図28 地域住民からの苦情・要望



**p<.01

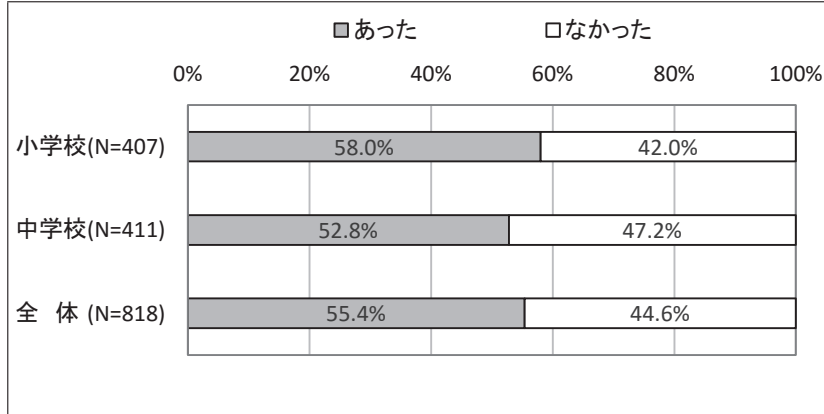
表5 保護者からの「しつけ」相談件数

	1-1.校種	N(校数)	平均値	標準偏差	F
12-B.平成 26 年度の、児童生徒の保護者から受けたしつけに関する相談数	小学校	407	2.39	4.20	0.37
	中学校	411	2.35	5.32	

ns.

なお、図表には記していないが、「あった」が多い順に、「主幹教諭等」75.0%、「副校長・教頭」68.8%、「教諭」58.6%、「校長」48.3%などとなる。主幹や副校長・教頭といういわば中間管理職（主幹は管理職ではないが、こ

図29 保護者からの「しつけ」相談の有無



れに準じる）が相談窓口としての役割を果たしている実態が見出される。「教諭」は調査サンプル数が多いことから、「全体」の平均値に近づくことになる。

(3) 保護者や地域からの苦情・要望に対して効果的だった取組

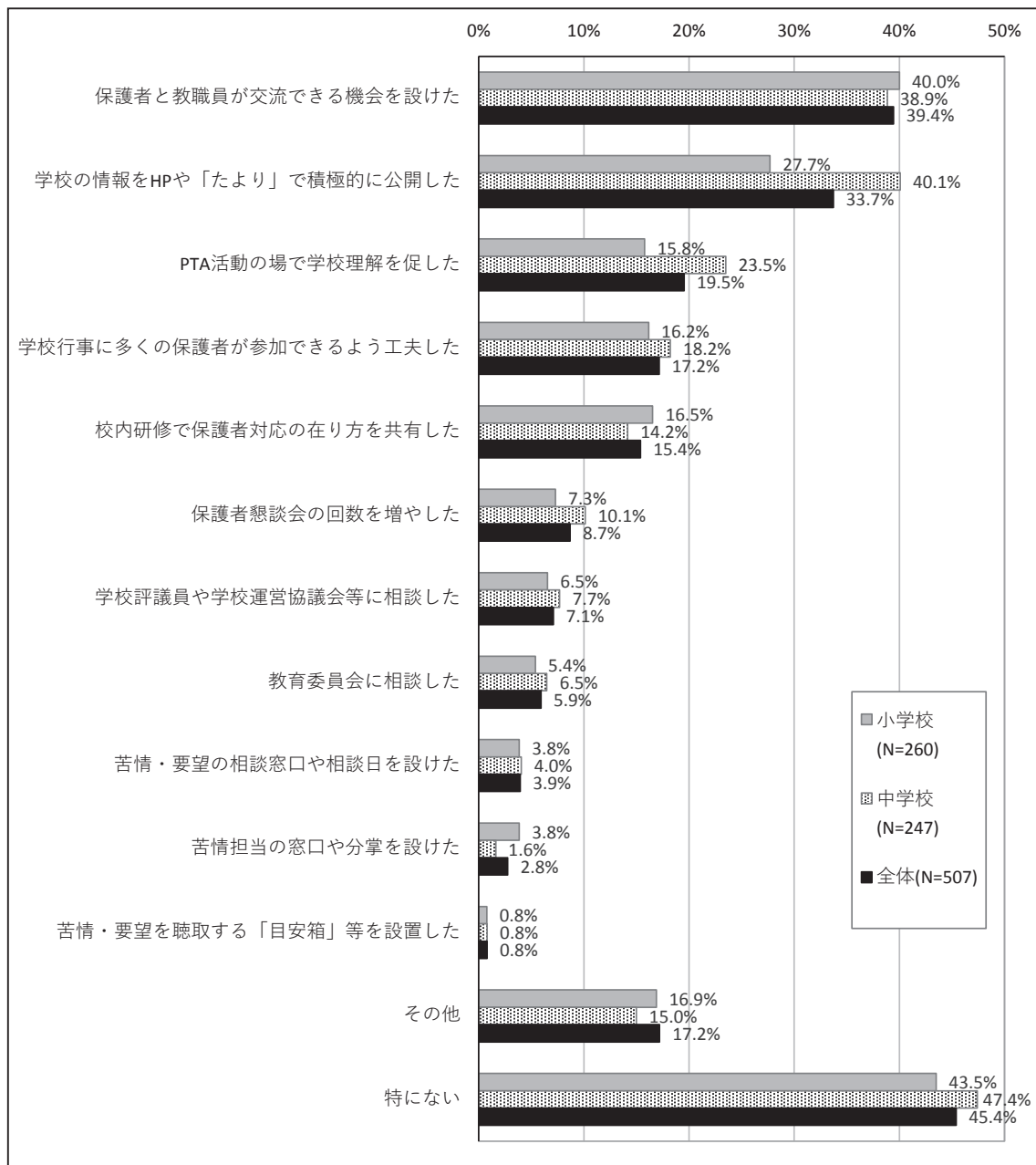
苦情等の対応の実態を探るため、ここでは「保護者や地域からの苦情・要望（相談を除く）に対して、効果的だった取り組み（苦情等が減った、納得してくれたなど）があれば、以下から該当する項目を選んで、その番号をいくつでも○で囲んでください」という質問を設けた。ここでは、保護者・祖父母・地域のいずれかでも苦情・要望等が「あった」と回答した者のみの数値を示しておくことにする。

その結果は図 30 のようになる。小中学校で共に「保護者と教職員が交流できる機会を設けた」を指摘する教職員が最も多く、小学校 40.0%、中学校 38.9%となる（全体 39.4%）。次いで、「学校の情報を HP や「たより」で積極的に公開した」が続くが、この場合校種による数値差があり、小学校 27.7%に対して中学校は 40.1%と約 12 ポイント上回っている（全体 33.7%）。いずれも情報共有に関する事で、どちらかと言えば媒体利用（HP やたより）は中学校の方が効果的だったようである。

また、「PTA 活動の場で学校理解を促した」も中学校（23.5%）の方が高い数値になり、小学校（15.8%）を 7.7 ポイント上回っている。

そのほかについては校種間の数値差がなく、10%台以下に止まるが、「相談窓口や相談日を設けた」「苦情担当の窓口や分掌を設けた」など積極的な取り組みは数値こそ低いが、新たな取り組みとして注目されよう。「その他」には、「電話連絡、面談を行い、保護者との意志疎通をはかった」「よく話を聞き、話し合っ解決策を提案した」「ほとんどが一方的な勘違いが多いので、十分説明をして理解を得るようにする」「保護者の持つ不安を共有し、本人には話の中から少しでも力になりたい旨を伝えた」など、とにかく保護者の話を傾聴すると共に理解を促す取り組みが見られた。

図30 保護者対応の実施率—小・中学校別—



なお、「特にない」が4割上だったことが懸念される。

(4) 保護者による苦情・要望に対する教職員の是非

保護者に対して、「自分以外も含めて、保護者が次のような理由で苦情や要望を学校に申し出ることをどう考えますか」という質問文の下に、以下の質問項目について、それぞれ「1. 当然だと思う－2. ある程度は当然だと思う－3. あまり望ましくない－4. 望ましくない」から択一回答を求めた。

- 10-1. わが子と仲のよくない子どもが同じクラスになったので、クラス替えをして欲しい
- 10-2. わが子を攻撃（いじめ・暴力）し続ける子どもがいるので、十分指導して欲しい

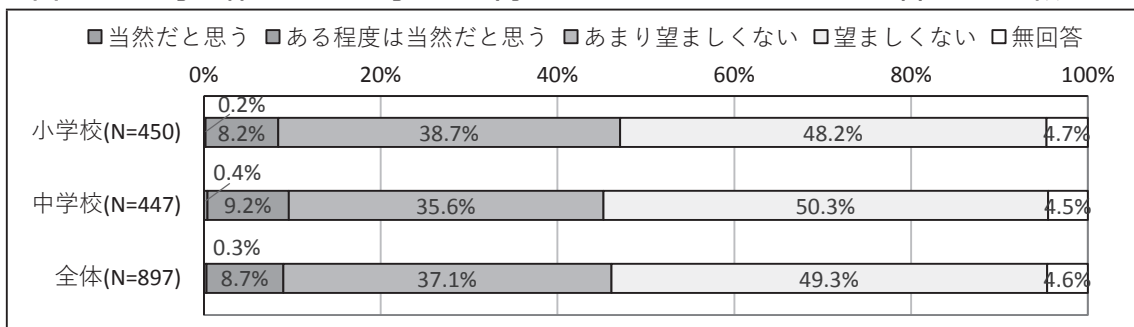
10-3. わが子が親の言うことを聞かないので、学校で十分指導して欲しい

10-4. 卒業アルバムにわが子の学校生活に関する写真が1枚もなかったため、アルバムを作り直して欲しい

※太字部分は略記を意味する。

それぞれの回答結果を見ていくと、まず（図 31）、「クラス替えをして欲しい」については「全体」では「当然だと思う」0.3%、「ある程度当然だと思う」8.7%となり、これらの是認する回答は1割に満たない。「クラス替え」は学校にとって実現困難であり、また「わが子と仲のよくない」という理由だけでは正当性にも劣るからであろう。この回答は校種による違いが見出されなかった。

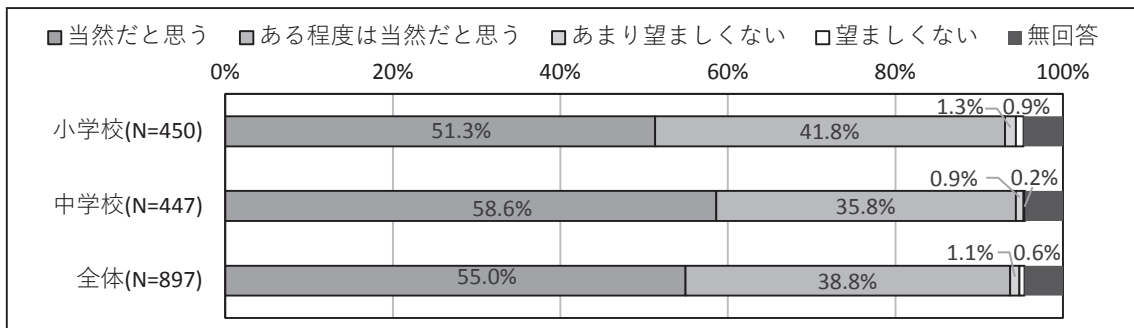
図31 わが子と仲のよくない子どもが同じクラスになったので、クラス替えをして欲しい



次に、「わが子を攻撃し続ける子どもを十分指導して欲しい」（図 32）は、「全体」では「当然だと思う」55.0%、「ある程度当然だと思う」38.8%となり、これらの是認する回答は93.8%に達する。いじめなどの被害に遭っているのだから、学校は当然指導すべきだと多くの保護者に認識されているのである。この場合、学校は指導すべきであるから正当性が高く、また実際に指導することが可能な事案になる。

校種別では、「当然だと思う」と強く是認するのは小学校（51.3%）よりも中学校（58.6%）で多く、中学校のその数値には有意差が認められた（*p<.05）。いじめや暴力の問題は中学校の方が小学校よりも深刻化していることが読み取れるのである。

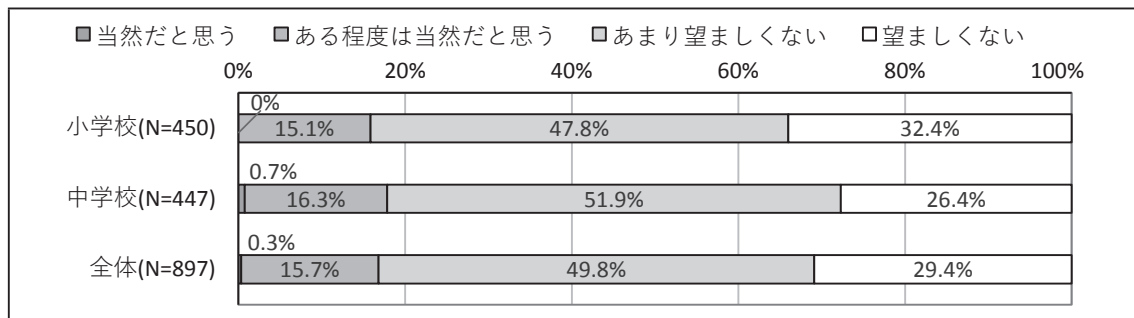
図32 わが子を攻撃し続ける子どもがいるので、十分指導して欲しい



「わが子を、学校で十分指導して欲しい」（図 33）は、「全体」では「当然だと思う」0.3%、「ある程度当然だと思う」15.7%となり、これらの是認する回答は16.0%となる。この場合、「当然だと思う」は「クラス替え」とほぼ同じで1%未満だが、「ある程度当然だと思う」はそれよりも高くなっている。おそらく、「わが子の指導」は正当性に劣るが、学校で不

可能ではないという認識があるため、「ある程度は当然」が若干高くなっているのだろう。なお、校種間の数値差はなかった。

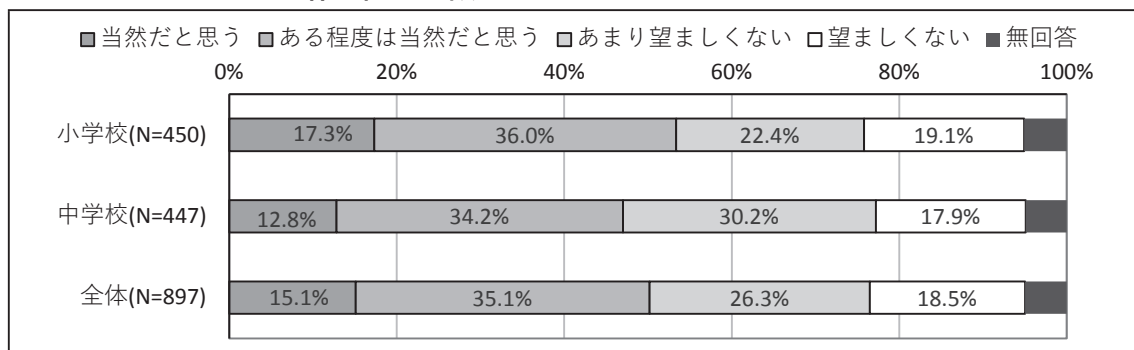
図33 わが子が親の言うことを聞かないので、学校で十分指導して欲しい



最後に、「卒業アルバムを作り直して欲しい」(図34)は、「全体」では「当然だと思う」15.1%、「ある程度当然だと思う」35.1%となり、これらの是認する回答は50.2%と半数に達する。「卒業アルバム」にわが子の学校生活の写真が1枚もないことは学校にも過失があり、従って作り直しの要求にはそれなりの正当性があると考えられるからである。「望ましくない」(「あまり」も含む)も約5割となるが、この回答には、写真がないのは同情の余地はあるものの、実際の作り直しは困難だという認識によるものと考えられる。

なお、校種別では小学校(17.3%)の方が中学校(12.8%)に比べて「当然だと思う」の数値が高くなっているが、このことは、年齢の低い小学生の方が写真のなさに傷つきやすく、また保護者のわが子への思いが強いことが関係しているかも知れない。

図34 卒業アルバムにわが子の学校生活に関する写真が1枚もなかったので、アルバムを作り直して欲しい

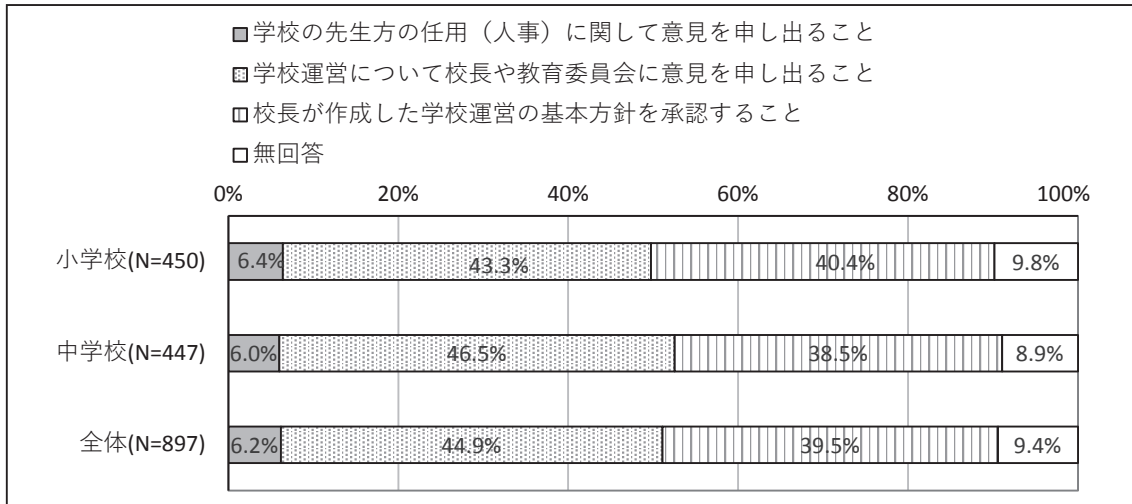


2. コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の権限に対する重要性認識 (13)

「コミュニティ・スクールに置かれる学校運営協議会等は以下の1～3までの3つの役割を担い、地域や保護者の学校運営参画を実現する仕組みです。1～3のうちで、あなたが重要だと思うものを一つ選んでください」という質問を設けた。

1. 学校の先生方の任用(人事)に関して意見を申し出ること
2. 学校運営について校長や教育委員会に意見を申し出ること
3. 校長が作成した学校運営の基本方針を承認すること

図35 学校運営協議会権限に対する重要性認識



その結果（図35）、「全体」で選択率が高い順に、「学校運営について校長や教育委員会に意見を申し出ること」（44.9%）、「校長が作成した学校運営の基本方針を承認すること」（39.5%）、「学校の先生方の任用（人事）に関して意見を申し出ること」（6.2%）となる。「校長や教育委員会に意見を申し出ること」と「学校運営の基本方針を承認すること」の数値が近似しているのに対して、「任用に関して意見を申し出ること」は著しく低い数字になっている。教職員は任用（人事）等に主として外部人材から成る学校運営協議会が関与することを嫌うのであろう。

また、「校長や教育委員会に意見を申し出ること」と「学校運営の基本方針を承認すること」では、職種によって数値が逆転している。図示していないが、「承認」の選択率は、校長54.8%、副校長・教頭45.9%、主幹教諭等58.1%となり、これら学校経営の中心になる職種では高いのに対して、教諭39.2%と低くなる。教諭はむしろ「校長や教育委員会に意見を申し出ること」を選択する割合が高い（46.0%）。校長等は意見申出の対象になり、また教育委員会という学校外に作用が及ぶことを避ける傾向があり、教諭は「承認」を管理職等ほどには身近に捉えていないのであろう。

3. 教職員による学校運営参画（学校のガバナンス）の捉え方（14）

コミュニティ・スクールは学校のガバナンスの仕組みとして誕生した。学校のガバナンスをめぐっては様々な定義がなされているが、ここでは、「学校の諸活動に対する『規律付け（モニタリング）』と、それとの相互協力と合意形成をめざす新たな学校経営の在り方」だと定義しておきたい（参考：佐藤晴雄「学校のガバナンスからみたコミュニティ・スクールの課題と展望」『季刊教育法』181号、2014年）。したがって、「承認」は承認が得られるよう規律づけられると同時に「合意形成」の過程に位置付き、また「運営意見申出」は校長に対しては「合意形成と相互協力」として機能し、教育委員会に向かうときには学校に対する「規律付け」として機能することになる。「任用意見申出」も、教職員にとっては「規律付け」になり、また教職員態勢の向上を目指す意味では「合意形成と相互協力」として機能することになる。

つまり、コミュニティ・スクールの学校運営協議会は学校に問題があればこれを指摘し、改善策を呈すると共に、学校と協力することによって学校改善などを目指すための仕組みになるわけである。

(1) 保護者・地域による学校運営の参画意識

—教職員調査と保護者調査の比較—

そこで、学校のガバナンスに関する質問を5項目示して、各問について相反する選択肢を二件法により択一回答を求めた。それぞれについて、保護者と教職員の回答結果を示しておくことにしよう。

まず、「コミュニティ・スクールの仕組みについてどう思うか」の質問文に対して、「地域・保護者が学校運営に参画すべきである」(「全体」59.1%) ⇔ 「学校運営は学校に任せるべきである」(同 40.9%) の二つの選択肢から回答を求めたところ、前者を選んだ者は、保護者 58.4%・教職員 61.7%となり、教職員の方が多くなった (* $p<.05$)。学校運営参画については教職員の方が肯定的であり、保護者はどちらかと言えば学校任せの傾向にある(「学校運営は学校に任せるべき」の回答は、保護者 41.6%・教職員 38.3%)。

	地域・保護者が学校運営に 参画すべきである	学校運営は学校に 任せるべきである	合計
保護者	1805(58.4%)	1288(41.6%)	3093(100%)
教職員	507(61.7%)*	315(38.3%)	822(100%)
全体	2312(59.1%)	1603(40.9%)	3915(100%)

* $p<.05$

(2) 「承認」行為の是非

基本方針の「承認」については、「基本方針の「承認」は特色づくりにつながる」(「全体」82.3%) ⇔ 「基本方針の『承認』は校長の裁量権を狭める」(同 17.7%) のいずれかを選択してもらったところ、前者の選択率が保護者と教職員のいずれでも高いが、保護者によるその数値が教職員を有意に上回った (** $p<.01$)。両者ともに「校長の裁量権を狭める」と考える者は2割前後に止まる。そこには、「新しい公共」やモニタリングの機能を支持する者が多い実態を読むことができる。前述のように「承認」を重視する者が最も多いことから、このことによる「特色づくり」への期待が強いことがわかる。

	基本方針の「承認」は 特色づくりにつながる	基本方針の「承認」は 校長の裁量権を狭める	合計
保護者	2446(83.5%)	483(16.5%)	2929(100%)
教職員	632(77.8%)	180(22.2%)	812(100%)
全体	3078(82.3%)	663(17.7%)	3741(100%)

*** $p<.001$

(3) 「任用意見」の是非

「任用意見申出」については、「教職員任用の意見申出でよい先生が着任してくる」(「全体」39.5%) ⇔ 「教職員任用の意見申出は人事を混乱させる」(同 60.5%) から回答を求めたが、この場合は、任用意見申出権限に対する否定的見解となる後者の「人事を混乱させる」の方が高い数値を示した。しかし、保護者の場合は、両回答の数値が近似し、「よい先生が着任してくる」は44.7%と5割に迫っている。このことは、前述した学校運営協議会権限の重要性認識にも裏付けられ、保護者は任用意見による学校改善を重視する傾向が教職員に比べて強いことを表している。教職員の場合、「よい先生が着任」21.2%、「人事を混乱させる」78.8%となり、否定的な回答が大きく上回っている。教職員にとって「任用意見」は他人事ではないからであろう。

	教職員任用の意見申出で よい先生が着任してくる	教職員任用の意見申出は人事を混乱させる	合計
保護者	1308(44.7%)	1621(55.3%)	2929(100%)
教職員	174(21.2%)	645(78.8%)	819(100%)
全体	1482(39.5%)	2266(60.5%)	3748(100%)

***p<.001

(4) 校長に対する運営意見の是非

校長への「学校運営意見申出」に関しては、「校長への意見申出で学校が活性化する」(「全体」79.9%) ⇔ 「校長への意見申出は学校の自律性を損なう」(同 20.1%) から回答を求めたが、保護者と教職員のいずれでも前者「学校が活性化」が「自律性を損なう」を大きく上回った。その意味で、保護者も教職員も校長への意見申出には肯定的だと言えるが、保護者に比べて教職員のその数値が低い実態にある (**p<.01)。わずかな差ではあるが、教職員には「自律性を損なう」という否定的な見解が保護者よりも多いことになる。

なお、後述する「教育委員会に対する意見申し出」の肯定値が低いのに比べて、校長への意見申出は肯定値が高いのはこれが校長のコントロール内の行為に止まるからであろう。

	校長への意見申出で 学校が活性化する	校長への意見申出は 学校の自律性を損なう	合計
保護者	2328(81.6%)	525(18.4%)	2853(100%)
教職員	599(73.9%)	212(26.1%)	811(100%)
全体	2927(79.9%)	737(20.1%)	3664(100%)

***p<.001

(5) 教育委員会に対する運営意見の是非

教育委員会への運営意見申出についてはどうだろうか。この場合、「教育委員会への意

見申出で学校が活性化する」(「全体」77.0%) ⇔ 「教育委員会への意見申出は教育委員会を混乱させる」(同 23.0%) から回答を求めたところ、前者の回答が後者を上回ったものの、前者の数値は教職員が保護者を著しく下回った。肯定的回答である「学校が活性化する」は保護者 80.9% に対して、教職員は 63.5% に過ぎなかった。教職員の 3 分の 1 以上が教育委員会への意見申出には否定的な考え方を持っているわけである。教育委員会への意見は校長のコントロールの範囲を超えた行為だからだと考えられる。

表10 コミュニティ・スクールの仕組みについてどう思うか

	教育委員会への意見申出で 学校が活性化する	教育委員会への意見申出は 教育委員会を混乱させる	合計
保護者	2307(80.9%)	545(19.1%)	2852(100%)
教職員	517(63.5%)	297(36.5%)	814(100%)
全体	2824(77.0%)	842(23.0%)	3666(100%)

***p<.001

※本稿は、コミュニティ・スクール研究会編『平成 27 年度文部科学省委託調査研究「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」総合マネジメント力強化に向けたコミュニティ・スクールの在り方に関する調査研究報告書』(2016 年 3 月)における拙稿「第 14 章 保護者・教職員のコミュニティ・スクールに対する認識」を基にして、一部書き改めたものである。

(佐藤 晴雄)

第22章 教職員調査の自由記述(15)

【はじめに】

今回の調査においても、前回同様教職員調査に自由記述の欄を設定した。前回は60ケースの記述に対し、今回は120ケースとなり、多くのご意見を頂戴することができたことにまず感謝の一言を申し上げると共に、その事から、多くの教職員達が、常に真摯に学校や自らの行う教育について考えていることをうかがい知ることができると考える。120ケースのうち4ケースは本調査への貴重なご指摘であったため、その4ケースを除いた116ケースを分析の対象として取り扱うこととした。

(12) 家庭教育やしつけに関して、お気づきの点等がありましたら、ご自由にお書きください。また、家庭教育支援に関する特色ある取り組みの事例等をお知りでしたら、お書きくださると幸いです。

設問は前回同様に上記の内容である。今回も設問の後半で家庭教育支援の事例も一緒に聞いたために、暗に家庭教育に課題があるというメッセージをアンケート全体を通して回答者に伝えた印象が否定できない。事実、調査対象より外したケースではその点のご指摘をいただいている。多くの自由回答が、家庭教育の現状の批判と、家庭教育の充実のための方策という傾向になっている背景には、設問そのものが影響していることを念頭において検討していきたいと考えている。

【1. 前回調査の傾向】

本調査の特徴は、7年前の前回調査と全く同じ設問で実施されたため、経年調査として比較検討することを可能としたことである。この7年間の教育現場は大きくその様相を変える期間であった。「ゆとり」教育が批判され、学力向上が推進される中で、学力調査の実施や学校評価が定着すると共に、小学校においては外国語活動が始まるなど教育内容の改革が推進された。また世界的潮流に呼応してインクルーシブな学校教育の実現を目指して、特別支援教育体制の確立もまさにこの7年間での出来事である。さらに、3月11日の東日本大震災は学校に、地域に、そして家庭に大きなインパクトを与えている。そのような7年間で教職員の意識はどのような変化があったのかを見ることができればと考えている。

そこで、まず前回調査の特徴を簡単に示しておきたい。前回調査では次の3点で調査内容を検討している。

- しつけと学校の在り方について
- しつけと家庭教育の在り方について
- 今後の方向性について

3点のそれぞれの点を概略して、前回調査の特徴を明確にしていきたい。

1) しつけと学校の在り方について

教職員にとっては、「しつけ」が家庭でされておらず、学校の負担は甚大であるという共通認識が存在した。そして、学校はどのようにしていくべきかについての記述は存在せず、学校がよりよく機能するため、家庭におけるしつけをより充実して欲しいという強いメッセージ性が各記述の中に内在していた。

2) しつけと家庭教育の在り方について

前回調査では調査時に増え始めてきた、学校に非常識で理不尽な要求を平気で言えるモンスターペアレントへの教職員の怒りのようなものが背景にあり、その保護者への憤りから家庭を見ているという点が否定できなかった。その点を考慮したうえで、家庭教育の在り方をどのように当時の教職員が捉えているかについて以下の6つの傾向としてまとめている。

- ① 家庭教育以前に親の教育が必要である
- ② 婦関係が壊れているのでそこから始めるべき
 - ・現代社会の仕組みが夫婦に厳しく、共に時間を共有することも困難
 - ・「男が悪い」
- ③ 期待すべき地域の関係性が薄い
- ④ 愛情を子ども達にかけてほしいという願望
- ⑤ とにかく、これが悪い あれが悪い そしてお前がやれという怒りの存在

3) 今後の方向性

前回調査では、家庭教育やしつけ不足に対する怒りや、不満を述べたものが多いが、今後の方向性やビジョンを真摯に考え記述してくれた教職員も多く存在した。そこでは次のような改善への方向性が指摘されていた。

- ① 地域のコミュニティの再生を目指す
- ② 子どもたちに豊かな心と愛情を注ぐべき(本当のしつけはルールを教える事ではない)
- ③ だれがやるのか?それは大人全体の責務である

以上のような検討を経て、家庭教育の方向性については、大人とはなにか、大人はどうあるべきかを問い直すことがまず重要であるという課題提起をして、前回調査の自由記述のまとめとしている。

【2. 今回の調査の概観と分析方法】

前回の調査における自由記述は現状の批判検討という印象が強かったが、今回の調査では微妙に教職員のニュアンスが変化してきている。前回には見られなかった、本調査への期待が感じられる次ページに転載したような記述が複数見受けられた。批判から期待に、そして変革していく方向性を模索し始めている教職員の姿がおぼろげながらも見え始めたというのが、今回調査の概観である。教職員の世代交代が進み、どの学校も20代30代の教職員が過半数を占める状況に急激にかわった7年間をどう見取っていくかが重要であると考えられる。

家庭教育が不足してきている今、日本の未来のために学校がふんばらなければという思いで子どもの教育をがんばっているところです。しかし保護者や地域への教育は難しいです。昔のような教育のよりどころ的なものがあればよいと思っています。何が正しく何がまちがいかわかりにくい今、それぞれの権利だけを主張している状況はやりやすく、子どもたちの成長をさまたげることにつながっているとも思います。このようなアンケート結果をよりよい日本の未来創りに役立てていただけたら幸いです。

そこで、本調査の自由記述を検討するに当たり、前回は記述内容に寄り添って検討したのに対し、本調査では116ケースとケース数も多いことから、自由記述の数量化を図ることとした。自由記述一つ一つを読み取りながら、記述の要素となる内容を項目として設定し、項目が確定した時点で複数の教職員に自由記述を示して、記述の中にある要素はなんであるかについて検討を加えて数量化することとした。検討の結果抽出された自由記述の中にある要素は次の通りである。

- ①家庭責任 : 家庭教育（しつけ）は家庭で行うべきであり、家庭の責任であるという論調。
- ②保護者しつけ力欠如 : 保護者がしつけの仕方を知らない。また、保護者自身が常識を欠如している。
- ③家庭保護 : 勤労状況の悪化や貧困・離婚・DVなどから家庭自身を救済していく必要。
- ④社会変化 : 社会状況の変化が教育や家庭、また規範意識等に影響を与えている。
- ⑤学校負担増 : しつけがなされていないため、学校の負担が増加している。学校の責任ではないという論調を含む。
- ⑥学・地・幼等協働 : 家庭や学校・地域、また幼稚園や保育園などが協働してしつけに取り組む。
- ⑦親子関係不足 : 愛情ある親子関係が十分培われていない子供たちが多くなっている。また、できない保護者も増加しているという論調。
- ⑧社会教育期待 : スポーツ少年団や公民館等の行政を含む社会教育に子供たちの育成を期待。
- ⑨公共規範しつけ不足 : 公の場での行動規範が教育されていない子供や大人が存在する。
- ⑩地域期待 : 地域の自治会やコミュニティセンター等の取り組みでの子供育成に期待する。
- ⑪学校責任 : 学校として、社会人を創る視点での規範意識は教育していくべきである。
- ⑫責任分担 : みんなでしつけするというのではなく、誰が何をしつけていくかを分担するべき。
- ⑬押付否定 : 子供たちのしつけ不足を家庭や学校の責任に押しつける方向性を否定。
- ⑭しつけ内容不足 : 何を、何のために、どのようにしつけるのかについての知識も

不足しており、結果としてしつけがなされていない子供たちが増加しているという論調。

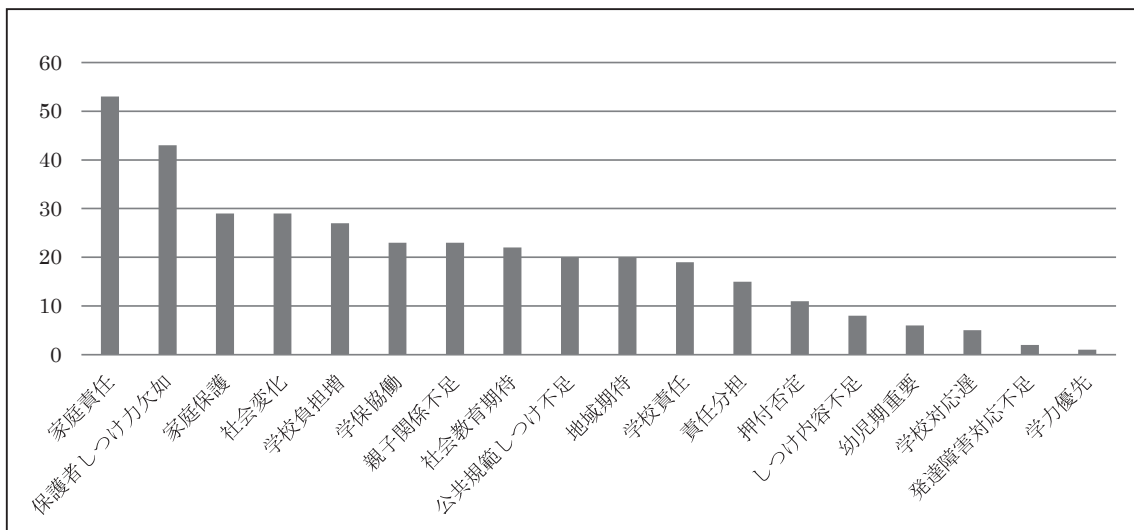
- ⑮幼児期重要 : しつけは幼児期から行うことが重要である。
- ⑯学校対応遅い : 何事につけて、何かが起こってから動き出す学校の対応は遅い。
- ⑰発達障害対応不足 : 発達障害のある子供たちへの理解や対応が不足していて、学校でも家庭でもしつけがうまく機能してない。
- ⑱学力優先 : 学力が優先されており、家庭や学校で大切なしつけができなくなっている。

【3. 分析結果と考察】

複数回自由記述を複数の教職員で読み取った結果、自由記述に内在する主張の要素を次のように数量化することができた。下記のグラフは、数量化したものをグラフ化し、ポイント数の多いものから並び替えたものである。

学保協働	家庭保護	幼児期重要	責任分担	学力優先	社会変化	学校対応遅	内容不足	しつけ不足	公共規範	社会教育期待	地域期待	発達障害対応不足	学校負担増	親子関係不足	しつけ力欠如	保護者	学校責任	家庭責任	押付否定
23	29	6	15	1	29	5	8	20	22	20	20	2	27	23	43	19	53	11	

図36 自由記述内在要素（単位はカウント数）



このデータを基に、今回の調査における自由記述から教職員の家庭教育（しつけ）の認識の傾向を、前回調査と比較しつつ読み取っていききたい。

1) 「しつけはやはり家庭の責任である。しかし……。」

この教職員の思いは、前回調査と同様に教職員の認識の中核を担っているということが出来る。グラフにおいてもしつけは家庭の責任であると記述したケースが116ケース中

53 ケースを数えることから、家庭がしつけをしっかりとやらないから、学校は大変になっているという考え方が浸透していると読み取ることができるだろう。特に学校の負担が増えていると記述した27 ケースの記述は、家庭責任を追及したい気持ちで一杯のようである。日常の教育活動ができない状況の苛立ちを、家庭に向けていく教職員の気持ちは教育現場にいる者にとっては理解できる。

前回調査では、責任追及が全面に出た結果となったことは前述したとおりであるが、今回の調査では、家庭教育の責任は家庭にあると位置づけた上で、家庭だけに任せていくのではなく、学校をはじめ地域や保護者で役割分担を図ったり、協働してとりくんでいかなくてはならないとするきわめてポジティブな考え方が示されたことは特筆すべき点である。次の記述を見ていただこう。

学校教育と家庭教育の役割を分けることは出きず、むしろ掛け合わせた“人間教育”という視点で議論や取り組みが進んでいけたらと、心から思います。互いの非をせめるのではなく、互いが出来ないことを補い合うことが教育の本質だと思っています。日本人が持つ“はっきり言わず、人の心を考えた言い方”を大切にしながらも、互いの教育が間違っていると感じたことは、しっかりと伝え、受けとめ、改善していくことが大切だと思っています。責任のなすり付け合いだけではならぬよう、互いの状況も理解していく必要があるのではないのでしょうか。“全ては子ども達のために”このことを忘れてはいけないと思います。

学校は教育機関であり、教育機関が適正に機能するようしつけを行うのは家庭や地域の責任としていた教職員たちが、そのように言っているだけでは何も変わらない現実を前にして、「大人」が力をあわせ、協働してしつけを学校でも行い、次の日本を、次の社会を創っていく必要性を語る教職員が現れてきたことが、今回調査の大きな変化である。

2) 「しつけ不足の要因は社会変化の家庭への影響にある」

家庭教育やしつけの問題、特にマイナス方向のベクトルが働いているのは、保護者の余裕のなさが大きな原因になっていると思います。金銭的にも、時間的にも追い込まれている親が本当に多くなってきていると思います。正直、学校ができることは少ないと思います。仮に今まで家庭がになっていたことを、学校が行うとしても、人的にも、財政上も、不可能だと思います。悲しいことですが、私たち教員は、社会がこれ以上残念なことにならないように、少しでも学校でできる範囲で、子どもたちを育てていくしかないと思います。

社会には、期待できません。

この記述にあるように、社会変化が家庭の家族関係を蝕んできているという論調が、今回の調査では多く登場してきている。離婚家庭の増加や、貧困・虐待等の家庭課題が、その家庭の自力努力だけでは解決しない社会状況が底辺に存在しており、そのため家庭教育に係る負の連鎖からなかなか抜け出すことができない家族の状況を、教職員たちが把握し、

何とか対応しようとしている日常が浮かび上がってくる。上記の記述にある「社会には、期待できません。」の一言は、重い。

社会変化に巻き込まれていく家庭や学校において家庭教育（しつけ）をどう再生していくかについて、とにかく学校が何らかのアクションを起こしていかななくてはならない旨の記述が多く現れたのが、今回の調査のもう一つの大きな傾向である。傍観者から、当事者になろうとする教職員の姿がそこにあると期待したい。

3) 「家庭を、家族を守れ。」

前回の調査においては、この視点はほとんど記述されていなかった。2) でも述べたように、社会変化の影響を受け、家庭が、家族が、壊れていく状況の中で、児童生徒の非行や社会不適応が起こるのは当然すぎるという事例に遭遇している教職員は、子供たちの「しつけ不足」以前の、「家庭や家族の危機」を支援し助けていく必要性を訴え始めたのである。これは、各学校で、懐古的な学校優先論を論じてきた団塊の世代が定年退職し、学校も共に動き出していかななくてはいけないとする学校文化が生み出されてきたと捉えることができであろう。そこまで状況は厳しくなっているのである。

【おわりに】

前回調査と同じように、家庭教育（しつけ）の責任は家庭にあり、家庭教育におけるしつけができていないため、学校における負担が増加しているという教職員の認識は、今回の調査でも踏襲されている結果となった。しかし、前回調査では、とにかく学校外の責任を追及する傾向が強かったのに対し、今回の調査では現状を生み出す要因が社会変化であり、しつけの母体となる家庭自体が困難と遭遇しているという見方が記述され始めた点が大きな変化である。そのため、しつけに係る課題の解決に向けては、学校が動き出す必要性を認めた上で、地域や社会教育、また保護者が協働して取り組んでいく事が必要だとする方向性が生み出されてきており、ポジティブアクションがスタートし始めている事を読み取ることができたのである。

では、どこからはじめて行くのか。記述数は少ないが、やはり家庭における心の通った関係の再生の重要性を教職員は指摘している。家庭教育におけるしつけの課題は、家庭や家族を再生させる取り組みから出発するしか方法はないのかもしれない。いま、学校・地域による家族再生の道筋が問われているのである。

(栗原 幸正)

【第2部】 調査結果の考察

第23章 「保護者力」から見た子どもの自己行動認識・規範意識

はじめに

本稿では、保護者調査と児童生徒調査のデータをマッチングし、「保護者力」の在り方と児童生徒の自己行動認識・規範意識との関係を探ることにした。保護者力がその子の自己認識や規範意識に一定の影響を及ぼすものと考えたからである。その場合、「保護者力」を以下のように定義した。

【保護者力の定義】

親子間コミュニケーションや保護者自身の日常行動の在り方、学校への関与の在り方、家庭教育力、家庭教育学習力を包括した概念で、わが子のしつけや教育に一定の影響を及ぼすと考えられる変数である。分析に当たっては、これらを数量化し、スコアが高いほど保護者力が高いものと解することになる。

【保護者力に関する変数】

親子間コミュニケーション→保護者調査⑩「あなたとわが子との会話についてお聞かせください」

日常行動→保護者調査⑥「あなた自身の普段の行動についてお聞かせください」

学校への関与の在り方→保護者調査⑧「あなたと、お子さんが通っている学校との関わりについて、おたずねします」

家庭教育力→保護者調査④「あなたのお子さんに対するしつけの様子についてお聞かせください」

家庭教育学習力→保護者調査⑭「次の家庭教育に関する学習や支援等に関することについて、おたずねします」

上記のうち⑩を除く各設問の選択肢は以下により数量化した。

「とてもはてはまる」=4、「少し当てはまる」=3、

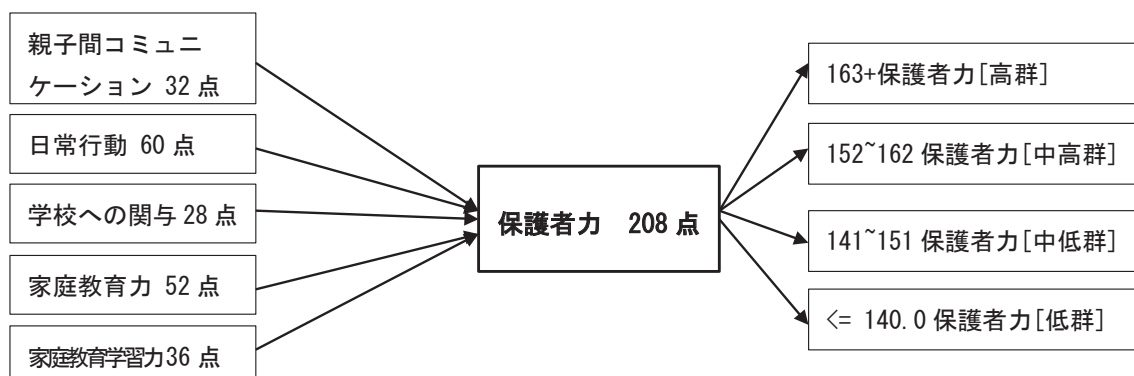
「あまり当てはまらない」=2、「まったく当てはまらない」=1

⑩については、以下のように処理した。

「よく話している」=4、「ときどき話している」=3、

「あまり話していない」=2、「まったく話していない」=1

そして、「保護者力」を**下図右**のように4分割してカテゴリー化した（枠内の数値はフルスコア。右のカテゴリー内の頭の数値は分割点を表す）。

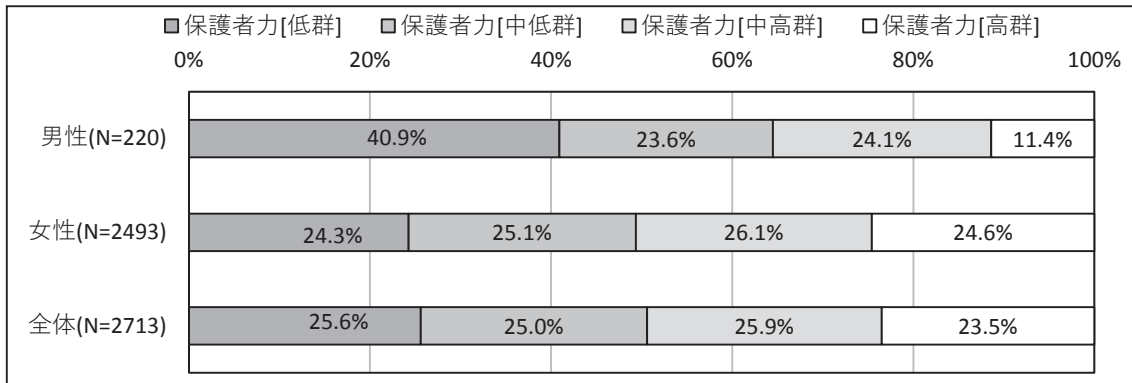


1. 保護者力と保護者の特徴

(1) 性別

保護者力を性別で見ると(図1)、「男性」には「保護者力[低群]」が最も多く(40.9%)、「保護者力[高群]」が最も少ない(11.4%)結果となった。「保護者力[低群]」に注目すると、「男性」40.9%に対して「女性」24.3%と約15ポイント低下するのに対して、「保護者力[高群]」は男性11.4%に対して「女性」24.6%と約2倍になる。その他の「保護者力」の「中低群」と「中高群」の数値には男女差が見られなかったが、全体的に保護者力は男性より女性の方が高い傾向にあると言える。

図1 保護者力 -性別-

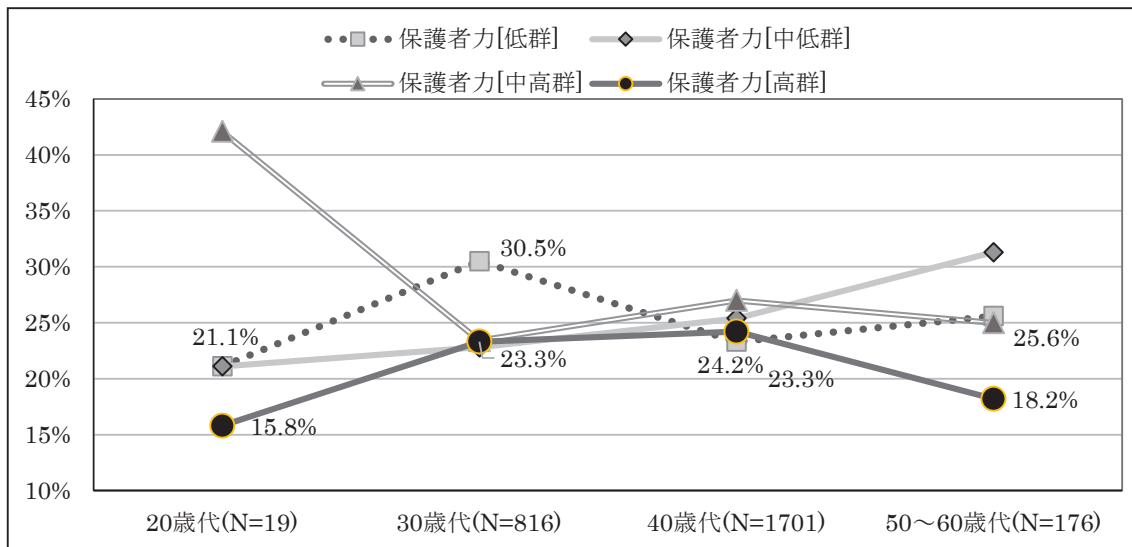


(2) 年代

保護者を年代別に見ると、図2に記したように、「保護者力[高群]」(太線)は「30歳代」(23.3%)と「40歳代」(24.2%)に多く、「保護者力[低群]」(点線)は「30歳代」が最高値(30.5%)を示している。「30歳代」は「高群」と「低群」、さらに数値を記していないが、「中低群」「中高群」も20%台になる。「40歳代」は各群に等分された形になる。なお、「高群」は「20歳代」と「50～60歳代」に多いようである(「20歳代」は人数Nが少ないので参考値)。

30歳～40歳代は子育て真っ最中の年代であり、またある程度の子育て経験を積んでいることから「高群」が相対的に多いのであろう。「50～60歳代」は中学生を持つケースが多く、ある程度わが子と距離を置きながら子育てを行う者が多くなるために、「高群」が少なく、「中高群」が多くなるものと考えられる。

図2 保護者力 -年代別-

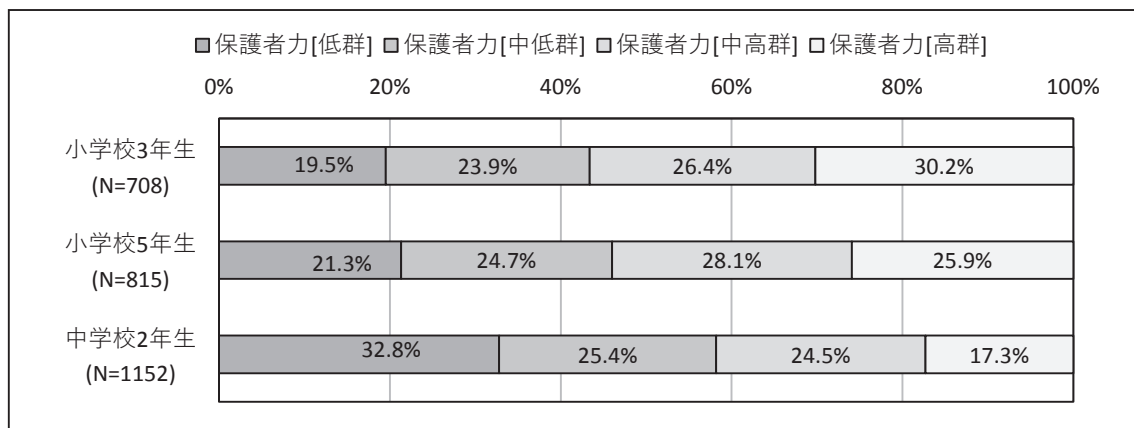


(3) 学年

そこで、保護者の子の学年別に保護者力を見ると、「保護者力 [低群]」は学年が上昇するにつれて多くなる傾向にあり、反対に「高群」は学年の上昇と共に減少する傾向が見出された。中間的な位置にある「中低群」「中高群」の数値は学年による明確に違いが見出されなかった。

やはりわが子の年齢が高くなるに従って、子に対する働きかけが弱くなり、結果としてここで言う「保護者力」が低下していくことが分かる。

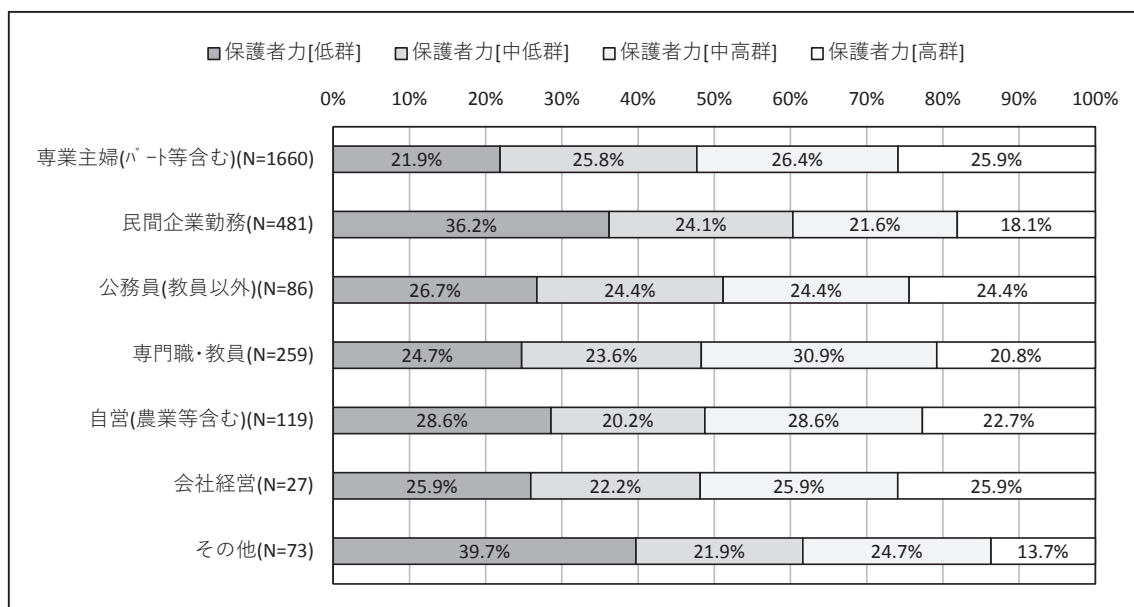
図3 保護者力 -わが子の学年別-



(4) 職業等

保護者の職業等別に見ると、図4に記した結果が得られ、保護者力「低群」は「民間企業勤務」(36.2%)に多いことがわかる(「その他」を除く)。これに「中低群」を合わせると、「民間企業勤務」は60.3%に達するが、保護者力をなす「親子間コミュニケーション」や「学校関与率」などの数値は平常の勤務時間の制約により低くなっているものと考えられる。

図4 保護者力 -職業等別-



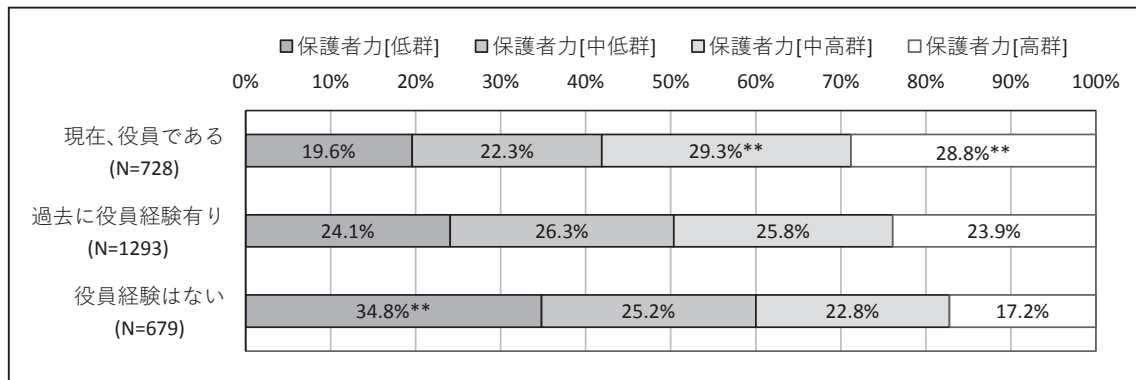
一方「高群」は「専業主婦」(25.9%)と「公務員(教員以外)」(24.4%)に多く、度数は少ないが「会社経営」(25.9%)でも高くなっている。「民間企業勤務」とは対照的に、これらの職業等の場合には比較的わが子と接する機会がとりやすいのであろう。ちなみに、教育以外の「公務員」の場合には、時間単位の休暇取得が可能であることから、学校関与なども民間企業に比べてスコアが高くなっていると考えられる。ただし、「自営」については自己裁量の時間があるものと思われたが、保護者力の「低群」(28.6%)が多く、「高群」(22.7%)が少ない結果となった。

(5) PTA 役員等の経験の有無

PTA 役員等の経験の有無別では(図5)、「保護者力[低群]」は「現在、役員である」19.6%、「過去に役員経験有り」(24.1%)、「役員経験はない」(34.8%)となり、役員の現役→過去→未経験という順に従って数値が下がる傾向にある。反対に「高群」は「現在、役員である」(28.8%)が最も高く、他の層を有意に上回る結果となり、次いで、「過去に経験有り」(23.9%)、「役員経験はない」(17.2%)となるように、PTA 活動への関わりと保護者力には関係があることが明らかになった。

このことは学校関与率が大きく影響しているものと思われるが、そのほか、PTA 活動を通じてわが子の教育に強い関心を持つようになったからだと考えることもできる。ちなみに、図示していないが、役員経験の有無等は、親子間コミュニケーションでは保護者力の4群間に著しい違いはなかったが、「学校関与率」及び「保護者の日常行動」並びに「家庭教育力」では「顕在、役員である」が他の層よりも「保護者力[高群]」が高い傾向にある。

図5 保護者力 - PTA 役員経験の有無等 -



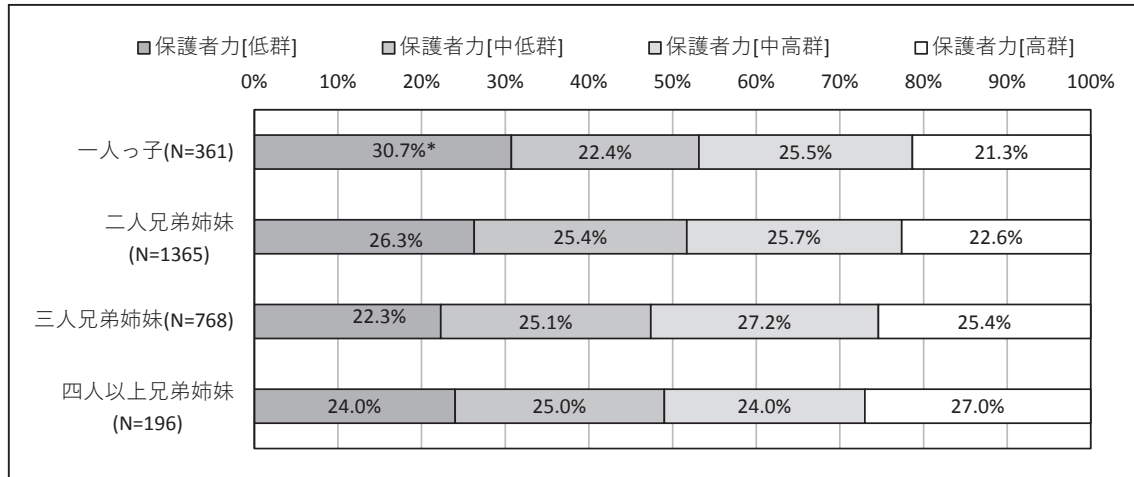
(6) わが子の数 (子どもの兄弟姉妹数)

保護者の回答から、わが子の兄弟姉妹数別に保護者力の在り方を見ると(図6)、まず「一人っ子」は「保護者力[低群]」(30.7%)が多く、「高群」(21.3%)が最も少ない。そして、「低群」は子どもの数が増えると減少するが、「四人以上兄弟姉妹(以下「四人以上」)になると若干多くなっている。

一方、保護者力の「高群」は「四人以上」(27.0%)が4群中で最高になり、子どもの数が減るにつれて減少する傾向にある。「二人兄弟姉妹」と「三に兄弟姉妹」はそれら両者の中間的な傾向を示している。

以上から、おおむね子どもの数が増えると保護者力が高くなることがわかる。子育て経験が保護者力を高めているものと思われるのである。ただし、「学校関与率」の場合、子どもの数が少ない方でそのスコアが高くなっている。

図6 保護者力－子どもの数別－



□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

以上の分析結果からはおおよそ以下のことが主張できるであろう。

保護者力の高い層は、女性に多く、年代では40歳代から50歳代以上に相対的に多く、またわが子の学年（アンケートを持参した児童生徒）が低いほど多く、また職業等では専業主婦及び公務員（教員以外）に比較的多く見られるが、そうした属性が影響してか、PTA役員等の経験者の方が未経験者に比べて多くなり、わが子の数が増えるに従って増える。つまり、子育ての時間的余裕と経験があり、そのことも関係して学校との関わりを持つと保護者力が高くなっているのである。

2. 保護者力と児童生徒の自己行動認識

そうした保護者力の影響を探るために、保護者の回答による「わが子の行動認識」と児童生徒調査の回答中の自己行動認識（Q3）との関係を分析することを試みた。ここで用いる児童生徒の自己行動認識に関わる質問は以下の通りであり、保護者調査（この場合は「わが子の行動認識」）も同様の質問とした。

- 3-1. 親の言うことを素直に聞く
- 3-2. 先生の言うことを素直に聞く
- 3-3. 自分勝手な考えや行動をしない
- 3-4. 決められたルールはよく守る
- 3-5. ともだちが多い
- 3-6. はじめての人ともすぐともだちになれる
- 3-7. 外でよく遊ぶ
- 3-8. 早寝・早起きができる
- 3-9. 自分のことは自分でできる
- 3-10. 学校の勉強はよくできる方だと思う

3-11. 自分で進んで学習できる

3-12. 学校に行くのが楽しい

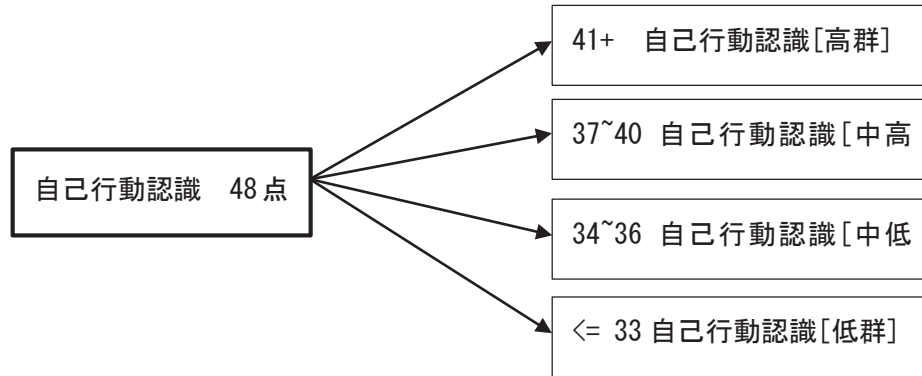
そして、児童生徒の自己行動認識は、以下のように数量化した。

自己行動認識→児童生徒調査③「あなたは、自分をどのような子どもや生徒だと思えますか。あてはまるものを一つ選(えら)んで、その番号(ばんごう)を○でかこんでください」

「とてもあてはまる」=4、「少しあてはまる」=3、

「あまりあてはまらない」=2、「まったくあてはまらない」=1

児童生徒の自己行動認識も下図により 4 分割してカテゴリー化した。



この自己行動認識は自己肯定感と言い換えてよいかも知れない。

(1) 保護者の「わが子の行動認識」と保護者力5変数

まず、保護者力を構成する 5 つの変数である「家庭教育力」「家庭教育学習力」「親子間コミュニケーション」「学校関与率」「保護者の日常行動スコア」を説明変数に置き、保護者から見た「わが子の行動認識」(保護者調査 Q5) を非説明変数とする重回帰分析を行ったところ、**表 1** に記した結果が得られた。調整 R2 乗値は .28 と低く説明力は弱いですが、「家庭教育力」「親子間コミュニケーション」「保護者の日常行動スコア」が有意に関係していることがわかった。なお、「家庭教育学習力」については β が低いだけでなく、むしろ負の数値となった。また、「学校関与率」はほとんど関係していなかった。

表 1 わが子の行動認識を非説明変数とする重回帰分析

説明変数	β
Q4 家庭教育力	.22 **
Q14 家庭教育学習力	-.07 **
Q9 親子間コミュニケーション	.24 **
Q8 学校関与率	.03
Q6 保護者の日常行動スコア	.24 **
R2 乗	.28
調整済み R2 乗	.28
N	2682

※強制投入法 ** $p < 0.1$ * $p < .05$

(2) 児童生徒の自己行動認識

つぎに、児童生徒調査の回答中の自己行動認識を非説明変数として、前記の保護者力構成5変数を説明変数とする重回帰分析を行ったところ、その結果は**表2**のようになった。調整R2乗値は.06と極めて低くなる。

保護者調査と同じ質問ではあるが、児童生徒とその保護者の回答にはズレが見られた。**表2**によると、有意差が見出され変数は、「家庭教育力」「親子間コミュニケーション」「学校関与率」の3変数であり、保護者調査では有意差が見出された「保護者の日常行動スコア」は除外されることになる。寄与率（ β ）は低い、「家庭教育力」及び「親子間コミュニケーション」の2変数は保護者と児童生徒で共に有意差が見られたのである。

表2 児童生徒の自己行動認識を非説明変数とする重回帰分析

説明変数	β
Q4 家庭教育力	.06 *
Q14 家庭教育学習力	-.02
Q9 親子間コミュニケーション	.12 **
Q8 学校関与率	.12 **
Q6 保護者の日常行動スコア	.03
R2 乗	.06
調整済み R2 乗	.06
N	2533
※強制投入法	**p<0.1 *p<.05

以下では、これら有意差が認められた変数を中心に、保護者力との関係を探ることにした。

(3) 保護者力とわが子の行動認識スコア

児童生徒の自己行動認識及び保護者調査のわが子の行動認識のスコアが高いほど自己認識が良好だという解釈によって、以下の、分析を行うことにする。

まず、保護者調査中の「わが子の行動認識スコア」の平均値を保護者力4カテゴリー別に算出すると、**表3**に記した結果が得られた。

表3 保護者力の「群」別にみた保護者のわが子の行動認識スコア

	度数	平均値	標準偏差
保護者力[低群]	949	38.2	5.23
保護者力[中低群]	747	40.0	5.00
保護者力[中高群]	686	42.1	4.81
保護者力[高群]	616	44.3	4.74
合計	2998	40.8	5.49

表中の平均値を見ると、「わが子の行動認識スコア」の「平均値」は保護者力の「低群」

から「高群」に移行するに従って、高くなっていることが明白である。したがって、保護者が高いほど、わが子に対する認識像がよいという結果が得られたのである。その後の検定では、保護者力のカテゴリー間にはすべて有意差が認められたところである (** $p<.01$)。

(4) 保護者力と児童生徒の自己行動認識スコア

①自己行動認識スコアの平均値

つぎに、保護者力のカテゴリー（群）を因子とし、児童生徒の自己行動認識スコアを従属変数とする分析の結果、表4のデータが得られた。表中の平均値を見ると、保護者力の「低群」から「高群」に移動するに従って数値が高くなっていることがわかる。つまり、保護者力が高い親等を持った児童生徒ほど自己行動認識スコアが高い傾向にあることになる。その意味で、保護者力の高さが自己行動認識に正の影響を及ぼしていることが推量できるのである。

なお、検定結果によると、「高群」は他の群に対して有意に高く、「中高群」は「低群」に対して有意に高くなり、「中低群」は「低群」に対して有意に高いことが認められた（等分散を仮定しない Games-Howell による検定結果）。「中高群」と「中低群」間には有意差が認められなかった。

表4 保護者力の「群」別にみたCQ3児童生徒の自己行動認識スコア

	度数	平均値	標準偏差
保護者力[低群]	655	34.8	5.79
保護者力[中低群]	625	35.8	5.84
保護者力[中高群]	658	36.4	5.72
保護者力[高群]	595	38.0	4.93
合計	2533	36.2	5.71

②保護者力カテゴリーと自己行動認識カテゴリー

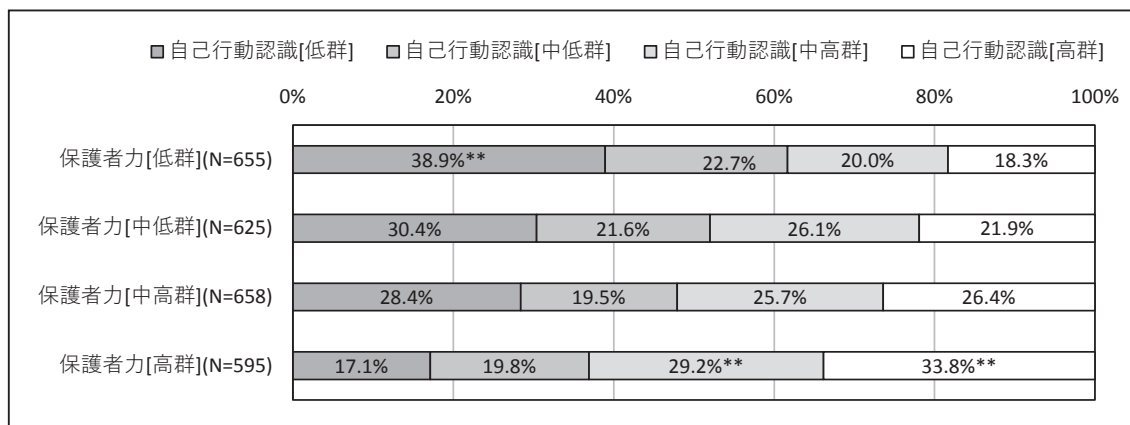
そして、「保護者力」の4カテゴリーと児童生徒の自己行動認識（以下「自己行動認識」）の4カテゴリーを記述統計（クロス集計）によって分析したところ、図7に記した結果が得られた。これによると、「保護者力[低群]」では「自己行動認識[低群]」の数値が最も高く（38.9%）、「自己行動認識[高群]」が最も低い（18.3%）。これとは対照的に、「保護者力[高群]」では「自己行動認識[低群]」の数値が最も低く（17.1%）、「自己行動認識[高群]」の数値が最も高い（33.8%）

今度は、「自己認識[低群]」の数値を上から順に見ていくと、「保護者力」の「低群」→「中低群」→「中高群」→「高群」の順に低くなり、反対に、「自己認識[高群]」は「保護者力」の「低群」から「高群」にいくに従って高くなっている。

χ^2 検定結果 ($i \times j$ 表) では、調整残差が「保護者力[低群]」×「自己認識[低群]」が有意に高く (** $p<.01$)、「保護者力[高群]」×「自己行動認識[中高群]」及び「保護者力[高群]」×「自己行動認識[高群]」が共に有意に高いことが認められた (いずれも ** $p<.01$)。

以上の分析結果から、保護者力が高いほどその子の自己行動認識が高くなり、反対に保護者力が低いほどその子の自己行動認識が低い傾向にあることが明らかになった。したがって、保護者がわが子とのコミュニケーションを活発に行い、自らが模範的な行動をとり、しつけにも熱心で、そのための学習等に努めていることがその子どもの行動や意識（自己認識）にプラスの影響を及ぼしていることが推量できるのである。

図7 保護者力と児童生徒の自己行動認識



以上のように、保護者力は保護者の「わが子の行動認識」と児童生徒の「自己行動認識」の在り方に関係していることが明らかになったが、どちらかと言えば後者すなわち児童生徒自身の自己行動認識の方が調査分析の上で有効だと考えられる。

3. 保護者力と児童生徒の規範意識

また、児童生徒調査から規範意識を取り上げてみることにした。児童生徒の規範意識に関する質問は以下の通りである。

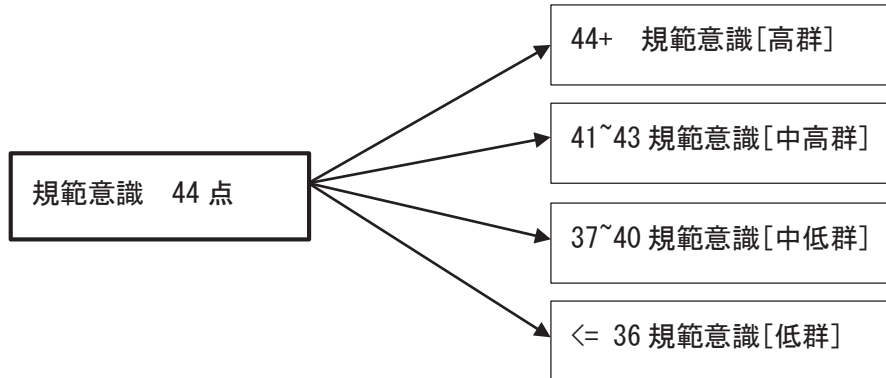
- 4-1. うそをつく
- 4-2. 学校を病気とかの理由がないのに休む
- 4-3. ゴミを道にすてる
- 4-4. 掃除とうばんをさぼる
- 4-5. 先生の言うことをきかない
- 4-6. 親の言うことをきかない
- 4-7. 人からあいさつされても、あいさつをしない
- 4-8. ともだちをいじめる
- 4-9. 授業中にさわぐ
- 4-10. 朝ねぼうをする
- 4-11. 宿題をしない

これら質問に対する回答を以下のように数量化したところである。

規範意識→児童生徒調査④「あなたは、つぎのようなことを小学生や中学生がすることについて、どう思いますか。あてはまるものを一つ選（えら）んで、その番号（ばんごう）を○でかこんでください」

「ぜったいしてはいけない」=4、「あまりしてはいけない」=3、
「ばあいによってはかまわない」=2、「かまわない」=1

児童生徒の規範意識は、自己行動認識と同様に下図により 4 分割してカテゴリー化した。分割点は自己行動認識の場合と若干異なっている。

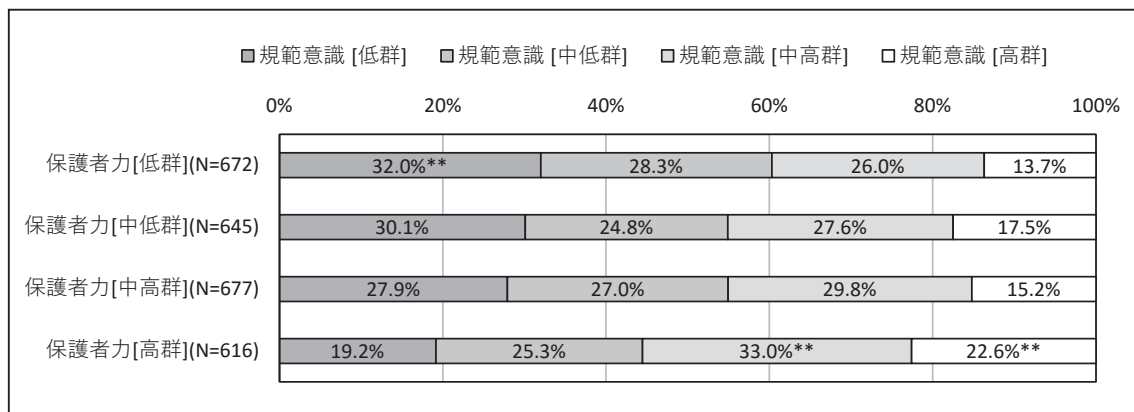


これらの数量化処理によって、スコアが高いほど規範意識が高いものと解することとした。

この場合も自己行動認識と同様の結果が得られた（図 8）。「保護者力 [低群]」では、「規範意識 [低群]」の数値が最も高く（32.0%）、「規範意識 [高群]」が最も低くなる（13.7%）。一方、「保護者力 [高群]」は「規範意識 [低群]」最も低く（19.2%）、「規範意識 [中高群]」が最も高く（33.0%）、次いで「規範意識 [高群]」が高くなる（22.6%）。

「規範意識 [低群]」に注目すると、「保護者力」の「低群」から「高群」に従って数値が低下する傾向にある。ただし、「規範意識 [高群]」を見ると、「保護者力」の「中低群」と「中高群」で数値が入れ替わるが、おおむね保護者力が高いほど数値が高くなっている。

図 8 保護者力と児童生徒の規範意識



以上から、規範意識の場合も、保護者力が高いほどその子どもの意識が高くなり、両変数間には一定の相関があると言える。ちなみに、 χ^2 検定の結果では、「保護者力 [低群]」

×「規範意識 [低群]」は有意に高いことが認められた (**p<.01)。また、「保護者力 [高群]」×「規範意識 [中高群]」及び「保護者力 [高群]」×「規範意識 [高群]」が有意に高いことが認められた (いずれも **p<.01)。

そして、児童生徒の自己行動認識と規範意識には強い相関が見られたことから、児童生徒の自己認識を取り上げて、「保護者力」を構成する要因のうち「家庭教育力」「親子間コミュニケーション」「学校関与率」「保護者の日常行動」の4変数との関係を探ることとした。

4. 「保護者力」に関する具体的要素と児童生徒の自己行動認識

(1) 家庭教育力と自己行動認識

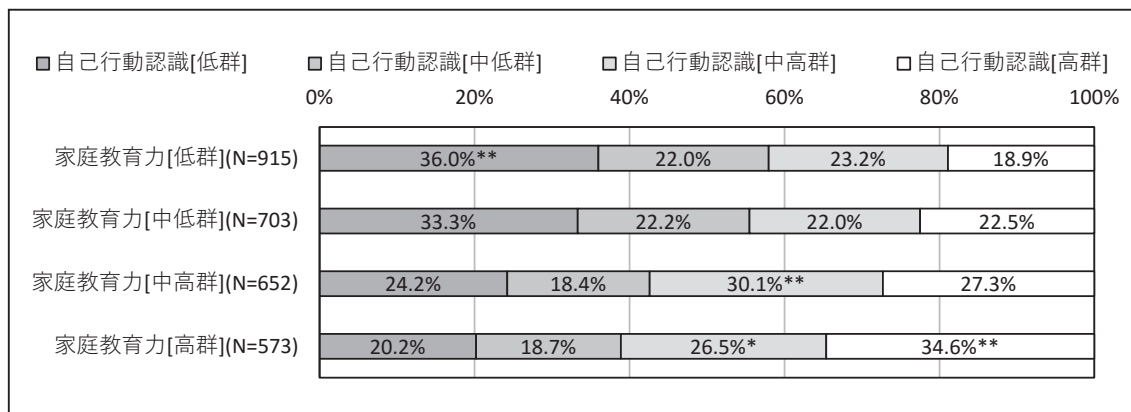
家庭教育力については、以下のようにカテゴリー化した。

- 家庭教育力 [低群] ≤ 39.0
- 家庭教育力 [中低群] 40.0 – 42.0
- 家庭教育力 [中高群] 43.0 – 45.0
- 家庭教育力 [高群] 46.0+

まず、保護者の「家庭教育力」と児童生徒の自己行動認識スコア・カテゴリーをクロス集計すると、**図9**の結果となった。「家庭教育力 [低群]」は「自己行動認識 [低群]」の数値 (36.0%) が有意に高く (**p<.01)、「自己行動認識 [高群]」で最も低い。「家庭教育力 [高群]」の場合はそれとは対照的に、「自己行動認識 [低群]」 (20.2%) が最も低く、「自己行動認識 [高群]」 (34.6%) が最も高く、これらの数値には有意差が認められた (**p<.01)。

全体的に見ても、「家庭教育力」が高くなるに従って「自己行動認識」は高くなり、反対に「家庭教育力」が低いと「自己行動認識」が高くなるのである。保護者の家庭教育力がその子の自己認識に関係し、家庭教育力が高いほど子の自己認識も良好になるという結果となった。その意味で、保護者の家庭教育力すなわち「しつけ」の在り方がその子の自己認識に影響を及ぼすことが推量されるのである。

図9 家庭教育力と児童生徒の自己行動認識



(2) 親子間コミュニケーションと自己行動認識

親子間コミュニケーションの場合はどうであろうか。親子間コミュニケーションは以下のようにカテゴリー化した。

親子間コミュニケーション [低群] ≤ 22.0

親子間コミュニケーション [中低群] 23.0 – 25.0

親子間コミュニケーション [中高群] 26.0 – 28.0

親子間コミュニケーション [高群] 29.0+

図10は自己行動認識とのクロス集計の結果であるが、これを見ると、家庭教育力の場合と同様に、「親子間コミュニケーション [低群]」から「高群」に向かうにしたがって「自己行動認識 [低群]」が減り、「自己行動認識 [高群]」が増えていることがわかる。親子間のコミュニケーションの在り方も子どもの自己認識の在り方に関係し、コミュニケーションが活発であるほど子の自己認識が良好になるという傾向にある。

図10 親子間コミュニケーションと児童生徒の自己行動認識

	自己行動認識[低群]	自己行動認識[中低群]	自己行動認識[中高群]	自己行動認識[高群]		
	0%	20%	40%	60%	80%	100%
親子間コミュニケーション[低群](N=799)	39.7%**		23.5%**	20.0%	16.8%	
親子間...[中低群](N=953)	32.3%*	18.9%	26.8%	22.0%		
親子間...[中高群](N=771)	22.6%	20.1%	27.9%	29.4%**		
親子間...[高群](N=614)	22.1%	18.2%	26.9%	32.7%**		

検定結果では、「親子間コミュニケーション [低群]」×「自己行動認識 [低群]」及び「自己行動認識 [中低群]」で有意差が認められ (**p<.01)、「親子間コミュニケーション」の「中高群」及び「高群」×「自己行動認識 [高群]」で有意差が認められた (**p<.01)。

(3) 保護者の学校関与率と自己行動認識

保護者の学校への関与については、以下によりカテゴリー化した。

学校関与 [低群] ≤ 17.0

学校関与 [中低群] 18.0 – 20.0

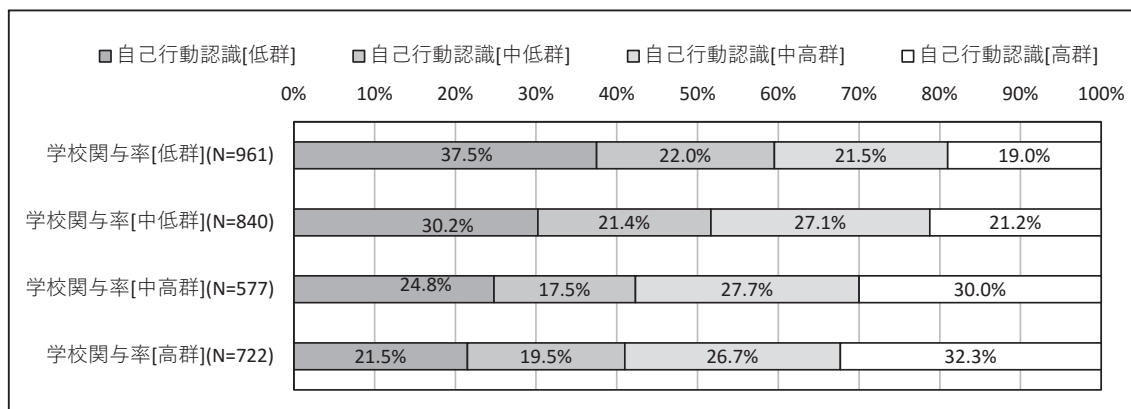
学校関与 [中高群] 21.0 – 22.0

学校関与 [高群] 23.0+

図11を見ると、「学校関与 [低群]」から「学校関与 [高群]」に向かうに従って、「自己認識 [低群]」が減少し、反対に「自己認識 [高群]」の数値が増えている。保護者の学校関与が強いほど子の「自己行動認識」が良好になる傾向が見出された。

検定結果を見ると、「学校関与 [低群]」×「自己認識 [低群]」の数値が有意に高く

図11 保護者の学校関与率と児童生徒の自己行動認識



(**p<.01)、「学校関与 [中高群]」及び「学校関与 [高群]」×「自己認識 [高群]」で有意差が認められた (**p<.01)。統計的にも、保護者が学校に多く関与するほど子の自己認識が良好だという傾向が見出されたのである。

(4) 保護者の日常行動と自己行動認識

保護者の日常行動は前述した重回帰分析結果では有意とならなかったが、保護者の「わが子の行動認識」では有意な変数となったことから、以下に取り上げてみることにしよう。その場合、保護者の日常行動は以下のようにカテゴリー化した。

保護者の日常行動 [低群] ≤ 41.0

保護者の日常行動 [低群] 42.0 – 45.0

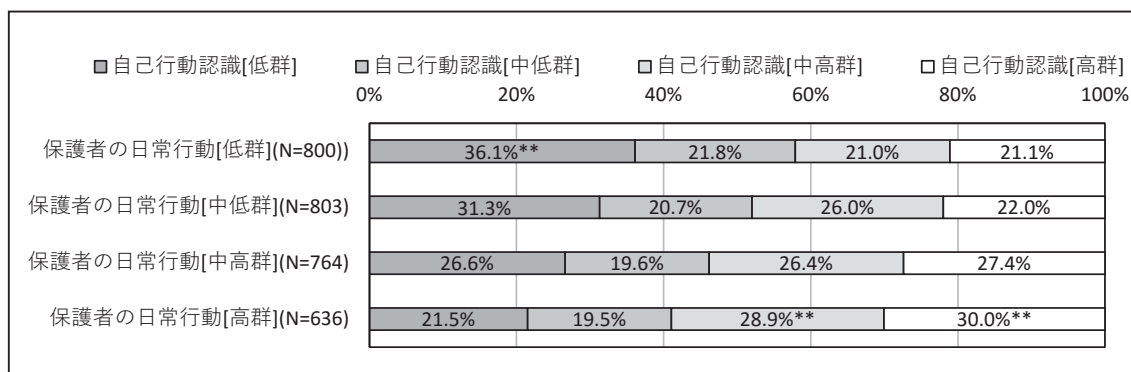
保護者の日常行動 [低群] 46.0 – 49.0

保護者の日常行動 [低群] 50.0+

保護者自身の日常行動の在り方と子の自己行動認識との関係を探ると図12のような結果が得られた。この場合も「保護者の日常行動」は「低群」から「高群」に向かうにつれて、子の「自己行動認識 [低群]」は減少し、反対に「自己行動認識 [高群]」は多くなる傾向が見られた。

検定結果では、「保護者の日常行動 [低群]」×「自己行動認識 [低群]」で有意差が認められ (**p<.01)、「保護者の日常行動 [高群]」では「自己行動認識 [中高群]」及び「自己行動認識 [高群]」で有意差が認められたところである (**p<.01)。

図12 保護者の日常行動と自己行動認識



保護者の日常行動については重回帰分析では有意とならなかったが、記述統計によれば、子の自己行動認識との間に明確な関係が見出されたのである。

以上のように、保護者力を構成する「家庭教育力」「親子間コミュニケーション」「学校関与率」のみならず、「保護者の日常行動」のいずれの場合もその子の自己行動認識に関係していることが明らかになった。つまり、これら4変数はいずれも自己行動認識の在り方とほぼ同様の傾向で関係し、保護者が「しつけ」に努め、わが子とのコミュニケーションを図り、学校には強く関わりと共に、自らの日常行動にも模範的になるよう心がけている方が、その子の自己行動認識≒自己肯定感は良好になるという傾向にあることがわかったのである。

まとめ —おわりにかえて—

以上をまとめると、以下のようなことが指摘できるのである。

第一に、保護者力の高い保護者の特徴としては、・女性、・40歳代から50歳代以上、・中学生よりも小学生（特に3年生）の保護者、・専業主婦及び公務員（教員以外）、・PTA役員等経験者（現役を含む）、・わが子の数が多い保護者に多く見られた。

第二に、したがって、子育ての経験とそれに費やす時間的余裕があり、そのことも関係して学校との関わりを持つと保護者力が高くなっている。つまり、家庭教育（しつけ）に要する時間的余裕と経験がある保護者ほど保護者力が高いと言えるのである。

第三に、保護者力は高いほどその子の自己認識が良好になるという傾向が見出された。また、子の規範意識についても自己認識と同様に、保護者力の在り方が関係し、保護者力の高さが子の規範意識を高めるものと推察できるのである。

第四に、その保護者力を構成する「家庭教育力」「親子間コミュニケーション」「学校関与率」「保護者の日常行動」の高さ（良好さ）はおしなべて子の自己認識の高さ（良好さ）に関係していることから、そうした保護者の在り方が子の自己認識に影響していることが推察できるのである。

第五に、以上から、保護者がこまめな「しつけ」やわが子とのコミュニケーションを心がけ、かつ学校行事や学校情報を把握するなど強く関わりと共に、自らも日常生活で模範的な行動に留意しているほど、その子の自己行動認識≒自己肯定感及び規範意識は良好になるという傾向が明らかになったのである。

（佐藤 晴雄）

第24章 児童生徒の自己行動認識と規範意識に及ぼす諸要因の分析(1) —大人からの働きかけ—

はじめに

本章では、児童生徒の自己行動認識及び規範意識に影響を及ぼすと考えられる要因を探ることを目的としたい。そのために、「大人からよく言われる言葉」「言われてやる気ができた言葉」「しかられ経験とほめられ経験の有無」など、大人からの働きかけに焦点を当てて、いくつかの分析を試みることにした。

1. 大人の言葉かけと児童生徒の自己行動認識

(1) 大人からよく言われる言葉と自己行動認識

児童生徒調査では、大人（自分の親など家族・先生・近所の大人）から「よく言われる言葉」について回答を求めたが、その言葉の中身と児童生徒（以下、保護者にとっての「わが子」の場合にも児童生徒の用語を用いる）の自己行動認識スコアとの関係を探ることにしよう。なぜなら、その言葉の中身が自己行動認識に正負の影響を及ぼしていることが考えられるからである。

その場合、「よく言われる言葉」を以下のように分類した（第2章(2)参照）。

【指示的言語】

「勉強しなさい」「早くしなさい」「いうことききなさい」「なんでできないの」
「しっかりしなさい」「じぶんで考えなさい」

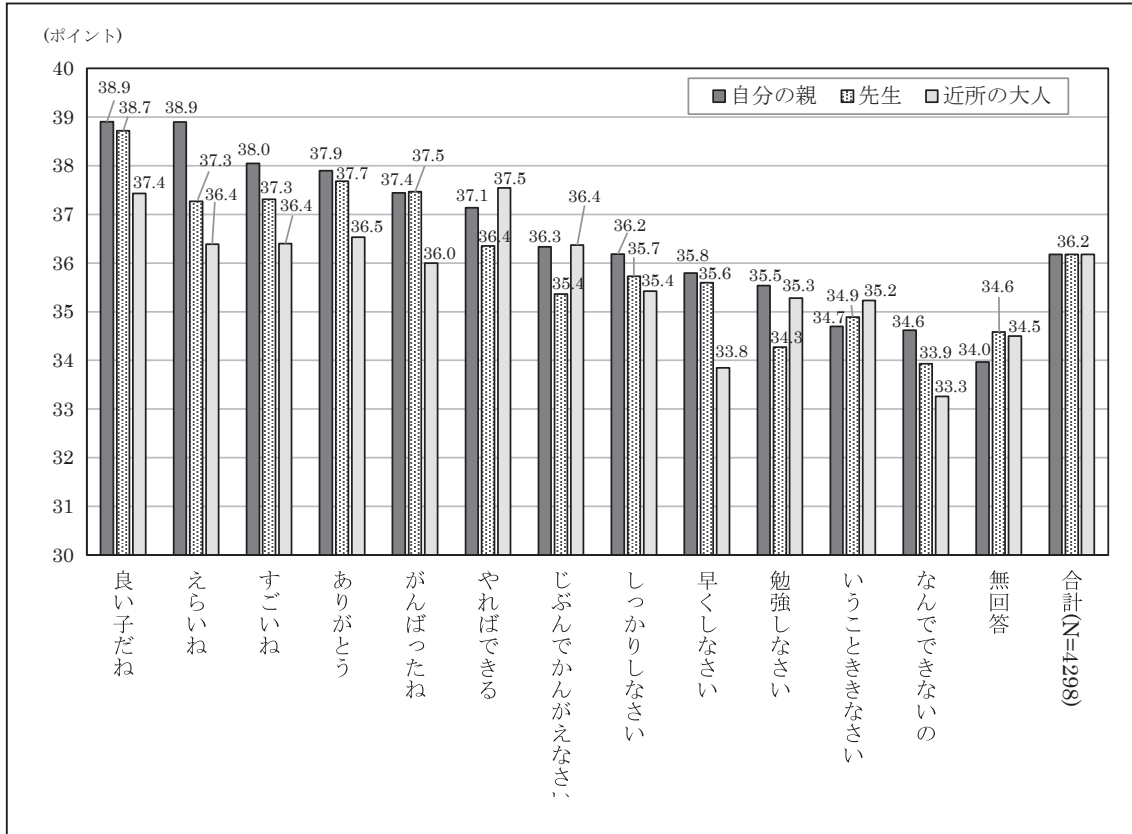
【評価的言語】

「えらいね」「ありがとう」「良い子だね」「すごいね」「がんばったね」「やればできる」
このうち指示的言語は、前提として児童生徒の負の行動、たとえば、「勉強をしないこと」という事実を前提として「勉強しなさい」という指示がなされるように、励ましというよりも注意喚起ないしは「叱り」の意味をたぶんに含むことになるから、これらの言葉は負の評価を意味することになる。これに対して評価的言語は児童生徒の正の行動をたたえる肯定的評価になり、いわば「誉める」ことを意味する。

図1は、その「よく言われる言葉」別に自己行動認識スコアの平均値を棒グラフで表しているが、図中左の数値の高い言葉には、「良い子だね」「えらいね」「すごいね」「ありがとう」「がんばったね」「やればできる」という評価的言語（誉め言葉）が占めている。これら肯定的な評価的言語は児童生徒の自己行動認識を高めることにつながるという意味で、有効な言葉かけだと解することができる（度数Nは参考表1を参照のこと）。

これに対して、「じぶんでかんがえなさい」「しっかりしなさい」「早くしなさい」「勉強しなさい」「いうことをききなさい」という指示的言語（叱る言葉）の場合には自己行動認識スコアが低くなっている。これら指示的言語になされる前提には、前述したように、注意喚起を前提にしているとすれば、そうした言葉をかけられた児童生徒には自己行動認識が低い、すなわち注意されるに値する行動特性を有しているものと考えられる。

図1 大人からよく言われる言葉と自己行動認識スコア平均値 - 1つ目の回答 -



なお、このデータからは、児童生徒の自己行動認識が良好だから評価的な言葉かけがなされるのか、評価的な言葉かけが自己行動認識を良好にするのかは明らかにできない。そこで、「言われたやる気がでた言葉」について、(2)で後述することにした。

また、その声かけの主体としては、自分の親や祖父母（以下「自分の親」）の場合が「先生」や「近所の大人」に比べて、言葉かけがなされると自己行動認識スコアが高い傾向にある。つまり、家族や先生からの声かけが自己行動認識を高めることに関係しているのである。ただし、「やればできる」は「近所の大人」の数値が高くなっている。おそらく、「やればできる」という言葉の裏には意外性、つまり見かけ上はできそうでないにもかかわらず、実際にはそれ以上の能力を発揮したという意外性があることを前提にしているとすれば、児童生徒にとっての第三者である近所の大人がその意外性を指摘してのことになるため、自己行動認識の高さに関係していることが考えられる。

(2) 「言われてやる気がでた言葉」と自己行動認識スコア

前述したように、「よく言われる言葉」と自己行動認識とが因果関係にあるとは言えないことから、ここでは、「言われてやる気がでた言葉」と自己行動認識との関係を分析してみることにしよう。つまり、「言われて」→「やる気がでた」というように、問い自体が因果関係を含んでいるからである。

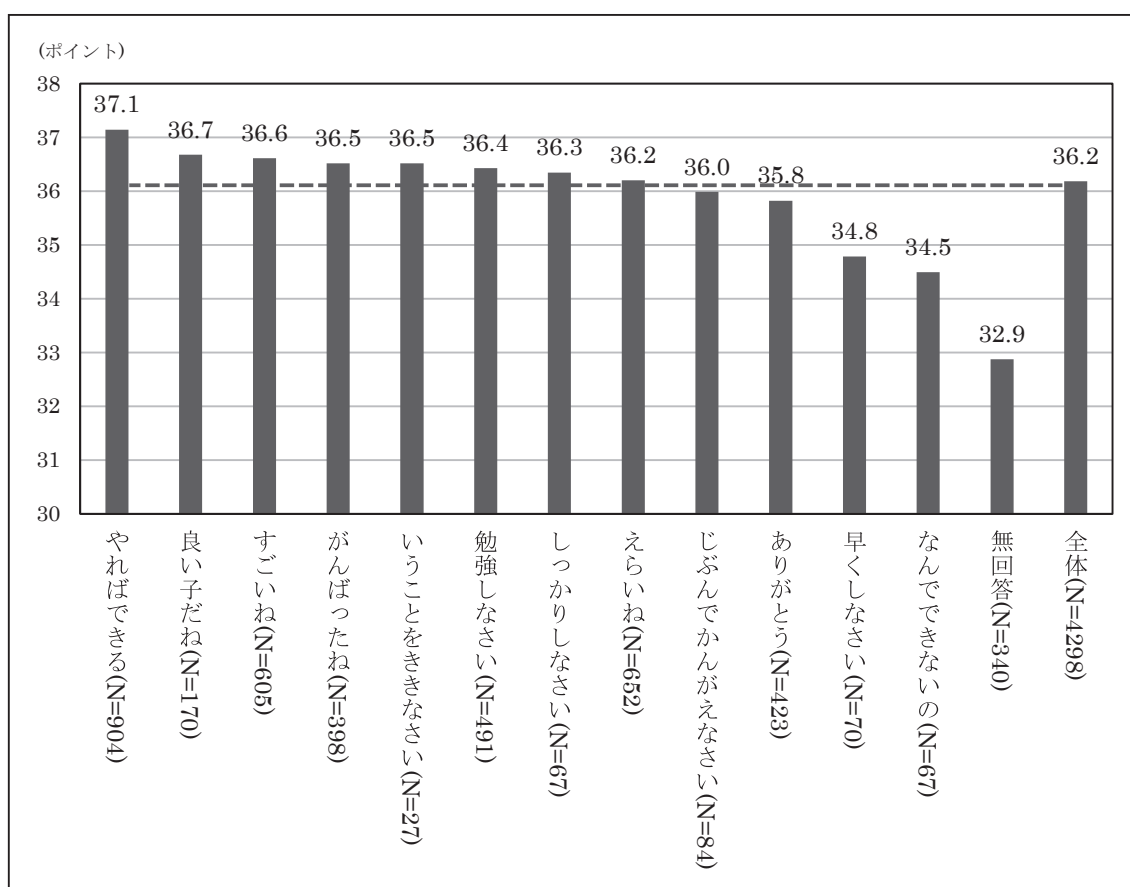
図2は「言われてやる気がでた言葉」(3つ回答を求めたうちの1つ目の回答)別に自己行動認識スコアの平均値を棒グラフで表している。

図によると、「やればできる」「良い子だね」「すごいね」「がんばったね」「いうことを

参考表1 大人からよく言われる言葉別（一つ目）の自己行動認識スコア平均値

	自分の親やおじいさん・おばあさんから			学校の先生から			近所の大人から		
	平均値	度数	標準偏差	平均値	度数	標準偏差	平均値	度数	標準偏差
良い子だね	38.9	64	5.45	38.7	46	5.90	37.4	940	5.59
えらいね	38.9	249	5.09	37.3	339	5.38	36.4	1048	5.23
すごいね	38.0	285	5.23	37.3	435	5.09	36.4	441	5.45
ありがとう	37.9	177	5.67	37.7	530	5.10	36.5	594	5.63
がんばったね	37.4	128	5.36	37.5	452	5.57	36.0	104	5.35
やればできる	37.1	190	5.91	36.4	517	5.95	37.5	55	6.45
じぶんでかんがえなさい	36.3	125	5.43	35.4	298	5.98	36.4	38	6.46
しっかりしなさい	36.2	107	6.03	35.7	261	5.52	35.4	33	5.32
早くしなさい	35.8	355	6.05	35.6	358	5.53	33.8	26	6.81
勉強しなさい	35.5	2403	5.58	34.3	498	6.02	35.3	65	7.52
いうことききなさい	34.7	99	6.30	34.9	158	5.42	35.2	26	5.90
なんでできないの	34.6	55	7.05	33.9	106	6.30	33.3	27	7.62
無回答	34.0	61	6.25	34.6	300	5.83	34.5	901	6.02
全体	36.2	4298	5.75	36.2	4298	5.75	36.2	4298	5.75

図2 10.言われてやる気が出た言葉と自己行動認識スコア - 一つ目の回答 -



ききなさい」「勉強しなさい」「しっかりしなさい」「えらいね」までが全体の平均値(36.2)を上回っているが、このうち「勉強しなさい」「しっかりしなさい」という指示的言語が2つ含まれている。単純に、「言われてやる気がでた言葉」のうち選択数の多い順にみると、「やればできる」「がんばったね」「すごいね」「えらいね」「ありがとう」「良い子だね」という評価的言語が並び、指示的言語は「勉強しなさい」を筆頭にすべて数値上の下位項目に位置している。なかでも、「やればできる」「すごいね」「がんばったね」の3言語は、「やる気が出た」言葉としても上位で、かつ自己行動認識スコアも高いことから、児童生徒の成長を促す可能性の高いものと言えそうである。

そして、これら数値から、「やる気が出た」言葉の多くは評価的言語で占められるが、自己行動認識スコアの視点から見直すと、「いうことをききなさい」「勉強しなさい」「しっかりしなさい」という指示的言語も自己行動認識の良好さに一定の影響を及ぼしていると推察できることになる。これらの言葉は、「なんでできないの」「早くしなさい」などに比べて、成長を促す意味合いが強いからだと考えられる。「なんでできないの」と言われても、本人はどうしようもなく閉塞感を持つだけであり、また「早くしなさい」の場合も本人としては早くできないので、なすすべがないと捉えるであろう。

2. しかられ経験とほめられ経験

(1) しかられ経験・ほめられ経験の有無と自己行動認識

しかられ経験とほめられ経験は自己行動認識にどう影響しているのだろうか。ここでは、その点の解明に迫るため、しかられた(誰からしかられた)/ほめられた(誰からほめられたか)経験の有無と自己行動認識レベル4カテゴリー(低群・中低群・中高群・高群)との関係进行分析することにした。分析に当たって、下記の質問項目に対して、「自分の親」「学校の先生」「近所の大人」のいずれかを選択した数(7項目の合計数=満点7ポイント)の平均値を算出することにした。

【しかられたこと】

- 7-1. 成績が下がった
- 7-2. 友だちとけんかをした
- 7-3. うそをついた
- 7-4. 自分の身のまわりのかたづけをしなかった
- 7-5. きちんとあいさつをしなかった
- 7-6. 約束やきまりを守らなかった
- 7-7. いたづらをした

【ほめられたこと】

- 8-1. 成績が上がった
- 8-2. どんな友だちとも仲良く遊んだ
- 8-3. 悪いことをしたときに正直に話した
- 8-4. 自分の身のまわりをきれいに整理した
- 8-5. あいさつをしっかりした
- 8-6. 約束やきまりを守った
- 8-7. 落ちているゴミをひろった

図3 しかられ度／ほめられ度と自己行動認識

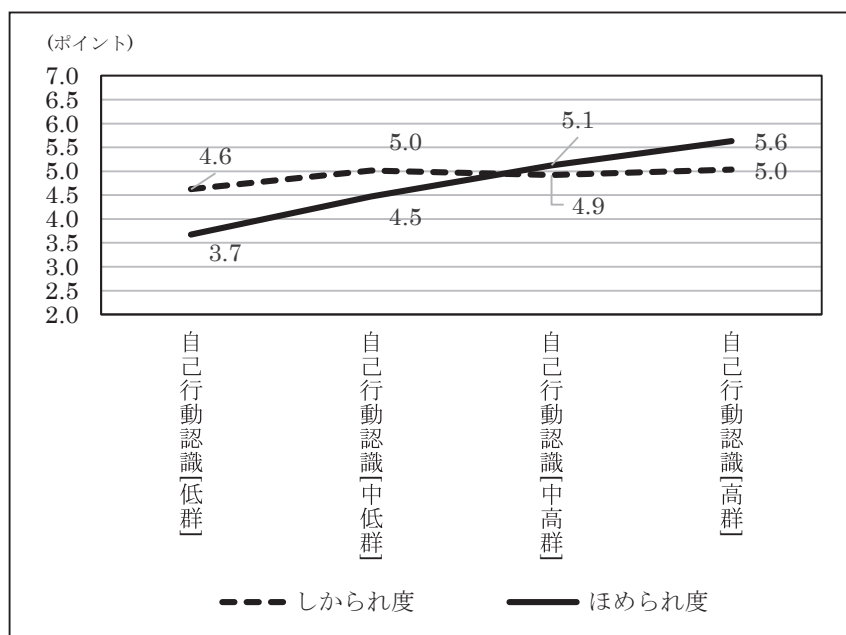


図3はその結果を表しているが、「しかられ度」（「度」は項目数を意味する）の点線を見ると、「自己行動認識 [低群]」は4.6ポイントで最も低く、その他の「群」の自己行動認識カテゴリーは5前後となる。「自己行動認識」の低い児童生徒は他のカテゴリーに比べて、あまりしかられていないことになる。

一方、「ほめられ度」の場合、「自己行動認識 [低群]」が3.7ポイントと最も低く、自己行動認識が高くなるほど数値が上昇し、「自己行動認識 [高群]」になると5.6ポイントに達し、[低群]を約2ポイント上回っている。ほめられることは自己行動認識には相関関係があり、自己行動認識が良好な児童生徒ほどほめられることが多い傾向にある。

そして、図中の折れ線の交点に注目すると（自己行動認識 [中低群] と [中高群] の中間点）、図の左側の自己行動認識 [低群] と [中低群] は「しかられ度」が「ほめられ度」を上回るのに対して、図の右側「自己行動認識 [中高群] と [高群] は「ほめられ度」が「しかられ度」を上回り、前者の場合とは対照的な傾向を示していることがわかる。したがって、自己行動認識が低い児童生徒は「ほめられる」ことよりも「しかられる」ことの方が多く、自己行動認識が高い児童生徒は「しかられる」ことよりも「ほめられる」ことの方が多く実態にあると言える。

よくほめられる子ほど自己行動認識が良好になり、また自己行動認識が良好だとほめられることが多くあるというような相互関係にあることがわかる。ただし、前者の関係を重く見れば、よくほめることが自己行動認識を良好にするためには必要だと言えるのである。

(2) 具体的な「しかられ」経験事項と自己行動認識

図4から図10は、「しかられた」相手等の割合を自己行動認識カテゴリー別に表している。全体的に「自分の親」からしかられた割合が高く、次いで「学校の先生」となり、「近所の大人」は極めて低い数値になっている。「しかる」ことは親の役割になっている実態が読み取れる。なお、「いわれない」には、当該事項に関わる行為を行ったにもかかわらず

ず「いわれない」場合のみならず、そもそもそのようなことを行わなかった場合も含んでいることを予め断っておきたい。

①自己行動認識が低い親から「しかられる」こと—「成績が下がった」

さて、最初に「自分の親」の回答を見ると、大きく3つのタイプに分けられる。一つは、自己行動認識が低いと「しかられる」の数値(%)が上がる事項である。ここでは、「成績が下がった」(図4)が該当する。見方を変えると、自己行動認識が高いと、成績が下がっても「しかられる」ことが少なくなるという結果になる。ただし、自己行動認識が高いとそもそも成績が下がる者が少ないからだとも考えられるが、「いわれない」の数値は他の自己行動認識カテゴリとほぼ同じで、多いわけではないことから、必ずしもそうとは解せない。数値上は「無回答」(成績に変動がないケースを多分に含むと解される)では自己行動認識が高くなるに従って多くなっていることが影響していることになる。

②自己行動認識が高い児童生徒と親から「しかられる」こと

—「友だちとけんか」「うそをついた」「いたずらをした」

つぎに、自己行動認識が高くなるほど数値(%)が高くなる事項がある。ここでは、「友だちとけんかをした」(図5)、「うそをついた」(図6)、「いたずらをした」(図10)の3事項がある(一部に自己行動認識[中高群]と[高群]で数値の逆転はあるが)。いずれも「悪いこと」に関することである。「悪いこと」を行った場合、自己行動認識が高い児童生徒ほどよくしかられることになるが、観点を換えれば、自己行動認識が低い児童生徒は「わるいこと」を行っても「しかられる」ことが少ないと解することができる。「いわれない」の数値を見ると、自己行動認識が低い場合は高くなっているが、ここには当該事項を行ってもしかられないケースが含まれているものとすれば、そう解釈しても無理がない。

このうち「ともだちとけんかをした」は自己行動認識が高くなると「親」にしかられるが、自己行動認識が低いと親よりも「学校の先生」にしかられる割合が高くなる傾向が見出された。「うそをついた」もこれとほぼ同様の傾向を示していることから、「けんか」や「うそ」は自己行動認識が低い場合には「親」はしからず(放任の場合も考えられる)、代わって「先生がしかることが多いことになる。

「成績」の数値を踏まえれば、自己行動認識が低いと、成績が下がったら「しかられる」けれども、悪いことをしても「しかられない」者が相対的に多いとすることができる。

③自己行動認識の在り方が関係しているとは言えなかったこと

そして、自己行動認識の在り方に関係があるとは言えない事項がある。ここでは、「自分の身のまわりのかたづけをしなかった」(図7)、「約束やきまりを守らなかった」(図8)、「きちんとあいさつをしなかった」(図9)があげられる。「約束やきまりを守らなかった」はルール違反になるが、「かたづけ」や「あいさつ」は自律に関する事項となる。これら3事項については、「学校の先生」に関しては「自己行動認識[高群]」の数値が他のカテゴリよりも低くなっている。この場合も「無回答」の数値が自己行動認識が高さに伴い高くなっている。おそらく、「無回答」には当該事項を「行っていない」者が少なからず

図4 誰からしかられたか—「成績が下がった」とき

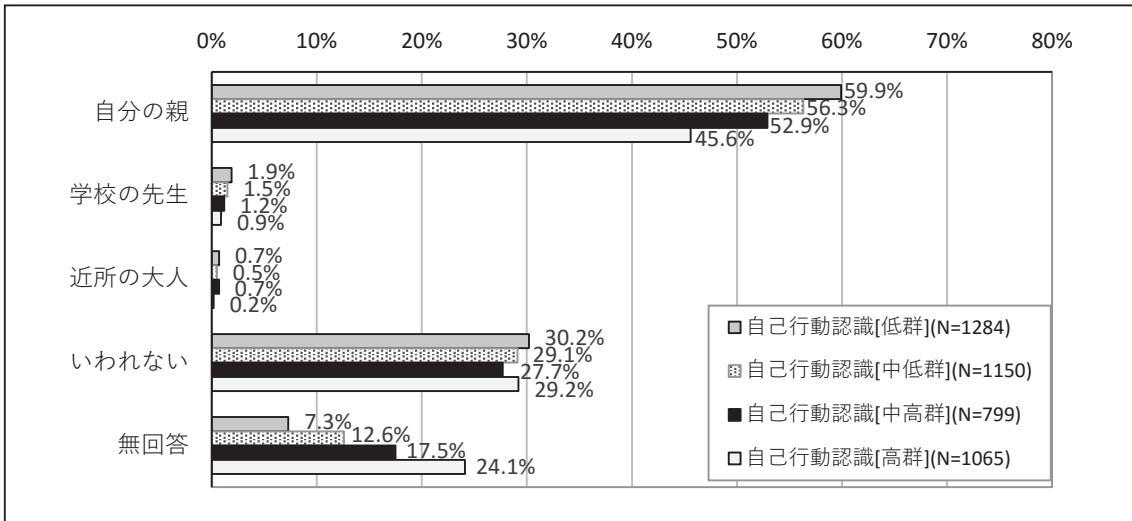


図5 誰からしかられたか—「ともだちとけんかをした」とき

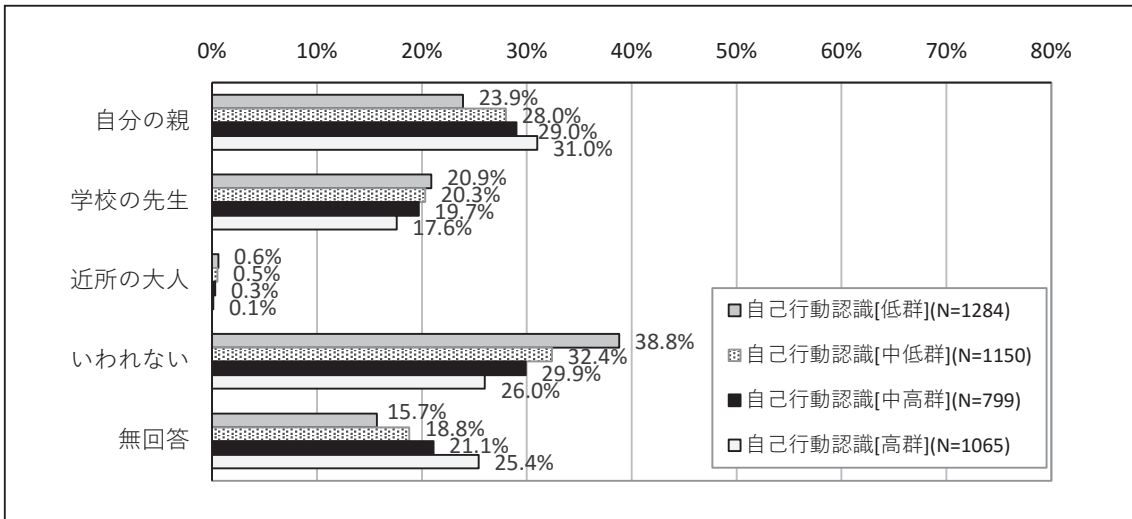


図6 誰からしかられたか—「うそをついた」とき

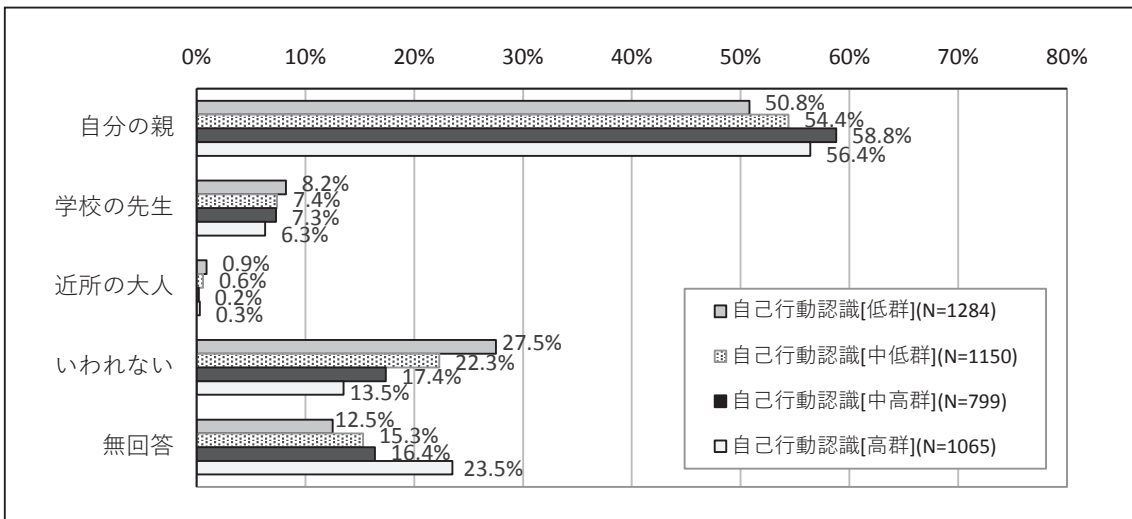


図7 誰からしかられたか—「自分の身のまわりのかたづけをしなかった」とき

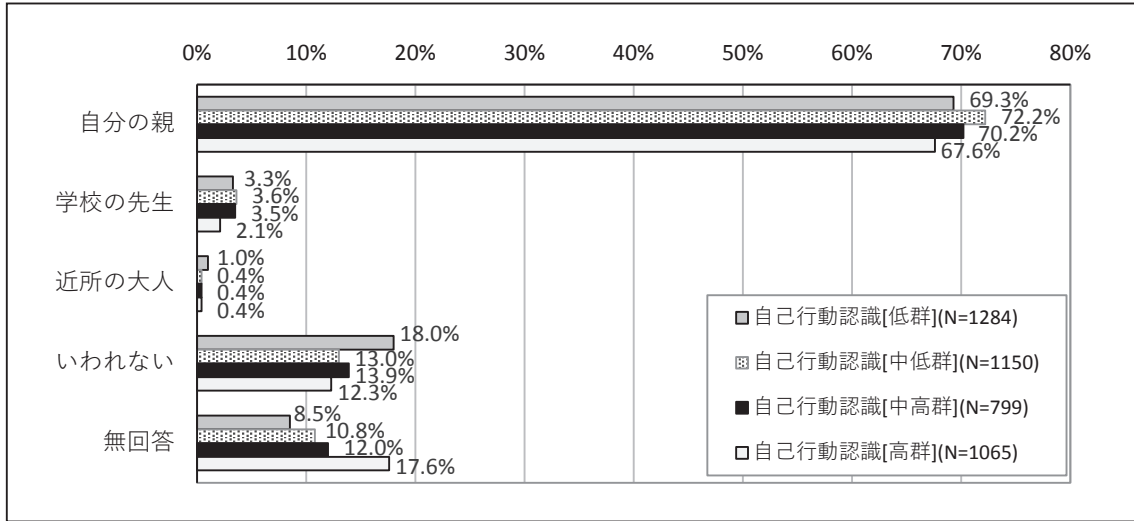


図8 誰からしかられたか—「きちんとあいさつをしなかった」とき

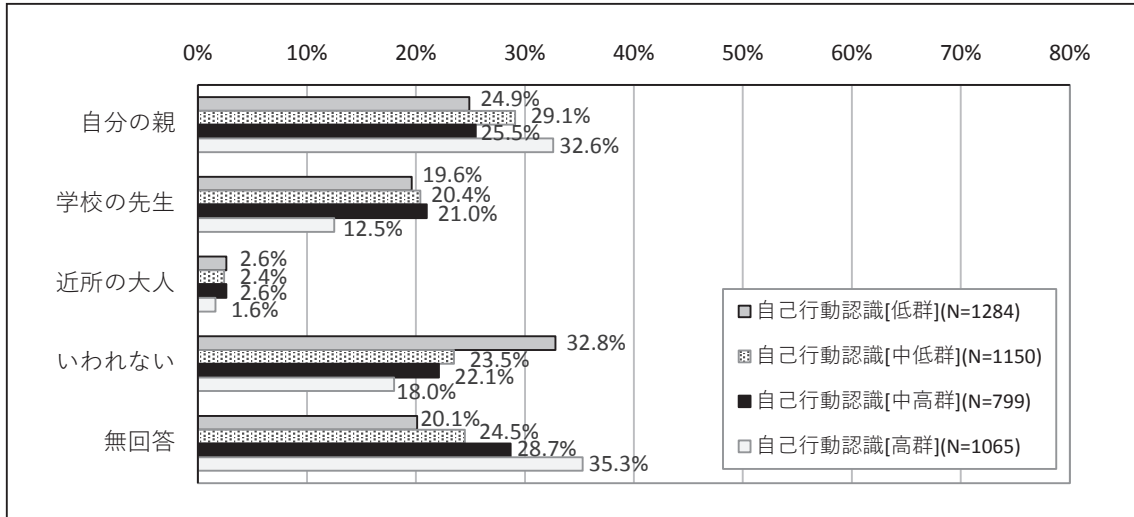


図9 誰からしかられたか—「約束やきまりを守らなかった」とき

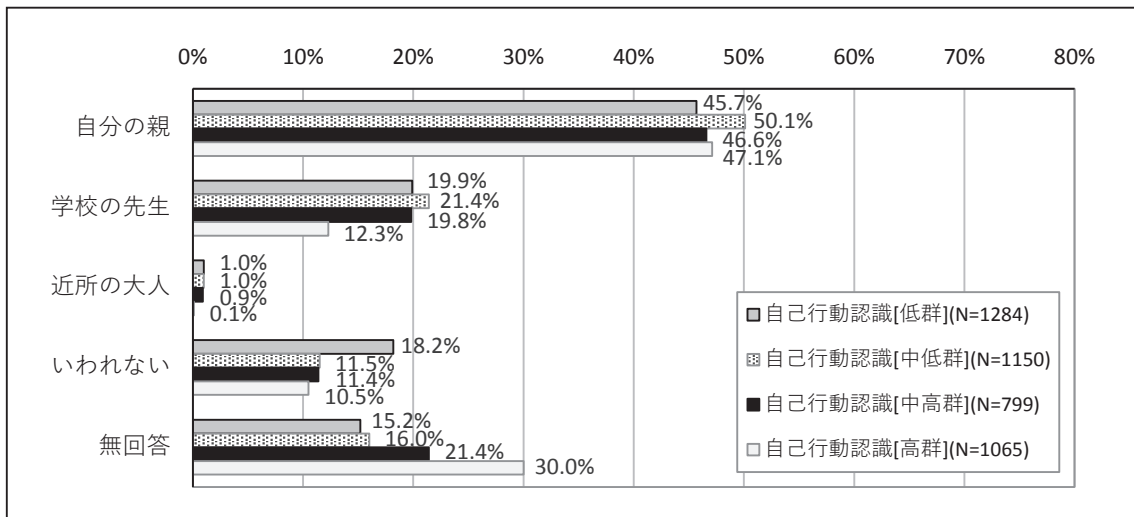
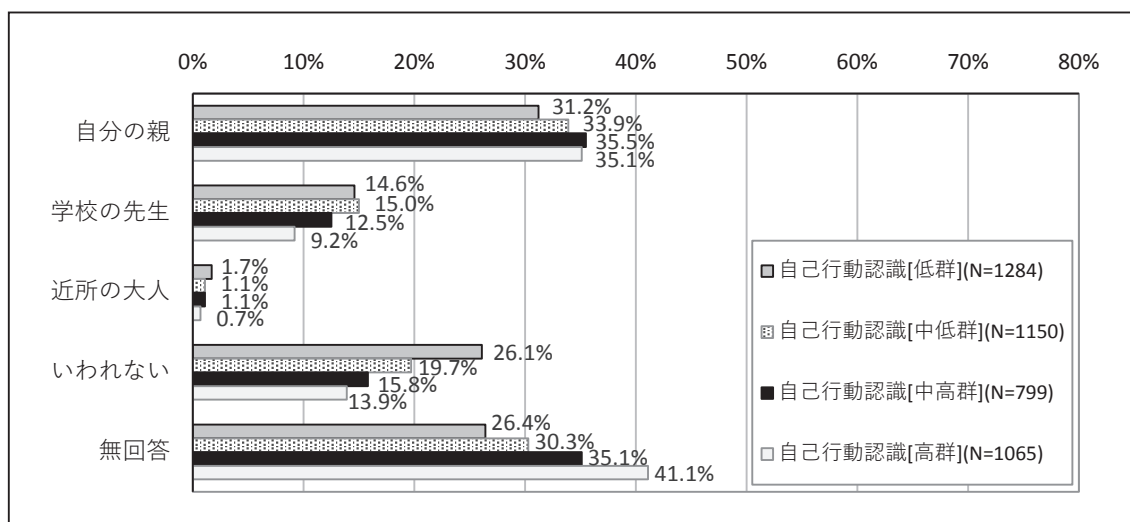


図10 誰からしかられたか—「いたずらをした」とき



含まれていると考えられる。

(3) 具体的な「ほめられ」経験事項と自己行動認識

①成績の「ほめられ」経験と自己行動認識の関係—自己行動認識が低いほど、成績が上がってもほめられないが、成績が下がったらしかられやすい

「しかられた」こと（自分の親から）については、自己行動認識が低いほど数値が高くなる項目（自己行動認識が高いと数値が低くなる）として「成績が下がった」が見られ、また「しかられた」経験と自己行動認識の在り方に明確な関係が見いだせなかった項目がいくつかあったが、「ほめられたこと」に関しては、「成績が上がった」「どんな友だちとも仲良く遊んだ」「悪いことをしたときに正直に話した」「自分の身のまわりをきれいに整理した」「あいさつをしっかりとした」「約束やきまりを守った」「落ちていたゴミをひろった」のすべての項目で、自己行動認識が高くなるに従って数値が高くなっている（図11～図17）。

たとえば、「成績が上がった」（図11）は、自己行動認識[低群] 67.5%、[中低群] 78.7%、[中高群] 86.5%、[高群] 88.8%となり自己行動認識が良好になると誉められる児童生徒が多くなる傾向にある。この数値と「しかられた」場合の数値を合わせて考察すると、自己行動認識の低い児童生徒は成績が下がると親からしかられるが、成績が上がっても親からさほど誉められないことになり、反対に、自己行動認識が高い児童生徒は成績が下がっても親からしかられないが、成績が上がると親からよくほめられているという傾向が見出されるのである。

②学校の先生がほめること—教師はモラルやルールに関してほめる傾向が相対的に高い

また、モラルやルールに関することは、若干ではあるが、学校の先生の数値が項目間で相対的に高くなっている。この場合のモラルに関する項目には、図13「悪いことをしたときに正直に話した」、図15「あいさつをしっかりとした」、図16「約束やきまりを守った」、図17「落ちていたゴミをひろった」がある。これらの「学校の先生」の数値は10%～20%台になるが、その他の項目（図11、12、14）では10%未満に止まっている。教師はそうしたモラルやルールを身につけさせようとするために、「ほめる」のであろう。換言

図11 誰からほめられたか「成績が上がった」とき

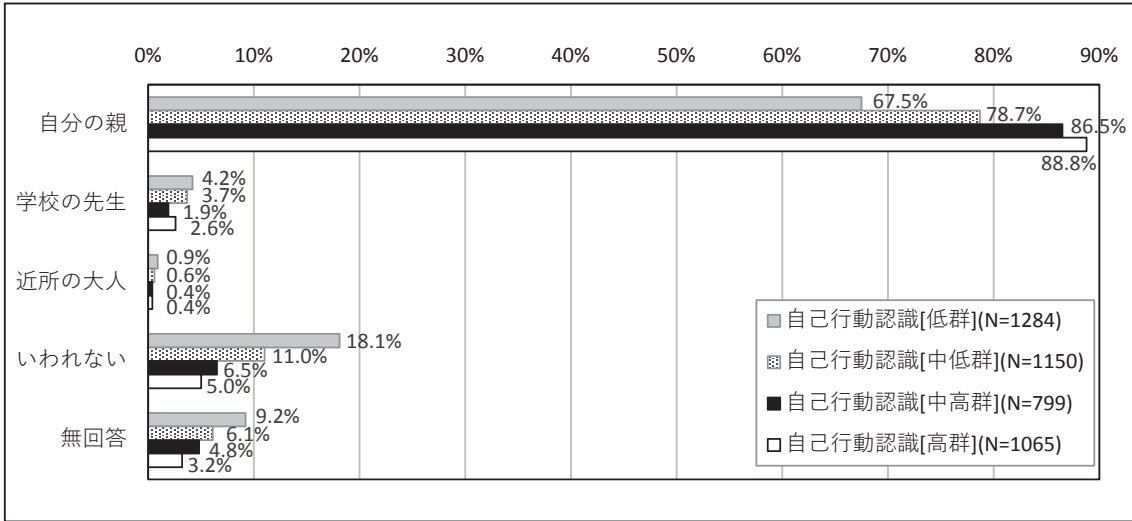


図12 誰からほめられたか「どんな友だちとも仲良く遊んだ」とき

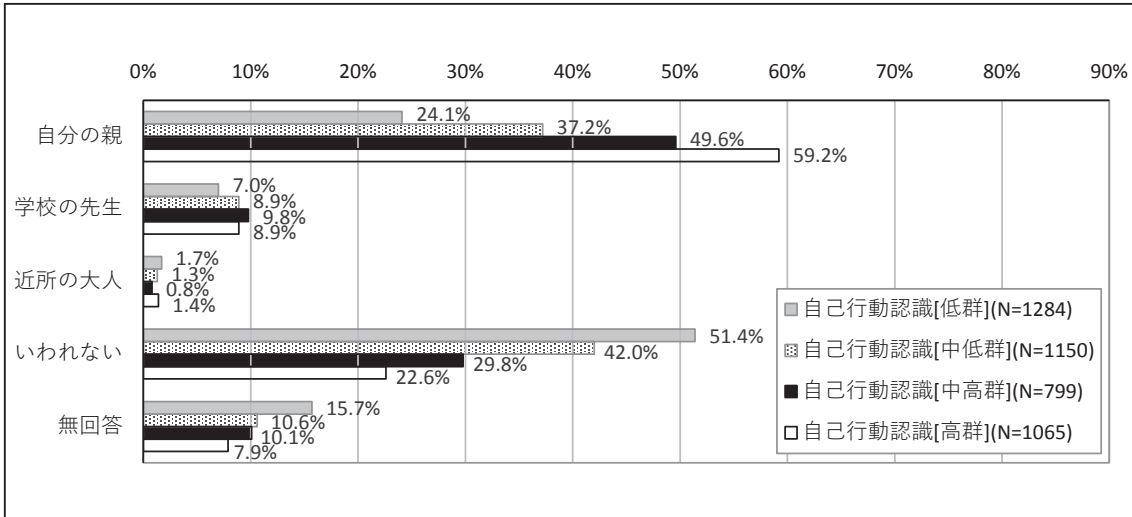


図13 誰からほめられたか「悪いことをしたときに正直に話した」とき

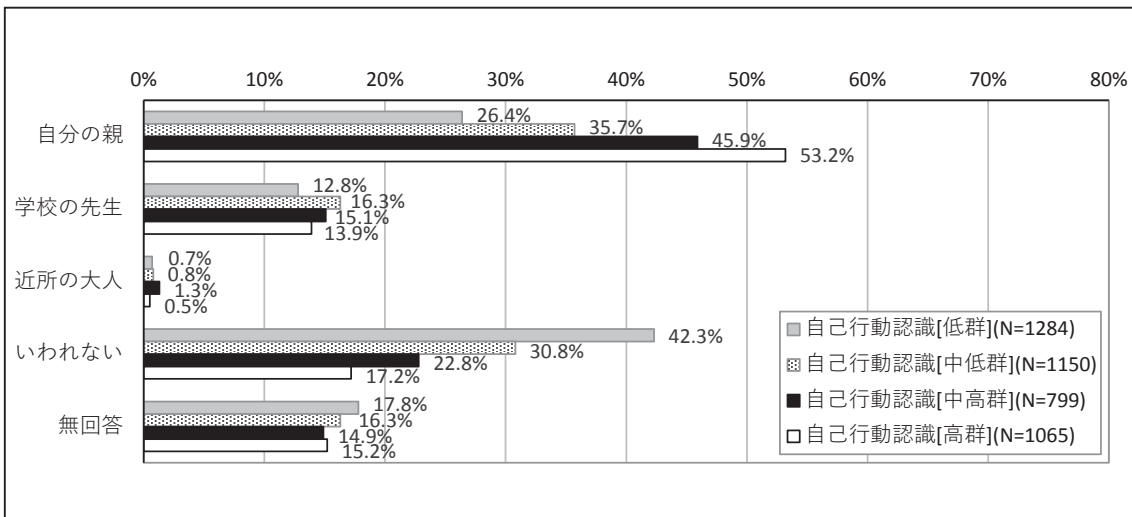


図14 誰からほめられたか「自分の身のまわりをきれいに整理した」とき

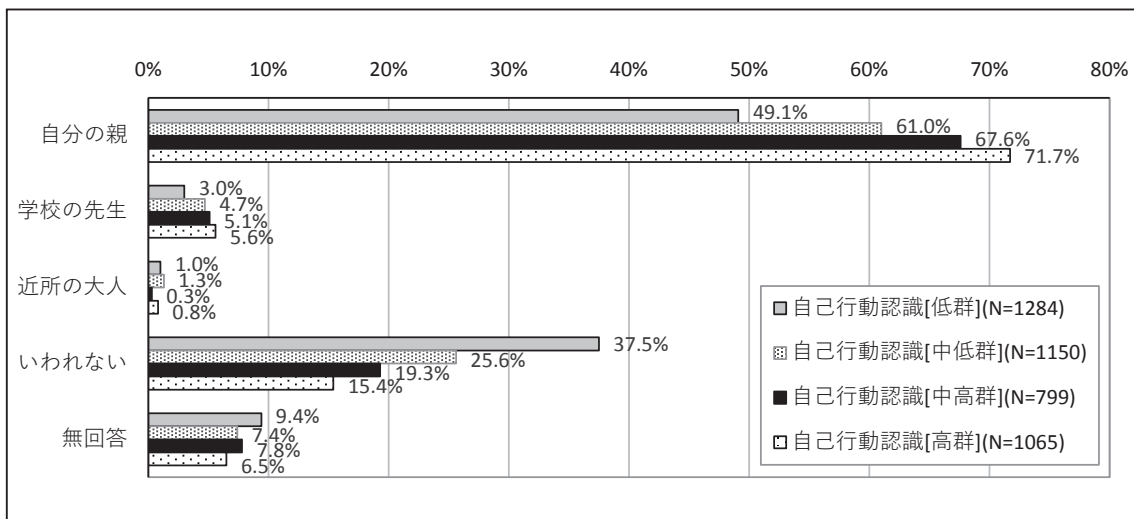


図15 誰からほめられたか「あいさつをしっかりとした」とき

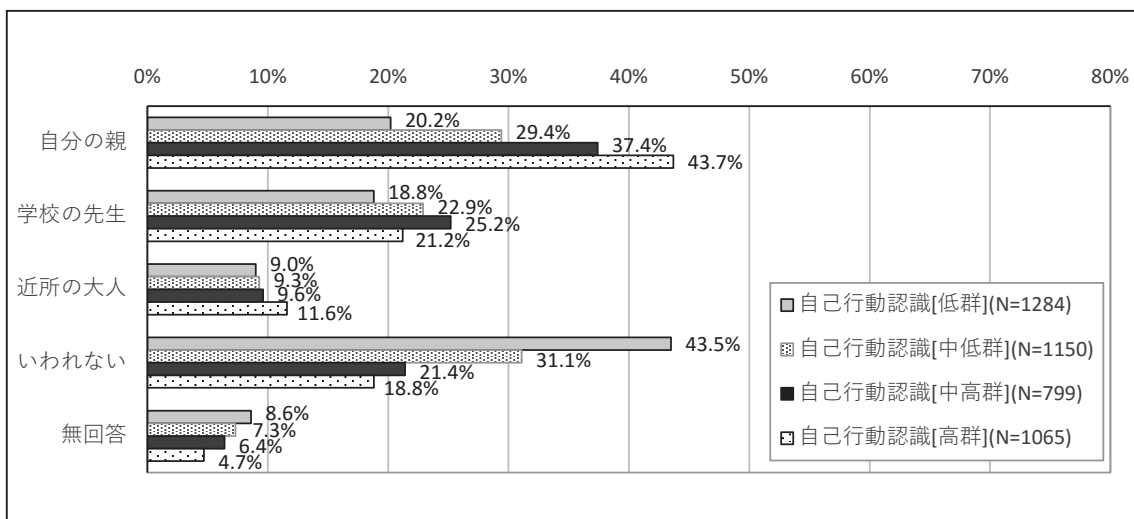


図16 誰からほめられたか「約束やきまりを守った」とき

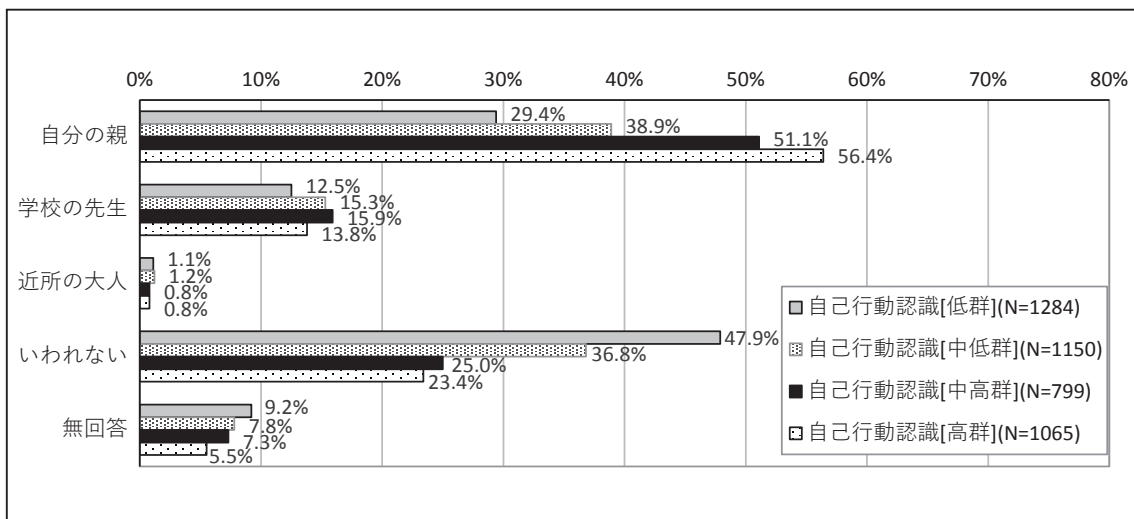
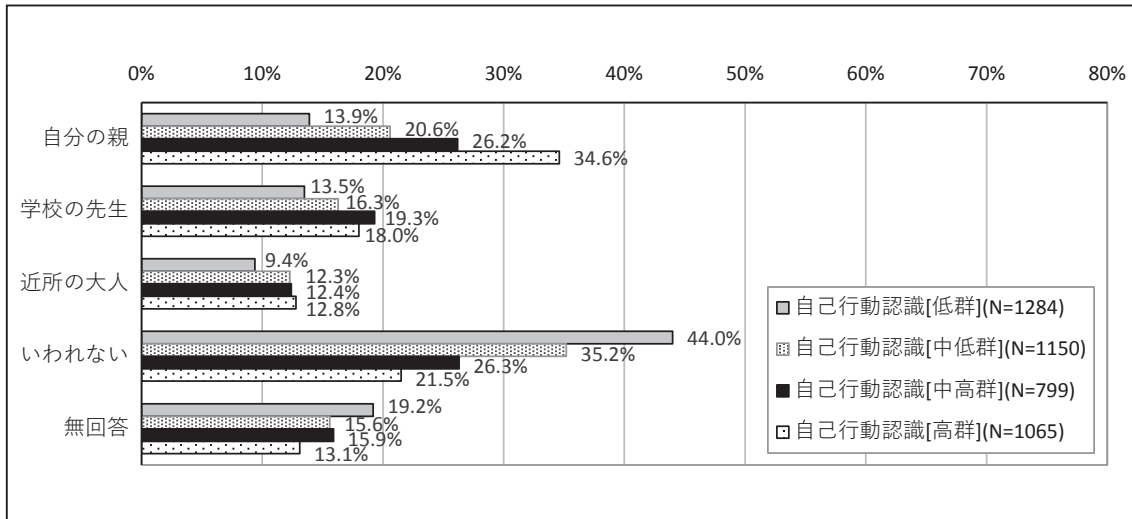


図17 誰からほめられたか「落ちているゴミをひろった」とき



すれば、モラルやルールに関しては教師のほめの言葉は児童生徒の自己行動認識の在り方にプラスの効果を与えている可能性がある。

③自己行動認識が低い児童生徒とほめられ経験—自己行動認識が低い児童生徒は「ほめられにくい」

もう一つの特徴は、「ほめられた」の場合には、「いわれなし」の回答が自己行動認識が[低群]から[高群]に向かうにつれて数値が低くなる傾向が「しかられた」に比べて明確だということである。たとえば、「どんなともだちとも仲良く遊んだ」(図12)は、「いわれなし」の数値が自己行動認識[低群] 51.4%、[中低群] 42.0%、[中高群] 29.8%、[高群] 22.6%というように、数値の低下が明らかである。このことはすべての項目に当てはまる。

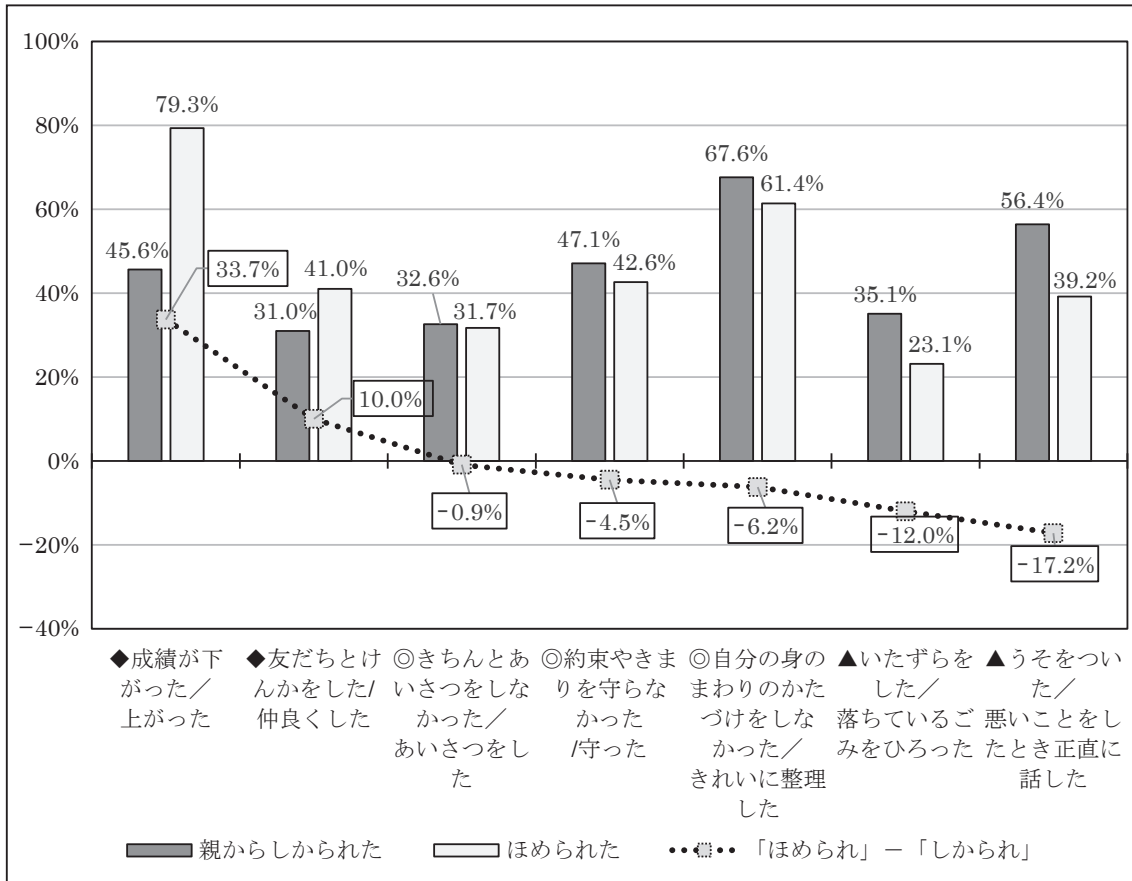
この場合の解釈として、自己行動認識の低い児童生徒は、ほめられるべきことを行っても「ほめられない」ことが多いこと、あるいはそもそもほめられるべきことを行っていない者が多いことという二つが成り立つ。しかし、ほめられるべきことをしたときに「ほめられる」割合を見ると、自己行動認識が低い児童生徒はそれが高い児童生徒に比べて低い実態(例えば、「成績が上がった」場合など)があることを考慮すれば、「いわれなし」には、ほめられるべきことをしても「ほめられない」ケースが多く含まれているものと解する方が妥当であろう。

なお、「いわれなし」の回答は、「成績が上がった」では著しく低い数値になっていることが注目される。例示すれば、自己行動認識[低群]の場合、「いわれなし」の数値は「成績が上がった」18.1%に対して、「どんなともだちとも仲良く遊んだ」51.4%(図12)、「約束やきまりを守った」47.9%(図16)などは実に半数近くに達している。そのほかの項目でもその数値は40%前後と高い。ようするに、「成績」に関しては、親(保護者)の関心事として、他のことよりもよく強く認識されていると言えるのである。

(4)「しかられ」と「ほめられ」のギャップ—

調査では、「しかられたこと」(左)と「ほめられたこと」(右)を以下のように対比させて質問を設けた。「いたずらをした」に「落ちているゴミをひろった」は正対していな

図18 自分の親に、しかられたこと／ほめられたこと



いが、前者が少し悪いことをしたとすれば、後者は少しよいことをしたという意味で捉えたところである。

- ・「成績が下がった」 - 「成績が上がった」
- ・「友だちとけんかをした」 - 「どんな友だちとも仲良く遊んだ」
- ・「うそをついた」 - 「悪いことをしたときに正直に話した」
- ・「自分の身のまわりのかたづけをしなかった」 - 「自分の身のまわりをきれいに整理した」
- ・「きちんとあいさつをしなかった」 - 「あいさつをしっかりした」
- ・「約束やきまりを守らなかった」 - 「約束やきまりを守った」
- ・「いたずらをした」 - 「落ちているゴミをひろった」

以上の「しかられたこと」と「ほめられこと」のそれぞれに対する「自分の親から」の回答値（自己行動認識の別のない全体値）を表したのが図18である（度数Nは参考表1を参照）。折れ線は「ほめられた」-「しかられた」の数値差を表し、数値がプラスだと「ほめられ」が高く、それがマイナスだと「しかられ」が高いことを示している。下部の軸のラベル中の◆はプラス10ポイント以上の項目で、◎は数値差が10ポイント未満で、▲はマイナス10ポイント以上の項目になる。

まず、「しかられること」よりも「ほめられること」が多い項目（◆）には「成績」と「ともだち関係」がある。特に、「成績」は前述したように、「下がってしかられる」ことより

も「上がればほめられる」傾向が著しい。「ともだち関係」も「けんかしてしかられること」よりも「仲良くしていればほめられる」傾向にある。

つぎに、数値差が小さい項目(◎)には、「あいさつ」「約束・きまり」「身のまわりのかたづけ」の3項目がある。これらは「きちんとできていなければ適度にしかられ、きちんとしていれば適度にほめられる」ことになる。ただ、「身のまわりのかたづけ」は「きちんとしていないとしかられる」傾向がやや強い。

そして、「ほめられること」よりも「しかられること」が多い項目には、「いたずら／ゴミをひろう」「うそ／正直」の2項目がある。これらは「してはいけないことをしたらしかられ」、「少しよいことをしてもあまりほめられない」という行為になる。

このように、「しかられること」と「ほめられること」の関係を見ると、「よくないことをしたらしかられ、よいことをしたらほめられる」というような単純な関係にあるとは言えないようである。ただし強いて言えば、「◎」の項目のうち「身のまわりのかたづけ」は、「しなかったらしかられる」が、「きれいに整理したからほめられる」という「誉めと叱り」の関係がある程度成立していると言える。なお、「あいさつ」については数値差は小さいが、数値自体が低いので、誉めも叱りもなされないことになる。

3. 大人からよく言われる言葉と規範意識

「大人からよく言われる言葉」と自己行動認識については最初に取り上げたので、この章の終わりにもその「言葉」と児童生徒の規範意識との関係を分析してみることにしよう。

図19は、自己行動認識の場合と同様の方法で、規範意識スコア平均値を算出した結果である(「自分の親」の数値の高い順。データの度数は**参考表2**を参照)。

全体的に見ると、数値が高い言葉には、「良い子だね」「えらいだね」「がんばったね」「やればできる」「すごいね」など子どもの行いを賞賛する評価的言語が多い。自己行動認識の場合と同様の傾向にあるが、言葉の順序が一部入れ替わっている。

これに対して、「しっかりしないさい」「なんでできないの」という子どもの行いを批判するような指示的言語は平均値が低くなっている。指示的言語の中でも「じぶんでかंगाえなさい」は自己行動認識の場合と同様に、他の指示的言語に比べて相対的に高い数値を示しているが、この言葉は子どもの行動を批判する意味合いが薄く、むしろその自律を促す奨励的な言葉になろう。

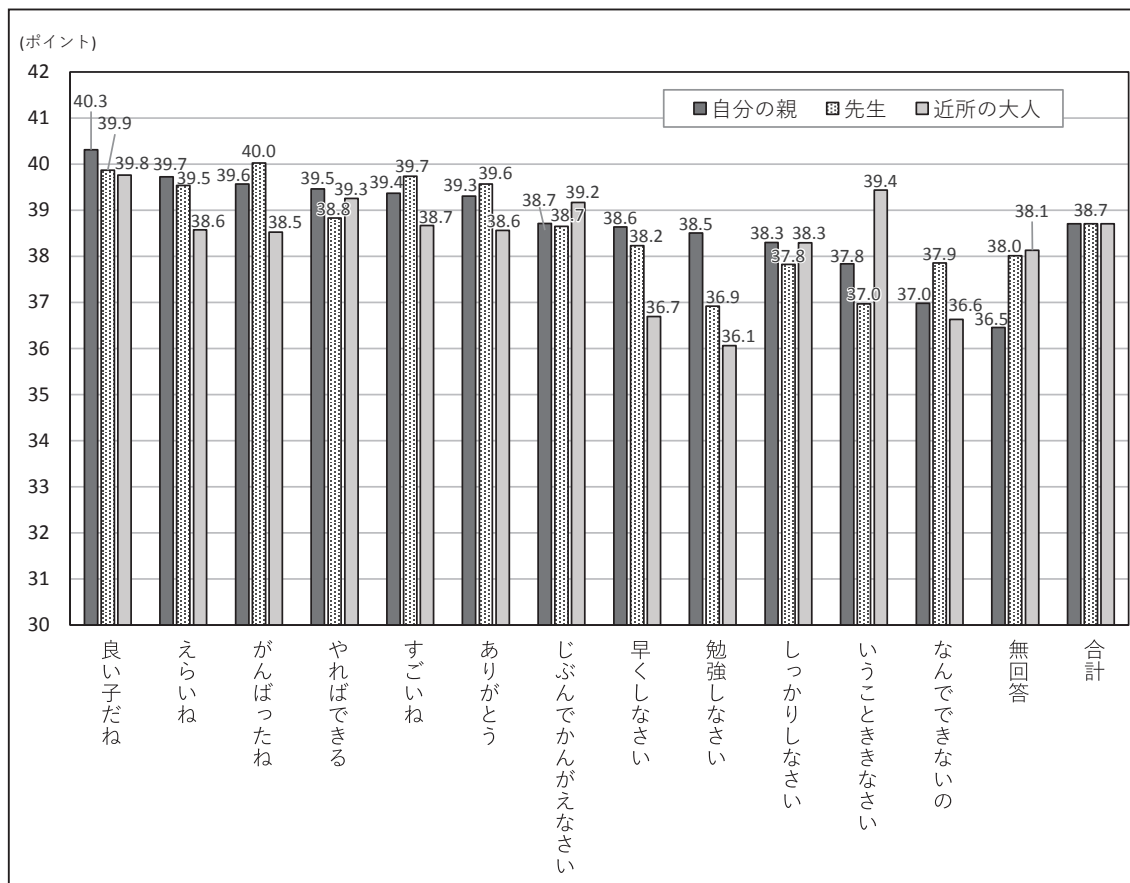
評価的言語は、子どものよい行いを誉めて励ますことによって望ましい規範を形成することに寄与し、一方の指示的言語は問題の指摘(叱ること)は行動規範を身に付けさせる役割を果たしているとは言えない。そう考えれば、評価的言語である「誉め言葉」の方が「叱る言葉」よりも児童生徒の規範意識を高める可能性があると言えよう。巷間、「叱るより誉めよ」と主張されるが、これらデータからはその主張の裏付けが得られたことになる。

4. 自己行動認識と規範意識から見た「大人からよく言われる言葉」の有効性

(1) 自己行動認識スコアと規範意識スコアの上位項目

自己行動認識スコアと規範意識スコアのそれぞれの上位項目と下位項目を並べると**表1**

図19 大人からよく言われる言葉と規範意識スコア



のようになる。若干順位は入れ替わっているが、両スコア間に意味ある違いはないと解される。ただ、「近所の大人」では「いうことをききなさい」「じぶんでかंगाえなさい」という指示的言語が上位項目として上がっている。ただし、「近所の大人」で見られる指示的言語については度数が少ないことから、偶然性を否定できない。

表1 自己行動認識スコアと規範意識スコアの上位項目－第1位～第5位－

	自己行動認識			規範意識		
	自分の親	学校の先生	近所の大人	自分の親	学校の先生	近所の大人
第1位	良い子だね	良い子だね	やればできる	良い子だね	がんばったね	良い子だね
第2位	えらいね	ありがとう	良い子だね	えらいね	良い子だね	いうことをききなさい
第3位	すごいね	がんばったね	ありがとう	がんばったね	すごいね	やればできる
第4位	ありがとう	えらいね	えらいね	やればできる	ありがとう	じぶんでかंगाえなさい
第5位	がんばったね	すごいね	すごいね	すごいね	えらいね	えらいね/ありがとう

これらの言葉からは、言葉かけの在り方の有効性を読み取ることができる。表1の上位の言葉を見ると、「良い子だね」がいずれのセルにも登場し、かつ順位が高い。それに準じる言葉は「えらいね」である。これもすべてのセルに上がっている。次いで、「すごいね」となる。これら評価的言語（「誉め言葉」だと言ってもよい）である「良い子だね」「えら

参考表2 大人からよく言われる言葉別（一つ目）の規範意識スコア

	自分の親やおじいさん・おばあさんから			学校の先生から			近所の大人から		
	平均値	度数	標準偏差	平均値	度数	標準偏差	平均値	度数	標準偏差
良い子だね	40.3	64	3.88	39.9	46	3.97	39.8	971	4.49
えらいね	39.7	251	4.52	39.5	340	4.00	38.6	1069	4.37
すごいね	39.6	132	5.10	40.0	461	3.83	38.5	107	5.17
ありがとう	39.5	192	4.95	38.8	544	5.36	39.3	63	6.10
がんばったね	39.4	290	5.32	39.7	439	4.47	38.7	455	5.01
やればできる	39.3	181	4.75	39.6	542	4.21	38.6	606	5.11
じぶんでかंगाえなさい	38.7	129	5.40	38.7	311	4.79	39.2	42	6.05
しっかりしなさい	38.6	359	4.90	38.2	377	4.95	36.7	26	7.51
早くしなさい	38.5	2485	5.01	36.9	505	6.09	36.1	65	7.74
勉強しなさい	38.3	111	5.83	37.8	264	5.47	38.3	34	5.76
いうことききなさい	37.8	100	5.18	37.0	165	6.29	39.4	25	4.87
なんでできないの	37.0	62	7.35	37.9	106	6.34	36.6	27	8.02
無回答	36.5	68	7.86	38.0	324	5.96	38.1	934	5.85
全体	38.7	4424	5.13	38.7	4424	5.13	38.7	4424	5.13

いね」「すごいね」という3つの言葉は、自己行動認識や規範意識に強く関係している意味で、児童生徒のしつけにとって有効な言葉として機能していると考えられる。

(2) 自己行動認識スコアと規範意識スコアの下位項目

一方、自己行動認識及び規範意識の各スコアの下位項目（言葉）はどうだろうか。表2に記したように、自己行動認識及び規範意識のいずれでも、「なんでできないの」がすべてのセルにあげられ、そのうち最下位の第12位には自己行動認識「自分の親」「学校の先生」「近所の大人」、規範意識「自分の親」の4カ所に位置づいている。これは、相手の成長を促す意味を持たず、むしろその能力を否定する意味合いが強い言葉であることから、児童生徒の自己行動認識や規範意識を高めることにならないのであろう。また、「勉強しなさい」「早くしなさい」も表中のすべてのセルに登場し、「いうことをききなさい」は5つのセルで見られる。このうち「早くしなさい」と「いうことをききなさい」という二つの言葉はいわば大人目線から発せられるもの、すなわち児童生徒の立場を考慮していない言葉であり、大人の基準に児童生徒を合わせようとする指示的言語に位置づく。「勉強しなさい」は、「勉強は大切」だという当然の意識を上塗りするだけの空虚な言葉になっている可能性がある。

これら4つの言葉は両スコアが低いことから、児童生徒の自己行動認識や規範意識を高める可能性が低い言葉であり、その意味で彼らの成長を促すことが期待しにくい言葉だと言える。そのほか、これらに準ずる言葉として、「しっかりしなさい」がある。

表2 自己行動認識スコアと規範意識スコアの下位項目－第12位～第8位－

	自己行動認識			規範意識		
	自分の親	学校の先生	近所の大人	自分の親	学校の先生	近所の大人
第12位	なんでできないの	なんでできないの	なんでできないの	なんでできないの	勉強しなさい	勉強しなさい
第11位	いうことききなさい	勉強しなさい	早くしなさい	いうことききなさい	いうことききなさい	なんでできないの
第10位	勉強しなさい	いうことききなさい	いうことききなさい	しっかりしなさい	しっかりしなさい	早くしなさい
第9位	早くしなさい	じぶんでかながえなさい	勉強しなさい	勉強しなさい	なんでできないの	しっかりしなさい
第8位	しっかりしなさい	早くしなさい	しっかりしなさい	早くしなさい	早くしなさい	がんばったね

5. まとめ－おわりにかえて－

以上、児童生徒調査を用いて、大人による言葉かけが児童生徒の行動や規範意識に対してどう関係しているかを明らかにしてきた。このことは、大人という言葉かけの中身が児童生徒の成長の在り方に及ぼす有効性を探ることになる。その結果、おおよそ以下のような結論を得ることができた。

第一に、自分の親（祖父母等を含む）、学校の先生、近所の大人のいずれからも「よく言われる言葉」のうち、児童生徒の自己行動認識が高いものには、「良い子だね」「えらいね」「すごいね」「ありがとう」「がんばったね」などの評価的言語がある。反対に「なんでできないの」「いうことをききなさい」「勉強しなさい」「早くしなさい」「しっかりしなさい」という指示的言語は自己行動認識が低い傾向にある。したがって、評価的言語の方が児童生徒の自己行動認識を高める可能性があると考えられる。

第二に、自己行動認識の高い言葉には、児童生徒が「やる気が出た」言葉のうちで「やればできる」「良い子だね」「すごいね」「がんばったね」という評価的言語ないしは激励を意味する言葉が多かった。ただし、「いうことをききなさい」が第5位（12項目中）にランクしているが、この度数は27人と少ないことから、参考値にとどまる。また、「勉強しなさい」は第6位に位置付き、度数が491人であることから、状況によっては「やる気」を促す可能性が高い言葉の一つになると思われる。なお、下位項目には、「なんでできないの」「早くしなさい」「ありがとう」などの言葉がある。「なんでできないの」は指示的言語であり、また能力を非難するような言葉であるから、「やる気」につながらないものと解せられる。「早くしなさい」も同じような解釈ができよう。ただ、「ありがとう」は第10位と下位にランクするが、児童生徒の「やる気」とは別の感覚で捉えられているものと考えられる。

第三に、「しかられ／ほめられ」経験と自己行動認識との関係を分析した結果からは、まず、自己行動認識が高いと、成績が下がっても「しかられる」ことが少なくなり、反対に、自己行動認識の低い児童生徒は成績が下がると親からしかられるが、成績が上がっても親からさほど誉められない傾向が見出された。そして、自己行動認識が高い児童生徒の

場合、親から「しかられる」ことは、「友だちとけんか」「うそをついた」「いたずらをした」など「よくないこと」をした場合が多い。ただ、全体的に見れば、自己行動認識が低いと「しかられる」傾向にあるとは言えないが、「ほめられる」ことが少ない傾向にあることがわかった。

第四に、「成績」は「下がってしかられる」ことよりも「上がればほめられる」傾向が著しい。特に親の関心が強いいためか、「ほめられた」割合が他の項目よりも著しく高い。このように、「叱り」と「誉め」は、よくないことをした（ことになった）場合に「しかられる」、よいことをした（ことになった）場合には「ほめられる」というような単純な関係ではなかった。

第五に、「よく言われる言葉と規範意識の関係を見ると、児童生徒の規範意識スコアが高い場合には、「良い子だね」「えらいね」「がんばったね」「やればできる」などの評価的言語が上位にランクし、自己行動認識の場合とほぼ同様の結果が得られた。

第六に、児童生徒の自己行動認識と規範意識のスコアが高い項目は、「良い子だね」「えらいね」「すごいね」であった。これらの言葉は、自己行動認識や規範意識に強く関係している意味で、児童生徒のしつけにとって有効な言葉として機能していると考えられる。反対に、それらスコアが低い下位項目には、「勉強しなさい」「早くしなさい」「いうことをききなさい」などの大人目線からの「指示的言語」がある。これらは「叱り」の意味を持つが、自己行動認識や規範意識を高めることにつながりにくい言葉だと考えられる。

以上から、現代の小中学生にとっては、「誉め」や「激励」を意味する評価的言語の方が教育上効果的に機能し、大人目線から「叱り」を含む指示的言語はむしろ教育的には逆効果を生み出す可能性があると言えよう。

しかしながら、そうだからと言って、誉めてばかりいると子どもたちは「誉められ慣れ」してしまい、一方では「叱られること」に対して拒否的態度を強めることになり、結果として自己の問題点に対する「気づき」の機会を喪失し、さらに自己本位の姿勢を強めることが懸念されてくる。「叱り」と「誉め」のバランスをどうとるかは古くて新しい教育上の課題であるが、「誉め」が「煽て」にならないよう、また「叱り」が「人格批判」にならないよう配慮することが肝要だと言えよう。

(佐藤 晴雄)

第25章 児童生徒の自己行動認識と規範意識に及ぼす諸要因の分析(2) – 自己行動認識と子どもの特性 –

はじめに

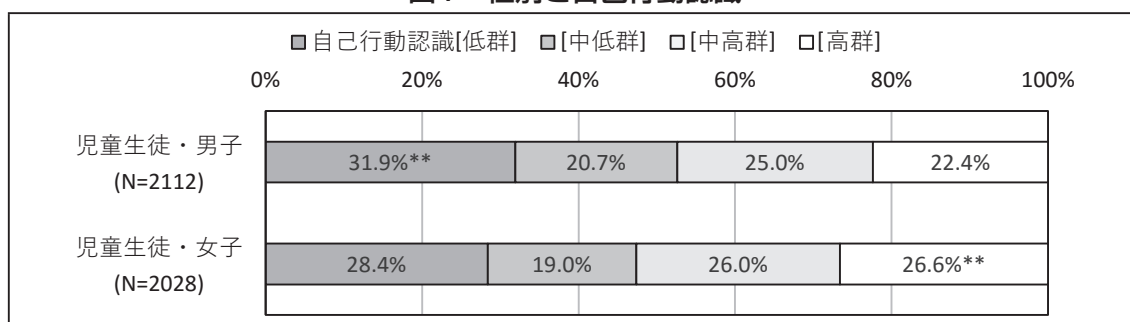
ここで取り上げる自己行動認識については前章で述べたところである。本章では、自己行動認識の4カテゴリー別に、その諸要因となりうる変数との関係を探ることにした。

1. 児童生徒の属性・生活環境と自己行動認識

(1) 性別

児童生徒の性別と自己行動認識レベルのカテゴリーをクロス集計した結果(図1)、「男子」は「女子」よりも「自己行動認識[低群]」が有意に高く(31.9%、** $p < .01$)、「女子」は「男子」に対して「高群」が有意に高いことがわかった(26.6%、** $p < .01$)。その中間カテゴリーである「中低群」及び「中高群」については性別間に差が見られなかった。女子は男子に比べて、たとえば、規律正しい生活を送り、素直で社会性に富むなど自己に対する認識が良好な傾向にあると言えよう。

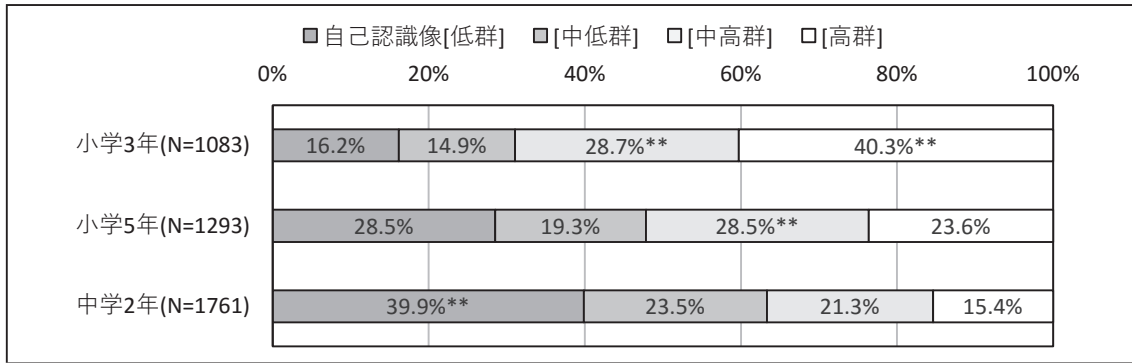
図1 性別と自己行動認識



(2) 学年

学年別に自己行動認識レベルのカテゴリーを分析すると(図2)、「自己行動認識[低群]」は小学校3年16.2%、小学校5年28.5%、中学2年39.9%となり、学年進行に従って高くなる傾向にあり、反対に「自己行動認識[高群]」は小学3年40.3%、小学5年23.6%、中学2年15.4%となるように、学年が進行するにつれて数値が低下している。成長と共に自己に対する認識がマイナスになっていくことがわかる。この自己行動認識の低下は見方をかえれば、親離れによるものと解することもできよう。

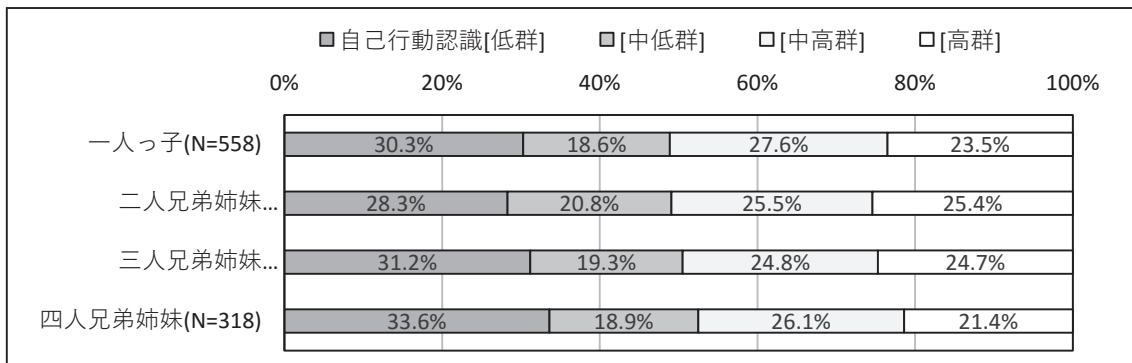
図2 学年と自己行動認識



(3) 兄弟姉妹の数

兄弟姉妹の数(一人っ子、二人、三人、四人以上)別に自己行動認識カテゴリを見ると(図3)、**兄弟姉妹の数と自己行動認識にはほとんど関係が見出されなかった。**「四人兄弟姉妹」では、「自己行動認識 [低群]」の数値が若干高く (33.6%)、「高群」が若干低い (21.4%) が、統計的な有意差が認められなかった。

図3 兄弟姉妹数と自己行動認識



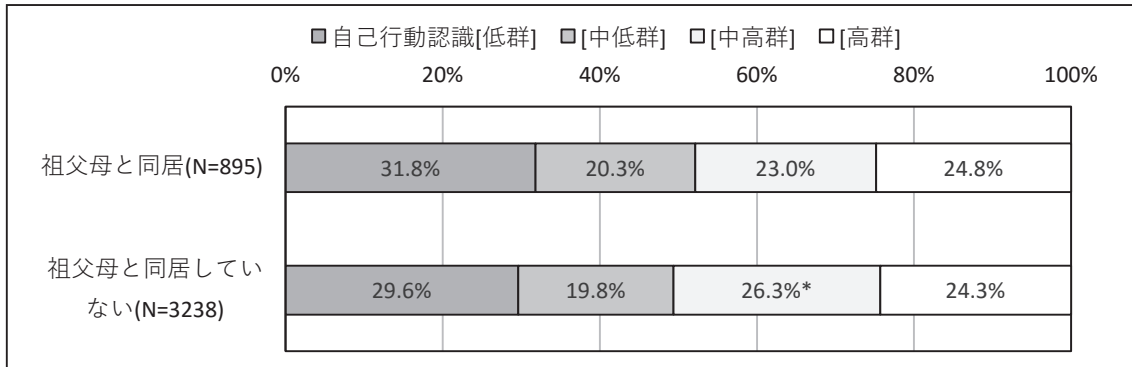
ns.

(4) 祖父母との同居の有無

祖父母との同居の有無では(図4)、同居／非同居間に明確な差が見出されなかったが、「祖父母と同居」の「自己行動認識像 [中低群]」(23.0%) に比べて、「祖父母と同居していない」の同じカテゴリ「中低群」(26.3%)の数値が有意に高いことが認められた(*p<.05)。

ただ、全体的に見れば、**祖父母と同居か否かは児童生徒の自己行動認識にはほとんど影響していない**と言えるであろう。

図4 祖父母との同居の有無と自己行動認識



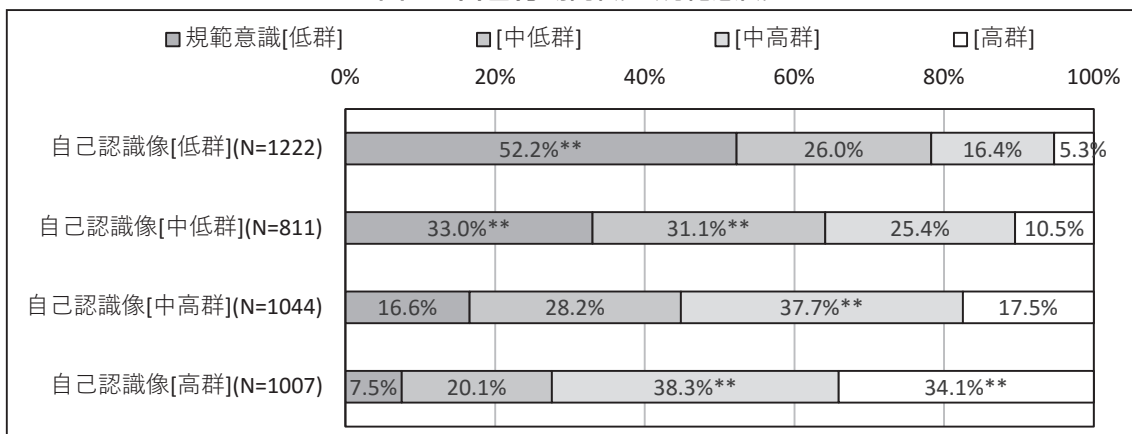
2. 規範意識と自己行動認識－自己行動認識が良好なほど規範意識が強い－

児童生徒の自己行動認識と規範意識との関係はどうであろうか。図5は、自己行動認識4カテゴリーと児童生徒の規範意識をクロス集計した結果を表しているが、図中左側の「規範意識 [低群]」を見ると、「自己行動認識 [低群]」52.2%、[中低群] 33.0%、[中高群] 16.6%、[高群 7.5] となり、自己行動認識が高くなるに従って規範意識 [低群] の数値は低くなり、「規範意識 [高群]」に注目すると、「規範意識 [低群]」5.3%、[中低群] 10.5%、[中高群] 17.5%、[高群] 34.1% となり、自己行動認識が高くなるに従って、数値も高くなる。

検定結果では、「自己行動認識 [低群]」×「規範意識 [低群]」、「自己行動認識 [中低群]」×「規範意識 [低群]」及び「規範意識 [中低群]」の数値は有意が高いことが認められ (**p<.01)、自己行動認識が低いと規範意識も低いことが明らかになった。反対に、「自己行動認識 [中高群]」×「規範意識 [中高群]」、「自己行動認識 [高群]」×「規範意識 [中高群]」及び「自己行動認識 [高群]」の数値は有意に高いことが認められた (**p<.01)。

以上から、自己行動認識が高い児童生徒ほど規範意識も高い傾向にあり、自己行動認識が低いほど規範意識も低くなる傾向にあることが明らかになった。換言すれば、良好な生活態度（自己行動認識の高さ）を送っている児童生徒は規範意識が高いと主張できるのである。

図5 自己行動認識と規範意識



3. 校外生活の実態と自己行動認識

校外生活と自己行動認識の関係はどうだろうか。ここでは以下の質問を「校外生活」に位置づけて、自己行動認識4カテゴリとクロス集計を行った。

- 11-1. 子ども会やスポーツクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウトなどに入っている
- 11-2. 音楽や習字、スポーツ、バレエなどのおけいこごとに通っている
- 11-3. 算数・数学や英語、国語などの学習塾に通っている
- 11-4. 近所の大人とよく話をしている
- 11-5. 公民館や図書館などによく行っている
- 11-6. 地域のお祭りやイベントによく参加している
- 11-7. 年上や年下の友達とよく遊んでいる
- 11-8. 毎日、朝ご飯をかならず食べている
- 11-9. よく本を読んでいる

(1) 校外生活と自己行動認識の関係

図6から図14までがその結果である（※自己行動認識 [低群] N=1251、[中低群] N=824、[中高群] N=1057、[高群] N=1013）。図の左側の縦棒が「はい」の回答で、これを自己行動認識カテゴリの [低群] [中低群] [中高群] [高群] の順に並べてあるが、図7の「算数・数学や英語、国語などの学習塾に通っている」（以下、「学習塾への通塾」）を除くすべての項目で、「はい」の回答、すなわち校外生活に関わっている児童生徒ほど自己行動認識が高くなる傾向にある。むろん、これに対応して「いいえ」（図中右側の棒）の回答については、タテ棒が右下がりになり、自己行動認識が高くなるにつれて数値が下がっている。

ようするに、「子ども会への参加」「おけいこごとへの通塾」「近所の人との会話」「公民館や図書館の利用」「地域イベントへの参加」「異年齢者との遊び」など地域社会等との関わりを持ち、「朝食をかならず食べる」「本をよく読む」など日常の場面でも模範的な生活を送っている児童生徒ほど自己行動認識が高い傾向にある。したがって、そうした地域社会との関わりや模範的な日常生活を送ることが児童生徒の自己行動認識をプラスにしている可能性があると言えよう。

なお、「学習塾への通塾」は自己行動認識にほとんど関係していなことが分かったが、おそらく学習塾の多様性が影響しているものと考えられる。学習塾は進学対応のタイプと補習対応タイプに大別できるが、後者の塾には自己行動認識の低い児童生徒も比較的高い割合で通塾していることが推量できるからである。

図6 子ども会やスポーツクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウトなどに入っている

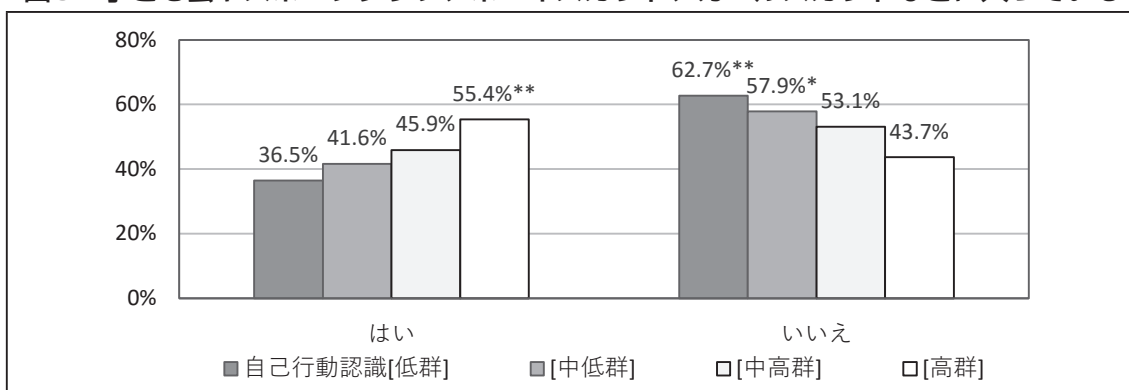


図7 算数・数学や英語、国語などの学習塾に通っている

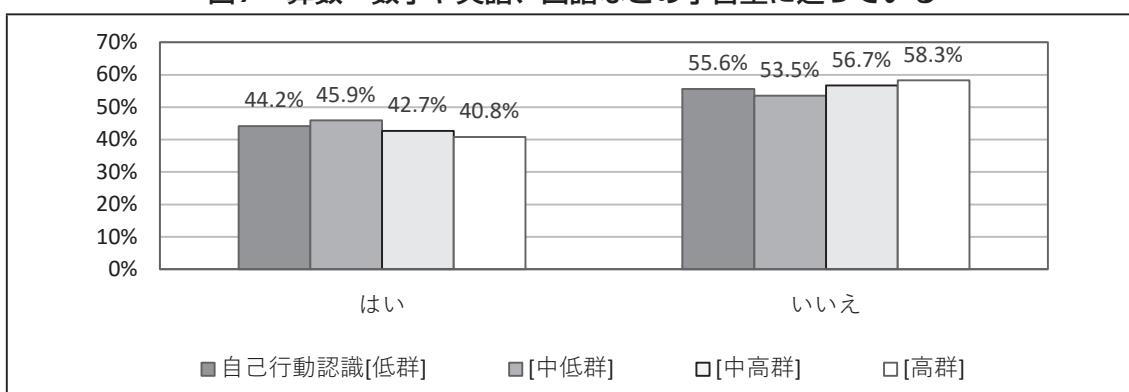


図8 音楽や習字、スポーツ、バレエなどのおけいごとに通っている

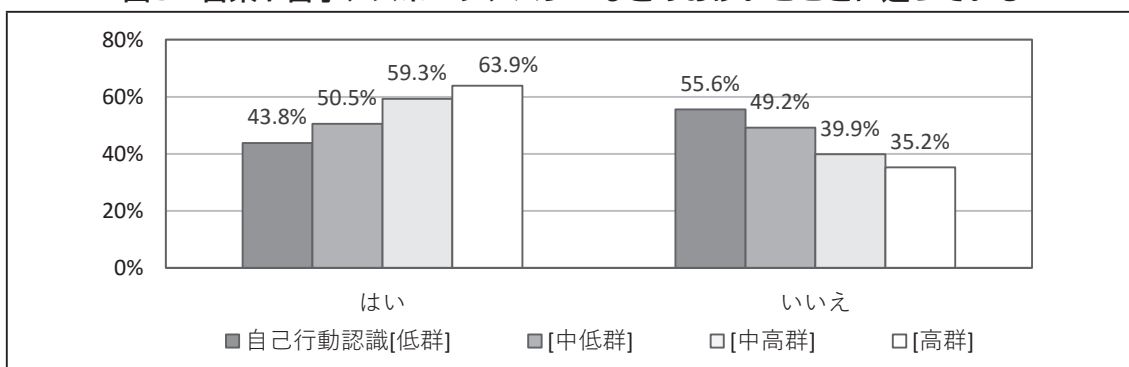


図9 近所の大人とよく話をしている

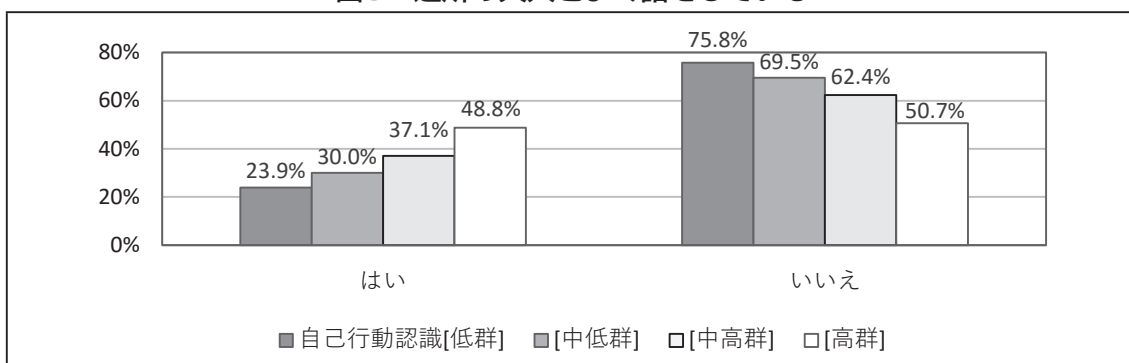


図10 公民館や図書館などによく行っている

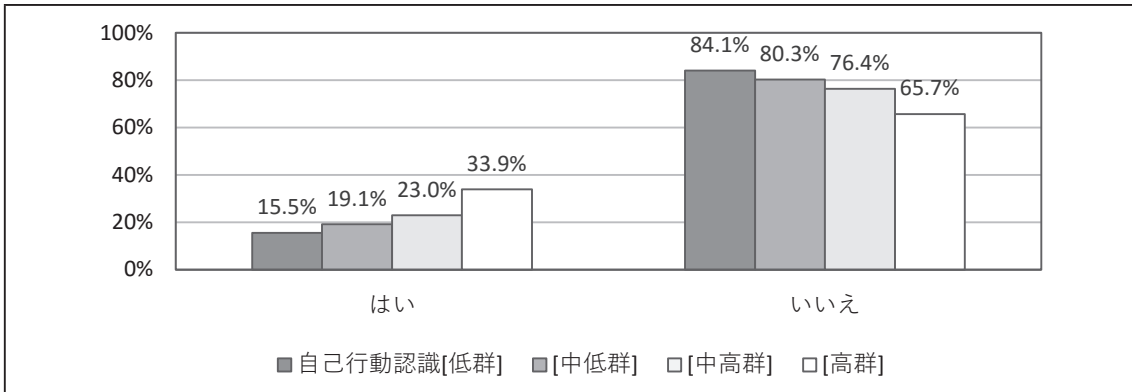


図11 地域のお祭りやイベントによく参加している

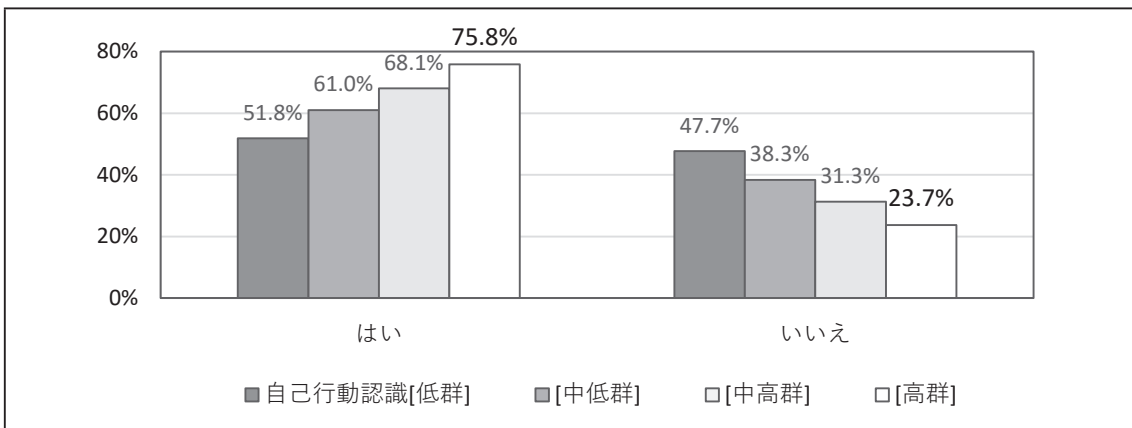


図12 毎日、朝ご飯をかならず食べている

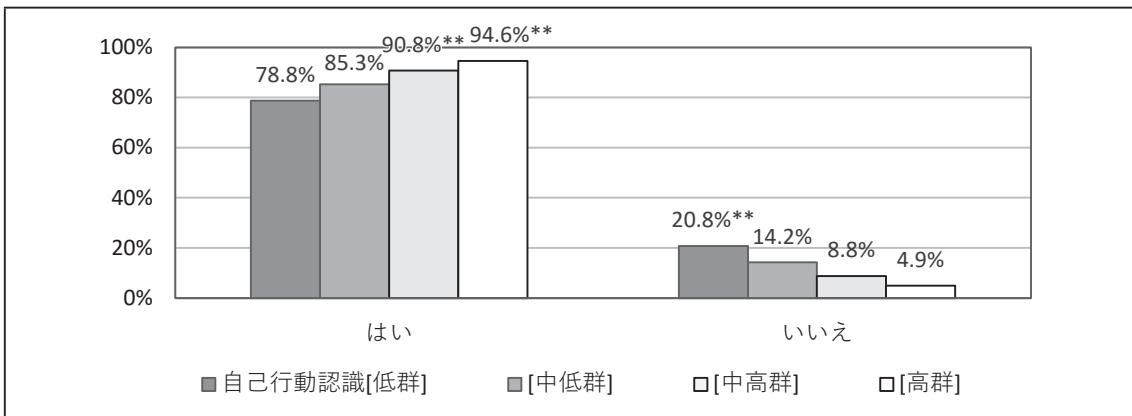


図13 年上や年下の友達とよく遊んでいる

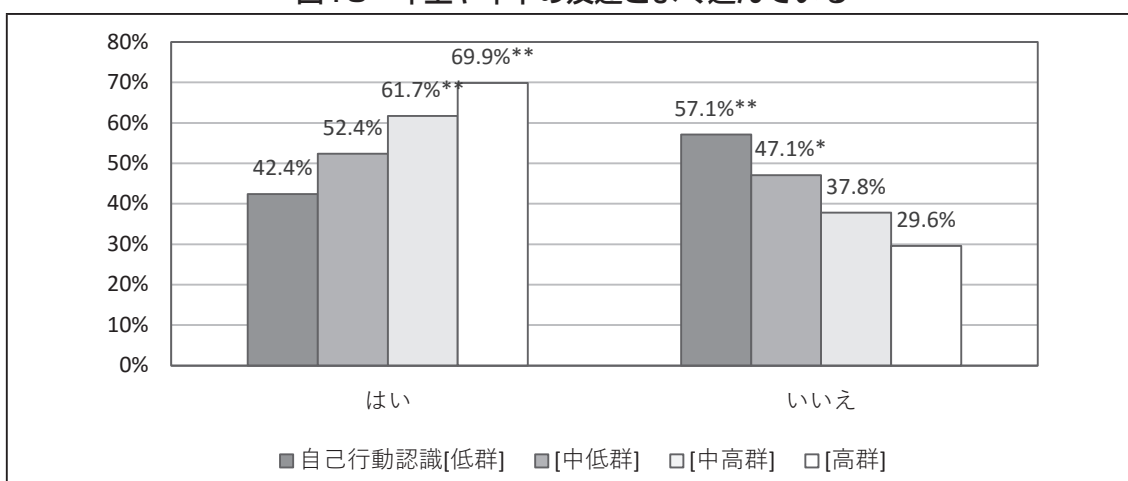
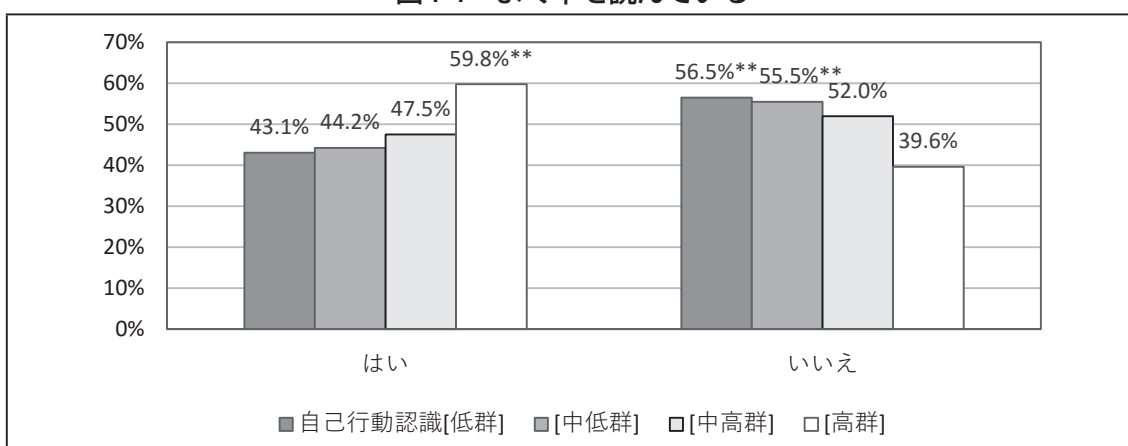


図14 よく本を読んでいる



(2) 社交性と自己行動認識

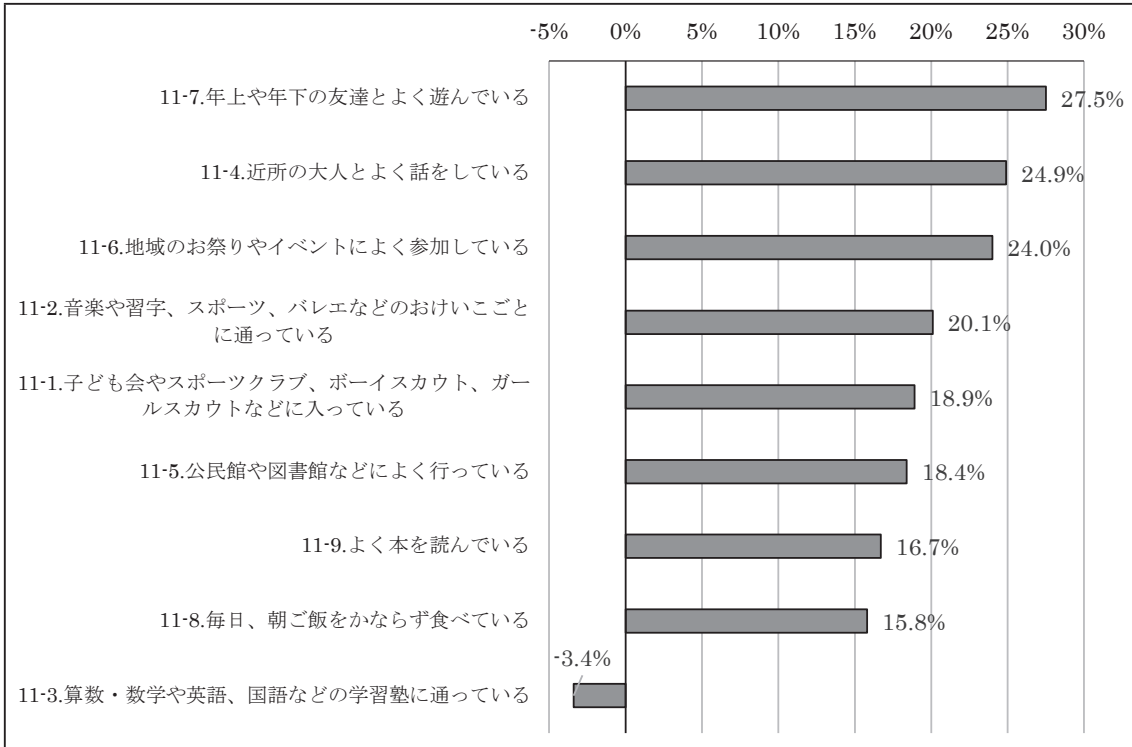
－自己行動認識が良好な児童生徒は校外生活に積極的で、ソーシャル・キャピタルが豊か－

図15は、前述した校外生活に関する回答項目別に、自己行動認識[高群]－[低群]の数値差を図示したものである。この数値が高い項目すなわち自己行動認識が高い＝良好な児童生徒の校外生活の特徴として顕著なことは、「年上や年下の友だちとよく遊んでいる」(27.5%)、「近所の大人とよく話している」(24.9%)、「地域のお祭りやイベントによく参加している」(24.0%)という社交性に関わる行動をとっていることである。これに対して、「算数・数学や英語、国語などの学習塾に通っている」はむしろ数値が逆転し、自己行動認識[低群]の数値が高い(-3.4)。また、「よく本を読んでいる」(16.7%)、「毎日、朝ご飯をかならず食べている」(15.8%)は数値差が小さいが、これらの行動は社交性を表すものではない。これらの数値と学習塾の場合を踏まえると、他者との関わりを前提としない行動は自己行動認識を良好にする程度が弱いと言わざるを得ない。統計的には断言できないが、学習塾では却って自己行動認識を低下させてしまう可能性がある。このことは前述したように学習塾の多様性が関係していると考えられる。

以上のデータからは、自己行動認識が良好な児童生徒は校外生活の多くの場面で積極的に活動しているが、なかでも異年齢者とも「よく遊び」「よく話し」、地域行事等には「よ

く参加」するなどが顕著に見られる。いわば子どもにとってのソーシャルキャピタル（社会関係資本）が自己行動認識に関係し、それが豊かな児童生徒ほど自己行動認識が良好だと言えるのである。

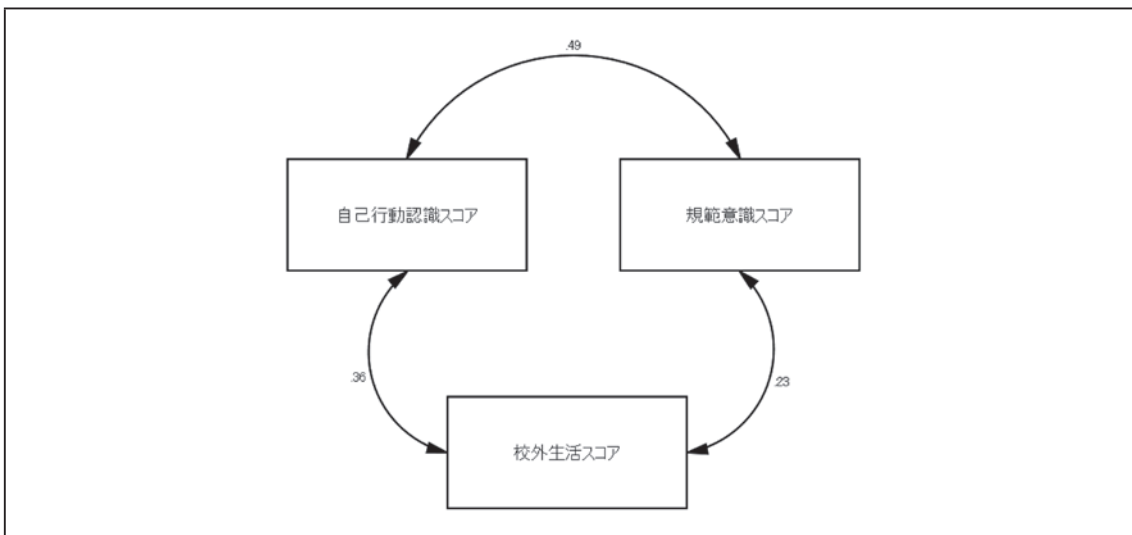
図15 校外生活別の自己行動認識スコア【高群】－【低群】の数值差%



それでは、参考までに、「自己行動認識」「規範意識」「校外生活（スコア）」の3変数間の相関係数を算出してみると、**図16**のようになる。「自己行動認識」と「規範意識」との相関係数は.49と比較的強い相関を示し、「自己行動認識」と「校外生活」との相関係数は.36となり、ある程度の相関が認められる（前掲図6-14を参照）。「規範意識」と「校外生活」との相関係数は.23で、これも弱い相関が認められる。

これら3変数間には相関係数を見ても、強弱があるものの一定の相関関係にあるわけである。

図16 自己行動認識・規範意識・校外生活の3変数間の相関



4. 自己行動認識－規範性・社会性・自律性の3分類のスコア－

児童生徒の自己行動認識については、第2章「子どもは自らの姿をどのように捉えているか」(堀井先生)で述べてあるので、ここではこれに関する項目を「規範性」「社会性」「自律性」という3要素カテゴリーに分類して、それぞれの特性について探ることにしよう。

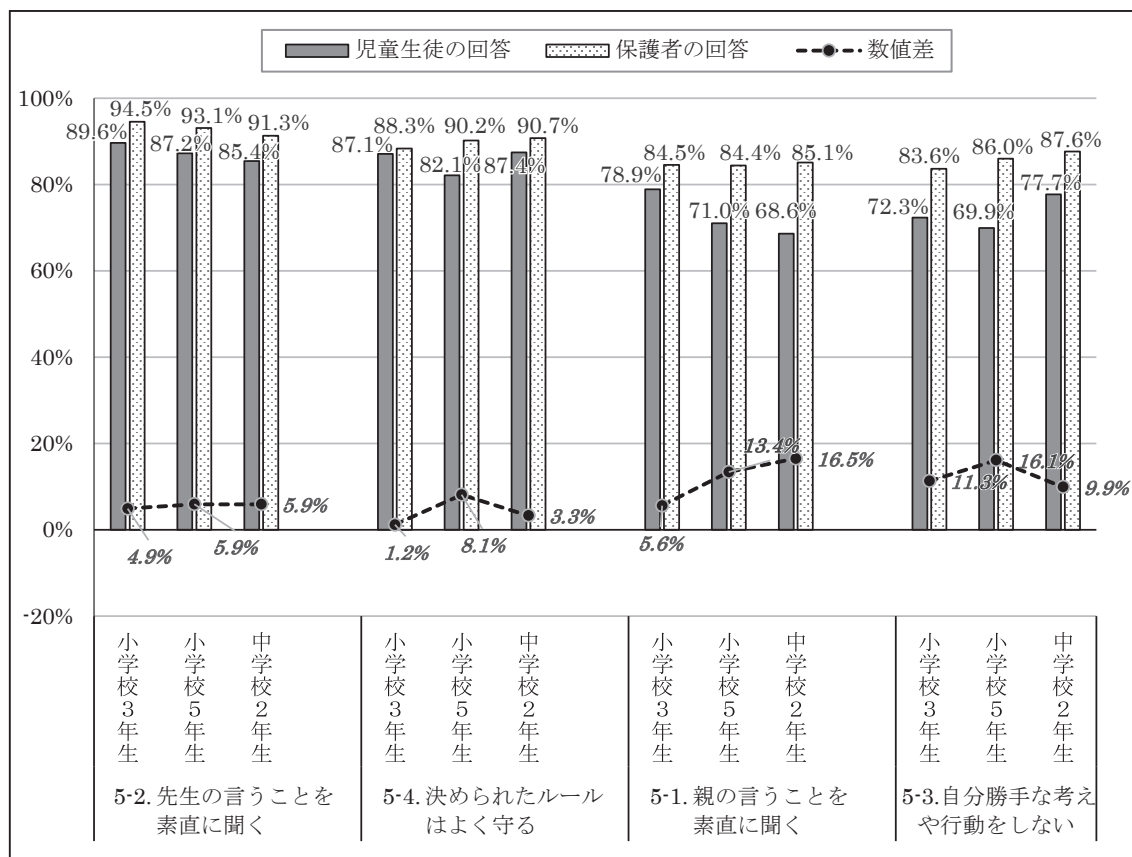
(1) 自己行動認識(規範性)－先生の言うことは聞くが、親の言うことは聞かない児童生徒は学年進行と共に増える－

児童生徒の規範性に属する項目としては、「先生の言うことを素直に聞く」「決められたルールはよく守る」「親の言うことを素直に聞く」「自分勝手な考えや行動をしない」の4項目を位置づけた。

児童生徒の規範性に関しては、後述する社会性と自律性に比べて、**図17**に記したように肯定値(%)が高い項目が多い(最低「中2 親の言うこと」68.6%～最高「小3 先生の言うこと」94.5%)。4つすべての項目で児童生徒の回答値よりも保護者の回答値が高くなっている(図中の折れ点線は「保護者」+「児童生徒」の数値差。以下、同じ)。つまり、保護者の方が本人よりもわが子が規範的な行動をとっていると認識する傾向が強いことになる。

児童生徒及び保護者の数値が最も高い項目は「先生の言うことを素直に聞く」で、保護者の回答はいずれの学年でも90%になる(91.3%～94.5%)。児童生徒の回答値も比較的高く(85.4%～89.6%)、保護者の数値との回答値差が極めて小さい点が特徴的である。

図17 児童生徒の自己行動認識－規範性－



※学年下部の項目番号(5-2.など)は保護者調査票の質問番号を表す。

これに対して、「親の言うことを素直に聞く」は数値が下がり、保護者が80%台になり(84.5%～85.1%)、児童生徒との数値差(68.6%～78.9%)が開き、学年進行と共にその傾向が著しくなる。先生の言うことは聞くが、親の言うことは聞かない児童生徒が若干多く、学年進行に従って増加傾向にある。しかも、学年が進むと親子の認識差が拡大していくのである。なかでも、中学3年生の場合、親子間の数値差が16.5ポイントと大きく、親が思っているほどその子は「親の言うことを素直に聞かない」のである。

また、興味深い点は児童生徒の数値の「決められたルールはよく守る」(82.1%～87.4%)は数値が高いのに対して、「自分勝手な行動をしない」(69.9%～77.7%)は数値が低いことである。ルールには従うが、自分勝手な行動をとるという児童生徒がある程度存在することになる。また、これら2項目は、親子共に回答値が小学生よりも中学生の方が若干高くなっている。ルール遵守の姿勢は中学生になると強まることになる。

(2) 自己行動認識(社会性) – 保護者が思う以上にわが子は社会性を身につけている –

社会性に属する項目としては、「ともだちが多い」「学校に行くのが楽しい」「はじめての人ともすぐともだちになれる」「外でよく遊ぶ」の4項目を位置づけた。

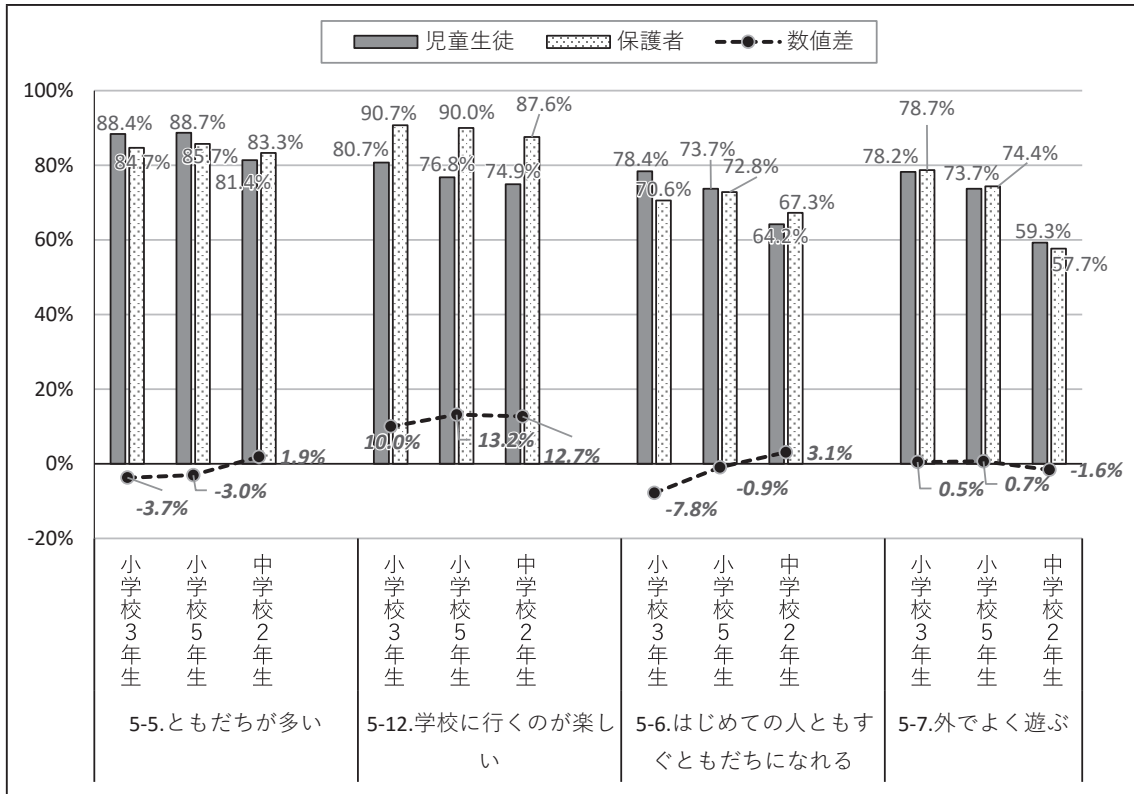
これら児童生徒の社会性に関しては、児童生徒の肯定的回答の数値が保護者回答よりも高い、ないしはそれに近い項目がいくつか見られる。「ともだちが多い」(児童生徒:小3年88.4%・小5年88.7%)及び「はじめての人ともすぐともだちになれる」(児童生徒:小3年生78.4%・小5年生73.7%)は小学校3年・5年で児童生徒が保護者を上回り、「はじめての人ともすぐともだちになれる」もそれと同様の傾向にあり、また、「外でよく遊ぶ」は児童生徒と保護者の回答値の差が±1ポイント前後に止まる。

図中の折れ線を見ると、「ともだちが多い」は小学校3年生+3.7・同5年生-3.0で、「はじめての人ともすぐともだちになれる」の同数値は小学校3年生-7.8・同5年生-0.9である。

また、「外でよく遊ぶ」は小学校では保護者の数値が上回るが、児童生徒との数値差が小さく、また中学校2年生の場合には数値が逆転し、児童生徒が高くなる。この数値差は、小学校3年生0.5・同5年生0.7で、中学校2年生-1.6となる。つまり、保護者が考える以上にわが子は友だちが多く、初めての人ともすぐに友だちになれるなど、交友関係の点において社会性を身につけているのである。

これら社会性に関しては、保護者が思うよりも児童生徒本人は肯定的に評価を下していることになる。ただし、「学校に行くのが楽しい」は児童生徒回答を保護者が著しく上回り、両者の回答の数値差は、小学校3年生10.0・同5年生13.2、中学校2年生12.7となり、大きく開いている。「学校に行くのが楽しい」の児童生徒の回答値は約75%以上であることから、総体的に見れば低いとは言えないが、保護者の方が「わが子は学校に行くのが楽しい」だろうと認識する傾向が強い。その意味で、保護者はわが子の学校に対する気持ちの内を十分把握し切れていないと言えそうである。

図18 児童生徒の自己行動認識—社会性—



(3) 自己行動認識 (自律性) –自律性は学年進行と共に高まるわけではない–

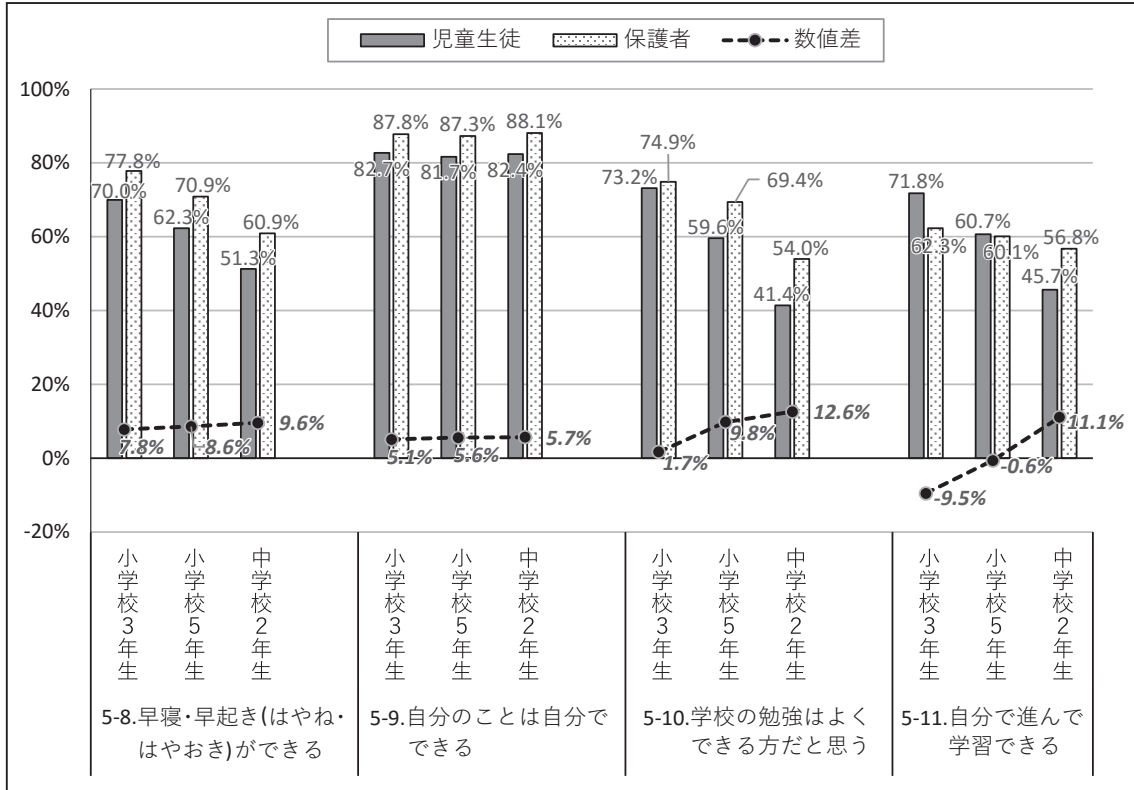
自律性に関する項目として、「早寝・早起きができる」「自分のことは自分でできる」「学校の勉強はよくできる方だと思う」「自分で進んで学習できる」の4項目を位置づけた。「学校の勉強はよくできる方」は自律性に直接関係しないと考えられるが、「勉強」という行為自体が主体性に強く影響を受けるものと解して、ここに位置づけることにした。

図19を見ると、「自分のことは自分でできる」以外の3項目は数値が低く、また学年進行に従って数値が低下している。単純に考えれば、自律性は年齢と共に高まるはずだが、今回の調査データからはそのことを主張することができなかった。なかでも、数値が低い3項目である「早寝・早起きができる」「自分で進んで学習できる」「学校の勉強はよくできる方だと思う」は学年進行と共に数値が明確に低下傾向にある。また、「自分のことは自分でできる」は数値が高いこともあってか学年進行による数値差が見られない。

「なお、自分で進んで学習できる」の小学校3年生の回答のみは、保護者回答よりも児童生徒自身の数値が上回っている (-9.5ポイント)。

したがって、児童生徒は自分のことは自分でできると自認し、また保護者からもそう認識されているにもかかわらず、学年が進行するにつれて、早寝・早起きや自分で学習できる児童生徒、さらに勉強ができると自認し、親からもそう思われている者が減るようになるわけである。

図19 児童生徒の自己行動認識－自律性－



(4) 校外生活との関わりと自己行動認識の3カテゴリースコア

最後に、校外生活との具体的な関わりが前述の自己行動認識の3要素カテゴリー（規範性・社会性・自律性）にどう寄与しているかを探るために、その関わりの有無別に各カテゴリーのスコアを算出してみることにしよう。

表1はその結果を記したものである。学習塾通塾を除くすべての校外生活では3要素カテゴリーのいずれかで、その「関わり」が「はい」の回答が「いいえ」を有意に上回る結果となった (**p<.01)。図中のセルのうち、太字かつ網掛けは「はい」 - 「いいえ」が1.0ポイント以上の場合を表し、単なる太字はそれが0.5~0.9ポイントまでの差があるものを表している。これら二つの数値に注目すると、以下のようなことが主張できる。

まず、「子ども会」「おけいごと」「近所の大人」「地域のお祭り」「年上や年下の友だち」(項目は略記)は社会性に強く寄与し、自律性にもある程度寄与していると考えられる。つまり、そうした関わりを持つと、社会性と自律性が強まることが推量できるのである。「おけいごと」の場合も他者との関係性が基盤になることから、社会性の涵養に資することにつながり、また、これらの関わりは親等から一時的に離れる行為であるから、自律性を培うことになると考えられる。

つぎに、「公民館・図書館」は自律性に強く寄与し、規範性と社会性にもある程度寄与していると解せられる。そうした社会教育施設の利用は自主的であるから当然に自律性を高め、また施設での他者との関係性（利用マナーの遵守等）や出会いが規範性や社会性を培うものと思われる。

表1 校外生活への関わりと自己行動認識カテゴリースコア

校外生活との関わり	自己行動認識カテゴリー別スコア		
11-1.子ども会などに入っている	Q3規範性	Q3社会性	Q3自律性
はい	12.4	13.2	11.6
いいえ	12.3	12.1	11.0
11-2.音楽などのおけいごとに通っている	Q3規範性	Q3社会性	Q3自律性
はい	12.5	13.0	11.6
いいえ	12.2	12.0	10.8
11-3.算数などの学習塾に通っている	Q3規範性	Q3社会性	Q3自律性
はい	12.3	12.5	11.2
いいえ	12.4	12.6	11.3
11-4.近所の大人とよく話をしている	Q3規範性	Q3社会性	Q3自律性
はい	12.6	13.4	11.8
いいえ	12.2	12.1	11.0
11-5.公民館や図書館などによく行っている	Q3規範性	Q3社会性	Q3自律性
はい	12.7	13.2	12.2
いいえ	12.2	12.4	11.0
11-6.地域のお祭りやイベントによく参加している	Q3規範性	Q3社会性	Q3自律性
はい	12.5	13.0	11.5
いいえ	12.1	11.7	10.8
11-7.年上や年下の友達とよく遊んでいる	Q3規範性	Q3社会性	Q3自律性
はい	12.4	13.4	11.6
いいえ	12.2	11.6	10.8
11-8.毎日、朝ご飯をかならず食べている	Q3規範性	Q3社会性	Q3自律性
はい	12.5	12.6	11.4
いいえ	11.3	12.0	9.9
11-9.よく本を読んでいる	Q3規範性	Q3社会性	Q3自律性
はい	12.6	12.5	11.7
いいえ	12.1	12.6	10.8

そして、「毎日、朝ご飯」は3カテゴリーすべてに寄与している可能性があり、特に、規範性と自律性に強く関係している。規則正しい生活習慣が規範意識や自律性を高めているのであろう。ただ、社会性については合理的な説明ができない。

「よく本を読んでいる」は規範性と自律性への寄与の可能性がある。読書習慣がそれら二つの面で有利に働くことが考えられる。ただ、読書と社会性とは関係していないが、読書は一般的に個人による行為だからであろう。

以上のうち、「公民館や図書館」及び「毎日、朝ご飯」は広く児童生徒の自己行動認識に関係していることがわかる。

全体的に見ると、校外生活への関わりは多くは社会性に関係し、次いで自律性にも強く関係していることになる。規範性に関してはやや弱い関係にある。したがって、校外生活への関わりは社会性と自律性を培う上で有効だと言うことができるであろう。

5. まとめ –おわりにかえて–

以上の結果をまとめると、おおよそ次のようになる。

第一に、児童生徒の自己行動認識は、男子よりも女子が高く、また学年進行とともに低下する傾向にある。ただ、兄弟姉妹数や祖父母との同居の有無が関係しているとは言えなかった。

第二に、自己行動認識は規範意識と正の相関関係にあり、前者が高いほど後者も高くなる傾向が見出された。自己行動認識を構成する項目には、自律性や社会性などのほかに、「自分勝手な行動をしない」「決められたルールはよく守る」など規範意識と重なるものがあることが相関を強めていると考えられるが、自律性や社会性の高さは結局、規範意識の基盤をなしていると関することもできる。

第三に、自己行動認識は、子ども会や学習塾への参加、図書館の利用、朝食の摂取、交友関係など校外生活が盛んな児童生徒ほど高い傾向にあることが明らかになった。校外での有意義な規則正しい活動を通して自己行動認識が高められるものと推察できるのである。

第四に、自己行動認識を関係項目に基づいて、「規範性」「社会性」「自律性」の3カテゴリーに分類して学年別に分析した結果、全体的に学年進行とともに低下傾向にあるが、特に自律性に関する項目でその傾向が目立つ。たとえば、「自分で進んで学習できる」は小学3年71.8%、小学5年60.7%、中学2年45.7%となる。また、規範性に属する「自分勝手な考えや行動をしない」は小学生よりも中学生の数値が高くなっている。「決められたルールはよく守る」も同様の傾向にあることから、規範性は年齢と共に高くなると言える。そのほか、中学生は先生の言うことは聞くが、親の言うことは聞かない児童生徒は学年進行と共に増える傾向が見られた。

第五に、上記の3カテゴリーの自己行動認識スコアを校外生活別に算出すると、校外生活項目の多くが社会性を高めることとつながっていることが推察できるのである。

第六に自己行動認識を保護者の「わが子の行動認識」と比較すると、全体的に後者の数値が高くなるが、小生の場合、初めての人ともすぐに友だちになれるなど交友関係の点については保護者が考える以上にわが子は良好な状況にある。また、児童生徒は自分のことは自分でできると自認し、また保護者からもそう認識されているにもかかわらず、学年が進行するにつれて、早寝・早起きや自分で学習できる児童生徒、さらに勉強ができると自認し、親からもそう思われている者が減るようになる。

(佐藤 晴雄)

第26章 保護者・教員・児童生徒における インターネット等に関する認識の差異について ～インターネット・SNS・スマートフォンとの関わりや それらに対する意見の比較～

1. はじめに

本章では、インターネット・SNS・スマートフォンとの関わりや、それらに対する意見の傾向を、保護者、教員、児童生徒の間で比較することを試みる。

具体的には、共通する質問がなされている項目について、保護者・教員・児童生徒の回答傾向を比べ、その違いを確認する。

比較する設問は次の表1の通りである。

前半は、インターネット・SNS・スマートフォンの利用に関する事実認識を訊ねる設問で、具体的には、「家庭での約束の遵守」・「フィルタリングの実施」・「詐欺サイトでの経験」・「身近なネットいじめの見聞き」・「スマホゲームによる時間の使いすぎ」・「スマホゲームによるお金の使いすぎ」・「スマホ等による寝不足」に関する自らの状況について回答を求めたものである。(実際の設問は表1を参照)。

後半は、インターネット・SNS・スマートフォンに対する意見を訊ねる設問で、具体的には、「インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念されると思う」・「子どもたちのコミュニケーション不足はインターネット社会と関係がある」・「子どもたちはインターネットを用いることで豊かな交友関係を広げていける」・「子どもたちがインターネットで様々な情報を得られることのメリットは大きい」の4つがこれに該当する。

なお、小学校3年生の場合、インターネット・SNS・スマートフォンの使用が限られており、欠損値も多いことから、これを分析から省いた。教員の場合は、学年が指定されておらず、小学校・中学校のみである。以上を踏まえ、小学5年生と中学2年生の児童生徒、

表1 比較する設問

	児童生徒	保護者	教員	
インターネット・SNS・スマートフォンに対する意見	家庭での約束の遵守	インターネットのつかい方について、家での約束を守っている	インターネットの使い方について、家で約束を守っている	—
	フィルタリングの実施	つかっているパソコン・スマートフォン・けいたいでんわ・タブレットに、フィルタリングを行っている	いつも使っている端末に対して、フィルタリングを行っている	—
	詐欺サイトでの経験	人をだますサイトで怖い思いをしたことがある	詐欺サイト等で怖い思いをしたことがある	(参考) 子どもたちがインターネットの犯罪に巻き込まれかねないかと不安に思うことがある
	身近なネットいじめの見聞き	ネットでのいじめを身近で、聞いたことがある	ネットでのいじめを身近で見聞きしたことがある	—
	スマホゲームによる時間の使いすぎ	スマートフォンのゲームで時間を使いすぎてしまう	スマートフォンのゲームで時間を使いすぎてしまう	(参考) スマホゲームやSNSによる生活習慣の乱れがある

インターネット・SNS・スマートフォンに対する意見	スマホゲームによるお金の使いすぎ	スマートフォンのゲームでお金を使いすぎてしまう	スマートフォンのゲームでお金を使いすぎてしまう	—
	スマホ等による寝不足	スマートフォンゲームやSNSで寝不足になることがある	スマートフォンのゲームやSNSで寝不足になることがある	—
	インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念されると思う	インターネットは、便利だけど、不安になることが多いと思う	インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念されると思う	インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念されると思う
	子どもたちのコミュニケーション不足はインターネット社会と関係がある	—	子どもたちのコミュニケーション不足はインターネット社会と関係がある	子どもたちのコミュニケーション不足はインターネット社会と関係がある
	子どもたちはインターネットを用いることで豊かな交友関係を広げていける	—	子どもたちはインターネットを用いることで豊かな交友関係を広げていける	子どもたちはインターネットを用いることで豊かな交友関係を広げていける
	子どもたちがインターネットで様々な情報を得られることのメリットは大きい	—	子どもたちがインターネットで様々な情報を得られることのメリットは大きい	子どもたちがインターネットで様々な情報を得られることのメリットは大きい

小学5年生と中学2年生の子を持つ保護者、小学校と中学校の教員をそれぞれ検討するものである。

2. インターネット・SNS・スマートフォンの利用に関する事実認識の比較（児童・生徒と保護者）

まず、インターネット・SNS・スマートフォンの利用に関する事実認識を訊ねる設問の結果を児童生徒と保護者で比較してみる。

表2に示したのは、それぞれの項目についての肯定的回答※の割合である。

最も、児童生徒と保護者との間で大きく数値が異なるのは、「スマホゲームによる時間の使いすぎ」で、児童生徒は小学5年生－中学2年生の順で、33.0%・38.6%であるものが、保護者ではそれぞれ43.3%・52.0%となっている。子ども自身の自覚よりも、保護者の方がその実態について厳しい認識を示している。なお、参考値として教員による「スマホゲームやSNSによる生活習慣の乱れがある」の回答を挙示すると、小学校では「とてもそう思う」が25.3%、「ある程度そう思う」が46.9%で、合わせて72.2%だった。これに対して中学校では、それぞれ49.4%と43.0%で、合わせて92.4%だった。こうしてみると、児童生徒自身による認識よりも保護者による認識のほうが厳しく、さらに家庭における認識より教師の認識のほうが厳しい傾向にあることが推察される。

次に差があったのは、「身近なネットいじめの見聞き」で、児童生徒は小学5年生－中学2年生の順で、12.8%・17.3%であるものが、保護者ではそれぞれ17.4%・23.9%となっている。

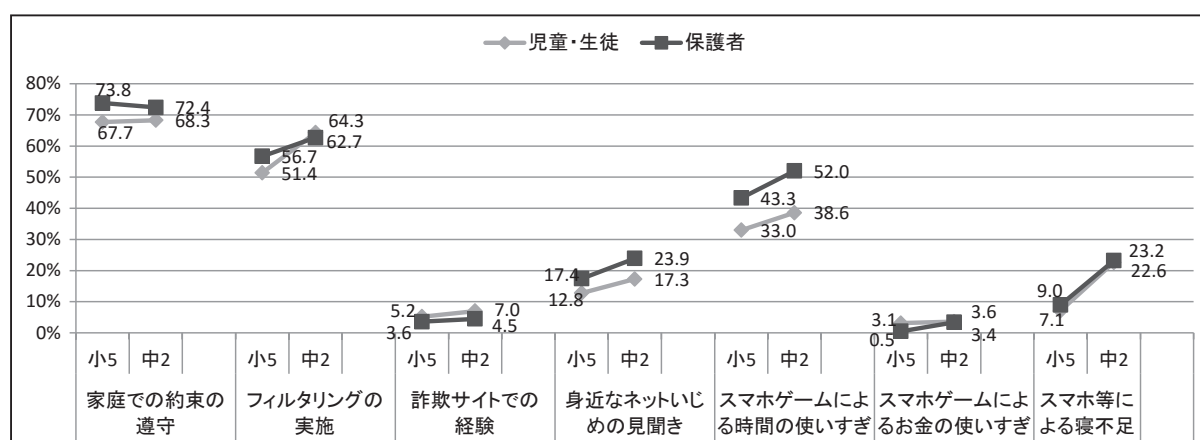
その他は、大きな認識の差は見られなかった。なお、「詐欺サイトでの経験」について、多少文言が異なるが、教員による「子どもたちがインターネットの犯罪に巻き込まれかねないかと不安に思うことがある」への回答を参考値として見た時、教員では小学校では84.4%・中学校では、92.2%が肯定的回答を示している。

3. インターネット・SNS・スマートフォンの利用に対する意見の比較（教員と保護者・児童生徒）

表2 インターネット・SNS・スマートフォンの利用に関する事実認識の比較

		児童・生徒	保護者
家庭での約束の遵守	小5	67.7	73.8
	中2	68.3	72.4
フィルタリングの実施	小5	51.4	56.7
	中2	64.3	62.7
詐欺サイトでの経験	小5	5.2	3.6
	中2	7.0	4.5
身近なネットいじめの見聞き	小5	12.8	17.4
	中2	17.3	23.9
スマホゲームによる時間の使いすぎ	小5	33.0	43.3
	中2	38.6	52.0
スマホゲームによるお金の使いすぎ	小5	3.1	0.5
	中2	3.6	3.4
スマホ等による寝不足	小5	7.1	9.0
	中2	22.6	23.2

図1 インターネット・SNS・スマートフォンの利用に関する事実認識の比較



次に、インターネット・SNS・スマートフォンの利用に対する意見を、教員と保護者で比較してみる。また、「インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念されると思う」については児童生徒の回答もあるため、比較に加える。

表3に示したのは、それぞれの項目についての肯定的回答の割合である。

最も、教員と保護者との間で大きく数値が異なるのは、「インターネットは、便利さよりは不安材料のほうが懸念される」で、教員は小学校5年生・中学校2年生の順で、44.1%・46.7%であるものが、保護者では小学校-中学校で47.8%・62.8%となっている。さらに、本問は子ども自身の回答もなされているのでこれを確認すると、小学校5年生・中学校2年生の順で、39.5%・44.9%となっている。こうして見ると、小学校5年生では

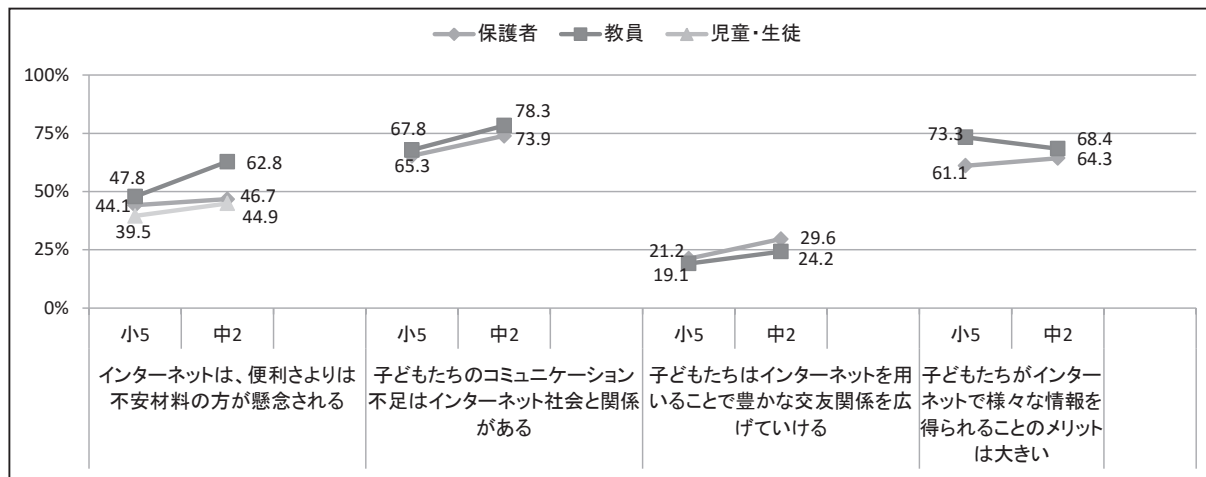
大きな違いはないものが、中学校における教員の懸念が強まってくる事が分かる。

こうした傾向は、「子どもたちがインターネットで様々な情報を得られることのメリットは大きい」という設問からも見て取れる。保護者では小学校5年生・中学校2年生の順で61.1%・64.3% 教員では小学校・中学校の順に73.3%・68.4%である。つまり、小学校教員においては、インターネットのメリットを7割以上の教員が感じており、保護者よりもその傾向が強かったが、中学校教員ではその程度が弱まり、肯定的回答が6割台にとどまっている。

表3 インターネット・SNS・スマートフォンの利用に対する意見の比較

		保護者	教員	児童・生徒
インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念される	小5	44.1	47.8	39.5
	中2	46.7	62.8	44.9
子どもたちのコミュニケーション不足はインターネット社会と関係がある	小5	65.3	67.8	—
	中2	73.9	78.3	—
子どもたちはインターネットを用いることで豊かな交友関係を広げていける	小5	21.2	19.1	—
	中2	29.6	24.2	—
子どもたちがインターネットで様々な情報を得られることのメリットは大きい	小5	61.1	73.3	—
	中2	64.3	68.4	—

図2 インターネット・SNS・スマートフォンの利用に対する意見の比較



註

※ 肯定的回答という時には、「とてもそう思う (当てはまる・あてはまる)」と「ある程度そう思う (少し当てはまる・少しあてはまる)」の割合を足した和を示している。

(仲田 康一)

特論1 児童生徒の学習自己評価

－「学校の勉強がよくできる」児童生徒の特徴－

はじめに

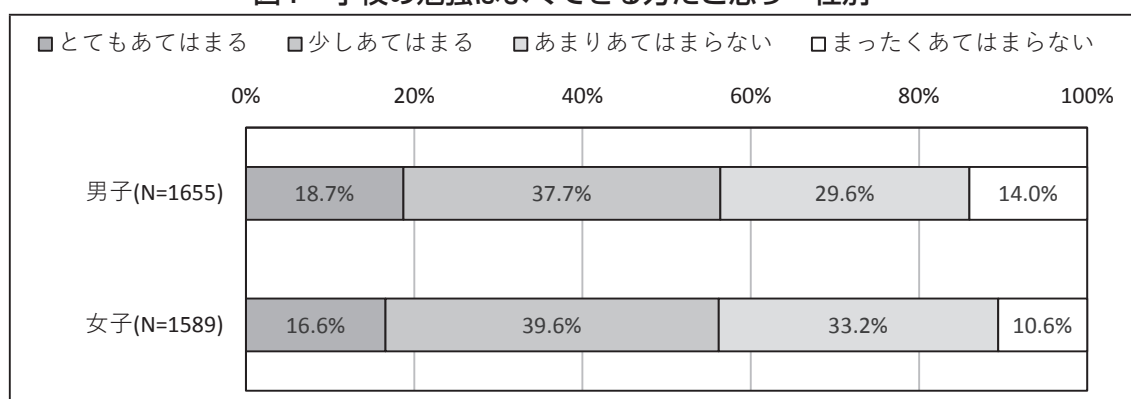
ここでは、児童生徒調査の質問のうち「学校の勉強はよくできる方である」の回答を取り上げて、この回答と他の変数を表す質問との関係を探ることによって、「学校の勉強がよくできる児童生徒」すなわち学習自己評価の高い子どもの特徴を描き出してみたい。ただし、この場合の学習自己評価はその「勉強がよくできる方」という一つの質問に依拠するという限界があることを予め断っておく。

1. 児童生徒の学習自己評価と属性－学習自己評価は男女差の影響を受けないが、学年進行と共に低下していく－

(1) 性別

まず、**図1**の性別では、「学校の勉強がよくできる方である」に対する「とてもあてはまる」の回答（勉強がよくできる児童生徒）は、男子18.7%・女子16.6%となり、女子の方が若干多いものの、両者間に有意差はない。これに「少しあてはまる」を加えると、ほとんど数値差がなくなる（男子74.8%・女子76.2%）。「まったくあてはまらない」は男子14.0%・女子10.6%となり、男子が女子を上回っている。そうは言っても、全体的に見れば、勉強ができるか否かについては性別による差が見出されなかった。

図1 学校の勉強はよくできる方だと思う－性別－



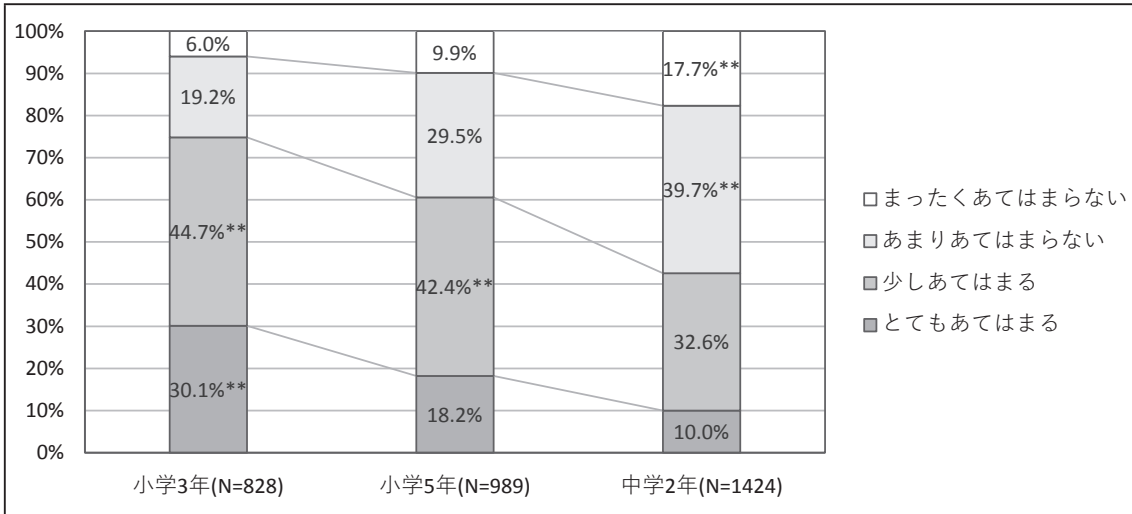
(2) 学年

図2の学年別では、「とてもあてはまる」が小学3年30.1%・小学5年18.2%・中学2年10.0%となり、学年進行に従って減少し、また「少しあてはまる」も同様に学年進行と共に減少している。これら「勉強ができる」の回答に対して、勉強ができないことを意味する「まったくあてはまらない」及び「あまりあてはまらない」は学年進行に従って数値が上昇していることが明確である。

ようするに、小学校の学年が上がり、さらに中学校になると、勉強ができないと認識す

る児童生徒が増えていく様子を読み取れるのである。

図2 学校の勉強はよくできる方だと思う—学年別—

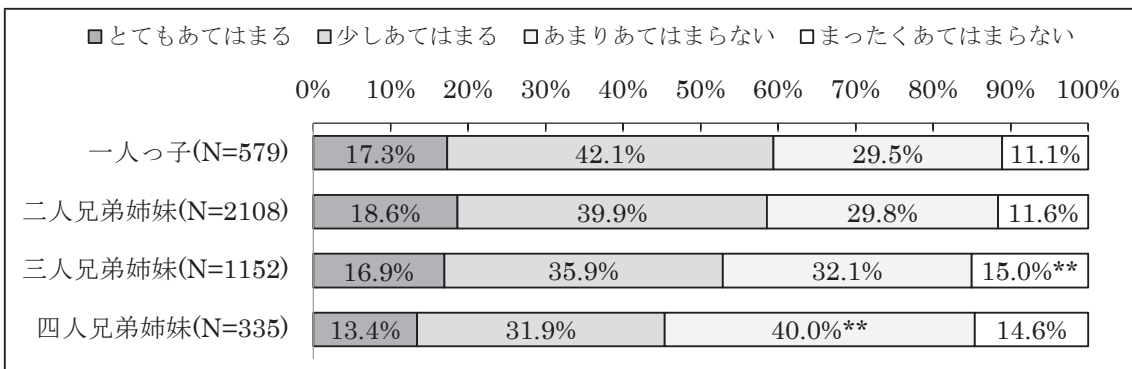


(3) 兄弟姉妹の数

児童生徒の兄弟姉妹の数で見ると、「とても当てはまる」は「一人っ子」(以下、人数のみを記す) 17.3%、「二人」18.6%、「三人」16.9%、「四人以上」13.4%となり、「二人」の数値が最も高い。「少しあてはまる」は「一人」42.1%、「二人」39.9%、「三人」35.9%、「四人」31.9%で、人数が多くなると数値が下がる傾向にある。これら二つの肯定的な回答の合計値は、「一人」と「二人」はほとんど差がなく、人数が3人以上になると減少している。「三人」は「まったくあてはまらない」(15.0%)が有意に高く(**p<.01)、「四人以上」では「あまりあてはまらない」(40.0%)が有意に高い(**p<.01)。「四人」は勉強ができる者よりも勉強ができない者の割合の方が高くなっている。

総じて言えば、「一人」及び「二人」の方がそれ以上の数よりも若干学習自己評価が良好だということになる。

図3 「学校の勉強はよくできる方」—兄弟姉妹数別—

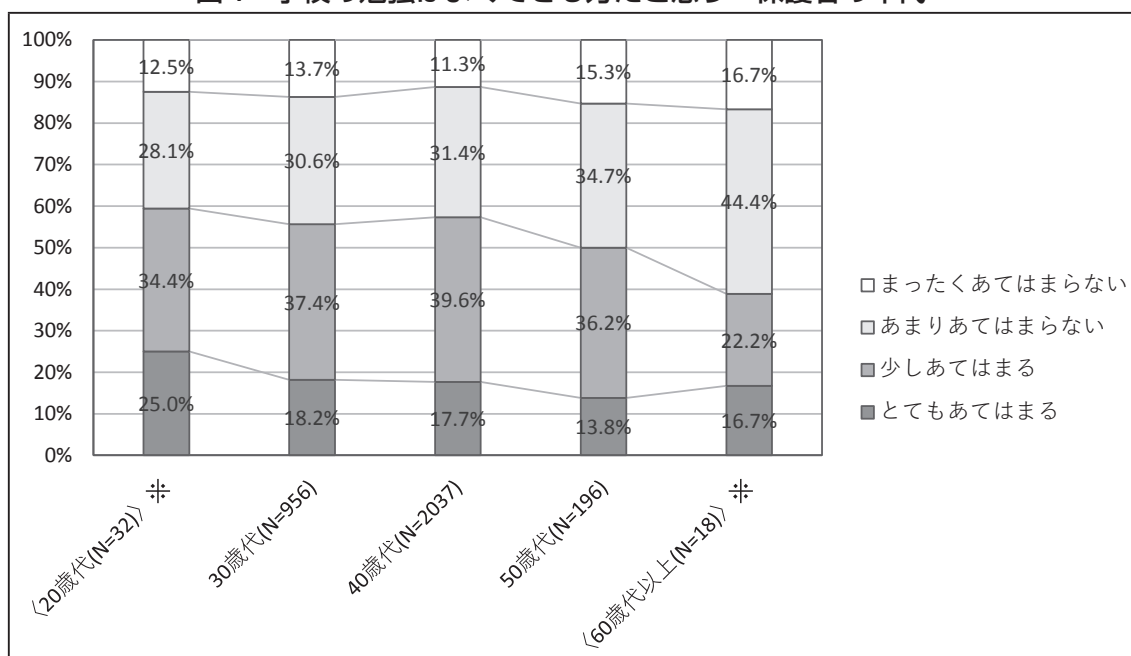


2. 児童生徒の学習自己評価と家庭環境・保護者－PTA 役員経験があり、保護者力が高いほど子の学習自己評価も高い－

(1) 保護者の年代

回答した児童生徒の保護者の年代を見ると、**図4**のようになり、「とてもあてはまる」は「30歳代」18.2%、「40歳代」17.7%、「50歳代」13.8%となり、「50歳代」の数値がやや低くなる。なお、「20歳代」と「60歳代以上」は人数（度数）が少ないため、参考値にとどまる。これに、「少し当てはまる」の数値を加えると、「40歳代」が高くなり、「50歳代」が下がるが、これらの数値間に有意差は見出されなかった。ただし、「50歳代」の数値が若干低くなるのは、わが子の育て方というよりも、中学生を抱える保護者の中心的年代であることが関係していることになる。

図4 学校の勉強はよくできる方だと思う－保護者の年代－



※度数（N）が少ないので、あくまでも参考値とする。

(2) 保護者のPTA役員経験

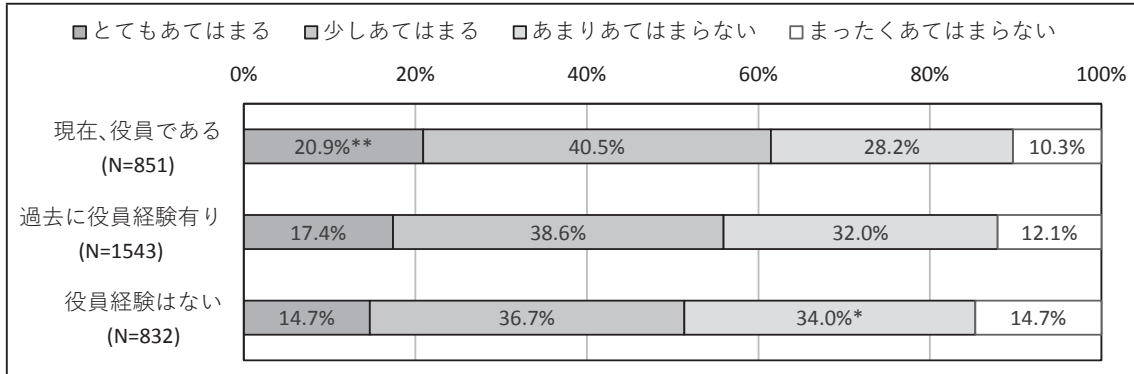
保護者の役員経験の有無等別に見ると（**図5**）、「学校の勉強がよくできる方」が「とてもあてはまる」は、「現在、役員である」20.9%、「過去に役員であった」17.4%、「役員経験はない」14.7%となり、現役のPTA役員の子は勉強がよくできると自認している者が他の保護者の子に比べて多い傾向にあり、検定結果でも有意に数値が高いことが認められた（**p<.01）。そして、「過去に役員」の数値が続き、「役員経験はない」という保護者の数値が最低になる。「少しあてはまる」も、現役員→過去に役員→役員経験なしの順に数値が低くなっている。

一方、「あまり当てはまらない」及び「まったくあてはまらない」はそれとは逆の傾向を見せ、現役員→過去に役員→役員経験なしの順に数値が高くなっていく。

以上の結果から、PTA役員経験がある保護者の子の方がいない保護者の子よりも勉強ができると認識している者が相対的に多いことがわかる。特に、現役員の子はそう認識す

る子が多い結果となった。おそらく、役員として学校に訪問することが多いため、学校情報を得る機会が豊富で、また学校や教育への関心が強まることがわが子の学習自己評価の高さに影響しているものと思われる。

図5 学校の勉強はよくできる方だと思う－保護者のPTA役員経験－



(3) 保護者力

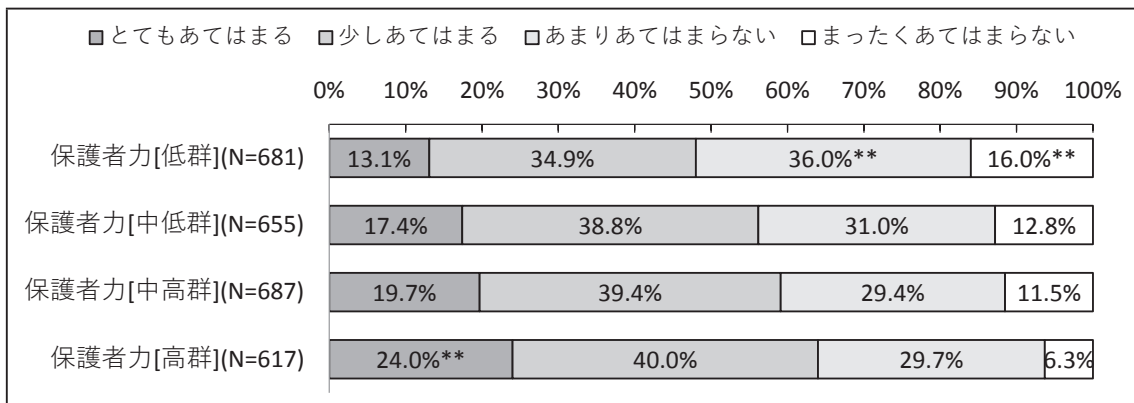
第23章で取り上げた「保護者力」と児童生徒の学習自己評価の関係はどうだろうか。

図6に示したように、保護者力が高い保護者の子ほど「とてもあてはまる」及び「少し当てはまる」という勉強ができると自認する者が多くなっている。「とてもあてはまる」は、保護者力[低群] 13.1%、[中低群] 17.4%、[中高群] 19.7%、[高群] 24.0%というように、保護者力の高まりに従って、徐々に数値が高くなっている。特に、[高群]の数値は有意に高いことか認められた (** $p < .01$)。「少し当てはまる」もそれに準じた傾向を示している。

一方、「あまりあてはまらない」及び「まったくあてはまらない」という勉強がよくできるとは認識していない児童生徒は、保護者力が高くなるにつれて減少していく。保護者力[低群]の「あまりあてはまらない」及び「まったくあてはまらない」の数値は有意に高いことが認められた (いずれも ** $p < .01$)。

日頃の「しつけ」やわが子との会話、自らの日常生活などが良好な保護者の子ほど学習自己評価が高い傾向にあると言える。その意味で、保護者の態度が子の学習成果に一定の影響を及ぼすものと推量できるのである。

図6 「学校の勉強はよくできる方」－保護者力別－



3. 児童生徒の学習自己評価と行動傾向－

自己行動認識が良好だと学習態度、そして学力にもプラスに影響していると考えるのは無理ではないだろう。そこで、児童生徒の学習時間、学習自己評価を取り上げて、自己行動認識やその他変数との関係进行分析してみよう。

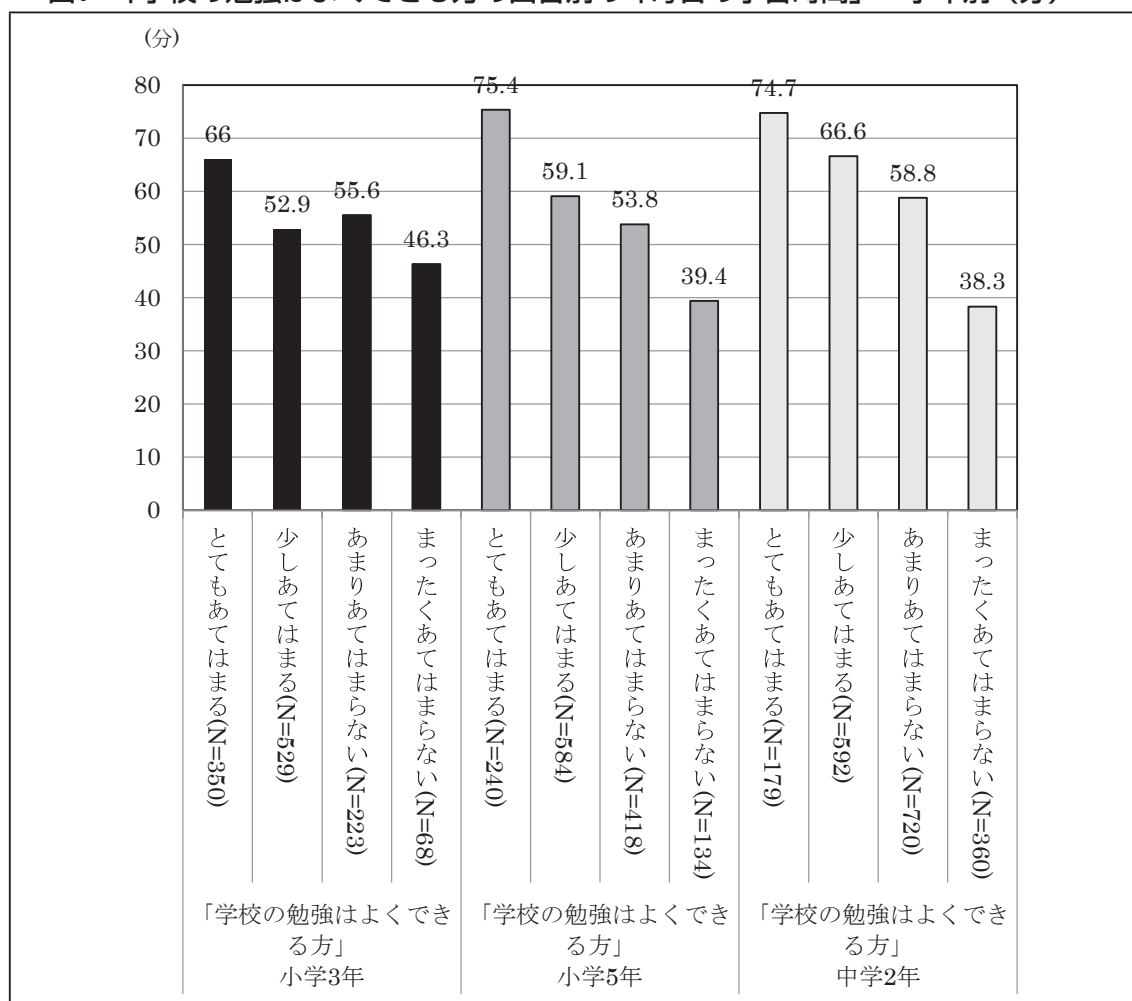
(1) 家庭学習時間と自己行動認識－学習自己評価が高く、自己行動認識が良好なほど家庭学習時間が長い－

まず、家庭学習時間と学習自己評価との関係を明らかにするために、家庭学習時間を以下のように数量化し、その平均値（分）を学習自己評価別に算出してみた。

- ・[30分くらい] =30分 ・[1時間くらい] =60分
- ・[2時間くらい] =120分 ・[3時間くらい] =180分

その結果が図7に示してあるが、その前に、図示していないが、学年別の平均値を見ると、小学校3年生 56.9分、小学校5年生 58.4分、中学校2年生 58.9分となり、時間数にほとんど差がない。ところが、学習自己評価別（「あてはまる」などの回答）に集計すると、小学校3年生の場合は、「とてもあてはまる」と「まったくあてはまらない」の数値差が19.7分と小さいのに対して、小学校5年生ではその数値差が36分に広がり、中学校2年生でも36.4分になる。

図7 「学校の勉強はよくできる方の回答別の「毎日の学習時間」－学年別（分）－



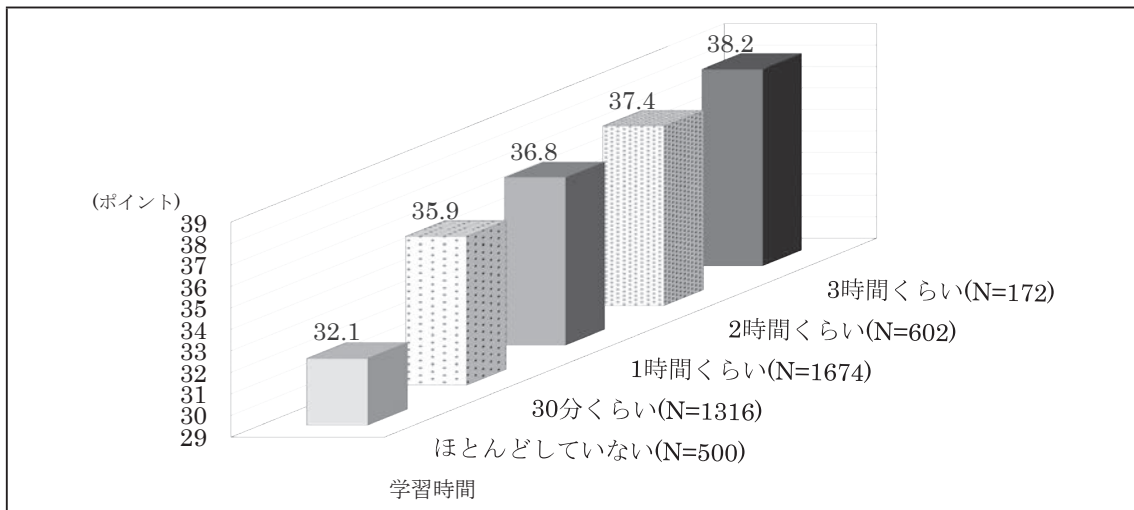
小学校3年生では学習自己評価と家庭学習時間との関係がやや弱い、小学校5年生と中学校5年生の場合にはその関係が明確に表れ、学習自己評価が低くなるほど家庭学習時間が短くなっているのである。つまり、小学校高学年辺りから、家庭学習時間の長さが学習自己評価に強く影響するようになり、この傾向は学年進行に従ってより明確になっていくことが考えられる。そうであれば、小学校低学年頃から家庭学習習慣を身につけさせることが「勉強ができる」ことにつながるものと推察できるのである。

つぎに、自己行動評価と家庭学習時間の長さの関係を探るために、家庭学習時間に関する質問の回答別の自己行動認識スコアの平均値を求めた(図8)。この図によると、家庭学習時間の手前から、「ほとんどしていない」32.1ポイント、「30分くらい」35.9ポイント、「1時間くらい」36.8ポイント、「2時間くらい」37.4ポイント、「3時間くらい」38.2ポイントとなり、家庭学習時間が長いほど自己行動認識スコアが高くなっている。

検定結果によると、「ほとんどしない」及び「30分から1時間くらい」は他の時間選択肢に比べて有意に低いことが認められた(** $p < .01$)。

家庭学習時間の長さとは自己行動認識とを因果関係で推定することは難しいが、小中学校に通う児童生徒にとって、家庭学習時間の短さが学習意欲の低さにつながると思えば、結果として自己肯定感(自己行動認識)が低くなる傾向にあると考えられるが、一方では、自己行動認識スコアが低いから学習にも意欲を持てず、学習に向かう時間が短くなるとも考えられる。おそらく、家庭学習時間と自己行動認識の在り方は相互作用の関係にあるものと思われるのである。そこで、次に児童生徒の学習自己評価(「学校の勉強はよくできる方だと思う」の回答)と自己行動認識との関係を取り上げることとする。

図8 学習時間と自己行動認識スコア



(2) 児童生徒の学習自己評価と自己行動認識 – 自己行動認識が良好なほど「勉強ができる」と思う傾向がある –

図9は、自己行動認識レベルの4カテゴリーと「学校の勉強はよくできる方だと思う」の回答をクロス集計した結果を表している。この場合、自己行動認識レベルのカテゴリーの前提となるスコアには「学校の勉強」の回答結果が含まれていることから、その回答を除外して改めてスコアを算出した結果をカテゴリー化している。なお、カテゴリー化は以

下の基準による行った。

- 自己行動認識 [低群] ≤ 30.0
- 自己行動認識 [中低群] 31.0 – 34.0
- 自己行動認識 [中高群] 35.0 – 37.0
- 自己行動認識 [高群] 38.0+

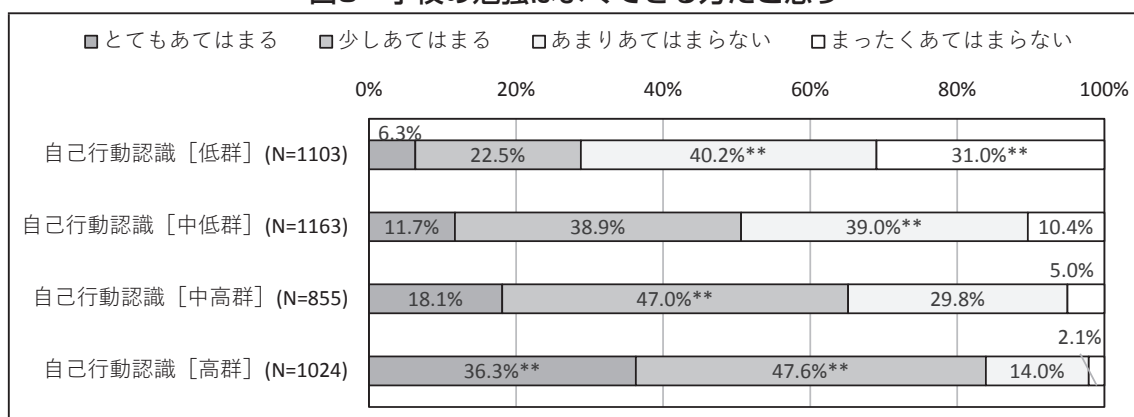
その結果、「とても当てはまる」（勉強はよくできる）の数値に注目すると、「自己行動認識 [低群]」6.3%、[中低群] 11.7%、[中高群] 18.1%、[高群] 36.3%となり、自己行動認識が[低] から [高] に向かうに従って数値が高くなっている。特に、[高群] になると、その数値は著しく上昇している。

一方、「まったくあてはまらない」（勉強はできない）の場合は、「自己行動認識 [低群]」31.0%、[中低群] 10.4%、[中高群] 5.0%、[高群] 2.1%と徐々に低下している。つまり、自己行動認識が良好になるほど「勉強ができない」者が減少する傾向にある。この場合、[低群] から [中低群] に向かうと数値が著しく減少している。

検定結果では、「自己行動認識 [低群]」×「あまりあてはまらない」及び「まったくあてはまらない」、「同 [中低群]」×「あまりあてはまらない」、「同 [中高群]」×「少し当てはまる」、「同 [高群]」×「とてもあてはまる」及び「少し当てはまる」は、その数値が有意に高いことが認められた (**p<.01)。

このように全体的に見ても、自己行動認識が良好（スコアが高い）になるほど勉強がよくできると自己評価する児童生徒が多くなり、反対に、自己行動認識が良好でなくなるにつれて（スコアが低い）、勉強でよくできないと自己評価する児童生徒が多くなるという結果になった。したがって、検定結果を見ても、自己行動認識と勉強の成績（自己評価としての）には比較的強い相関関係にあることがわかった。

図9 学校の勉強はよくできる方だと思う



4. 学習自己評価と「しかられ／ほめられ」度－「しかり」よりも「ほめ」が学習自己評価を高くする－

学習自己評価と大人からの「しかられ度」と「ほめられ度」との関係はどうであろうか。「しかられ度」と「ほめられ度」については第24章で述べてあるが、児童生徒調査の「7」

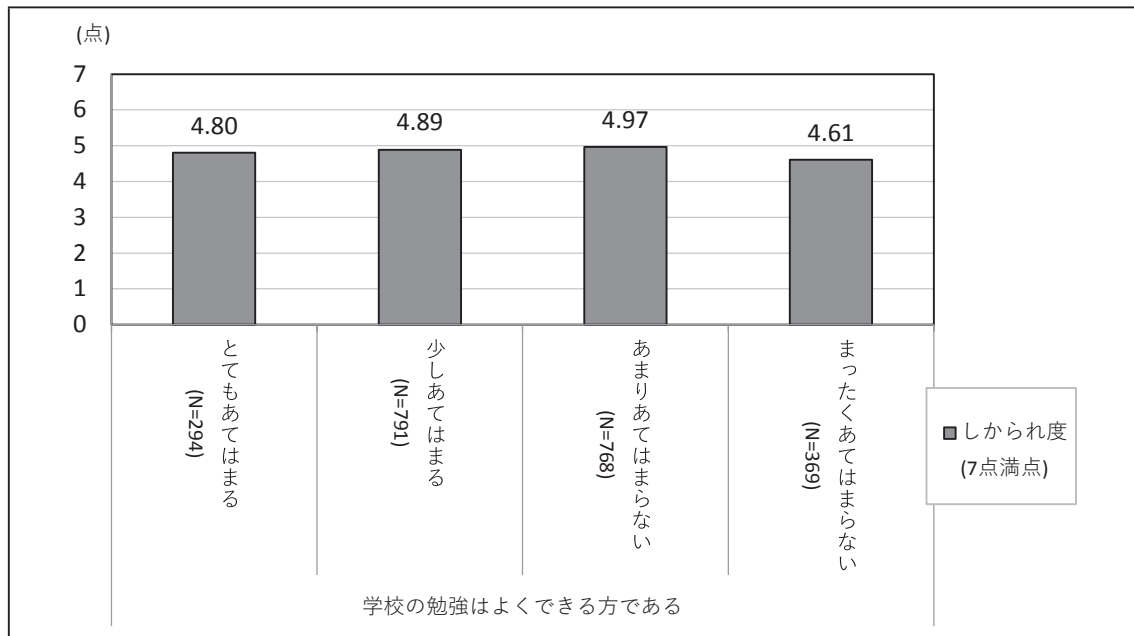
の7項目のそれぞれについて、「自分の親」「学校の先生」「近所の大人」のいずれかから叱られた場合には「1点」とし、合計7点満点で数量化したものである。なお、だれからも「言われぬ」場合は「0点」として処理した。「ほめられ度」については、調査票「8」の質問を用いて、「しかられ度」と同様の方法で数量化した。

(1) 学習自己評価別に見た「しかられ度」

まず、「しかられ度」から見ると(図10)、学習自己評価(「学校の勉強はよくできる方」の回答)の「とてもあてはまる」4.8点、「少しあてはまる」4.89点、「あまりあてはまらない」4.97点、「まったくあてはまらない」4.61点となり、学習自己評価の在り方による数値差がほとんどなく、検定結果でも非有意であった。

したがって、しかられることは勉強ができるか否かということには関係してないことがわかった。なお、「成績がさがる／あがる」時に「しかられる／ほめられる」か否かについては第2章(2)で取り上げてある。

図10 「学校の勉強はよくできる方」の回答別の「しかられ度」－7点満点－

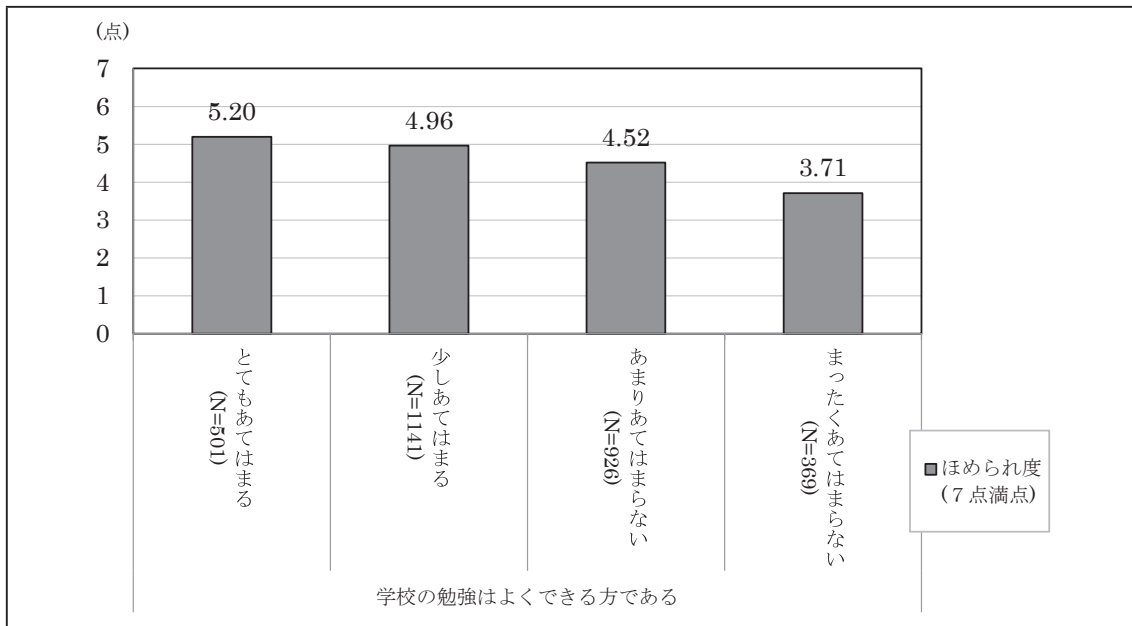


(2) 学習自己評価別に見た「ほめられ度」

一方、「ほめられ度」について図11に示したように、学習自己評価が低くなるに従って数値が下がる傾向にある。勉強がよくできるという「とてもあてはまる」は5.2点で、次いで「少しあてはまる」4.96点、「あまりあてはまらない」4.52点、「まったくあてはまらない」3.71点とわずかではあるが数値が徐々に低下している。

検定結果によると、「とてもあてはまる」と「少しあてはまる」との間には有意差が認められなかったが、この両者は「あまりあてはまらない」及び「まったくあてはまらない」に対して有意差が認められた(* $p < 0.5$)。したがって、子をほめることは学習向上につながる可能性があることから、「ほめるよりしかる」ことの方が学習にとっては有効だと言えそうである。

図11 「学校の勉強はよくできる方」の回答と「ほめられ度」－7点満点－

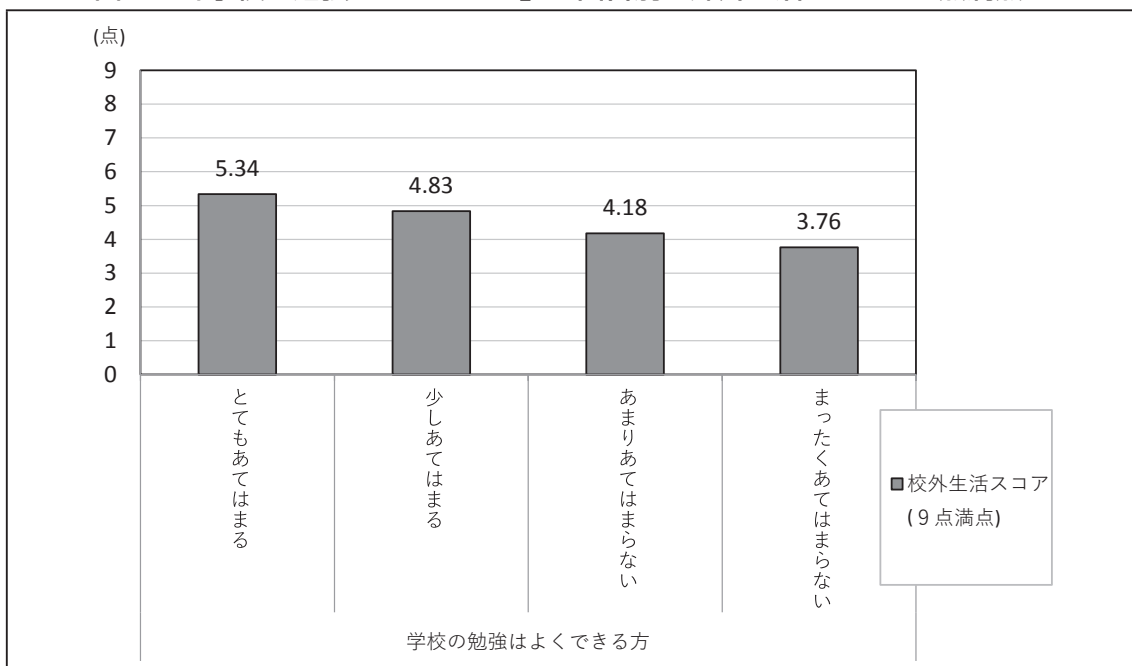


5. 学習自己評価と校外生活・IT活用状況

(1) 学習自己評価別に見た校外生活スコア

学習自己評価と校外生活との関係については、後者を数量化したスコアの平均値を算出することにした。図12に示したように、学習自己評価が低くなると校外生活スコアも低くなる。校外生活スコア平均値は、「とてもあてはまる」5.34点、「少しあてはまる」4.83点、「あまりあてはまらない」4.18点、「まったくあてはまらない」3.76点となる。これらいずれの項目（学習自己評価）間についても有意差が認められた (** $p < .01$)。

図12 「学校の勉強はよくできる」の回答別の校外生活スコア－9点満点－



このデータを見る限り、学習自己評価が高い児童生徒ほど、子ども会活動や公民館・図書館利用、地域行事への参加、異年齢者との校友や会話などを行う校外生活が豊かな実態にあると言える。したがって、校外生活の充実が児童生徒の学力向上を促す可能性が高いものと考えられるのである。

(2) 学習自己評価とインターネット利用状況

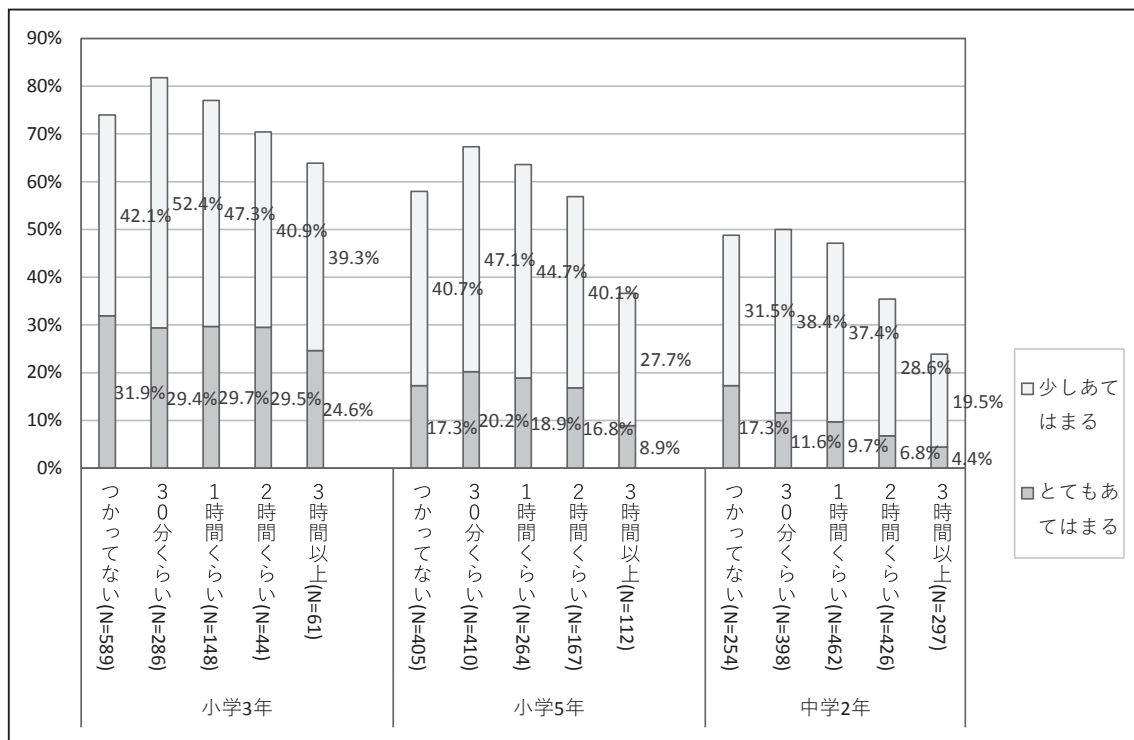
ITの利用は学力にどう影響するのであろうか。最後に、インターネットの利用状況別に学習自己評価の様子を分析してみることにしよう。

図13は、インターネット利用に関する回答別（及び学年別）に、学習自己評価に関する肯定的な回答（「とてもあてはまる」及び「少しあてはまる」）のみの数値（≒学力が高い）を示したものである。この図によると、すべての学年で「とてもあてはまる」+「少しあてはまる」の数値（学校の勉強はよくできる方である）は、「つかっていない」がやや低いが、「30分くらい」で最高に達し、以降インターネット利用時間が長くなるほど低下している。

このデータに限って言えば、学習自己評価の高さ≒学力の高さはインターネット利用30分程度で最もよく表れていると言える。つまり、30分程度利用している児童生徒には学力の高い者が最も多いことになる。30分から1時間程度の利用は学習に必要な情報収集を効率的にする可能性が考えられる。

しかし、その利用時間が2時間以上になると、学力が高い者が減少する傾向にあることから、インターネットの利用が過度だと学力の低下につながることを示唆されるのである。その理由として考えられるのは、インターネットの利用自体が学習に害をなすというよりも、その利用時間が家庭学習の時間を奪っていることであろう。因果関係を逆転して考えれば、学習自己評価が低く、学習に集中できないために、インターネットで「ネットサー

図13 平日のインターネット利用時間－学習自己評価別－



フィン」等を長時間にわたって行っていることも考えられる。

なお、「つかっていない」が「30分くらい」よりも数値が低いですが、これは学習に必要な情報の収集が限定されているのか、あるいはIT機器利用環境などを含んだ学習環境が整っていないことが理由だと考えられるが、定かなことは言えない。

ただし、中学校2年生の場合は、「とてもあてはまる」が17.3%と最も高く、以降、時間が長くなるほどその数値が低下している。中学2年生になると、受験勉強に集中するために、インターネット利用時間が短縮しているものと察せられる。

6. まとめ—おわりにかえて—

以上の結果をまとめると、おおよそ以下のようなになる。

第一に、児童生徒の学習自己評価は性別による差が見られないが、学年進行に従って低下する傾向にある。また兄弟姉妹数による著しい違いは見られなかったものの、1（一人っ子）～2人程度の方が良好で、4人以上になると良好な者がそうでない者の割合を下回る結果が得られた。

第二に、学習時間が長いほど児童生徒の自己行動認識が高く、また学習自己評価が高いほど毎日の家庭学習時間が長くなる傾向にある。反対に、自己評価が高いと学習自己評価が高いことも明らかになった。つまり、家庭学習時間の長さで自己行動評価及び学習自己評価はそれぞれある程度の相関関係にあることから、これらを因果と考える論理に基づいて言えば、学習時間が長く、自己行動評価が高いと児童生徒の学力が高くなることになるものと推量できるであろう。

第三に、児童生徒の学習自己評価は「しかられること」よりも「ほめられること」の有無が関係していることが明らかになった。学習自己評価が高い＝学力が高い児童生徒は「しかられること」よりも「ほめられる」ことの方が多いという結果が得られた。

第四に、学習自己評価の高さは校外生活の活発さに関係していることが見出された。子ども会活動や公民館などの社会教育施設の利用、地域行事への参加、異年齢者との触れ合いが豊富な児童生徒ほど学力が高い傾向にあることが明らかになったのである。

第五に、IT利用に関しては、インターネット利用時間が30分から1時間程度の児童生徒は学習自己評価が高い傾向が見出された。利用していない者はそれら利用時間の者よりも学習自己評価が若干低く、また2時間以上の利用者もその評価が低くなっている。インターネット利用自体が学習に害なすというよりも、その時間の長さが家庭学習時間を奪うこと、あるいは学習に集中できないためにインターネットを必要以上に用いていることがその背景として考えられる。

以上から、学力向上を図るためには、子どもの自己の行動認識を高め、家庭学習時間を長めに確保すると共に、「しかること」よりも「ほめること」を心がけ、校外生活を活発にし、さらにインターネットを適度に利用させることが大切だという示唆が得られたところである。

（佐藤 晴雄）

特論2 教職員調査における管理職と管理職以外の回答の比較考察

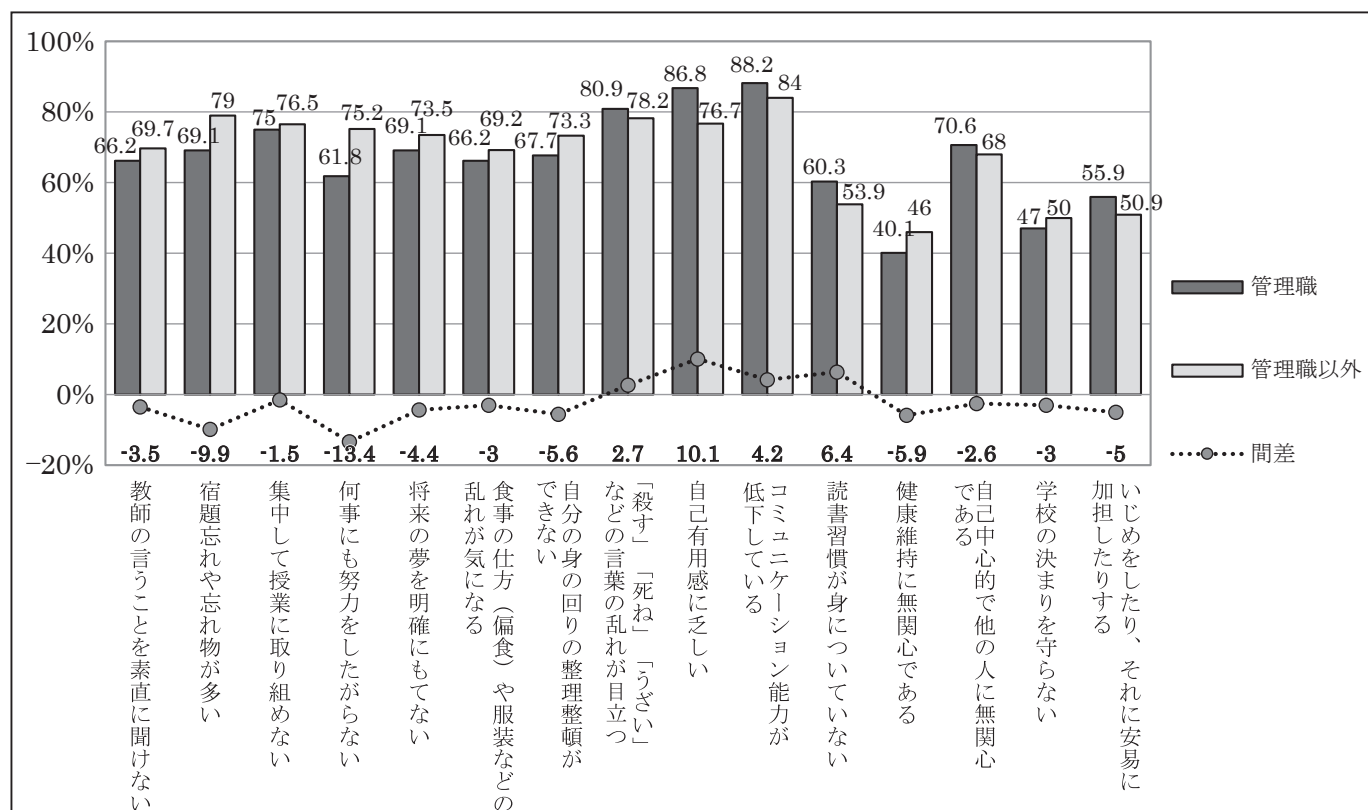
筆者は、第18章において教職員調査のうち、①あなたは日頃、次のような児童・生徒が、以前よりも増えているとお感じですか、②あなたが保護者のことで、日ごろ感じていることをお聞かせください、③あなたの勤務する学校のことやあなた自身のお考えをお教えてください、の3つの問いについて、調査結果の解説を行った。本章では、3つの問いを管理職と管理職以外のクロス集計を行い考察することとする。

1 「あなたは日頃、次のような児童・生徒が、以前よりも増えているとお感じですか」の結果

図1は、「あなたは日頃、次のような児童・生徒が、以前よりも増えているとお感じですか」の問いに対する、「とても感じる＋少し感じる」の肯定的回答の管理職と管理職以外のクロス集計の結果である。

15項目について「とても感じる＋少し感じる」の回答をみると、管理職以外の数字の方が高かったのが11項目で、後の4項目は管理職の方が高かった。回答の結果から、管理職と管理職以外の間差の大きなものを取り上げてみる。「何事にも努力をしない」の問いに関して、「とても感じる＋少し感じる」の回答をみると、管理職（61.8%）に対して管理職以外（75.2%）で、約13ポイントの開きがあり、管理職以外の方が強く感じている。この回答から、管理職よりは日ごろ児童生徒と直接に接している教員の方が無気

図1 児童・生徒のことで以前より感じていること「とても感じる」＋「少し感じる」の回答



力感を懸念している現実がみてとれる。一方、管理職の方が強く感じているのが、「自己有用感に乏しい」の問いである。「とても感じる＋少し感じる」の回答をみると、管理職（86.8%）に対して管理職以外（76.7%）で、約10ポイントの開きがあり管理職の方が強く感じていることがわかった。この「何事にも努力をしたがらない」と「自己有用感に乏しい」は関連性のある問いであり、管理職と管理職以外の児童生徒の見方の違いが興味深かった。管理職は、児童生徒が自己有用感を回復させようとして、何事にも努力すべきとの姿勢をもってしているとみていると感じた。一方、教員は、自己有用感の低下は感じないが、無気力な姿勢の児童生徒の実態があるとみているようだ。

2「あなたが保護者のことで、日ごろ感じていることをお聞かせください」の結果

図2は、「あなたが保護者のことで、日ごろ感じていることをお聞かせください」の問いに対する「とてもそう思う＋ある程度そう思う」の肯定的回答の管理職と管理職以外のクロス集計の結果である。

13項目について「とてもそう思う＋ある程度そう思う」の肯定的回答をみると、管理職以外の数字が高かったのが3項目で、後の10項目は管理職の方が高かった。13項目のうち5項目が、管理職と管理職以外の回答の間差が、10ポイント以上あり、両者の見解が異なる回答が目立ったといえる。「学校への保護者の苦情が増えた」と「学校に対する関心が低い」は、管理職以外の教員の方が、10ポイント以上高い。一方、「家族のきずなが弱くなっている」「保護者が過保護・過干渉になっている」「保護者が我が子の教育に自信をもてていない」は管理職の方が10ポイント以上高くなっている。

図2 保護者のことで感じること「とてもそう思う」＋「そう思う」の回答

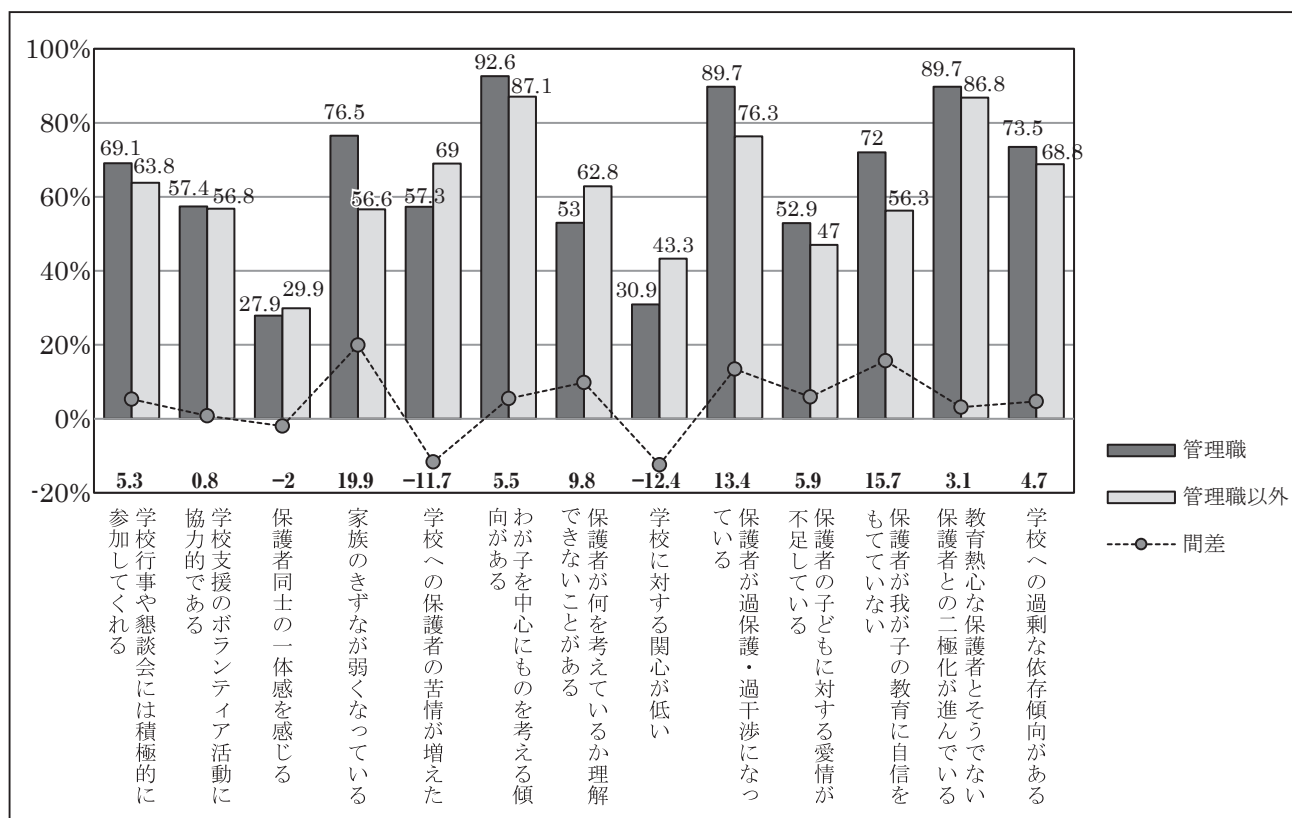
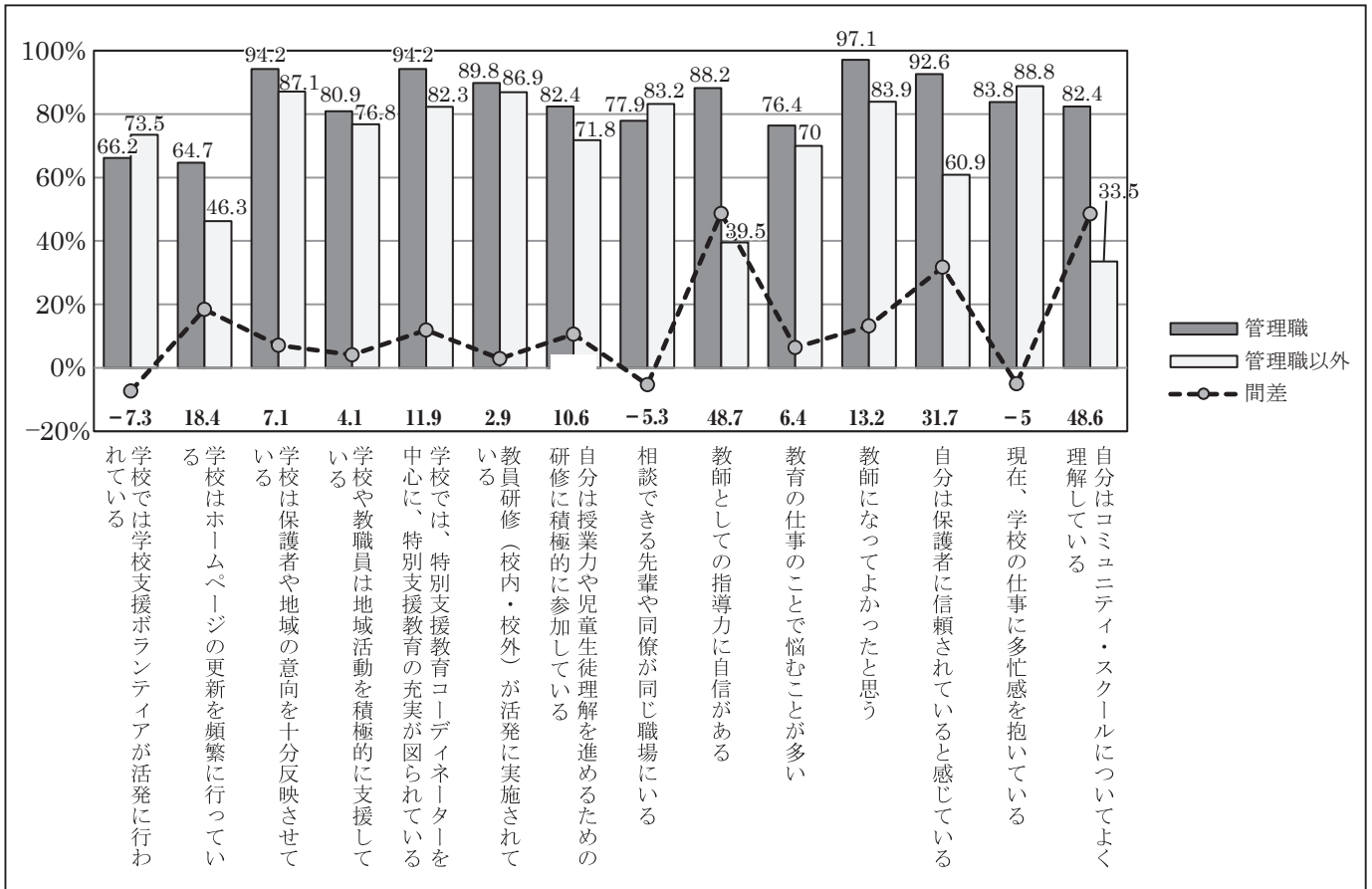


図3 勤務する学校やあなた自身のこと「とてもそう思う」+「そう思う」の回答



この設問で気になるのが、「保護者同士の一体感を感じる」の数字である。「とてもそう思う + ある程度そう思う」の回答が管理職（27.9%）、管理職以外（29.9%）とどちらも低い回答である。

自由回答の中に、「親同士の横のつながりが良好な学年は、子どもの学力、規範意識、自尊感情へ良い影響がある」「PTAが自発的に教育に悩む親を募って懇談会を開き、助言しあう場を設け、保護者同士のつながりを深めた」の記述があった。学校における家庭教育支援を考えたとき「保護者同士つながり」がキーワードとしてあげられるようだ。

3 「あなたの勤務する学校のことやあなた自身のお考えをお教えてください」の結果

図3は、「あなたの勤務する学校のことやあなた自身のお考えをお教えてください」の問いに対する「とてもそう思う + ある程度そう思う」の管理職と管理職以外のクロス集計の結果である。

14項目について「とてもそう思う + ある程度そう思う」の肯定的回答をみると、管理職以外の方が数字が高かったのが3項目で、後の11項目は管理職の方が高かった。管理職と管理職以外の回答の間差をみると、管理職以外が大きく上回った数字は見当たらなかった。逆に、管理職の方が、30ポイント以上数字が高かったのが3項目あった。ひとつめが「教師としての指導力に自信がある」で管理職（88.2%）に対して、管理職以外（39.5%）であった。

このことから、教員としてのキャリアを重ねることが自信につながる事がわかるが、同時に、職員室の高齢化が終わり、一気に若返った様子がわかる。ふたつめが「自分はコミュニティ・スクールについてよく理解している」で管理職（88.2%）に対して、管理職以外（39.5%）であった。この結果は、コミュニティ・スクール指定校か否かの区分はわからないが、未指定校の場合には、情報量の違いから当然の数字の開きととらえられる。最後が、「自分は保護者に信頼されていると感じている」で管理職（92.6%）に対して、管理職以外（60.9%）であった。この結果から、管理職の強い信念に基づき、信頼される学校づくりを行っている姿勢がうかがえる。管理職以外にも「教師としての指導力に自信がある」の問いの39.5%に比べれば、60.9%と妥当な数字ととらえたい。

現下の国及び自治体の家庭教育支援策は、学校を核とした地域づくりの観点から、学校運営協議会、学校支援地域本部、そして放課後子ども活動をまとめた方で事業を展開し、施策の相乗効果を高める方向である。家庭教育支援策は、従来から学習機会の提供、家庭教育に関する啓発資料の作成・配布、さらに家庭教育相談が主な内容であった。文部科学省のここ数年の傾向は、これまでの学習機会の提供に加えて、個々のケースに対応する家庭教育支援の組織化及びこのチームを起動させるための子育てサポーターリーダーの養成に力点を置いている。家庭教育支援チームは、臨床心理士や教員OBさらに保健師などでチームを構成し、そこに子育て支援ボランティアが参加して、地域性を生かした特色ある活動を行っている。

文部科学省の家庭教育施策に関するホームページで、この家庭教育支援チームの取り組みが紹介されている。中には、学校を活動の本拠地として保護者が気軽に集まれる子育てサロンのような事例が紹介されている。身近な場所で子育ての悩みや不安を解消できることも、家庭を取り巻く環境の変化に対応した支援策として重要であるといえる。

教職員調査結果のポイント

本調査における教職員の回答者数は898名である。教職員調査の設問趣旨は、学校やそこに勤務する教員が、どのように当該校の子どもや保護者、また地域を見ているか把握するとともに、家庭教育支援の方策を探るものである。

問1から12までの設問の中で、いくつか特徴的な結果を見出すことができた。前回調査との比較を含めながら、10のポイントにまとめた。

□ポイント1 しつけの役割分担意識

基本的な生活習慣や社会性に関するしつけについて、しつけをどこが行うべきかと実際にどこが行っているかを尋ねた。これは保護者と教職員の共通の設問である。この結果、保護者が家庭で行っていると回答したものを、教職員は学校で行っていると回答している方が多く、保護者と教職員の認識のズレが見られた。このことから、教職員には、自ら果たしている責務に対する自負心があると感じる。一方では、保護者が十分に役割を果たしていない不満や不信の表れともいえよう。

□ポイント2 児童・生徒の行動と意識の変化

学校における児童・生徒について以前との感じ方の違いを15項目で尋ねた。教職員全体で肯定的な回答の一番高かったのは、「コミュニケーション能力が低下している」(84.3%)である。学校種別でも、「コミュニケーション能力が低下している」が一番高い。ICTの普及とともに学校、家庭、地域の共通の課題である。「『殺す』『死ぬ』『うざい』などの言葉の乱れが目立つ」は、前回調査では肯定的な回答が87.9%であったが、今回は78.6%と9ポイント下がった。

□ポイント3 学校は保護者同士のつながりを期待

保護者のことで感じていることの項目の中で、肯定的な回答のうち極端に低いのが、「保護者同士の一体感を感じる」(29.8%)である。自由回答には、保護者同士のつながりを大切な要素であると考えている記述があり、そのつながりの効果として、学力面だけではなく、子どものしつけの面にも表れ、さらに教育活動全般について影響があると述べられている。

□ポイント4 勤務校のこと、自分の職業に対する意識

教職員が勤務する学校のことや教職員自身のことを、14項目について尋ねた。その結果、特徴的なことは「現在、学校の仕事に多忙感を抱いている」で、教職員全体としては肯定的な回答が88.4%であった。校種別では小学校(88.7%)、中学校(88.1)で若干小学校の方が高くなっている。前回調査に比べて、教職員歴が少ない教員が多いということがあり、前回とは少し趣きの異なる結果になった。特に、「教師としての指導力に自信がある」の肯定的な意見を、前回調査(55.7%)と比べ今回は43.2%と大きく下がった。

□ポイント5 ホームページの更新

「学校はホームページの更新を頻繁に行っている」の設問の肯定的な回答は、小学校(61.1%)に比べ中学校(34.6%)と大きく数字の差が出た。小学校は半数以上の学校で頻繁にホームページを更新し、保護者の期待に応えていることがわかる。一方、中学校は補習授業や部活動等の課外活動などの状況から時間が割けない事情がみられる。

□ポイント6 教職員と児童・生徒との会話

教職員と児童・生徒の会話について、8項目を4件法で尋ねた。この結果、肯定的な回答の中で一番多いのは、やはり「学校の出来事」(92.1%)で、次に、「学校の友達のこと」(86.3%)と続く。校種別の違いをみると、小学校の方が高いのは「児童・生徒の家庭の出来事」「児童・生徒の遊びや趣味」である。一方、中学校の方が高いのは「児童・生徒の夢や将来のこと」である。

□ポイント7 自宅学習や読書の必要性

児童・生徒の自宅学習や読書をどのくらい必要かを問う設問は次のような結果になった。読書は、校種別の差はほとんどなく、文字離れがいわれる中であって、約6割の教職員が

30分程度の読書時間が必要であると回答している。また、自宅学習は、学年進行により異なり、小学生では約6割の教職員が1時間程度は必要であると考えている。一方、中学生は、3時間以上が約7%といった数字があるなど、多少のバラツキがあるが、一番多いのは、2時間程度で約56%の教職員が必要であると考えている。

❑ポイント8 インターネットの利用

現下の子どもを取り巻く環境変化の大きな関心事のひとつである、子どもたちのパソコンやスマートフォンによるインターネットの利用について尋ねた。結論としては、SNSによる、子どもや教員の被害は少ないものの、便利さよりは不安材料があるにとらえていることがわかった。また、「インターネットで様々な情報を得られるメリット」の問いに関しては、肯定的な回答は教職員全体で約70%で、教育タブレットによる学習等ICTの一層の普及を視野に考えるとやや低いといえる。

❑ポイント9 保護者、地域からの苦情等

「保護者や地域からの苦情、要望や相談等について」の設問に関しては、平成26年度に保護者から苦情等を受けたのは57.5%に達し、多忙感の一因と考えたい。うち10回以上が14%になり、そのうち40回以上が6人ほどいた。苦情等への効果的な対応についての質問では、「『目安箱』等を設置した」「苦情担当の窓口や分掌を設けた」「相談窓口や相談日を設けた」等の意向や苦情を直接聴取する対応の実施率が低かった。クレーマーを見方につけるための積極策が求められるといえる。

❑ポイント10 自由記述回答の考察

回答者120名の自由記述の内容を18領域に分けた。中には記述内容が複数の領域にわたるものもあるので合計すると249になる。このうち43が家庭の責任に関する内容である。次に多いのが、保護者のしつけ方、学校の負担増と続く。こうした中で、社会の変化や価値観の多様化に伴い、例えば善悪の価値基準がゆらいでいるといった現実があるので、学校、家庭、地域の基準の共通化といった課題があるのではないかとの問題提起がみられた。

以上が、家庭教育に関する意識調査の教職員の要約である。前回調査は平成19年であり約10年の月日が経過した。この間、平成18年12月の教育基本法の改正により、学校、家庭、地域の連携に関する条文が制定されたことにより、様々な施策が立案・実施された。

家庭をめぐる環境の変化から、家庭教育の課題解決を家庭の責任と言い切ることはできない。学校を核とした地域づくりの観点から、学校運営協議会や地域学校協働本部、放課後子ども教室等の包括的な対応の中で、家庭教育支援策が求められる。

(堀越 幾男)

【資料】

- ① 児童生徒用調査票 / 児童生徒調査結果集計表
- ② 保護者用調査票 / 保護者調査結果集計表
- ③ 教職員用調査票 / 教職員調査結果集計表

3 あなたは、自分をどのような子どもや生徒だと思えますか。

あてはまるものを一つ選(えら)んで、その番号(ばんごう)を○でかこんでください。

とてもあ 少しあて あまりあて まったくあて
てはまる はまる はまらない はまらない

- | | | | | | |
|------|------------------------------|---|---|---|---|
| 3-1 | 親の言うことを素直(すなお)に聞く | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-2 | 先生の言うことを素直(すなお)に聞く | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-3 | 自分勝手(じぶんかって)な考えや行動(こうどう)をしない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-4 | 決められたルールはよく守(まも)る | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-5 | ともだちが多い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-6 | はじめての人ともすぐともだちになれる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-7 | 外でよく遊(あそ)ぶ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-8 | 早寝・早起き(はやね・はやおき)ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-9 | 自分のことは自分でできる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-10 | 学校の勉強はよくできる方だと思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-11 | 自分で進んで学習できる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-12 | 学校に行くのが楽しい | 1 | 2 | 3 | 4 |

4 あなたは、つぎのようなことを小学生や中学生がすることについて、どう思えますか。

あてはまるものを一つ選(えら)んで、その番号(ばんごう)を○でかこんでください。

ぜったいし あまりして ばあいによって かまわない
てはいけない はいけない はかまわない

- | | | | | | |
|-----|------------------------------|---|---|---|---|
| 4-1 | うそをつく | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4-2 | 学校を病気(びょうき)とかの理由(りゆう)がないのに休む | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4-3 | ゴミを道にすてる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4-4 | 掃除(そうじ)とうばんをさぼる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4-5 | 先生の言うことをきかない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4-6 | 親の言うことをきかない | 1 | 2 | 3 | 4 |

	ぜったいし てはいけない	あまりして はいけない	ばあいによって はかまわない	かまわない
4-7 人からあいさつされても、あいさつをしない	1 ———	2 ———	3 ———	4
4-8 ともだちをいじめる	1 ———	2 ———	3 ———	4
4-9 授業(じゅぎょう)中にさわぐ	1 ———	2 ———	3 ———	4
4-10 朝ねぼうをする	1 ———	2 ———	3 ———	4
4-11 宿題(しゅくだい)をしない	1 ———	2 ———	3 ———	4

5 あなたがつぎのようなことをしたら、だれからしかられると思いますか。
あてはまるものを一つ選(えら)んでください。

	自分の親	学校の先生	近所(きんじょ)の 大人(おとな)	いわれない
5-1 成績(せいせき)が下がった	1 ———	2 ———	3 ———	4
5-2 友だちとけんかをした	1 ———	2 ———	3 ———	4
5-3 うそをついた	1 ———	2 ———	3 ———	4
5-4 自分の身のまわりのかたづけをしなかった	1 ———	2 ———	3 ———	4
5-5 きちんとあいさつをしなかった	1 ———	2 ———	3 ———	4
5-6 約束(やくそく)やきまりを守(まも)らなかった	1 ———	2 ———	3 ———	4
5-7 いたずらをした	1 ———	2 ———	3 ———	4

6 あなたがつぎのようなことをしたら、だれからほめられると思いますか。
あてはまるものを一つ選(えら)んでください。

	自分の親	学校の先生	近所(きんじょ)の 大人(おとな)	いわれない
6-1 成績(せいせき)が上がった	1 ———	2 ———	3 ———	4
6-2 どんな友だちとも仲良く(なかよく)遊んだ	1 ———	2 ———	3 ———	4
6-3 悪いことをしたときに正直(しょうじき)に話した	1 ———	2 ———	3 ———	4
6-4 自分の身のまわりをきれいに整理(せいり)した	1 ———	2 ———	3 ———	4

【資料】① 児童生徒用調査票

	自分の親	学校の先生	近所(きんじょ)の 大人(おとな)	いわれない
6-5 あいさつをしっかりと	1	2	3	4
6-6 約束(やくそく)やきまりを守(まも)った	1	2	3	4
6-7 落ちているゴミをひろった	1	2	3	4

- 7 **あなたがつぎのようなことをしたら、実際(じっさい)にだれからしかられましたか。**
あてはまるものを一つ選(えら)んでください。
「したことがない」場合などは、答えないでください。

	自分の親	学校の先生	近所(きんじょ)の 大人(おとな)	いわれない
7-1 成績(せいせき)が下がった	1	2	3	4
7-2 友だちとけんかをした	1	2	3	4
7-3 うそをついた	1	2	3	4
7-4 自分の身のまわりのかたづけをしなかった	1	2	3	4
7-5 きちんとあいさつをしなかった	1	2	3	4
7-6 約束(やくそく)やきまりを守(まも)らなかった	1	2	3	4
7-7 いたずらをした	1	2	3	4

- 8 **あなたがつぎのようなことをしたら、実際(じっさい)にだれからほめられましたか。**
あてはまるものを一つ選(えら)んでください。
「したことがない」場合などは、答えないでください。

	自分の親	学校の先生	近所(きんじょ)の 大人(おとな)	いわれない
8-1 成績(せいせき)が上がった	1	2	3	4
8-2 どんな友だちとも仲良く(なかよく)遊んだ	1	2	3	4
8-3 悪いことをしたときに正直(しょうじき)に話した	1	2	3	4
8-4 自分の身のまわりをきれいに整理(せいり)した	1	2	3	4
8-5 あいさつをしっかりと	1	2	3	4

- 12 あなたと大人(おとな)の会話(かいわ)について教えてください。答えは、当てはまるマスがあれば、その中に○を書いてください。○はいくつ書いてもかまいません。

■ 答え方の例(れい)

	1. 先生に話している	2. 家の人に話している	3. 近所(きんじょ)のおとなの人に話している	4. 話していない
12-1 学校のこと	○	○		
12-2 家族(かぞく)のこと	○	○	○	

つぎのマスの中に○を書いてください。

	1. 先生に話している	2. 家の人に話している	3. 近所(きんじょ)のおとなの人に話している	4. 話していない
12-1 学校のこと				
12-2 家族(かぞく)のこと				
12-3 家の近くのできごと(ちいきのこと)				
12-4 友達(ともだち)のこと				
12-5 勉強(べんきょう)のこと				
12-6 遊びのこと				
12-7 趣味(しゅみ)や自分の好きなこと				
12-8 自分の将来(しょうらい)のこと				
12-9 うれしかったこと				
12-10 困(こま)っていること				

- 13 あなたは、先週(せんしゅう)、家族(かぞく)と一緒に買い物や遊びに、何日行きましたか。

	日
--	---

- 14 あなたは、ふだんの日に、家族との人とどれくらい話をしますか。当てはまるものを一つ選んで、その番号を○でかこんでください。

- 1 30分より短い 2 30分～1時間くらい 3 1時間～2時間くらい
4 2時間～3時間くらい 5 3時間よりも長い

15 あなたは、毎日、家でどのくらい勉強をしていますか(塾(じゅく)の時間はのぞきます)。

- 1 30分くらい 2 1時間くらい 3 2時間くらい
4 3時間くらい 5 ほとんどしていない

16 あなたは、携帯電話(けいたいでんわ)やスマートフォンをつかっていますか。

自分(じぶん) 家族(かぞく) ひとにかり つかってい
のものを のものを使っ てつかって ない
つかっている ている いる

- 16-1 携帯電話(けいたいでんわ) 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
16-2 スマートフォン 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
16-3 タブレット 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
16-4 パソコン 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

17 あなたのパソコンやスマートフォン、インターネットについて質問(しつもん)します。
わからないものがある場合(ばあい)には、書かないでください。

とてもあ 少しあて あまりあて まったくあて
てはまる はまる はまらない はまらない

- 17-1 インターネットのつかい方について、家での
約束(やくそく)を守っている 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
17-2 つかっているパソコン・スマートフォン・けいた
いでんわ・タブレットに、フィルタリングを行っ
ている(よくない情報(じょうほう)にアクセスでき
ないようにしていること) 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
17-3 人をだますサイトで怖い(こわい)思いをしたこと
がある 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
17-4 ネットでのいじめを身近(みじか)で、聞(き)いた
ことがある 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
17-5 スマートフォンのゲームで時間を使いすぎて
しまう 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
17-6 スマートフォンのゲームでお金を使いすぎて
しまう 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
17-7 スマートフォンゲームやSNSで寝不足(ねぶそく)
になることがある
※SNSとは、ラインやフェースブック、ミクシー
などのこと 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
17-8 インターネットは、便利(べんり)だけど、不安
(ふあん)になることが多いと思う 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

【資料】① 児童生徒用調査票

- | | とてもあ
てはまる | 少しあて
はまる | あまりあて
はまらない | まったくあて
はまらない |
|--|--------------|-------------|----------------|-----------------|
| 17-9 自分(じぶん)の書き込みへのコメントが気になる | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 |
| 17-10 メッセージやメールをやりあっていないと不安
(ふあん)になる | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 |
| 17-11 SNSをつねにチェックしないと仲間(なかま)
はずれにされているような気がする | 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 |

18 あなたの平日(1日)のインターネットの利用時間(りょうじかん)を教えてください。

- 1 つかっていない 2 30分くらい 3 1時間くらい
4 2時間くらい 5 3時間以上

これで終わりです。

ご協力(きょうりょく)ありがとうございました。

— 児童生徒用調査結果集計表 —

実数(人)		小学3年	小学5年	中学2年	合計	
1. あなたのことに ついて質問(しつもん) します。	1-1. あなたの性別(せいべつ)はどちらですか	男	51.3%	52.1%	50.6%	51.3%
		女	48.7%	47.9%	49.4%	48.7%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	1-3. あなたは何人きょうだいですか	1人	14.7%	14.1%	13.0%	13.8%
		2人	50.2%	50.1%	50.2%	50.2%
		3人	27.1%	27.7%	28.5%	27.9%
		4人	6.1%	5.7%	6.2%	6.0%
		5人	1.1%	1.5%	1.6%	1.4%
		6人	0.5%	0.4%	0.3%	0.4%
		7人	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%
		8人	0.2%	0.2%	0.0%	0.1%
		11	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
1-4. おじいちゃんやおばあちゃんと一緒(いっしょ)に住んでいますか	はい	19.2%	21.5%	26.1%	22.8%	
	いいえ	80.8%	78.5%	73.9%	77.2%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
2. あなたは、つぎの ようなことを、だれか らよくいわれますか。	2-1. よいことと、わるいことを考え(かんがえ)なさい	自分の親	55.5%	55.9%	47.3%	52.2%
		学校の先生	11.2%	16.4%	23.8%	18.1%
		近所の大人	1.2%	0.6%	0.2%	0.6%
		いわれない	30.2%	26.2%	27.9%	28.0%
		無回答	1.8%	0.9%	0.9%	1.1%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	2-2. ともだちの気持ち(きもち)を思いやりなさい	自分の親	35.6%	35.2%	34.9%	35.2%
		学校の先生	16.7%	22.6%	24.6%	21.8%
		近所の大人	1.4%	0.9%	0.3%	0.8%
		いわれない	44.9%	40.3%	39.3%	41.1%
		無回答	1.5%	1.1%	1.0%	1.1%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	2-3. あぶない遊(あそ)びをしてはいけません	自分の親	42.8%	40.5%	40.7%	41.2%
		学校の先生	20.9%	30.2%	28.2%	26.9%
		近所の大人	3.6%	2.3%	0.7%	2.0%
		いわれない	31.0%	25.6%	29.5%	28.7%
		無回答	1.6%	1.4%	0.9%	1.2%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	2-4. いじめをしてはいけません	自分の親	34.7%	27.8%	25.9%	28.9%
		学校の先生	28.7%	44.1%	50.4%	42.5%
		近所の大人	0.7%	0.4%	0.1%	0.3%
		いわれない	33.6%	26.4%	22.2%	26.6%
		無回答	2.4%	1.4%	1.4%	1.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	2-5. 社会(しゃかい)のきまりをまもりなさい	自分の親	27.4%	31.4%	36.1%	32.3%
		学校の先生	21.8%	23.1%	30.4%	25.8%
		近所の大人	2.0%	1.2%	0.7%	1.2%
		いわれない	46.8%	42.5%	31.5%	39.1%
		無回答	2.0%	1.8%	1.2%	1.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	2-6. みんなのために自分のできることをしなさい	自分の親	30.5%	25.0%	22.1%	25.3%
		学校の先生	30.0%	38.4%	42.6%	37.8%
		近所の大人	1.6%	0.9%	0.4%	0.9%
		いわれない	35.8%	33.9%	34.0%	34.5%
		無回答	2.0%	1.9%	1.0%	1.5%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	2-7. ほしい物ややりたいことがあっても、がまんしなさい	自分の親	64.5%	57.8%	47.7%	55.4%
		学校の先生	1.9%	2.9%	2.9%	2.6%
		近所の大人	1.4%	0.6%	0.3%	0.7%
		いわれない	30.5%	37.7%	48.6%	40.3%
		無回答	1.8%	0.9%	0.5%	1.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	2-8. どんな大人(おとな)になりたいかを考えなさい	自分の親	27.3%	27.8%	32.4%	29.5%
		学校の先生	5.5%	9.3%	17.2%	11.6%
		近所の大人	1.1%	0.8%	0.3%	0.7%
		いわれない	64.7%	61.1%	49.5%	57.3%
		無回答	1.3%	1.1%	0.6%	1.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

【資料】児童生徒調査結果集計表

3. あなたは、自分をどのような子どもや生徒だと思いますか。	3-1. 親の言うことを素直(すなお)に聞く	とてもあてはまる	24.6%	14.7%	13.9%	17.0%
		少しあてはまる	54.3%	56.3%	54.7%	55.1%
		あまりあてはまらない	16.1%	26.0%	26.9%	23.7%
		まったくあてはまらない	4.0%	2.8%	4.2%	3.7%
		無回答	1.0%	0.2%	0.3%	0.5%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	3-2. 先生の言うことを素直(すなお)に聞く	とてもあてはまる	53.7%	35.4%	34.4%	40.0%
		少しあてはまる	35.9%	51.8%	51.0%	47.1%
		あまりあてはまらない	6.8%	10.7%	10.9%	9.8%
		まったくあてはまらない	2.0%	1.4%	3.3%	2.4%
		無回答	1.6%	0.6%	0.3%	0.8%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-3. 自分勝手(じぶんかって)な考えや行動(こうどう)をしない	とてもあてはまる	36.0%	20.4%	20.9%	24.9%	
	少しあてはまる	36.3%	49.5%	56.8%	48.9%	
	あまりあてはまらない	16.4%	24.3%	18.7%	19.8%	
	まったくあてはまらない	9.3%	5.1%	3.1%	5.4%	
	無回答	2.0%	0.8%	0.5%	1.0%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
3-4. 決められたルールはよく守(まも)る	とてもあてはまる	52.0%	32.7%	38.0%	40.2%	
	少しあてはまる	35.1%	49.4%	49.4%	45.5%	
	あまりあてはまらない	9.0%	15.8%	10.1%	11.6%	
	まったくあてはまらない	2.5%	1.4%	1.9%	1.9%	
	無回答	1.3%	0.6%	0.6%	0.8%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
3-5. ともだちが多い	とてもあてはまる	74.1%	64.4%	38.8%	56.4%	
	少しあてはまる	14.3%	24.3%	42.6%	29.2%	
	あまりあてはまらない	7.2%	8.0%	14.6%	10.5%	
	まったくあてはまらない	3.1%	2.5%	3.7%	3.2%	
	無回答	1.4%	0.7%	0.3%	0.7%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
3-6. はじめての人ともすぐともだちになれる	とてもあてはまる	53.0%	43.8%	30.8%	40.9%	
	少しあてはまる	25.4%	29.9%	33.4%	30.1%	
	あまりあてはまらない	12.0%	19.8%	25.3%	19.9%	
	まったくあてはまらない	7.7%	5.6%	10.3%	8.1%	
	無回答	1.9%	0.9%	0.3%	0.9%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
3-7. 外でよく遊(あそ)ぶ	とてもあてはまる	53.4%	46.9%	30.1%	41.7%	
	少しあてはまる	24.8%	26.8%	29.2%	27.3%	
	あまりあてはまらない	12.2%	18.8%	27.6%	20.7%	
	まったくあてはまらない	8.0%	6.4%	12.7%	9.5%	
	無回答	1.6%	1.1%	0.4%	0.9%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
3-8. 早寝・早起(はやね・はやおき)ができる	とてもあてはまる	32.9%	25.1%	22.7%	26.2%	
	少しあてはまる	37.1%	37.2%	28.6%	33.6%	
	あまりあてはまらない	19.2%	26.0%	33.0%	27.1%	
	まったくあてはまらない	9.4%	11.0%	15.5%	12.5%	
	無回答	1.4%	0.6%	0.3%	0.7%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
3-9. 自分のことは自分でできる	とてもあてはまる	39.9%	34.9%	36.0%	36.7%	
	少しあてはまる	42.8%	46.8%	46.4%	45.6%	
	あまりあてはまらない	13.4%	14.9%	14.8%	14.5%	
	まったくあてはまらない	2.4%	2.1%	2.2%	2.3%	
	無回答	1.4%	1.3%	0.5%	1.0%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
3-10. 学校の勉強はよくできる方だと思う	とてもあてはまる	29.2%	17.4%	9.6%	17.4%	
	少しあてはまる	44.0%	42.2%	31.8%	38.3%	
	あまりあてはまらない	19.2%	30.2%	38.8%	30.8%	
	まったくあてはまらない	5.9%	9.7%	19.5%	12.7%	
	無回答	1.8%	0.5%	0.4%	0.8%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
3-11. 自分で進んで学習できる	とてもあてはまる	32.7%	20.2%	13.7%	20.9%	
	少しあてはまる	39.1%	40.5%	32.0%	36.6%	
	あまりあてはまらない	20.5%	30.4%	37.4%	30.6%	
	まったくあてはまらない	5.7%	7.9%	16.6%	10.9%	
	無回答	2.0%	1.0%	0.4%	1.0%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
3-12. 学校に行くのが楽しい	とてもあてはまる	57.2%	43.5%	37.0%	44.5%	
	少しあてはまる	23.5%	33.3%	37.9%	32.5%	
	あまりあてはまらない	12.6%	14.4%	16.1%	14.6%	
	まったくあてはまらない	5.9%	8.3%	8.8%	7.8%	
	無回答	0.9%	0.5%	0.2%	0.5%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

4. あなたは、つぎのようなことを小学生や中学生がすることについて、どう思いますか。	4-1. うそをつく	ぜったいしてはいけない	70.4%	39.5%	23.9%	41.4%
		あまりしてはいけない	21.1%	37.6%	32.9%	31.1%
		ばあいによってはかまわない	6.8%	21.8%	40.0%	25.3%
		かまわない	0.9%	0.8%	3.2%	1.8%
		無回答	0.8%	0.4%	0.1%	0.4%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	4-2. 学校にいきたくないで休む	ぜったいしてはいけない	84.7%	69.0%	44.7%	63.2%
		あまりしてはいけない	9.4%	18.8%	32.2%	21.8%
		ばあいによってはかまわない	3.7%	9.8%	18.1%	11.6%
		かまわない	1.1%	1.9%	4.7%	2.9%
		無回答	1.1%	0.5%	0.3%	0.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
4-3. ゴミを道にすてる	ぜったいしてはいけない	90.2%	84.3%	75.9%	82.4%	
	あまりしてはいけない	6.4%	13.0%	19.4%	13.9%	
	ばあいによってはかまわない	1.3%	1.4%	2.6%	1.9%	
	かまわない	1.1%	0.9%	1.7%	1.3%	
	無回答	1.0%	0.5%	0.4%	0.6%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
4-4. 掃除(そうじ)とうばんの日に掃除をしない	ぜったいしてはいけない	86.2%	68.3%	56.4%	68.2%	
	あまりしてはいけない	10.1%	25.3%	32.1%	24.0%	
	ばあいによってはかまわない	2.1%	5.3%	9.0%	6.0%	
	かまわない	0.8%	0.6%	2.3%	1.4%	
	無回答	0.7%	0.5%	0.2%	0.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
4-5. 先生の言うことをきかない	ぜったいしてはいけない	88.2%	71.0%	50.2%	67.0%	
	あまりしてはいけない	8.1%	22.5%	35.5%	24.0%	
	ばあいによってはかまわない	1.9%	4.8%	11.2%	6.7%	
	かまわない	0.8%	1.0%	2.7%	1.7%	
	無回答	1.0%	0.8%	0.4%	0.7%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
4-6. 親の言うことをきかない	ぜったいしてはいけない	78.1%	64.5%	40.5%	58.2%	
	あまりしてはいけない	16.3%	27.5%	40.6%	29.9%	
	ばあいによってはかまわない	4.0%	5.8%	15.8%	9.5%	
	かまわない	0.9%	1.9%	2.8%	2.0%	
	無回答	0.7%	0.3%	0.3%	0.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
4-7. 人からあいさつされても、あいさつをしない	ぜったいしてはいけない	75.5%	63.8%	63.3%	66.8%	
	あまりしてはいけない	19.7%	31.0%	29.8%	27.4%	
	ばあいによってはかまわない	3.1%	4.1%	5.1%	4.2%	
	かまわない	1.0%	0.9%	1.6%	1.2%	
	無回答	0.7%	0.3%	0.2%	0.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
4-8. ともだちをいじめる	ぜったいしてはいけない	91.6%	90.9%	88.6%	90.1%	
	あまりしてはいけない	5.7%	7.0%	8.2%	7.1%	
	ばあいによってはかまわない	1.6%	1.2%	1.8%	1.6%	
	かまわない	0.3%	0.6%	1.2%	0.8%	
	無回答	0.7%	0.3%	0.2%	0.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
4-9. 授業(じゅぎょう)中にさわぐ	ぜったいしてはいけない	84.1%	60.9%	47.3%	61.6%	
	あまりしてはいけない	11.8%	31.5%	39.2%	29.3%	
	ばあいによってはかまわない	2.1%	6.1%	10.7%	6.9%	
	かまわない	0.7%	0.9%	2.6%	1.6%	
	無回答	1.2%	0.6%	0.2%	0.6%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
4-10. 朝ねぼうをする	ぜったいしてはいけない	52.4%	35.1%	30.4%	37.9%	
	あまりしてはいけない	35.6%	47.9%	49.1%	45.1%	
	ばあいによってはかまわない	8.0%	12.3%	14.8%	12.2%	
	かまわない	2.6%	4.3%	5.3%	4.3%	
	無回答	1.5%	0.4%	0.3%	0.6%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
4-11. 宿題(しゅくだい)をしない	ぜったいしてはいけない	84.7%	67.6%	44.3%	62.6%	
	あまりしてはいけない	10.7%	22.8%	41.0%	27.1%	
	ばあいによってはかまわない	2.9%	7.8%	11.0%	7.8%	
	かまわない	0.8%	1.3%	3.5%	2.1%	
	無回答	0.9%	0.4%	0.3%	0.5%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

【資料】児童生徒調査結果集計表

5. あなたがつぎのようなことをしたら、だれからしかられると思いますか。	5-1.成績(せいせき)が下がった	自分の親	59.4%	62.6%	73.6%	66.3%
		学校の先生	2.4%	2.5%	3.6%	2.9%
		近所の大人	0.9%	0.6%	0.4%	0.6%
		いわれない	36.3%	34.0%	21.6%	29.4%
		無回答	1.1%	0.4%	0.8%	0.8%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	5-2.友だちとけんかをした	自分の親	42.4%	33.2%	23.6%	31.7%
		学校の先生	29.6%	35.9%	30.8%	32.1%
		近所の大人	1.7%	0.4%	0.3%	0.7%
		いわれない	24.4%	28.8%	44.2%	34.0%
		無回答	1.9%	1.6%	1.1%	1.5%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	5-3.うそをついた	自分の親	65.6%	67.5%	60.4%	64.0%
		学校の先生	12.4%	11.0%	12.0%	11.8%
		近所の大人	1.4%	0.6%	0.4%	0.7%
		いわれない	19.0%	19.1%	25.6%	21.8%
		無回答	1.6%	1.9%	1.5%	1.7%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	5-4.自分の身のまわりのかたづけをしなかった	自分の親	75.0%	79.6%	82.8%	79.6%
		学校の先生	8.4%	4.6%	2.3%	4.7%
		近所の大人	1.5%	0.7%	0.4%	0.8%
いわれない		13.8%	14.3%	13.8%	14.0%	
無回答		1.4%	0.8%	0.7%	0.9%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
5-5.きちんとあいさつをしなかった	自分の親	42.5%	37.2%	33.2%	37.0%	
	学校の先生	19.9%	30.4%	39.4%	31.3%	
	近所の大人	5.7%	5.9%	4.8%	5.4%	
	いわれない	30.0%	25.2%	21.3%	24.9%	
	無回答	2.0%	1.4%	1.3%	1.5%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
5-6.約束(やくそく)やきまりを守(まも)らなかった	自分の親	59.7%	62.3%	58.0%	59.8%	
	学校の先生	21.3%	24.3%	29.7%	25.7%	
	近所の大人	2.3%	0.9%	0.2%	1.0%	
	いわれない	15.1%	10.8%	10.8%	12.0%	
	無回答	1.6%	1.6%	1.2%	1.5%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
5-7.いたづらをした	自分の親	60.4%	56.2%	44.1%	52.3%	
	学校の先生	15.4%	20.9%	32.2%	24.1%	
	近所の大人	2.2%	2.8%	1.2%	2.0%	
	いわれない	20.0%	18.7%	21.1%	20.1%	
	無回答	2.0%	1.5%	1.3%	1.5%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
6. あなたがつぎのようなことをしたら、だれからほめられると思いますか。	6-1.成績(せいせき)が上がった	自分の親	85.2%	86.8%	82.6%	84.6%
		学校の先生	4.5%	3.1%	5.3%	4.4%
		近所の大人	1.5%	0.6%	0.5%	0.8%
		いわれない	7.2%	8.5%	10.0%	8.8%
		無回答	1.6%	1.1%	1.7%	1.5%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	6-2.どんな友だちとも仲良く(なかよく)遊んだ	自分の親	58.6%	51.0%	38.8%	48.0%
		学校の先生	13.2%	14.0%	13.7%	13.7%
		近所の大人	2.3%	1.9%	1.1%	1.7%
		いわれない	24.4%	32.0%	45.6%	35.6%
		無回答	1.5%	1.0%	0.7%	1.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	6-3.悪いことをしたときに正直(しょうじき)に話した	自分の親	54.7%	46.0%	37.0%	44.7%
		学校の先生	20.7%	20.7%	26.7%	23.2%
		近所の大人	1.4%	1.1%	0.4%	0.9%
		いわれない	21.5%	30.9%	35.0%	30.0%
		無回答	1.7%	1.2%	0.9%	1.2%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	6-4.自分の身のまわりをきれいに整理(せいり)した	自分の親	68.2%	69.3%	60.8%	65.4%
		学校の先生	9.2%	5.5%	4.0%	5.9%
		近所の大人	1.9%	1.2%	0.6%	1.1%
いわれない		19.6%	23.6%	33.8%	26.8%	
無回答		1.1%	0.5%	0.8%	0.8%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
6-5.あいさつをしっかりと	自分の親	43.0%	32.3%	19.5%	29.9%	
	学校の先生	21.7%	26.9%	32.2%	27.7%	
	近所の大人	9.4%	12.5%	12.9%	11.8%	
	いわれない	24.6%	26.9%	34.3%	29.4%	
	無回答	1.3%	1.4%	1.1%	1.2%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

6. あなたがつぎのよう なことをしたら、 だれからほめられる と思いますか。 (つづき)	6-6. 約束(やくそく)やきまりを守(まも)った	自分の親	55.4%	49.5%	36.2%	45.6%
		学校の先生	16.9%	20.1%	21.7%	19.9%
		近所の大人	1.8%	1.5%	0.5%	1.2%
		いわれない	24.6%	27.9%	40.5%	32.2%
		無回答	1.4%	1.0%	1.1%	1.1%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	6-7. 落ちているゴミをひろった	自分の親	39.4%	30.6%	18.3%	27.9%
		学校の先生	16.9%	19.4%	27.1%	21.9%
		近所の大人	13.0%	15.8%	17.7%	15.8%
		いわれない	29.2%	32.7%	35.6%	33.0%
無回答		1.5%	1.4%	1.3%	1.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
7. あなたがつぎのよ うなことをしたら、実 際(じっさい)にだれ からしられましたか。	7-1. 成績(せいせき)が下がった	自分の親	39.3%	47.2%	66.9%	53.2%
		学校の先生	1.5%	1.1%	1.8%	1.5%
		近所の大人	1.1%	0.2%	0.3%	0.5%
		いわれない	29.6%	35.2%	24.5%	29.2%
		無回答	28.4%	16.4%	6.5%	15.5%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	7-2. 友だちとけんかをした	自分の親	35.6%	30.6%	20.4%	27.7%
		学校の先生	17.1%	23.7%	18.6%	19.8%
		近所の大人	1.2%	0.3%	0.1%	0.5%
		いわれない	22.8%	27.6%	40.2%	31.5%
		無回答	23.3%	17.8%	20.6%	20.5%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	7-3. うそをついた	自分の親	53.7%	61.1%	50.5%	54.7%
		学校の先生	6.7%	5.7%	8.9%	7.3%
		近所の大人	1.1%	0.4%	0.4%	0.6%
		いわれない	16.7%	18.0%	24.8%	20.5%
		無回答	21.8%	14.7%	15.4%	17.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	7-4. 自分の身のまわりのかたづけをしなかった	自分の親	63.8%	70.9%	71.9%	69.4%
		学校の先生	3.8%	3.3%	2.3%	3.1%
		近所の大人	1.0%	0.4%	0.4%	0.6%
		いわれない	13.6%	14.0%	15.1%	14.4%
		無回答	17.8%	11.3%	10.3%	12.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	7-5. きちんとあいさつをしなかった	自分の親	29.2%	30.0%	26.2%	28.2%
		学校の先生	11.1%	15.8%	24.5%	18.1%
		近所の大人	3.6%	3.1%	1.3%	2.5%
		いわれない	24.8%	23.6%	24.2%	24.2%
無回答		31.3%	27.5%	23.8%	27.0%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
7-6. 約束(やくそく)やきまりを守(まも)ら なかった	自分の親	45.1%	52.2%	45.4%	47.4%	
	学校の先生	12.4%	15.9%	23.1%	17.9%	
	近所の大人	1.6%	0.6%	0.3%	0.7%	
	いわれない	13.4%	12.5%	13.7%	13.3%	
	無回答	27.4%	18.9%	17.5%	20.6%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
7-7. いたづらをした	自分の親	36.6%	38.9%	28.5%	34.0%	
	学校の先生	8.0%	11.1%	17.1%	12.8%	
	近所の大人	2.1%	1.4%	0.8%	1.3%	
	いわれない	14.8%	17.8%	22.4%	18.9%	
	無回答	38.4%	30.8%	31.2%	33.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
8. あなたがつぎのよ うなことをしたら、実 際(じっさい)にだれ からほめられましたか。	8-1. 成績(せいせき)が上がった	自分の親	81.9%	80.4%	75.5%	78.8%
		学校の先生	2.9%	1.5%	4.5%	3.2%
		近所の大人	1.4%	0.5%	0.4%	0.7%
		いわれない	8.0%	11.7%	12.3%	10.9%
		無回答	5.8%	5.9%	7.2%	6.4%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	8-2. どんな友だちとも仲良く(なかよく)遊 んだ	自分の親	52.4%	44.9%	29.7%	40.7%
		学校の先生	8.6%	8.4%	8.5%	8.5%
		近所の大人	2.9%	1.1%	0.7%	1.4%
		いわれない	25.9%	35.4%	47.6%	37.9%
		無回答	10.3%	10.2%	13.4%	11.5%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	8-3. 悪いことをしたときに正直(しょうじき) に話した	自分の親	49.3%	41.7%	31.2%	39.4%
		学校の先生	12.9%	12.0%	16.9%	14.3%
		近所の大人	1.5%	0.6%	0.3%	0.8%
いわれない		21.7%	30.4%	32.9%	29.1%	
無回答		14.5%	15.2%	18.6%	16.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

【資料】児童生徒調査結果集計表

8. あなたがつぎのよ うなことをしたら、実 際(じっさい)にだれ からほめられましたか。 (つづき)	8-4. 自分の身のまわりをきれいに整理(せい り)した	自分の親	64.7%	65.6%	55.3%	61.1%
		学校の先生	6.8%	4.2%	3.4%	4.6%
		近所の大人	2.0%	0.8%	0.5%	1.0%
		いわれない	17.7%	22.4%	32.4%	25.3%
		無回答	9.0%	7.0%	8.4%	8.1%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	8-5. あいさつをしっかりと	自分の親	41.1%	35.2%	23.0%	31.7%
		学校の先生	17.8%	21.0%	24.6%	21.6%
		近所の大人	10.3%	10.3%	8.8%	9.7%
		いわれない	24.9%	26.6%	35.8%	30.0%
		無回答	5.8%	6.8%	7.9%	7.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	8-6. 約束(やくそく)やきまりを守(まも)った	自分の親	54.2%	46.2%	31.6%	42.3%
		学校の先生	11.5%	13.5%	16.3%	14.1%
		近所の大人	1.9%	1.4%	0.3%	1.0%
		いわれない	24.3%	32.2%	43.4%	34.7%
無回答		8.1%	6.8%	8.4%	7.8%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
8-7. 落ちているゴミをひろった	自分の親	33.0%	24.9%	15.5%	23.2%	
	学校の先生	13.3%	13.3%	19.9%	16.0%	
	近所の大人	10.7%	12.0%	11.6%	11.5%	
	いわれない	26.6%	33.2%	37.2%	33.1%	
	無回答	16.4%	16.5%	15.9%	16.2%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
9. あなたが自分の親・ 学校の先生・その他 の大人によく言われる ことを、三つ選(えら) んでください。	自分の親やおじいさん・おばあさんから 1つ目	勉強しなさい	44.5%	54.2%	64.8%	55.9%
		早くしなさい	7.2%	8.7%	8.2%	8.1%
		いうことききなさい	2.3%	2.7%	2.0%	2.3%
		なんでできないの	1.8%	1.6%	0.9%	1.4%
		しっかりしなさい	3.3%	2.2%	2.5%	2.6%
		えらいね	7.2%	6.0%	4.4%	5.7%
		ありがとう	3.7%	4.6%	3.8%	4.1%
		良い子だね	2.9%	1.2%	0.8%	1.5%
		すごいね	9.6%	6.5%	4.5%	6.5%
		がんばったね	4.3%	3.2%	1.8%	2.9%
		やればできる	7.3%	4.6%	2.3%	4.4%
	じぶんでかかんがえなさい	4.0%	3.3%	1.9%	2.9%	
	無回答	2.0%	1.2%	2.0%	1.8%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	自分の親やおじいさん・おばあさんから 2つ目	勉強しなさい	4.4%	5.7%	2.4%	4.0%
		早くしなさい	13.6%	18.5%	24.8%	19.8%
		いうことききなさい	5.1%	8.3%	7.6%	7.2%
		なんでできないの	3.7%	4.4%	4.0%	4.1%
		しっかりしなさい	5.4%	4.8%	7.5%	6.1%
		えらいね	10.7%	6.6%	4.7%	6.9%
		ありがとう	8.1%	9.5%	9.0%	8.9%
		良い子だね	4.2%	2.7%	1.6%	2.7%
		すごいね	13.9%	9.4%	8.1%	10.1%
		がんばったね	12.1%	12.8%	12.0%	12.3%
		やればできる	9.7%	8.5%	10.2%	9.5%
	じぶんでかかんがえなさい	4.6%	6.1%	4.8%	5.1%	
	無回答	4.4%	2.6%	3.4%	3.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
自分の親やおじいさん・おばあさんから 3つ目	勉強しなさい	4.6%	2.3%	2.2%	2.9%	
	早くしなさい	7.2%	7.3%	5.3%	6.5%	
	いうことききなさい	4.5%	6.0%	6.0%	5.6%	
	なんでできないの	3.3%	3.1%	4.7%	3.8%	
	しっかりしなさい	4.4%	5.0%	7.3%	5.8%	
	えらいね	8.0%	6.2%	3.7%	5.7%	
	ありがとう	6.7%	7.3%	6.9%	7.0%	
	良い子だね	5.0%	4.2%	2.2%	3.6%	
	すごいね	9.6%	8.8%	5.6%	7.7%	
	がんばったね	16.4%	12.9%	14.1%	14.4%	
	やればできる	13.3%	17.4%	17.7%	16.4%	
	じぶんでかかんがえなさい	9.9%	14.3%	18.8%	15.0%	
	無回答	7.2%	5.3%	5.4%	5.8%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

9. あなたが自分の親・学校の先生・その他の大人によく言われることを、三つ選(えら)んでください。
(つづき)

学校の先生から 1つ目	勉強しなさい	4.8%	6.3%	19.4%	11.3%
	早くしなさい	6.6%	9.8%	8.8%	8.5%
	いうとききなさい	2.6%	4.5%	3.8%	3.7%
	なんでできないの	2.5%	2.3%	2.3%	2.4%
	しっかりしなさい	4.6%	5.7%	7.0%	5.9%
	えらいね	7.8%	7.5%	7.9%	7.7%
	ありがとう	12.0%	12.5%	12.2%	12.2%
	良い子だね	1.7%	0.5%	1.0%	1.0%
	すごいね	11.6%	11.0%	8.0%	9.9%
	がんばったね	13.4%	11.8%	7.3%	10.4%
	やればできる	16.1%	12.5%	9.5%	12.2%
	じぶんでかंगाえなさい	7.6%	8.3%	5.7%	7.0%
	無回答	8.6%	7.4%	7.0%	7.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
学校の先生から 2つ目	勉強しなさい	2.4%	2.9%	3.2%	2.9%
	早くしなさい	4.8%	6.0%	6.7%	5.9%
	いうとききなさい	2.6%	3.5%	4.4%	3.6%
	なんでできないの	2.1%	3.4%	2.7%	2.8%
	しっかりしなさい	4.4%	5.3%	6.8%	5.7%
	えらいね	6.6%	5.6%	4.0%	5.2%
	ありがとう	9.6%	9.3%	11.5%	10.3%
	良い子だね	1.8%	1.1%	1.4%	1.4%
	すごいね	12.7%	10.7%	9.7%	10.8%
	がんばったね	14.7%	14.2%	16.4%	15.3%
	やればできる	14.3%	15.3%	14.9%	14.9%
	じぶんでかंगाえなさい	8.0%	8.4%	7.5%	7.9%
	無回答	16.0%	14.3%	10.6%	13.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
学校の先生から 3つ目	勉強しなさい	2.2%	2.5%	2.7%	2.5%
	早くしなさい	3.7%	4.3%	2.9%	3.6%
	いうとききなさい	3.0%	2.0%	3.3%	2.8%
	なんでできないの	4.8%	2.3%	2.0%	2.9%
	しっかりしなさい	2.7%	4.6%	4.6%	4.1%
	えらいね	5.9%	4.1%	4.4%	4.7%
	ありがとう	8.0%	6.3%	6.1%	6.7%
	良い子だね	2.9%	1.4%	1.4%	1.8%
	すごいね	9.0%	9.0%	8.1%	8.6%
	がんばったね	11.9%	12.5%	13.5%	12.7%
	やればできる	13.3%	14.4%	16.5%	15.0%
	じぶんでかंगाえなさい	8.6%	15.2%	19.8%	15.3%
	無回答	23.9%	21.5%	14.6%	19.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
近所の大人から 1つ目	勉強しなさい	0.8%	0.9%	2.3%	1.5%
	早くしなさい	0.5%	0.7%	0.6%	0.6%
	いうとききなさい	0.9%	0.6%	0.3%	0.6%
	なんでできないの	0.9%	0.3%	0.7%	0.6%
	しっかりしなさい	0.3%	1.0%	0.9%	0.8%
	えらいね	13.3%	22.8%	31.8%	23.9%
	ありがとう	11.3%	13.2%	15.4%	13.6%
	良い子だね	30.6%	23.5%	15.3%	22.0%
	すごいね	9.4%	10.3%	10.7%	10.2%
	がんばったね	2.5%	3.1%	1.8%	2.4%
	やればできる	2.5%	0.9%	1.0%	1.4%
	じぶんでかंगाえなさい	2.0%	0.8%	0.4%	1.0%
	無回答	24.8%	21.9%	18.7%	21.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
近所の大人から 2つ目	勉強しなさい	0.5%	0.4%	0.4%	0.4%
	早くしなさい	0.7%	0.5%	1.1%	0.8%
	いうとききなさい	0.9%	0.6%	0.3%	0.6%
	なんでできないの	1.1%	0.6%	0.3%	0.6%
	しっかりしなさい	0.9%	0.6%	1.1%	0.9%
	えらいね	12.7%	13.1%	13.7%	13.2%
	ありがとう	13.5%	16.4%	23.2%	18.4%
	良い子だね	12.5%	15.9%	19.0%	16.2%
	すごいね	11.2%	13.6%	11.4%	12.1%
	がんばったね	7.9%	6.4%	5.6%	6.5%
	やればできる	4.4%	2.5%	1.3%	2.5%
	じぶんでかंगाえなさい	1.2%	0.6%	0.4%	0.7%
	無回答	32.5%	28.8%	22.1%	27.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

【資料】児童生徒調査結果集計表

9. あなたが自分の親・学校の先生・その他の大人によく言われることを、三つ選(えら)んでください。(つづき)	近所の大人から 3つ目	勉強しなさい	1.1%	0.3%	0.4%	0.6%
		早くしなさい	1.1%	0.9%	0.6%	0.8%
		いうことききなさい	1.0%	0.5%	0.8%	0.8%
		なんのできないの	1.5%	0.5%	0.6%	0.8%
		しっかりしなさい	1.1%	1.2%	0.7%	1.0%
		えらいね	11.0%	11.0%	9.2%	10.3%
		ありがとう	8.7%	7.1%	6.9%	7.5%
		良い子だね	8.3%	12.5%	15.3%	12.5%
		すごいね	14.3%	17.8%	24.7%	19.7%
		がんばったね	6.6%	9.9%	11.5%	9.7%
		やればできる	4.1%	3.3%	3.5%	3.6%
		じぶんでかंगाえなさい	2.4%	1.1%	0.9%	1.4%
		無回答	38.7%	34.0%	24.7%	31.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
10. あなたが自分の親・学校の先生・その他の大人によく言われて、「もっとがんばろう」と、やる気が出た言葉を三つ選(えら)んでください。	1つ目	勉強しなさい	12.1%	12.1%	10.6%	11.5%
		早くしなさい	2.4%	1.9%	0.9%	1.6%
		いうことききなさい	1.1%	0.6%	0.4%	0.6%
		なんのできないの	1.1%	1.5%	1.8%	1.5%
		しっかりしなさい	1.6%	1.5%	1.6%	1.6%
		えらいね	10.9%	14.2%	18.0%	14.9%
		ありがとう	6.4%	7.5%	13.6%	9.8%
		良い子だね	5.1%	4.4%	2.8%	4.0%
		すごいね	13.5%	14.4%	14.0%	14.0%
		がんばったね	9.7%	8.3%	9.6%	9.2%
		やればできる	25.2%	23.5%	15.8%	20.8%
		じぶんでかंगाえなさい	2.7%	2.3%	1.3%	2.0%
	無回答	8.1%	7.7%	9.5%	8.5%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	2つ目	勉強しなさい	3.7%	1.8%	1.1%	2.0%
		早くしなさい	3.7%	3.4%	2.4%	3.1%
		いうことききなさい	2.0%	1.5%	0.9%	1.4%
		なんのできないの	2.0%	2.4%	1.8%	2.0%
		しっかりしなさい	2.6%	1.9%	2.1%	2.2%
		えらいね	9.6%	9.2%	7.4%	8.6%
		ありがとう	7.8%	10.5%	12.9%	10.8%
		良い子だね	9.3%	6.5%	4.1%	6.2%
		すごいね	13.1%	15.4%	16.0%	15.0%
		がんばったね	15.2%	18.5%	24.6%	20.1%
		やればできる	13.8%	12.3%	11.6%	12.4%
		じぶんでかंगाえなさい	3.5%	4.0%	2.4%	3.2%
	無回答	13.5%	12.6%	12.9%	13.0%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	3つ目	勉強しなさい	2.0%	2.0%	1.0%	1.6%
		早くしなさい	2.9%	1.6%	0.9%	1.6%
		いうことききなさい	1.9%	1.6%	1.1%	1.5%
		なんのできないの	2.2%	1.5%	0.9%	1.4%
		しっかりしなさい	2.7%	2.6%	2.1%	2.4%
		えらいね	7.8%	8.5%	7.1%	7.7%
ありがとう		6.6%	7.0%	7.5%	7.1%	
良い子だね		9.4%	6.7%	6.1%	7.2%	
すごいね		14.7%	13.1%	13.3%	13.6%	
がんばったね		12.5%	16.4%	17.0%	15.6%	
やればできる		14.0%	15.9%	23.0%	18.3%	
じぶんでかंगाえなさい		4.6%	5.6%	5.1%	5.1%	
無回答	18.6%	17.7%	15.1%	16.9%		
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
11. つぎの質問(しつもん)に答えてください。	11-1. 子ども会やスポーツクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウトなどに入っている	はい	49.6%	57.3%	31.8%	44.6%
		いいえ	50.4%	42.7%	68.2%	55.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	11-2. 音楽や習字、スポーツ、バレエなどのおけいごとに通っている	はい	66.2%	71.4%	33.5%	54.3%
		いいえ	33.8%	28.6%	66.5%	45.7%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	11-3. 算数・数学や英語、国語などの学習塾(じゅく)に通っている	はい	31.0%	37.2%	53.2%	42.2%
		いいえ	67.8%	62.1%	46.2%	57.0%
		無回答	1.1%	0.7%	0.6%	0.8%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	11-4. 近所の大人(おとな)とよく話をしている	はい	43.8%	38.7%	26.8%	35.1%
		いいえ	56.2%	61.3%	73.2%	64.9%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

11. つぎの質問(しつもん)に答えてください。(つづき)	11-5. 公民館(こうみんかん)や図書館(としよかん)などによく行っている	はい	38.0%	27.3%	12.1%	23.9%
		いいえ	62.0%	72.7%	87.9%	76.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	11-6. 地域(ちいき)のお祭りやイベントによく参加(さんか)している	はい	72.0%	72.2%	54.0%	64.6%
		いいえ	28.0%	27.8%	46.0%	35.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	11-7. 年上や年下の友達とよく遊んでいる	はい	72.6%	67.3%	38.0%	56.6%
		いいえ	27.4%	32.7%	62.0%	43.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	11-8. 毎日(まいにち)、朝ご飯(ごはん)をかならず食べている	はい	88.8%	87.2%	86.2%	87.2%
		いいえ	11.2%	12.8%	13.8%	12.8%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
11-9. よく本を読んでいる	はい	58.3%	51.0%	41.2%	48.9%	
	いいえ	41.7%	49.0%	58.8%	51.1%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
12. あなたと大人(おとな)の会話について答えてください。	12は適当に余白をはさんでください。					
	12-1. 学校のこと					
	12-2. 家族(かぞく)のこと					
	12-3. 家の近くのできごと(ちいきのこと)					
	12-4. 友(とも)だちのこと					
	12-5. 勉強(べんきょう)のこと					
	12-6. 遊びのこと					
12-7. 趣味(しゅみ)や自分の好きなこと						
12-8. 自分の将来(しょうらい)のこと						
12-9. うれしかったこと						
12-10. 困(こま)っていること						

【資料】児童生徒調査結果集計表

13. あなたは、先週(せんしゅう)、家族(かぞく)と一緒に買い物や遊びに、何日行きましたか。		2.52日 平均値	2.14日 平均値	1.19日 平均値	1.84日 平均値	
14. あなたは、ふだんの日に、家族の人とどれくらい話をしますか。	30分より短い	46.2%	25.6%	20.0%	28.9%	
	30分～1時間くらい	25.8%	31.5%	35.2%	31.5%	
	1時間～2時間くらい	10.7%	17.4%	22.0%	17.5%	
	2時間～3時間くらい	5.0%	9.9%	11.3%	9.1%	
	3時間よりも長い	8.3%	13.9%	10.3%	10.9%	
	無回答	4.1%	1.9%	1.2%	2.2%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
15. あなたは、毎日、家でどのくらい勉強をしていますか(塾の時間いがい)。	30分くらい	36.5%	28.5%	20.6%	27.4%	
	1時間くらい	37.0%	44.6%	39.0%	40.2%	
	2時間くらい	10.1%	12.2%	19.2%	14.5%	
	3時間くらい	5.3%	4.3%	3.3%	4.1%	
	ほとんどしていない	7.7%	8.9%	17.2%	12.1%	
	無回答	3.4%	1.6%	0.8%	1.8%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
16. あなたは、携帯電話(けいたいでんわ)やスマートフォンを つかっていますか。	16-1. 携帯電話	自分のものをつかっている	30.5%	34.1%	24.1%	29.0%
		家族のものを使っている	17.2%	14.5%	7.1%	12.2%
		ひとにかりてつかっている	1.3%	0.7%	0.5%	0.8%
		つかっていない	45.8%	46.8%	64.7%	54.0%
		無回答	5.1%	3.9%	3.6%	4.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	16-2. スマートフォン	自分のものをつかっている	7.8%	14.0%	42.1%	24.0%
		家族のものを使っている	40.1%	41.1%	15.7%	30.3%
		ひとにかりてつかっている	2.8%	4.2%	1.7%	2.8%
		つかっていない	43.6%	36.5%	39.1%	39.5%
		無回答	5.7%	4.2%	1.4%	3.5%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	16-3. タブレット	自分のものをつかっている	11.2%	11.6%	19.0%	14.6%
		家族のものを使っている	25.2%	29.6%	20.6%	24.7%
		ひとにかりてつかっている	3.0%	2.6%	0.6%	1.9%
		つかっていない	54.6%	52.2%	56.5%	54.7%
		無回答	6.0%	4.0%	3.2%	4.2%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	16-4. パソコン	自分のものをつかっている	4.2%	4.4%	8.0%	5.8%
		家族のものを使っている	38.3%	47.8%	47.9%	45.3%
		ひとにかりてつかっている	2.6%	2.3%	1.4%	2.0%
		つかっていない	49.8%	41.0%	39.7%	42.9%
		無回答	5.2%	4.4%	2.9%	4.0%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
17. あなたのパソコンやスマートフォン、インターネットについて質問(しつもん)します。	17-1. インターネットのつかい方について、 家での約束(やくそく)を守っている	とてもあてはまる	43.2%	47.6%	40.7%	43.5%
		少しあてはまる	11.4%	20.1%	27.6%	20.8%
		あまりあてはまらない	3.6%	5.7%	9.2%	6.6%
		まったくあてはまらない	13.8%	12.8%	12.0%	12.7%
		無回答	28.0%	13.8%	10.5%	16.3%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	17-2. つかっているパソコン・スマートフォン・けいたいでんわ・タブレットに、 フィルタリングを行っている(よくない情報にアクセスできないようにしていること)	少しあてはまる	6.1%	10.8%	12.7%	10.3%
		あまりあてはまらない	3.9%	6.0%	7.8%	6.2%
		まったくあてはまらない	20.2%	20.4%	22.3%	21.1%
		無回答	45.6%	30.1%	18.5%	29.5%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	17-3. 人をだますサイトで怖い(こわい)思いをしたことがある	とてもあてはまる	5.8%	2.6%	3.3%	3.8%
		少しあてはまる	2.9%	2.6%	3.7%	3.1%
		あまりあてはまらない	2.4%	2.5%	5.1%	3.6%
		まったくあてはまらない	59.9%	79.8%	80.4%	74.6%
		無回答	29.0%	12.5%	7.5%	14.9%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	17-4. ネットでのいじめを身近で、聞(き)いたことがある	とてもあてはまる	6.1%	6.4%	7.3%	6.7%
		少しあてはまる	4.2%	5.6%	10.0%	7.0%
		あまりあてはまらない	3.5%	5.2%	10.9%	7.1%
まったくあてはまらない		57.1%	69.7%	64.3%	64.0%	
無回答		29.2%	13.2%	7.5%	15.2%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

17. あなたのパソコンやスマートフォン、インターネットについて質問(しつもん)します。(つづき)	17-5.スマートフォンのゲームで時間を使いすぎてしまう	とてもあてはまる	13.1%	14.4%	15.5%	14.5%
		少しあてはまる	15.7%	18.6%	23.1%	19.7%
		あまりあてはまらない	12.6%	16.0%	15.6%	14.9%
		まったくあてはまらない	34.6%	40.6%	37.3%	37.6%
		無回答	23.9%	10.4%	8.5%	13.3%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	17-6.スマートフォンのゲームでお金を使いすぎてしまう	とてもあてはまる	2.3%	1.3%	1.6%	1.7%
		少しあてはまる	1.9%	1.8%	2.0%	1.9%
		あまりあてはまらない	4.6%	4.3%	4.4%	4.4%
		まったくあてはまらない	63.2%	79.4%	82.9%	76.5%
		無回答	28.1%	13.2%	9.1%	15.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	17-7.スマートフォンゲームやSNSで寝不足になることがある	とてもあてはまる	3.4%	2.7%	8.6%	5.4%
		少しあてはまる	3.3%	4.4%	13.9%	8.1%
		あまりあてはまらない	4.5%	7.5%	13.5%	9.1%
		まったくあてはまらない	57.9%	71.8%	54.8%	61.0%
		無回答	30.9%	13.6%	9.1%	16.4%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	17-8.インターネットは、便利だけど、不安(ふあん)になることが多いと思う	とてもあてはまる	13.4%	16.0%	14.6%	14.7%
		少しあてはまる	13.7%	23.6%	30.3%	23.7%
		あまりあてはまらない	10.3%	15.9%	22.8%	17.2%
		まったくあてはまらない	36.0%	33.6%	26.9%	31.5%
		無回答	26.6%	11.0%	5.4%	12.9%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	17-9.自分(じぶん)の書き込みへのコメントが気になる	とてもあてはまる	6.5%	5.2%	7.6%	6.5%
少しあてはまる		4.7%	6.9%	14.3%	9.4%	
あまりあてはまらない		4.6%	6.6%	16.6%	10.2%	
まったくあてはまらない		46.2%	63.1%	49.1%	52.7%	
無回答		37.9%	18.1%	12.4%	21.2%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
17-10.メッセージやメールをやりあつけないと不安になる	とてもあてはまる	7.7%	2.3%	3.6%	4.3%	
	少しあてはまる	5.0%	3.8%	6.6%	5.3%	
	あまりあてはまらない	4.4%	9.3%	16.9%	11.1%	
	まったくあてはまらない	49.8%	66.5%	61.4%	59.8%	
	無回答	33.2%	18.0%	11.5%	19.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
17-11.SNSをつねにチェックしないと仲間はずれにされているような気がする	とてもあてはまる	3.0%	1.6%	2.0%	2.1%	
	少しあてはまる	1.6%	2.1%	3.4%	2.5%	
	あまりあてはまらない	3.0%	4.7%	12.9%	7.7%	
	まったくあてはまらない	52.0%	70.7%	69.3%	65.0%	
	無回答	40.4%	20.9%	12.4%	22.7%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
18. あなたの平日(1日)のインターネットの利用時間を教えてください。	つかっていない	48.5%	28.9%	13.6%	27.9%	
	30分くらい	23.7%	29.5%	21.4%	24.5%	
	1時間くらい	12.2%	18.8%	24.7%	19.5%	
	2時間くらい	3.6%	11.9%	22.9%	14.2%	
	3時間以上	5.0%	8.1%	15.9%	10.5%	
	無回答	7.0%	2.8%	1.6%	3.5%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

家庭教育に関する意識調査

－ 保護者用調査票 －

No. _____

この度、(公財)日本教材文化研究財団からの委託を受け、私たちは家庭教育に関する意識調査を計画いたしました。この調査は、近年低下しつつあると言われる「しつけ」をはじめとする家庭教育力の実態と保護者の意識を明らかにし、今後の家庭教育の充実を図るための参考資料を得ることを目的としています。

ご回答いただいた調査結果はすべて数的に処理いたしますので、ご氏名等の記入は必要なく、あなた個人にも学校にもご迷惑をおかけすることはありません。

ご回答いただく場合、特に指定されていない場合は、当てはまる事項の番号を○でお囲みください。また、複数のお子さんが調査票を持参してきた場合には、どなたか1人のお子さんについてのみご記入ください。

このアンケート用紙は、ご回答いただきましたら、無記名のまま封筒に入れ厳封し、お子さんを通して担任の先生にご提出くださるようお願いいたします。

調査の趣旨をご理解の上、ぜひご回答くださいますよう御協力をお願い申し上げます。

平成27年10月

家庭教育活性化研究会 代表 日本大学教授 佐藤晴雄

顧問 帝京大学名誉教授 亀井浩明

お問い合わせ先

(公財)日本教材文化研究財団

住所 東京都新宿区払方町14-1

電話 (03)5225-0255

最初に、あなたご自身のことについておたずねします。

F1 性別 1. 男性 2. 女性

F2 お子さんとの関係 1. 母親 2. 父親 3. 祖父 4. 祖母 5. その他

F3 あなたの年代 1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳代以上

F4 お子さんの兄弟姉妹数 _____ 人きょうだい

※アンケート持参のお子さんを含めた人数を記入

F5 職業等 1. 専業主婦(パート等含む) 2. 民間企業勤務 3. 公務員(教員以外)
4. 専門職・教員 5. 自営(農業等含む) 6. 会社経営
7. その他F6 家族形態 1. 子どもとのみ生活 2. 子どもの祖父母(いずれかも含む)と同居
3. 親戚と同居 4. その他

F7 PTA役員・学級委員等経験の有無

1. 現在、役員である 2. 過去に役員経験有り 3. 役員経験はない

1 次に、このアンケートを持ってきたお子さんについておたずねします。

- 1-1 このアンケートを持参したお子さんのきょうだいで的位置づけと性別
1. 第一子（男） 2. 第一子（女） ※1人の場合も含む
 3. 末っ子（男） 4. 末っ子（女）
 5. その他（男） 6. その他（女）

- 1-2 学年 1. 小学校3年生 2. 小学校5年生 3. 中学校2年生

1-3 校外活動

あなたのお子さんは子ども会やスポーツ少年団、ボーイスカウト・ガールスカウトなど地域の少年団体に所属していますか。

1. 所属している 2. 以前所属していた 3. 所属したことがない

2 あなたは、次のようなことは、主に家庭、学校、地域(子どもの団体、近所のおとな)のうちのどこで行うべきだと考えますか。

主に家庭で 主に学校で 主に地域の人 わからない
 行うべきで 行うべきで たちが行う べきである
 ある ある べきである

- | | | | | | |
|------|---------------------------------|---|---|---|---|
| 2-1 | 早寝、早起きなどをしつける | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-2 | 食事の仕方(箸の持ち方など)や手洗いなどの習慣を身につけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-3 | あいさつや謝りの仕方を身につけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-4 | 善悪のけじめをつけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-5 | 他人の気持ちや立場を思いやる心を培う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-6 | いじめをしないなどの正義感を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-7 | 他の人たちと協力しあう姿勢を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-8 | 働くことの大切さを教える | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-9 | 社会のルールを教える | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-10 | 地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-11 | 欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-12 | 人間としての「生き方」を教える | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-13 | 自分の住んでいる地域を大切にする気持ちを培う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-14 | 危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |

3 実際に、次のような「しつけ」を行っているのは、主にどこだと思いますか。最も当てはまる選択肢を一つだけ選んでください。

主に家庭で 主に学校で 主に地域の人 あまり行わ
行っている 行っている が行っている れていない

- | | | | | | |
|------|---------------------------------|---|---|---|---|
| 3-1 | 早寝、早起きなどをしつける | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-2 | 食事の仕方(箸の持ち方など)や手洗いなどの習慣を身につけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-3 | あいさつや謝りの仕方を身につけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-4 | 善悪のけじめをつけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-5 | 他人の気持ちや立場を思いやる心を培う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-6 | いじめをしないなどの正義感を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-7 | 他の人たちと協力しあう姿勢を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-8 | 働くことの大切さを教える | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-9 | 社会のルールを教える | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-10 | 地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-11 | 欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-12 | 人間としての「生き方」を教える | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-13 | 自分の住んでいる地域を大切にする気持ちを培う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-14 | 危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |

4 あなたのお子さんに対するしつけの様子についてお聞かせください。

とても当て 少し当て あまり当て まったく当て
はまる はまる はまらない はまらない

- | | | | | | |
|-----|----------------------|---|---|---|---|
| 4-1 | 朝ご飯は必ず作って子どもに食べさせている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4-2 | 学校の持ち物を確認してあげている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4-3 | 年長者を尊敬するように教えている | 1 | 2 | 3 | 4 |

	とても当て はまる	少し当て はまる	あまり当て はまらない	まったく当て はまらない
4-4 善いことと悪いことをしっかり教えている	1	2	3	4
4-5 善いことをしたら、必ずほめている	1	2	3	4
4-6 悪いことをしたら、必ず叱っている	1	2	3	4
4-7 テレビ視聴時間やゲーム使用時間等を決めている	1	2	3	4
4-8 家事を分担させている	1	2	3	4
4-9 食事や服装などよく気遣っている	1	2	3	4
4-10 なるべく自分で何でも行うよう留意している	1	2	3	4
4-11 勉強するよう促している	1	2	3	4
4-12 人間としての「生き方」を教えている	1	2	3	4
4-13 自分の住んでいる地域を大切にすゝる気持ちを 培っている	1	2	3	4

5 あなたのお子さん(このアンケート用紙を持ってきたお子さん)についてお聞かせください。

	とても当て はまる	少し当て はまる	あまり当て はまらない	まったく当て はまらない
5-1 親の言うことを素直に聞く	1	2	3	4
5-2 先生の言うことを素直に聞く	1	2	3	4
5-3 自分勝手な考えや行動をしない	1	2	3	4
5-4 決められたルールをよく守る	1	2	3	4
5-5 ともだちが多い	1	2	3	4
5-6 はじめての人ともすぐともだちになれる	1	2	3	4
5-7 外でよく遊ぶ	1	2	3	4
5-8 早寝・早起き(はやね・はやおき)ができる	1	2	3	4
5-9 自分のことは自分でできる	1	2	3	4

【資料】② 保護者用調査票

	とても当て はまる	少し当て はまる	あまり当て はまらない	まったく当て はまらない
5-10 学校の勉強はよくできる方だと思う	1	2	3	4
5-11 自分で進んで学習できる	1	2	3	4
5-12 学校に行くのが楽しい	1	2	3	4
5-13 勉強以外に得意なことがある	1	2	3	4

6 あなた自身の普段の行動についてお聞かせください。

	とても当て はまる	少し当て はまる	あまり当て はまらない	まったく当て はまらない
6-1 外出中に、ゴミやタバコのポイ捨てをしない	1	2	3	4
6-2 電車などでは高齢者に席を譲る方である	1	2	3	4
6-3 家事は毎日手抜きをせずに行っている	1	2	3	4
6-4 夫婦の対話を大切にしている	1	2	3	4
6-5 わが子の学級担任の話を受け入れる方である	1	2	3	4
6-6 公民館などの公共施設をよく利用している	1	2	3	4
6-7 地域の祭や行事で積極的に参加している	1	2	3	4
6-8 子育てサークルや子供会活動にかかわっている	1	2	3	4
6-9 近所の子どもや大人には挨拶するようにしている	1	2	3	4
6-10 近所の子どもの面倒をよく見ている方である	1	2	3	4
6-11 わが子の友達の子供とはよく連絡をとっている	1	2	3	4
6-12 学校に多少の不満があっても我慢している方である	1	2	3	4
6-13 朝、どんなことがあってもわが子よりも早く起床する	1	2	3	4
6-14 他人の悪口を言わないよう気をつけている	1	2	3	4
6-15 事情によっては他人に事実と違うことを言うことがある	1	2	3	4

- 7 あなたはわが子に対して、つぎのような言葉かけをしますか。よくするものを3つ選んで、
□にその記号を記入してください。

㉗勉強しなさい	㉘早くしなさい	㉙いうことききなさい	㉚なんでできないの
㉛しっかりしなさい	㉜えらいね	㉝ありがとう	㉞良い子だね
㉟すごいね	㊱がんばったね	㊲やればできる	㊳じぶんでかんがえなさい

--	--	--

- 8 あなたと、お子さんが通っている学校との関わりについて、おたずねします。

	とても当て はまる	少し当て はまる	あまり当て はまらない	まったく当て はまらない
8-1 運動会や授業参観等の学校行事によく参加する方である	1	2	3	4
8-2 保護者会や懇談会等によく参加する方である	1	2	3	4
8-3 PTA活動には積極的に関わっている方である	1	2	3	4
8-4 学校支援ボランティアとして活動している	1	2	3	4
8-5 担任の先生の姓名(フルネーム)を知っている	1	2	3	4
8-6 「学校・学級だより」などには目を通して	1	2	3	4
8-7 毎日の給食メニューを知っている	1	2	3	4

- 9 あなたは、学校に不満や問題があると感じた時に、苦情・要望を学校に申し出たことがありますか。それぞれについて、その申し出の回数を記入してください。「なかった」場合は「0」。

9-1 年を問わず、過去に申し出た回数 回

9-2 昨年の回数 回

10 あなたは、自分以外も含めて、保護者が次のような理由で苦情や要望を学校に申し出ることをどう考えますか。

当然だと ある程度は あまり望ま 望ましく
思う 当然だと思う しくない ない

- | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|
| 10-1 | わが子と仲のよくない子どもが同じクラスになったので、クラス替えをして欲しい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10-2 | わが子を攻撃(いじめ・暴力)し続ける子どもがいるので、十分指導して欲しい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10-3 | わが子が親の言うことを聞かないので、学校で十分指導して欲しい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10-4 | 卒業アルバムにわが子の学校生活に関する写真が1枚もなかったので、アルバムを作り直して欲しい | 1 | 2 | 3 | 4 |

11 あなたは保護者等の意向が学校運営に反映される仕組みとして、現在、一部の学校はコミュニティ・スクール（学校運営協議会等を設置している学校）に指定されています。このコミュニティ・スクールについて、どの程度ご存じですか。該当する項目の番号を一つだけ選んで○で囲んでください。

1. いままで、「コミュニティ・スクール」という言葉も聞いたことがなかった
2. コミュニティ・スクールの言葉は聞いたことがあるが、どのような仕組みかは知らない
3. コミュニティ・スクールの意義等についてよく知っているが、自分は関わっていない
4. コミュニティ・スクールに何らかの形で関わっている(委員以外の形の関わりも含む)

12 家庭との連携にも関係するコミュニティ・スクールに関する質問をさせていただきます。コミュニティ・スクールに置かれる学校運営協議会等は以下の1～3までの3つの役割を担い、地域や保護者の学校運営参画を実現する仕組みです。1～3のうちで、あなたが重要だと思う番号を一つだけ選んで○で囲んでください。

1. 学校の先生方の任用（人事）に関して意見を申し出ること
2. 学校運営について校長や教育委員会に意見を申し出ること
3. 校長が作成した学校運営の基本方針を承認すること

13 学校運営協議会等(コミュニティ・スクール)とは、前問に記したような3つの役割がありますが、このような仕組みについてどう思いますか。「1」または「2」のいずれかを選んで、その番号を○で囲んでください。

- Ⓐ 1. 地域・保護者が学校運営に参画すべきである — 2. 学校運営は学校に任せるべきである
- Ⓑ 1. 基本方針の「承認」は特色づくりにつながる — 2. 基本方針の「承認」は校長の裁量権を狭める
- Ⓒ 1. 教職員任用の意見申出でよい先生が着任して — 2. 教職員任用の意見申出は人事を混乱させる

- ① 1. 校長への意見申出で学校が活性化する — 2. 校長への意見申出は学校の自律性を損なう
- ② 1. 教育委員会への意見申出で学校が活性化する — 2. 教育委員会への意見申出は教育委員会を混乱させる

14 次の家庭教育に関する学習や支援等に関することについて、おたずねします。

	とても当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない
14-1 家庭教育に関する雑誌や本を読むようにしている	1	2	3	4
14-2 家庭教育に関するテレビ番組やホームページを見るようにしている	1	2	3	4
14-3 学校が保護者に対してしつけの在り方を示している	1	2	3	4
14-4 自分自身の父母や祖父母から子育ての知恵を学んでいる	1	2	3	4
14-5 地域の子育て経験者や高齢者などから子育ての知恵を学んでいる	1	2	3	4
14-6 保護者同士の横のつながりから子育ての情報を得ている	1	2	3	4
14-7 行政の子育て相談窓口相談する	1	2	3	4
14-8 公民館や児童館などが開催する子育て・教育に関する講座に参加している	1	2	3	4
14-9 地域の人たちがつくる家庭を支援する取り組みから子育ての知恵を学んでいる	1	2	3	4

15 あなたのお子さんのパソコンやスマートフォン、また、それらによるインターネット利用について伺います。

	よくあった	時々あった	あまりなかった	まったくなかった
15-1 インターネットの使い方について、家での約束を守っている	1	2	3	4
15-2 いつも使っているパソコン・スマートフォン・携帯・タブレット端末に対して、フィルタリング(有害サイト等へのアクセス制限)を行っている	1	2	3	4
15-3 詐欺サイト等で怖い思いをしたことがある	1	2	3	4
15-4 ネットでのいじめを身近で見聞きしたことがある	1	2	3	4
15-5 スマートフォンのゲームで時間を使いすぎてしまう	1	2	3	4

- | | よく
あった | 時々
あった | あまり
なかった | まったく
なかった |
|----------------------------------|-----------|-----------|-------------|--------------|
| 15-6 スマートフォンのゲームでお金を使いすぎてしまう | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 15-7 スマートフォンのゲームやSNSで寝不足になることがある | 1 | 2 | 3 | 4 |

16 あなた自身のパソコンやスマートフォンによるインターネット利用について、次から当てはまるものを選んで下さい。

- | | とても当て
はまる | 少し当て
はまる | あまり当て
はまらない | まったく当て
はまらない |
|---|--------------|-------------|----------------|-----------------|
| 16-1 知りたくもないのに他の家族・教師の行動がわかって
しまい困ったことがある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16-2 保護者間のSNSで教師や保護者・子どもの噂が流れて
困ったことがある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16-3 保護者間のSNSで、メッセージが来たら直ぐに返事を
書かなければならず困ったことがある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16-4 自分が書いた内容について、後から「あれでよかった
のか」など悩む | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16-5 インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念
されると思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16-6 子どもたちのコミュニケーション不足は、インター
ネット社会と関係があると思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16-7 子どもたちは、インターネットを用いることでより
豊かな交友関係を広げていけると思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16-8 子どもたちが、インターネットで様々な情報を
得られることのメリットは大きいと思う | 1 | 2 | 3 | 4 |

17 あなたは、先週、わが子を含んで家族と一緒に買い物や遊びに、何日行きましたか。

日

18 あなたは、普段の日に、わが子とどれくらい話をしますか。当てはまるものを一つ選んで、その番号を○でかこんでください。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1 30分未満 | 2 30分～1時間程度 | 3 1時間～2時間未満 |
| 4 2時間～3時間未満 | 5 3時間以上 | |

19 あなたとわが子との会話についてお聞かせください。

よく話して ときどき あまり まったく
いる 話している 話していない 話していない

- | | | | | | |
|------|----------------|---|---|---|---|
| 19-1 | 学校の出来事 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19-2 | 地域の出来事 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19-3 | 家庭の出来事 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19-4 | 学校の友達のこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19-5 | 勉強のこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19-6 | わが子の遊びのこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19-7 | わが子の遊びや好きなこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19-8 | わが子の将来や夢に関すること | 1 | 2 | 3 | 4 |

20 お子さんの平日(1日)の自宅での学習時間の目安を回答マスに書いてください。

- 1 30分程度 2 1時間程度 3 2時間程度
4 3時間以上 5 ほとんどない

21 あなたには、教育や子育てに関する相談相手になってくれる人は何人くらいいますか。
おおよその数でも結構ですので人数を最後に教えてください。

 人

質問はこれで終わりです。長時間にわたりご協力いただき、ありがとうございました。

—保護者用調査結果集計表—

		小学校3年生	小学校5年生	中学校2年生	合計		
実数（人）		909	1029	1547	3485		
F1. 性別	男性	7.8%	8.7%	7.8%	8.1%		
	女性	92.1%	91.1%	91.9%	91.7%		
	無回答	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%		
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
F2. お子さんとの関係	母親	91.7%	91.4%	91.1%	91.3%		
	父親	7.6%	8.0%	6.7%	7.3%		
	祖母	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%		
	その他	0.0%	0.0%	1.0%	0.5%		
	無回答	0.1%	0.1%	0.5%	0.3%		
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
F3. あなたの年代	20歳代	2.3%	0.5%	0.5%	1.0%		
	30歳代	45.2%	32.9%	17.8%	29.4%		
	40歳代	49.8%	61.7%	70.5%	62.5%		
	50歳代	2.0%	4.1%	10.2%	6.3%		
	60歳代以上	0.4%	0.6%	0.7%	0.6%		
	無回答	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%		
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
F4. お子さんの兄弟姉妹数	0	1.2%	0.5%	0.6%	0.7%		
	1	12.2%	13.9%	12.8%	12.9%		
	2	51.5%	50.5%	48.4%	49.8%		
	3	28.6%	28.0%	29.9%	29.0%		
	4	5.3%	5.3%	6.2%	5.7%		
	5	0.6%	1.3%	1.6%	1.2%		
	6	0.6%	0.3%	0.3%	0.3%		
	7	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%		
	8	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%		
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
F5. 職業等	専業主婦（パート等含む）	63.6%	59.2%	56.8%	59.3%		
	民間企業勤務	15.7%	19.7%	19.7%	18.7%		
	公務員（教員以外）	3.9%	2.5%	2.8%	3.0%		
	専門職・教員	8.6%	9.0%	10.5%	9.6%		
	自営（農業等含む）	3.5%	4.4%	5.4%	4.6%		
	会社経営	0.8%	1.0%	1.2%	1.0%		
	その他	3.6%	3.5%	2.8%	3.2%		
	無回答	0.3%	0.7%	0.9%	0.7%		
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
F6. 家族形態	子どものみ生活	76.7%	75.4%	68.1%	72.5%		
	子どもの祖父母（いずれかも含む）と同居	18.5%	20.0%	26.1%	22.3%		
	親戚と同居	0.4%	0.1%	0.4%	0.3%		
	その他	3.6%	3.7%	4.7%	4.1%		
	無回答	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%		
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
F7. PTA 役員・学級委員等経験の有無	現在、役員である	27.3%	28.9%	24.6%	26.6%		
	過去に役員経験有り	40.8%	51.7%	49.3%	47.8%		
	役員経験はない	31.4%	18.9%	25.3%	25.0%		
	無回答	0.6%	0.6%	0.8%	0.7%		
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
1. このアンケートを持ってきたお子さんについておたずねします。	1-1. このアンケートを持参したお子さんのきょうだいで的位置づけと性別	第一子（男）※1人の場合も含む	26.3%	26.7%	25.7%	26.2%	
		第一子（女）※1人の場合も含む	24.5%	24.3%	26.1%	25.2%	
		末っ子（男）	17.5%	17.2%	17.1%	17.2%	
		末っ子（女）	17.6%	16.8%	16.5%	16.9%	
		その他（男）	7.2%	8.4%	7.6%	7.7%	
		その他（女）	6.8%	6.1%	6.7%	6.5%	
		無回答	0.1%	0.5%	0.3%	0.3%	
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
		1-3. 校外活動 あなたのお子さんは子ども会やスポーツ少年団、ボーイスカウト・ガールスカウトなど地域の少年団体に所属していますか。	所属している	44.0%	52.0%	22.2%	36.7%
			以前所属していた	5.2%	7.6%	37.0%	20.0%
	所属したことがない		50.4%	39.7%	40.1%	42.7%	
	無回答		0.4%	0.8%	0.6%	0.6%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

2. あなたは、次のようなことは、主に家庭、学校、地域（子どもの団体、近所のおとな）のうちのどこで行うべきだと考えますか。	2-1. 早寝、早起きなどをつつける	主に家庭で行うべきである	99.8%	99.8%	99.9%	99.8%
		主に学校で行うべきである	0.1%	0.2%	0.0%	0.1%
		主に地域で行うべきである	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%
		わからない	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	2-2. 食事の仕方(箸の持ち方など)や手洗いなどの習慣を身につけさせる	主に家庭で行うべきである	99.1%	99.0%	99.5%	99.3%
		主に学校で行うべきである	0.9%	1.0%	0.3%	0.7%
		主に地域で行うべきである	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	2-3. あいさつや謝りの仕方を身につけさせる	主に家庭で行うべきである	96.7%	96.5%	97.6%	97.0%
		主に学校で行うべきである	2.9%	3.4%	2.2%	2.7%
		主に地域で行うべきである	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%
		わからない	0.3%	0.1%	0.1%	0.2%
	2-4. 善悪のけじめをつけさせる	主に家庭で行うべきである	93.6%	94.4%	96.3%	95.0%
主に学校で行うべきである		6.0%	5.3%	3.1%	4.5%	
主に地域で行うべきである		0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	
わからない		0.5%	0.3%	0.5%	0.4%	
2-5. 他人の気持ちや立場を思いやる心を培う	主に家庭で行うべきである	74.2%	74.8%	81.8%	77.7%	
	主に学校で行うべきである	24.8%	23.7%	17.2%	21.1%	
	主に地域で行うべきである	0.2%	0.4%	0.3%	0.3%	
	わからない	0.8%	1.1%	0.8%	0.9%	
2-6. いじめをしないなどの正義感を養う	主に家庭で行うべきである	59.3%	58.9%	67.5%	62.8%	
	主に学校で行うべきである	40.1%	39.7%	31.3%	36.1%	
	主に地域で行うべきである	0.0%	0.3%	0.1%	0.2%	
	わからない	0.6%	1.0%	1.1%	0.9%	
2-7. 他の人たちと協力しあう姿勢を養う	主に家庭で行うべきである	27.4%	26.9%	30.0%	28.4%	
	主に学校で行うべきである	70.6%	70.5%	66.8%	68.9%	
	主に地域で行うべきである	1.1%	1.8%	2.1%	1.8%	
	わからない	0.8%	0.8%	1.1%	0.9%	
2-8. 働くことの大切さを教える	主に家庭で行うべきである	75.4%	73.0%	73.6%	73.9%	
	主に学校で行うべきである	18.2%	19.1%	18.9%	18.8%	
	主に地域で行うべきである	3.2%	4.9%	4.9%	4.5%	
	わからない	3.1%	2.9%	2.6%	2.8%	
2-9. 社会のルールを教える	主に家庭で行うべきである	64.6%	65.7%	70.5%	67.5%	
	主に学校で行うべきである	29.8%	27.2%	22.9%	26.0%	
	主に地域で行うべきである	2.9%	5.5%	4.8%	4.5%	
	わからない	2.6%	1.7%	1.8%	2.0%	
	1234	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
2-10. 地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う	主に家庭で行うべきである	44.8%	44.5%	46.2%	45.3%	
	主に学校で行うべきである	30.2%	33.8%	32.3%	32.2%	
	主に地域で行うべきである	19.5%	16.5%	16.8%	17.5%	
	わからない	5.4%	5.2%	4.6%	5.0%	
2-11. 欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う	主に家庭で行うべきである	97.8%	96.7%	97.8%	97.5%	
	主に学校で行うべきである	1.6%	2.8%	1.7%	2.0%	
	主に地域で行うべきである	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	
	わからない	0.6%	0.5%	0.4%	0.5%	
2-12. 人間としての「生き方」を教える	主に家庭で行うべきである	82.5%	84.0%	83.9%	83.6%	
	主に学校で行うべきである	13.4%	11.0%	11.9%	12.0%	
	主に地域で行うべきである	0.6%	1.4%	0.7%	0.9%	
	わからない	3.5%	3.6%	3.4%	3.5%	
2-13. 自分の住んでいる地域を大切に する気持ちを培う	主に家庭で行うべきである	47.5%	47.8%	49.9%	48.7%	
	主に学校で行うべきである	16.3%	18.1%	14.7%	16.1%	
	主に地域で行うべきである	30.6%	28.9%	30.2%	29.9%	
	わからない	5.5%	5.1%	5.2%	5.3%	
2-14. 危険な遊びや不審者に注意す るよう促すなど身を守る意識を養う	1234	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	主に家庭で行うべきである	72.0%	75.9%	77.5%	75.6%	
	主に学校で行うべきである	22.9%	20.8%	17.9%	20.1%	
2-14. 危険な遊びや不審者に注意す るよう促すなど身を守る意識を養う	主に学校で行うべきである	4.2%	2.6%	3.7%	3.5%	
	主に地域で行うべきである	0.9%	0.7%	0.9%	0.8%	
	わからない	0.9%	0.7%	0.9%	0.8%	
2-14. 危険な遊びや不審者に注意す るよう促すなど身を守る意識を養う	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

【資料】 保護者調査結果集計表

3. 実際に、次のような「しつけ」を行っているのは、主にどこだと思いますか。	3-1. 早寝、早起きなどをしつける	主に家庭で行っている	98.8%	98.8%	90.3%	95.0%
		主に学校で行っている	0.7%	0.7%	0.4%	0.5%
		主に地域で行っている	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
		あまり行われていない	0.6%	0.5%	9.3%	4.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	3-2. 食事の仕方(箸の持ち方など)や手洗いなどの習慣を身につけさせる	主に家庭で行っている	96.2%	97.1%	89.8%	93.6%
		主に学校で行っている	3.3%	2.9%	1.3%	2.3%
		主に地域で行っている	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
		あまり行われていない	0.4%	0.1%	8.8%	4.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	3-3. あいさつや謝りの仕方を身につけさせる	主に家庭で行っている	87.6%	88.3%	81.9%	85.3%
		主に学校で行っている	11.6%	11.5%	9.1%	10.5%
		主に地域で行っている	0.5%	0.2%	0.2%	0.3%
		あまり行われていない	0.3%	0.0%	8.7%	4.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-4. 善悪のけじめをつけさせる	主に家庭で行っている	87.7%	87.5%	82.5%	85.3%	
	主に学校で行っている	11.8%	12.3%	10.0%	11.1%	
	主に地域で行っている	0.0%	0.1%	0.2%	0.1%	
	あまり行われていない	0.5%	0.1%	7.4%	3.4%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-5. 他人の気持ちや立場を思いやる心を培う	主に家庭で行っている	63.9%	61.6%	61.9%	62.3%	
	主に学校で行っている	35.5%	38.1%	31.1%	34.3%	
	主に地域で行っている	0.2%	0.1%	0.3%	0.2%	
	あまり行われていない	0.5%	0.2%	6.7%	3.1%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-6. いじめをしないなどの正義感を養う	主に家庭で行っている	51.0%	51.2%	53.4%	52.1%	
	主に学校で行っている	47.9%	48.2%	43.2%	46.0%	
	主に地域で行っている	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	
	あまり行われていない	0.8%	0.5%	3.3%	1.8%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-7. 他の人たちと協力しあう姿勢を養う	主に家庭で行っている	25.0%	26.6%	27.8%	26.7%	
	主に学校で行っている	73.0%	72.4%	68.1%	70.7%	
	主に地域で行っている	0.9%	0.9%	0.9%	0.9%	
	あまり行われていない	1.2%	0.1%	3.2%	1.7%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-8. 働くことの大切さを教える	主に家庭で行っている	68.8%	69.0%	61.7%	65.7%	
	主に学校で行っている	24.2%	24.8%	25.9%	25.1%	
	主に地域で行っている	1.9%	2.1%	2.9%	2.4%	
	あまり行われていない	5.1%	4.1%	9.6%	6.8%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-9. 社会のルールを教える	主に家庭で行っている	58.3%	58.1%	57.8%	58.0%	
	主に学校で行っている	37.0%	37.7%	33.8%	35.8%	
	主に地域で行っている	1.5%	2.4%	2.4%	2.2%	
	あまり行われていない	3.1%	1.7%	6.1%	4.0%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-10. 地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う	主に家庭で行っている	38.2%	37.9%	34.8%	36.6%	
	主に学校で行っている	40.5%	44.3%	41.1%	41.9%	
	主に地域で行っている	12.2%	11.1%	12.7%	12.1%	
	あまり行われていない	9.0%	6.7%	11.4%	9.4%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-11. 欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う	主に家庭で行っている	94.6%	95.8%	87.8%	92.0%	
	主に学校で行っている	4.7%	3.9%	3.0%	3.7%	
	主に地域で行っている	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	
	あまり行われていない	0.7%	0.3%	9.1%	4.3%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-12. 人間としての「生き方」を教える	主に家庭で行っている	76.3%	78.2%	71.7%	74.9%	
	主に学校で行っている	17.6%	16.3%	17.0%	16.9%	
	主に地域で行っている	0.3%	0.7%	0.8%	0.6%	
	あまり行われていない	5.7%	4.8%	10.6%	7.6%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-13. 自分の住んでいる地域を大切に する気持ちを培う	主に家庭で行っている	41.7%	41.2%	39.6%	40.6%	
	主に学校で行っている	30.5%	32.4%	28.7%	30.3%	
	主に地域で行っている	16.7%	16.4%	17.2%	16.8%	
	あまり行われていない	11.1%	10.0%	14.4%	12.2%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
3-14. 危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う	主に家庭で行っている	63.6%	62.8%	65.7%	64.3%	
	主に学校で行っている	34.2%	35.0%	31.8%	33.4%	
	主に地域で行っている	2.0%	1.5%	1.9%	1.8%	
	あまり行われていない	0.2%	0.7%	0.6%	0.5%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

4. あなたのお子さんに対するしつけの様子についてお聞かせください。	4-1. 朝ご飯は必ず作って子どもに食べさせている	当てはまる	95.7%	94.7%	92.5%	94.0%
		当てはまらない	4.3%	5.3%	7.5%	6.0%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	4-2. 学校の持ち物を確認してあげている	当てはまる	74.0%	60.4%	34.8%	52.6%
		当てはまらない	26.0%	39.6%	65.2%	47.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	4-3. 年長者を尊敬するように教えている	当てはまる	85.9%	88.9%	89.2%	88.3%
		当てはまらない	14.1%	11.1%	10.8%	11.7%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	4-4. 善いことと悪いことをしっかり教えている	当てはまる	99.4%	99.6%	99.3%	99.4%
		当てはまらない	0.6%	0.4%	0.7%	0.6%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	4-5. 善いことをしたら、必ずほめている	当てはまる	98.6%	97.1%	96.9%	97.4%
当てはまらない		1.4%	2.9%	3.1%	2.6%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
4-6. 悪いことをしたら、必ず叱っている	当てはまる	99.2%	99.5%	98.6%	99.0%	
	当てはまらない	0.8%	0.5%	1.4%	1.0%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
4-7. テレビ視聴時間やゲーム使用時間等を決めている	当てはまる	70.9%	63.7%	54.3%	61.4%	
	当てはまらない	29.1%	36.3%	45.7%	38.6%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
4-8. 家事を分担させている	当てはまる	58.0%	58.8%	52.2%	55.7%	
	当てはまらない	42.0%	41.2%	47.8%	44.3%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
4-9. 食事や服装などよく気遣っている	当てはまる	90.9%	91.0%	87.2%	89.3%	
	当てはまらない	9.1%	9.0%	12.8%	10.7%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
4-10. なるべく自分で何でも行うよう留意している	当てはまる	90.8%	91.1%	89.8%	90.5%	
	当てはまらない	9.2%	8.9%	10.2%	9.5%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
4-11. 勉強するよう促している	当てはまる	89.8%	86.9%	81.2%	85.1%	
	当てはまらない	10.2%	13.1%	18.8%	14.9%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
4-12. 人間としての「生き方」を教えている	当てはまる	78.9%	82.5%	81.6%	81.2%	
	当てはまらない	21.1%	17.5%	18.4%	18.8%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
4-13. 自分の住んでいる地域を大切にしている	当てはまる	53.2%	55.5%	56.0%	55.1%	
	当てはまらない	46.8%	44.5%	44.0%	44.9%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
5. あなたのお子さん(このアンケート用紙を持ってきたお子さん)についてお聞かせください。	5-1. 親の言うことを素直に聞く	とても当てはまる	26.7%	26.4%	26.4%	26.5%
		少し当てはまる	57.8%	58.0%	58.7%	58.2%
		あまり当てはまらない	13.3%	13.9%	12.7%	13.2%
		まったく当てはまらない	1.5%	1.2%	1.6%	1.5%
		無回答	0.7%	0.5%	0.5%	0.5%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	5-2. 先生の言うことを素直に聞く	とても当てはまる	56.1%	47.8%	39.5%	46.3%
		少し当てはまる	38.4%	45.3%	51.8%	46.4%
		あまり当てはまらない	4.1%	5.5%	7.2%	5.9%
		まったく当てはまらない	0.3%	0.3%	0.6%	0.5%
		無回答	1.1%	1.1%	0.8%	1.0%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	5-3. 自分勝手な考えや行動をしない	とても当てはまる	27.6%	31.6%	36.0%	32.5%
		少し当てはまる	56.0%	54.4%	51.6%	53.6%
		あまり当てはまらない	14.0%	12.4%	11.1%	12.3%
		まったく当てはまらない	1.9%	0.8%	0.8%	1.1%
		無回答	0.6%	0.8%	0.5%	0.6%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	5-4. 決められたルールをよく守る	とても当てはまる	42.9%	42.0%	44.7%	43.4%
		少し当てはまる	45.4%	48.2%	46.0%	46.5%
あまり当てはまらない		10.2%	8.6%	8.3%	8.9%	
まったく当てはまらない		1.1%	0.8%	0.5%	0.7%	
無回答		0.3%	0.5%	0.5%	0.5%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
5-5. ともだちが多い	とても当てはまる	41.4%	43.6%	41.0%	41.9%	
	少し当てはまる	43.3%	42.1%	42.3%	42.5%	
	あまり当てはまらない	13.8%	12.4%	14.3%	13.6%	
	まったく当てはまらない	0.8%	1.2%	1.9%	1.4%	
	無回答	0.8%	0.7%	0.4%	0.6%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

【資料】 保護者調査結果集計表

5. あなたのお子さん (このアンケート用紙 を持ってきたお子さん) についてお聞かせ ください。(つづき)	5-6. はじめての人ともすぐともだち になれる	とても当てはまる	35.0%	32.4%	26.7%	30.5%
		少し当てはまる	35.6%	40.4%	40.6%	39.3%
		あまり当てはまらない	24.1%	22.5%	28.1%	25.4%
		まったく当てはまらない	4.6%	4.0%	4.0%	4.2%
		無回答	0.7%	0.7%	0.6%	0.6%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	5-7. 外でよく遊ぶ	とても当てはまる	46.8%	41.6%	25.1%	35.6%
		少し当てはまる	31.9%	32.8%	32.6%	32.5%
		あまり当てはまらない	17.6%	21.7%	32.4%	25.4%
		まったく当てはまらない	3.1%	3.3%	9.4%	6.0%
		無回答	0.7%	0.7%	0.4%	0.5%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	5-8. 早寝・早起(はやね・はやおき) ができる	とても当てはまる	41.5%	32.6%	25.2%	31.6%
		少し当てはまる	36.3%	38.3%	35.7%	36.6%
		あまり当てはまらない	18.7%	24.3%	31.5%	26.0%
まったく当てはまらない		2.9%	4.4%	7.2%	5.2%	
無回答		0.7%	0.5%	0.5%	0.5%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
5-9. 自分のことは自分でできる	とても当てはまる	41.0%	41.0%	44.3%	42.5%	
	少し当てはまる	46.8%	46.3%	43.8%	45.3%	
	あまり当てはまらない	10.7%	11.3%	10.5%	10.8%	
	まったく当てはまらない	1.1%	0.9%	1.0%	1.0%	
	無回答	0.4%	0.6%	0.3%	0.4%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
5-10. 学校の勉強はよくできる方だ と思う	とても当てはまる	21.9%	19.2%	14.8%	18.0%	
	少し当てはまる	53.0%	50.2%	39.2%	46.1%	
	あまり当てはまらない	20.6%	26.3%	34.5%	28.4%	
	まったく当てはまらない	3.7%	3.6%	10.9%	6.9%	
	無回答	0.8%	0.6%	0.6%	0.6%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
5-11. 自分で進んで学習できる	とても当てはまる	20.2%	20.4%	21.8%	21.0%	
	少し当てはまる	42.1%	39.7%	35.0%	38.3%	
	あまり当てはまらない	31.9%	32.7%	32.8%	32.5%	
	まったく当てはまらない	5.3%	6.3%	9.7%	7.5%	
	無回答	0.4%	0.9%	0.6%	0.6%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
5-12. 学校に行くのが楽しい	とても当てはまる	58.2%	52.9%	43.6%	50.2%	
	少し当てはまる	32.5%	37.1%	44.0%	39.0%	
	あまり当てはまらない	7.7%	8.0%	10.1%	8.8%	
	まったく当てはまらない	1.0%	1.2%	1.6%	1.3%	
	無回答	0.7%	0.9%	0.6%	0.7%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
5-13. 勉強以外に得意なことがある	とても当てはまる	51.0%	53.0%	46.0%	49.4%	
	少し当てはまる	37.3%	34.9%	40.1%	37.8%	
	あまり当てはまらない	9.7%	10.6%	11.6%	10.8%	
	まったく当てはまらない	1.4%	0.9%	1.9%	1.5%	
	無回答	0.6%	0.7%	0.4%	0.5%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
6. あなた自身の普段 の行動についてお聞か せください。	6-1. 外出中に、ゴミやタバコのポイ 捨てをしない	とても当てはまる	92.2%	93.1%	92.4%	92.5%
		少し当てはまる	5.7%	4.9%	5.2%	5.2%
		あまり当てはまらない	0.7%	0.5%	0.7%	0.6%
		まったく当てはまらない	1.1%	1.1%	1.4%	1.2%
		無回答	0.3%	0.5%	0.3%	0.4%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	6-2. 電車などでは高齢者に席を譲る 方である	とても当てはまる	54.0%	54.4%	52.1%	53.3%
		少し当てはまる	36.9%	37.1%	39.3%	38.0%
		あまり当てはまらない	7.3%	7.3%	7.2%	7.2%
		まったく当てはまらない	1.1%	0.6%	0.7%	0.8%
		無回答	0.8%	0.6%	0.7%	0.7%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	6-3. 家事は毎日手抜きをせずに行っ ている	とても当てはまる	20.5%	17.1%	18.7%	18.7%
		少し当てはまる	52.1%	52.5%	53.8%	53.0%
		あまり当てはまらない	24.1%	26.3%	24.6%	25.0%
まったく当てはまらない		2.9%	3.8%	2.4%	2.9%	
無回答		0.4%	0.3%	0.5%	0.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
6-4. 夫婦の対話を大切にしている	とても当てはまる	32.5%	27.4%	27.3%	28.7%	
	少し当てはまる	39.5%	40.7%	38.1%	39.3%	
	あまり当てはまらない	17.8%	19.6%	20.6%	19.6%	
	まったく当てはまらない	6.8%	8.2%	9.4%	8.4%	
	無回答	3.4%	4.1%	4.6%	4.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

6. あなた自身の普段の行動についてお聞かせください。(つづき)	6-5. わが子の学級担任の話を受け入れる方である	とても当てはまる	53.4%	50.6%	45.4%	49.0%
		少し当てはまる	41.0%	45.0%	48.9%	45.7%
		あまり当てはまらない	4.3%	2.9%	4.5%	4.0%
		まったく当てはまらない	0.4%	0.8%	0.5%	0.5%
		無回答	0.9%	0.7%	0.8%	0.8%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	6-6. 公民館などの公共施設をよく利用している	とても当てはまる	15.6%	14.2%	9.0%	12.3%
		少し当てはまる	27.9%	30.5%	24.4%	27.1%
		あまり当てはまらない	39.6%	39.7%	45.9%	42.4%
		まったく当てはまらない	16.4%	15.2%	20.2%	17.7%
		無回答	0.4%	0.4%	0.5%	0.4%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	6-7. 地域の祭や行事で積極的に参加している	とても当てはまる	25.5%	21.8%	15.9%	20.1%
		少し当てはまる	37.8%	38.1%	34.8%	36.6%
		あまり当てはまらない	28.9%	30.6%	34.1%	31.7%
まったく当てはまらない		7.4%	9.0%	14.9%	11.2%	
無回答		0.3%	0.5%	0.4%	0.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
6-8. 子育てサークルや子供会活動にかかわっている	とても当てはまる	19.3%	19.9%	12.8%	16.6%	
	少し当てはまる	23.0%	22.1%	22.2%	22.4%	
	あまり当てはまらない	32.2%	32.4%	35.0%	33.5%	
	まったく当てはまらない	25.1%	25.3%	29.5%	27.1%	
	無回答	0.4%	0.4%	0.5%	0.5%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
6-9. 近所の子どもや大人には挨拶するようにしている	とても当てはまる	65.6%	65.3%	62.5%	64.1%	
	少し当てはまる	30.6%	29.6%	32.1%	31.0%	
	あまり当てはまらない	3.0%	4.1%	4.0%	3.8%	
	まったく当てはまらない	0.3%	0.4%	0.8%	0.5%	
	無回答	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
6-10. 近所の子どもの面倒をよく見ている方である	とても当てはまる	15.2%	11.8%	9.6%	11.7%	
	少し当てはまる	37.7%	35.6%	29.7%	33.5%	
	あまり当てはまらない	35.6%	39.0%	43.3%	40.0%	
	まったく当てはまらない	10.8%	12.8%	16.7%	14.0%	
	無回答	0.7%	0.9%	0.7%	0.7%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
6-11. わが子の友達の親とはよく連絡をとっている	とても当てはまる	25.4%	23.4%	21.3%	23.0%	
	少し当てはまる	40.6%	39.3%	38.5%	39.3%	
	あまり当てはまらない	26.4%	29.2%	29.7%	28.7%	
	まったく当てはまらない	6.7%	7.6%	9.9%	8.4%	
	無回答	0.9%	0.6%	0.6%	0.7%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
6-12. 学校に多少の不満があっても我慢している方である	とても当てはまる	26.5%	23.9%	25.4%	25.3%	
	少し当てはまる	52.0%	52.7%	54.2%	53.2%	
	あまり当てはまらない	17.9%	18.8%	16.9%	17.7%	
	まったく当てはまらない	3.0%	3.7%	2.6%	3.0%	
	無回答	0.6%	1.0%	0.8%	0.8%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
6-13. 朝、どんなことがあってもわが子よりも早く起床する	とても当てはまる	58.2%	61.4%	64.2%	61.8%	
	少し当てはまる	30.1%	27.1%	23.9%	26.5%	
	あまり当てはまらない	10.1%	9.2%	9.2%	9.5%	
	まったく当てはまらない	1.2%	1.7%	2.3%	1.9%	
	無回答	0.3%	0.5%	0.4%	0.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
6-14. 他人の悪口を言わないよう気をつけている	とても当てはまる	33.9%	31.9%	31.2%	32.1%	
	少し当てはまる	52.6%	54.5%	54.8%	54.1%	
	あまり当てはまらない	11.7%	11.6%	11.8%	11.7%	
	まったく当てはまらない	1.3%	1.7%	1.7%	1.6%	
	無回答	0.6%	0.4%	0.6%	0.5%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
6-15. 事情によっては他人に事実と違うことを言うことがある	とても当てはまる	8.9%	10.6%	8.0%	9.0%	
	少し当てはまる	44.6%	41.9%	46.1%	44.4%	
	あまり当てはまらない	35.3%	36.4%	34.3%	35.2%	
	まったく当てはまらない	10.5%	10.3%	10.9%	10.6%	
	無回答	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

【資料】 保護者調査結果集計表

7. あなたはわが子に対して、つぎのような言葉かけをしますか。	よくする言葉かけ1つ目	勉強しなさい	30.1%	31.9%	40.3%	35.2%
		早くしなさい	37.7%	32.4%	19.3%	28.0%
		いうことききなさい	1.1%	1.5%	1.1%	1.2%
		なんでもできないの	0.4%	0.4%	0.5%	0.4%
		しっかりしなさい	1.0%	2.1%	2.5%	2.0%
		えらいね	5.6%	5.9%	5.0%	5.4%
		ありがとう	11.8%	15.5%	18.7%	16.0%
		良い子だね	0.7%	0.2%	0.5%	0.4%
		すごいね	4.8%	5.5%	5.8%	5.5%
		がんばったね	2.0%	1.7%	2.8%	2.3%
		やればできる	2.0%	0.9%	1.2%	1.3%
		じぶんでかんがえなさい	1.8%	0.9%	1.0%	1.2%
		無回答	1.0%	1.1%	1.4%	1.2%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	よくする言葉かけ2つ目	勉強しなさい	1.9%	1.7%	1.7%	1.8%
		早くしなさい	16.8%	17.1%	18.2%	17.5%
		いうことききなさい	3.6%	3.4%	1.6%	2.7%
		なんでもできないの	3.1%	3.5%	1.1%	2.3%
		しっかりしなさい	2.4%	3.2%	3.9%	3.3%
		えらいね	4.7%	3.5%	1.7%	3.0%
		ありがとう	25.9%	26.0%	23.5%	24.8%
		良い子だね	1.3%	1.4%	1.2%	1.3%
		すごいね	15.0%	14.3%	14.0%	14.3%
		がんばったね	12.3%	13.4%	15.3%	13.9%
		やればできる	8.5%	8.2%	12.8%	10.3%
		じぶんでかんがえなさい	3.3%	2.8%	3.0%	3.0%
		無回答	1.2%	1.5%	1.9%	1.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	よくする言葉かけ3つ目	勉強しなさい	2.8%	2.0%	1.9%	2.2%
		早くしなさい	3.9%	3.9%	2.3%	3.2%
		いうことききなさい	1.9%	2.1%	1.4%	1.7%
		なんでもできないの	1.8%	1.6%	1.6%	1.6%
		しっかりしなさい	1.1%	1.5%	2.3%	1.8%
		えらいね	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%
		ありがとう	11.4%	9.4%	8.5%	9.6%
		良い子だね	1.5%	1.5%	1.2%	1.3%
		すごいね	14.0%	12.1%	8.9%	11.2%
		がんばったね	17.1%	16.4%	15.8%	16.3%
		やればできる	16.6%	17.7%	24.0%	20.2%
		じぶんでかんがえなさい	24.9%	28.6%	27.6%	27.2%
		無回答	1.8%	1.8%	3.2%	2.4%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
8. あなたと、お子さんが通っている学校との関わりについて、おたずねします。	8-1. 運動会や授業参観等の学校行事によく参加する方である	とても当てはまる	69.6%	66.2%	42.5%	56.6%
		少し当てはまる	24.8%	28.9%	42.0%	33.6%
		あまり当てはまらない	4.4%	4.1%	12.3%	7.8%
		まったく当てはまらない	0.3%	0.4%	2.4%	1.3%
		無回答	0.9%	0.5%	0.8%	0.7%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	8-2. 保護者会や懇談会等によく参加する方である	とても当てはまる	34.9%	32.2%	21.1%	28.0%
		少し当てはまる	31.4%	32.6%	35.1%	33.4%
		あまり当てはまらない	25.1%	26.1%	32.4%	28.6%
		まったく当てはまらない	8.0%	8.6%	10.8%	9.4%
		無回答	0.7%	0.5%	0.6%	0.6%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	8-3. PTA活動には積極的に関わっている方である	とても当てはまる	18.6%	19.0%	14.4%	16.8%
		少し当てはまる	34.7%	38.4%	30.7%	34.0%
		あまり当てはまらない	32.3%	29.8%	38.5%	34.3%
		まったく当てはまらない	13.8%	12.2%	15.8%	14.2%
		無回答	0.7%	0.6%	0.6%	0.6%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	8-4. 学校支援ボランティアとして活動している	とても当てはまる	6.6%	7.1%	3.6%	5.4%
		少し当てはまる	12.8%	12.1%	8.5%	10.7%
		あまり当てはまらない	31.9%	29.9%	37.0%	33.6%
まったく当てはまらない		48.1%	50.1%	50.1%	49.6%	
無回答		0.7%	0.7%	0.9%	0.8%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
8-5. 担任の先生の姓名(フルネーム)を知っている	とても当てはまる	56.1%	46.0%	42.0%	46.9%	
	少し当てはまる	16.7%	19.1%	24.5%	20.9%	
	あまり当てはまらない	17.2%	23.6%	22.4%	21.4%	
	まったく当てはまらない	9.0%	10.8%	10.3%	10.1%	
	無回答	1.0%	0.5%	0.7%	0.7%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

8. あなたと、お子さんが通っている学校との関わりについて、おたずねします。(つづき)	8-6.「学校・学級だより」などには目を通して	とても当てはまる	73.2%	66.4%	56.5%	63.8%
		少し当てはまる	22.1%	25.9%	31.2%	27.3%
		あまり当てはまらない	3.2%	6.2%	9.8%	7.0%
		まったく当てはまらない	0.9%	0.8%	1.9%	1.3%
		無回答	0.7%	0.7%	0.6%	0.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	8-7.毎日の給食メニューを知っている	とても当てはまる	12.2%	13.2%	11.4%	12.1%
		少し当てはまる	31.5%	28.8%	21.8%	26.4%
		あまり当てはまらない	35.3%	36.6%	34.8%	35.5%
		まったく当てはまらない	20.4%	20.7%	28.6%	24.1%
無回答		0.7%	0.7%	3.4%	1.9%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
9. あなたは、学校に不満や問題があると感じた時に、苦情・要望を学校に申し出たことがありますか。	苦情の有無	無し	69.5%	69.1%	71.4%	70.2%
		有り	30.5%	30.9%	28.6%	29.8%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	9-1.年を問わず、過去に申し出た回数	0.683回	0.693回	0.586回	0.642回	
9-2.昨年に申し出た回数	0.275回	0.212回	0.142回	0.197回		
10. あなたは、自分以外も含めて、保護者が次のような理由で苦情や要望を学校に申し出ることをどう考えますか。	10-1.わが子と仲のよくない子どもが同じクラスになったので、クラス替えをして欲しい	当然だと思う	0.7%	1.8%	0.8%	1.0%
		ある程度は当然だと思う	8.0%	8.6%	9.7%	8.9%
		あまり望ましくない	33.1%	32.8%	34.5%	33.6%
		望ましくない	58.2%	56.9%	55.0%	56.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	10-2.わが子を攻撃(いじめ・暴力)し続ける子どもがいるので、十分指導して欲しい	当然だと思う	58.8%	61.6%	54.7%	57.8%
		ある程度は当然だと思う	36.9%	35.1%	39.1%	37.3%
		あまり望ましくない	3.4%	2.2%	4.6%	3.6%
		望ましくない	0.9%	1.1%	1.6%	1.3%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	10-3.わが子が親の言うことを聞かないので、学校で十分指導して欲しい	当然だと思う	1.2%	1.9%	1.3%	1.4%
		ある程度は当然だと思う	11.5%	12.3%	13.9%	12.8%
		あまり望ましくない	33.2%	32.2%	34.7%	33.6%
		望ましくない	54.1%	53.7%	50.2%	52.2%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	10-4.卒業アルバムにわが子の学校生活に関する写真が1枚もなかったので、アルバムを作り直して欲しい	当然だと思う	4.9%	4.7%	3.6%	4.3%
ある程度は当然だと思う		21.5%	19.1%	15.0%	17.9%	
あまり望ましくない		31.1%	29.9%	31.3%	30.8%	
望ましくない		42.6%	46.3%	50.2%	47.0%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
11. コミュニティ・スクールについて、どの程度ご存じですか。	いままで、「コミュニティ・スクール」という言葉も聞いたことがなかった	57.1%	55.7%	49.9%	53.5%	
	コミュニティ・スクールの言葉は聞いたことがあるが、どのような仕組みかは知らない	30.7%	31.7%	35.8%	33.2%	
	コミュニティ・スクールの意義等についてよく知っているが、自分に関わっていない	10.3%	10.5%	12.2%	11.2%	
	コミュニティ・スクールに何らかの形で関わっている(委員以外の形の関わりも含む)	1.9%	2.1%	2.2%	2.1%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
12. 家庭との連携にも関係するコミュニティ・スクールに関する質問	コミュニティ・スクールに置かれる学校運営協議会等(地域や保護者の学校運営参画を実現する仕組みをもつ)が担う役割のうち、あなたが重要だと思うものを一つ選んでください。	学校の先生方の任用(人事)に関して意見を申し出ること	14.6%	14.2%	14.9%	14.6%
	学校運営について校長や教育委員会に意見を申し出ること	60.6%	56.3%	57.1%	57.8%	
	校長が作成した学校運営の基本方針を承認すること	24.9%	29.5%	28.0%	27.6%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
13. 学校運営協議会等(コミュニティ・スクール)の仕組みについてどう思いますか。	A.	地域・保護者が学校運営に参画すべきである	58.0%	57.8%	59.2%	58.5%
		学校運営は学校に任せるべきである	42.0%	42.2%	40.8%	41.5%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	B.	基本方針の「承認」は特色づくりにつながる	84.0%	81.9%	84.4%	83.6%
		基本方針の「承認」は校長の裁量権を狭める	16.0%	18.1%	15.6%	16.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	C.	教職員任用の意見申出でよい先生が着任してくる	43.3%	45.0%	45.4%	44.7%
		教職員任用の意見申出は人事を混乱させる	56.7%	55.0%	54.6%	55.3%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	D.	校長への意見申出で学校が活性化する	83.7%	81.9%	80.6%	81.8%
		校長への意見申出は学校の自律性を損なう	16.3%	18.1%	19.4%	18.2%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	E.	教育委員会への意見申出で学校が活性化する	82.4%	83.0%	78.7%	80.9%
		教育委員会への意見申出は教育委員会を混乱させる	17.6%	17.0%	21.3%	19.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【資料】 保護者調査結果集計表

14. 次の家庭教育に関する学習や支援等に関する学習や支援等に関することについて、おたずねします。	14-1.家庭教育に関する雑誌や本を読むようにしている	とても当てはまる	5.8%	5.6%	4.7%	5.3%
		少し当てはまる	32.0%	30.5%	28.3%	29.9%
		あまり当てはまらない	42.6%	44.8%	47.6%	45.5%
		まったく当てはまらない	18.7%	18.2%	18.1%	18.3%
		無回答	0.9%	0.9%	1.3%	1.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	14-2.家庭教育に関するテレビ番組やホームページを見るようにしている	とても当てはまる	5.3%	4.2%	4.2%	4.5%
		少し当てはまる	31.5%	33.1%	29.3%	31.0%
		あまり当てはまらない	46.2%	44.6%	48.2%	46.6%
		まったく当てはまらない	16.2%	17.4%	17.1%	16.9%
		無回答	0.9%	0.7%	1.3%	1.0%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	14-3.学校が保護者に対してしつけの在り方を示している	とても当てはまる	2.9%	2.6%	2.8%	2.8%
		少し当てはまる	30.7%	31.5%	30.3%	30.7%
		あまり当てはまらない	52.1%	52.4%	51.9%	52.1%
		まったく当てはまらない	12.0%	11.3%	12.3%	11.9%
		無回答	2.3%	2.2%	2.7%	2.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	14-4.自分自身の父母や祖父母から子育ての知恵を学んでいる	とても当てはまる	24.5%	22.2%	21.2%	22.4%
		少し当てはまる	49.7%	53.3%	53.3%	52.4%
		あまり当てはまらない	20.5%	18.8%	20.0%	19.7%
		まったく当てはまらない	4.0%	4.7%	4.1%	4.2%
		無回答	1.3%	1.2%	1.4%	1.3%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	14-5.地域の子育て経験者や高齢者などから子育ての知恵を学んでいる	とても当てはまる	8.6%	8.6%	8.0%	8.3%
		少し当てはまる	34.4%	33.6%	34.6%	34.3%
		あまり当てはまらない	39.1%	39.9%	39.8%	39.6%
		まったく当てはまらない	16.7%	17.0%	16.4%	16.6%
		無回答	1.2%	0.8%	1.4%	1.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	14-6.保護者同士の横のつながりから子育ての情報を得ている	とても当てはまる	27.5%	25.6%	23.7%	25.2%
		少し当てはまる	48.6%	52.8%	51.0%	50.9%
		あまり当てはまらない	18.4%	15.9%	17.6%	17.3%
		まったく当てはまらない	4.4%	5.0%	6.3%	5.4%
		無回答	1.1%	0.8%	1.5%	1.2%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	14-7.行政の子育て相談窓口に相談する	とても当てはまる	1.9%	1.6%	1.6%	1.6%
		少し当てはまる	8.3%	6.8%	6.9%	7.2%
		あまり当てはまらない	31.8%	29.3%	31.4%	30.8%
		まったく当てはまらない	56.9%	61.4%	58.6%	59.0%
		無回答	1.2%	1.0%	1.6%	1.3%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	14-8.公民館や児童館などが開催する子育て・教育に関する講座に参加している	とても当てはまる	2.0%	2.3%	1.3%	1.8%
		少し当てはまる	9.8%	9.2%	9.0%	9.3%
		あまり当てはまらない	33.4%	29.8%	31.3%	31.4%
まったく当てはまらない		53.6%	57.7%	57.0%	56.3%	
無回答		1.2%	0.9%	1.4%	1.2%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
14-9.地域の人たちがつくる家庭を支援する取り組みから子育ての知恵を学んでいる	とても当てはまる	1.7%	1.7%	1.7%	1.7%	
	少し当てはまる	10.9%	11.1%	10.1%	10.6%	
	あまり当てはまらない	36.9%	34.1%	35.5%	35.4%	
	まったく当てはまらない	49.5%	52.1%	50.9%	50.9%	
	無回答	1.1%	1.0%	1.7%	1.3%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
15. あなたのお子さんのパソコンやスマートフォン、また、それらによるインターネット利用について伺います。	15-1.インターネットの使い方について、家での約束を守っている	よくあった	42.9%	41.0%	31.0%	37.1%
		時々あった	29.3%	32.8%	41.4%	35.7%
		あまりなかった	11.8%	16.5%	17.8%	15.9%
		まったくなかった	10.0%	5.1%	5.5%	6.5%
		無回答	6.1%	4.6%	4.3%	4.8%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	15-2.いつも使っているパソコン・スマートフォン・携帯・タブレット端末に対して、フィルタリング(有害サイト等へのアクセス制限)を行っている	よくあった	43.5%	46.0%	44.3%	44.6%
		時々あった	12.5%	13.2%	18.4%	15.4%
		あまりなかった	13.2%	17.4%	15.9%	15.6%
		まったくなかった	24.3%	19.1%	16.7%	19.4%
		無回答	6.5%	4.3%	4.6%	5.0%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	15-3.詐欺サイト等で怖い思いをしたことがある	よくあった	1.2%	1.1%	1.1%	1.1%
		時々あった	2.9%	2.5%	3.3%	3.0%
		あまりなかった	9.0%	8.1%	10.5%	9.4%
まったくなかった		81.5%	84.7%	81.6%	82.5%	
無回答		5.4%	3.6%	3.4%	4.0%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

15. あなたのお子さんのパソコンやスマートフォン、また、それらによるインターネット利用について伺います。(つづき)	15-4. ネットでのいじめを身近で見聞きしたことがある	よくあった	2.3%	4.4%	5.4%	4.3%
		時々あった	9.9%	13.0%	18.5%	14.6%
		あまりなかった	15.8%	18.2%	22.2%	19.4%
		まったくなかった	66.4%	60.9%	50.2%	57.6%
		無回答	5.5%	3.5%	3.7%	4.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	15-5. スマートフォンのゲームで時間を使いすぎてしまう	よくあった	9.7%	13.5%	20.8%	15.8%
		時々あった	26.8%	29.8%	31.2%	29.6%
		あまりなかった	18.0%	18.2%	16.1%	17.2%
		まったくなかった	40.0%	34.9%	28.4%	33.4%
		無回答	5.4%	3.6%	3.5%	4.0%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	15-6. スマートフォンのゲームでお金を使いすぎてしまう	よくあった	0.2%	0.4%	0.9%	0.6%
		時々あった	1.8%	1.7%	2.5%	2.1%
		あまりなかった	5.9%	7.2%	11.1%	8.6%
まったくなかった		86.8%	86.9%	82.2%	84.8%	
無回答		5.3%	3.8%	3.4%	4.0%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
15-7. スマートフォンのゲームやSNSで寝不足になることがある	よくあった	0.8%	1.2%	4.7%	2.6%	
	時々あった	4.1%	7.8%	18.5%	11.6%	
	あまりなかった	11.7%	16.2%	23.0%	18.0%	
	まったくなかった	78.2%	70.9%	50.2%	63.6%	
	無回答	5.3%	3.9%	3.6%	4.1%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
16. あなた自身のパソコンやスマートフォンによるインターネット利用について選んで下さい。	16-1. 知りたくもないのに他の家族・教師の行動がわかってしまい困ったことがある	とても当てはまる	1.1%	1.4%	1.9%	1.5%
		少し当てはまる	6.5%	6.5%	6.3%	6.4%
		あまり当てはまらない	18.3%	19.5%	24.4%	21.4%
		まったく当てはまらない	72.6%	71.7%	65.3%	69.1%
		無回答	1.5%	0.9%	2.1%	1.6%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	16-2. 保護者間のSNSで教師や保護者・子どもの噂が流れて困ったことがある	とても当てはまる	0.7%	0.9%	1.4%	1.0%
		少し当てはまる	2.9%	3.3%	4.4%	3.7%
		あまり当てはまらない	14.0%	16.5%	19.4%	17.1%
		まったく当てはまらない	81.2%	78.4%	72.7%	76.6%
		無回答	1.3%	0.9%	2.1%	1.5%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	16-3. 保護者間のSNSで、メッセージが来たら直ぐに返事を書かなければならず困ったことがある	とても当てはまる	1.2%	1.5%	2.0%	1.6%
		少し当てはまる	8.4%	7.0%	6.7%	7.2%
		あまり当てはまらない	18.5%	19.9%	24.2%	21.5%
		まったく当てはまらない	70.6%	70.7%	64.9%	68.1%
		無回答	1.3%	1.0%	2.1%	1.6%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	16-4. 自分が書いた内容について、後から「あれでよかったのか」など悩む	とても当てはまる	4.0%	3.7%	3.5%	3.7%
		少し当てはまる	25.4%	22.6%	23.7%	23.8%
		あまり当てはまらない	24.2%	25.2%	26.2%	25.4%
		まったく当てはまらない	44.8%	47.5%	44.3%	45.4%
		無回答	1.7%	1.0%	2.3%	1.8%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
16-5. インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念されると思う	とても当てはまる	7.9%	8.1%	9.8%	8.8%	
	少し当てはまる	34.8%	36.0%	36.9%	36.1%	
	あまり当てはまらない	35.9%	38.7%	37.6%	37.4%	
	まったく当てはまらない	19.7%	16.4%	13.7%	16.1%	
	無回答	1.8%	0.9%	2.0%	1.6%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
16-6. 子どもたちのコミュニケーション不足は、インターネット社会と関係があると思う	とても当てはまる	19.9%	19.4%	24.4%	21.8%	
	少し当てはまる	44.6%	45.9%	49.5%	47.1%	
	あまり当てはまらない	22.8%	23.1%	17.1%	20.4%	
	まったく当てはまらない	11.1%	10.5%	6.9%	9.1%	
	無回答	1.7%	1.1%	2.1%	1.7%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
16-7. 子どもたちは、インターネットを用いることでより豊かな交友関係を広げていけると思う	とても当てはまる	1.3%	0.9%	2.9%	1.9%	
	少し当てはまる	20.7%	20.3%	26.7%	23.2%	
	あまり当てはまらない	52.0%	54.6%	50.9%	52.3%	
	まったく当てはまらない	24.4%	22.7%	17.5%	20.8%	
	無回答	1.5%	1.5%	2.1%	1.8%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
16-8. 子どもたちが、インターネットで様々な情報を得られることのメリットは大きいと思う	とても当てはまる	8.6%	7.8%	9.0%	8.5%	
	少し当てはまる	48.4%	53.3%	55.3%	52.9%	
	あまり当てはまらない	31.1%	29.6%	28.2%	29.4%	
	まったく当てはまらない	10.2%	7.7%	5.4%	7.3%	
	無回答	1.7%	1.7%	2.1%	1.9%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

【資料】 保護者調査結果集計表

17. あなたは、先週、わが子を含んで家族と一緒に買い物や遊びに、何日行きましたか。	0.5日	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	
	1日	21.8%	32.1%	50.9%	36.8%	
	1.5日	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	
	2日	40.6%	37.3%	29.3%	35.0%	
	2.3日	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	
	2.5日	0.5%	0.1%	0.1%	0.2%	
	3日	20.6%	16.3%	12.3%	15.9%	
	3.5日	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%	
	4日	9.2%	9.0%	3.6%	6.9%	
	5日	3.3%	3.0%	1.7%	2.6%	
	5.5日	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	
	6日	1.0%	0.9%	0.6%	0.8%	
	7日	2.7%	1.2%	1.0%	1.5%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
18. あなたは、普段の日に、わが子とどれくらい話をしますか。	30分未満	6.1%	6.8%	12.3%	9.1%	
	30分～1時間程度	30.5%	31.4%	41.4%	35.6%	
	1時間～2時間未満	30.0%	27.9%	25.9%	27.5%	
	2時間～3時間未満	16.8%	18.2%	10.7%	14.5%	
	3時間以上	15.4%	15.1%	8.2%	12.1%	
	無回答	1.2%	0.7%	1.6%	1.2%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
19. あなたとわが子の会話についてお聞かせください。	19-1. 学校の出来事	よく話している	59.6%	58.4%	49.2%	54.6%
		ときどき話している	37.1%	37.1%	43.1%	39.7%
		あまり話していない	2.8%	4.0%	6.3%	4.7%
		まったく話していない	0.1%	0.4%	0.9%	0.5%
		無回答	0.4%	0.1%	0.6%	0.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	19-2. 地域の出来事	よく話している	9.2%	8.3%	6.5%	7.7%
		ときどき話している	32.6%	35.1%	28.1%	31.3%
		あまり話していない	44.8%	43.2%	47.1%	45.4%
		まったく話していない	12.4%	12.8%	17.5%	14.8%
		無回答	1.0%	0.6%	0.8%	0.8%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	19-3. 家庭の出来事	よく話している	53.0%	51.8%	42.8%	48.1%
		ときどき話している	41.5%	41.0%	48.2%	44.3%
		あまり話していない	4.5%	6.5%	7.6%	6.5%
		まったく話していない	0.4%	0.4%	1.0%	0.7%
		無回答	0.6%	0.3%	0.4%	0.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	19-4. 学校の友達のこと	よく話している	53.6%	52.6%	39.8%	47.1%
		ときどき話している	40.6%	41.9%	50.0%	45.2%
		あまり話していない	5.0%	4.4%	8.1%	6.2%
		まったく話していない	0.2%	1.0%	1.6%	1.0%
		無回答	0.7%	0.2%	0.5%	0.5%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	19-5. 勉強のこと	よく話している	32.0%	27.3%	26.3%	28.1%
		ときどき話している	49.9%	52.9%	52.8%	52.1%
		あまり話していない	15.1%	17.8%	17.4%	16.9%
		まったく話していない	2.2%	1.9%	3.0%	2.5%
		無回答	0.8%	0.1%	0.5%	0.5%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	19-6. わが子の遊びのこと	よく話している	41.4%	39.4%	20.6%	31.6%
		ときどき話している	49.0%	50.4%	52.4%	50.9%
		あまり話していない	8.3%	9.1%	23.6%	15.3%
		まったく話していない	0.6%	0.8%	2.7%	1.5%
		無回答	0.9%	0.3%	0.8%	0.7%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	19-7. わが子の遊びや好きなこと	よく話している	49.6%	47.3%	32.3%	41.3%
		ときどき話している	43.8%	46.2%	53.5%	48.8%
		あまり話していない	5.5%	5.7%	12.4%	8.6%
		まったく話していない	0.3%	0.5%	1.2%	0.8%
		無回答	0.8%	0.3%	0.6%	0.5%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	19-8. わが子の将来や夢に関するこ と	よく話している	17.6%	18.2%	17.0%	17.5%
		ときどき話している	45.8%	50.2%	53.1%	50.3%
		あまり話していない	30.6%	27.6%	25.5%	27.4%
		まったく話していない	5.3%	3.8%	3.9%	4.2%
		無回答	0.8%	0.2%	0.6%	0.5%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

20. お子さんの平日（1日）の自宅での学習時間の目安はどれくらいですか。	30分程度	37.2%	31.1%	20.1%	27.8%
	1時間程度	51.8%	53.1%	45.1%	49.2%
	2時間程度	8.0%	10.4%	24.0%	15.8%
	3時間以上	0.7%	1.9%	1.8%	1.5%
	ほとんどない	1.5%	3.1%	7.6%	4.7%
	無回答	0.8%	0.4%	1.4%	0.9%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
21. あなたには、教育や子育てに関する相談相手になってくれる人は何人くらいいますか。					

家庭教育に関する意識調査

－ 教職員用調査票 －

No. _____

この度、(公財)日本教材文化研究財団からの委託を受け、私たちは家庭教育に関する意識調査を計画いたしました。この調査は、近年低下しつつあると言われる「しつけ」をはじめとする家庭教育力の実態と保護者の意識を明らかにし、今後の家庭教育の充実を図るための参考資料を得ることを目的としています。

ご回答いただいた調査結果はすべて数的に処理いたしますので、ご氏名等の記入は必要なく、あなた個人にも学校にもご迷惑をおかけすることはありません。

ご回答いただく場合、原則として当てはまる事項の番号を○でお囲みください。ただし、数字をご記入いただく質問もあります。

このアンケート用紙は、ご回答いただきましたら、返信用封筒にて郵送くださるようお願いいたします（あるいは学校毎にまとめて郵送くださっても結構です）。

こうしたアンケートによって、先生方を益々ご多忙にしてしまうことは重々承知しておりますが、結果をお返しすることによってお仕事に活用いただけるよう配慮いたしますので、調査の趣旨をご理解の上、ぜひご回答くださいますよう御協力をお願い申し上げます。

平成27年10月

家庭教育活性化研究会 代表 日本大学教授 佐藤晴雄

顧問 帝京大学名誉教授 亀井浩明

お問い合わせ先

(公財)日本教材文化研究財団

住所 東京都新宿区払方町14-1

電話 (03) 5225-0255

1 最初に、あなたご自身のことについておたずねします。

F1 校種 1. 小学校 2. 中学校

F2 担当学年 _____ 年 ※担当学年はない場合は無記入

F3 性別 1. 男 2. 女

F4 職種 1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 主幹教諭等
4. 教諭（主任を含む。ただし、臨任教諭を除く）
5. 養護教諭（主幹等を含む） 6. 栄養教諭 7. 臨任教諭・講師（非常勤）
8. その他（ _____ ）

F5 教職員歴（年数） _____ 年 ※端数は切り上げ。初任は「1年」

F6 現在の勤務校在籍年数 _____ 年 ※端数は切り上げ

F7 勤務校までの通勤時間 約 _____ 分 ※「分」換算

F8 学級数 _____ 学級（特別支援学級を除く）

2 しつけ等家庭教育に対するお考えをお聞かせください。

- | | とても
そう思う | ある程度
そう思う | あまりそう
思わない | まったくそう
思わない |
|--|-------------|--------------|---------------|----------------|
| 2-1 一般的に見て、最近の子どもたちは、 <u>家庭</u> で十分な「しつけ」がなされていない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-2 一般的に見て、最近の子どもたちは、 <u>地域</u> で十分な「しつけ」がなされていない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-3 一般的に見て、最近の子どもたちは、 <u>学校</u> で十分な「しつけ」（児童・生徒指導）がなされていない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-4 非行・いじめ・自殺などの課題行動は、主に家庭のしつけ不足が要因となっている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-5 ニートや不登校・引きこもりなど社会にうまく適応できない若者が増加しているのは、主に家庭のしつけ不足が要因となっている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-6 学力低下や学習離れの要因のひとつに家庭環境の課題がある | 1 | 2 | 3 | 4 |

3 あなたは、次のようなことは、主に家庭、学校、地域のうちのどこで行うべきだと考えますか。

(選択肢の「地域」には、近所の大人や自治会・少年団体等を含みます。)

- | | 主に家庭で行
うべきである | 主に学校で行
うべきである | 主に地域の人たち
が行うべきである | わからない |
|-------------------------------------|------------------|------------------|----------------------|-------|
| 3-1 早寝、早起きなどをしつける | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-2 食事の仕方（箸の持ち方など）や手洗いなどの習慣を身につけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-3 あいさつや謝りの仕方を身につけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-4 善悪のけじめをつけさせる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-5 他人の気持ちや立場を思いやる心を培う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-6 いじめをしないなどの正義感を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-7 他の人たちと協力しあう姿勢を養う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-8 働くことの大切さを教える | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-9 社会のルールを教える | 1 | 2 | 3 | 4 |

【資料】③ 教職員用調査票

	主に家庭で行 うべきである	主に学校で行 うべきである	主に地域の人たち が行うべきである	わからない
3-10 地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う	1	2	3	4
3-11 欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う	1	2	3	4
3-12 人間としての「生き方」を教える	1	2	3	4
3-13 自分の住んでいる地域を大切にすることを培う	1	2	3	4
3-14 危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う	1	2	3	4

4 実際に、次のようなことを行っているのは、主にどこだと思いますか。最も当てはまる選択肢を一つだけ選んでください。（「地域」には、近所の大人や自治体・少年団体等を含みます。）

	主に家庭で 行っている	主に学校で 行っている	主に地域で 行っている	あまり行わ れていない
4-1 早寝、早起きなどをしつける	1	2	3	4
4-2 食事の仕方（箸の持ち方など）や手洗いなどの習慣を身につけさせる	1	2	3	4
4-3 あいさつや謝りの仕方を身につけさせる	1	2	3	4
4-4 善悪のけじめをつけさせる	1	2	3	4
4-5 他人の気持ちや立場を思いやる心を培う	1	2	3	4
4-6 いじめをしないなどの正義感を養う	1	2	3	4
4-7 他の人たちと協力しあう姿勢を養う	1	2	3	4
4-8 働くことの大切さを教える	1	2	3	4
4-9 社会のルールを教える	1	2	3	4
4-10 地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う	1	2	3	4
4-11 欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う	1	2	3	4

主に家庭で 主に学校で 主に地域で あまり行わ
 行っている 行っている 行っている れていない

- 4-12 人間としての「生き方」を教える 1——2——3——4
- 4-13 自分の住んでいる地域を大切にすゝる気持ちを培う 1——2——3——4
- 4-14 危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う 1——2——3——4

5 あなたは日頃、次のような児童・生徒が、以前よりも増えているとお感じですか。

とても 少し あまり まったく
 感じる 感じる 感じない 感じない

- 5-1 教師の言うことを素直に聞けない 1——2——3——4
- 5-2 宿題忘れや忘れ物が多い 1——2——3——4
- 5-3 集中して授業に取り組めない 1——2——3——4
- 5-4 何事にも努力をしたがらない 1——2——3——4
- 5-5 将来の夢を明確にもてない 1——2——3——4
- 5-6 食事の仕方（偏食）や服装などの乱れが気になる 1——2——3——4
- 5-7 自分の身の回りの整理整頓ができない 1——2——3——4
- 5-8 「殺す」「死ぬ」「うざい」など言葉の乱れが目立つ 1——2——3——4
- 5-9 自己有用感に乏しい 1——2——3——4
- 5-10 コミュニケーション能力が低下している 1——2——3——4
- 5-11 読書習慣が身につけていない 1——2——3——4
- 5-12 健康維持に無関心である 1——2——3——4
- 5-13 自己中心的で他の人に無関心である 1——2——3——4
- 5-14 学校のきまりを守らない 1——2——3——4
- 5-15 いじめをしたり、それに安易に加担したりする 1——2——3——4

6 あなたが保護者のことで、日ごろ感じていることをお聞かせください。

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない
6-1 学校行事や懇談会には積極的に参加してくれる	1	2	3	4
6-2 学校支援のボランティア活動に協力的である	1	2	3	4
6-3 保護者同士の一体感を感じる	1	2	3	4
6-4 家族のきずなが弱くなっている	1	2	3	4
6-5 学校への保護者からの苦情が増えた	1	2	3	4
6-6 わが子を中心にものを考える傾向がある	1	2	3	4
6-7 保護者が何を考えているか理解できないことがある	1	2	3	4
6-8 学校に対する関心が低い	1	2	3	4
6-9 保護者が過保護・過干渉になっている	1	2	3	4
6-10 保護者の子どもに対する愛情が不足している	1	2	3	4
6-11 保護者が我が子の教育に自信をもてていない	1	2	3	4
6-12 教育熱心な保護者とそうでない保護者との二極化が進んでいる	1	2	3	4
6-13 学校への過剰な依存傾向がある	1	2	3	4

7 あなたの勤務する学校のことやあなた自身のお考えをお教えてください。

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない
7-1 学校では学校支援ボランティアが活発に行われている	1	2	3	4
7-2 学校はホームページの更新を頻繁に行っている	1	2	3	4
7-3 学校は保護者や地域の意向を十分反映させている	1	2	3	4
7-4 学校や教職員は地域活動を積極的に支援している	1	2	3	4
7-5 学校では、特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育の充実が図られている	1	2	3	4
7-6 教員研修(校内・校外)が活発に実施されている	1	2	3	4
7-7 自分は授業力や児童生徒理解を高めるための研修に積極的に参加している	1	2	3	4

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない
7-8 相談できる先輩や同僚が同じ職場に多くいる	1	2	3	4
7-9 教師としての指導力に自信がある	1	2	3	4
7-10 教育の仕事のことで悩むことが多い	1	2	3	4
7-11 教師になってよかったと思う	1	2	3	4
7-12 自分は保護者に信頼されていると感じている	1	2	3	4
7-13 現在、学校の仕事に多忙感を抱いている	1	2	3	4
7-14 自分は、コミュニティ・スクールについてよく理解している	1	2	3	4

8 あなたは、子どもたちのパソコンやスマートフォンによるインターネットの利用について、どのようなお考えを持っていますか。日ごろ感じていることをお聞かせください。

	とても当 てはまる	少し当て はまる	あまり当て はまらない	まったく当 てはまらない
8-1 インターネットの利用について学校や学級でルールを作っている	1	2	3	4
8-2 学校外でのスマートフォンの利用について、学校や学級としてルールを作っている	1	2	3	4
8-3 スマホゲームやSNSによる生活習慣の乱れがある	1	2	3	4
8-4 SNSで個人情報を不用意に扱いかねないと思うことがある	1	2	3	4
8-5 子どもたちがインターネットの犯罪に巻き込まれかねないかと不安に思うことがある	1	2	3	4
8-6 SNSで教師の噂がやり取りされて困ったことがある	1	2	3	4
8-7 子どもや家庭への連絡事項がSNSを通じて、誤った形で拡散してしまったことがある	1	2	3	4
8-8 インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念されると思う	1	2	3	4
8-9 子どもたちのコミュニケーション不足は、インターネット社会と関係があると思う	1	2	3	4

とても当 少し当て あまり当て まったく当
 てはまる はまる はまらない てはまらない
 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

8-10 子どもたちは、インターネットを用いることでより
 豊かな交友関係を広げていけると思う

1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

8-11 子どもたちが、インターネットで様々な情報を得ら
 れることのメリットは大きいと思う

9 あなたは、「子どもと向き合う時間」(教育課程上の時間等を除く)をどの程度確保できていますか。
 通常日程の平均的な、おおよその時間を下欄に「分」単位でお書きください。

分(「分」換算)

10 あなたと児童・生徒との会話についてお聞かせください。

よく話して ときどき話 あまり話し まったく話
 いる している ていない していない

10-1 学校の出来事

1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

10-2 地域の出来事

1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

10-3 児童生徒の家庭の出来事

1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

10-4 学校の友達のこと

1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

10-5 勉強のこと

1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

10-6 家庭学習のこと

1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

10-7 児童生徒の遊びや趣味の話をしている

1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

10-8 児童生徒の将来や夢に関すること

1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

11 児童生徒は毎日、自宅学習や読書をどのくらいする必要があると考えますか。それぞれについて、
 下の選択肢から当てはまる項目を選んで、その番号を□の中に書いてください。

11-1 自宅学習時間

11-2 読書時間(学校での読書を含む)

1 30分程度くらい

2 1時間程度

3 2時間程度

4 3時間以上

5 特に家で勉強しなくてもよい

12 保護者や地域からの苦情・要望や相談等について質問します。

A. あなたに対して、平成26年度に、保護者・地域等からの苦情・要望はそれぞれ何件くらいありましたか。実数をお書きください。なお、初任等の方は平成27年10月まででご回答ください。

A-1 保護者から

 件

A-2 祖父母から

 件

A-3 地域住民から（地域組織や事業所等を含む）

 件

B. あなたは、平成26年度に、児童生徒の保護者（祖父母を含む）から「しつけ」（学習等を含む）に関する相談を受けたことが何件くらいありましたか（初任等は平成27年10月まで）。

 件

C. 保護者や地域からの苦情・要望（相談を除く）に対して、効果的だった取り組み（苦情等が減った、納得してくれたなど）があれば、以下から該当する項目を選んで、その番号をいくつでも○で囲んでください。

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1. 学校の情報をHPや「たより」で積極的に公開した | 2. 保護者懇談会の回数を増やした |
| 3. 保護者と教職員が交流できる機会を設けた | 4. 苦情担当の窓口や分掌を設けた |
| 5. 苦情・要望を聴取する「目安箱」等を設置した | 6. 苦情・要望の相談窓口や相談日を設けた |
| 7. 学校評議員や学校運営協議会等に相談した | 8. PTA活動の場で学校理解を促した |
| 9. 学校行事に多くの保護者が参加できるよう工夫した | 10. 教育委員会に相談した |
| 11. 校内研修で保護者対応の在り方を共有した | |
| 12. その他（ | ） |
| 13. 特にない | |

D. あなたは、保護者がつぎのような理由で苦情や要望を学校に申し出ることをどう考えますか。

(1) から (4) までの設問について、選択肢から当てはまるものを一つだけ選んで、その番号を○で囲んで下さい。

当然だと 思う ある程度は 思う あまり望ま しくない 望ましく ない

12-D1 わが子と仲のよくない子どもが同じクラスになったので、クラス替えをして欲しい 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

12-D2 わが子を攻撃し続ける子どもがいるので、十分指導して欲しい 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

12-D3 わが子が親の言うことを聞かないので、学校で十分指導して欲しい 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

12-D4 卒業アルバムにわが子の学校生活に関する写真が1枚もなかったので、アルバムを作り直して欲しい 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

13 家庭との連携にも関係する保護者等の意向を反映させるための仕組みであるコミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置する学校）に関する質問をさせていただきます。

コミュニティ・スクールに置かれる学校運営協議会等は以下の1～3までの3つの役割を担い、地域や保護者の学校運営参画を実現する仕組みです。1～3のうちで、あなたが重要だと思うものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

1. 学校の先生方の任用（人事）に関して意見を申し出ること
2. 学校運営について校長や教育委員会に意見を申し出ること
3. 校長が作成した学校運営の基本方針を承認すること

14 学校運営協議会等（コミュニティ・スクール）とは、前問に記したような3つの役割がありますが、このような仕組みについてどう思いますか。「1」または「2」のいずれかを選んで、その番号を○で囲んでください。

- | | | |
|---|---------------------------|-------------------------|
| Ⓐ | 1. 地域・保護者が学校運営に参画すべきである | 2. 学校運営は学校に任せるべきである |
| Ⓑ | 1. 基本方針の「承認」は特色づくりにつながる | 2. 基本方針の「承認」は校長の裁量権を狭める |
| Ⓒ | 1. 教職員任用の意見申出でよい先生が着任してくる | 2. 教職員任用の意見申出は人事を混乱させる |
| Ⓓ | 1. 校長への意見申出で学校が活性化する | 2. 校長への意見申出は学校の自律性を損なう |
| Ⓔ | 1. 教育委員会への意見申出で学校が活性化する | 2. 教育委員会への意見申出は教委を混乱させる |

—教職員用調査結果集計表—

		小学校	中学校	合計	
実数(人)		450	447	897	
1. あなたご自身のことについておたずねします。	校種	(合計中の%)	50.2%	49.8%	100.0%
	担当学年等	無回答	3.8%	0.0%	1.9%
		小・担任無し	34.9%	0.0%	17.5%
		小1年	10.9%	0.0%	5.5%
		小2年	9.8%	0.0%	4.9%
		小3年	9.8%	0.0%	4.9%
		小4年	10.2%	0.0%	5.1%
		小5年	10.0%	0.0%	5.0%
		小6年	10.7%	0.0%	5.4%
		中・担任無し	0.0%	22.8%	11.4%
		中1年	0.0%	23.7%	11.8%
		中2年	0.0%	25.3%	12.6%
		中3年	0.0%	26.0%	12.9%
		中複数担任	0.0%	2.2%	1.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	性別	男	39.1%	56.7%	47.9%
		女	60.9%	43.3%	52.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	職種	校長	3.3%	3.6%	3.5%
		副校長・教頭	4.2%	4.0%	4.1%
		主幹教諭等	3.3%	3.6%	3.5%
		教諭(主任を含む。ただし、臨任教諭を除く)	67.6%	70.7%	69.1%
		養護教諭(主幹等を含む)	3.8%	4.5%	4.1%
		栄養教諭	1.1%	0.4%	0.8%
		臨任教諭・講師(非常勤)	10.4%	10.1%	10.3%
		その他	5.1%	2.7%	3.9%
		無回答	1.1%	0.4%	0.8%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	職種その他		96.0%	97.8%	96.9%
		栄養士	0.2%	0.0%	0.1%
		学級サポート	0.2%	0.0%	0.1%
		学級経営サポートティーチャー	0.2%	0.0%	0.1%
		学校事務	0.0%	0.2%	0.1%
学校事務職員		0.2%	0.0%	0.1%	
学校主事		0.0%	0.2%	0.1%	
学習支援		0.2%	0.0%	0.1%	
学習支援員		0.4%	0.0%	0.2%	
技能主事		0.0%	0.4%	0.2%	
再任用		0.2%	0.0%	0.1%	
再任用教諭		0.2%	0.0%	0.1%	
市・学力支援員		0.2%	0.0%	0.1%	
事務		0.2%	0.2%	0.2%	
事務主事		0.2%	0.0%	0.1%	
事務職員		1.1%	0.4%	0.8%	
助教諭		0.0%	0.2%	0.1%	
図書館職員		0.0%	0.2%	0.1%	
特別支援員		0.2%	0.0%	0.1%	
臨時事務		0.0%	0.2%	0.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
教職員歴(年数)		17.12年	19.51年	18.31年	
現在の勤務校在籍年数		3.25年	3.24年	3.25年	
勤務校までの通勤時間		26.32分	24.56分	25.44分	
学級数		14.37	13.2	13.78	
2. しつけ等家庭教育に対するお考えをお聞かせください。	2-1. 一般的に見て、最近の子どもたちは、家庭で十分な「しつけ」がなされていない	とてもそう思う	16.4%	17.2%	16.8%
		ある程度そう思う	63.3%	62.9%	63.1%
		あまりそう思わない	18.4%	19.0%	18.7%
		まったくそう思わない	0.2%	0.0%	0.1%
		無回答	1.6%	0.9%	1.2%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	2-2. 一般的に見て、最近の子どもたちは、地域で十分な「しつけ」がなされていない	とてもそう思う	20.2%	26.6%	23.4%
		ある程度そう思う	59.1%	52.8%	56.0%
		あまりそう思わない	18.0%	18.6%	18.3%
		まったくそう思わない	0.9%	1.3%	1.1%
		無回答	1.8%	0.7%	1.2%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%

2. しつけ等家庭教育 に対するお考えをお 聞かせください。 (つづき)	2-3. 一般的に見て、最近の子どもたちは、学校で十分な「しつけ」(児童・生徒指導)がなされていない	とてもそう思う	1.8%	2.9%	2.3%
		ある程度そう思う	22.7%	28.4%	25.5%
		あまりそう思わない	65.3%	59.3%	62.3%
		まったくそう思わない	8.4%	8.1%	8.2%
		無回答	1.8%	1.3%	1.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	2-4. 非行・いじめ・自殺などの課題行動は、主に家庭のしつけ不足が要因となっている	とてもそう思う	6.9%	8.9%	7.9%
		ある程度そう思う	41.3%	44.1%	42.7%
		あまりそう思わない	45.6%	42.1%	43.8%
		まったくそう思わない	4.4%	4.0%	4.2%
		無回答	1.8%	0.9%	1.3%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
2-5. ニートや不登校・引きこもりなど社会にうまく適応できない若者が増加しているのは、主に家庭のしつけ不足が要因となっている	とてもそう思う	9.3%	10.1%	9.7%	
	ある程度そう思う	41.1%	43.8%	42.5%	
	あまりそう思わない	43.3%	41.8%	42.6%	
	まったくそう思わない	4.2%	3.6%	3.9%	
	無回答	2.0%	0.7%	1.3%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
2-6. 学力低下や学習離れの要因のひとつに家庭環境の課題がある	とてもそう思う	22.2%	25.7%	24.0%	
	ある程度そう思う	67.1%	60.6%	63.9%	
	あまりそう思わない	7.8%	12.3%	10.0%	
	まったくそう思わない	0.7%	0.4%	0.6%	
	無回答	2.2%	0.9%	1.6%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
3. あなたは、次のようなことは、主に家庭、学校、地域のうちのどこで行うべきだと考えますか。	3-1. 早寝、早起きなどをしつける	主に家庭で行うべきである	99.8%	100.0%	99.9%
		主に地域で行うべきである	0.2%	0.0%	0.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	3-2. 食事の仕方(箸の持ち方など)や手洗いなどの習慣を身につけさせる	主に家庭で行うべきである	99.3%	100.0%	99.7%
		主に学校で行うべきである	0.5%	0.0%	0.2%
		主に地域で行うべきである	0.2%	0.0%	0.1%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	3-3. あいさつや謝りの仕方を身につけさせる	主に家庭で行うべきである	99.3%	100.0%	99.7%
		主に学校で行うべきである	0.5%	0.0%	0.2%
		主に地域で行うべきである	0.2%	0.0%	0.1%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	3-4. 善悪のけじめをつけさせる	主に家庭で行うべきである	77.0%	82.1%	79.5%
		主に学校で行うべきである	19.5%	14.1%	16.8%
		主に地域で行うべきである	3.5%	3.8%	3.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	3-5. 他人の気持ちや立場を思いやる心を培う	主に家庭で行うべきである	47.0%	49.5%	48.2%
		主に学校で行うべきである	49.1%	46.4%	47.8%
		主に地域で行うべきである	1.2%	1.4%	1.3%
		わからない	2.8%	2.4%	2.6%
		1234	0.0%	0.2%	0.1%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	3-6. いじめをしないなどの正義感を養う	主に家庭で行うべきである	40.7%	44.6%	42.6%
		主に学校で行うべきである	55.0%	50.8%	53.0%
		主に地域で行うべきである	0.7%	0.5%	0.6%
		わからない	3.5%	3.9%	3.7%
		1234	0.0%	0.2%	0.1%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
3-7. 他の人たちと協力しあう姿勢を養う	主に家庭で行うべきである	12.7%	17.2%	14.9%	
	主に学校で行うべきである	82.9%	75.6%	79.3%	
	主に地域で行うべきである	2.3%	5.5%	3.9%	
	わからない	2.1%	1.4%	1.8%	
	1234	0.0%	0.2%	0.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
3-8. 働くことの大切さを教える	主に家庭で行うべきである	43.1%	38.8%	41.0%	
	主に学校で行うべきである	44.1%	40.0%	42.1%	
	主に地域で行うべきである	7.9%	17.7%	12.7%	
	わからない	4.9%	3.2%	4.0%	
	1234	0.0%	0.2%	0.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
3-9. 社会のルールを教える	主に家庭で行うべきである	47.7%	45.4%	46.6%	
	主に学校で行うべきである	35.8%	33.8%	34.8%	
	主に地域で行うべきである	11.6%	17.4%	14.5%	
	わからない	4.9%	3.1%	4.0%	
	1234	0.0%	0.2%	0.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		

【資料】教職員調査結果集計表

3. あなたは、次のようなことは、主に家庭、学校、地域のうちどこで行うべきだと考えますか。(つづき)	3-10. 地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う	主に家庭で行うべきである	33.9%	26.8%	30.4%
		主に学校で行うべきである	33.5%	33.7%	33.6%
		主に地域で行うべきである	27.5%	36.4%	31.8%
		わからない	5.1%	3.1%	4.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	3-11. 欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う	主に家庭で行うべきである	93.4%	95.6%	94.5%
		主に学校で行うべきである	5.0%	3.2%	4.1%
		主に地域で行うべきである	0.7%	0.0%	0.3%
		わからない	0.9%	1.2%	1.0%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	3-12. 人間としての「生き方」を教える	主に家庭で行うべきである	61.8%	53.6%	57.9%
		主に学校で行うべきである	29.0%	33.3%	31.1%
		主に地域で行うべきである	1.4%	3.9%	2.6%
		わからない	7.8%	9.2%	8.5%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	
3-13. 自分の住んでいる地域を大切にすることを培う	主に家庭で行うべきである	34.6%	29.4%	32.0%	
	主に学校で行うべきである	20.7%	18.7%	19.7%	
	主に地域で行うべきである	39.6%	46.4%	43.0%	
	わからない	5.1%	5.5%	5.3%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
3-14. 危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う	主に家庭で行うべきである	55.7%	53.9%	54.8%	
	主に学校で行うべきである	34.0%	27.3%	30.8%	
	主に地域で行うべきである	5.8%	14.1%	9.9%	
	わからない	4.4%	4.6%	4.5%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
4. 実際に、次のようなことを行っているのは、主にどこだと思いますか。	4-1. 早寝、早起きなどをする	主に家庭で行っている	84.4%	87.9%	86.2%
		主に学校で行っている	12.2%	7.6%	9.9%
		主に地域で行っている	0.2%	0.0%	0.1%
		あまり行われていない	1.3%	3.1%	2.2%
		無回答	1.8%	1.3%	1.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	4-2. 食事の仕方(箸の持ち方など)や手洗いなどの習慣を身につけさせる	主に家庭で行っている	63.8%	82.1%	72.9%
		主に学校で行っている	32.0%	13.6%	22.9%
		主に地域で行っている	0.2%	0.0%	0.1%
		あまり行われていない	1.6%	2.7%	2.1%
		無回答	2.4%	1.6%	2.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	4-3. あいさつや謝りの仕方を身につけさせる	主に家庭で行っている	23.8%	27.1%	25.4%
		主に学校で行っている	73.6%	68.7%	71.1%
		主に地域で行っている	0.4%	0.0%	0.2%
		あまり行われていない	0.4%	1.8%	1.1%
		無回答	1.8%	2.5%	2.1%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	4-4. 善悪のけじめをつけさせる	主に家庭で行っている	25.8%	27.5%	26.6%
		主に学校で行っている	71.1%	68.2%	69.7%
		主に地域で行っている	0.2%	0.0%	0.1%
		あまり行われていない	0.9%	1.6%	1.2%
		無回答	2.0%	2.7%	2.3%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	4-5. 他人の気持ちや立場を思いやる心を培う	主に家庭で行っている	15.1%	14.8%	14.9%
		主に学校で行っている	82.2%	81.7%	81.9%
		主に地域で行っている	0.4%	0.0%	0.2%
		あまり行われていない	0.7%	0.9%	0.8%
無回答		1.6%	2.7%	2.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
4-6. いじめをしないなどの正義感を養う	主に家庭で行っている	10.4%	11.2%	10.8%	
	主に学校で行っている	87.1%	84.8%	86.0%	
	主に地域で行っている	0.2%	0.2%	0.2%	
	あまり行われていない	0.4%	0.9%	0.7%	
	無回答	1.8%	2.9%	2.3%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
4-7. 他の人たちと協力しあう姿勢を養う	主に家庭で行っている	3.8%	4.3%	4.0%	
	主に学校で行っている	94.0%	92.4%	93.2%	
	主に地域で行っている	0.2%	0.9%	0.6%	
	あまり行われていない	0.4%	0.2%	0.3%	
	無回答	1.6%	2.2%	1.9%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
4-8. 働くことの大切さを教える	主に家庭で行っている	16.4%	11.2%	13.8%	
	主に学校で行っている	73.3%	78.5%	75.9%	
	主に地域で行っている	2.2%	3.6%	2.9%	
	あまり行われていない	5.3%	4.3%	4.8%	
	無回答	2.7%	2.5%	2.6%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		

4. 実際に、次のようなことを行っているのは、主にどこだと思いますか。(つづき)	4-9. 社会のルールを教える	主に家庭で行っている	14.9%	15.0%	14.9%
		主に学校で行っている	79.6%	77.6%	78.6%
		主に地域で行っている	1.3%	2.5%	1.9%
		あまり行われていない	2.0%	2.7%	2.3%
		無回答	2.2%	2.2%	2.2%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	4-10. 地域社会や他人に積極的に貢献しようとする態度を養う	主に家庭で行っている	10.4%	9.2%	9.8%
		主に学校で行っている	68.9%	74.7%	71.8%
		主に地域で行っている	11.1%	8.1%	9.6%
		あまり行われていない	6.9%	6.0%	6.5%
		無回答	2.7%	2.0%	2.3%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	4-11. 欲しい物やしたいことでも我慢する態度を養う	主に家庭で行っている	58.2%	55.9%	57.1%
		主に学校で行っている	37.8%	36.9%	37.3%
		主に地域で行っている	0.2%	0.0%	0.1%
		あまり行われていない	2.0%	4.5%	3.2%
		無回答	1.8%	2.7%	2.2%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	4-12. 人間としての「生き方」を教える	主に家庭で行っている	33.3%	22.6%	28.0%
		主に学校で行っている	58.0%	66.4%	62.2%
主に地域で行っている		0.2%	0.9%	0.6%	
あまり行われていない		7.3%	7.4%	7.4%	
無回答		1.1%	2.7%	1.9%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
4-13. 自分の住んでいる地域を大切にすることを育てる	主に家庭で行っている	14.7%	12.8%	13.7%	
	主に学校で行っている	59.3%	61.5%	60.4%	
	主に地域で行っている	14.9%	13.6%	14.3%	
	あまり行われていない	10.2%	10.1%	10.1%	
	無回答	0.9%	2.0%	1.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
4-14. 危険な遊びや不審者に注意するよう促すなど身を守る意識を養う	主に家庭で行っている	17.6%	18.1%	17.8%	
	主に学校で行っている	79.8%	75.6%	77.7%	
	主に地域で行っている	0.9%	2.5%	1.7%	
	あまり行われていない	1.1%	1.6%	1.3%	
	無回答	0.7%	2.2%	1.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
5. あなたは日頃、次のような児童・生徒が、以前よりも増えているとお感じですか。	5-1. 教師の言うことを素直に聞かない	とても感じる	26.9%	24.6%	25.8%
		少し感じる	46.2%	41.6%	43.9%
		あまり感じない	24.0%	30.4%	27.2%
		まったく感じない	2.4%	1.8%	2.1%
		無回答	0.4%	1.6%	1.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	5-2. 宿題忘れや忘れ物が多い	とても感じる	31.6%	34.0%	32.8%
		少し感じる	47.8%	43.2%	45.5%
		あまり感じない	18.9%	21.0%	20.0%
		まったく感じない	1.1%	0.7%	0.9%
		無回答	0.7%	1.1%	0.9%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	5-3. 集中して授業に取り組めない	とても感じる	30.9%	28.2%	29.5%
		少し感じる	50.0%	43.8%	46.9%
		あまり感じない	17.1%	25.1%	21.1%
		まったく感じない	1.3%	1.6%	1.4%
		無回答	0.7%	1.3%	1.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	5-4. 何事にも努力をしない	とても感じる	20.0%	29.5%	24.7%
		少し感じる	53.6%	45.6%	49.6%
あまり感じない		24.7%	22.6%	23.6%	
まったく感じない		0.9%	0.9%	0.9%	
無回答		0.9%	1.3%	1.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
5-5. 将来の夢を明確に持てない	とても感じる	18.9%	31.1%	25.0%	
	少し感じる	50.0%	46.3%	48.2%	
	あまり感じない	28.7%	20.1%	24.4%	
	まったく感じない	1.6%	1.1%	1.3%	
	無回答	0.9%	1.3%	1.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
5-6. 食事の仕方(偏食)や服装などの乱れが気になる	とても感じる	29.3%	18.8%	24.1%	
	少し感じる	45.3%	44.7%	45.0%	
	あまり感じない	22.7%	33.3%	28.0%	
	まったく感じない	1.6%	1.8%	1.7%	
	無回答	1.1%	1.3%	1.2%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		

【資料】 教職員調査結果集計表

5. あなたは日頃、次のような児童・生徒が、以前よりも増えているとお感じですか。 (つづき)	5-7. 自分の身の回りの整理整頓ができない	とても感じる	23.6%	19.9%	21.7%
		少し感じる	51.3%	51.2%	51.3%
		あまり感じない	23.3%	26.0%	24.6%
		まったく感じない	1.1%	1.3%	1.2%
		無回答	0.7%	1.6%	1.1%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	5-8. 「殺す」「死ね」「うざい」など言葉の乱れが目立つ	とても感じる	38.9%	42.7%	40.8%
		少し感じる	40.0%	35.3%	37.7%
		あまり感じない	19.6%	19.7%	19.6%
		まったく感じない	0.9%	1.1%	1.0%
		無回答	0.7%	1.1%	0.9%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	5-9. 自己有用感に乏しい	とても感じる	26.9%	27.7%	27.3%
		少し感じる	50.0%	49.9%	49.9%
		あまり感じない	21.1%	20.1%	20.6%
まったく感じない		0.9%	0.7%	0.8%	
無回答		1.1%	1.6%	1.3%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
5-10. コミュニケーション能力が低下している	とても感じる	31.1%	36.7%	33.9%	
	少し感じる	50.7%	50.1%	50.4%	
	あまり感じない	15.8%	11.6%	13.7%	
	まったく感じない	1.3%	0.4%	0.9%	
	無回答	1.1%	1.1%	1.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
5-11. 読書習慣が身につけていない	とても感じる	17.8%	21.9%	19.8%	
	少し感じる	37.6%	31.3%	34.4%	
	あまり感じない	38.2%	40.0%	39.1%	
	まったく感じない	5.3%	5.4%	5.4%	
	無回答	1.1%	1.3%	1.2%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
5-12. 健康維持に無関心である	とても感じる	9.1%	8.7%	8.9%	
	少し感じる	42.4%	31.1%	36.8%	
	あまり感じない	45.1%	56.6%	50.8%	
	まったく感じない	2.4%	2.2%	2.3%	
	無回答	0.9%	1.3%	1.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
5-13. 自己中心的で他の人に無関心である	とても感じる	19.3%	19.5%	19.4%	
	少し感じる	47.6%	50.1%	48.8%	
	あまり感じない	30.2%	28.4%	29.3%	
	まったく感じない	2.0%	0.9%	1.4%	
	無回答	0.9%	1.1%	1.0%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
5-14. 学校のきまりを守らない	とても感じる	15.8%	9.8%	12.8%	
	少し感じる	43.6%	30.0%	36.8%	
	あまり感じない	37.3%	55.3%	46.3%	
	まったく感じない	2.2%	3.8%	3.0%	
	無回答	1.1%	1.1%	1.1%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
5-15. いじめをしたり、それに安易に加担したりする	とても感じる	10.0%	13.0%	11.5%	
	少し感じる	39.8%	40.0%	39.9%	
	あまり感じない	45.3%	42.7%	44.0%	
	まったく感じない	3.6%	3.1%	3.3%	
	無回答	1.3%	1.1%	1.2%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
6. あなたが保護者のことで、日ごろ感じていることをお聞かせください。	6-1. 学校行事や懇談会には積極的に参加してくれる	とてもそう思う	6.4%	8.9%	7.7%
		ある程度そう思う	56.4%	56.6%	56.5%
		あまりそう思わない	32.2%	31.3%	31.8%
		まったくそう思わない	4.4%	2.5%	3.5%
		無回答	0.4%	0.7%	0.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	6-2. 学校支援のボランティア活動に協力的である	とてもそう思う	7.8%	7.6%	7.7%
		ある程度そう思う	52.0%	46.3%	49.2%
		あまりそう思わない	35.6%	39.4%	37.5%
まったくそう思わない		4.0%	5.8%	4.9%	
無回答	0.7%	0.9%	0.8%		
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
6-3. 保護者同士の一体感を感じる	とてもそう思う	2.2%	2.9%	2.6%	
	ある程度そう思う	28.2%	26.2%	27.2%	
	あまりそう思わない	61.8%	63.1%	62.4%	
	まったくそう思わない	7.1%	6.7%	6.9%	
無回答	0.7%	1.1%	0.9%		
合計	100.0%	100.0%	100.0%		

6. あなたが保護者のこと、日ごろ感じていることをお聞かせください。 (つづき)	6-4. 家族のきずなが弱くなっている	とてもそう思う	7.3%	9.8%	8.6%
		ある程度そう思う	47.1%	51.7%	49.4%
		あまりそう思わない	44.0%	36.0%	40.0%
		まったくそう思わない	0.9%	1.6%	1.2%
		無回答	0.7%	0.9%	0.8%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	6-5. 学校への保護者からの苦情が増えた	とてもそう思う	21.8%	25.1%	23.4%
		ある程度そう思う	44.9%	44.7%	44.8%
		あまりそう思わない	31.1%	28.0%	29.5%
		まったくそう思わない	1.8%	1.1%	1.4%
		無回答	0.4%	1.1%	0.8%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	6-6. わが子を中心にものを考える傾向がある	とてもそう思う	33.8%	38.3%	36.0%
ある程度そう思う		54.0%	49.2%	51.6%	
あまりそう思わない		11.3%	11.9%	11.6%	
まったくそう思わない		0.2%	0.0%	0.1%	
無回答		0.7%	0.7%	0.7%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
6-7. 保護者が何を考えているか理解できないことがある	とてもそう思う	10.4%	14.5%	12.5%	
	ある程度そう思う	48.7%	50.8%	49.7%	
	あまりそう思わない	39.1%	32.7%	35.9%	
	まったくそう思わない	1.6%	1.3%	1.4%	
	無回答	0.2%	0.7%	0.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
6-8. 学校に対する関心が低い	とてもそう思う	7.6%	5.4%	6.5%	
	ある程度そう思う	37.8%	33.8%	35.8%	
	あまりそう思わない	52.9%	56.2%	54.5%	
	まったくそう思わない	1.3%	4.0%	2.7%	
	無回答	0.4%	0.7%	0.6%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
6-9. 保護者が過保護・過干渉になっている	とてもそう思う	20.9%	28.4%	24.6%	
	ある程度そう思う	51.8%	53.5%	52.6%	
	あまりそう思わない	25.8%	17.0%	21.4%	
	まったくそう思わない	0.9%	0.2%	0.6%	
	無回答	0.7%	0.9%	0.8%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
6-10. 保護者の子どもに対する愛情が不足している	とてもそう思う	11.3%	8.9%	10.1%	
	ある程度そう思う	36.9%	37.6%	37.2%	
	あまりそう思わない	48.2%	49.4%	48.8%	
	まったくそう思わない	2.9%	3.4%	3.1%	
	無回答	0.7%	0.7%	0.7%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
6-11. 保護者が我が子の教育に自信をもてていない	とてもそう思う	5.8%	9.4%	7.6%	
	ある程度そう思う	52.2%	47.7%	49.9%	
	あまりそう思わない	39.8%	40.9%	40.4%	
	まったくそう思わない	1.8%	0.7%	1.2%	
	無回答	0.4%	1.3%	0.9%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
6-12. 教育熱心な保護者とそうでない保護者との二極化が進んでいる	とてもそう思う	43.8%	37.1%	40.5%	
	ある程度そう思う	44.9%	48.3%	46.6%	
	あまりそう思わない	10.9%	13.4%	12.2%	
	まったくそう思わない	0.2%	0.2%	0.2%	
	無回答	0.2%	0.9%	0.6%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
6-13. 学校への過剰な依存傾向がある	とてもそう思う	20.2%	24.2%	22.2%	
	ある程度そう思う	47.6%	46.5%	47.0%	
	あまりそう思わない	29.8%	27.3%	28.5%	
	まったくそう思わない	1.8%	0.9%	1.3%	
	無回答	0.7%	1.1%	0.9%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		

【資料】 教職員調査結果集計表

7. あなたの勤務する学校のことやあなた自身のお考えをお教えてください。	7-1. 学校では学校支援ボランティアが活発に行われている	とてもそう思う	21.8%	14.8%	18.3%
		ある程度そう思う	56.9%	52.6%	54.7%
		あまりそう思わない	20.2%	26.6%	23.4%
		まったくそう思わない	0.9%	4.9%	2.9%
		無回答	0.2%	1.1%	0.7%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	7-2. 学校はホームページの更新を頻繁に行っている	とてもそう思う	23.3%	7.8%	15.6%
		ある程度そう思う	37.8%	26.8%	32.3%
		あまりそう思わない	28.7%	36.7%	32.7%
		まったくそう思わない	8.9%	24.4%	16.6%
		無回答	1.3%	4.3%	2.8%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
7-3. 学校は保護者や地域の意向を十分反映させている	とてもそう思う	13.8%	10.1%	11.9%	
	ある程度そう思う	76.4%	75.2%	75.8%	
	あまりそう思わない	9.6%	13.2%	11.4%	
	まったくそう思わない	0.0%	0.4%	0.2%	
	無回答	0.2%	1.1%	0.7%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
7-4. 学校や教職員は地域活動を積極的に支援している	とてもそう思う	13.8%	15.7%	14.7%	
	ある程度そう思う	64.4%	60.4%	62.4%	
	あまりそう思わない	21.6%	21.9%	21.7%	
	まったくそう思わない	0.0%	1.3%	0.7%	
	無回答	0.2%	0.7%	0.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
7-5. 学校では、特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育の充実が図られている	とてもそう思う	29.6%	22.4%	26.0%	
	ある程度そう思う	54.7%	59.7%	57.2%	
	あまりそう思わない	14.7%	13.6%	14.2%	
	まったくそう思わない	0.4%	3.1%	1.8%	
	無回答	0.7%	1.1%	0.9%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
7-6. 教員研修(校内・校外)が活発に実施されている	とてもそう思う	35.6%	30.6%	33.1%	
	ある程度そう思う	54.0%	54.1%	54.1%	
	あまりそう思わない	10.0%	13.2%	11.6%	
	まったくそう思わない	0.2%	0.9%	0.6%	
	無回答	0.2%	1.1%	0.7%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
7-7. 自分は授業力や児童生徒理解を高めるための研修に積極的に参加している	とてもそう思う	17.3%	11.6%	14.5%	
	ある程度そう思う	59.1%	56.8%	58.0%	
	あまりそう思わない	21.6%	26.2%	23.9%	
	まったくそう思わない	0.7%	2.7%	1.7%	
	無回答	1.3%	2.7%	2.0%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
7-8. 相談できる先輩や同僚が同じ職場に多くいる	とてもそう思う	37.3%	23.7%	30.5%	
	ある程度そう思う	50.0%	54.6%	52.3%	
	あまりそう思わない	9.6%	15.7%	12.6%	
	まったくそう思わない	1.3%	3.8%	2.6%	
	無回答	1.8%	2.2%	2.0%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
7-9. 教師としての指導力に自信がある	とてもそう思う	1.8%	3.4%	2.6%	
	ある程度そう思う	38.7%	42.5%	40.6%	
	あまりそう思わない	48.2%	43.2%	45.7%	
	まったくそう思わない	8.2%	6.3%	7.2%	
	無回答	3.1%	4.7%	3.9%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
7-10. 教育の仕事のことで悩むことが多い	とてもそう思う	21.6%	15.0%	18.3%	
	ある程度そう思う	50.0%	54.4%	52.2%	
	あまりそう思わない	24.0%	25.1%	24.5%	
	まったくそう思わない	1.8%	1.6%	1.7%	
	無回答	2.7%	4.0%	3.3%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
7-11. 教師になってよかったと思う	とてもそう思う	34.2%	28.2%	31.2%	
	ある程度そう思う	53.3%	54.1%	53.7%	
	あまりそう思わない	8.9%	11.6%	10.3%	
	まったくそう思わない	0.9%	1.6%	1.2%	
	無回答	2.7%	4.5%	3.6%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		
7-12. 自分は保護者に信頼されていると感じている	とてもそう思う	2.0%	2.5%	2.2%	
	ある程度そう思う	64.4%	57.7%	61.1%	
	あまりそう思わない	28.0%	34.5%	31.2%	
	まったくそう思わない	2.0%	2.0%	2.0%	
	無回答	3.6%	3.4%	3.5%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%		

7. あなたの勤務する学校のことやあなた自身のお考えをお教えてください。(つづき)	7-13. 現在、学校の仕事に多忙感を抱いている	とてもそう思う	51.1%	49.4%	50.3%
		ある程度そう思う	37.6%	38.7%	38.1%
あまりそう思わない		8.4%	9.2%	8.8%	
まったくそう思わない		0.7%	0.4%	0.6%	
無回答		2.2%	2.2%	2.2%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	
7-14. 自分は、コミュニティ・スクールについてよく理解している	とてもそう思う	2.9%	4.0%	3.5%	
	ある程度そう思う	35.1%	32.9%	34.0%	
	あまりそう思わない	52.2%	47.7%	49.9%	
	まったくそう思わない	7.8%	12.3%	10.0%	
	無回答	2.0%	3.1%	2.6%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	
8. あなたは、子どもたちのパソコンやスマートフォンによるインターネットの利用について、学校や学級でルールを作っている	8-1. インターネットの利用について学校や学級でルールを作っている	とてもそう思う	10.7%	8.7%	9.7%
		ある程度そう思う	49.8%	42.1%	45.9%
		あまりそう思わない	26.9%	33.1%	30.0%
		まったくそう思わない	10.2%	13.2%	11.7%
		無回答	2.4%	2.9%	2.7%
	合計		100.0%	100.0%	100.0%
	8-2. 学校外でのスマートフォンの利用について、学校や学級としてルールを作っている	とてもそう思う	3.6%	7.2%	5.4%
		ある程度そう思う	34.0%	33.3%	33.7%
		あまりそう思わない	39.1%	38.3%	38.7%
		まったくそう思わない	20.9%	18.1%	19.5%
無回答		2.4%	3.1%	2.8%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	
8-3. スマホゲームやSNSによる生活習慣の乱れがある	とてもそう思う	25.3%	49.4%	37.3%	
	ある程度そう思う	46.9%	43.0%	44.9%	
	あまりそう思わない	23.3%	4.5%	13.9%	
	まったくそう思わない	2.7%	0.4%	1.6%	
	無回答	1.8%	2.7%	2.2%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	
8-4. SNSで個人情報を不用意に扱いかねないと思うことがある	とてもそう思う	26.4%	53.2%	39.8%	
	ある程度そう思う	46.9%	40.0%	43.5%	
	あまりそう思わない	20.2%	4.0%	12.2%	
	まったくそう思わない	4.7%	0.4%	2.6%	
	無回答	1.8%	2.2%	2.0%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	
8-5. 子どもたちがインターネットの犯罪に巻き込まれかねないかと不安に思うことがある	とてもそう思う	33.3%	45.9%	39.6%	
	ある程度そう思う	51.1%	46.3%	48.7%	
	あまりそう思わない	12.9%	5.4%	9.1%	
	まったくそう思わない	1.3%	0.2%	0.8%	
	無回答	1.3%	2.2%	1.8%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	
8-6. SNSで教師の噂がやり取りされて困ったことがある	とてもそう思う	0.4%	7.6%	4.0%	
	ある程度そう思う	7.8%	19.0%	13.4%	
	あまりそう思わない	31.1%	47.0%	39.0%	
	まったくそう思わない	59.3%	23.0%	41.2%	
	無回答	1.3%	3.4%	2.3%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	
8-7. 子どもや家庭への連絡事項がSNSを通じて、誤った形で拡散してしまったことがある	とてもそう思う	0.9%	3.4%	2.1%	
	ある程度そう思う	5.6%	7.8%	6.7%	
	あまりそう思わない	24.2%	27.5%	25.9%	
	まったくそう思わない	67.6%	57.5%	62.5%	
	無回答	1.8%	3.8%	2.8%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	
8-8. インターネットは、便利さよりは不安材料の方が懸念されると思う	とてもそう思う	11.6%	18.3%	14.9%	
	ある程度そう思う	36.2%	44.5%	40.4%	
	あまりそう思わない	46.4%	33.3%	39.9%	
	まったくそう思わない	4.2%	1.6%	2.9%	
	無回答	1.6%	2.2%	1.9%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	
8-9. 子どもたちのコミュニケーション不足は、インターネット社会と関係があると思う	とてもそう思う	15.1%	28.9%	22.0%	
	ある程度そう思う	52.7%	49.4%	51.1%	
	あまりそう思わない	26.4%	16.6%	21.5%	
	まったくそう思わない	4.4%	2.7%	3.6%	
	無回答	1.3%	2.5%	1.9%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	
8-10. 子どもたちは、インターネットを用いることでより豊かな交友関係を広げていけると思う	とてもそう思う	0.9%	1.8%	1.3%	
	ある程度そう思う	18.2%	22.4%	20.3%	
	あまりそう思わない	63.8%	51.9%	57.9%	
	まったくそう思わない	16.2%	22.4%	19.3%	
	無回答	0.9%	1.6%	1.2%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	

【資料】教職員調査結果集計表

8. あなたは、子どもたちのパソコンやスマートフォンによるインターネットの利用について、どのようなお考えを持っていますか。日ごろ感じていることをお聞かせください。(つづき)	8-11.子どもたちが、インターネットで様々な情報を得られることのメリットは大きいと思う	とてもそう思う	12.4%	11.4%	11.9%
		ある程度そう思う	60.9%	57.0%	59.0%
		あまりそう思わない	21.8%	23.3%	22.5%
		まったくそう思わない	3.8%	6.5%	5.1%
		無回答	1.1%	1.8%	1.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
9. あなたは、「子どもと向き合う時間」(教育課程上の時間等を除く)をどの程度確保できていますか。通常日程の平均的な、おおよその時間(平均値)			43.9分	50.2分	47.0分
10. あなたと児童・生徒との会話についてお聞かせください。	10-1.学校の出来事	よく話している	46.0%	40.0%	43.0%
		ときどき話している	48.2%	49.9%	49.1%
		あまり話していない	3.1%	4.7%	3.9%
		まったく話していない	0.7%	0.9%	0.8%
		無回答	2.0%	4.5%	3.2%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	10-2.地域の出来事	よく話している	7.3%	3.8%	5.6%
		ときどき話している	52.0%	33.1%	42.6%
		あまり話していない	35.3%	48.3%	41.8%
		まったく話していない	3.6%	10.5%	7.0%
		無回答	1.8%	4.3%	3.0%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	10-3.児童生徒の家庭の出来事	よく話している	20.2%	10.1%	15.2%
		ときどき話している	62.7%	51.5%	57.1%
		あまり話していない	12.2%	30.0%	21.1%
		まったく話していない	2.9%	4.3%	3.6%
		無回答	2.0%	4.3%	3.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	10-4.学校の友達のこと	よく話している	32.9%	22.4%	27.6%
		ときどき話している	58.0%	59.3%	58.6%
		あまり話していない	6.7%	12.3%	9.5%
		まったく話していない	0.4%	1.6%	1.0%
		無回答	2.0%	4.5%	3.2%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	10-5.勉強のこと	よく話している	24.4%	33.8%	29.1%
		ときどき話している	58.7%	51.5%	55.1%
		あまり話していない	14.0%	9.2%	11.6%
		まったく話していない	1.1%	1.1%	1.1%
		無回答	1.8%	4.5%	3.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	10-6.家庭学習のこと	よく話している	13.1%	15.7%	14.4%
		ときどき話している	48.0%	50.6%	49.3%
		あまり話していない	31.3%	27.1%	29.2%
		まったく話していない	5.8%	2.5%	4.1%
		無回答	1.8%	4.3%	3.0%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	10-7.児童生徒の遊びや趣味の話をしている	よく話している	32.2%	20.6%	26.4%
		ときどき話している	58.2%	60.6%	59.4%
		あまり話していない	6.7%	12.5%	9.6%
		まったく話していない	0.9%	2.0%	1.4%
		無回答	2.0%	4.3%	3.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
10-8.児童生徒の将来や夢に関すること	よく話している	4.9%	7.8%	6.4%	
	ときどき話している	48.0%	57.3%	52.6%	
	あまり話していない	38.9%	27.3%	33.1%	
	まったく話していない	6.2%	3.4%	4.8%	
	無回答	2.0%	4.3%	3.1%	
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
11. 児童生徒は毎日、自宅学習や読書をどのくらいする必要があると考えますか。	11-1.自宅学習時間	30分程度くらい	30.0%	4.5%	17.3%
		1時間程度	62.2%	29.8%	46.0%
		2時間程度	6.0%	55.5%	30.7%
		3時間以上	0.0%	6.9%	3.5%
		特に家で勉強しなくてもよい	0.0%	0.4%	0.2%
		無回答	1.8%	2.9%	2.3%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	11-2.読書時間(学校での読書を含む)	30分程度くらい	62.4%	62.6%	62.5%
		1時間程度	33.1%	32.4%	32.8%
		2時間程度	2.0%	0.7%	1.3%
		特に家で勉強しなくてもよい	0.9%	1.6%	1.2%
		無回答	1.6%	2.7%	2.1%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%

12. 保護者や地域からの苦情・要望や相談等について質問します。	A. あなたに対して、平成26年度に、保護者・地域等からの苦情・要望はそれぞれ何件くらいありましたか。実数をお書きください。なお、初任等の方は平成27年10月まででご回答ください。	A-1. 保護者から	3.6件	3.4件	3.5件	
		A-2. 祖父母から	0.2件	0.2件	0.2件	
		A-3. 地域住民から(地域組織や事業所等を含む)	2.5件	2.8件	2.7件	
		B. あなたは、平成26年度に、児童生徒の保護者(祖父母を含む)から「しつけ」(学習等を含む)に関する相談を受けたことが何件くらいありましたか(初任等は平成27年10月まで)。	2.4件	2.4件	2.4件	
	C. 保護者や地域からの苦情・要望(相談を除く)に対して、効果的だった取り組み(苦情等が減った、納得してくれたなど)があれば、選んでください。(複数回答)	学校の情報をHPや「たより」で積極的に公開した	16.0%	22.1%	19.1%	
		保護者懇談会の回数を増やした	4.2%	5.6%	4.9%	
		保護者と教職員が交流できる機会を設けた	23.1%	21.5%	22.3%	
		苦情担当の窓口や分掌を設けた	2.2%	0.9%	1.6%	
		苦情・要望を聴取する「目安箱」等を設置した	0.4%	0.4%	0.4%	
		苦情・要望の相談窓口や相談日を設けた	2.2%	2.2%	2.2%	
		学校評議員や学校運営協議会等に相談した	3.8%	4.3%	4.0%	
		PTA活動の場で学校理解を促した	9.1%	13.0%	11.0%	
		学校行事に多くの保護者が参加できるように工夫した	9.3%	10.1%	9.7%	
		教育委員会に相談した	3.1%	3.6%	3.3%	
		校内研修で保護者対応の在り方を共有した	9.6%	7.8%	8.7%	
		その他	54.3%	8.3%	9.0%	
	特になし	25.1%	26.2%	25.6%		
	D. あなたは、保護者がつぎのような理由で苦情や要望を学校に申し出ることをどう考えますか。	12-D-1. わが子と仲のよくない子どもが同じクラスになったので、クラス替えをして欲しい	当然だと思う	0.2%	0.4%	0.3%
			ある程度は当然だと思う	8.2%	9.2%	8.7%
			あまり望ましくない	38.7%	35.6%	37.1%
望ましくない			48.2%	50.3%	49.3%	
無回答			4.7%	4.5%	4.6%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%		
12-D-2. わが子を攻撃し続ける子どもがいるので、十分指導して欲しい		当然だと思う	51.3%	58.6%	55.0%	
		ある程度は当然だと思う	41.8%	35.8%	38.8%	
		あまり望ましくない	1.3%	0.9%	1.1%	
		望ましくない	0.9%	0.2%	0.6%	
		無回答	4.7%	4.5%	4.6%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%		
12-D-3. わが子が親の言うことを聞かないので、学校で十分指導して欲しい		当然だと思う	0.0%	0.7%	0.3%	
		ある程度は当然だと思う	15.1%	16.3%	15.7%	
		あまり望ましくない	47.8%	51.9%	49.8%	
		望ましくない	32.4%	26.4%	29.4%	
	無回答	4.7%	4.7%	4.7%		
合計	100.0%	100.0%	100.0%			
12-D-4. 卒業アルバムにわが子の学校生活に関する写真が1枚もなかったので、アルバムを作り直して欲しい	当然だと思う	17.3%	12.8%	15.1%		
	ある程度は当然だと思う	36.0%	34.2%	35.1%		
	あまり望ましくない	22.4%	30.2%	26.3%		
	望ましくない	19.1%	17.9%	18.5%		
	無回答	5.1%	4.9%	5.0%		
合計	100.0%	100.0%	100.0%			
13. 家庭との連携にも関係するコミュニティ・スクールに関する質問	コミュニティ・スクールに置かれる学校運営協議会等(地域や保護者の学校運営参画を実現する仕組みをもつ)が担う役割のうち、あなたが重要だと思うもの一つを選んでください。	学校の先生方の任用(人事)に関して意見を申し出ること	6.4%	6.0%	6.2%	
		学校運営について校長や教育委員会に意見を申し出ること	43.3%	46.5%	44.9%	
		校長が作成した学校運営の基本方針を承認すること	40.4%	38.5%	39.5%	
		無回答	9.8%	8.9%	9.4%	
		合計	100.0%	100.0%	100.0%	

【資料】教職員調査結果集計表

14. 学校運営協議会等(コミュニティ・スクール)の仕組みについてどう思いますか。	A.	地域・保護者が学校運営に参画すべきである	57.6%	55.5%	56.5%
		学校運営は学校に任せるべきである	33.1%	36.9%	35.0%
		無回答	9.3%	7.6%	8.5%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	B.	基本方針の「承認」は特色づくりにつながる	72.2%	68.7%	70.5%
		基本方針の「承認」は校長の裁量権を狭める	16.7%	23.3%	20.0%
		無回答	11.1%	8.1%	9.6%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	C.	教職員任用の意見申出でよい先生が着任してくる	20.4%	18.3%	19.4%
		教職員任用の意見申出は人事を混乱させる	69.6%	74.0%	71.8%
		無回答	10.0%	7.6%	8.8%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	D.	校長への意見申出で学校が活性化する	67.3%	66.2%	66.8%
		校長への意見申出は学校の自律性を損なう	22.0%	25.1%	23.5%
		無回答	10.7%	8.7%	9.7%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%
	E.	教育委員会への意見申出で学校が活性化する	57.8%	57.5%	57.6%
		教育委員会への意見申出は教委を混乱させる	31.6%	34.5%	33.0%
		無回答	10.7%	8.1%	9.4%
		合計	100.0%	100.0%	100.0%

公益財団法人 日本教材文化研究財団定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、公益財団法人 日本教材文化研究財団と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を、東京都新宿区に置く。

2 この法人は、理事会の決議を経て、必要な地に従たる事務所を設置することができる。これを変更または廃止する場合も同様とする。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、学校教育、社会教育及び家庭教育における教育方法に関する調査研究を行うとともに、学習指導の改善に資する教材・サービス等の開発利用をはかり、もってわが国の教育の振興に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の各号の事業を行う。

- (1) 学校教育、社会教育及び家庭教育における学力形成に役立つ指導方法の調査研究と教材開発
 - (2) 家庭の教育力の向上がはかれる教材やサービスの調査研究と普及公開
 - (3) 前二号に掲げる研究成果の発表及びその普及啓蒙
 - (4) 教育方法に関する国内外の研究成果の収集及び一般の利用に供すること
 - (5) 他団体の検定試験問題及びその試験に関係する教材の監修
 - (6) その他、目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は、日本全国において行うものとする。

第3章 資産及び会計

(基本財産)

第5条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な別表の財産は、この法人の基本財産とする。

2 基本財産は、この法人の目的を達成するために理事長が管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

(事業年度)

第6条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第7条 この法人の事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第8条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後3箇月以内に、理事長が次の各号の書類を作成し、

監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 正味財産増減計算書
- (5) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書
- (6) 財産目録

2 第1項の規定により報告または承認された書類のほか、次の各号の書類を主たる事務所に5年間備え置き、個人の住所に関する記載を除き一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

第9条 理事長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第2項第4号の書類に記載するものとする。

第4章 評議員

(評議員)

第10条 この法人に、評議員16名以上21名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第11条 評議員の選任及び解任は、評議員選定委員会において行う。

2 評議員選定委員会は、評議員1名、監事1名、事務局長1名、次項の定めに基づいて選任された外部委員2名の合計5名で構成する。

3 評議員選定委員会の外部委員は、次のいずれにも該当しない者を理事会において選任する。

- (1) この法人または関連団体（主要な取引先及び重要な利害関係を有する団体を含む。以下同じ。）の業務を執行する者または使用人
- (2) 過去に前号に規定する者となったことがある者
- (3) 第1号または第2号に該当する者の配偶者、三親等内の親族、使用人（過去に使用人となった者も含む。）

4 評議員選定委員会に提出する評議員候補者は、理事会または評議員会がそれぞれ推薦することができる。評議員選定委員会の運営についての詳細は理事会において定める。

5 評議員選定委員会に評議員候補者を推薦する場合には、次に掲げる事項のほか、当該候補者を評議員として適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

- (1) 当該候補者の経歴
- (2) 当該候補者を候補者とした理由
- (3) 当該候補者とこの法人及び役員等（理事、監事及び評議員）との関係
- (4) 当該候補者の兼職状況

6 評議員選定委員会の決議は、委員の過半数が出席し、

その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

- 7 評議員選定委員会は、第10条で定める評議員の定数を欠くこととなるときに備えて、補欠の評議員を選任することができる。
- 8 前項の場合には、評議員選定委員会は、次の各号の事項も併せて決定しなければならない。
 - (1) 当該候補者が補欠の評議員である旨
 - (2) 当該候補者を1人または2人以上の特定の評議員の補欠の評議員として選任するときは、その旨及び当該特定の評議員の氏名
 - (3) 同一の評議員（2人以上の評議員の補欠として選任した場合にあっては、当該2人以上の評議員）につき2人以上の補欠の評議員を選任するときは、当該補欠の評議員相互間の優先順位
- 9 第7項の補欠の評議員の選任に係る決議は、当該決議後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで、その効力を有する。

(評議員の任期)

- 第12条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。また、再任を妨げない。
- 2 前項の規定にかかわらず、任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了するときまでとする。
 - 3 評議員は、第10条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了または辞任により退任した後も、新たに選任された評議員が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員に対する報酬等)

- 第13条 評議員に対して、各年度の総額が500万円を超えない範囲で、評議員会において定める報酬等を支給することができる。
- 2 前項の規定にかかわらず、評議員には費用を弁償することができる。

第5章 評議員会

(構成)

第14条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(権限)

- 第15条 評議員会は、次の各号の事項について決議する。
- (1) 理事及び監事の選任及び解任
 - (2) 理事及び監事の報酬等の額
 - (3) 評議員に対する報酬等の支給の基準
 - (4) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認
 - (5) 定款の変更
 - (6) 残余財産の処分
 - (7) 基本財産の処分または除外の承認
 - (8) その他評議員会で決議するものとして法令またはこの定款で定められた事項

(開催)

第16条 評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、臨時評議員会として必要がある場合に開催する。

(招集)

第17条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対して、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(議長)

- 第18条 評議員会の議長は理事長とする。
- 2 理事長が欠けたときまたは理事長に事故があるときは、評議員の互選によって定める。

(決議)

- 第19条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、次の各号の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。
 - (1) 監事の解任
 - (2) 評議員に対する報酬等の支給の基準
 - (3) 定款の変更
 - (4) 基本財産の処分または除外の承認
 - (5) その他法令で定められた事項
 - 3 理事または監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事または監事の候補者の合計数が第21条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

- 第20条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 議長は、前項の議事録に記名押印する。

第6章 役員

(役員の設定)

- 第21条 この法人に、次の役員を置く。
- (1) 理事 7名以上12名以内
 - (2) 監事 2名または3名
 - 2 理事のうち1名を理事長とする。
 - 3 理事長以外の理事のうち、1名を専務理事及び2名を常務理事とする。
 - 4 第2項の理事長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号）に規定する代表理事とし、第3項の専務理事及び常務理事をもって同法第197条で準用する同法第91条第1項に規定する業務執行理事（理事会の決議により法人の業務を執行する理事として選定された理事をいう。以下同じ。）とする。

(役員を選任)

- 第22条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。
- 2 理事長及び専務理事並びに常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

- 第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人の業務を代表し、その業務を執行する。
 - 3 専務理事は、理事長を補佐する。
 - 4 常務理事は、理事長及び専務理事を補佐し、理事会の議決に基づき、日常の事務に従事する。
 - 5 理事長及び専務理事並びに常務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状

況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第24条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び事務局員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。

2 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。

3 前項の規定にかかわらず、任期の満了前に退任した理事または監事の補欠として選任された理事または監事の任期は、前任者の任期の満了するときまでとする。

4 理事または監事については、再任を妨げない。

5 理事または監事が第21条に定める定数に足りなくなるときまたは欠けたときは、任期の満了または辞任により退任した後も、それぞれ新たに選任された理事または監事が就任するまで、なお理事または監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第26条 理事または監事が、次の各号のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、または職務を怠ったとき
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障がありまたはこれに堪えないとき

(役員に対する報酬等)

第27条 理事及び監事に対して、各年度の総額が300万円を超えない範囲で、評議員会において定める報酬等を支給することができる。

2 前項の規定にかかわらず、理事及び監事には費用を弁償することができる。

第7章 理事会

(構成)

第28条 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第29条 理事会は、次の各号の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び専務理事並びに常務理事の選定及び解職

(招集)

第30条 理事会は、理事長が招集するものとする。

2 理事長が欠けたときまたは理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(議長)

第31条 理事会の議長は、理事長とする。

2 理事長が欠けたときまたは理事長に事故があるときは、専務理事が理事会の議長となる。

(決議)

第32条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する同法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第33条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。ただし、理事長の選定を行う理事会については、他の出席した理事も記名押印する。

第8章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第34条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

2 前項の規定は、この定款の第3条及び第4条並びに第11条についても適用する。

(解散)

第35条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能、その他法令で定められた事由によって解散する。

(公益認定の取消し等に伴う贈与)

第36条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合または合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日または当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人または国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

第37条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人または国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第38条 この法人の公告は、電子公告による方法により行う。

2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告を行うことができない場合は、官報に掲載する方法により行う。

第10章 事務局その他

(事務局)

第39条 この法人に事務局を設置する。

2 事務局には、事務局長及び所要の職員を置く。

3 事務局長及び重要な職員は、理事長が理事会の承認を得て任免する。

4 前項以外の職員は、理事長が任免する。

5 事務局の組織、内部管理に必要な規則その他については、理事会が定める。

(委 任)

第40条 この定款に定めるもののほか、この定款の施行について必要な事項は、理事会の決議を経て、理事長が定める。

附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第6条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。
- 3 第22条の規定にかかわらず、この法人の最初の理事長は杉山吉茂、専務理事は新免利也、常務理事は星村平和及び中井武文とする。
- 4 第11条の規定にかかわらず、この法人の最初の評議員は、旧主務官庁の認可を受けて、評議員選定委員会において行うところにより、次に掲げるものとする。

有田 和正	尾田 幸雄
梶田 叡一	角屋 重樹
亀井 浩明	北島 義斉
木村 治美	佐島 群巳
佐野 金吾	清水 厚実
田中 博之	玉井美知子
中川 栄次	中里 至正
中洩 正堯	波多野義郎
原田 智仁	宮本 茂雄
山極 隆	大倉 公喜
- 5 昭和45年の法人設立時の理事及び監事は、次のとおりとする。

理事	(理事長)	平澤 興
理事	(専務理事)	堀場正夫
理事	(常務理事)	鯨坂二夫
理事	(常務理事)	渡辺 茂
理事	(常務理事)	近藤達夫
理事		平塚益徳
理事		保田 與重郎
理事		奥西 保
理事		北島織衛
理事		田中克己
監事		高橋武夫
監事		辰野千壽
監事		工藤 清

賛助会員規約

第1条 公益財団法人日本教材文化研究財団の事業目的に賛同し、事業その他運営を支援するものを賛助会員(以下「会員」という)とする。

第2条 会員は、法人、団体または個人とし、次の各号に定める賛助会費(以下「会員」という)を納めるものとする。

- (1) 法人および団体会員 一口30万円以上
- (2) 個人会員 一口6万円以上
- (3) 個人準会員 一口6万円未満

第3条 会員になろうとするものは、会費を添えて入会届を提出し、理事会の承認を受けなければならない。

第4条 会員は、この法人の事業を行う上に必要なことから、研究協議し、その遂行に協力するものとする。

第5条 会員は次の各号の事由によってその資格を失う。

- (1) 脱退
- (2) 禁治産および準禁治産並びに破産の宣告
- (3) 死亡、失踪宣告またはこの法人の解散
- (4) 除名

第6条 会員で脱退しようとするものは、書面で申し出なければならない。

第7条 会員が次の各号(1)に該当するときは、理事現在数の4分の3以上出席した理事会の議決をもってこれを除名することができる。

- (1) 会費を滞納したとき
- (2) この法人の会員としての義務に違反したとき
- (3) この法人の名誉を傷つけまたはこの法人の目的に反する行為があったとき

第8条 既納の会費は、いかなる事由があってもこれを返還しない。

第9条 各年度において納入された会費は、事業の充実およびその継続的かつ確実な実施のため、その半分を管理費に使用する。

内閣府所管

公益財団法人 日本教材文化研究財団

理事・監事・評議員

(1) 理事・監事名簿 (敬称略) 13名

(平成28年8月31日現在)

役名	氏名	就任年月日	就重	職務・専門分野	備考
理事長	村上 和雄	平成26年6月6日 (理事長就任 H.26.3.7)	重	法人の代表 業務の総 務	筑波大学名誉教授 全日本家庭教育研究会総裁
専務理事	新免 利也	平成26年6月6日	重	事務総括 業務運営	(株)新学社執行役員
常務理事	中井 武文	平成26年6月6日	重	財 務	(株)新学社代表取締役会長
常務理事	星村 平和	平成26年6月6日	重	社会科教育	元兵庫教育大学教授 国立教育政策研究所名誉所員
理 事	角屋 重樹	平成26年6月6日	重	理 科 教 育	広島大学名誉教授 日本体育大学教授
理 事	北島 義俊	平成26年6月6日	重	財 務	大日本印刷(株)代表取締役社長
理 事	杉山 吉茂	平成26年6月6日	重	数 学 教 育	元早稲田大学教授 東京学芸大学名誉教授
理 事	中川 栄次	平成26年6月6日	重	財 務	(株)新学社代表取締役社長
理 事	中洌 正堯	平成28年6月3日	就	国語教育学	元兵庫教育大学学長 兵庫教育大学名誉教授
理 事	原田 智仁	平成26年6月6日	重	社会科教育	兵庫教育大学大学院教授
理 事	菱村 幸彦	平成26年6月6日	重	教 育 行 政 規 教 育 法	元文部省初中局長 国立教育政策研究所名誉所員
監 事	中合 英幸	平成26年6月6日	重	財 務	(株)新学社執行役員
監 事	古谷 滋海	平成26年6月6日	就	財 務	大日本印刷(株)常務執行役員

(50音順)

(2) 評議員名簿 (敬称略) 18名

役名	氏名	就任年月日	就重	担当職務	備考
評議員	秋田喜代美	平成25年12月11日	就	教育心理学・発達心理学 学校教育学	東京大学大学院教授
評議員	浅井 和行	平成26年7月25日	重	教育工学 メディア教育	京都教育大学大学院教授
評議員	安彦 忠彦	平成26年7月25日	重	教育課程論 教育評価・教育方法	名古屋大学名誉教授 神奈川大学特別招聘教授
評議員	亀井 浩明	平成26年7月25日	重	初等中等教育 キャリア教育	元東京都教委指導部長 帝京大学名誉教授
評議員	北島 義斉	平成26年7月25日	重	財 務	大日本印刷(株)代表取締役副社長
評議員	木村 治美	平成26年7月25日	重	英 文 学	共立女子大学名誉教授 エッセイスト
評議員	櫻井 茂男	平成26年7月25日	重	認知心理学・発達心理学 キャリア教育	筑波大学人間系教授
評議員	佐野 金吾	平成26年7月25日	重	社会科教育 教育課程・学校経営	元東京家政学院中・高等学校長 全国図書教材協議会会長
評議員	清水 厚実	平成26年7月25日	重	教 育 学	日本教材学会副会長 学校法人福山大学理事長
評議員	清水 美憲	平成26年7月25日	重	数学教育学 学 論	筑波大学人間系教授
評議員	下田 好行	平成26年7月25日	重	国語教育学 教育方法	元国立教育政策研究所総括研究官 東洋大学教授
評議員	鈴木 克明	平成25年12月11日	就	教育工学・情報教育 教育メディア学	熊本大学大学院教授
評議員	高木 展郎	平成26年7月25日	重	国語科教育学 教育方法	横浜国立大学名誉教授
評議員	田中 博之	平成26年7月25日	重	教 育 工 学 学 論	早稲田大学教職大学院教授
評議員	前田 英樹	平成26年7月25日	重	フランス思想 言 語 論	立教大学教授
評議員	松浦 伸和	平成26年7月25日	重	英 語 教 育 学	広島大学大学院教授
評議員	峯 明秀	平成26年7月25日	重	社会科教育学	大阪教育大学教授
評議員	吉田 武男	平成26年7月25日	重	道徳教育論 家庭教育論	筑波大学人間系教授

(50音順)

調査研究シリーズ 63

家庭教育と親子関係に関する調査研究

平成 28 年 9 月 30 日発行

編 集／公益財団法人 日本教材文化研究財団

発行人／新免 利也（専務理事）

発行所／公益財団法人 日本教材文化研究財団

〒162-0841 東京都新宿区払方町 14 番地 1

電話 03-5225-0255 FAX 03-5225-0256

<http://www.jfecr.or.jp>

表紙デザイン (株)エスファクトリー 竹内則晶／印刷 (株)盈進社

調査研究シリーズ No.

63



編集・発行

公益財団法人

日本教材文化研究財団

<http://www.jfecr.or.jp/>